山 梨 県 北 杜 市

堰口遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業
白州地区堰口工区その２に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 1 分冊

２０２０
山梨県中北農務事務所
北杜市教育委員会

北杜市埋蔵文化財調査報告　第 43 集

山 梨 県 北 杜 市

堰口（せきぐち）遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業
白州地区堰口工区その２に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 1 分冊

２０２０
山梨県中北農務事務所
北杜市教育委員会

例　　言

１．本書は、山梨県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区堰口工区その２ほ場整備に伴い、北杜市教育委員会が平成 23 年度と平成 24 年度に実施した堰口遺跡発掘調査の報告書である。

２．調査地点は、山梨県北杜市白州町白須 1894 番地 1 ほかで、調査面積は 7,523 ㎡である。

３．調査は、「文化財保護法の一部改正について」（昭和 50 年 11 月 13 日 50 構改 A 第 1772 号 農林省構造改善局長）に基づき、調査経費の一部を山梨県中北農務事務所が負担して北杜市教育委員会が実施した。

４．現地における発掘調査は、平成 23 年 12 月 12 日に着手し、平成 24 年 11 月 30 日に現場撤収、出土品の分別・保管作業を平成 25 年 3 月 20 日まで実施した。基礎整理作業は発掘調査と併行して着手し、平成 25 年度から平成 30 年度に本格整理作業と発掘調査報告書の編集を行った。発掘調査報告書は令和元年度（繰越明許）に印刷製本した。

５．調査組織は以下のとおりである。

調査主体　　北杜市教育委員会
調査事務局　北杜市教育委員会学術課
調査担当　　北杜市教育委員会学術課　佐野隆・大網信良

６．本書は佐野が執筆、編集した。

７．調査において、調査支援業務を特定非営利活動法人茅ヶ岳歴史文化研究所（渋谷賢太郎調査技師）と昭和測量株式会社（泉英樹調査技師）に、出土炭化材等同定分析業務を株式会社パレオ・ラボに委託した。石器実測図は保坂康夫氏、石器種の分類は功力司氏による。また遺構出土の炭化材、土器付着物の 14C 年代測定を小林謙一氏（中央大学）に依頼した。

８．発掘調査から整理作業の途上に多くの方々に現場を視察いただき、有益な助言を得た。特に整理作業段階で縄文セミナーの会の方々に数回にわたり出土土器を実見していただき、編者の浅学を補っていただいた。個々のご芳名は記さないが厚く御礼申し上げたい。

９．本調査に係る調査記録および出土品は北杜市教育委員会学術課（埋蔵文化財センター）が保管している。

凡　　例

1．堰口遺跡の位置は、北緯 35 度 48 分 20 秒、東経 138 度 19 分 17 秒で、国土地理院発行 2 万 5 千分の一地形図『長坂上条』に該当する。本書中の地図は、旧白州町発行『白州町全図』、北杜市地理情報システム収録図を用いた。

2．本書中の土壌および土器胎土の色調は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。

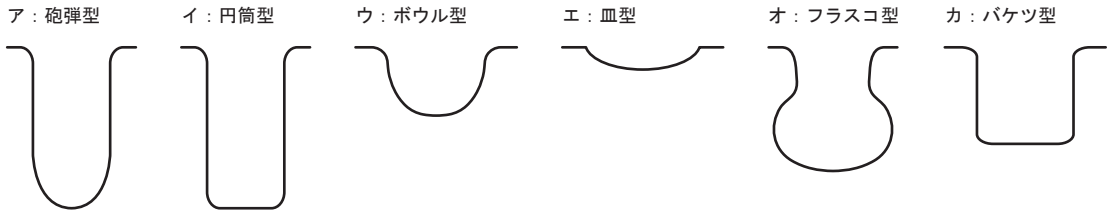
3．本書中の遺構図および遺物実測図、石器写真の縮尺は各図版に示す。

4．本書中のトーンの意味するところは、図版ごとに記載した。原則として遺構の場合は焼土、石器は摩滅面、土器は彩色範囲を示す。

5．図版中の土器および石器の遺物番号は、整理作業時に便宜的に付した整理番号をそのまま利用した。土器観察表、石器観察表も同様である。

6．土坑一覧表の断面形状欄にあるア～カは、下に示す断面形を表す。

7．付録 DVD には、記録写真、観察表等のデジタルデータを収録した。



目　　次

例言

凡例

目次

第１章　遺跡の概要と調査に至る経緯

第１節　遺跡の概要 …… 1
第２節　発掘調査の経緯 …… 1
第３節　発掘調査の方法 …… 3

第１図　堰口遺跡の位置と周辺遺跡 …… 5
第１表　周辺遺跡地名表 …… 6 ～ 8
第２図　堰口遺跡と周辺遺跡 …… 9
第３図　調査地点の位置 …… 10
第４図　埋蔵文化財包蔵地範囲と工事範囲 …… 10
第５図　調査区全体図 …… 11

第２章　遺跡の環境

第１節　地理環境 …… 12
第２節　歴史環境 …… 12

第３章　縄文時代の遺構と遺物

第１節　住居と遺物 …… 14
PJ002 号住居 …… 14 ～ 16
PJ003 号住居 …… 17 ～ 27
PJ004 号・PJ005 号住居 …… 28 ～ 42
PJ006 号住居 …… 43 ～ 57
PJ007 号住居 …… 58 ～ 61
PJ008 号・PJ008B・PJ009 号住居 …… 62 ～ 75
PJ010 号・PJ011 号住居 …… 76 ～ 86
PJ017 号・PJ018 号・PJ029 号住居 …… 87 ～ 123

目　　次

PJ019 号・PJ033 号住居 …… 124 ～ 138
PJ020 号住居 …… 139 ～ 147
PJ021 号住居 …… 148 ～ 149
PJ023 号住居 …… 150 ～ 159
PJ024 号住居 …… 160 ～ 168
PJ025 号住居 …… 169 ～ 173
PJ026 号住居 …… 174 ～ 178
PJ027 号住居 …… 179 ～ 186
PJ028 号住居 …… 187 ～ 188
PJ030 号・PJ038 号住居 …… 189 ～ 197
PJ031 号住居 …… 198 ～ 202
PJ032 号住居 …… 203 ～ 207
PJ034 号住居 …… 208 ～ 211
PJ035 号住居 …… 212 ～ 216
PJ036 号住居 …… 217 ～ 218
PJ040 号住居 …… 219 ～ 271
PJ041 号・061 号住居 …… 272 ～ 283
PJ042 号・PJ042b 号・PJ046 号・PJ050 号・PJ054 号住居全体図 …… 284
PJ042・PJ042b 号住居 …… 285 ～ 316
PJ046 号住居 …… 317 ～ 336
PJ050 号住居 …… 337 ～ 355
PJ054 号住居 …… 356 ～ 370
PJ043 号住居 …… 371 ～ 377
PJ053 号住居 …… 378 ～ 388

第１章　遺跡の概要と調査に至る経緯

第１節　遺跡の概要

周知の埋蔵文化財包蔵地「堰口遺跡」は、北杜市白州町白須地内に所在する縄文時代前期前葉から後葉、中期中葉、平安時代を主体とする集落跡である。旧白州町教育委員会（現北杜市）が昭和 47 年に作成した遺跡台帳、昭和 58 年 3 月作成の『白州町遺跡分布調査報告書』には、「堰口遺跡」の名称で、黒浜式と諸磯式土器を伴う縄文時代前期、平安時代の集落址、遺跡範囲は白州中学校の西側、東西 130m、南北 70m と記載されている。

平成 23 年度の調査着手時には水田および畑地として利用されていた。平成 18 年に施工された甲斐駒ヶ岳広域農道が遺跡の西端を貫いているが、発掘調査は実施されていない。その理由は後述するとおり扇状地堆積物が厚く堆積していたために縄文時代の遺構確認面が認識できなかったことによると思われる。

平成 23 年度から平成 24 年度の発掘調査で検出された遺構は、縄文時代前期（中越式期から諸磯ｂ式期）の住居跡 92 軒、縄文時代中期（藤内式期、曽利Ⅱ式期）の住居 8 軒、平安時代の住居跡 7 軒、掘立柱建物跡 14 棟、土坑 610 基、集石土坑 95 基、溝跡 1 条、焼土跡 40 ヶ所などである。出土遺物は、縄文時代と平安時代の土器および石器がプラスチックコンテナ 461 箱分である。

本遺跡の特筆すべき点は、第一に縄文時代前期前葉（中越式期）の集落跡が確認されたことである。本遺跡の周辺には同時期の上北田遺跡、板橋遺跡、長野県富士見町坂平遺跡が知られ、やや離れて長野県原村阿久遺跡、茅野市阿久尻遺跡がある。これらの集落遺跡との関係性が重要な研究課題である。第二は､縄文時代前期後葉（諸磯式期）の集石土坑を伴う集落跡が確認された点である。当該時期の集石土坑群は阿久遺跡の事例が著名である。阿久遺跡の規模には及ばないが類似した遺構構成をとる集落跡が再確認されたことから、それぞれの遺跡の性質の追究が将来の課題となろう。

第２節　発掘調査の経緯

北杜市では耕作放棄地の発生を防止し、農地の有効活用を図るために土地改良事業を積極的に推進している。北杜市白州町地区でも平成 22 年度から県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業を導入し、大除・竹宇工区、北原工区、堰口工区のほ場整備が並行して進められた。この過程で竹宇１遺跡、北原遺跡、堰口遺跡などの発掘調査が実施された。

堰口遺跡は堰口工区その２に位置する。平成 22 年 8 月に市農政課から遺跡一帯のほ場整備事業の計画が打診され、地権者同意が得られた後に遺跡の時代と範囲を確認するための試掘調査を実施する必要がある旨を回答した。平成 23 年 2 月 8 日に土地改良事業側と市教育委員会で協議し、周辺工区を含めた約 15 ヘクタールを対象に試掘調査を実施することとした。

堰口工区その 2 を含む工事予定地の試掘調査は平成 23 年 4 月 4 日から 4 月 25 日にかけて実施した。調査対象面積は堰口工区 2.9 ヘクタール、大除竹宇工区 9.7 ヘクタール、北原工区 5 ヘクタールである。試掘調査は、人力により 2m 四方の試掘坑を発掘する方法とし、堰口工区 30 ヶ所、大除竹宇工区 101 ヶ所、北原工区 62 ヶ所の試掘坑を発掘した。試掘面積は工区面積の 0.44% に相当する。試掘調査の結果、堰口工区その 2 で縄文時代前期後半から中期中葉の出土品が得られ、平安時代の住居跡が確認された。

試掘調査の結果を踏まえ、土地改良事業側に施工前に記録保存のための発掘調査が必要であることを伝達し、埋蔵文化財の取扱いを協議した。土地改良事業側から堰口工区その 2 については、工区面積が限られ施工期間も短期間と見込まれることから、平成 24 年の作付けが終了した後に発掘調査を実施し、平成 25 年春の作付けまでに工事を完了させたいとの要望が提示された。市教育委員会から堰口工区だけでなく大除竹宇工区、北原工区でも埋蔵文化財の所在が確認され、発掘調査が連続することから、平成 23 年 5 月から発掘調査に着手することが望ましいと提案した。しかし、地元地権者との調整協議が間に合わず、発掘調査は平成 23 年の作付け終了後に着手し、平成 24 年 6 月 30 日までに完了することとした。

平成23年12月に重機による表土剥ぎ取り作業を始めて発掘調査に着手した。調査計画は、遺構確認面は1面、縄文時代の住居跡50軒、土坑370基、平安時代の住居跡10軒程度を想定した。1月と2月は厳冬期で発掘調査に不適であることから作業を中断し、平成24年3月7日に調査を再開した。

平成24年度当初にかけて発掘調査を継続し、黄褐色のやや粒子が荒い砂質土層で検出された平安時代の住居跡、近世以降と思われる円形土坑を発掘したところ、黄褐色砂質土層を掘り抜いた土坑の底面が黒褐色から暗褐色の土層で、この暗色土層から多量の縄文時代の土器破片が出土することが判明した。さらに表土剥ぎ取り作業が進捗し、過去の農地造成により黄褐色砂質土層と暗色土層が削平されて、さらに下位の黄褐色砂質地山層が耕作土下に露出する箇所で多数の縄文時代の遺構が激しく重複して検出されることが判明した。平成18年の甲斐駒ヶ岳広域農道の建設に先立つ試掘調査では、上層の黄褐色の荒い砂質土層を地山と誤認し、記録保存すべき遺構がないと判断したことが、この時点で判明した。ちなみに幸いにも広域農道の工事は縄文時代の遺構確認面にまで及んでおらず、遺跡は農道下に現状のまま保存されている。

このように当初の想定から外れて、場所により遺構確認面が2面になること、縄文時代の遺構が当初想定を大きく上回る見込みであることが確認される事態に至ったことから、平成24年5月上旬に土地改良事業側と市教育委員会で再度、埋蔵文化財の取扱いを協議し、調査期間を当初計画の平成24年6月30日完了から同年9月30日に延期すること、調査経費を増額すること、工事範囲全面を発掘調査することは調査期間と調査経費の制約から困難であることから盛り土造成する範囲の埋蔵文化財を盛土保存すること、平成24年の作付けを断念してもらうよう地元地権者に依頼することを確認した。

発掘調査は複雑に重複する縄文時代の遺構、想定していなかった縄文時代前期後葉の集石土坑の検出、多量に出土する遺物に阻まれ、思うように進捗せず、再三にわたる協議の末、最終的に平成24年11月30日に最後の土坑の記録写真を撮影して終了した。この間、平成24年9月29日に地元住民を対象に遺跡見学会を計画したが、当日は荒天のため中止となり、以後、調査に忙殺されて見学会は開催できなかった。調査期間中、地域の小中学校の児童、生徒、文化財に関心のある市民等が個別に見学に訪れたことが、せめてもの幸いであった。

本遺跡の発掘調査に要する経費は、「文化財保護法の一部改正に関する覚書」（昭和50年5月23日50年構改A第741号農林省構造改善局長、庁保管第111号文化庁長官）に基づき、山梨県中北農務事務所と北杜市が「埋蔵文化財発掘調査費に関する協定書」（平成23年12月9日締結）を締結し、山梨県が調査経費の90%を負担し、地元農家負担分を北杜市が負担することとした。この協定は、調査完了に至るまで経費負担の期間を延長するために「埋蔵文化財発掘調査費に関する変更協定書」（平成24年3月22日、平成25年4月1日、平成27年4月6日、平成29年4月14日、平成29年12月4日、平成31年3月13日）により6回の変更を重ねた。

発掘調査費の総合計は116,336,062円である。うち現地調査に係る調査経費は38,962,822円で、年度ごと、負担者別の金額は次のとおりである。

平成23年度22,818,105円
（県負担金18,822,000円、市農政課負担金1,711,000円、市費2,285,105円）
うち1,668,448円を次年度に繰越明許

平成24年度調査費は16,144,717円（県負担金13,282,000円、市農政課負担金1,207,000円、市費1,655,717円）

整理作業は平成24年度の現地調査と併行して出土品の洗浄作業に着手し、平成25年度から本格的な作業に着手した。多量の出土品の整理作業は難航し、平成25年度に調査記録写真の整理、遺構実測図の照合とデジタルトレース作業、出土品の洗浄と注記、平成26年度には遺構ごとに出土品を分別し、資料化すべき出土品を抽出して実測作業に着手した。遺構実測図のデジタルトレース作業、出土品の接合・復元、抽出、実測作業は平成30年度まで継続した。堰口工区の土地改良事業は平成30年度が事業最終年度にあたり、平成31年度以降、県側の調査経費負担ができなくなるが、平成30年度末時点で発掘調査報告書の刊行まで完了することは困難な見通しであった。そこで平成31年度（令和元年度）に発掘調査報告書の印刷製本費を繰越明許し、令和元年度末に発掘調査報告書を刊行した。

整理作業に係る調査経費は 77,373,240 円で、年度ごと、負担者別の金額は以下のとおりである。

平成 25 年度 12,598,834 円
（県負担金 10,377,000 円、市農政課負担金 943,000 円、文化庁補助金 628,000 円、市費 650,834 円）

平成 26 年度 28,735,245 円
（県負担金 23,678, 000 円、市農政課負担金 2,152,000 円、文化庁補助金 1,435,000 円、市費 1,470,245 円）

平成 27 年度 23,540,119 円
（県負担金 19,421,000 円、市農政課負担金 1,765,000 円、文化庁補助金 1,177,000 円、市費 1,177,119 円）

平成 28 年度 5,493,004 円
（県負担金 4,488,000 円、市農政課負担金 408,000 円、文化庁補助金 270,000 円、県補助金 136,000 円、市費 191,004 円）

平成 29 年度 1,073,931 円
（県負担金 850,000 円、市農政課負担金 77,000 円、市費 146,931 円）

平成 30 年度 5,932,107 円
（県負担金 4,884,000 円、市農政課負担金 444,000 円、市費 604,107 円）
うち 5,315,970 円を平成 31 年度（令和元年度）繰越明許

本遺跡の発掘調査に係る文化財保護法等の事務手続きは以下のとおりである。

平成 24 年 3 月 12 日　中北農第 4846 号　埋蔵文化財発掘の通知について
平成 24 年 3 月 14 日　北杜学術第 514-1 号　埋蔵文化財発掘の通知について（進達）
平成 24 年 3 月 14 日　北杜学術第 514-2 号　埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 24 年 3 月 27 日　教学文第 3160 号　周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）
平成 24 年 3 月 30 日　北杜学術第 514-3 号　周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(伝達)
平成 24 年 3 月 14 日　北杜学術第 514-2 号　埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 25 年 3 月 22 日　北杜生学第 549 号　埋蔵文化財調査終了報告について
平成 25 年 3 月 22 日　北杜生学第 549-2 号　埋蔵文化財保管証
平成 25 年 3 月 22 日　北杜生学第 549-3 号　埋蔵物発見届
平成 25 年 3 月 22 日　北杜生学第 549-4 号　埋蔵文化財保管請証
平成 25 年 3 月 26 日　埋蔵文化財提出書
平成 25 年 5 月 16 日　教学文第 453 号　埋蔵文化財の認定について（通知）
平成 25 年 5 月 16 日　教学文第 453 号　埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属について（通知）

第３節　発掘調査の方法

発掘調査の方法を記す。

発掘調査は、ほ場整備工事面積 7523 ㎡の全体を対象とした。先述のとおり調査経費と期間の制約を踏まえ、ほ場の造成工事で切土造成を免れる 4660 ㎡は、平安時代遺構の調査と縄文時代遺構の確認にとどめて現状のまま盛土保存とした。したがって完全に発掘調査したのは 2863 ㎡である。

表土の剥ぎ取り作業は重機を用いた。その後、調査範囲の南西角部を原点として 10m 四方の大グリッドを設置し、グリッド内を 2m 四方の小グリッドに分割した。大グリッドは工区全体を対象に A-1 から M-9 と命名し、小グリッドは 1 から 25 の番号を付した。個別の小グリッドは例えば E-5-12 などと表記される。実際に調査区をカバーするグリッドは C-3 グリッドから M-8 グリッドまでである。

遺構の精査、発掘作業は人力で行った。調査記録写真は 35 ㎜判デジタルカメラと中判カラーネガフィルムカメラで撮影した。遺構と遺物の形状と出土位置は、公共座標系に基づき光波測量器で測量し、必要に応じて遺構の微細図を作図した。微細図は遺構の大きさにより 1/10 から 1/20 程度とした。

個別の遺構を認定する以前の精査段階で出土した小さな土器破片、黒曜石剥片などは小グリッド単位で取り上げ、まとまった土器破片、石器は遺構外（IG）記号に番号を付して光波測量器で出土位置を記録しつつ取り上げた。

住居跡等は遺構を確認した時点で個別に遺構番号を付した。その際に使用した略記号は以下のとおりである。遺構で出土した遺物は、例えばPJ001-100（PJ100号住居の100号遺物）という具合に表記して取り上げ、その略記号番号を注記した。

PJ＝縄文時代の住居跡
PH＝平安時代の住居跡
HO＝掘立柱建物跡
DK＝土坑
PT＝ピット
SY＝集石土坑
SD＝焼土跡
HS＝配石
MZ＝溝跡

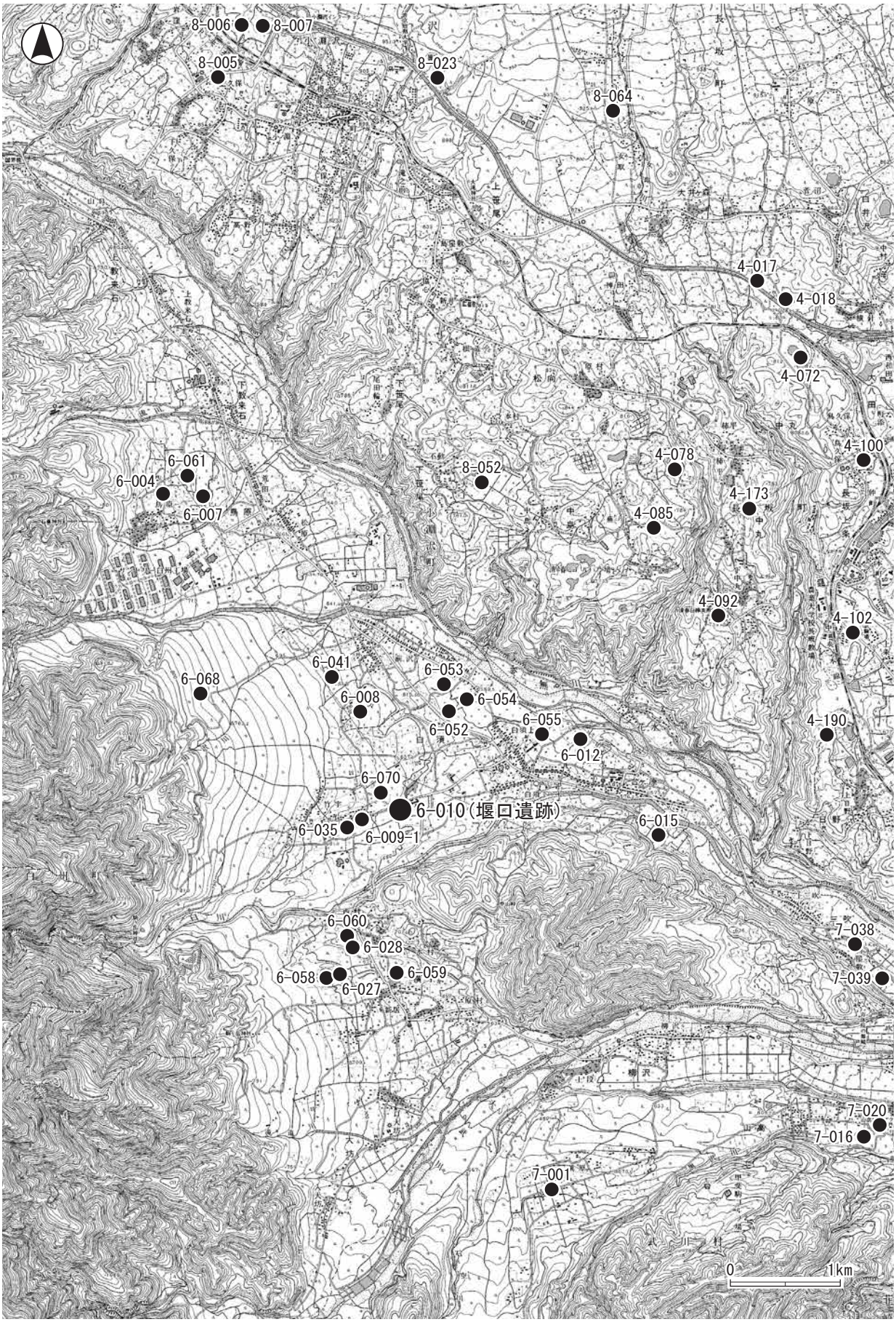
出土品の洗浄作業は人力で行った。出土品が多量であったため専用インクジェットプリンターを用いて注記した。効率的であったが注記がやや読みにくい難点がある。資料化すべき土器、石器を抽出して属性観察し、土器は人手にて実測し、多量に出土した石器は一部を人手で実測し、大半をKeyence社製3Dレーザースキャナー VL-320で3Dデータ化し、疑似的な写真画像を出力して実測図に代えた。

このような石器の資料化には賛否があると思われるが、ごく一部を恣意的に抽出して図化することよりも遺構出土の石器等の全容を示すことを優先した。このように石器の資料化に際しては量を優先して省力化したが、それでも石器破片、使用痕や2次的剥離のある剥片、原石、石核の1/3程度しか資料化の対象とできなかった。ただし石器等の全容を示すため図化、画像提示できない石器等も石器観察表に最低限の属性観察結果を記載した。

重複する遺構の出土品は、整理作業時に遺構の重複関係を再検討した結果、現地の発掘調査時に付した遺構番号と異なる遺構に帰属させたものも多い。ただし個々の遺物の注記は現地発掘調査時に付した遺構番号と取り上げ番号のままとした。

遺構測量図、遺物実測図はデジタルトレースしたうえで、DTP編集して発掘調査報告書の原稿を作成した。印刷製本は市内印刷業者に委託した。

発掘調査時に遺構の埋土を部分的に回収し、水洗選別して炭化材、炭化種子等を採集した。これらの炭化試料を整理作業員が大まかに分類したうえで、株式会社パレオ・ラボに種子等の種同定、炭化材の樹種同定、特に指定した遺構出土試料の14C年代測定を委託した。その結果報告は第6章に収録した。



第１図　堰口遺跡の位置と周辺遺跡（1/50,000）

遺跡番号	遺跡名	町名	時代	遺構数	編著者	発行年	報告書名		発行機関
4-017	西下屋敷	北杜市長坂町	縄文中期初頭	土坑 7 基（五領ヶ台 1・時期不明 6）。ピット 10 基（縄文後期 4・晩期 1・時期不明）。時期不明の溝 4 条。	村松佳幸	2005	『西下屋敷遺跡』	北杜市文化財報告 第 5 集	北杜市教育委員会
			縄文中期後葉	竪穴住居（縄文中期末～後期初頭 1）。土坑 7 基（五領ヶ台 1・時期不明）。ピット 10 基（縄文後期 4・晩期 1・時期不明）。時期不明の溝 4 条。					
4-018	新田森	北杜市長坂町	縄文中期後葉	竪穴住居（縄文中期後葉 1・中期後葉～後期初頭 2・後期前葉 4）。土坑 18 基（加曽利 E 2・称名寺 2・堀ノ内 1）。	村松佳幸	2005	『新田森遺跡』	北杜市埋蔵文化財調査報告 第 6 集	北杜市教育委員会
4-072	越中久保	北杜市長坂町	縄文中期後葉	竪穴住居 4 軒。加曽利 E の掘建柱建物 2 棟。土坑 30 基（うち曽利 5・中期末 1・称名寺 3）と時期不明のピット 202 基。	小宮山隆・吉田光男	2002	『越中久保遺跡』	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第 23 集	長坂町教育委員会
4-078	東蕪 4	北杜市長坂町	縄文中期後葉	竪穴住居 1 軒。土坑 8 基。ピット 5 基。集石遺構 1 基。	小宮山隆	2001	「東蕪 4 遺跡」『八ヶ岳考古 平成 12 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
4-085	西蕪南	北杜市長坂町	平安	竪穴住居 2 軒。土坑 8 基。ピット 23 基。焼土跡 1 基。	村松佳幸	2002	「西蕪南遺跡」『八ヶ岳考古 平成 13 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
4-092	清春白樺美術館南	北杜市長坂町	縄文中期中葉	竪穴住居 3 軒。土坑 181 基（うち前期末葉 13 基）。	村松佳幸	2003	『清春白樺美術館南遺跡』	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第 25 集	長坂町教育委員会
			縄文中期後葉	竪穴住居 4 軒。土坑 181 基（うち前期末葉 13 基）。					
4-100	高松	北杜市長坂町	縄文中期初頭	竪穴住居（縄文中期初頭～後葉 8）。土坑 13 基・溝 1 条（縄文中期初頭～後葉）。	小宮山隆・山下大輔	1999	「高松遺跡」『八ヶ岳考古 平成 10 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期前葉						
			縄文中期中葉						
			縄文中期後葉						
4-102	酒呑場 G 区	北杜市長坂町	縄文中期初頭	1 次～ 3 次にカウント済	小宮山隆	1996	『酒呑場遺跡 G 区』	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第 11 集	長坂町教育委員会
			縄文中期中葉						
			縄文中期後葉						
			井戸尻～曽利 I						
			縄文中期前～中葉						
4-102	酒呑場	北杜市長坂町	縄文中期初頭	竪穴住居（前期初頭 2・前期後葉 38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉 1・井戸尻～曽利 1）。約 5850 基の土坑（諸磯～曽利Ⅴ）。	保坂康夫	2005	『酒呑場遺跡（第 1 ～ 3 次）』全 2 冊	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 216 集	山梨県教育委員会
			縄文中期前葉						
			縄文中期中葉						
			縄文中期後葉						
			縄文中期初頭		野代幸和	1997	『酒呑場遺跡（第 1・2 次）』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 135 集	山梨県教育委員会
			縄文中期前葉						
			縄文中期中葉						
			縄文中期後葉						
			縄文中期初頭		保坂康夫	1997	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 前編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 136 集	山梨県教育委員会
			縄文中期初頭		保坂康夫・村松佳幸他	1998	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 後編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 169 集	山梨県教育委員会
			縄文中期前葉		保坂康夫	1997	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 前編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 136 集	山梨県教育委員会
			縄文中期前葉		保坂康夫・村松佳幸他	1998	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 後編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 169 集	山梨県教育委員会
			縄文中期中葉		保坂康夫	1997	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 前編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 136 集	山梨県教育委員会
			縄文中期中葉		保坂康夫・村松佳幸他	1998	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 後編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 169 集	山梨県教育委員会
			縄文中期後葉		保坂康夫	1997	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 前編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 136 集	山梨県教育委員会
			縄文中期後葉		保坂康夫・村松佳幸他	1998	『酒呑場遺跡（第 3 次）―遺構編 後編』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 169 集	山梨県教育委員会
4-173	健康村	北杜市長坂町	縄文中期初頭	埋甕 1 基。土坑 1 基。時期不明の野外炉 9 基・溝 1 条。	板倉歓之他	1994	『健康村遺跡』		新宿区区民健康村遺跡調査団
			縄文中期後葉	竪穴住居 1 軒。埋甕 1 基。時期不明の野外炉 9 基・溝 1 条。					
			平安	竪穴住居 14 軒。時期不明の溝 1 条。					

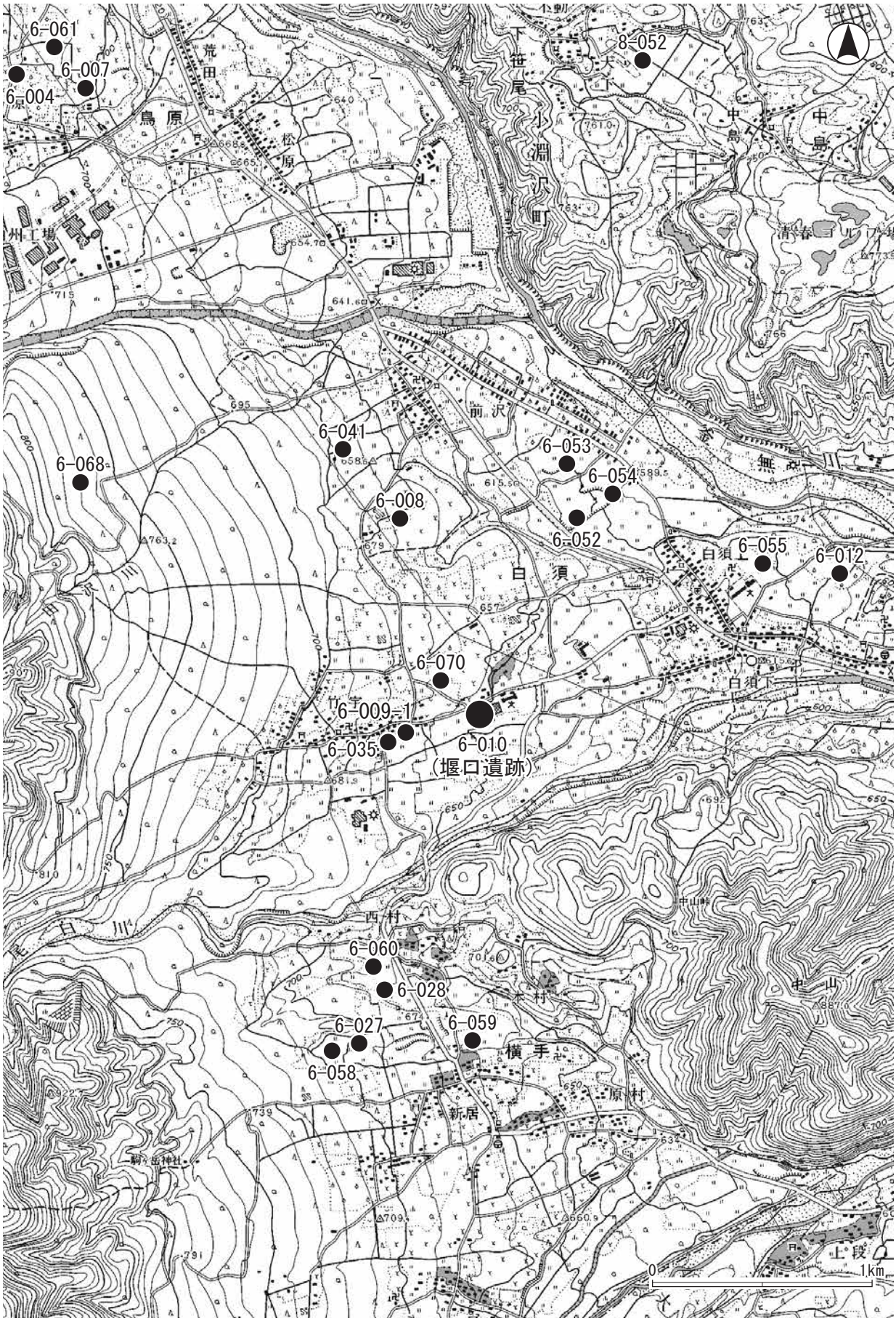
第 1 表　周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	町名	時代	遺構数	編著者	発行年	報告書名		発行機関
4-190	池之平北	北杜市長坂町	平安	竪穴住居 18 軒。掘建柱建物 1 棟。土坑群（縄文～中世）。	長谷川　誠	2004	「池之平北遺跡」『八ヶ岳考古　平成 15 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
6-004	南沢	北杜市白州町		近日刊行予定					
6-007	上小用	北杜市白州町	縄文中期後葉	竪穴住居 2 軒。	杉本　充	2000	『鳥原平遺跡群　1』		白州町教育委員会
			縄文中期中葉	竪穴住居 5 軒。土坑 1 基。	杉本　充・五味孝廣	2005	『鳥原平遺跡群　2』	北杜市埋蔵文化財調査報告　第 1 集	北杜市教育委員会
			縄文中期後葉	竪穴住居 18 軒。土坑 21 基。					
			平安	竪穴住居 3 軒。土坑 6 基。					
			縄文中期前葉	竪穴住居 1 軒。縄文～中世までの時期不明の土坑約 360 基。	五味孝廣	2007	『鳥原平遺跡群　4』	北杜市埋蔵文化財調査報告　第 19 集	北杜市教育委員会
			縄文中期後葉	竪穴住居 31 軒。集石 1 基。土坑竪穴住居 1 軒。縄文～中世までの時期不明の土坑約 360 基。					
			平安	竪穴住居 5 軒。縄文～中世までの時期不明の土坑約 360 基。					
			縄文中期	土坑（縄文中期 11.　中世 2 を含む時期不明の土坑 59 基）。集石 6 基（うち 4 基は縄文中期）。焼土跡（曽利）					
6-008	北原	北杜市白州町	縄文中期	曽利式期主体の集落跡			未報告		
			平安	住居 1 軒。					
6-009-1	竹宇 1	北杜市白州町	縄文中期	住居 28 軒、土坑 113 基。	佐野　隆	2016	『竹宇 1 遺跡』	北杜市埋蔵文化財調査報告　第 41 集	北杜市教育委員会
			平安	住居 3 軒、掘立柱建物 1 棟。					
6-010	堰口	北杜市白州町		本報告書。					
6-012	大久保	北杜市白州町	縄文中期中葉	竪穴住居 2 軒。	村松佳幸	2009	『大久保（白須）遺跡』	北杜市埋蔵文化財調査報告　第 34 集	北杜市教育委員会
			縄文中期後葉	竪穴住居 9 軒。土坑。					
6-015	根古屋	北杜市白州町	縄文中期後葉	竪穴住居 12 軒。中期末葉を主とした中期前葉～後葉にかけての 26 基の土坑。	平野　修	1985	『根古屋遺跡』		白州町教育委員会
6-027	新居道上	北杜市白州町	平安	竪穴住居 7 軒。平安～中世までの土坑 189 基。	折井　敦	1991	『上北田 3 遺跡・新居道上遺跡』		白州町教育委員会
6-028	上北田	北杜市白州町	平安	竪穴住居 3 軒。時期不明の土坑 222 基、柱列、畝、粘土貯蔵穴、溝。	杉本　充・武藤雄六	1993	『上北田遺跡』		白州町教育委員会
6-035	桜井 1	北杜市白州町	縄文中期中葉	中期中葉～後期中葉　住居 12 軒。			未報告		
			縄文中期後葉						
			縄文後期前葉						
			縄文後期中葉						
6-041	雑木	北杜市白州町	平安	竪穴住居 7 軒。	杉本　充	1997	『雑木遺跡』		白州町教育委員会
6-052	坂下	北杜市白州町	平安	竪穴住居 4 軒。小竪穴 3 基。掘立柱建物 1 棟。ピット群。	折井　敦	1988	『坂下遺跡』		白州町教育委員会
6-053	所帯Ⅰ	北杜市白州町	平安	竪穴住居 6 軒。掘立柱建物 4 棟。土坑 11 基。	折井　敦	1989	『所帯Ⅰ・所帯Ⅱ遺跡』		白州町教育委員会
6-054	所帯Ⅱ	北杜市白州町	平安	竪穴住居 10 軒。掘立柱建物 2 棟。平安と中世の土坑 62 基。	折井　敦	1989	『所帯Ⅰ・所帯Ⅱ遺跡』		白州町教育委員会
6-055	旧菅原小学校	北杜市白州町	平安	竪穴住居 6 軒。	杉本　充	1997	『旧菅原小学校遺跡』		白州町教育委員会
6-058	上北田 3	北杜市白州町	平安	竪穴住居 3 軒。縄文中期～近世までの土坑 101 基。時期不明の竪穴状遺構 1 基と配石 4 基。	折井　敦	1991	『上北田 3 遺跡・新居道上遺跡』		白州町教育委員会
6-059	古御所東	北杜市白州町	縄文中期前葉	竪穴住居 1 軒。	杉本　充	1999	『古御所東遺跡』		白州町教育委員会
			平安	竪穴住居 42 軒。掘立柱建物 1 棟。					
6-060	西之久保	北杜市白州町	平安	竪穴住居 3 軒。時期不明の竪穴状遺構 4 基と溝状遺構 5 条。	杉本　充	1998	『西之久保遺跡』		白州町教育委員会
6-061	教来石民部館跡	北杜市白州町	縄文中期後葉	竪穴住居 4 軒。土坑 2 基。	折井　敦	1990	『教来石民部館跡』		白州町教育委員会
6-068	大原 1	北杜市白州町	縄文中期初頭	土坑 1 基。	杉本　充	1997	「大原 1 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 8 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			平安	竪穴住居 1 軒。					

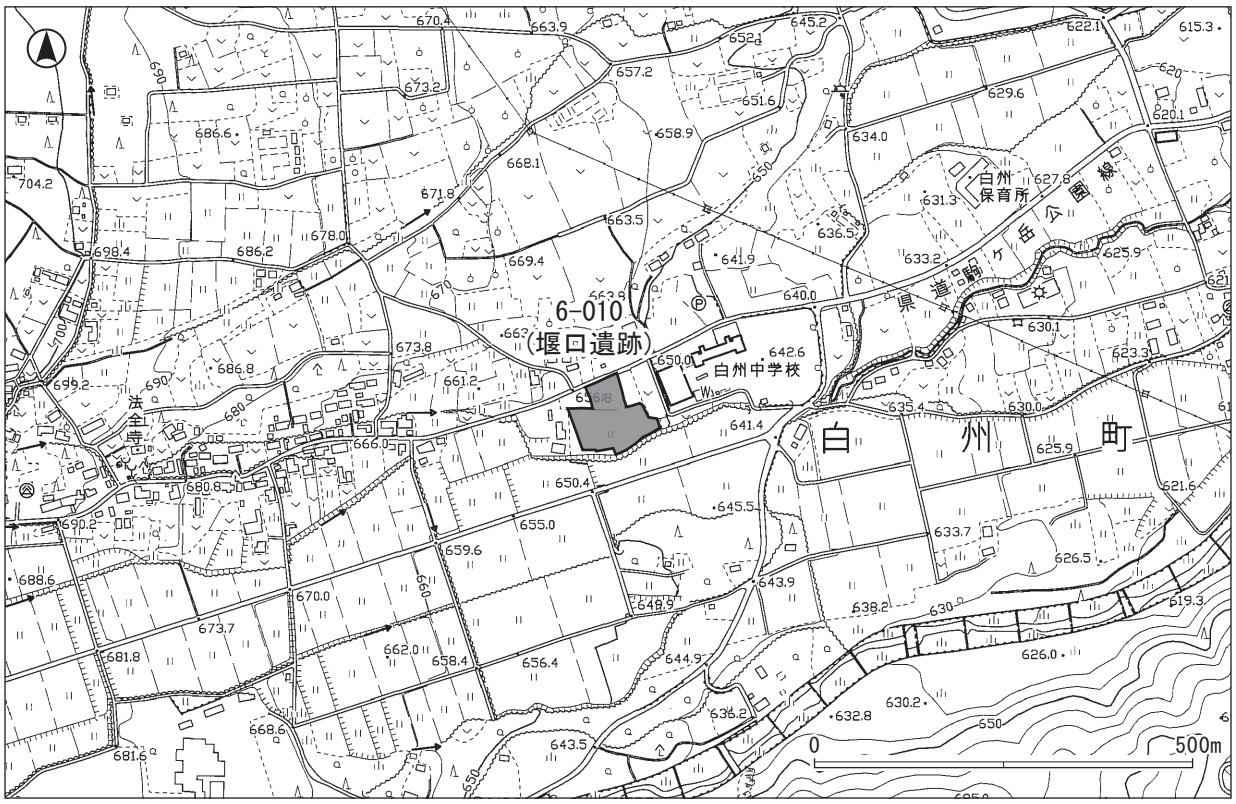
第 1 表　周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	町名	時代	遺構数	編著者	発行年	報告書名		発行機関
6-070	竹宇 3	北杜市白州町	縄文中期後葉	竪穴住居 2 軒。	坂口広太・佐野隆	2007	『竹宇 3 遺跡』	北杜市文化財報告　第 24 集	北杜市教育委員会
7-001	真原 A	北杜市武川町	縄文中期後葉	竪穴住居 2 軒。土坑。	武田眞人	1997	「真原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 8 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期後葉	竪穴住居 2 軒。土坑 2 基。	武田眞人	1998	「真原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 9 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期後葉	竪穴住居 1 軒。土坑 2 基。	武田眞人	1999	「真原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 10 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期後葉	曽利式期の竪穴住居 6 軒。土坑 110 基。	平山恵一・坂口広太	2003	「真原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 14 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期後葉	竪穴住 4 軒。土坑 40 基。	平山恵一・坂口広太	2004	「真原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 15 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期後葉	竪穴住居 12 軒。土坑 200 基。（保存）（これまでの全調査で曽利住居 29 軒。土坑約 350 基。）	坂口広太	2006	「真原遺跡　第 7・8 次調査」『北杜市文化財年報　平成 17 年度』		北杜市教育委員会
			縄文中期後葉	竪穴住居 5 軒。土坑多数。	坂口広太	2007	「真原 A 遺跡」『北杜市文化財年報　平成 18 年度』		北杜市教育委員会
7-016	東原 B	北杜市武川町	縄文中期初頭	竪穴住居 1 軒。	平山恵一	2002	「東原 B 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 13 年度』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期前葉	新道～藤内の住居 3 軒。					
			縄文中期中葉	新道～藤内の住居 4 軒。					
7-020	実原 A	北杜市武川町	縄文中期初頭	竪穴住居 1 軒、土坑群	武田眞人	1999	「実原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 10 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期初頭	竪穴住居 1 軒、土坑 40 基	平山恵一・坂口広太	2004	「実原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 15 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期初頭		武田眞人	1999	「実原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 10 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期前葉		武田眞人	1999	「実原 A 遺跡」『八ヶ岳考古　平成 10 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
7-038	御崎	北杜市武川町	平安	平安住居 7 軒と時期不明の竪穴状遺構 1 基・土坑 2 基。	平山恵一・坂口広太	2005	『御崎遺跡』		北杜市教育委員会
7-039	宮間田	北杜市武川町	平安（若干中世含む）	竪穴住居 94 軒（うち 3 軒は小鍛冶遺構）掘立柱建物 45 棟。土坑 269 基。	平野　修他	1988	『宮間田遺跡』		武川村教育委員会
8-005	竹原	北杜市小淵沢町	平安	竪穴住居 3 軒。鍛冶跡。鍛冶炉址。	佐野勝広	1988	『小淵沢町竹原遺跡』		小淵沢町教育委員会
	竹原 3749-1番地	北杜市小淵沢町	平安	竪穴住居 1 軒。		2001	「竹原 3749-1 番地遺跡」『八ヶ岳考古　平成 12 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
8-006	沢の田	北杜市小淵沢町	縄文中期初頭	縄文時代の住居 6 軒（井戸尻 1・縄文 5）。縄文時代の土坑 10 基（前期末葉 1・中期初頭 1）。	佐野勝広	1984	『沢の田遺跡』		小淵沢町教育委員会
			縄文中期中葉	縄文時代の住居 6 軒（井戸尻 1・縄文 5）。縄文時代の土坑 10 基（前期末葉 1・中期初頭 1）。					
8-007	中原	北杜市小淵沢町	縄文中期後葉	竪穴住居（中期後葉 6・後期前葉 1・平安 3・縄文中期 3）。配石遺構 1 基。縄文と平安の土坑 26 基(曽利 1・時期不明)。	末木　健	1974	『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書―北巨摩郡小淵沢町地内―』		山梨県教育委員会
			平安	竪穴住居（中期後葉 6・後期前葉 1・平安 3・縄文中期 3）。縄文と平安の土坑 26 基（曽利 1・時期不明）。					
			縄文中期後葉	竪穴住居 15 軒。	佐野勝広	2001	「中原 3058-1 番地遺跡」『八ヶ岳考古　平成 12 年度年報』		北巨摩市町村文化財担当者会
			縄文中期後葉	竪穴住居 6 軒。					
8-023	上平出	北杜市小淵沢町	縄文中期初頭	縄文と平安の土坑 15 基（中期初頭 5・中期後葉 1・中期 1・後期 1・時期不明）。時期不明の配石遺構 1 基。	末木　健	1974	『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書―北巨摩郡小淵沢町地内―』		山梨県教育委員会
			縄文中期後葉	竪穴住居（中期後葉 2・後期前葉 1・平安 7）。縄文と平安の土坑 15 基（中期初頭 5・中期後葉 1・中期 1・後期 1・時期不明）。時期不明の配石遺構 1 基。					
			平安	竪穴住居(中期後葉 2・後期前葉 1・平安 7)。掘立柱建物 1 棟。縄文と平安の土坑 15 基（中期初頭 5・中期後葉 1・中期 1・後期 1・時期不明）					
8-052	前田	北杜市小淵沢町	平安	竪穴住居 4 軒。掘建柱建物 1 棟。時期不明の土坑 2 基と溝 1 条。	佐野勝広	1983	『前田』		小淵沢町教育委員会
8-064	篠八田	北杜市小淵沢町	縄文中期後葉	竪穴住居 1 軒。	保坂和博・浅利　司	1992	『西の入遺跡・篠八田遺跡』	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 68 集	山梨県教育委員会

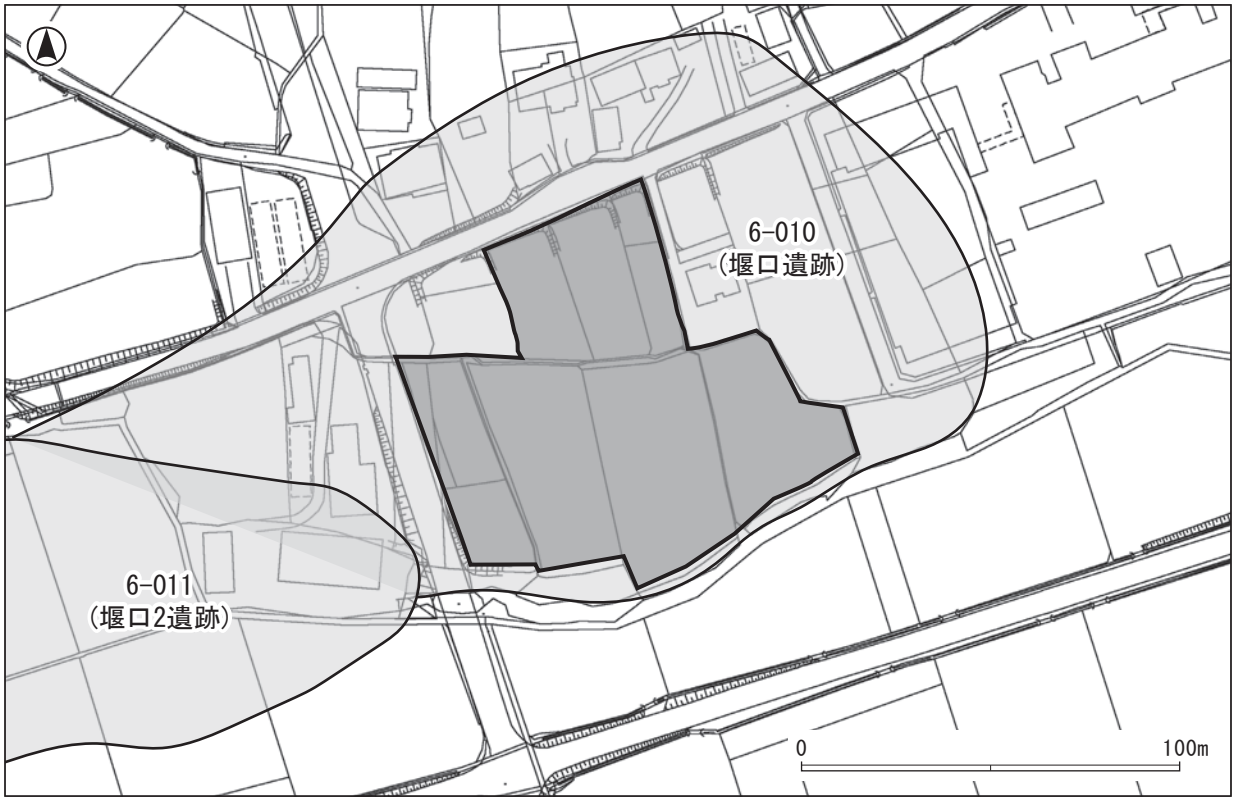
第 1 表　周辺遺跡地名表



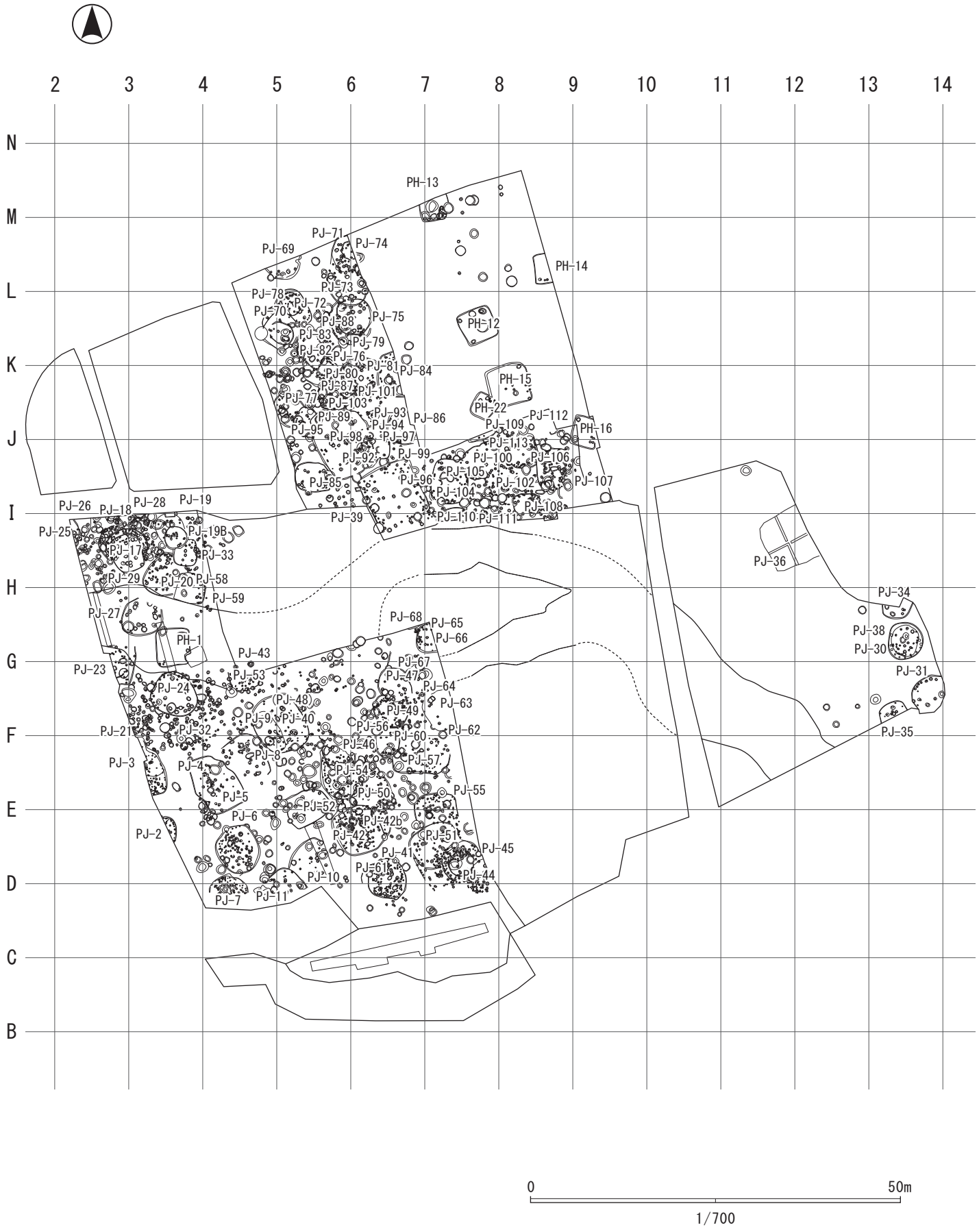
第 2 図　堰口遺跡と周辺遺跡（1/25,000）



第 3 図　調査地点の位置（1/10,000）



第 4 図　埋蔵文化財包蔵地範囲（薄いグレー）と工事範囲（濃いグレー）(1/2,000)



第 5 図　調査区全体図（1/700）

第２章　遺跡の環境

第１節　地理環境

堰口遺跡は、釜無川右岸の標高 655m 付近に所在する。遺跡周辺は巨摩山地から釜無川へ注ぐ尾白川、田沢川が形成した扇状地で東面緩斜面である。遺跡は尾白川が侵食した扇状地の南端に位置する。調査着手前は水田と畑地として利用され、遺跡の東に北杜市立白州中学校が隣接する。

扇状地は縄文時代以降、複数回にわたり洪水等で堆積物が供給され、堰口遺跡では縄文時代中期中葉の遺構確認面の上位に黄褐色で粗粒の砂層が 50 ㎝前後の層厚で堆積し、この黄褐色砂層を掘り込んで平安時代の遺構が構築されている。遺跡の北側には「大除（おおよけ）」という地名がついた尾根状地形があるが、これは扇状地堆積物が堆積しない、すなわち洪水の被害を受けない土地を意味する地名と思われる。

堰口遺跡では、黄褐色砂層は縄文時代中期中葉より新しく、平安時代より古い時代の所産としか所見が得られなかったが、平成 29 年度に発掘調査した白州町鳥原地内の南沢遺跡では、縄文時代中期中葉の遺構確認面を覆う層厚 2m の扇状地堆積層が確認され、年代測定が可能であった。南沢遺跡の扇状地堆積層に含まれた炭化材による 14C 年代測定値は約 3300 年前から約 1800 年前（暦年較正年代）を示し、縄文時代晩期から弥生時代にかけて複数回の洪水イベントにより堆積したことが判明した。南沢遺跡と堰口遺跡は直線距離にして 3.6km ほど離れているが遺跡の立地環境は類似しており、南沢遺跡で得られた所見は堰口遺跡の状況と矛盾しない。

堰口遺跡の調査区では、過去の農地造成により削平され黄褐色で粘質の細粒砂層が露出するところと、土器、石器を包含する黒色から暗褐色の細粒砂層が堆積する場所、さらに遺物を包含しない黒色土が堆積する場所がみられた。

第２節　歴史環境

堰口遺跡は、遺構と遺物からみて縄文時代早期後半に土地利用が始まり、前期前葉（中越式）、前期中葉（神ノ木式・有尾式）、前期後葉（諸磯式）、中期中葉（藤内式）、中期末葉（曽利式）、平安時代と断続的ながら長期にわたって土地利用が認められた。縄文時代早期後半は土器の器面を条痕で調整する繊維土器（神之木台式、下吉井式）が少量出土する程度であるが、前期前葉の中越式期になると多数の竪穴住居を伴う定着的な生活痕跡が残され、その状況は前期後葉の諸磯ｂ式期まで継続する。諸磯ｃ式期は土器破片が散発的に出土するのみで、前期末葉から中期初頭の遺物はほとんど見当たらない。再び竪穴住居を伴う生活痕跡が確認されるのは中期中葉藤内式期で、中期末葉曽利Ⅱ式期にも住居 1 軒が確認された。以下、堰口遺跡で竪穴住居を伴う活動が認められる時期の、遺跡周辺の状況を概観する。

前期前葉の中越式期では、堰口遺跡の南西 1.5km に上北田遺跡、北 4.4km に板橋遺跡、北東 8km に坂平遺跡が知られる。さらに北東 21km には著名な阿久遺跡と阿久尻遺跡がある。また釜無川（富士川）沿いに南に転じると 24km に長田口遺跡が所在する。

上北田遺跡は中越Ⅱ式と中越Ⅳ式期の住居 22 軒が調査され、板橋遺跡は中越Ⅱ式から中越Ⅳ式期の住居 56 軒、方形柱穴列 8 棟、土坑 4 基、坂平遺跡は遺跡の一部が発掘調査されて、中越式期の住居 31 軒、方形柱穴列 6 棟が検出された。長野県富士見町坂平遺跡でも早期後半から土地利用が確認され、下吉井式期あるいは花積下層式期の竪穴住居も検出されている。長野県原村阿久遺跡と茅野市阿久尻遺跡も中越式期の住居、方形柱穴列多数が確認され、特に阿久尻遺跡では中越Ⅱ式期からⅢ式期へ居住地が変遷する様相が明瞭に認められた。南アルプス市長田口遺跡では中越式期の住居 13 軒が調査されている。このように中越式期の居住地跡は、釜無川沿いに点々と認められていて、それぞれに利用時期が若干異なり、さらに方形柱穴列の有無が顕著な違いである。また八ヶ岳山麓周辺では中越Ⅰ式段階の遺構、遺物はほとんど知られていない。

神ノ木式期から有尾式期、さらに諸磯ａ式期の居住地跡はその数が限られ、至近では八ヶ岳南麓の山崎第 4 遺跡で前期前葉の住居 14 軒、諸磯ａ式期の住居 3 軒が調査されているのみである。堰口遺跡と同等規模以上の居住

地跡は阿久遺跡、さらに八ヶ岳西麓の茅野市神ノ木遺跡、駒形遺跡まで視野を広げなければならない。縄文海進最盛期に相当する時期に八ヶ岳山麓で居住痕跡が縮小する現象が認められる。

諸磯ｂ式期になると八ヶ岳南麓の天神遺跡で 49 軒の住居を伴う居住地が形成され、諸磯ｃ式期、中期初頭まで継続する。八ヶ岳山麓と周辺地域では、諸磯ｂ式期になると大小の居住地が各地に出現し、遺跡数が増加する。そうした居住地跡のなかで多数の集石土坑を伴う遺跡は、今のところ阿久遺跡と堰口遺跡のみである。集石土坑は調理施設とみられているが、そのような施設を多数伴う居住地が二ヶ所に限定される点は興味深い。諸磯ｃ式期以降、堰口遺跡では遺構がみられなくなり、巨視的にみると天神遺跡へと生活拠点が移動したようにみえる。

中期前葉の遺構は堰口遺跡の調査区では確認されなかったが、新道式土器の完形個体が出土している。また堰口遺跡の東 500m の馬場氏屋敷跡では新道式期の住居 1 軒が調査され、堰口遺跡の西 300m の竹宇 1 遺跡では新道式期の住居 1 軒が検出されている。当該時期には、おそらく堰口遺跡を含めて住居が広い範囲に散在するように営まれていたと思われる。

中期中葉の遺跡は多い。堰口遺跡の北 3.4km の上小用遺跡で藤内式 1 段階と井戸尻式期の住居が調査され、上小用遺跡の西側に位置する南沢遺跡は井戸尻式期を主体とする集落跡で、住居 11 軒が確認された。また堰口遺跡から南に 6km の向原遺跡は藤内式期から井戸尻式期の住居多数が検出されている。

中期末葉の曽利式期になると、先述したとおり竹宇 1 遺跡に多数の住居跡を伴う居住地が想定されるほか、上小用遺跡、東 1.8km に位置する白須大久保遺跡、根古屋遺跡などの遺跡が知られる。

調査地点近景

第３章　縄文時代の遺構と遺物

第１節　住居と遺物

PJ002 号住居

位　　置：D-3 グリッドに位置する。遺構の 2/3 程度が調査区外である。

規　　模：確認された範囲では、長軸 3.7m の円形もしくは楕円形で、竪穴は深さ 30 cmが残る。

埋　　土：黒褐色土が一様に堆積し、層理は認められなかった。土層断面図第 2 層は軟弱な床面をやや掘り下げすぎた層である。

床　　面：黄褐色砂質地山を床面としている。調査範囲内で硬くしまった床面は検出されなかった。

**炉　　**：調査範囲内で炉、焼土は検出されなかった。

周　　溝：壁に沿った小溝は検出されなかった。深さ 5 cmから 14 cmの小穴が壁に沿って検出された。

柱　　穴：PT-33 号､PT-34 号､PT-36 号ピットが柱穴と思われる。これらは深さ 15 cmから 16 cmと浅い。PT-17 号ピットと PT-18 号ピットも柱穴の可能性がある。これらは 12 cmと浅い。

出土遺物：調査範囲が限られるためか、出土遺物は少ない。

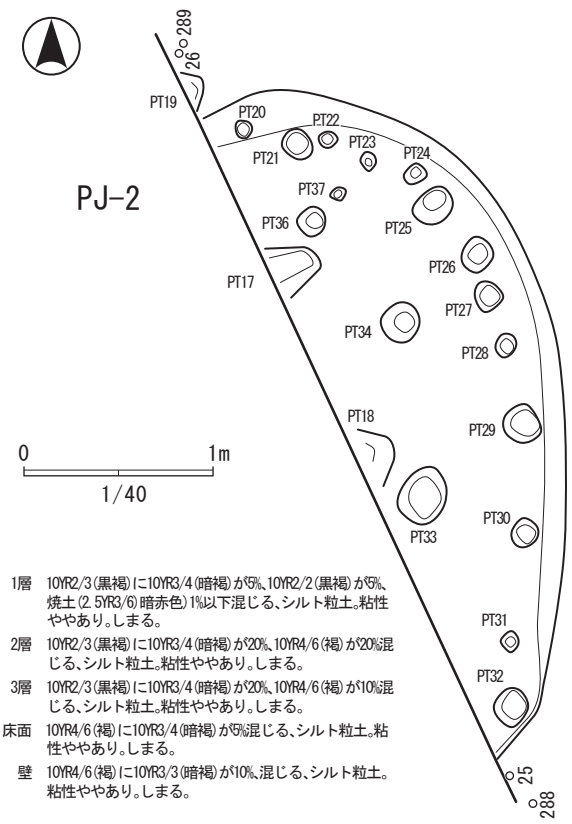
出土した土器の総量は 1,371g で、中越式土器破片 163g、神ノ木式土器破片 782g、諸磯式土器破片 203g などが内訳である。

出土した石器の内訳は、石鏃 2 点、石匙 1 点、剥離のある剥片 2 点、原石 2 点である。このほか観察表に掲載しなかった剥片、砕片が 42 点 96g 出土した。

時　　期：出土した土器破片では、神之木式とみられる繊維を含んだ胎土で縄文地文の土器破片がもっとも多く、大きな破片も含まれる。一方、明らかに諸磯ｂ式とみえる破片も少量ながら混じっている。遺構形状は小形の不整円形と思われ、壁沿いに整然と小穴がめぐり、主柱穴は浅く、頼りない。こうした形状は本遺跡内で検出された諸磯式期の住居に類似し、神ノ木式期の住居とは異なる。以上の所見から、本住居は諸磯ｂ式期に帰属すると推測される。

PJ002 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	径（cm）	深さ（cm）	覆土色	備考（遺物など）
PT-017	2 住内	32*24		10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	主柱穴か
PT-018	2 住内	30*12	12		主柱穴か
PT-020	2 住内	32*27	20		壁際の小穴
PT-021	2 住内	15*13	8	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	壁際の小穴
PT-022	2 住内	10*10			壁際の小穴
PT-023	2 住内	7*8	5		壁際の小穴
PT-024	2 住内	17*20	14	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	壁際の小穴
PT-025	2 住内	22*18			壁際の小穴
PT-026	2 住内	15*15	12	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	壁際の小穴
PT-027	2 住内	17*14	10	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	壁際の小穴
PT-028	2 住内	12*11		10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	壁際の小穴
PT-029	2 住内	21*21		10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	壁際の小穴
PT-030	2 住内	11*13	11	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	壁際の小穴
PT-031	2 住内	8*8	5	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	壁際の小穴
PT-032	2 住内	20*18	6	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	壁際の小穴
PT-033	2 住内	30*25	15	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。	主柱穴か
PT-034	2 住内	21*18	15	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。	主柱穴か
PT-036	2 住内	13*12	16	他の PJ-2 内の PT に同じ。	主柱穴か
PT-037	2 住内	6*5.5	6	他の PJ-2 内の PT に同じ。	



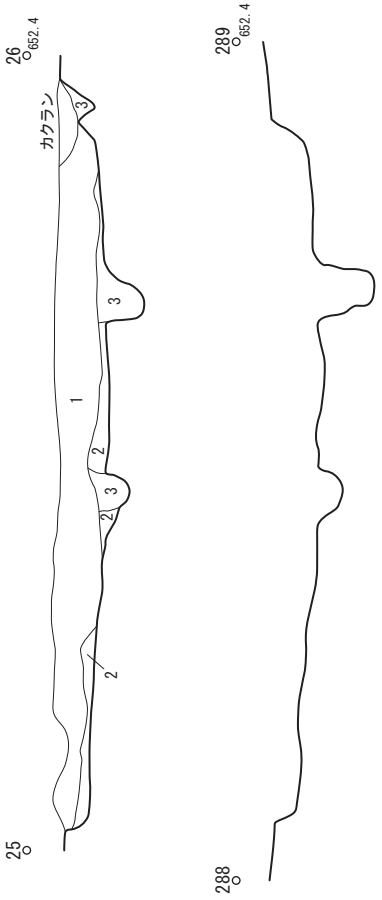
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、10YR2/2(黒褐)が5%、焼土(2.5YR3/6)暗赤色)1%以下混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

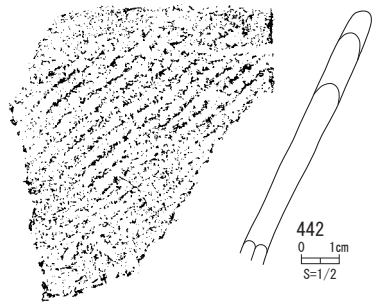
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR4/6(褐)が20%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

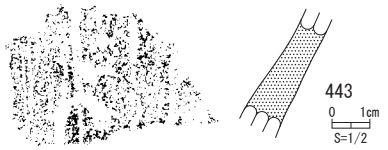
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR4/6(褐)が10%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

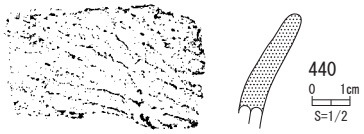
床面　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

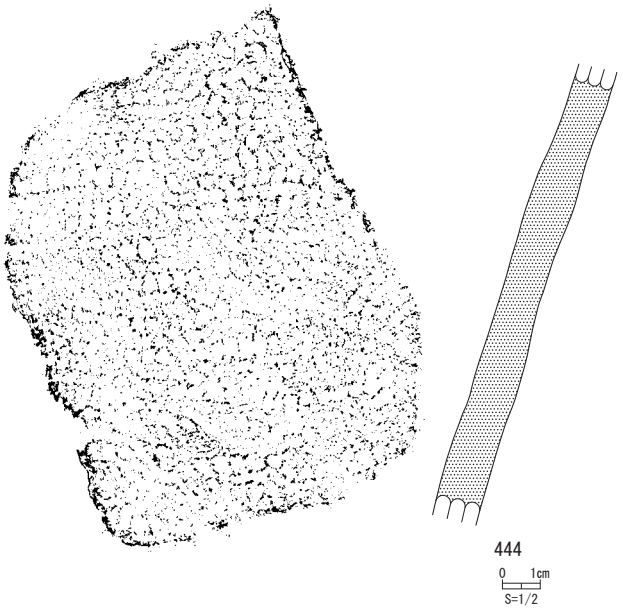
壁　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

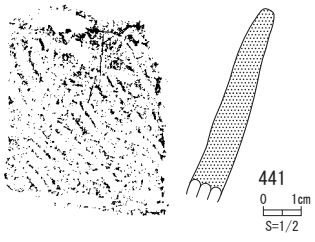




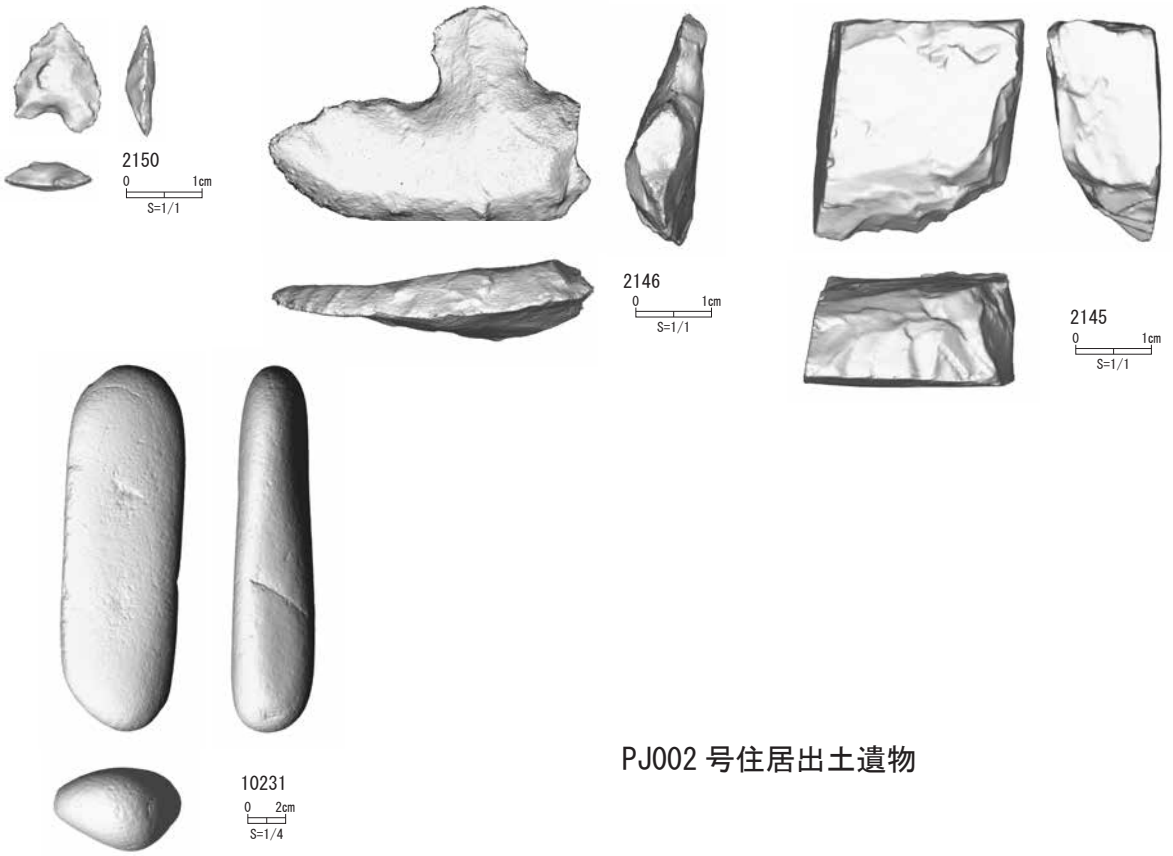








PJ002 号住居・PJ002 号住居出土遺物



PJ002 号住居出土遺物

PJ002 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
440	6-010-2012 PJ-2 21	口縁部				14.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	床面から 10 cm浮いて出土した。胎土に繊維を多く含み、内面の調整は丁寧である。関山式
441	6-010-2012 PJ-2 12	口縁部				22.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/4	床面から 6 cm浮いて出土した。胎土に繊維を多く含み、内面の調整は丁寧である。関山式
442	6-010-2012 PJ-2 8	口縁部				41.0	破片	7.5YR3/2 5YR4/4	床面から 12 cm浮いて出土した。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
443	6-010-2012 PJ-2 20	胴部				20.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR6/6	床面から 5 cm浮いて出土した。胎土に繊維を含み、内面に指頭圧痕が明瞭に残る。外面は縦方向のナデ調整。中越式
444	6-010-2012 PJ-2 2	胴部				178.0	破片	5YR6/6 5YR4/4	床面から 10 cm浮いて出土した。胎土に繊維を多く含み、内面に指頭圧痕が明瞭に残る。神ノ木式
3000	6-010-2012 PJ-2	胴部				27.0	破片	7.5YR4/4 5YR4/4	埋土一括取り上げ。細く低い隆線と縄文地文。諸磯ｂ式

PJ002 号住居　石器観察表

実測番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（cm）	現存幅（cm）	現存厚（cm）	重量（g）	観察所見
2150	PJ-2	石鏃	黒曜石	1/1	1.65	1.32	0.43	0.7	埋土一括取り上げ。光を透過させるとブルーブラック色にみえる黒曜石。未成品。
2146	PJ-2 15	石匙	チャート	3/4	3.00	4.30	0.80	9.4	PT31 横、床面から 5 cm浮いて出土。青灰色で油脂光沢感のあるチャート。刃部の一部欠損。
2145	PJ-2 22	原石	黒曜石	1/1				15.2	壁沿いの小穴 PT22 上、床面で出土。角礫ズリ
2147	PJ-2	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	0.30	(0.4)	埋土一括取り上げ。脚部欠損。透明感のある黒曜石
2148	PJ-2	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.8	埋土一括取り上げ
2149	PJ-2	原石	黒曜石	1/1				4.2	埋土一括取り上げ。角礫ズリ。薄い剥片状
8141	PJ-2	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.2	埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石
10231	PJ-2 5	磨石類	砂岩類	1/1	45.0	193.0	63.0	812.0	PT17 横、床面から 13 cm浮いて出土。稜面を作業面とする稜磨石。磨り作業だけでなく敲打作業にも使用したとみられ、小剥離が認められる。広い面に敲打痕 2 ヶ所、全面に平滑な磨耗。

PJ003 号住居

位　　置：E-3 グリッドに位置する。3 号住居と 21 号住居が重複し、3 号住居は同一地点で繰り返し建て替え、かつ複数軒の住居が重複している。

調査当初、黒い落ち込みを検出して 3 号住居と命名した。その後、遺構の北半分の埋土中で、ややしまった黄褐色土が局所的に検出され、床面と思われたことから、この床面を PJ3B 号住居と命名した。一方、南半分は埋土中に床面が検出されず、黄褐色砂質地山の床面まで掘り下げることができた。この地山を床面とした遺構を PJ3A 号住居と命名した。さらに PJ3B 号住居の床面を掘り下げたところ、PJ3A 号住居床面と同一レベルで、小さくめぐる周溝を検出し、PJ3A 号住居が何回かの建て替え、拡張を経たことが確認された。

以下、PJ3A、PJ3B 号住居を 3A 号住居、3B 号住居と呼び分けて、調査所見を記載する。

規　　模：遺構の西半分は調査区外である。南北方向は最大で 5.9m である。竪穴は深さ 40 ㎝が残る。

埋　　土：黒褐色から暗褐色土が堆積していた。南北方向の土層断面観察では、3 層と 4 層で構成される新しい遺構が確認され、3 層下端には部分的ながらやや硬化した黄褐色土の床面を検出した。これを PJ3B 号住居と命名し、出土遺物から諸磯 b 式期の遺構と推測した。

1 層と 2 層は、PJ3B 号住居に切られる遺構で、PJ3A 号住居埋土である。水平方向の層理が観察され、自然堆積したと推測される。

床　　面：PJ3B 号住居の床面は、PJ3A 号住居埋土中につくられ、断片的に硬くしまった黄褐色粘質土が検出された程度であった。PJ3B 号住居床面で柱穴の検出に努めたが、床面が荒れていて明瞭に検出できなかった。

PJ3A 号住居の床面は、やや粘性のある黄褐色砂質土の地山をそのまま利用している。住居中央付近はやや硬くしまっていた。

炉　：炉址と思われる焼土跡が 3 ヶ所で検出された。調査区端の PT306 と命名した焼土を伴う浅いくぼみは PJ3A 号住居炉と推測される。後述する柱穴との位置関係も整合的で、中越式併行期と思われる土器破片が出土した。

調査範囲の中央付近で、床面から 10 ㎝ほど浮いた高さで焼土が検出された。PJ3B 号住居埋土とした 3 層の下端に相当する高さであり、PJ3B 号住居の炉跡と推測される。

さらに PT237 と重複する位置の、PJ3A 号住居床面上で焼土が検出された。この焼土の帰属先は確認できなかったが、位置は PJ3B 号住居炉跡に近く、高さは PJ3A 号住居床面と同一である。確証はないが PJ3B 号住居に先行する前期中葉もしくは後半の住居の炉跡かもしれない。

周　　溝：PJ3B 号住居の周溝は確認できなかった。

PJ3A 号住居の周溝は、もっとも小さいプランから最大プランまで 6 重に巡る小溝が検出された。最低 4 ないし 5 回の建て替え、拡張が想定される。

柱　　穴：PJ3B 号住居の床面で柱穴を精査したが検出できなかった。ただし、PJ3A 号住居床面で、明瞭かつ浅いピット 3 基が検出された。これらは PJ3B 号住居の炉跡と推測される焼土を囲むように配置し、3B 号住居の柱穴となる可能性がある。

一方、PJ3A 号住居の柱穴は、建て替えに対応するだけの数が検出されている。

最大プランになった時点での柱穴は、187 号ピットと 190 号ピットと判断した。これらはともに深さ 75 ㎝、70 ㎝と深く、掘り方も大きい。

これに先行する柱穴は、186 号ピットと 191 号ピットの 2 基と判断した。深さは 52 ㎝、45 ㎝である。

さらに旧い段階の柱穴は、237 号ピットが該当すると思われる。深さは 69 ㎝である。これに組み合う柱穴は 187 号ピットと重複して失われていると思われる。

さらに旧く先行する段階の柱穴は、188 号ピットと思われる。深さは 44 ㎝で、対になる柱穴は 187 号ピットと重なって失われていると思われる。

このほか深さ 45 ㎝の 189 号ピットが検出されたが、対になるピットは確認できなかった。

以上の柱穴の理解が妥当であるならば、3A 号住居は、炉の位置を大きく変えずに北壁と東壁をやや拡げ、南壁を大きく拡張したと理解される。

出土遺物：小破片となった土器が埋土全体からまばらに出土した。出土した土器の総量は、12,163g である。土器型式が確認される土器破片の重量は、中越式 2,208g、神ノ木式 3,530g、有尾式 250g、諸磯式 2,394g で、ほかに木島式、繊維が混入し縄文地文の土器、中期中葉土器が出土している。繊維が混じる縄文地文の土器には、花積下層式、中越式、神ノ木式、有尾式など多様な型式が含まれていそうであるが、明確に分別できない。中越式は神ノ木式を伴うⅣ式段階が主であるが、頸部に刻み、明瞭な段をもつⅠ式ないしⅡ式と思われる破片も少数認められる。

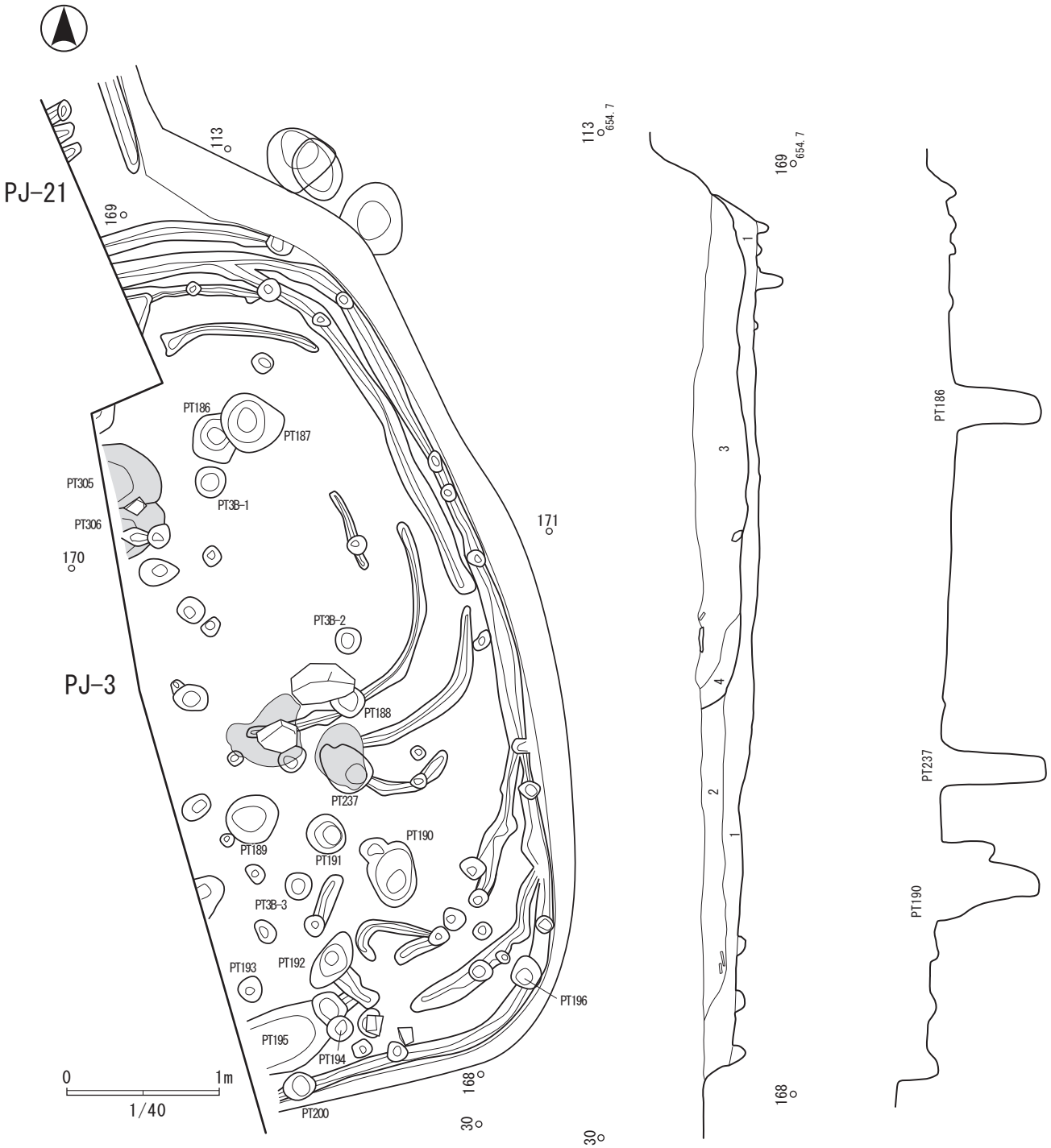
土器破片の出土量は中越式、神ノ木式で全体の半分程度となり、PJ3A 号住居埋土に含まれていた遺物と考えられる。有尾式が客体的である一方、諸磯式が、小破片ながら一定程度出土している。出土位置が前期前葉土器と明瞭に分別されないが、PJ3B 号住居埋土に含まれていた遺物の可能性が高い。

石器も土器と同様に埋土全体からまばらに出土した。出土した石器は、石鏃 19 点、削器 3 点、石錐 2 点、両極石器 1 点、台石 1 点、磨石類 4 点、ハンマー 1 点、黒曜石原石 6 点、剥離のある剥片 6 点、鉄平石 1 点である。その他、観察表に記載していない剥片、砕片類が 452 点、790.8g が出土した。その大半が黒曜石剥片で、ほかにチャート類、石英岩の剥片が若干ある。

時　　期：重複する 3A 号と 3B 号の 2 軒の住居の時期を明確に示唆する土器は出土しなかったが、多くの土器破片は、前期前葉と前期後葉に二分される。このことから PJ3A 号住居は中越Ⅳ式・神ノ木式期、PJ3B 号住居は諸磯ｂ式期に位置付けられる可能性が高い。

PJ003 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-186	3 住	30*27	52	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 25% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT-187 切られる。
PT-187	3 住	35*35	75	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 20% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT186 を切る。中越式土器小片
PT-188	3 住	17*20	44	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-189	3 住	18*17	45	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式土器小片
PT-190	3 住	37*45	70	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式土器小片
PT-191	3 住	22*21	45	10YR4/4（褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-192	3 住	27*20	20	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 20% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-193	3 住	13*14	10	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 30% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-194	3 住	15*15	16	10YR3/3（暗褐）に 10YR2/3（黒褐）が 10%、10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-195	3 住	40*48	5	10YR2/2（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器小片
PT-196	3 住	20*16	18	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-200	3 住	17*17	28	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 20%、10YR2/3（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式土器小片
PT-237	3 住	25*30	69	10YR4/6（褐）に焼土が 30%、10YR3/4（暗褐）が 10%、炭化物が 1%、5YR3/4（暗赤褐）が混じる。	
PT-305	3 住	46*33	10		PJ3A 号住居炉跡
PT-306	3 住	30*29	10		PJ3A 号住居炉跡



1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が5%、10YR4/3(にぶい黄褐)が5%混じる、焼土が1%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

2層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR4/3(にぶい黄褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が1%、焼土が1%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が20%、10YR2/3(黒褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%、焼土が2%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

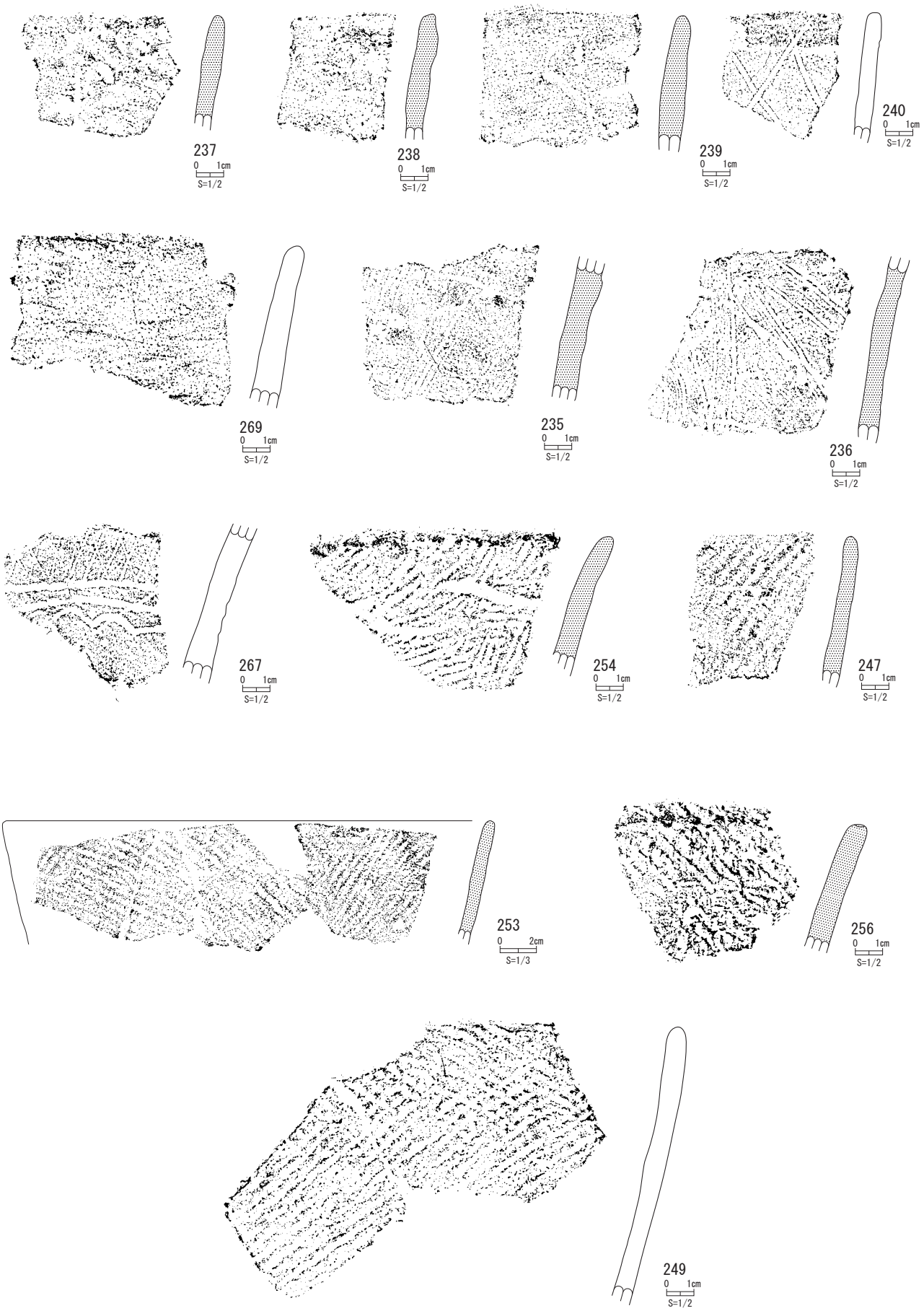
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が15%、10YR4/4(褐)が2%、焼土が1%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

床面　10YR5/6(黄褐)に10YR2/3(黒褐)が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

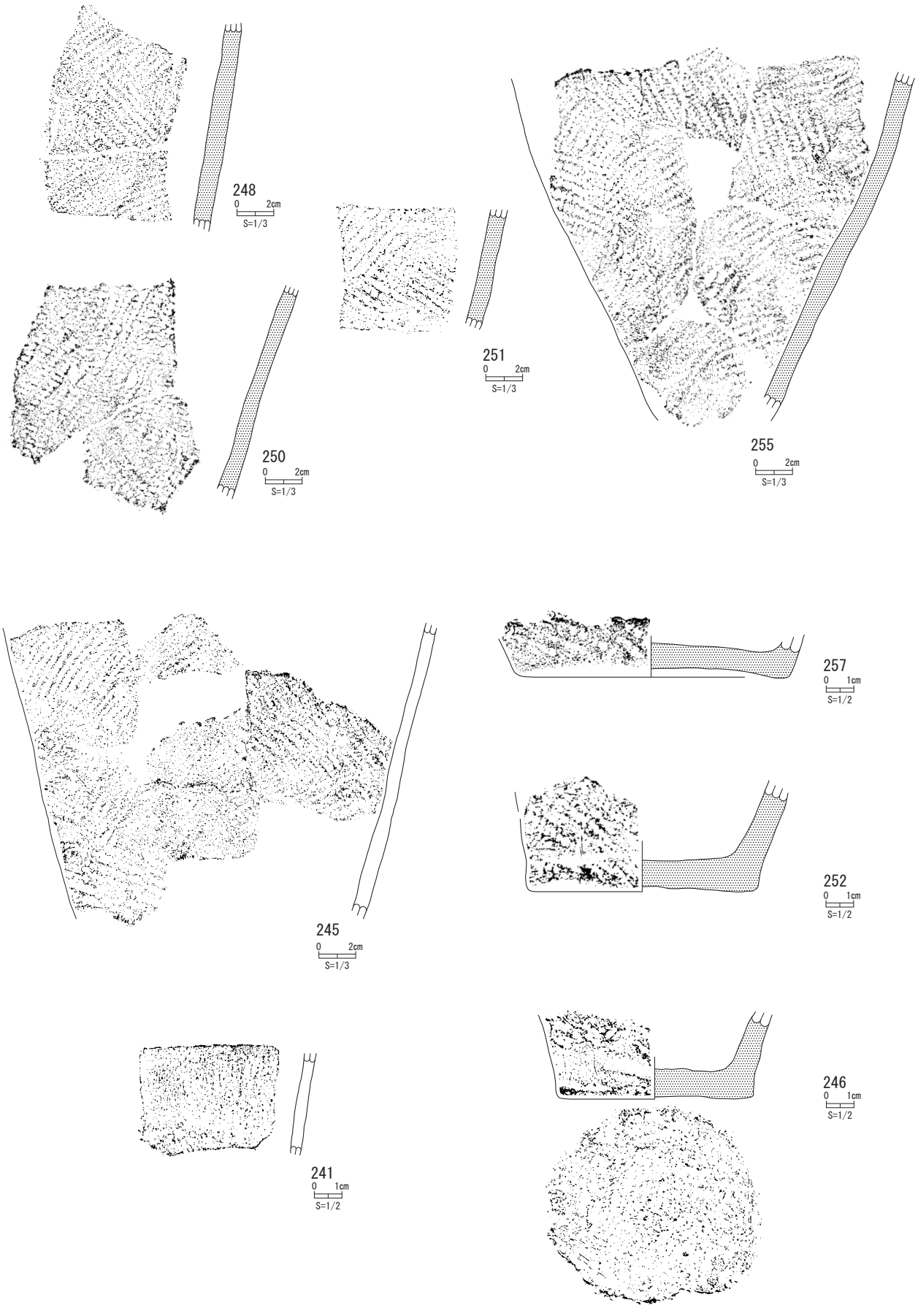
壁　10YR5/6(黄褐)に10YR2/3(黒褐)が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

焼土　5YR3/6(暗赤褐)帯状にうすく入っている。

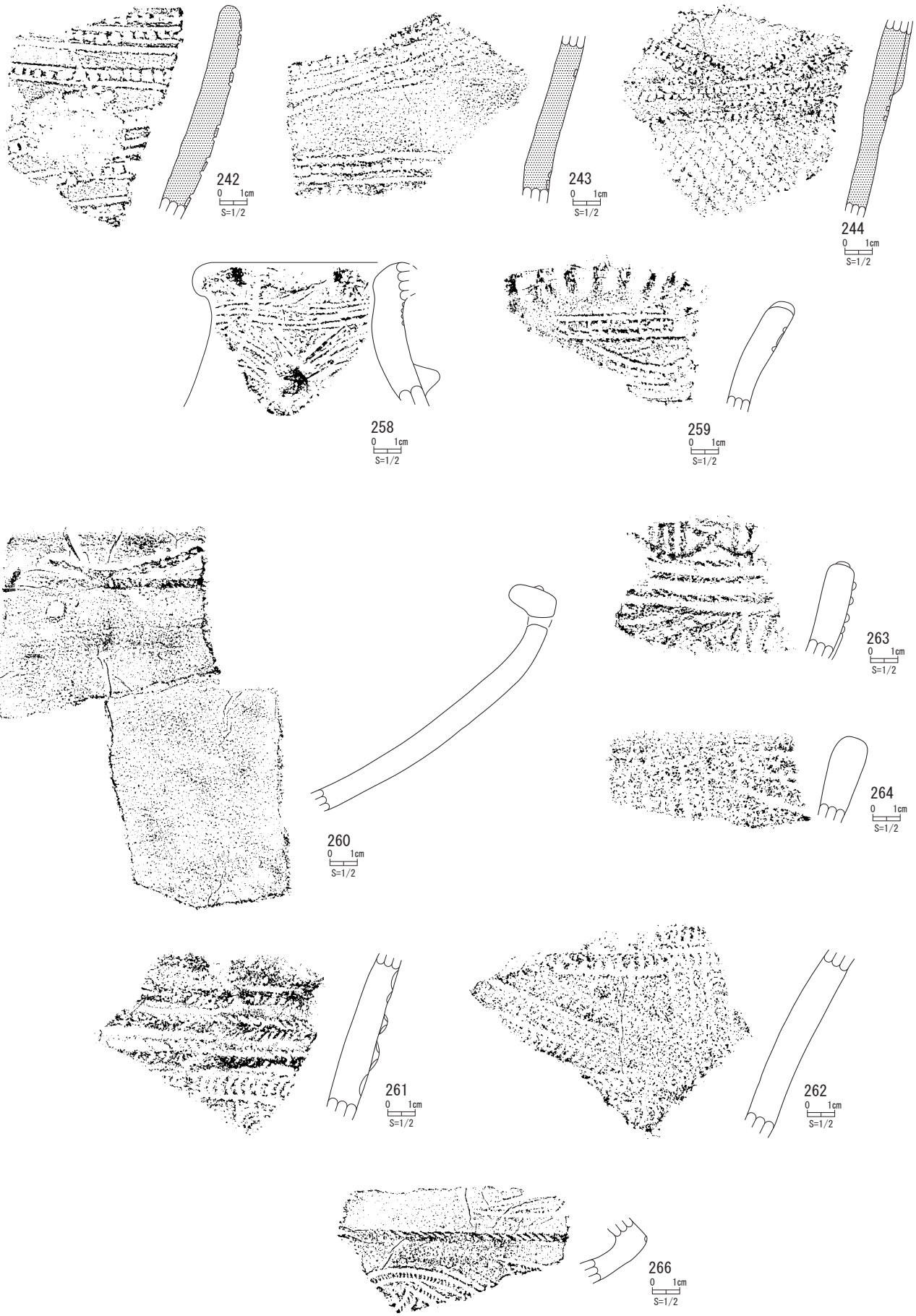
PJ003 号住居



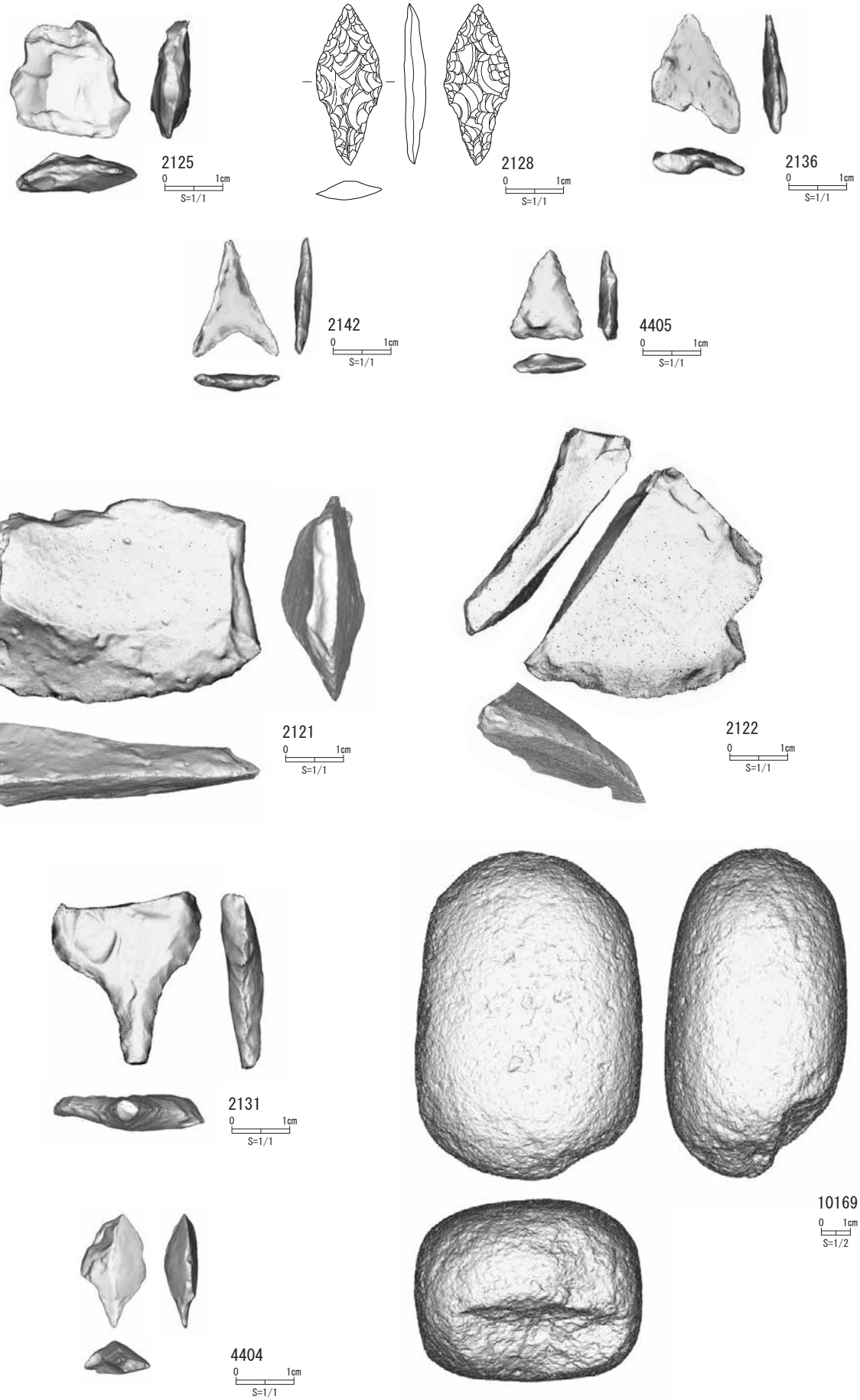
PJ003 号住居出土遺物



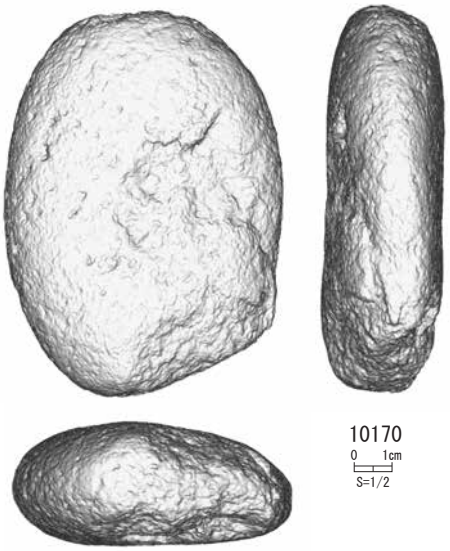
PJ003 号住居出土遺物

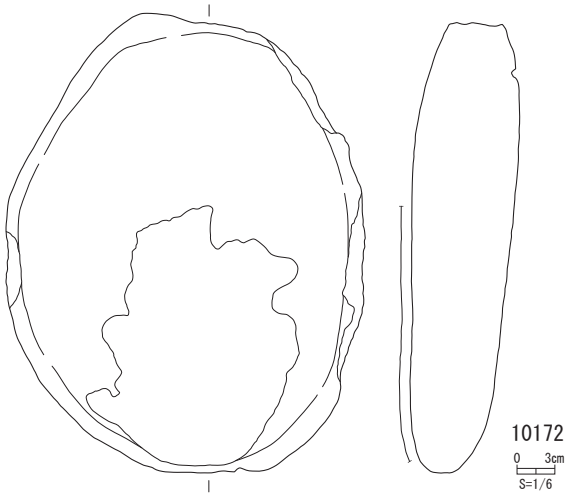


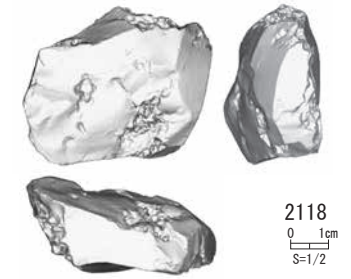
PJ003 号住居出土遺物

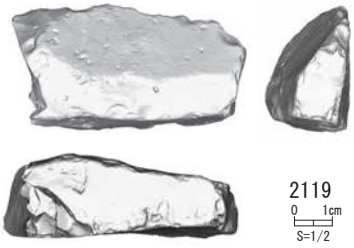


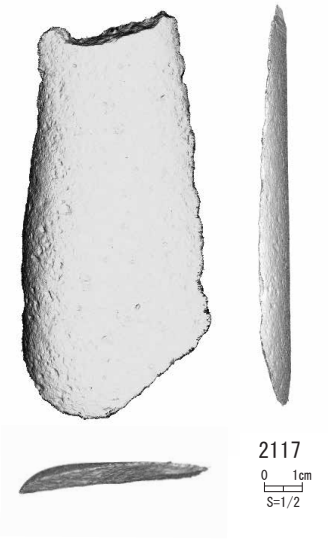
PJ003 号住居出土遺物











PJ003 号住居出土遺物

PJ003 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (06-010-2012)	部位	口径 / 縦 (cm)	器高 / 横 (cm)	底径 / 厚さ (cm)	重量 (g)	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
235	PJ-3 54	胴部				43.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	床面から 31 cm浮いて出土。繊維を多く含む。指頭圧痕が明瞭に残る。中越式
236	PJ-3	胴部				47.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。繊維を多く含む。指頭圧痕が明瞭に残る。内面はヨコナデ。中越式
237	PJ-3	口縁部				19.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。繊維を多く含み、多孔質の胎土。指頭圧痕が明瞭に残り、凹凸が大きい。中越式
238	IG-19	口縁部				10.0	破片	7.5YR4/6 7.5YR3/4	床面から 43 cm浮いて出土。繊維を多く含む。指頭圧痕が明瞭に残る。内面ヨコナデ
239	IG-17	口縁部				26.0	破片	10YR4/3 10YR4/2	床面から 40 cm浮いて出土。繊維を多く含む。指頭圧痕が明瞭に残る。内面ヨコナデ
240	PJ-3	口縁部				15.0	破片	5YR6/6 5YR4/3	埋土一括取り上げ。東に隣接する PJ4 号住居出土の 397 と同一個体。口縁部は折り返したようにわずかに肥厚。器壁は 5.5 mmと薄い。繊維を含まず、外面は平滑にミガキ。内面はヨコナデ条痕？　中越式か
241	PJ-3 131	胴部				15.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	PT237 上面、床面で出土。胎土に繊維を含まず、器面は平滑に調整される。器壁は薄い。木島式
242	PJ-3 25	口縁部				50.0	破片	7.5YR6/6 5YR6/6	床面から 20 cm浮いて出土。胎土に繊維を少量含む。沈線と櫛歯刺突文。内面はきれいなヨコナデ。有尾式
243	PJ-3 87	胴部				53.0	破片	5YR6/6 7.5YR4/3	床面から 30 cm浮いて出土。胎土に繊維を少量含む。外面は沈線と櫛歯刺突文。内面はきれいなヨコナデ。有尾式
244	PJ-3 114	胴部				63.0	破片	5YR4/4 2.5YR2/1	PT190 上面、床面から 8 cm浮いて出土。PJ3B 号住居に帰属すると思われる。胎土に繊維を少量含む。外面は櫛歯刺突文と縄文地文。内面はきれいなヨコナデ。有尾式。
245	PJ-3 91、PJ-3 86、PJ-3 133、PJ-3 130	胴部				326.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR4/4	住居南半分の、床面から 8 cmから 32 cm浮いた位置で出土。胎土に繊維を含まない。外面は羽状縄文。指頭圧痕が目立ち、内面は雑なヨコナデ。神ノ木式
246	PJ-3 12	底部			7.4	87.0	破片	5YR7/4 5YR5/6	床面から 31 cm浮いて出土。底面は中央部がややへこむ。外面縄文地文。神ノ木式
247	PJ-3 103	口縁部				21.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR5/4	住居南壁近く、床面から 17 cm浮いて出土。繊維を少量含む。指頭圧痕がやや目立つ。縄文地文。神ノ木式
248	PJ-3 127、PJ-3 67	胴部				118.0	破片	5YR5/6 10YR3/1	床面から16cm浮いて出土。羽状縄文。胎土に繊維を少量含む。内面ヨコナデ。神ノ木式
249	PJ-3 123、PJ-3 128	口縁部～胴部				93.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR4/3	北壁沿い、床面から5～13cm浮いて出土。胎土に繊維を含まない。羽状縄文。内面は雑なヨコナデ。神ノ木式
250	PJ-3 20、PJ-3 19	胴部				123.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/4	PT189 南側、床面から 10 ～ 20 cm浮いて出土。胎土に繊維を多く含む。内面は指頭圧痕が残り、ヨコナデ。神ノ木式
251	PJ-3 115	胴部				57.0	破片	5YR5/6 5YR3/2	PT237 東側、東壁沿い、床面から 8 cm浮いて出土。胎土に繊維を少量含む。羽状縄文。内面は雑なヨコナデ。神ノ木式
252	PJ-3 132、PJ-3 133	胴部～底部			(8.4)	126.0	破片	5YR5/6 5YR4/6	PJ3B 号住居炉西側、床面から 11 ～ 17 cm浮いて出土。胎土に繊維を多く含む。底面はややへこむ。神ノ木式
253	PJ-3 46、PJ-3 74、PJ-3 133	口縁部	(27.0)			113.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/3	PJ3B 号住居炉西側、床面から 7 ～ 20 cm浮いて出土。胎土に繊維を少量含む。接合痕が残り、内面は指頭圧痕が目立つヨコナデ。神ノ木式
254	PJ-3 75	口縁部				35.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	東壁沿い、床面から 17 cm浮いて出土。胎土に繊維を多く含み、器外面に大きな植物繊維痕が残る。内面は雑なヨコナデ。神ノ木式
255	PJ-3 45、PJ-3 15	胴部				410.0	1/5	5YR4/3 5YR5/8	PT189 南西、床面から 16 cm浮いて出土。胎土に繊維を多く含む。羽状縄文。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。神ノ木式
256	PJ-3 71	口縁部				32.0	破片	7.5YR4/3 5YR3/2	東壁沿い、床面から 8 cm浮いて出土。口唇部に縄文？を押捺した刻み。胎土に繊維を含む。内面はヨコナデ。神ノ木式
257	PJ-3 34	底部			9.6	114.0	破片	5YR6/6 5YR4/4	南壁近く、床面から 19 cm浮いて出土。胎土に繊維を少量含む。底面は大きくへこむ。神ノ木式
258	PJ-3	口縁部				52.0	破片	5YR5/4 5YR4/4	埋土一括取り上げ。口縁がちいさくすぼむ壺形で、外面にボタン状貼付文。諸磯式
259	PJ-3 101	口縁部				30.0	破片	5YR3/3 5YR4/4	PT237 上面、床面から 28 cm浮いて出土。内面ミガキ顕著。口唇部に大きな刻み。外面は半截竹管押引きの木の葉文。諸磯式
260	PJ-3 118、PJ-3 31	口縁部～胴部				123.0	破片	7.5YR4/6 5YR4/6	ＰＴ 190 北、床面から 8 ～ 40 cm浮いて出土。口縁部に浮線文。穿孔あり。諸磯式
261	PJ-3 118	口縁部				49.0	破片	7.5YR5/6 7.5YR5/6	260 と同位置で出土。諸磯式
262	PJ-3 89	胴部				81.0	破片	5YR5/6 7.5YR4/4	東壁沿い、床面から 32 cm浮いて出土。諸磯式
263	PJ-3 51	口縁部				33.0	破片	5YR4/4 5YR4/3	PT186 南側 80 cm、床面から 34 cm浮いて出土。口縁部と外面に浮線文。諸磯式
264	PJ-3 106	口縁部				36.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	PT237 東、東壁沿いの床面から 28 cm浮いて出土。器面は風化し、かろうじて沈線文が確認される。諸磯式
266	PJ-3 105	胴部				30.0	破片	5YR3/2 7.5YR3/3	東壁沿い、床面から 8 cm浮いて出土。屈曲部に刻み。木の葉文。諸磯式
267	PJ-3 81	胴部				48.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	PJ3A 号住居炉出土。胎土に繊維を含まない。細い沈線の格子目文。その下に長く引きずったような押引き文と波状押引き文。中越式併行期か
269	PJ-3 13	口縁部				62.0	破片	2.5YR4/4 2.5YR4/6	南壁沿い、床面から 20 cm浮いて出土。中越式

PJ003 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(cm)	現存幅(cm)	現存厚(cm)	重量(g)	観察所見
2117	PJ-3　69	剥離のある剥片	安山岩類	1/1	51.0	109.0	6.0	43.20	床面から 25 cm浮いて出土。安山岩製台石の破片を利用した石器。縁辺部に刃こぼれ
2118	PJ-3　9	原石	黒曜石	1/1				47.20	床面から 25 cm浮いて出土。白色鉱物粒子が多く混じり、すりガラス状礫面の原石
2119	PJ-3　8	原石	黒曜石	1/1				46.70	床面から 33 cm浮いて出土。暗茶色斑が多い黒曜石。角礫ズリ。一発コア
2120	PJ-3	原石	黒曜石	1/1				10.50	埋土一括取り上げ。漆黒黒曜石。角礫ズリ
2121	PJ-3	削器	安山岩類	1/2	47.0	35.0	11.0	21.10	埋土一括取り上げ。珪質度が低い黒色緻密安山岩。
2122	PJ-3　119	削器	珪質頁岩	3/4	39.0	40.0	10.0	14.30	東壁沿い、床面から 4 cm浮いて出土。珪質度が高く、青灰色の珪質頁岩。
2123	PJ-3	削器	石英岩	1/2	23.0	31.0	10.0	7.70	埋土一括取り上げ。縁辺に微小な剥離
2124	PJ-3	石鏃	珪質頁岩	3/4	−	26.9	5.4	2.39	埋土一括取り上げ。先端欠損。青灰色の珪質頁岩
2125	PJ-3	石鏃	黒曜石	1/1	20.0	21.0	6.0	2.30	埋土一括取り上げ。両極打法による石鏃素材。
2126	PJ-3	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.50	埋土一括取り上げ。
2127	PJ-3	石鏃	黒曜石	1/2	−	17.2	3.9	(0.99)	埋土一括取り上げ。先端部欠損。
2128	PJ-3　11	石鏃	黒曜石	1/1	27.4	10.8	4.2	1.03	南東角壁沿い、床面から 30 cm浮いて出土。小さな槍先状の有茎石鏃。
2129	PJ-3	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.00	埋土一括取り上げ。縁辺部に微小な刃こぼれ
2130	PJ-3	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.90	埋土一括取り上げ。縁辺部に微小な刃こぼれ。反対側縁辺は両極石器のような打撃痕
2131	PJ-3　56	石錐	珪質頁岩	3/4	30.0	26.0	6.0	3.90	PT192 西、床面から 8 cm浮いて出土。青灰色の珪質頁岩。先端部欠損
2132	PJ-3	石鏃	黒曜石	1/6	−	−	2.2	(0.20)	埋土一括取り上げ。脚部破片か。
2133	PJ-3	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	3.5	(0.31)	埋土一括取り上げ。縦割れした破片
2134	PJ-3C	石鏃	黒曜石	1/1	21.0	16.0	4.8	1.55	埋土一括取り上げ。石鏃未成品。周囲から押圧剥離。片面調整のみ
2135	PJ-3	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.70	埋土一括取り上げ。石鏃未成品か？
2136	PJ-3　41	石鏃	黒曜石	3/4	22.4	−	3.6	(0.68)	南壁沿い、床面から 9 cm浮いて出土。片脚欠損。透明な黒曜石
2137	PJ-3C	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	2.4	(0.37)	埋土一括取り上げ。先端部破片。ブルーブラック黒曜石
2138	PJ-3A	石鏃	黒曜石	3/4	(16.2)	−	1.7	(0.21)	埋土一括取り上げ。両脚部欠損。
2139	PJ-3　36	石鏃	石英岩	3/4	15.1	(12.4)	3.1	(0.48)	東壁沿い、床面から 5 cm浮いて出土。脚部欠損？
2140	PJ-3　17	石鏃	黒曜石	1/2	−	14.1	2.5	(0.27)	南壁沿い、床面から 27 cm浮いて出土。脚部破片。
2141	PJ-3　55	石鏃	黒曜石	3/4	18.7	(13.6)	3.6	(0.72)	PT187 上、床面から 35 cm浮いて出土。未成品か
2142	PJ-3　22	石鏃	黒曜石	1/1	21.6	15.5	3.0	0.45	調査区端、床面から 31 cm浮いて出土。透明な黒曜石
2143	PJ-3　40	石鏃	黒曜石	1/1	16.1	14.2	3.5	0.51	東壁沿い、床面から 4 cm浮いて出土。漆黒の黒曜石
2144	PJ-3C	石鏃	黒曜石	1/4				(0.11)	埋土一括取り上げ。先端部破片
4404	PT-192	石錐	黒曜石	1/1	33.0	19.0	10.0	3.50	南壁近く、PT192 で出土。礫面が残る漆黒の黒曜石砕片を素材とする。先端の使用痕は不明瞭。
4405	PT-195	石鏃	黒曜石	1/1	20.3	16.4	4.3	0.97	南壁近く、PT195 で出土。透明感のある黒曜石素材。縁辺の調整剥離はやや粗い。
4406	PT-195	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	2.5	(0.32)	南壁近く、PT195 で出土。透明感のある黒曜石素材。先端と片脚部欠損。
6991	IG-18	原石	黒曜石	1/1				7.50	埋土一括取り上げ。風化した礫面
6992	IG-17	石鏃	黒曜石	3/4	15.3	16.0	2.8	0.63	埋土一括取り上げ。未成品。両側縁に磨耗・つぶれあり。磨り作業痕跡か。

PJ003 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(cm)	現存幅(cm)	現存厚(cm)	重量(g)	観察所見
6993	IG-17	原石	黒曜石	1/1				3.60	埋土一括取り上げ。表面が白色すりガラス状に変質。被熱痕か
6994	IG-17	原石	黒曜石	1/1				6.80	埋土一括取り上げ。板状原石。風化した礫面
6995	IG-13	両極石器	黒曜石	1/1	14.0	9.0	4.0	0.50	埋土一括取り上げ。小さな両極石器
8142	PJ-3	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.60	埋土一括取り上げ。側縁に刃こぼれ
10169	PJ-3　18	磨石類	安山岩類	1/1	111.0	76.0	64.0	733	PT189 南、床面から 18 cm浮いて出土。磨石作業面 2 面、1 面は縦断平坦・横断は側縁緩やかに凸湾し平坦面があるが幅が狭い。他面は縦断・横断ともに平坦面が広い。両側面に平坦面、1 面は敲きによる平坦面で稜磨石的。
10170	PJ-3	磨石類	安山岩類	3/4	(111.0)	78.0	35.0	344	埋土一括取り上げ。磨石作業面は 2 面。2 面が平滑に磨耗し、敲打による凹みあり。
10171	PJ-3　129	板状礫	安山岩類	1/1	(198.0)	(225.0)	(27.0)	1,421	PT189 西側、床面から 19 cm浮いて出土した板状節理の安山岩。いわゆる鉄平石。前期の住居では珍しいか。一部黒色変色、被熱。
10172	PJ-3	台石	安山岩類	3/4	(382.0)	(291.0)	83.0	12,300	多孔質、鉱物結晶は粗粒。偏平円礫素材。側縁部に割れ面。皿部は成形せず原礫面を使用したもの。円礫長軸のほぼ半分を使用し側縁部際まで磨耗痕が続く。磨耗の程度は側縁部際の方が激しい点が特徴。皿部のへこみは使用のない端部を結んだ線から 1.5 ～ 1mm 程度窪んでいる。
10173	PJ-3　4	ハンマー	砂岩類	1/2	(89.0)	43.0	31.0	210	PT186 南、床面から 36 cm浮いて出土。緻密、硬質の棒状砂岩類。長軸端部稜上に狭い敲き面。幅広面が平滑に磨耗
10174	PJ-3　92	磨石類	安山岩類	1/4				139	PT190 南、床面から 20 cm浮いて出土。片面が特に平滑に磨耗
10175	PJ-3　90	磨石類	安山岩類	1/4				262	東壁近く、床面から 28 cm浮いて出土。わずかに磨耗面が認められる。丸石断片の可能性あり。

写真 1　調査着手前の状況

PJ004 号住居・PJ005 号住居

位　　置：E-4 グリッドに位置する。PJ004 号住居と PJ005 号住居が重複する。後述のとおり、PJ005 号住居がもっとも旧く、PJ004 号住居は新旧の二段階が想定される。28 号土坑、29 号土坑、54 号土坑、63 号土坑、76 号土坑、78 号土坑に切られる。PJ005 号住居南西角と遺構外で平安時代の土師器がまとまって出土しており、削平された平安時代住居が存在したと思われる。

規　　模：PJ004 号住居は、2 軒が主軸方向を違えて重複する。主軸が南北方向に沿う遺構を PJ004 号 A とし、主軸が西に傾くものを PJ004 号 B とする。

PJ004A は、平面形がもっとも拡大した段階で、南北長 5.1m、東西長 3.5m、竪穴の深さは 0.3m である。PJ004 号 B 住居よりもやや床面が高く、SD001 号焼土は、本住居の炉跡とみられる。

PJ004B は、平面形がもっとも拡大した段階で、南北長 5.4m、東西長 4.1m、竪穴の深さは 0.3m である。

PJ005 は、平面形がもっとも拡大した段階で、南北長 4.6m、東西長 5.5m、竪穴の深さは 0.24m である。

埋　　土：黒褐色から暗褐色の砂質土壌が堆積し、局所的に黄褐色砂質土のブロックが混じっている。調査段階で埋土断面から住居の重複関係を読み取ることはできなかった。3 軒の住居が重複する竪穴全体の北側は層理が不明瞭な黒褐色土が堆積し、南側では黄褐色砂質土ブロックが多い傾向が認められた。

床　　面：黄褐色砂質土の地山をそのまま床面としている。床面は自然の地山よりも固くしまっていた。

**炉　　**：遺構確認面の埋土上で検出された SD001 号焼土は、本住居より新しい所産と思われる。PT91 北脇の床面に小さな焼土を検出した。これが PJ004 号 A 住居の炉とみられる。

54 号土坑のすぐ南側でも小さな焼土を検出した。これは PJ004 号 B 住居の地床炉の可能性があるが、住居中央からやや東側にずれる。PJ005 号住居では炉跡は検出されなかった。

周　　溝：重複する 3 軒の住居それぞれに複数の周溝を検出した。周溝に堆積した暗褐色の埋土は、すべて同じように見え、周溝どおしの切り合い関係は確認できなかった。周溝の本数から、PJ004 号 A 住居で 2 ないし 3 段階の居住期、PJ004 号 B 住居で 4 段階の居住期が想定される。また PJ005 号住居では 2 段階の居住期が想定される。

柱　　穴：多数のピットが検出された。PT77 号ピットのように平安時代の土師器が出土したピットもあり、すべてが本住居に付属する遺構ではないことが分かるが、現地調査では、埋土観察から住居に付属するピットとそれ以外のピットを分別できなかった。

位置と深さ、形状から 3 軒の住居の主柱穴を想定すると以下のとおりとなる。

PJ004 号 A 住居は、PT67、PT90、PT145 号ピットの 3 基と 54 号土坑に切られるピットが主柱穴と思われる。これらは深さが 41 ㎝から 61 ㎝と深い。54 号土坑に切られたピットは土坑底面で存在が確認されたが遺構番号を付していない。

PJ004 号 B 住居は、PT68、PT89、PT116、PT139 号ピットの 4 基を想定した。深さは 60 ㎝から 62 ㎝で、大きさも類似している。

PJ005 号住居は、PT78、PT147、PT151、PT156 号ピットの 4 基を想定した。深さは 29 ㎝から 44 ㎝とやや浅い。周溝から想定される PJ005 号住居東壁側の建て替え、拡張は大きく、それに伴い柱穴も掘り直しが考えられる。PT151 の脇にある PT150 などは旧柱穴かもしれない。しかし、PT156 付近ではそれらしいピットが検出されなかった。調査時に見落とした可能性も考えられる。

出土遺物：小さな土器破片が多量に出土している。これらの土器破片は、調査時点で重複する住居を分離しきれなかったため、遺構外番号を付して光波測量して取り上げた。出土遺物の出土位置をみると、PJ004 号 A 住居範囲で濃密であり、PJ005 号住居では疎らであった。こうしたことから先述のとおり PJ004 号 A 住居がもっとも新しく、PJ004 号 B 住居、PJ005 号住居の順で旧くなると判断した。

土器破片は、中越式と神ノ木式が主体で、これに木島式、関山式、有尾式、諸磯式などが混じる。3 軒の住居ごとに細分型式差があると期待されたが、差は認められなかった。

板状の焼成粘土塊か、と思われる遺物が出土している。くすんだ黄褐色で繊維を含まず、大きめの長石が多く混じる。

出土した土器の総量は、3軒の住居の合算で20,464gである。中越式と神ノ木式で半分以上を占める。次いで有尾式1,064g、諸磯式1,132gが多く、ほかの木島式、関山式は少量である。3軒の住居ごとで顕著な土器型式の数量差は認められなかった。土器破片の型式分別に際しては、神ノ木式と有尾式の区別に困難を感じ、多分に担当者の主観的な区分となったことを記しておく。

出土した石器の一部は3軒ごとに分別できたが、埋土一括で取り上げたものは分別できなかった。3軒の住居全体で出土した定形的な石器の内訳は、石鏃41点、石錐1点、両極石器1点、石匙5点、削器2点、磨石類5点、石皿破片1点、台石1点、剥離のある剥片3点、黒曜石原石3点、円礫1点である。このほか黒曜石を主とする剥片・砕片類が3,357点、2,680gが出土した。

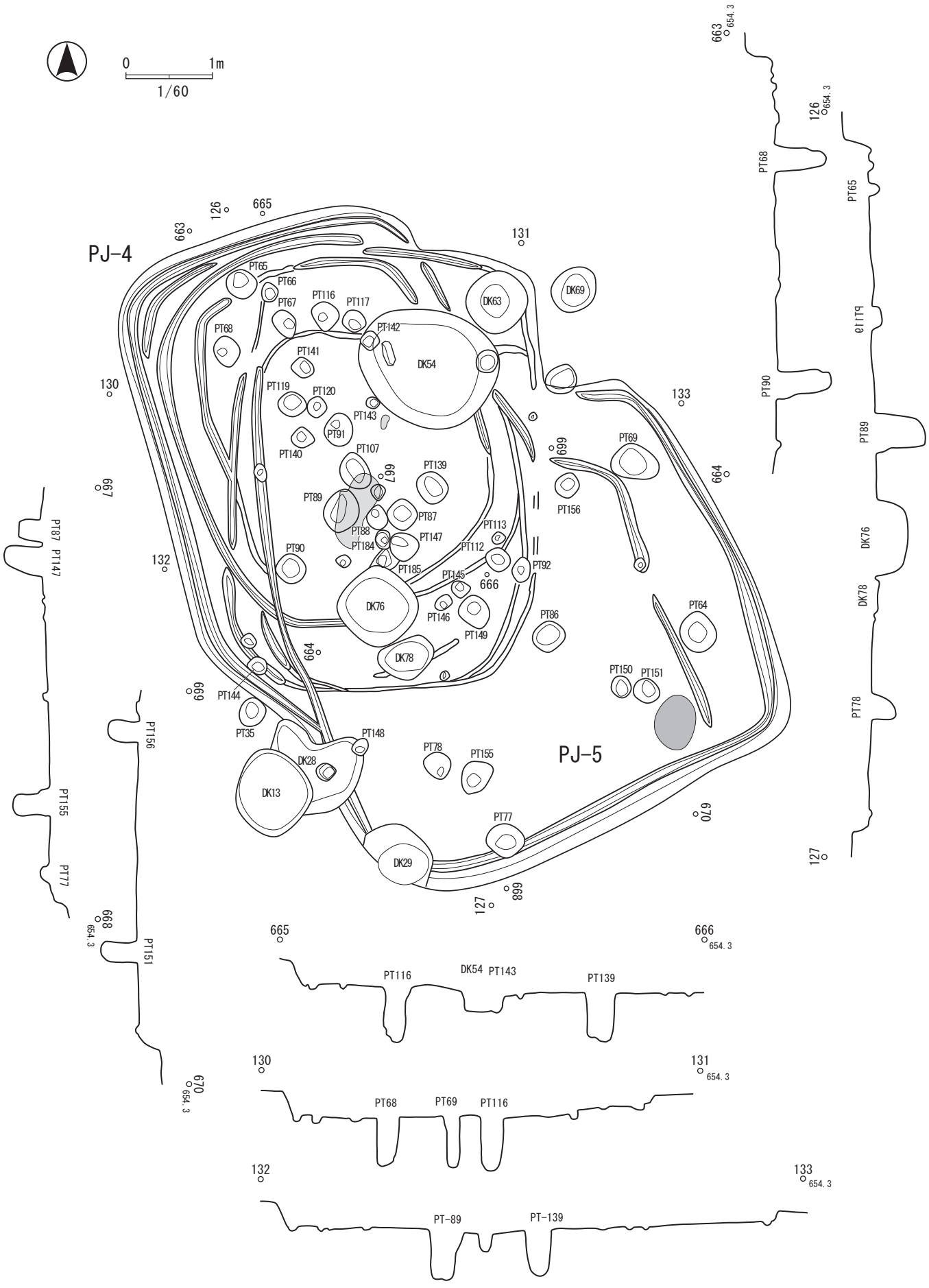
時　　期：土器の細分型式をみる限り3軒の住居に時期差は認められなかった。埋土出土の破片資料ばかりであるが、中越Ⅳ式と神ノ木式土器が主体となることから、3軒の住居ともに当該時期に位置付けられると思われる。

PJ004号・PJ005号住居　土坑ピット一覧表

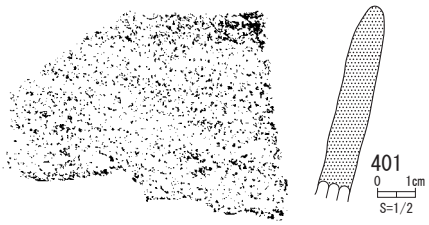
遺構番号	位置	径(cm)	深さ(cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-064	5住内	37*37	40	10YR2/3(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、10YR5/6(黄褐)と焼土と炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式、神ノ木式、諸磯式土器破片
PT-065	4住内	30*28	33	10YR2/3(黒褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。	中越式土器破片
PT-066	4住内	18*19	59	10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が1%以下混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器破片
PT-067	4住内	20*17	59	10YR2/3(黒褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が3%、焼土と炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ004号A住居柱穴
PT-068	4住内	33*27	61	10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が3%炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ004号B住居柱穴、中越式？土器小片
PT-069	5住内	47*37	12	10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。	木島式か中越式土器破片
PT-077	5住内	41*40	24	10YR2/3(黒褐)に焼土が40%、10YR3/4(暗褐)と炭化物が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	平安土師器出土
PT-078	5住内	27*24	29	10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ005号住居柱穴
PT-086	5住内	36*28	5	10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が5%、10YR3/4(暗褐)が3%混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-087	4住内	32*32	28	10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。	中越式か？土器破片
PT-088	4住内	22*17	30	10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-089	4住内	48*36	60	10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ004号B住居柱穴、中越式土器破片
PT-090	4住内	33*32	61	10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ004号A住居柱穴
PT-091	4住内	32*25	62	10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-092	5住内	25*21	30	10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が1%混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-107	4住内	43*33		10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-112	5住内	25*23	7	10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-113	5住内	14*11	8	10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。	

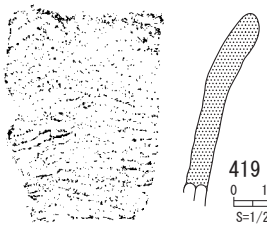
PJ004 号・PJ005 号住居　土坑ピット一覧表

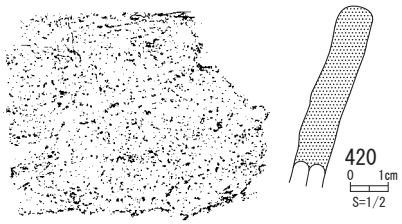
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-116	4 住内	25*25	62	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ004 号 B 住居柱穴
PT-117	4 住内	22*17	23	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 20%、花崗岩小礫が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-119	4 住内	31*29	10	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-120	4 住内	20*19	21	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 30%、10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-139	4 住内	34*32	60	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 30%、10YR5/6（黄褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ004 号 B 住居柱穴
PT-140	4 住内	21*18	29	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-141	4 住内	21*21	43	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-142	4 住内	18*18	8	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。しまる。	DK-54 底面で検出された。
PT-143	4 住内	43*-	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 2%、花崗岩小礫と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-144	5 住内	19*18	21	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-145	5 住内	23*19	41	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ004 号 A 住居柱穴
PT-147	4 住内	39*32	44	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、110YR5/6（黄褐）が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ005 号住居柱穴
PT-148	5 住内	17*17	14	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-149	5 住内	39*31	32	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-151	5 住内	25*24	40	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 2% 混じる。	PJ005 号住居柱穴
PT-155	5 住内	31*39	13	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-156	5 住内	24*26	36	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 炭化物が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ005 号住居柱穴
PT-184	4 住内	22*20	47	10YR3/4（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 5%、10YR4/4（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT-87、88、147、185 に切られる。
PT-185	4 住内	20*20	37	10YR3/4（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT-184 を切る。

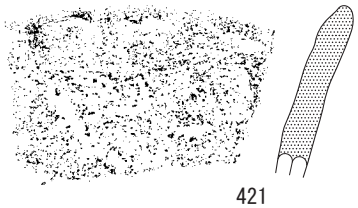


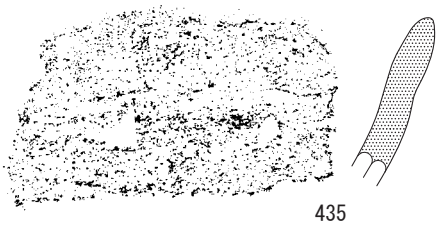
PJ004 号・PJ005 号住居


401
0 1cm
S=1/2

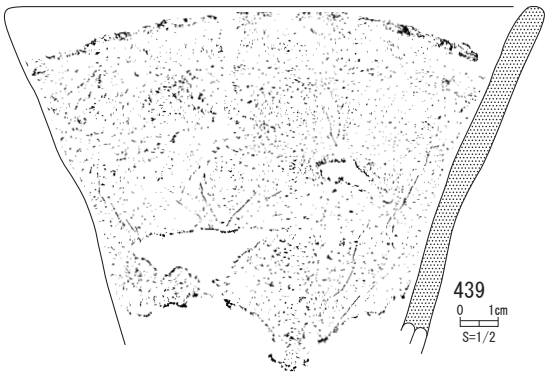

419
0 1cm
S=1/2

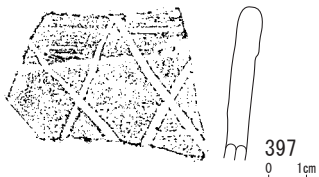

420
0 1cm
S=1/2

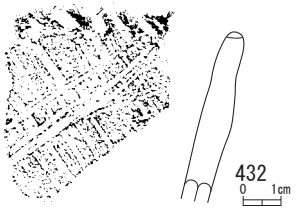

421
0 1cm
S=1/2

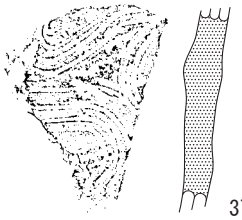

435
0 1cm
S=1/2

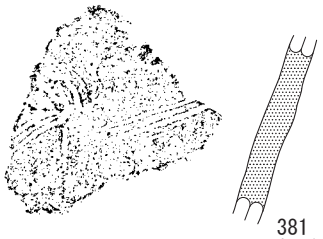
438
0 1cm
S=1/2

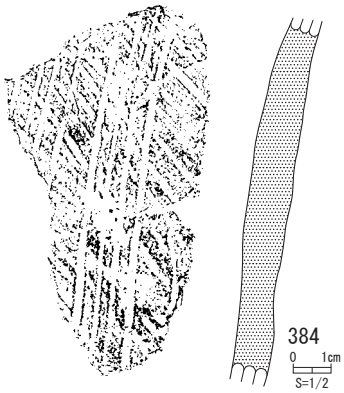

439
0 1cm
S=1/2


397
0 1cm
S=1/2

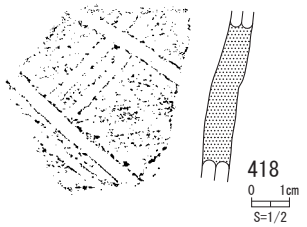

432
0 1cm
S=1/2


376
0 1cm
S=1/2

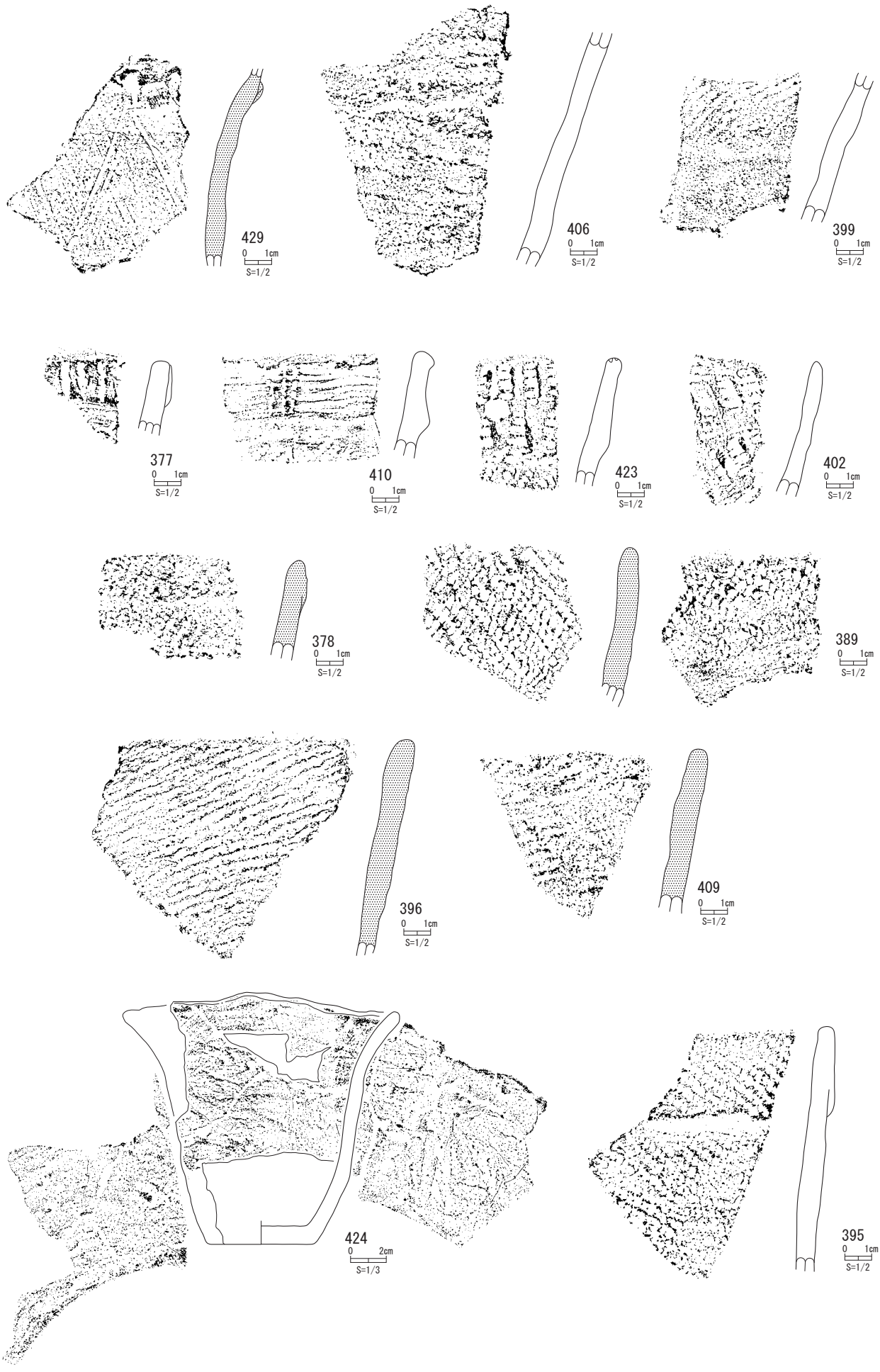

381
0 1cm
S=1/2


384
0 1cm
S=1/2

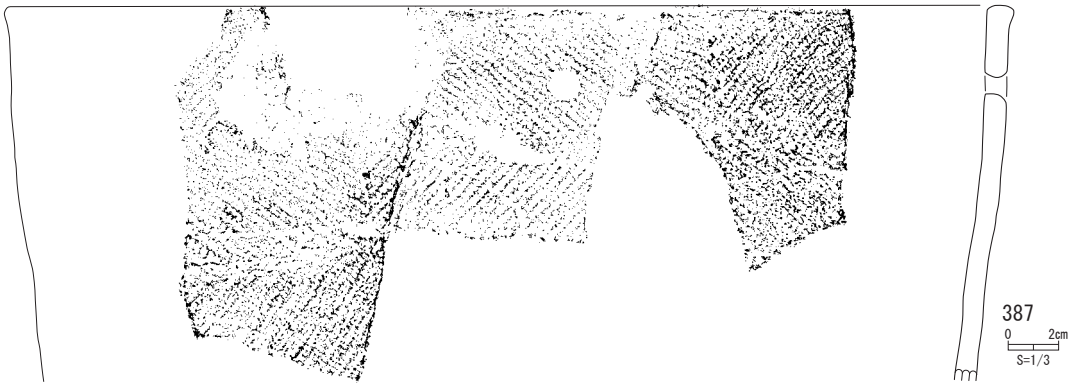
398
0 1cm
S=1/2

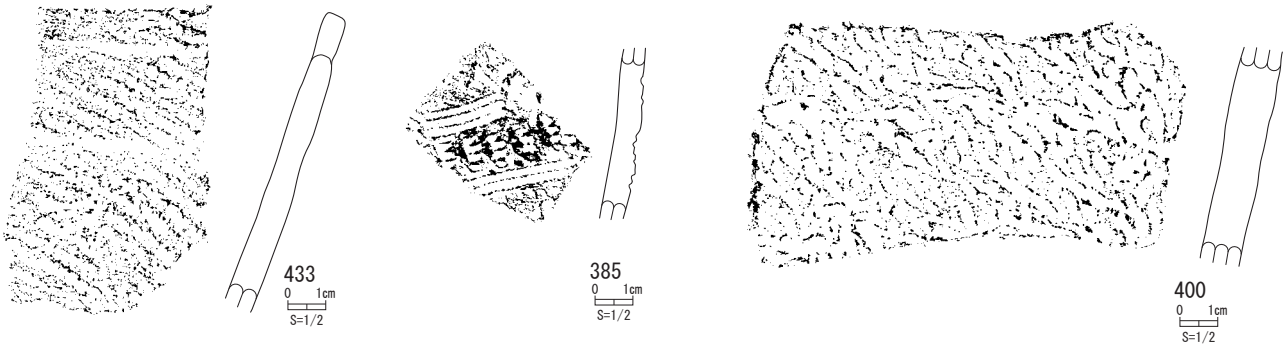

418
0 1cm
S=1/2

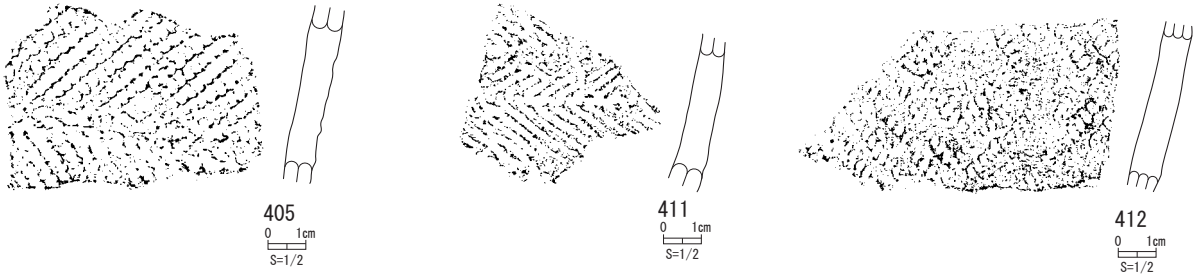
PJ004 号・PJ005 号住居出土遺物



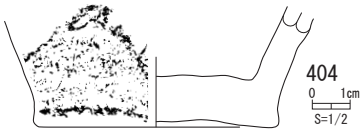
PJ004 号・PJ005 号住居出土遺物

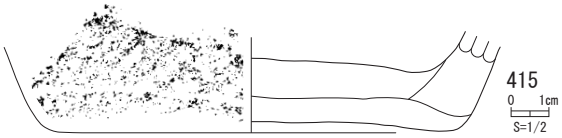


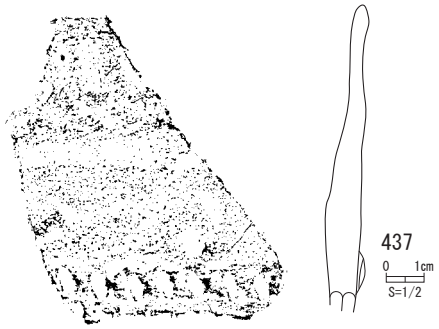


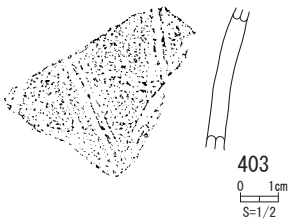


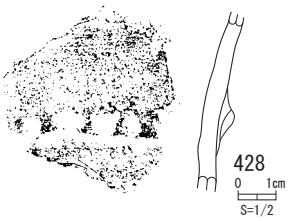
PJ004 号・PJ005 号住居出土遺物

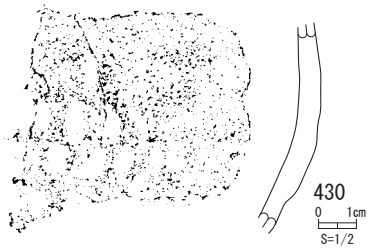


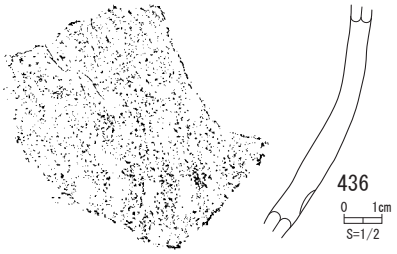


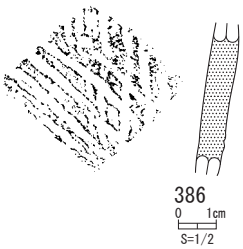


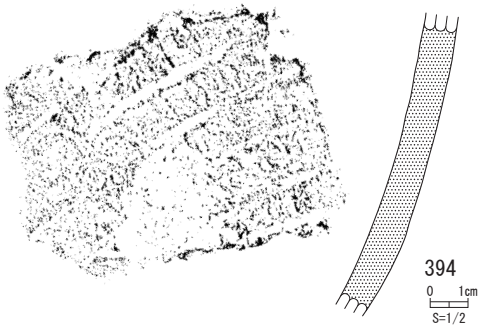


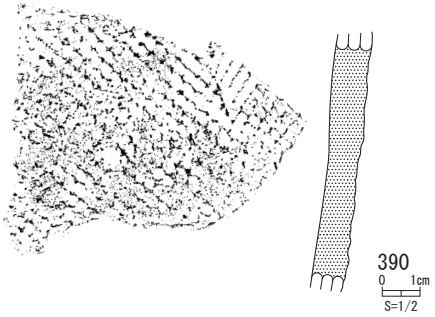






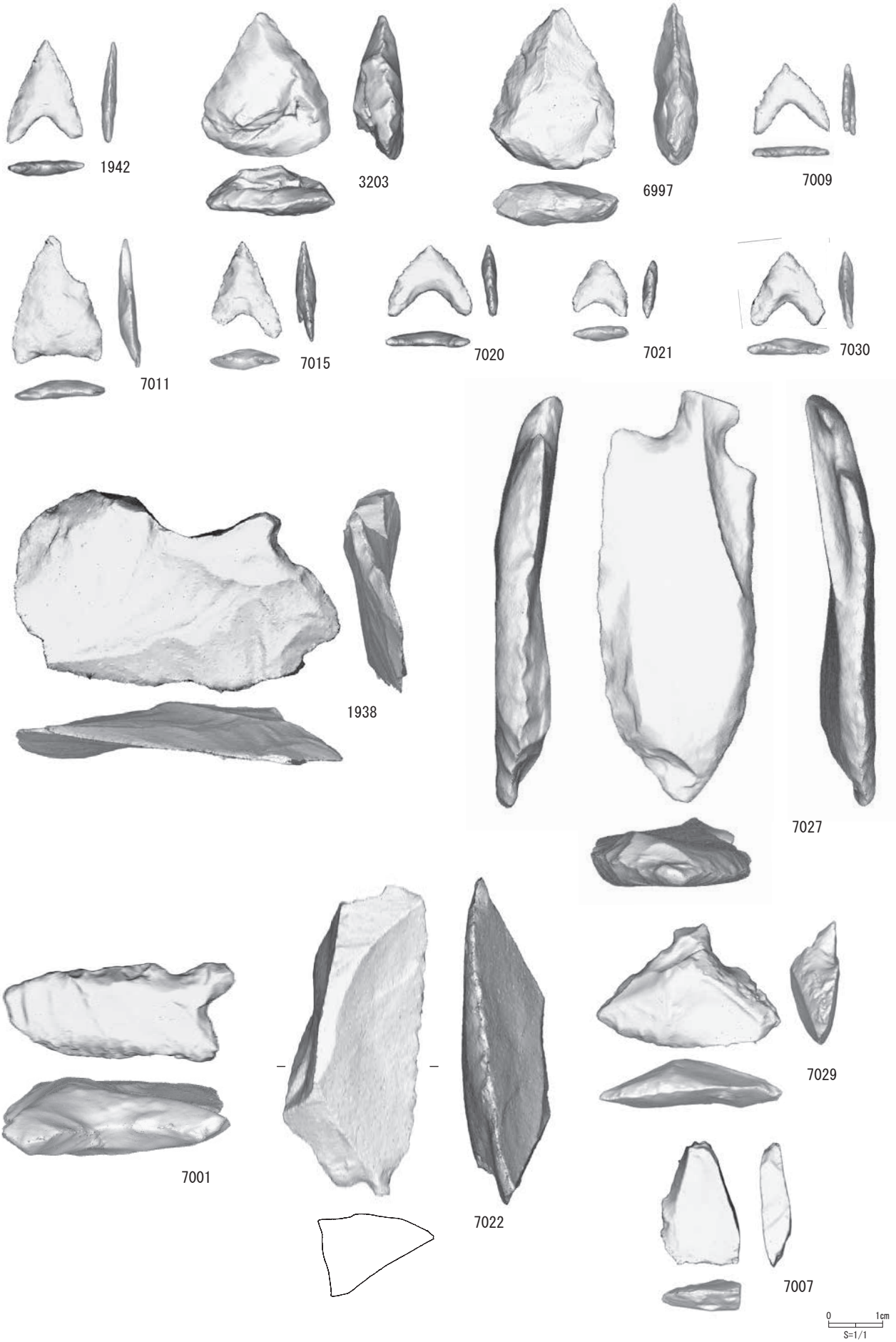




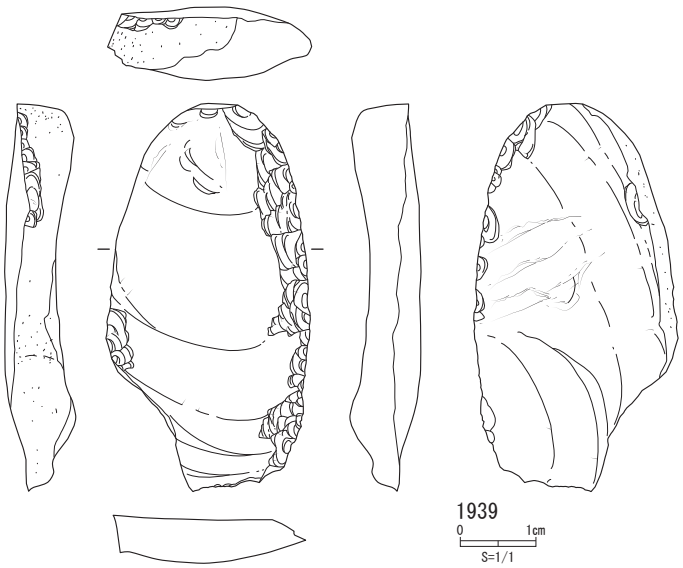


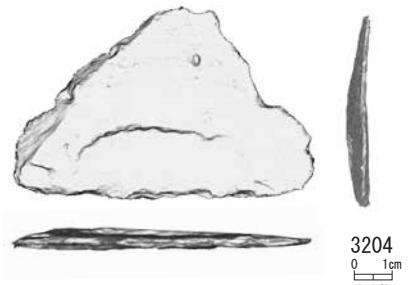
PJ004 号・PJ005 号住居出土遺物

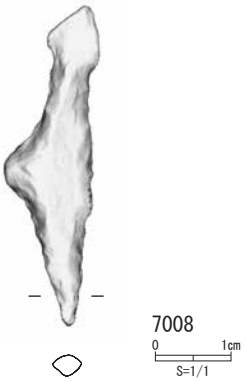
PJ004 号・PJ005 号住居出土遺物

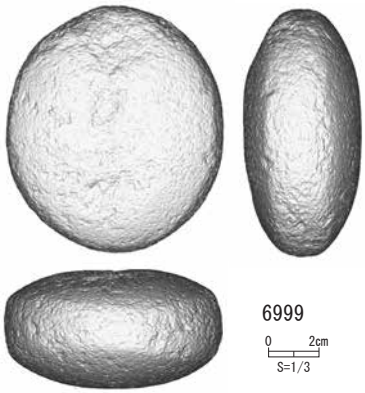


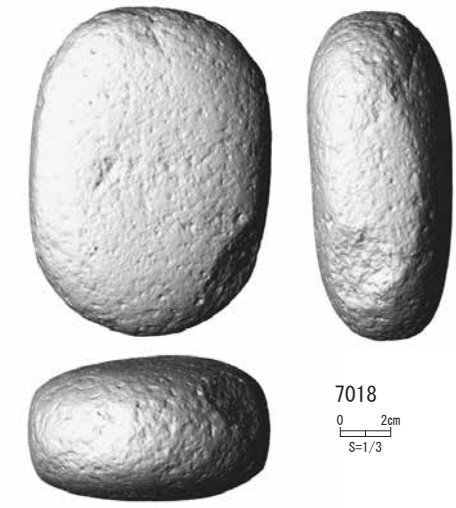
PJ004 号・PJ005 号住居出土遺物

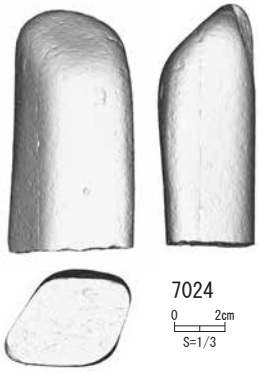


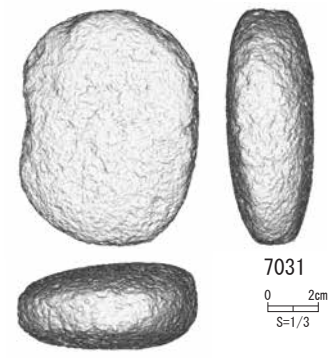


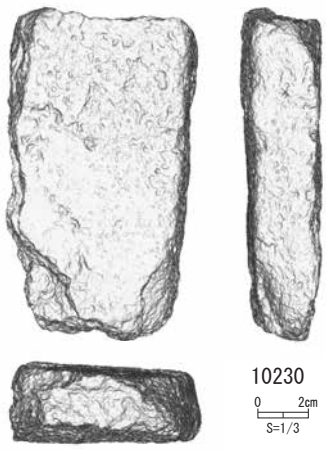












PJ004 号・PJ005 号住居出土遺物

PJ004 号・PJ005 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (06-010-2012)	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
376	IG-752	胴部	−	−	−	15.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	PJ004A 住東壁沿い、埋土下層で出土。波状の櫛描文。胎土に繊維を含む。内面はやや丁寧なヨコナデ。中越Ⅳ式併行
377	IG-118	口縁部	−	−	−	7.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR5/3	PJ005 住北東角、埋土上層出土。386 とほぼ同位置で出土。肥厚した口縁部に櫛歯文、胴部は縄文地文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
378	IG-1485	口縁部	−	−	−	20.0	破片	2.5YR4/4 5YR4/4	PJ004A 住東壁沿い、埋土上層で出土。口縁部は肥厚し段差が明瞭。縄文地文。胎土に繊維を含む。内面は丁寧なヨコナデ。神ノ木式併行
381	IG-1470	胴部	−	−	−	19.0	破片	5YR6/6 7.5YR5/4	PJ004A 住西壁沿い、埋土下層で出土。櫛描波状文。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
383	IG-1441	口縁部	−	−	−	36.0	破片	5YR6/6 7.5YR6/4	DK54 号土坑西壁の脇、PJ004A 住埋土下層で出土。口縁部は半截竹管の連続刺突。縄文地文。胎土に繊維を少量含む。有尾式
384	IG-1448	胴部	−	−	−	61.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR7/6	PJ004A 住西壁沿い、埋土上層で出土。格子目条線。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
385	IG-667	胴部	−	−	−	13.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR5/4	PJ004A 住遺構確認面で出土。櫛歯刺突文と条線。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
386	IG-118	胴部	−	−	−	34.0	破片	10YR7/4 10YR7/4	PJ005 住北東角、埋土上層出土。377 とほぼ同位置で出土。撚糸側面圧痕？が格子目状に施文される。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含む。花積下層式か
387	PJ-4 、IG-301、IG-302、IG-470、IG-779、IG-1406	口縁部～胴部	(40.0)	−	−	535.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	PJ004A 住埋土上層出土。羽状縄文。補修孔あり。胎土に繊維を含まない。内面は平滑にナデ調整。指頭圧痕が残る。神ノ木式
388	PJ-4 、IG-1483	口縁部	−	−	−	50.0	破片	5YR6/6 5YR4/3	PJ004A 住埋土上層で出土。口縁部に突起。肥厚する口縁部には明瞭な段差。縄文地文。口縁部は櫛歯状刺突が縦沈線に置換されている。胎土に繊維を含まない。DK76 号土坑埋土で同一個体出土。神ノ木式。縦沈線を爪形文とみれば堂之上 Z 式
389	IG-1181	口縁部	−	−	−	34.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR5/4	PJ004A 住居遺構確認面で出土。口縁部内外面に縄文。胎土に繊維を含む。神ノ木式
390	IG-1679	胴部	−	−	−	47.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	PJ005 住南壁沿い、埋土上層出土。羽状縄文。内面は平滑にヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。関山式
391	IG-1029	胴部	−	−	−	38.0	破片	5YR5/4 5YR3/2	PJ004B 住埋土上層出土。櫛歯状工具による菱形文。内面平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式
392	IG-1031	口縁部	−	−	−	17.0	破片	10YR6/4 5YR4/2	PJ004A 住埋土上層で出土。口縁部に半截竹管による平行沈線と爪形刻み隆帯がめぐる。胎土に繊維を含む。口唇部は平坦。内面は丁寧なミガキ調整。有尾式併行期か
393	IG-298	口縁部	−	−	−	65.0	破片	5YR4/4 5YR5/6	PJ004A 住遺構確認面で出土。口縁部に平行沈線を連点状刺突文。内面ヨコナデ調整。有尾式
394	IG-1180	胴部	−	−	−	61.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR6/6	PJ004A 住埋土上層出土。縄を格子目状に押捺施文。内面平滑にミガキ調整。胎土に繊維を少量含む。二ツ木式か大木 2a 式か
395	IG-1088	口縁部～胴部	−	−	−	76.0	破片	7.5YR6/6 5YR3/3	PJ004B 住北壁沿い、埋土上層出土。肥厚する口縁。縄文地文。内面平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
396	IG-1423	口縁部	−	−	−	183.0	破片	2.5YR3/1 2.5YR4/6	PJ004A 埋土上層出土。縄文地文。胎土に繊維を含む。内面ヨコナデ調整で指頭圧痕も残る。神ノ木式
397	IG-1403	口縁部	−	−	−	51.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	PJ004A 住埋土上層で出土。PJ003 住 240 と同一個体。肥厚する口縁、格子目状文。器壁は薄く、内面は丁寧なナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅱ式
398	IG-1419	胴部	−	−	−	89.0	破片	10YR8/4 7.5YR6/4	PJ004A 住埋土上層出土。同一個体破片が PJ005 住埋土上層でも出土。内外面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を多量に含む。中越Ⅲ式かⅣ式
399	IG-1687	胴部	−	−	−	25.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/4	PJ005 住、PT148 東側の埋土下層で出土。まばらな縄文地文。胎土に繊維を含まない。内面は指頭圧痕が残る。中越Ⅳ式併行か
400	IG-1055	胴部	−	−	−	139.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	PJ005 住、PT148 東側の埋土下層で出土。399 とほぼ同位置。縄文地文で原体末端が結節状に押捺される。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。PJ040 住で同一個体破片出土。神ノ木式
401	IG-1478	口縁部	−	−	−	41.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	PJ004A 住床面出土。胎土に繊維を多量に含む。中越Ⅳ式
402	IG-1467	口縁部	−	−	−	12.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	PJ004A 住床面出土。櫛歯状文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
403	IG-504	胴部	−	−	−	11.0	破片	7.5YR6/4 10YR5/3	PJ005 住埋土上層出土。格子目文。器壁は中厚手。指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。木島式もしくは中越式
404	IG-499	胴部～底部	−	−	(6.2)	36.0	破片	5YR5/4 5YR5/6	PJ004A 住東壁沿いの遺構確認面で出土。底部木葉痕。胎土に繊維を含まない。神ノ木式か。
405	IG-1411	胴部	−	−	−	32.0	破片	5YR3/1 5YR5/4	PJ004A 住埋土上層出土。羽状縄文。内面は平滑なナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
406	IG-1468、IG-1480	胴部	−	−	−	71.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/2	PJ004A 住東壁沿いの埋土下層で出土。横位のナデ痕が顕著。胎土に繊維を含まない。中越Ⅳ式か
409	IG-1671	口縁部	−	−	−	30.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR3/4	PJ004A 住埋土上層出土。縄文地文。神ノ木式か
410	IG-493	口縁部	−	−	−	34.0	破片	5YR4/3 2.5YR5/6	PJ004A 住埋土上層出土。肥厚する口縁に条痕文と櫛歯状刺突文。口唇部は折り返し気味で平坦に調整。縄文地文。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
411	IG-1471	胴部	−	−	−	17.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR3/1	PJ004A 住埋土上層出土。羽状縄文。器壁は薄く内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式

PJ004 号・PJ005 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (06-010-2012)	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
412	IG-992	胴部	−	−	−	37.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	PJ004A 住埋土上層出土。菱形状に縄文を押捺施文。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
413	IG-995	胴部	−	−	−	65.0	破片	5YR5/6 7.5YR3/1	PJ004A 住埋土下層出土。縄文地文。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含む。有尾式か
414	IG-1101	—	−	−	2.2	6.0	破片	7.5YR3/3	PJ004A 住埋土下層出土。土偶の脚部か耳栓のようにみえる土製品。胎土に繊維を含まない。
415	IG-1062、IG-1077	胴部～底部	−	−	(11.0)	168.0	破片	5YR6/6 5YR5/6	PJ004A 住埋土上層出土。底部破片。縄文地文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
416	IG-759	口縁部	−	−	−	56.0	破片	5YR6/6 7.5YR6/6	PJ004A 住埋土上層で出土。同一個体が PJ004B 住埋土上層で出土。櫛歯状工具による連点文で菱形文を描出。口縁部は肥厚しないが、わずかな段差が微隆起線状に残る。内面ミガキ顕著。胎土に繊維を含む。417 と同一個体。神ノ木式もしくは有尾式
417	IG-306、IG-1033、	口縁部	−	−	−	164.0	破片	7.5YR/6 5YR4/3	PJ004 B住埋土上層で出土。416 と同一個体。
418	PJ-4	胴部	−	−	−	22.0	破片	5YR5/6 7.5YR3/1	PJ004 住埋土出土。4A 住か 4B 住か不明。格子目文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式
419	IG-1444	口縁部	−	−	−	20.0	破片	7.5YR6/6 10YR5/3	PJ004A 住埋土上層出土。縄文地文。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
420	IG-989	口縁部	−	−	−	42.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	PJ004A 住埋土上層出土。内面ヨコナデ調整で指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
421	IG-469	口縁部	−	−	−	33.0	破片	5YR4/2 7.5YR5/4	PJ004A 住遺構確認面出土。弱い波状口縁か。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
422	PJ-4	底部	−	−	(4.6)	11.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	PJ004 住埋土出土。4A 住か 4B 住か不明。底部外面に爪形刻み。堂之上 Z 式
423	PJ-4	口縁部	−	−	−	13.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	PJ004 住埋土出土。4A 住か 4B 住か不明。やや肥厚した口縁部に櫛歯文、胴部縄文地文。神ノ木式
424	PJ-5 、IG-1111、IG-1107、E-4-6・7	口縁部～底部	15.4	14.0	6.0	354.0	1/2	10YR5/3 7.5YR6/4	PJ005 住南壁沿い、埋土上層出土。390 とほぼ同位置で出土。低い波状口縁、平底。外面はヨコナデ調整痕が明瞭に残る。内面はヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式併行か
425	PJ-4 3、IG-1462 床	胴部	−	−	−	573.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	54 号土坑の南側、PJ004A 住床面出土。縄文地文。胎土に繊維を含まない。内面は平滑にナデ調整。神ノ木式
426	PJ-40 、IG-1047、IG-1019、IG-1656、IG-1025、IG-673、E-4-11	胴部	−	−	−	515.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR6/6	PJ005 住、PT151 南側の埋土上層から下層で出土。PJ040 住埋土出土の破片と接合。また、東に隣接する PJ008 住埋土から同一個体の破片 632 が出土している。組紐状の縄文地文。内面は平滑にナデ調整し、わずかに指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
428	PJ-4 3	胴部	−	−	−	14.0	破片	7.5YR6/6 2.5YR4/6	PJ004A 住床面出土。器壁薄く、胎土に繊維を含まない。やや肥厚する口縁下端に段差あり。木島Ⅶ式か。色調は搬入品の木島式と異なり赤褐色である。
429	IG-1085	胴部	−	−	−	38.0	破片	10YR3/2 10YR3/1	PJ004A 住北壁沿い、埋土上層で出土。中越式土器の頸部付近破片と思われ、格子目状条線とくびれ部に爪形の刻み？　内面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を少量含む。中越Ⅱ式か
430	IG-1098	胴部	−	−	−	36.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/3	PJ004B 住北壁沿い、埋土上層出土。器壁が薄く、内外面に指頭圧痕が顕著。木島式にしてはやや器壁厚手。436 と同一個体。PJ005 住遺物が移動、混入したか。
431	IG-1011	口縁部	−	−	−	12.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/1	PJ004A 住の遺構確認面で出土。縄文地文と櫛歯刺突文。胎土に繊維を含まない。有尾式
432	IG-1084	口縁部	−	−	−	19.0	破片	10YR4/3 10YR3/2	PJ004B 住北壁沿い、埋土上層出土。430 とほぼ同位置で出土。口唇部刻み、格子目文。胎土に繊維を含まない。中越Ⅱ式かⅢ式。
433	IG-1090	口縁部	−	−	−	38.0	破片	7.5YR4/3 5YR4/3	PJ005 住南壁沿い、埋土下層出土。縄文地文。内面はわずかに指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
434	IG-1028	胴部	−	−	−	22.0	破片	7.5YR5/4 5YR5/4	PJ005 住南壁沿い、埋土下層出土。やや肥厚する口縁部に格子目文。段差に刻み。内外面ヨコナデ調整。内面には指頭圧痕が残る。器壁は口縁部が 6 ㎜弱、胴部が 4 ㎜強。器面はくすんだ赤褐色。木島Ⅶ式とするか中越Ⅰ式とみるべきか迷う。
435	IG-1053	口縁部	−	−	−	44.0	破片	10YR2/1 7.5YR3/2	PJ005 住、PT150 北側、埋土下層出土。内外面に指頭圧痕が明瞭に残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
436	IG-1490	胴部	−	−	−	28.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR3/3	PJ005 住床面出土。430 と同一個体。
437	IG-1044	口縁部～胴部	−	−	−	42.0	破片	5YR4/4 5YR2/1	PJ005 住、PT64 東脇の床面で出土。内外面に指頭圧痕が明瞭に残る。器壁は口縁部で 4 ～ 8 ㎜、胴部で 5.5 ㎜と中厚手。器面は黒褐色と赤褐色。口縁部と胴部の境に爪形刻みの段差。木島Ⅸ式とも中越Ⅰ式とも判別しがたい。
438	IG-544	口縁部	−	−	−	47.0	破片	7.5YR4/3 5YR3/2	PJ005 住、PT151 東側の埋土上層で出土。ごく低い波状口縁で、内外面ヨコナデ調整。指頭圧痕が少し残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
439	IG-1049、IG-1050	口縁部～胴部	(14.0)	−	−	110.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/3	PJ005 住南壁沿い、埋土上層出土。内外面指頭圧痕が残る。口縁部は波状口縁の波頂部の名残のような突起部がある。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
3002	PJ-4	−	4.0	4.9	1.2	58.0	破片	10YR6/2 10YR7/3	焼成粘土塊。一面をヘラ状工具で平らにナデ調整。焼成は弱い。長石、石英、金色雲母、黒色鉱物の粗い粒子が混じる。

PJ004 号・PJ005 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(mm)	現存幅(mm)	現存厚(mm)	重量(g)	観察所見
1938	PJ-4	石匙	珪質頁岩	3/4	35.0	60.0	8.0	15.00	PJ004 住埋土一括取り上げ。つまみ部の調整剥離と刃部の使用痕から石匙と判断した。白筋の入る青灰色の珪質頁岩
1939	PJ-4	削器	珪質頁岩	1/1	27.0	51.0	6.0	13.30	PJ004 住埋土一括取り上げ。礫面が残る青灰色の珪質頁岩
1940	PJ-4	原石	黒曜石					9.30	PJ004 住埋土一括取り上げ。漆黒の黒曜石ズリ
1941	PJ-4	原石	黒曜石					6.80	PJ004 住埋土一括取り上げ。漆黒の黒曜石ズリ
1942	PJ-4　土サンプル①	石鏃	黒曜石	1/1	19.0	14.2	2.9	0.46	PJ004A 住南壁沿い、DK78 号土坑西側、埋土下層で黒曜石チップの集積中から出土。漆黒の黒曜石
1943	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/1	23.4	16.9	4.9	1.53	PJ004 住埋土一括取り上げ。石鏃未成品。透明感のある黒曜石
1944	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	13.6	－	2.1	(0.18)	PJ004 住埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石
1945	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	22.3	－	3.2	(0.81)	PJ004 住埋土一括取り上げ。透明な黒曜石。脚部欠損した石鏃とみたが、つまみ部を欠損したミニチュア石匙かも
1946	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/1	22.4	13.1	3.6	0.65	PJ004 住埋土一括取り上げ。透明な黒曜石。脚部欠損
1947	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	16.8	－	2.0	(0.26)	PJ004 住埋土一括取り上げ。透明な黒曜石。片脚欠損。
1948	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/1	18.3	16.3	4.5	1.13	PJ004 住埋土一括取り上げ。やや透明感のある黒曜石。未成品
1949	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	－	(13.1)	3.0	(0.43)	PJ004 住埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石。先端欠損
1950	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/2	23.2	－	3.4	(0.69)	PJ004 住埋土一括取り上げ。ブルーブラックの黒曜石。脚部欠損
1951	PJ-4	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.00	PJ004 住埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
1952	PJ-4	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.70	PJ004 住埋土一括取り上げ。ブルーブラックの黒曜石。
1953	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	16.6	(12.2)	3.1	(0.49)	PJ004 住埋土一括取り上げ。脚部欠損
1954	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/2	27.2	11.8	4.0	1.23	PJ004 住埋土一括取り上げ。
1955	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/1	19.6	16.6	4.7	1.40	PJ004 住埋土一括取り上げ。未成品
1956	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	26.3	21.4	10.7	4.53	PJ004 住埋土一括取り上げ。未成品
1957	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	16.0	－	3.7	(0.56)	PJ004 住埋土一括取り上げ。脚部欠損。漆黒の黒曜石
1958	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	24.3	－	3.8	(1.13)	PJ004 住埋土一括取り上げ。脚部欠損。漆黒の黒曜石
1959	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/2	27.2	15.9	6.3	1.70	PJ004 住埋土一括取り上げ。脚部欠損。漆黒の黒曜石
1960	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/1	15.5	13.6	3.9	0.58	PJ004 住埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石
1961	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/2	－	15.4	3.2	(0.60)	PJ004 住埋土一括取り上げ。先端欠損。透明感のある黒曜石
1962	PJ-4	石鏃	黒曜石	－	－	－	3.1	(0.30)	PJ004 住埋土一括取り上げ。脚部、先端欠損。透明感のある黒曜石
1963	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/2	16.5	20.9	30.5	1.13	PJ004 住埋土一括取り上げ。先端欠損。透明感のある黒曜石
1964	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	(14.6)	－	2.7	(0.34)	PJ004 住埋土一括取り上げ。脚部欠損。やや透明な黒曜石
1965	PJ-4	石鏃	黒曜石	1/1	18.9	14.1	5.5	1.22	PJ004 住埋土一括取り上げ。未成品か。透明な黒曜石
1966	PJ-4	石鏃	黒曜石	3/4	15.3	(13.4)	3.7	(0.54)	PJ004 住埋土一括取り上げ。稚拙なつくり。やや透明な黒曜石
1967	PJ-4　土サンプル①	石鏃	黒曜石	1/2	－	18.8	2.7	(0.75)	PJ004A 住南壁沿い、DK78 号土坑西側、埋土下層で黒曜石チップの集積中から出土。先端欠損。透明な黒曜石
3203	PJ-5	石鏃	黒曜石	1/1	26.6	23.7	9.0	4.31	埋土一括取り上げ。住居分別不可。未成品。やや透明な黒曜石
3204	PJ-5	削器	頁岩	1/1	50.0	79.0	5.0	19.50	埋土一括取り上げ。住居分別不可。一側縁に抉り調整があり、石匙とみるべきか。
3205	PJ-5	石鏃	黒曜石	3/4	26.8	22.6	6.8	3.29	埋土一括取り上げ。住居分別不可。未成品。ブルーブラックの黒曜石
6996	IG-1030	原石	黒曜石	1/1				24.70	PJ004 Ｂ住西壁沿い、埋土上層出土。角礫ズリ
6997	IG-1450	石鏃	赤色碧玉	1/1	30.3	23.4	8.1	5.42	PJ004A 住西壁沿い、埋土上層出土。未成品
6999	IG-789	磨石類	安山岩類	1/1	98c	87.0	47.0	594	PJ004B 住北西角付近、埋土上層出土。非常に平滑に磨耗。一面に敲打凹部。側縁稜磨石的。端部に敲打痕。一部黒色に変色あり。
7000	IG-674	石鏃	黒曜石	1/1	20.7	12.6	4.9	0.87	PJ004A 住西壁沿い、埋土上層出土。透明感のある黒曜石

PJ004 号・PJ005 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
7001	IG-1066	石匙	珪質頁岩	1/1	23.0	41.0	6.0	4.70	PJ004A 住西壁近くの床面出土。小ぶりの石匙。白筋のある青灰色の珪質頁岩。
7002	IG-287	石鏃	黒曜石	1/2	(14.7)	(15.3)	3.4	(0.46)	PJ004B 住北壁沿い、埋土上層出土。先端、片脚欠損。透明な黒曜石
7003	IG-1673	石鏃	黒曜石	3/4	16.4	(10.8)	3.0	(0.26)	PJ004A 住南壁沿い、埋土下層出土。片脚欠損。透明な黒曜石
7004	IG-1122	石皿	安山岩類	1/6	(204.0)	(195.0)	(92.0)	2740	PJ004A 住埋土上層出土。作業面に段差あり。側面敲打痕・変色。裏面敲打痕。
7006	IG-155	剥離のある剥片	黒曜石	3/4	43.0	17.0	6.0	3.00	PJ004A 住地床炉東側の床面出土。石錐の未成品か？透明な黒曜石
7007	IG-996	両極石器	黒曜石	1/1	23.0	15.0	5.0	1.70	PJ004A 住地床炉東側の埋土下層出土。透明な黒曜石
7008	IG-1100	石錐	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	4.6	1.3	0.6	2.70	PJ004A 住、PT90 南脇の埋土下層出土。尖端部に使用痕あり。
7009	IG-520	石鏃	黒曜石	1/1	14.0	14.8	2.0	0.24	PJ004A 住埋土上層出土。長い脚部。透明な黒曜石
7010	IG-1410	石鏃	黒曜石	-				(0.44)	PJ004A 住地床炉直上で出土。先端欠損。透明感のある黒曜石
7011	IG-1413	石鏃	黒曜石	3/4	23.2	16.8	3.2	(1.02)	PJ004A 住、PT90 南脇の埋土下層出土。先端欠損。透明感のある黒曜石
7012	IG-1455	石鏃	黒曜石	3/4	(17.1)	16.6	3.3	(0.88)	PJ004A 住、PT112 西側の埋土下層出土。先端欠損。ブルーブラックの黒曜石
7014	IG-482	石鏃	チャート	3/4	19.0	16.3	2.9	0.73	PJ004A 住埋土上層出土。赤色チャート。脚部欠損
7015	IG-484	石鏃	黒曜石	3/4	18.6	(12.3)	3.7	(0.46)	PJ004A 住埋土上層出土。片脚欠損。透明感のある黒曜石
7018	IG-1121	磨石類	花崗岩類	1/1	129.0	94.0	57.0	1076	PJ004A 住、PT116 南脇の埋土下層出土。全面黒色に変色。長軸両端に敲打痕、片方は敲打痕部分が白い。側縁稜磨石的。両面にまばらな敲打痕あり
7020	IG-286	石鏃	黒曜石	1/1	12.9	15.6	2.6	0.34	PJ004A 住埋土上層出土。長脚鏃。漆黒の黒曜石
7021	IG-1080	石鏃	黒曜石	1/1	10.7	10.4	2.4	0.20	PJ004B 住埋土上層出土。透明な黒曜石。
7022	IG-1082	石匙	珪質頁岩	1/1	31.0	61.0	16.0	20.10	PJ004B 住埋土上層出土。側縁に刃部。小さなつまみ部が作り出されている。
7023	IG-1018	磨石類	安山岩類	3/4	117.0	69.0	(36.0)	361	PJ005 住南壁沿い、埋土上層出土。両面 2 ヶ所に深い敲打痕。大きな欠損あり
7024	IG-158	磨石類	砂岩類	1/2	40.0	(97.0)	54.0	310	PJ005 住埋土上層出土。一稜面が平坦に磨耗。稜磨石。端部に敲打痕と欠損あり
7025	IG-498	石鏃	黒曜石	3/4	17.2	14.6	3.1	(0.58)	PJ004A 住南東角、埋土上層出土。平基鏃。透明感のある黒曜石
7026	IG-1035	石鏃	黒曜石	3/4	18.9	11.2	2.8	0.49	PJ004A 住東壁沿い、埋土上層出土。未成品。漆黒の黒曜石
7027	IG-793	石匙	ホルンフェルス	1/1	77.0	30.0	10.0	30.40	PJ005 住北東角、埋土下層出土。二側縁に刃部あり。
7028	IG-1026	円礫	安山岩類	1/1	61.0	52.0	45.0	163	PJ005 住南東角、埋土上層出土。多孔質の安山岩で敲打痕は不明だが、ハンマーの可能性あり。
7029	IG-263	石匙	黒曜石	1/1	24.0	34.0	8.0	4.50	PJ005 住南壁沿い、埋土上層出土。礫面が残る素材。片面の稜に磨耗痕あり。つまみ部先端欠損か。赤茶色がかった黒曜石
7030	IG-513	石鏃	黒曜石	1/1	14.3	14.3	2.9	0.35	PJ005 住、PT64 上面の埋土上層出土。片脚先端欠損。透明な黒曜石
7031	IG-119	磨石類	安山岩類	3/4	94.0	(71.0)	34.0	305	PJ005 住東壁沿い、埋土上層出土。使い込まれて扁平円礫状。側面にも大きな敲打痕。
10230	PJ-5　2	台石	安山岩類	1/1	130.0	73.0	32.0	483	PJ005 住南壁沿いの床面出土。扁平な安山岩破片で、一面に顕著な磨耗痕あり

PJ006 号住居

位　　置：D-4 グリッドに位置する。前期前葉から後葉にかけて建築、居住された住居が、同一地点で重複している。出土遺物の時期と位置、柱穴の組み合わせ、埋土の状況から、最少 5 回の建築、居住があったと判断し、住居 A から住居 E に区分した。

本住居は、DK18 号土坑ほかの土坑と重複する。DK18 号土坑は諸磯式期の集石土坑である。DK56 号土坑、DK59 号土坑は諸磯式期の土坑である。

規　　模：遺物の出土状況から、竪穴の平面形が把握できる住居は、前期前葉に属する旧い段階に限られ、前期中葉と後葉の住居は竪穴が削平されたと判断した。

竪穴の位置がやや北東に寄った小さな住居を PJ006 号住居 A とし、位置が南西に寄った大きめの住居を PJ006 号住居 B とする。さらに有尾式、諸磯式土器を伴う柱穴とみられるピットが検出されたことから、当該時期の住居を想定し、これを PJ006 号住居 C、PJ006 号住居 D、PJ006 号住居 E とする。遺物の時期、出土状況、埋土観察から住居 C と住居 E が最も新しく、次いで住居 D が新しく、住居 A が先行し住居 B が最も旧いと判断した。住居 C と住居 E の新旧関係は確認できなかった。

PJ006 号住居 A は、検出された周溝から推測すると南北長 4.8m 程度、東西長 4.2m、竪穴の深さは 35 cmである。PJ006 号住居 B は、南北長 5.9m、東西長 5m 程度、竪穴の現存深は 30 cmである。

先行する住居が大形、方形で、後出の新しい住居が小形で、やや楕円形になり、主軸線が傾く点は、PJ004、005 号住居に類似する。

有尾式期と思われる PJ006 号住居 D と諸磯式期の PJ006 号住居 C と住居 E は、規模、平面形不明である。諸磯式期の住居は、柱穴の配置、同時期遺構例からみて小形の楕円形住居と思われる。

埋　　土：埋土断面を観察するベルトを東西南北に掘り残した。諸磯式期の住居 C と住居 D は、削平されて埋土が残っていない。断面観察できた埋土は住居 A と住居 B の竪穴に堆積したものに限られ、第 1 層が黒褐色土、第 2 層がやや明るい暗褐色土で、レンズ状に堆積した様子が観察できた。埋土断面の観察から PJ006 号住居 A が新しく、PJ006 号住居 B が先行すると判断した。

床　　面：黄褐色砂質土の地山をそのまま床面としている。住居 A の床が住居 B よりもやや低い。住居 A 埋土中に住居 B の床面もしくは硬化面は検出されなかった。住居 A の中央部分はややくぼんでいて、床面は平坦ではなかった。

炉　：DK59 号土坑とした浅い掘り込みの底部が被熱焼土化し、その上に焼土粒子が混じる黒褐色土が堆積していた。さらに DK59 号土坑と PT991 号ピットの間の床面が被熱焼土化していた。その範囲は狭く、焼土化の度合いは弱い。これらの焼土は PJ006 号住居 A の地床炉と思われる。住居 B の地床炉は検出されなかった。住居 A に切られて失われたと思われる。住居 C と住居 D、住居 E の炉は不明である。

周　　溝：住居 A、住居 B ともに複数本の周溝を検出した。床面がやや高い住居 B の周溝はか細く、十分に確認できなかった。住居 C と住居 D、住居 E の周溝は検出されなかった。

柱　　穴：住居 A の柱穴は、床面でもっとも明瞭に検出された PT82、DK58、PT135、PT983 の 4 基である。これらは深さが 48 cmから 62 cmとややばらつくものの大きさが似通い、位置も住居 A の主軸線、地床炉と整合的である。

住居 B の柱穴は、PT71、PT81、PT100 の 3 基と思われる。深さが 33 cmから 57 cmとばらつくが、想定される住居平面形と最も整合する位置にある。PT118 が 4 基目のピットとして適当な位置にあるが、諸磯式土器が出土しており、後出の遺構である。住居 B の柱穴が切られて失われた可能性もあろう。

住居 C の柱穴は、諸磯式土器を伴う PT80、PT118 の 2 基で、土器は伴わないが位置関係と深さから PT97、PT136 の 2 基が柱穴と想定される。これらは深さが 33 cmから 38 cmと類似する。

住居 D の柱穴は、PT72、PT85、PT98、PT979 の 4 基と判断した。これらは深さ 35 cmから 45 cmである。

住居 E の柱穴は、PT104、PT137、PT980、PT982 の 4 基と判断した。これらは深さ 28 cmから 56 cmと

ばらつくが、西側の 2 基が深く、東側 2 基が浅い。

出土遺物：光波測量機で記録した竪穴内の遺物出土位置は、住居 A の範囲で濃密に分布し、住居 B は疎らであり、両者の差異は明瞭であった。このことからも住居 A が新しく、住居 B が旧いと判断した。遺構確認面で取り上げた遺物には、諸磯式土器が比較的多かった。こうした所見から、諸磯式期の住居竪穴は削平されて失われたと判断した。

出土した土器の総量は、20,013g である。内訳は、諸磯式が 5,699g と最多で、次いで中越式が 4,573g、有尾式 3,992g、神ノ木式 2,413g、木島式 820g などである。ほかに関山式、上広覧式、北白川下層Ⅱ式が少量出土した。なお縄文地文の土器破片では、神ノ木式と有尾式の判別は困難であった。

出土した石器の内訳は、石鏃 31 点、抉入刺突具 1 点、削器 1 点、石匙 6 点、石錐 2 点、両極石器 1 点、石皿 2 点、台石 3 点、磨石類 2 点、剥離のある剥片 4 点、黒曜石原石 7 点である。この他に剥片・砕片 813 点、1,896g が出土した。石材は黒曜石が最多で、珪質頁岩、チャート、石英岩などがある。

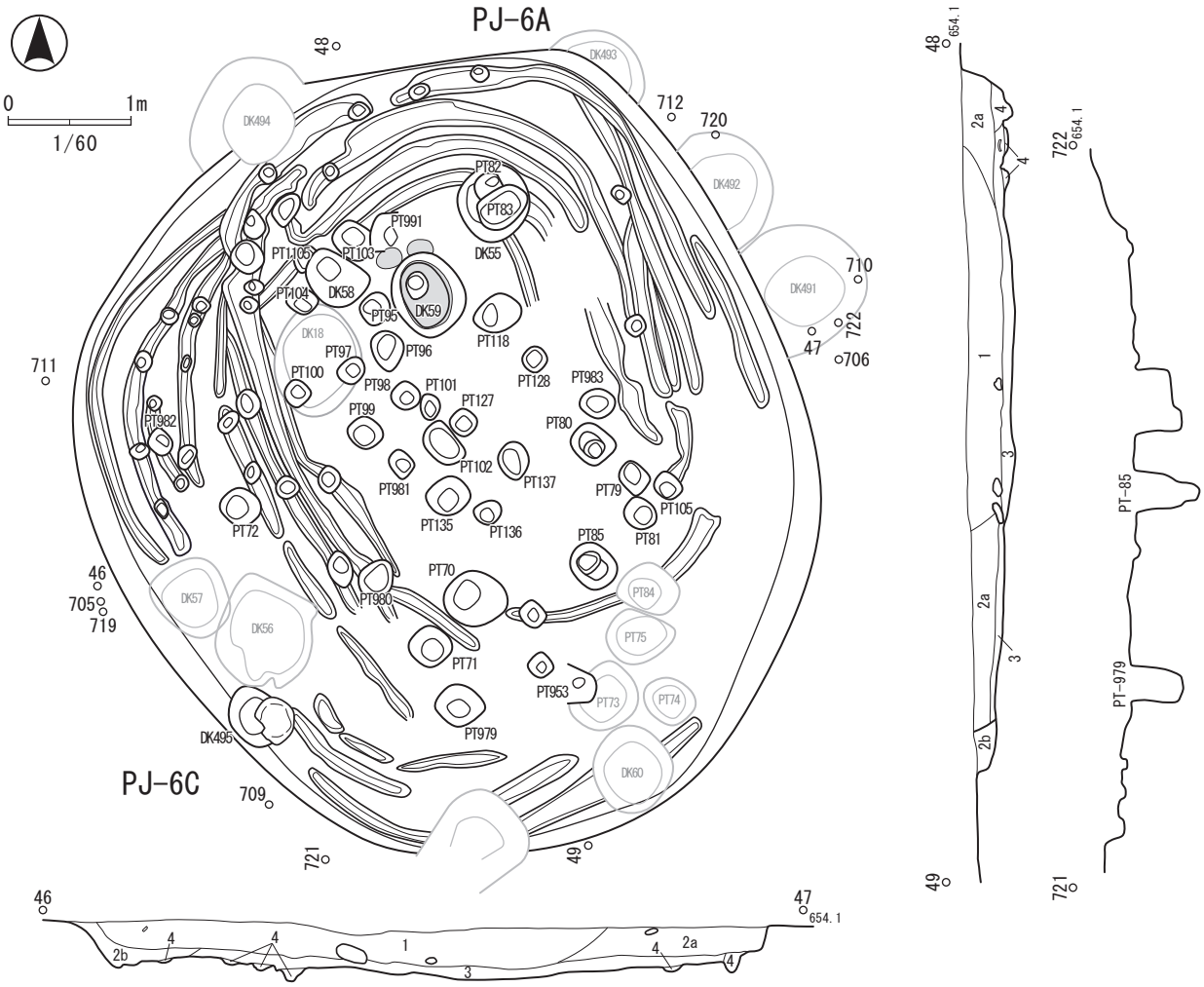
時　　期：先述のとおり、出土した土器の型式、遺物出土状況、柱穴配置、周溝の検出状況などから、5 回の居住期を想定した。PJ006 号住居 A と B は神ノ木式を伴う中越Ⅳ式期、PJ006 号住居 D は有尾式期、PJ006 号住居 C と E は諸磯 b 式期に位置づけられると考えた。ただし、現地で発掘調査した時点ではここまでの重複を把握できず、整理作業段階で、矛盾なく遺構の状況を評価できる居住期を検討した結果である。

PJ006 号住居　土坑ピット一覧表

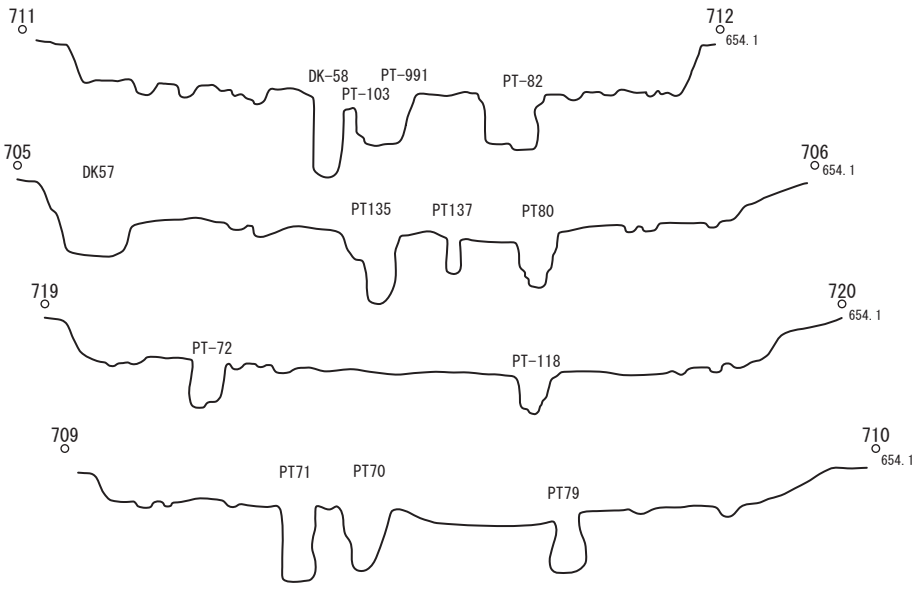
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-070	6 住内	43*43	48	10YR2/3（黒褐）に 10YR5/6（黄褐）が 5%、10YR5/4（にぶい黄褐）が 2%、焼土と炭化物が 1% 混じる。	PJ006 住柱穴か。中越式、神ノ木式小片
PT-071	6 住内	34*34	57	10YR2/3（黒褐）に 10YR5/4（にぶい黄褐）が 5%、10YR5/6（黄褐）が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ006B 住柱穴
PT-072	6 住内	28*25	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR5/6（黄褐）と 10YR5/4（にぶい黄褐）が 3%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ006D 住柱穴
PT-079	6 住内	28*21	47	10YR3/3（暗褐）に 10YR2/3（黒褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	木島式土器小片
PT-080	6 住内	33*27	36	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006C 住柱穴。諸磯式土器 2347
PT-081	6 住内	25*22	38	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 10%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006B 住柱穴
PT-082	6 住内	20*16	48	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006A 住柱穴
PT-083	6 住内	43*29	28	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/6（褐）が 5%、10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006A 住の旧柱穴か
PT-085	6 住内	35*36	45	10YR4/4（褐）に 10YR4/6（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ006D 住柱穴
PT-095	6 住内	22*20	21	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 7%、シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式小片
PT-096	6 住内	25*21	23	10YR4/6（褐）に 10YR5/8（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式小片
PT-097	6 住内	19*17	38	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ006C 住柱穴。有尾式？小片
PT-098	6 住内	17*20	35	10YR4/6（褐）に 10YR5/8（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006D 住柱穴。底に礫あり。
PT-099	6 住内	20*22	10	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3%、焼土が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。	
PT-100	6 住内	19*18	45	10YR2/2（黒褐）に 10YR2/3（黒褐）が 40%、10YR4/6（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006B 住柱穴
PT-101	6 住内	18*18	8	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 20% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-102	6 住内	29*37	8	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 20% 混じる。シルト粒土。しまる。	釈迦堂 Z Ⅲ式土器破片

PJ006 号住居　土坑ピット一覧表

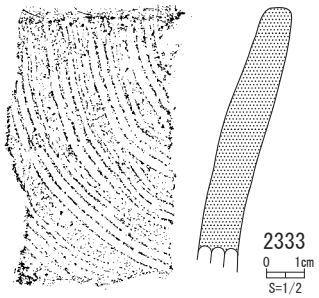
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-103	6 住内	27*28	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/6（褐）が 5%、10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK-58 に切られる。
PT-104	6 住内	22*20	34	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ006E 住柱穴
PT-105	6 住内	25*16	30	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT-81 に切られる。
PT-118	6 住内	20*30	33	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%10YR4/6（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006C 住柱穴。諸磯式土器底部
PT-127	6 住内	18*18	19	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-128	6 住内	17*18	10	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-135	6 住内	33*28	56	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006A 住柱穴。木島式、中越式、神ノ木式小片
PT-136	6 住内	18*16	36	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006C 住柱穴
PT-137	6 住内	19*27	36	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 3%、10YR5/6（黄褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006E 住柱穴
PT-953	6 住内	30*30	56	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-979	6 住内	30*(30)	42	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006D 住柱穴
PT-980	6 住内	31*-	54	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006E 住柱穴。神ノ木式小片
PT-981	6 住内	21*(18)	28	暗褐色土	
PT-982	6 住内	26*-	56	暗褐色土	PJ006E 住柱穴
PT-983	6 住内	25*-	50	暗褐色土	PJ006A 住柱穴
PT-991	6 住内	32*20	40	暗褐色土	
PT-1105	6 住内	20*-	21	暗褐色土	PJ006A 住柱穴。DK58 は掘り方もしくは抜き取り痕か
DK-055	6 住内	53*56	50	10YR2/3（黒褐）に 10YR5/6（黄褐）が 7%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006A 住柱穴。PT82、PT83 の掘り方。中越式、有尾式？
DK-058	6 住内	52*33	62	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 7%、10YR5/6（黄褐）と焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	神ノ木式？小片。PT1105 の掘り方もしくは抜き取り痕か。PJ006A 住柱穴。
DK-059	6 住内	63*54	35	10YR2/3（黒褐）に 10YR5/4 が 10%、10YR4/4（褐）が 5%、焼土が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ006A 住炉跡。中越式土器小片
DK-495	6 住内	50*(55)	16(25)	10YR3/2（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ006D 住に付属する施設か。中越式、有尾式土器小片。上面に石皿 10576 あり。

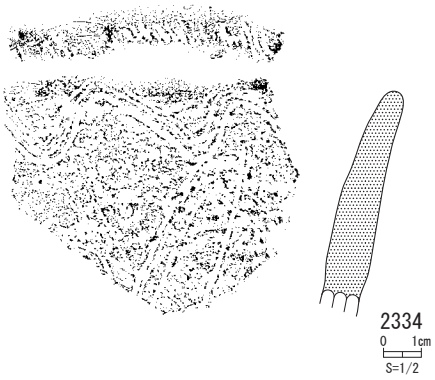


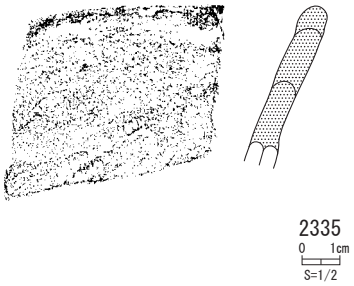
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が25%、10YR4/4(褐)が7%、炭化物が2%、焼土が1%、花崗岩小礫が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
2a層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が25%、炭化物が1%以下混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
2b層　(PJ6B住埋土)10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が25%混じるシルト粒土。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が7%、炭化物が1%、花崗岩小礫が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化物が1%以下混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。(周溝)
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が25%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
壁　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が40%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。

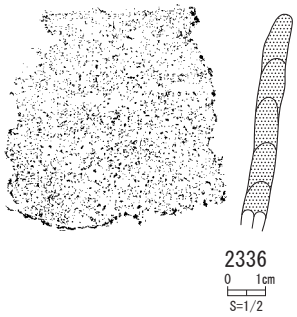


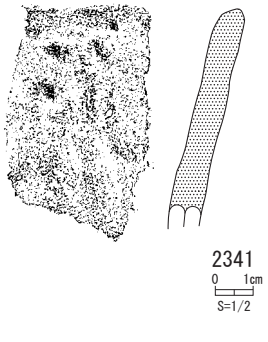
PJ006 号住居

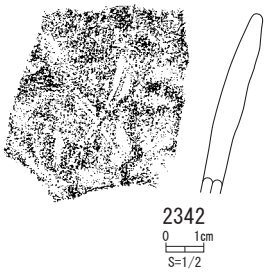


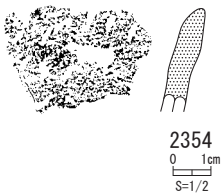


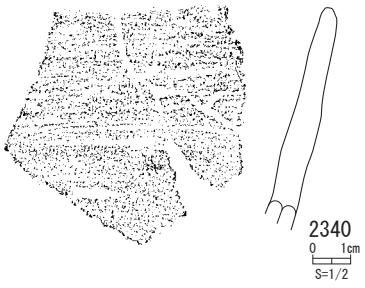






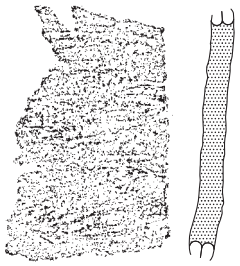


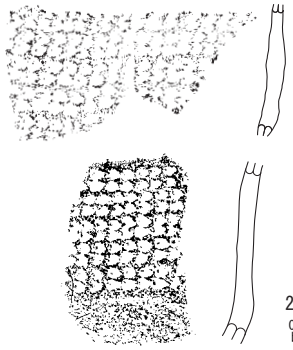


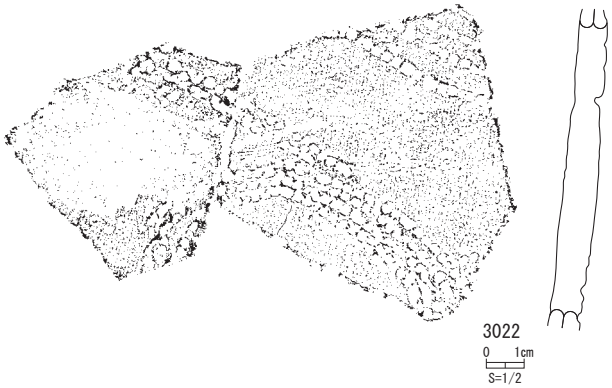


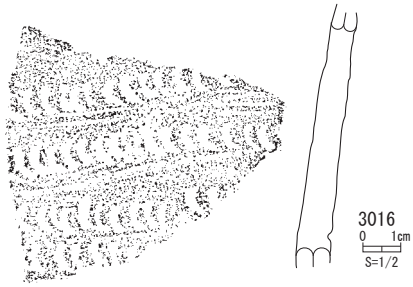
PJ006 号住居出土遺物

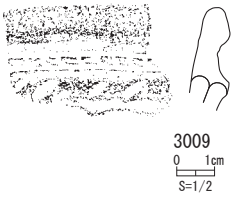
PJ006 号住居出土遺物

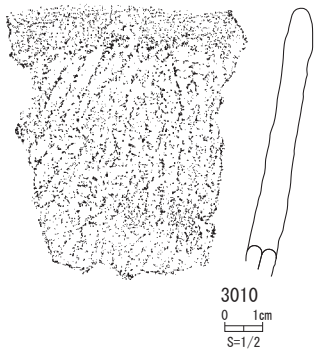


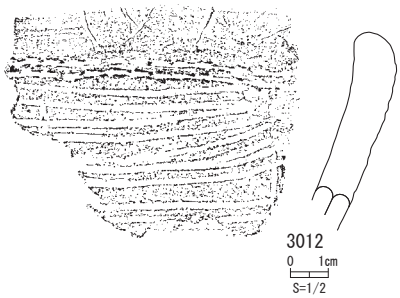


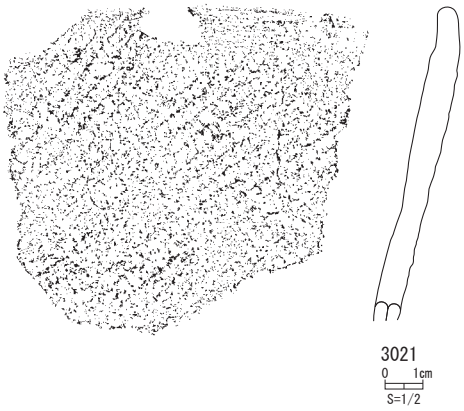


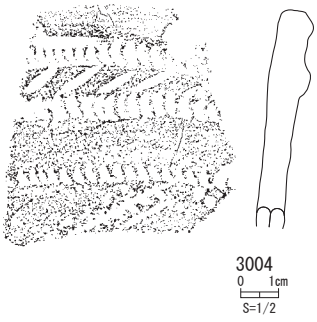


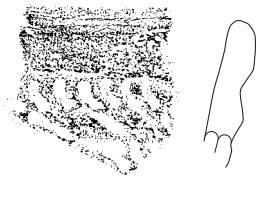


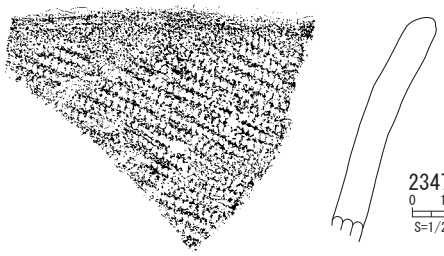


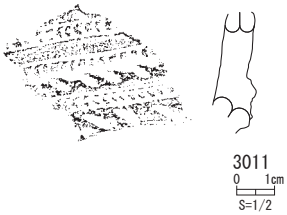


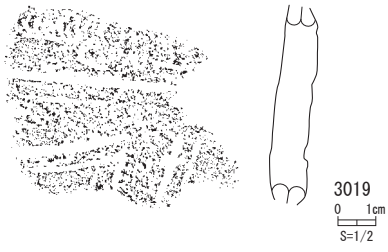


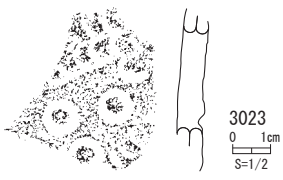


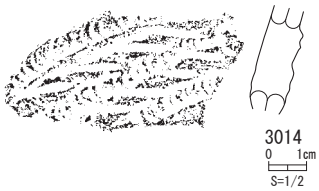




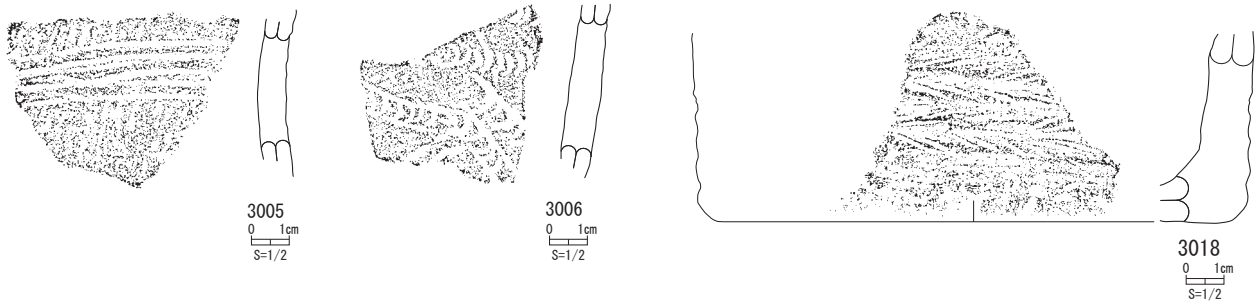


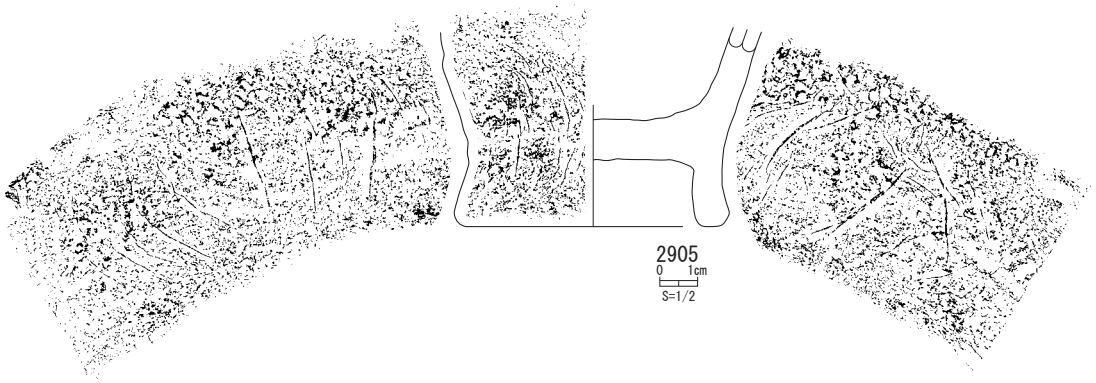


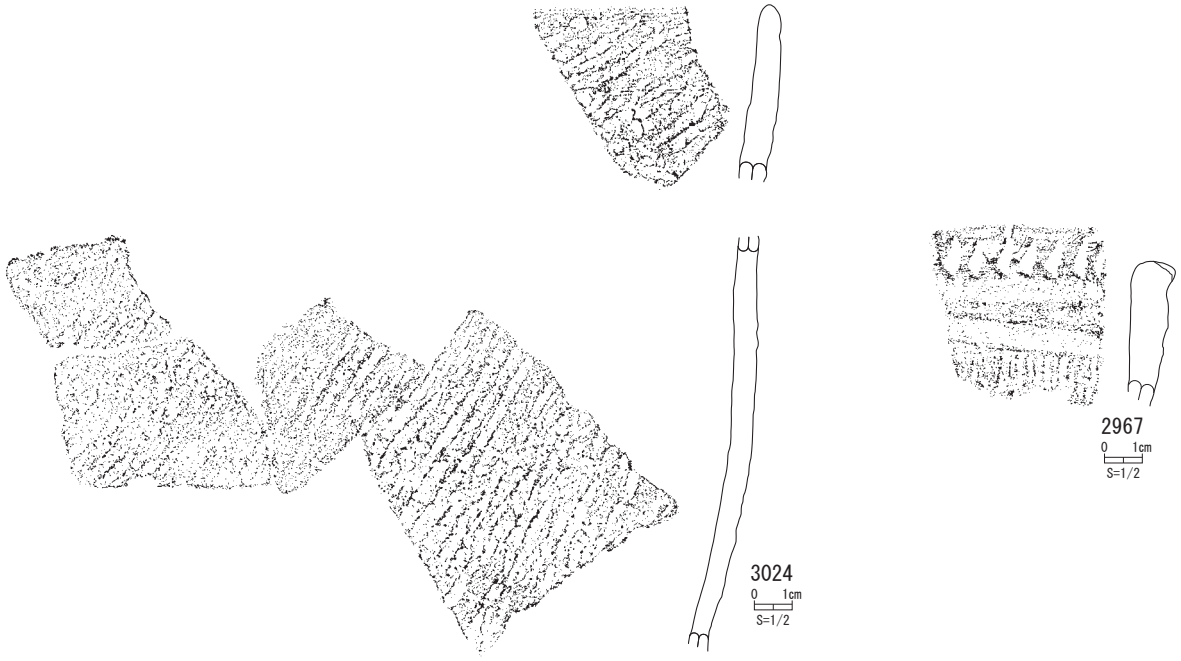




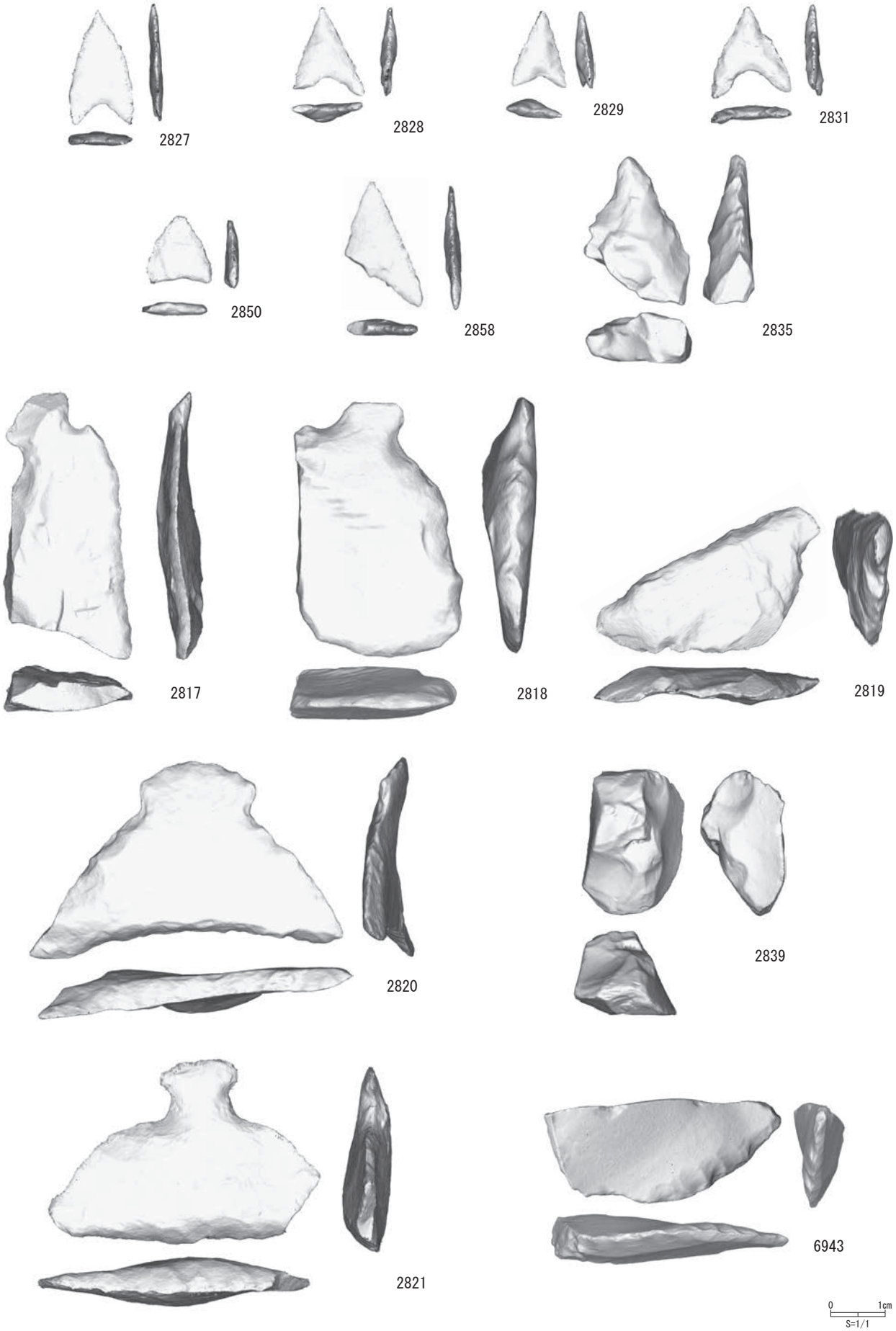
PJ006 号住居出土遺物



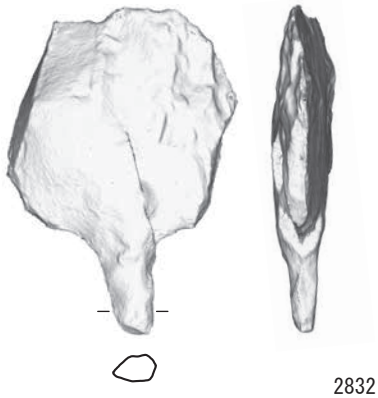




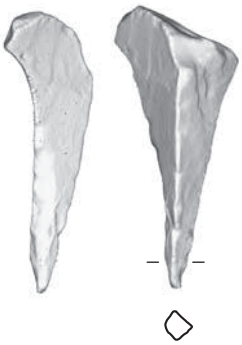
PJ006 号住居出土遺物



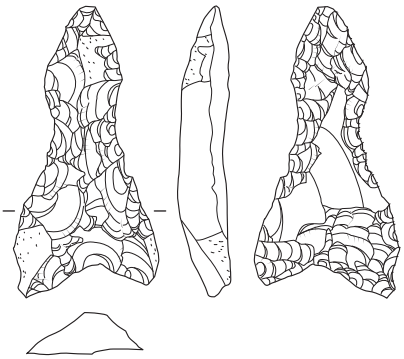
PJ006 号住居出土遺物



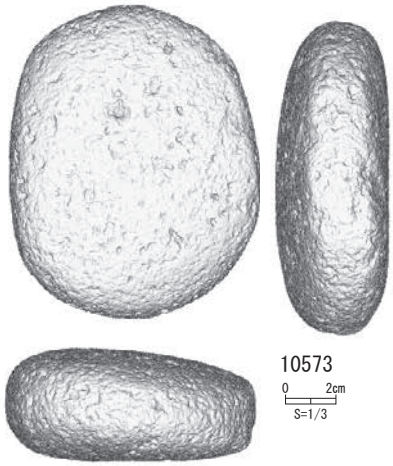
2832
0 1cm
S=1/1



2837
0 1cm
S=1/1

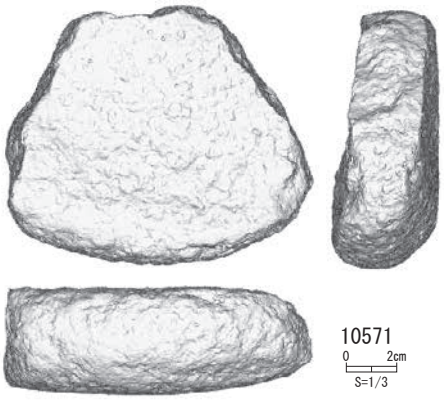


2822
0 1cm
S=1/1



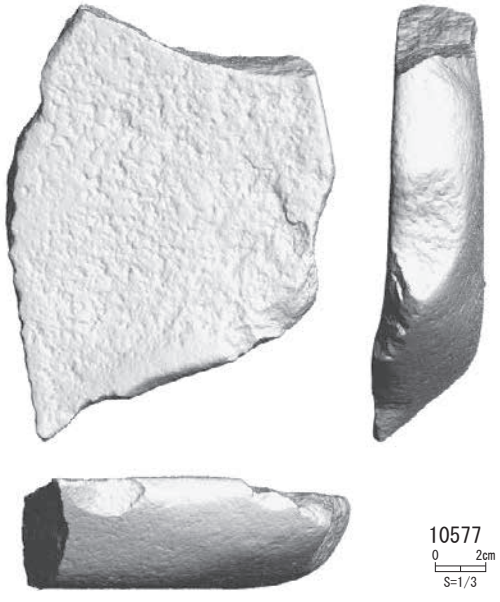
10573
0 2cm
S=1/3

10574
0 1cm
S=1/2



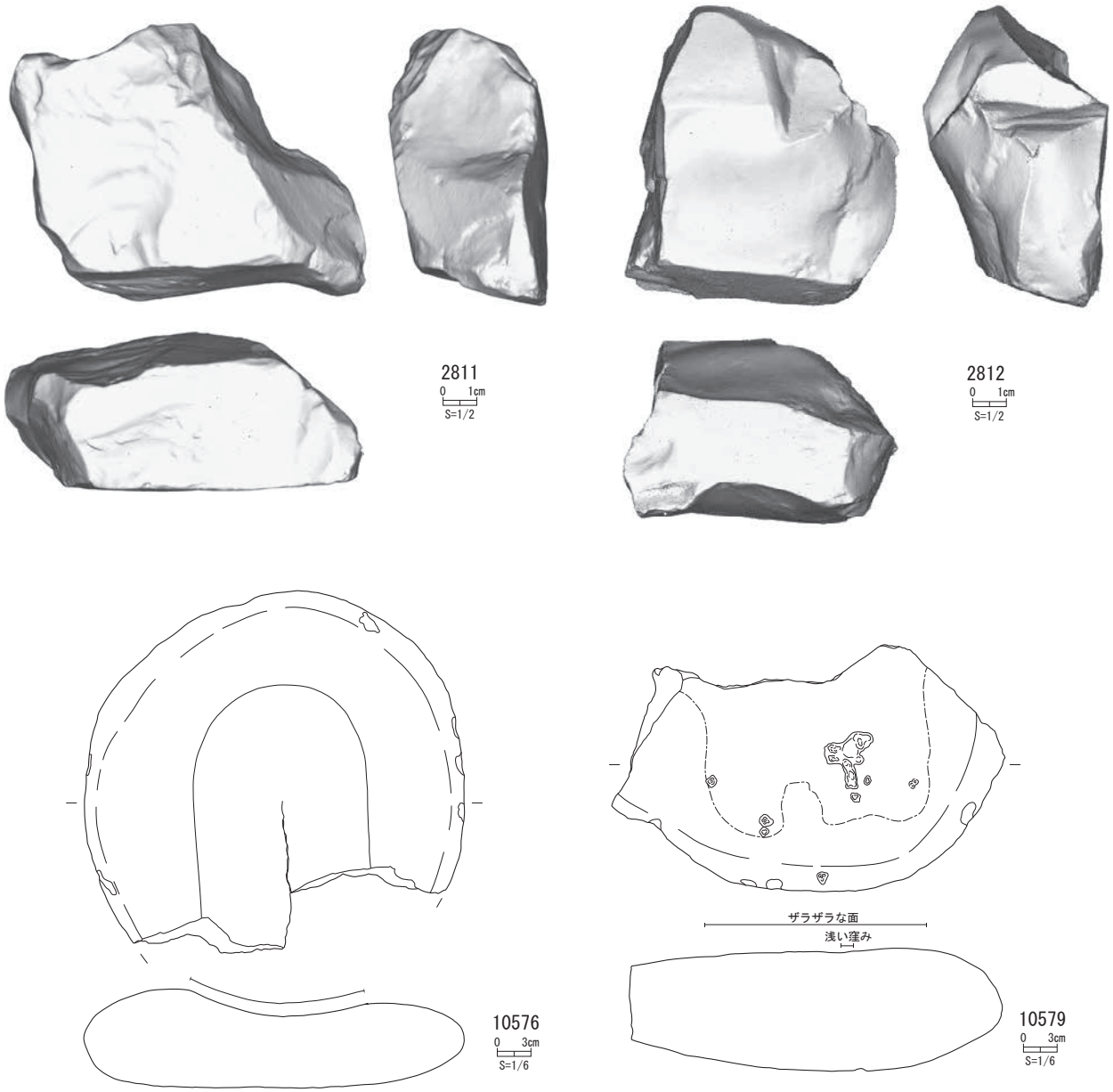
10571
0 2cm
S=1/3

10575
0 2cm
S=1/3



10577
0 2cm
S=1/3

PJ006 号住居出土遺物



PJ006 号住居出土遺物

PJ006 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (06-010-2012)	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2324	PJ-6 259	口縁部	−	−	−	33.0	破片	5YR6/6 7.5YR7/6	PJ006A 住北壁沿い、埋土下層出土。肥厚した口縁部に刻み状の単沈線。胴部縄文地文。胎土に繊維を含まない。堂之上Z式
2325	PJ-6 174	口縁部	−	−	−	16.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/3	PJ006A 住埋土上層出土。縄文地文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2326	PJ-6 358	口縁部	−	−	−	28.0	破片	7.5YR6/4 10YR3/2	PJ006B 住埋土上層出土。面取りしたような平な口唇部。合撚縄文地文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2327	PJ-6 272	口縁部	−	−	−	21.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR4/3	PJ006B 住埋土上層出土。肥厚した口縁に櫛歯文。胴部は縄の束。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2328	PJ-6 87	口縁部	−	−	−	31.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	PJ006A 住西壁沿い、埋土下層出土。口唇部に三角小突起。肥厚した口縁に櫛歯文。胴部は縄文地文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2329	PJ-6 74	口縁部	−	−	−	31.0	破片	7.5YR4/4 5YR3/4	PJ006A 住埋土上層出土。縄文地文。胎土に繊維を少量含む。神ノ木式
2330	PJ-6 183	口縁部	−	−	−	113.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	PJ006B 住南壁沿い、埋土上層出土。不整形な口唇部。縄文は菱形を意識した施文か？　胎土に繊維を含む。神ノ木式か有尾式か判断できないが、有尾式の特徴が積極的に見いだされないことから神ノ木式と考えておく
2331	PJ-6 299、PJ-6 300	口縁部～胴部	−	−	−	69.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR6/6	PJ006B 住西壁沿い、埋土下層出土。細めの縄文原体で、粗雑な菱形文を意識して施文か。胎土に繊維を含む。神ノ木式
2332	PJ-6 256、PJ-6 11	口縁部	−	−	−	66.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/2	PJ006A 住南壁沿い、埋土上層出土。斜縄文地文、内面指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。神ノ木式
2333	PJ-6 210	口縁部	−	−	−	47.0	破片	10YR7/4 7.5YR6/4	PJ006A 住北壁沿い、埋土上層出土。櫛歯状工具による条線で曲線的文様を描く。器壁は厚手で、内面に指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。中越式併行
2334	PJ-6 230	口縁部	−	−	−	46.0	破片	10YR4/1 10YR3/2	PJ006A 住北西壁沿い、埋土上層出土。口唇部に刻み、櫛歯状工具で波状文、その下位に格子目状文様を描く。まばらな縄文がかすかに施文される。内面ヨコナデ、指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。中越式併行
2335	PJ-6 262	口縁部	−	−	−	30.0	破片	5YR5/6 7.5YR4/3	PJ006A 住北西壁沿い、埋土上層出土。外面には無節縄文がかすかに施文される。内面指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。中越式
2336	PJ-6 283	口縁部	−	−	−	31.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR3/3	PJ006B 住西壁沿い、埋土上層出土。内面ヨコナデ、指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。中越式
2337	PJ-6 319	口縁部	−	−	−	137.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR4/3	PJ006B 住南壁沿い、埋土上層出土。PJ006A 住埋土上層から同一個体破片出土。内外面ヨコナデ、内面には指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
2338	PJ-6 154、PJ-6 61	口縁部	−	−	−	103.0	破片	10YR7/4 10YR5/3	PJ006A 住東壁沿い、埋土上層出土。PJ006B 住西壁沿いの埋土上層で同一個体破片出土。外面に指頭圧痕が顕著、内面はヨコナデで指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
2339	PJ-6 341、PJ-6 342	口縁部	−	−	−	55.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/2	PJ006A 住地床炉上の埋土上層出土。ひっかき傷のような格子目文。内面ヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
2340	PJ-6 318	口縁部	−	−	−	33.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	PJ006B 南壁沿い、埋土下層出土。内外面ヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅳ式
2341	PJ-6 80	口縁部	−	−	−	26.0	破片	5YR5/4 7.5YR4/3	PJ006B 住南壁沿い、埋土上層出土。内外面指頭圧痕目立つ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
2342	PJ-6 265	口縁部	−	−	−	19.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/3	PJ006A 住西壁沿い、埋土上層出土。内外面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を含まない。中越Ⅳ式
2343	PJ-6 330	口縁部	−	−	−	97.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR5/4	PJ006A 住埋土下層から上層出土。小さな波状口縁。縄文地文。斜縄文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。神ノ木式
2345	PJ-6 321	口縁部	−	−	−	19.0	破片	5YR4/4 5YR4/3	PJ006A 住埋土上層出土。諸磯ｂ式。PJ006C 住に帰属すべき遺物であろう。
2347	PJ-6 156	口縁部	−	−	−	47.0	破片	2.5YR4/4 5YR4/4	PJ006C 住柱穴、PT80 出土。斜縄文。諸磯式
2349	PJ-6 134	胴部	−	−	−	44.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/3	PJ006A 住西壁沿い、床面出土。羽状縄文地文、深い沈線、貼付文。内面は平滑なミガキ調整。胎土に繊維を含む。関山式
2350	PJ-6 133	口縁部	−	−	−	33.0	破片	7.5YR6/4 5YR6/6	PJ006A 住西壁沿い、床面出土。口唇部に刻み、口縁部に格子目文。頸部に刻みのある段差。内面はヨコナデ調整で指頭圧痕がやや残る。器壁は中厚手で、器面は赤褐色。胎土に繊維を含まない。木島式か中越Ⅰ式か。
2351	PJ-6 155	口縁部	−	−	−	21.0	破片	5YR5/4 5YR5/4	PJ006A 住居埋土下層出土。口縁部に格子目状文。内外面指頭圧痕顕著。器面は赤褐色。胎土に繊維を含まない。木島式か
2352	PJ-6 (3)	胴部	−	−	−	26.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR3/2	PJ006A 住埋土上層出土。細い竹管を2本一組にして横方向へ押引きし、密集した刺突文を施文。器壁は薄く、内面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。無文なら木島式と判断するような土器破片である。有尾式か？
2353	PJ-6	胴部	−	−	−	38.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	PJ006A 住東壁沿い、埋土下層出土。内外面指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。木島式

PJ006 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (06-010-2012)	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2354	PJ-6 (4)	口縁部	−	−	−	6.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR6/4	PJ006A 住埋土一括取り上げ。疎らに爪形文が施文される。胎土に繊維を含む。中越式併行
2355	PJ-6 (4)	口縁部	−	−	−	4.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/2	PJ006A 住埋土一括取り上げ。口唇部に小突起。貝殻腹縁文。胎土に繊維を含まない。内面指頭圧痕目立つ。上広覧式か
2905	PJ-6 212	胴部～底部	−	−	7.0	210.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	PJ006C 住柱穴、PT118 出土。上げ底底部で、胴部に斜縄文。諸磯式
2967	PJ-6 291	口縁部	−	−	−	25.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/3	PJ006 住埋土一括取り上げ。口唇部にヘラ状工具による刻み目。口縁部に幅広で浅い凹線。その下位は縄文地文。中期中葉か。
3004	IG-166	口縁部	−	−	−	41.0	破片	2.5YR4/4 2.5YR4/4	PJ006 埋土上層出土。爪形文と刻み浮線文。諸磯ｂ式
3005	IG-124	胴部	−	−	−	26.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/4	PJ006 埋土上層出土。竹管による平行沈線と縄文地文。諸磯ｂ式
3006	IG-126	胴部	−	−	−	22.0	破片	5YR5/6 7.5YR3/3	PJ006 埋土上層出土。爪形文。諸磯ｂ式
3007	IG-126	胴部	−	−	−	17.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	PJ006 埋土上層出土。縄文地文。器壁は非常に薄い。胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱｃ式
3008	IG-126	口縁部	−	−	−	5.0	破片	7.5YR7/6 5YR6/6	PJ006 埋土上層出土。刻み浮線文。口唇部から内面にかけて浮線文貼付。器壁が薄く、胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱｃ式
3009	PJ-6 49	口縁部	−	−	−	12.0	破片	2.5YR4/4 5YR4/3	PJ006A 住東壁沿い、床面から 2 cm浮いて出土。爪形文と刻み浮線文。諸磯ｂ式
3010	PJ-6 49	口縁部	−	−	−	51.0	破片	2.5YR4/4 2.5YR4/4	PJ006A 住東壁沿い、床面から 2 cm浮いて出土。縄文地文。諸磯式か
3011	PJ-6 50	胴部	−	−	−	13.0	破片	5YR5/6 5YR3/1	PJ006A 住 PT83 東脇の床面で出土。爪形文と刻み浮線文。諸磯ｂ式
3012	PJ-6 70	口縁部	−	−	−	59.0	破片	2.5YR4/4 2.5YR4/4	PJ006 住埋土上層出土。口縁部に竹管端による列点文と平行沈線。諸磯ｂ式
3014	PJ-6 98	胴部	−	−	−	22.0	破片	2.5YR4/4 5YR3/2	PJ006A 住北壁沿い、床面から 2 cm浮いて出土。爪形文と刻み浮線文。諸磯ｂ式
3016	PJ-6 168	胴部	−	−	−	45.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	PJ006 住埋土上層出土。爪形文。胎土に繊維を含まない。有尾式
3018	PJ-6 193	胴部～底部	−	−	13.8	63.0	破片	5YR5/4 5YR5/6	PJ006 住埋土上層出土。刻み浮線文。諸磯ｂ式
3019	PJ-6 224	胴部	−	−	−	29.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	PT80 上面で出土。PT80 に帰属する可能性あり。爪形文と木の葉文。縄文地文。諸磯ｂ式
3021	PJ-6 332	口縁部	−	−	−	89.0	破片	2.5YR5/6 2.5YR4/4	PJ006A 住炉（DK59）上面、5 cm浮いて出土。縄文地文。諸磯式
3022	PJ-6 290、326	胴部	−	−	−	90.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	PJ006 住埋土上層と下層で出土。連点状刺突文による幾何学文と円文。有尾式
3023	PJ-6 84	胴部	−	−	−	13.0	破片	2.5YR5/6 7.5YR4/4	PJ006 住埋土、PT980 上面で出土。PT980 に帰属する可能性あり。爪形文と円文。諸磯ａ式
3024	PJ-6 358	口縁部	−	−	−	105.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/3	PJ006 住埋土、PT72 上面で出土。PT72 に帰属する可能性あり。縄文地文。胎土に繊維を含まず、器壁は 7 ㎜とやや薄手。外面縄文地文、内面には指頭圧痕が目立つ。胎土質は木島式土器に類似する。北白川下層式か
3025	PJ-6 81	胴部	−	−	−	23.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	PJ006 住埋土、PT979 上面で出土。PT979 に帰属する可能性あり。無節縄文地文。内面はヨコナデで、指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。有尾式か

PJ006 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(mm)	現存幅(mm)	現存厚(mm)	重量(g)	観察所見
2811	PJ-6　237	原石	黒曜石	1/1				51.00	PJ006A 住北壁沿い、埋土下層出土。転石ズリ。不透明、黒色の原石
2812	PJ-6　213	原石	黒曜石	1/1				48.40	2811 とほぼ同位置で出土。転石ズリ。不透明、黒色の原石。一発コア
2813	PJ-6　192	原石	黒曜石	1/1				16.70	PJ006A 柱穴 PT1105 上面の埋土上層出土。半透明の黒曜石。やや風化した礫面
2814	PJ-6　④（ベルト）	原石	黒曜石	1/1				13.90	PJ006 住埋土一括取り上げ。すりガラスのような礫面の原石。半透明の黒曜石
2815	PJ-6　④（ベルト）	原石	黒曜石	1/1				11.80	PJ006 住埋土一括取り上げ。すりガラスのような礫面の原石。半透明の黒曜石
2816	PJ-6　④（ベルト）	石匙	珪質頁岩	1/4				4.10	PJ006 住埋土一括取り上げ。つまみ部のみの破片。
2817	PJ-6　③（ベルト）	石匙	珪質頁岩	3/4	22.0	49.0	7.0	7.80	PJ006 住埋土一括取り上げ。先端折損
2818	PJ-6　284	石匙	頁岩	1/2	45.0	39.0	9.0	15.80	PJ006A 住西壁沿い、埋土下層出土。折損
2819	PJ-6　337	石匙	珪質頁岩	1/1	26.0	42.0	7.0	5.60	PJ006A 住北壁沿い、埋土下層出土。ミニチュア石匙か
2820	PJ-6	石匙	頁岩	1/1	35.0	58.0	5.0	10.80	PJ006 住埋土一括取り上げ。
2821	PJ-6　194	石匙	チャート	3/4	33.0	49.0	9.0	11.40	PJ006B 住西壁沿い、埋土上層出土。灰色チャート。
2822	PJ-6　157	抉入刺突具	黒曜石	1/1	38.0	18.0	6.0	3.10	PJ006A 住南壁沿い、埋土下層出土。半透明の黒曜石。
2823	PJ-6　②（ベルト）	剥離のある剥片	チャート	3/4	32.0	25.0	6.0	5.70	PJ006 住埋土一括取り上げ。灰色チャート。両面加工。石鏃未成品か
2824	PJ-6　30	石鏃	黒曜石	3/4	－	18.4	3.0	(0.71)	PJ006A 住埋土上層出土。先端折損
2827	PJ-6　232	石鏃	黒曜石	1/1	22.4	12.3	2.2	0.46	PJ006B 住埋土上層出土。透明な黒曜石。
2828	PJ-6　317	石鏃	黒曜石	3/4	17.3	(13.5)	2.9	(0.32)	PJ006 住埋土、PT98 上面、埋土下層で出土。PT98 に帰属する可能性あり。片脚欠損。透明な黒曜石
2829	PJ-6　270	石鏃	黒曜石	1/1	14.7	10.5	3.2	0.27	PJ006A 住西壁沿い、埋土上層出土。縞のある半透明の黒曜石
2830	PJ-6　83	石鏃	黒曜石	3/4	22.6	－	2.7	(0.57)	PJ006B 住、PT71 西脇の床面で出土。片脚欠損。半透明の黒曜石
2831	PJ-6　286	石鏃	黒曜石	1/1	16.9	14.7	2.5	0.36	PJ006 住埋土、PT99 上面の埋土上層で出土。半透明の黒曜石
2832	PJ-6　②（ベルト）	石錐	チャート	1/1	42.0	31.0	7.0	8.40	PJ006 住埋土一括取り上げ。先端部欠損。暗黒褐色、半透明のチャート
2833	PJ-6　②（ベルト）	石鏃	黒曜石	1/1	20.3	20.2	7.2	2.64	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。半透明の黒曜石
2834	PJ-6　③（ベルト）	石鏃	黒曜石	1/1	23.8	20.1	7.1	1.98	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。縞のある透明な黒曜石
2835	PJ-6　①	石鏃	黒曜石	1/1	28.0	19.0	8.0	3.40	PJ006 住埋土一括取り上げ。先端部欠損。漆黒の黒曜石
2836	PJ-6　③（ベルト）	石鏃	黒曜石	3/4	20.3	17.8	4.6	1.56	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。漆黒の黒曜石
2837	PJ-6　③（ベルト）	石錐	黒曜石	1/1	37.0	16.0	9.0	2.30	PJ006 住埋土一括取り上げ。砕片を素材とした石錐。透明な黒曜石
2838	PJ-6　③	石鏃	黒曜石	1/1	23.3	21.4	9.8	3.56	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。縞のある透明な黒曜石
2839	PJ-6　①	両極石器	黒曜石	1/1	26.0	18.0	13.0	6.50	PJ006 住埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
2840	PJ-6　①	石鏃	黒曜石	1/1	23.6	15.0	5.8	1.76	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。半透明な黒曜石
2841	PJ-6	石鏃	黒曜石	3/4	20.2	21.6	6.0	2.05	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。縞のある半透明な黒曜石
2842	PJ-6	石鏃	黒曜石	1/1	25.2	18.8	12.0	3.78	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。縞のある透明な黒曜石
2843	PJ-6	石鏃	黒曜石	3/4	23.0	18.2	4.4	1.20	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。透明な黒曜石
2844	PJ-6	石鏃	黒曜石	1/1	22.2	14.9	5.3	1.69	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。縞のある半透明な黒曜石
2845	PJ-6　②	石鏃	黒曜石	1/1	19.2	15.9	5.7	1.42	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。縞のある透明な黒曜石
2846	PJ-6	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	20.2	16.5	4.1	1.37	PJ006 住埋土一括取り上げ。剥片の縁辺部を全周にわたり細かく剥離。石鏃未成品か。透明な黒曜石
2847	PJ-6　③（ベルト）	石鏃	黒曜石	3/4	(15.4)	－	2.8	(0.58)	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。白斑のある漆黒の黒曜石
2848	PJ-6　①（ベルト）	石鏃	黒曜石	1/6	14.1	12.6	4.2	0.58	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。透明な黒曜石
2849	PJ-6　②	石鏃	黒曜石	1/2				0.85	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品。透明な黒曜石
2850	PJ-6　④	石鏃	黒曜石	1/1	12.8	12.2	2.3	0.32	PJ006 住埋土一括取り上げ。縞のある透明な黒曜石

PJ006 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(mm)	現存幅(mm)	現存厚(mm)	重量(g)	観察所見
2851	PJ-6 ①	石鏃	黒曜石	1/1	12.2	12.7	3.0	0.28	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品か。透明な黒曜石
2852	PJ-6 ①	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.30	PJ006 住埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
2853	PJ-6	石鏃	黒曜石	1/4	-	-	3.1	(0.53)	PJ006 住埋土一括取り上げ。中央付近で折損。縞のある半透明な黒曜石
2854	PJ-6 ④（ベルト）	石鏃	黒曜石	1/2	-	20.4	2.7	(0.46)	PJ006 住埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
2855	PJ-6 ④（ベルト）	石鏃	黒曜石	3/4	(15.6)	(12.7)	4.6	(0.62)	PJ006 住埋土一括取り上げ。未成品か。縞のある半透明な黒曜石
2856	PJ-6 ④（ベルト）	原石	黒曜石	1/1				2.50	PJ006 住埋土一括取り上げ。薄い板状。転石ズリ。縞のある半透明な黒曜石
2857	PJ-6 ③（ベルト）	石鏃	黒曜石	3/4	20.2	(15.8)	3.5	(0.79)	PJ006 住埋土一括取り上げ。片脚欠損。縞のある透明な黒曜石
2858	PJ-6 ③（ベルト）	石鏃	黒曜石	3/4	24.5	-	3.0	(0.59)	PJ006 住埋土一括取り上げ。端整なつくり。片脚欠損。透明な黒曜石
2859	PJ-6 ②（ベルト）	石鏃	黒曜石	3/4	21.1	(10.3)	2.7	(0.29)	PJ006 住埋土一括取り上げ。端正なつくりの細身の石鏃。片脚欠損。縞のある透明な黒曜石
2860	PJ-6 ①（ベルト）	石鏃	黒曜石	3/4	20.4	-	3.5	(0.52)	PJ006 住埋土一括取り上げ。基部抉りが深い。片脚欠損。端正なつくり。縞のある透明な黒曜石
2861	PJ-6 ①（ベルト）	石鏃	黒曜石	1/8	-	-	2.9	(0.34)	PJ006 住埋土一括取り上げ。曇りガラスのような灰白色の黒曜石
4359	DK-495	石鏃	黒曜石	1/1	17.9	13.9	7.0	1.20	DK495 出土。未成品。透明感のある黒曜石
4363	PT-70	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	26.2	25.6	10.2	4.90	PT70 出土。両極打法の痕跡あり。両極石器もしくは石鏃未成品か。半透明、すりガラス状の黒曜石
4364	PT-80　1	原石	黒曜石					24.50	PT80 出土。河川転石状の礫面、風化した剥離面の原石で、新鮮な剥離面がある。透明感のある黒曜石
6943	IG-62	削器	珪質頁岩	1/1	20.0	44.0	9.0	7.00	PJ006B 住南西壁沿い、埋土上層出土。灰白色の珪質頁岩
10571	PJ-6　109	石皿	安山岩類	1/6	(102.0)	(121.0)	(42.0)	561	PJ006B 住南壁沿い、埋土上層出土。凹み面は未成品のような小さな凹凸あり。裏面は平坦で敲打痕と若干の磨滅痕あり。
10573	PJ-6　176	磨石類	安山岩類	1/1	124.0	100.0	44.0	807	PJ006A 住東壁沿いの床面で出土。磨滅痕と敲打痕あり
10574	PJ-6　359	磨石類	安山岩類	1/1	173.0	69.0	68.0	1,202	PJ006B 住西壁沿いの床面で出土。稜磨石。ほぼ全面が磨滅し、作業面が多面的である
10575	PJ-6　364	台石	砂岩類	不明	(162.0)	(151.0)	(45.0)	1,807	PJ006 住南壁沿い、埋土上層出土。敲打により板状に成形。平坦な面に磨滅痕あり。裏側の凹み面に敲打痕あり。意図的な打撃により割っている。
10576	PJ-6　366	石皿	安山岩類	1/2	(324.0)	340.0	89.0	12,600	PJ006B 住西壁沿い、DK495 上面の床面で出土。凹み面は平滑に磨耗。被熱して灰黒色の変色、ひび割れが認められる。
10577	PJ-6　365	台石	砂岩類	不明	(159.0)	(153.0)	(43.0)	1,140	10575 と同位置で出土。10575 と同一個体もしくは同一母岩。機能面の状況も同じ。
10579	PJ-6　367	台石	安山岩類	1/2	(224.0)	(353.0)	(180.0)	10,700	PJ006B 住北西壁沿いの床面で出土。片面は平坦で敲打痕と若干の磨滅痕あり

PJ007 号住居

位　　置：C-4 グリッドと D-4 グリッドにまたがって位置する。DK19 号土坑に切られるが、不整形で風倒木痕もしくは後世の攪乱と思われる。住居南側は斜面で削平され失われている。

規　　模：残る範囲でみる限り東西長 5.3m 程度の円形プランで、竪穴は深さ 20 cmを残す。

埋　　土：暗褐色土が堆積する。遺構の保存状態が悪いため堆積過程の観察はできない。

床　　面：黄褐色砂質の地山をそのまま床面としている。

**炉　　**：調査範囲で検出されなかった。

周　　溝：北壁沿いに小ピットを伴う溝を検出した。

柱　　穴：深さ 40 cm前後の柱穴にふさわしいピットが 8 基検出された。これらが柱穴と思われ、その数から 3 回程度の建て替えが想定される。

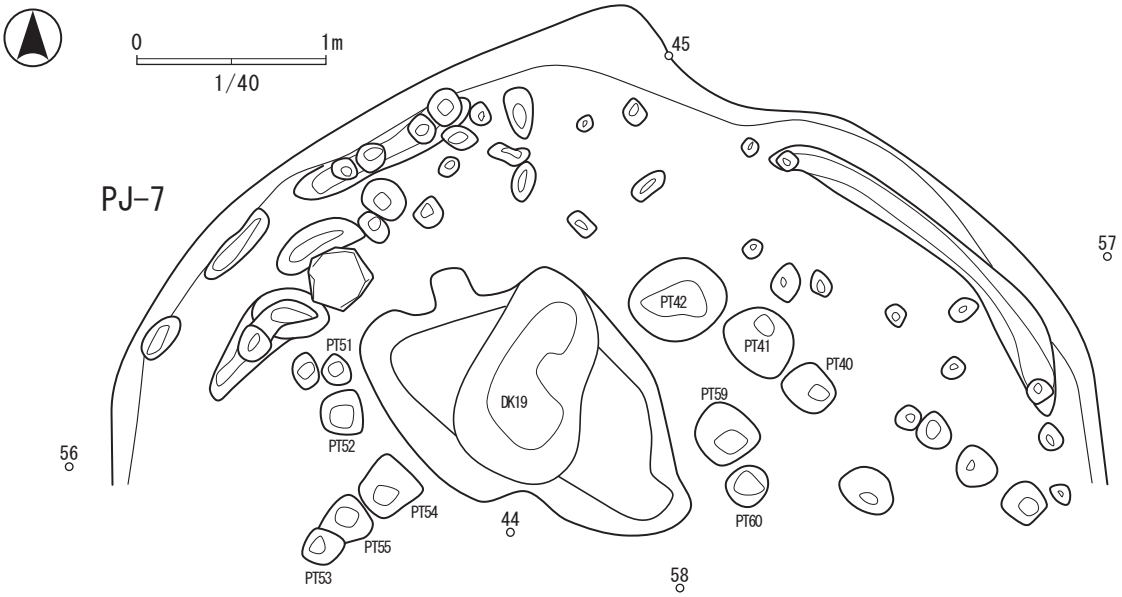
出土遺物：DK19 号土坑出土の遺物を含めて報告する。土器は埋土から散発的に出土した破片のみである。出土総量は 1807g で、内訳は中越式 261g、木島式 56g、神ノ木式 161g、有尾式 219g、諸磯式 613g、前期と思われる土器破片 457g、中期土器破片 12g である。

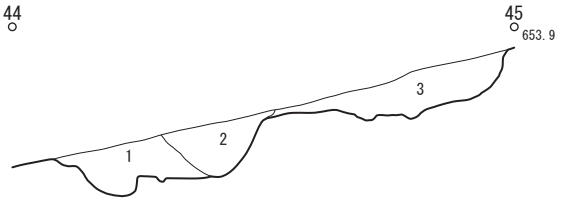
出土した石器は、抉入石器 1 点、磨石類 1 点、台石 1 点、剥離のある剥片 2 点である。このほか黒曜石の剥片等 68 点 147g、石英岩剥片 2 点 9.1g がある。

時　　期：本遺構の時期の決定につながる出土状況を示す資料は得られなかったが、諸磯式土器破片が最も多くまとまっていることから、本住居は諸磯 b 式期に位置づけられると思われる。

PJ007 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-040	7 住内	23*23	40	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 20% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ007 住柱穴
PT-041	7 住内	35*26	37	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ007 住柱穴
PT-042	7 住内	46*35	45	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ007 住柱穴
PT-051	7 住内	19*(18)	8	10YR3/4（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 2% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-052	7 住内	27*24	38	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 20%、10YR5/6（黄褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ007 住柱穴
PT-053	7 住内	18*(15)	38	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ007 住柱穴
PT-054	7 住内	33*(23)	48	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ007 住柱穴
PT-055	7 住内	26*-	12	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。	
PT-059	7 住内	32*25	44	10YR2/3（黒褐）に 10YR5/6（黄褐）が 3%、混じる。シルト粒土。しまる。	PJ007 住柱穴
PT-060	7 住内	23*19	35	10YR2/3（黒褐）に 10YR5/6（黄褐）が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ007 住柱穴





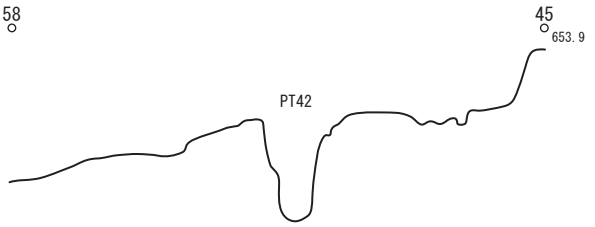
1層　DK19号土坑埋土。10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR4/4(褐)が8%、10YR4/6(褐)が2%混じる、花崗岩小礫が1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

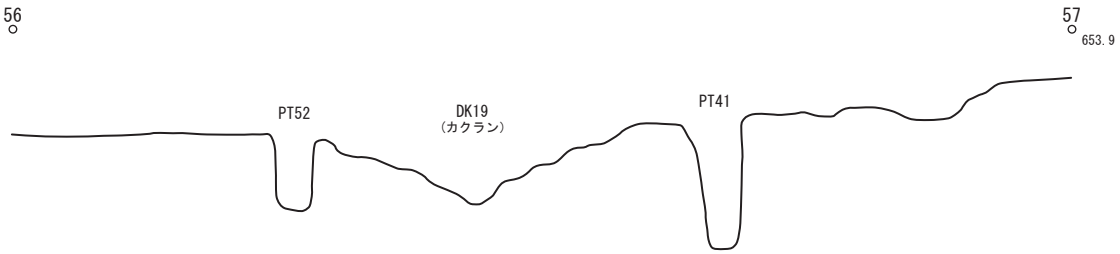
2層　DK19号土坑埋土。110YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、10YR4/6(褐)が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。(DK-19)

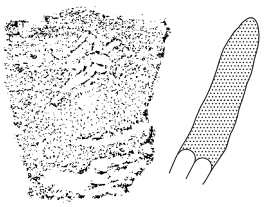
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)15%、10YR4/6(褐)が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

地山　10YR5/6(黄褐)に10YR2/3(黒褐)が30%、10YR3/4(暗褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

壁　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR2/3(黒褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

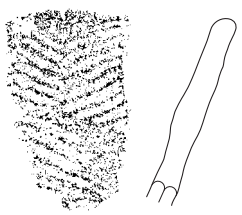






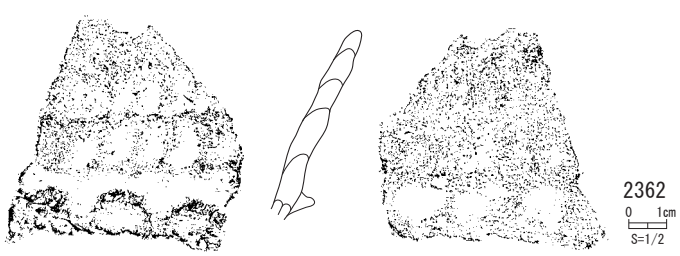
2360
0　1cm
S=1/2

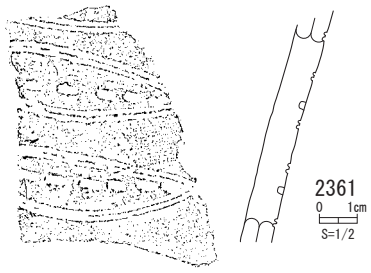
2363
0　1cm
S=1/2

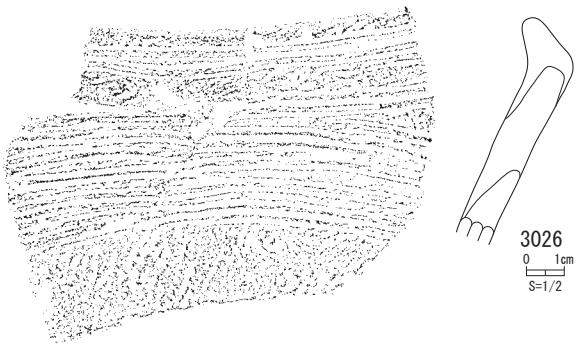


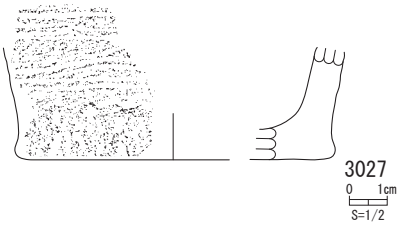
2364
0　1cm
S=1/2

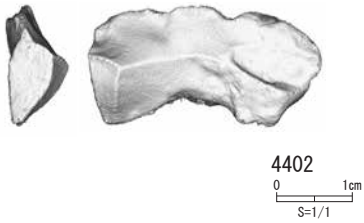
PJ007 号住居・PJ007 号住居出土遺物

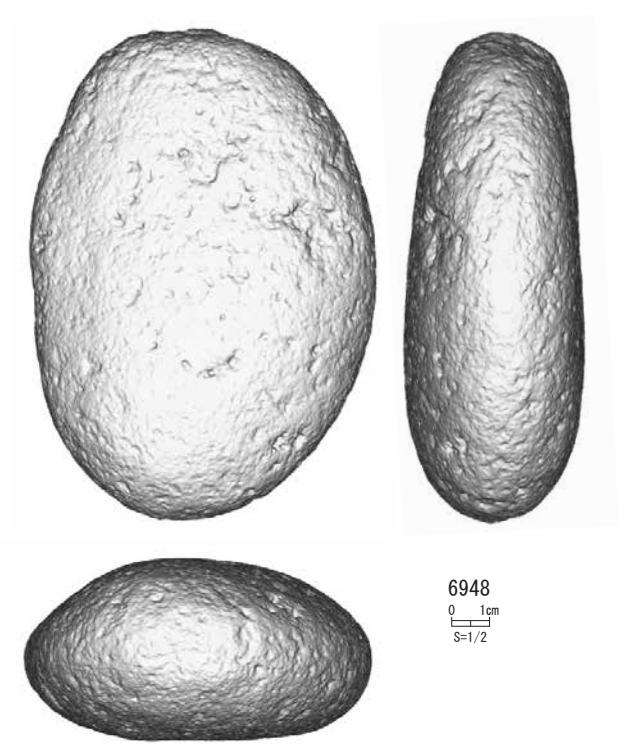


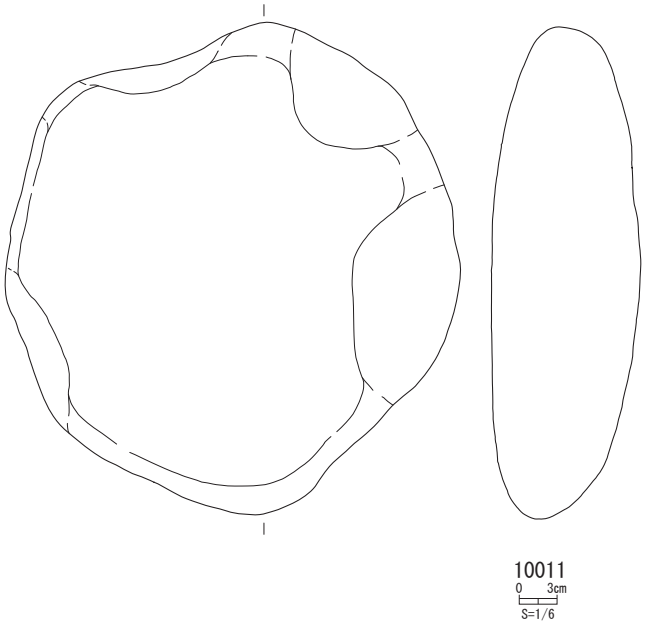












PJ007 号住居出土遺物

PJ007 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2360	6-010-2012 PJ-7 11	口縁部	−	−	−	26.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/4	DK19 出土。胎土に繊維を含む。中越式
2361	6-010-2012 PJ-7 8	胴部	−	−	−	39.0	破片	5YR4/6 5YR3/3	DK19 出土。竹管による平行沈線で描出した木の葉状文様内に列点文。内面ミガキ顕著。胎土に繊維を含まない。有尾式か
2362	6-010-2012 PJ-7 7	口縁部	−	−	−	30.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	北壁沿いの埋土上層出土。内外面指頭圧痕顕著。頸部に刻み隆帯。胎土に繊維を含まない。木島式
2363	6-010-2012 PJ-7	口縁部	−	−	−	21.0	破片	7.5YR4/2 5YR5/6	埋土一括取り上げ。胎土に繊維を含まない。中越式
2364	6-010-2012 PJ-7	口縁部	−	−	−	16.0	破片	7.5YR4/3 5YR4/4	埋土一括取り上げ。羽状縄文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
3026	6-010-2012 IG-152	口縁部	−	−	−	123.0	破片	5YR5/6 5YR4/6	埋土上層出土。集合沈線文と縄文地文。諸磯ｂ式
3027	6-010-2012 IG-105	胴部～底部	−	−	−	18.0	破片	5YR4/4 5YR4/6	埋土上層出土。集合沈線と縄文地文。諸磯ｂ式
3028	6-010-2012 IG-65	胴部	−	−	−	15.0	破片	5YR5/4 5YR5/6	埋土上層出土。沈線と縄文地文。諸磯ｂ式

PJ007 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
2386	PJ-7 10	剥離のある剥片	珪質頁岩	1/1				6.90	DK19 出土。白筋のある青灰色の珪質頁岩
4401	PT-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				5.40	PT42 出土。河川転石状の礫面がある透明感のある黒曜石
4402	PT-41	抉入石器	黒曜石	1/1	30.0	16.0	7.0	2.20	PT41 出土。微小剥離のある抉り。透明感のある黒曜石
6948	IG-192	磨石類	安山岩類	1/1	129.0	91.0	49.0	767	北壁沿い、埋土上層出土。片面に顕著な磨滅痕。長軸端部に敲打痕、側縁稜磨石的。
10011	PJ-7 13	台石	安山岩類	1/1	356.0	383.0	125.0	21,900	PT51 北側の床面出土。わずかな敲打痕あり。磨滅痕はみられない。

写真２　現状保存区域の遺構検出状況（Ｇ－８グリッド付近）

PJ008 号住居

位　　置：E-4 グリッドに位置し、前期前葉の PJ004 号住居、PJ005 号住居、PJ009 号住居と重複する。これら 3 軒の住居との重複関係は確認できなかった。DK70 号土坑、DK73 号土坑、DK74 号土坑、DK83 号土坑に切られる。さらに現地調査で認識できなかった前期後葉の住居が重複する。これを PJ008B 号住居とし、別途、報告する。

規　　模：南北 6.5m の隅丸方形と思われる。住居西半分は削平され壁の立ち上がりを検出できなかった。竪穴は深さ 20 cmが残る。

埋　　土：竪穴が浅いため埋土断面図は省略する。暗褐色土を基調とする埋土で、DK74 号土坑など後出遺構の黒褐色埋土とは明瞭に識別される。埋土中には地山由来の黄褐色砂質土のブロックが散在し、本住居の床の貼り直し、もしくは後出住居の床面の痕跡と推測される。ただしこのブロックは水平に整然と検出されていない。

床　　面：地山の粘性がある黄褐色砂質土を床面とする。住居中央付近がやや硬くしまっていたが、貼床は検出されなかった。

炉　：PT138 の南側にわずかに床面が焼土化した箇所を検出した。これが地床炉と思われる。焼土は PT138 とその脇の小ピットに切られていた。

周　　溝：壁沿いとその内側に数条の小溝を検出した。これらが周溝と思われる。建て替えが想定されるが、それに見合った数の柱穴は検出されなかった。

柱　　穴：PT121、PT124、PT134 の 3 基は深さが 65 cm、67 cmと揃い、かつ埋土から中越式、神ノ木式土器破片が出土していることから、本住居の主柱穴と判断される。本来、もう 1 基の柱穴があるはずだが、現地調査では認識できなかった。改めて調査記録写真を精査したところ、PT115 と DK73 の間に礫を伴う落ち込みが写り込んでいることを確認した。地山には礫が混じっていないため、この落ち込みが残る柱穴 1 基である可能性が高い。平面図にその位置を加筆し示した。この想定を是とすると、本住居は 4 本の主柱穴構造である。隣接する PJ004 号住居、PJ005 号住居と同じ構造である。

その他、DK069 号土坑、PT069 号ピット、PT123 号ピットも建替えに伴う柱穴の可能性が疑われる。

出土遺物：出土した土器の総量は実測分 5,761g で、中越式、神ノ木式である。両土器型式の量的比率は、中越式が 6 割、神ノ木式が 4 割程度である。本住居で取り上げた諸磯式土器はすべて PJ008B 号住居の遺物として別途、集計した。

出土した石器は、石鏃 12 点、石匙 1 点、両極石器 1 点、磨石類 4 点、台石 1 点、剥離のある剥片 2 点である。このほか剥片類が 194 点出土し、うち 190 点が黒曜石の剥片である。

時　　期：床面に近い位置で出土した 621、624、631、633 が本住居の廃絶時期を示すと判断されることから、本住居は中越Ⅳ式・神ノ木式期に位置付けられる。

PJ008 号住居土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	径（cm）	深さ（cm）	覆土色	備考（遺物など）
PT-069	5 住内	47*37	12	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ008 号住居柱穴か。木島式か中越式土器破片
PT-121	8 住内	32*28	65	1 層　10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 2% 混じる。シルト粒土。しまる。 2 層　10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ008 号住居柱穴。中越式土器破片
PT-123	8 住内	45*34	45	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 30%、10YR5/6（黄褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	中越式土器、関山式土器破片
PT-124	8 住内	56*37	67	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ008 号住居柱穴。中越式、神ノ木式土器破片
PT-134	8 住内	40*35	67	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 30%、10YR2/3（黒褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ008 号住居柱穴。中越式、神ノ木式
DK-069	5 住 北東 0.5 m	45*50	43	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、花崗岩小礫と焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ008 号住居柱穴か。中越式、神ノ木式土器破片

PJ008B 号住居・PJ009B 号住居

位　　置：E-4 グリッドに位置する諸磯式期の住居で、PJ008 号住居より新しい。同じ諸磯式期の DK83 号土坑などと重複するが新旧関係は不明である。PJ009B 号住居は PJ008B 号住居の東側に隣接し、同じく諸磯式期の住居と思われる。PJ009 号住居と PJ040 号住居より新しい。重複する土坑との新旧関係は不明である。

規　　模：両住居ともに遺構確認面で床面も削平されて失われていたため、規模は不明である。想定される柱穴の位置から 5m から 6m 程度の円形住居と思われる。

埋　　土：埋土は残されていない。

床　　面：検出されなかった。

**炉　　**：検出されなかった。

周　　溝：検出されなかった。

柱　　穴：本住居を設定した理由は、柱穴と思われる類似する規模のピットが複数検出され、それらから諸磯式土器破片が出土したことにある。本住居の柱穴と想定したピットは、DK75 号土坑、PT109 号ピット、PT115 号ピット、PT133 号ピットの 4 基である。このほか PT122 号ピット、PT126 号ピット、PT008B 号ピットも深さにばらつきがあるが、柱穴の可能性がある。

出土遺物：PJ008 号住居で報告したとおり、出土位置に関わらず諸磯式土器は PJ008B 号住居に区分、集計した。その結果、出土した土器の総量は PJ008B 号住居分が 3,543g で、諸磯式土器と同一地点で出土した中越式、神ノ木式が混じるが、大半が諸磯式である。

PJ009B 号住居に仕分けて集計した土器の総量は 10,954g で、諸磯式土器と同一地点で出土した中越式と神ノ木式 349g が混じるが、それ以外はほぼすべて諸磯式土器である。

さらに隣接し、重複する PJ040 号住居で出土した釈迦堂 Z3 式、有尾式と諸磯式土器は、すべて PJ009B 号住居分として集計した。その総量は 9,928g で、釈迦堂 Z3 式土器は 10 片程度、有尾式は数片で、諸磯 b 式土器破片が主である。諸磯 a 式と c 式土器破片もわずかに含まれる。

なお、石器は分別が困難であるため、PJ008B 号住居、PJ009B 号住居に仕分けたものはない。重複する PJ040 号住居として報告した。

時　　期：両住居ともに諸磯 b 式期に位置づけられる。

PJ008 号・PJ009B 号住居土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
DK-075	8 住内	56*30	29	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器破片
PT-109	8 住内	40*35	27	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR4/6（褐）が 5%、花崗岩礫が混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、神ノ木式、諸磯式
PT-115	8 住内	37*32	28	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	神ノ木式、諸磯式土器破片
PT-122	8 住内	38*30	55	1 層　10YR2/3（黒褐）に 10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。 2 層　10YR3/3（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 30% 混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式？土器破片
PT-126	8 住内	37*34	17	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式？土器破片
PT-133	8 住内	40*31	20	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式土器破片
PT-008B	8 住内	35*35	15	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-419	9 住内	40*30	30	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式、諸磯 b 式土器破片
PT-423	9 住内	34*38	44	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-427	48 住 西壁	45*50	26	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 10%、炭化物が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、神ノ木式、諸磯 b 式土器破片
PT-528	8 住 北東壁	36*(39)	48	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 5%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	径 20 cm程度の柱痕あり。中越式、神ノ木式、諸磯 b 式土器
PT-530	40 住内	26*24	14	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器破片
PT-531	40 住内	31*27	14	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 30% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器破片
PT-538	40 住内	43*-	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式、神ノ木式、諸磯式土器破片
PT-548	40 住内	36*-	37	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）と焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、神ノ木式、諸磯式土器破片。中越式、神ノ木式は DK317 からの混入か。
PT-549	40 住内	32*-	34	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）と焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	神ノ木式、諸磯式土器破片
PT-554	40 住内	56*44		10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）と炭化物が 3% 混じる。	中越式、諸磯式土器破片

PJ009 号住居

位　　置：F-4 グリッドに位置する。PJ008 号住居、PJ040 号住居、PJ008B 号住居、PJ009B 号住居と重複する。本住居が PJ040 号住居を切る。また PJ008B 号住居、PJ009B 号住居に切られる。PJ008 号住居との新旧関係は不明である。

DK305 号土坑、DK037 号土坑、DK083 号土坑、PT419 号ピット、PT427 号ピット、PT528 号ピット、PT530 号ピット、PT531 号ピット、PT538 号ピット、PT554 号ピットに切られる。

規　　模：北西角と南端で周溝、壁を検出したのみで、規模、形状は不明である。PJ040 号住居確認面で本住居の東側輪郭を示す埋土の変色がみえ、平面図に点線で示した。これによると小判型の小さな平面形となるが、同時期の他の住居と形態が大きく異なる。

埋　　土：暗褐色土が堆積していた。竪穴が浅いため断面実測図は省略した。

床　　面：PJ040 号住居と重複しない範囲は、黄褐色砂質土をそのまま床としている。顕著に固く踏みしまった箇所は確認されなかった。

炉　：わずかに床が焼土化した地点を検出し、これが地床炉と思われる。

周　　溝：北西角で 4 条の小溝を検出した。外側をめぐる小溝と内側をめぐる小溝との間は 1m 以上離れていて、両者の関係は確認できなかった。

柱　　穴：PT540 号ピットが柱穴かと思われるが、他に検出されなかった。PT423 号ピットも可能性があるが、遺物を伴わず時期が特定できない。

出土遺物：確実に本住居に帰属すると思われる土器は 611 のみである。PJ009 号住居の埋土一括で取り上げた土器破片には、中越式、神ノ木式、諸磯式とがあり、わずかに中期の破片が混じる。これらは出土位置から帰属先遺構を決定できないため、便宜上、中越式と神ノ木式および併行する土器型式を本住居に帰属する遺物として抽出、集計する。また諸磯式はすべて PJ009B 号住居分とした。

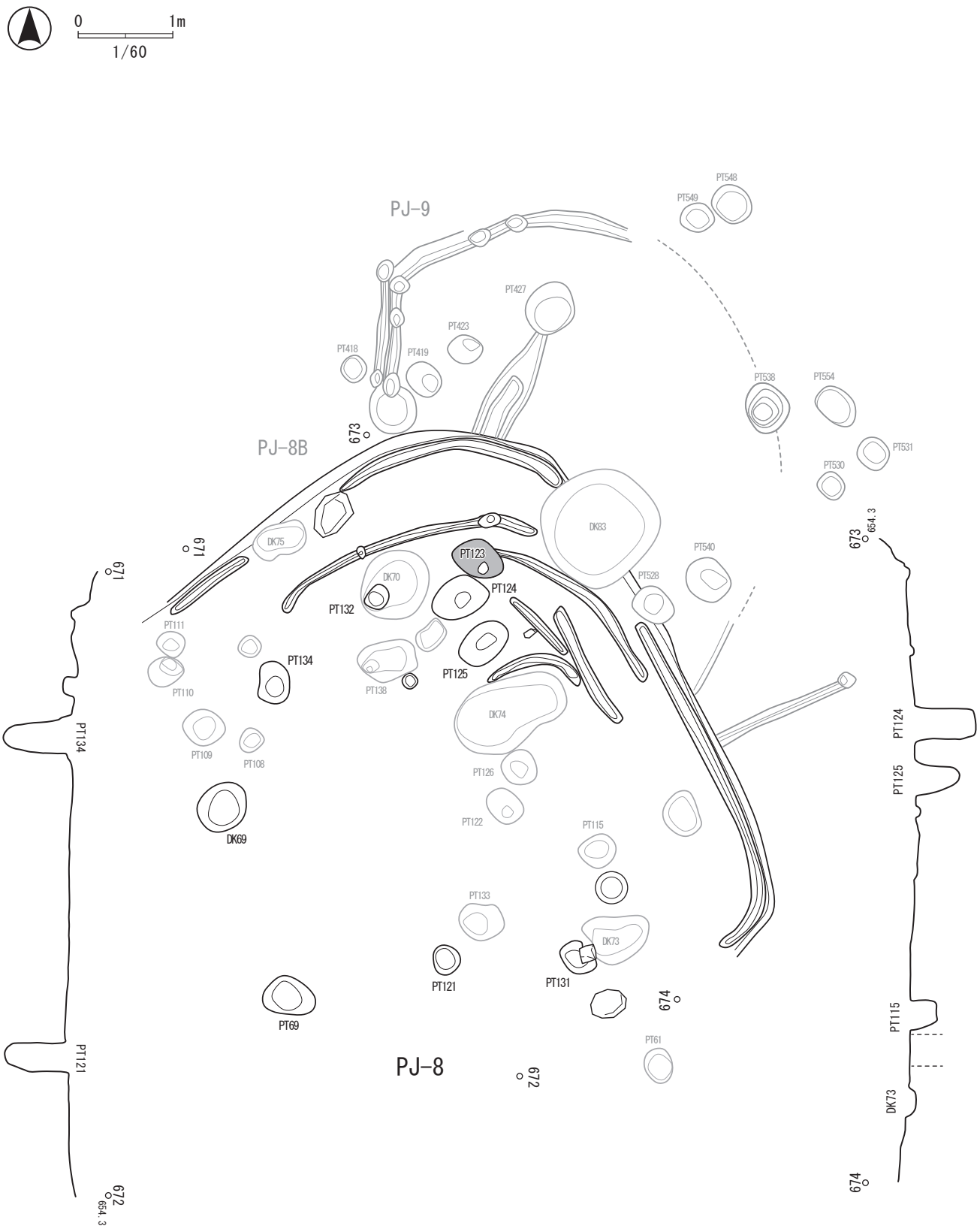
以上の資料操作により本住居分とした土器の総量は 1,865g で、破片点数でみると中越式が大半を占める。

本住居に確実に帰属する石器は出土しなかった。剥片類は、出土位置と高さを基準に本住居分と PJ009B 号住居分とに仕分けようと試みたが、不確実性が大きいため、すべて PJ009B 号住居に集計した。

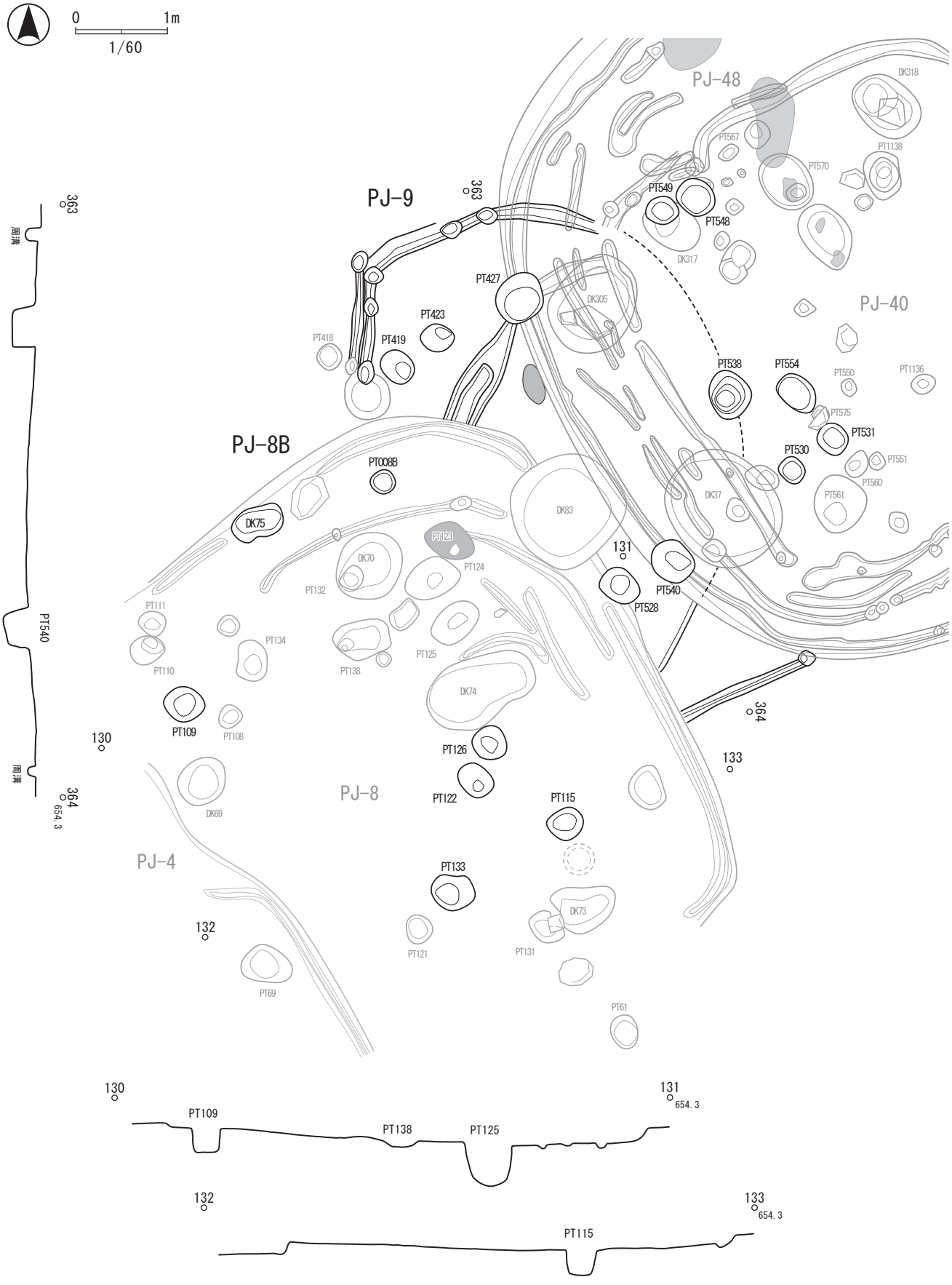
時　　期：611 土器から本住居は前期前葉の神ノ木式期に位置付けられる。

PJ009 号住居土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-540	48 住 南西壁	35*-	21	10YR3/2（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ009 号住居柱穴か。中越式土器破片


0
1m
1/60
PJ-9
PJ-8B
PJ-8
PT548
PT549
PT427
PT423
PT418
PT419
PT538
PT554
PT531
PT530
673
DK83
DK75
671
PT540
PT528
PT123
DK70
PT124
PT132
PT111
PT134
PT125
PT110
PT138
DK74
PT109
PT108
PT126
PT122
DK69
PT115
PT133
DK73
PT121
PT131
674
PT69
PT61
672
654.3
PT124
PT125
PT115
DK73

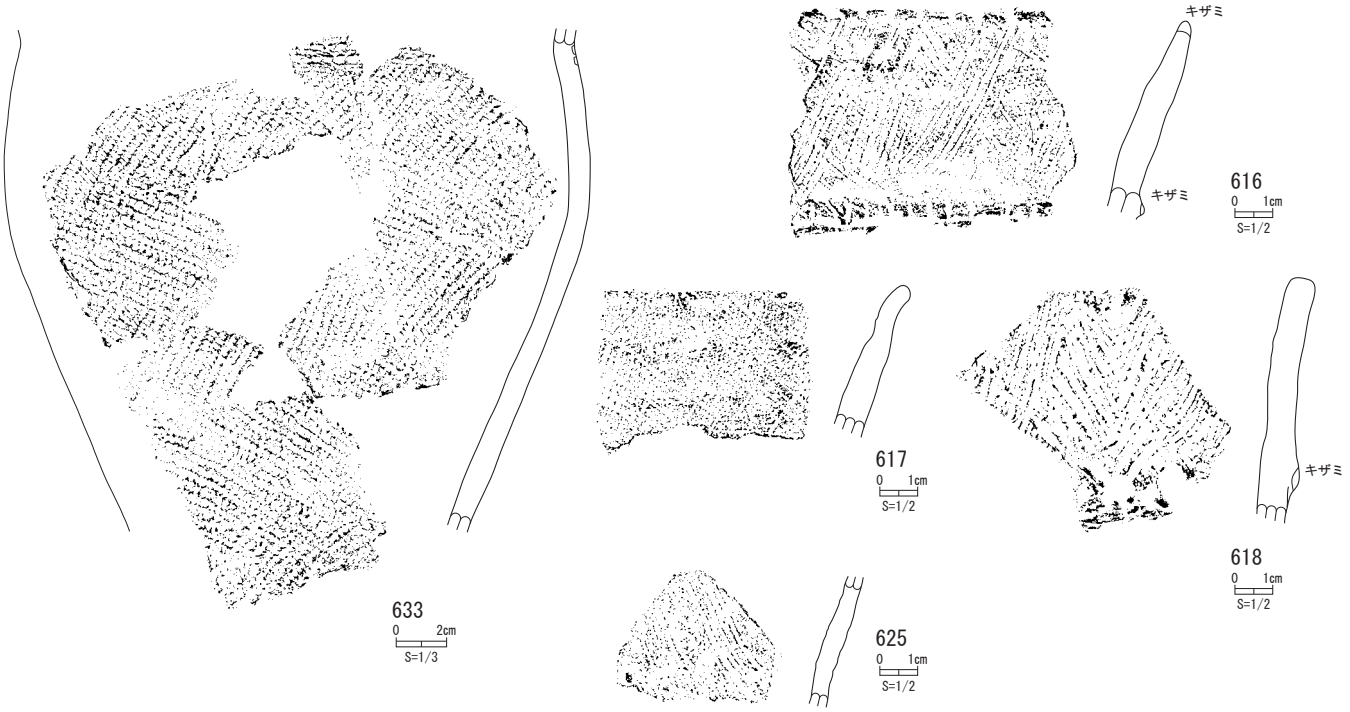
PJ008 号住居



PJ008B 号住居　PJ009 号住居

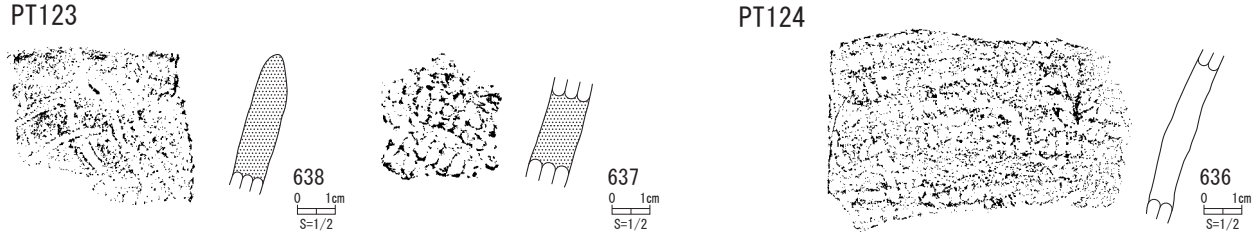
PJ-8

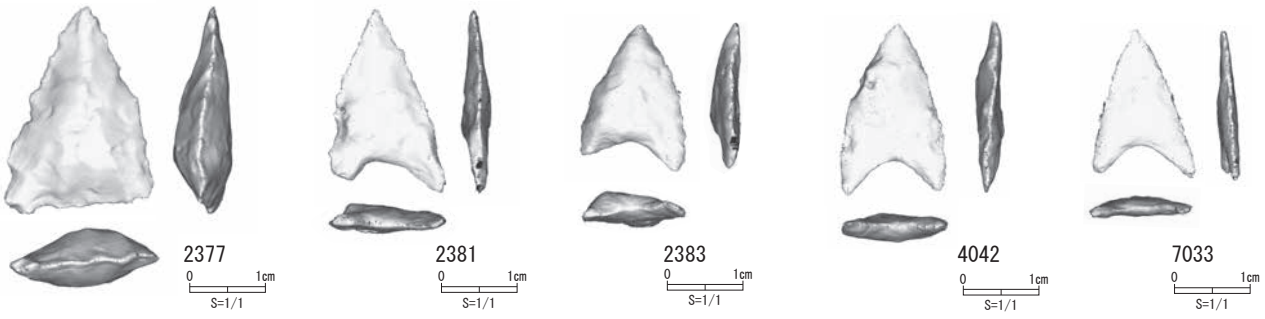
PJ008 号住居出土遺物

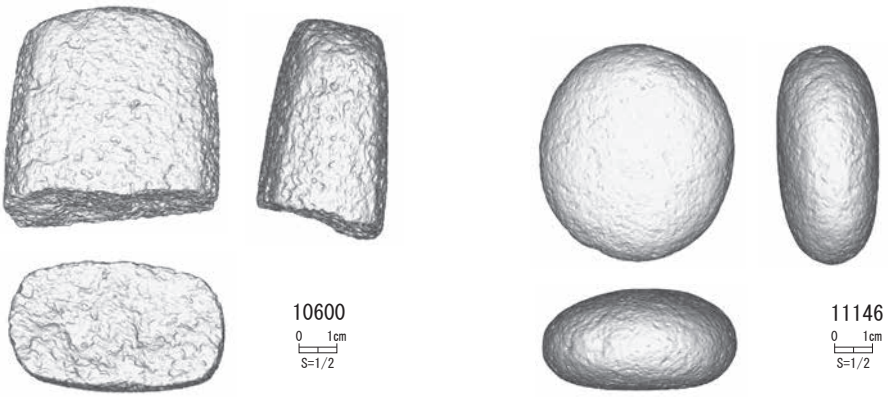


PT123

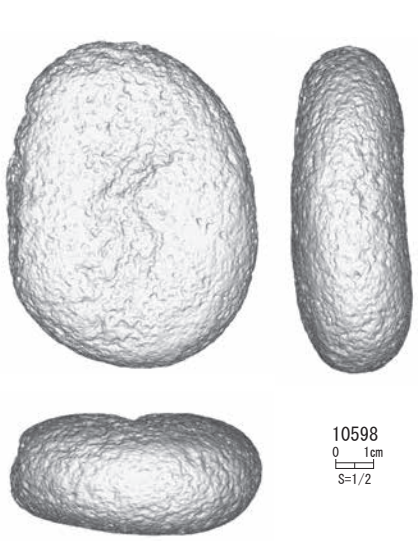
PT124

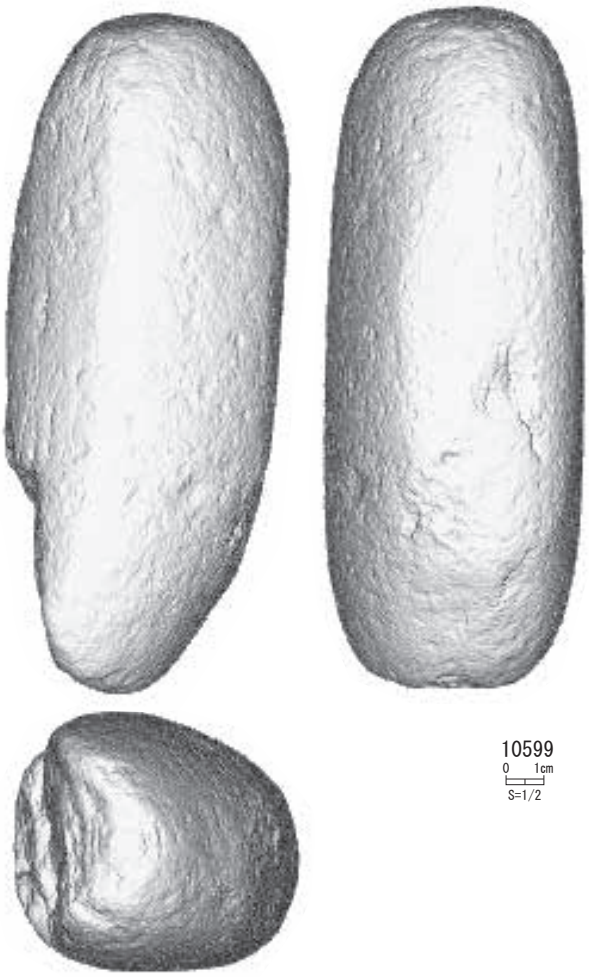


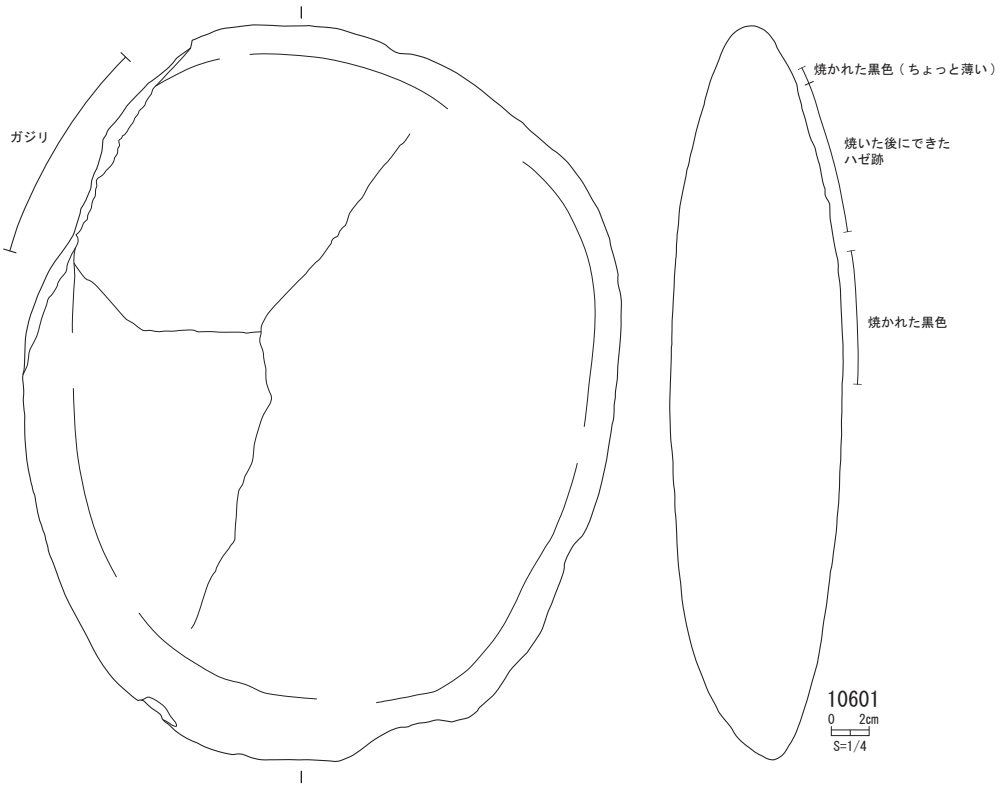




PJ008 号住居出土遺物

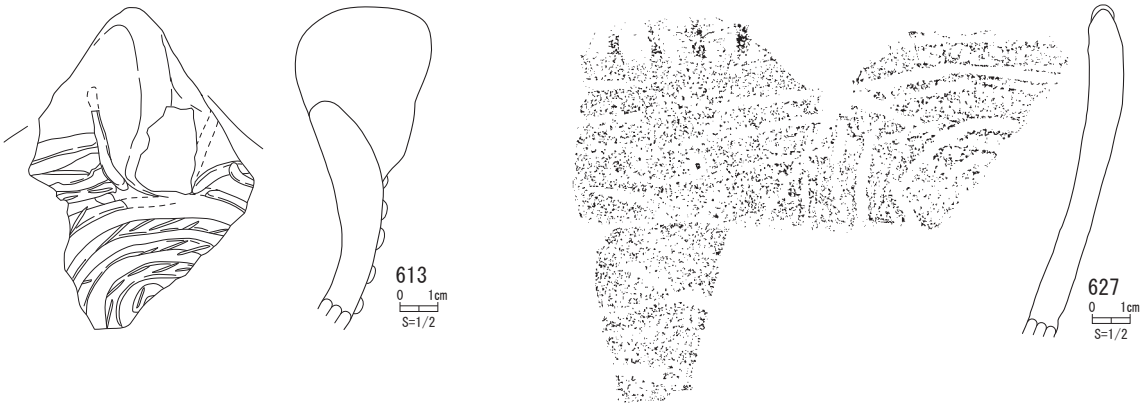




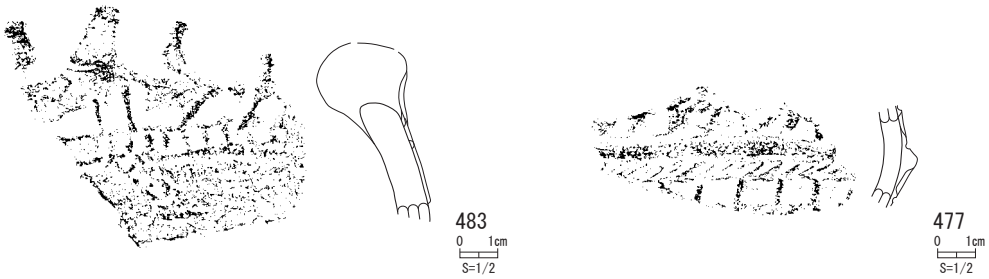


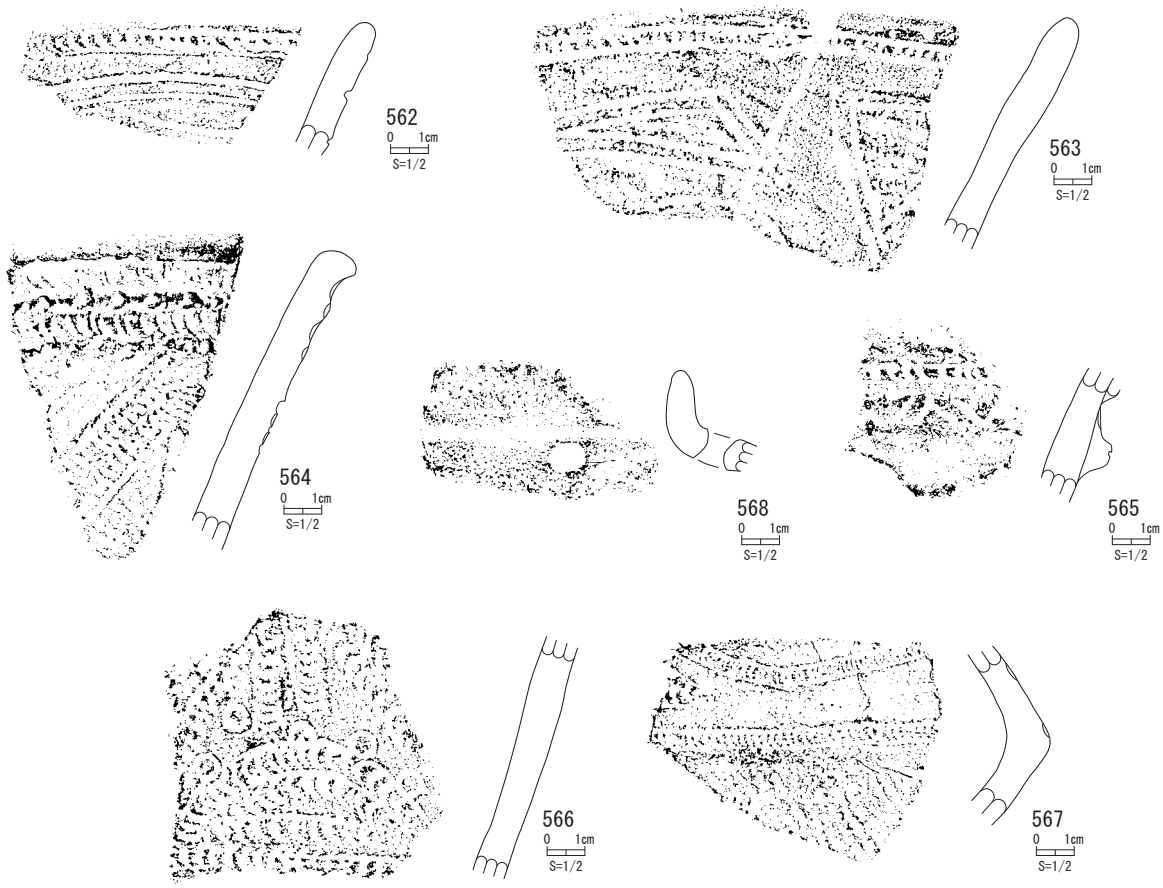
PJ008 号住居出土遺物

PJ-8B



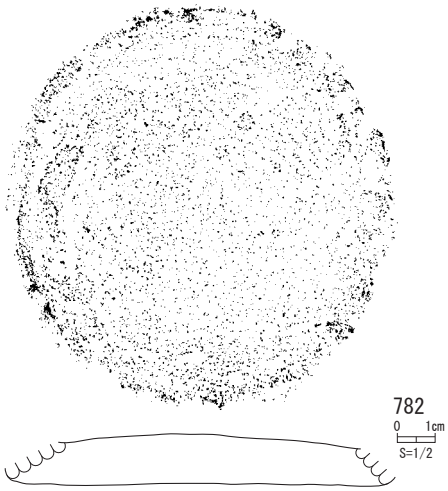
PJ-9B

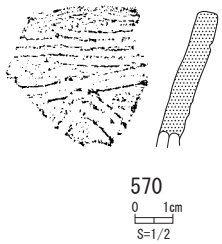


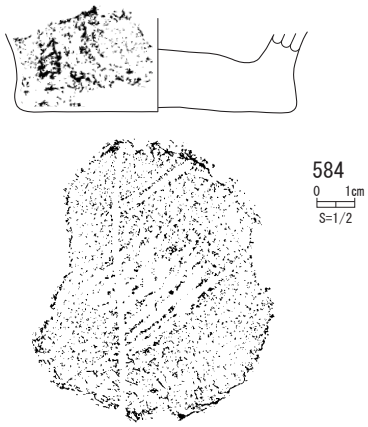


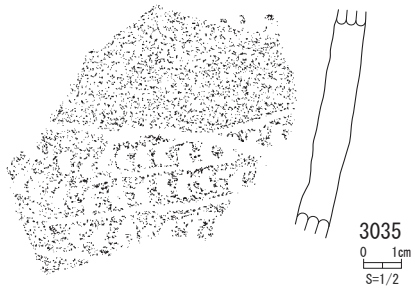
PJ008B 号・009B 号住居出土遺物

PJ-9B

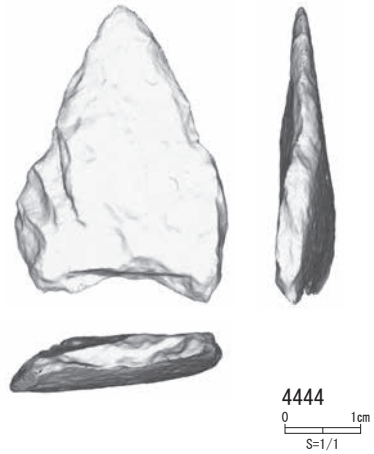


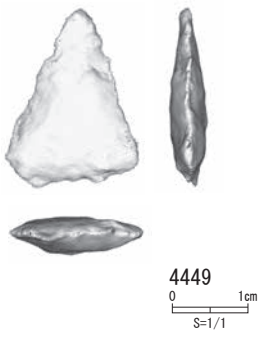




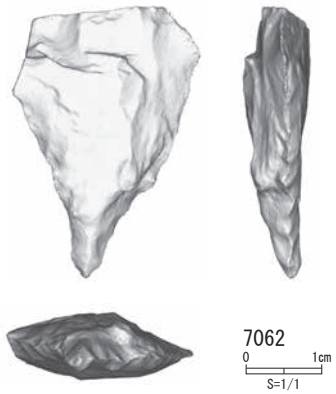


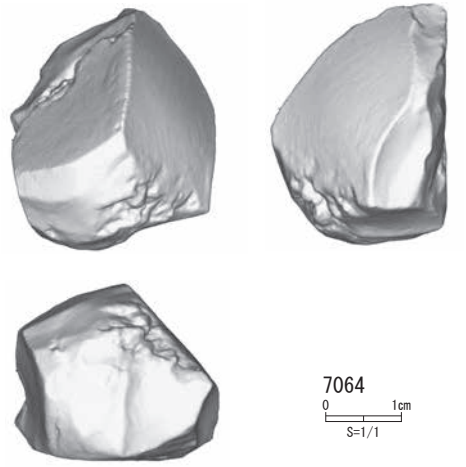
PJ-8B・PJ-9B

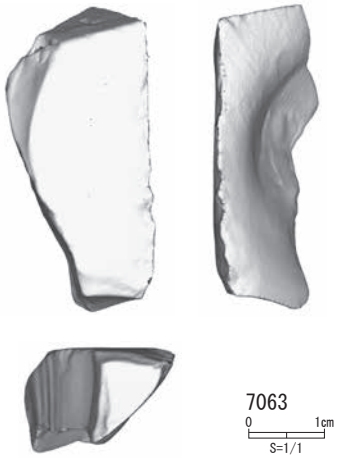




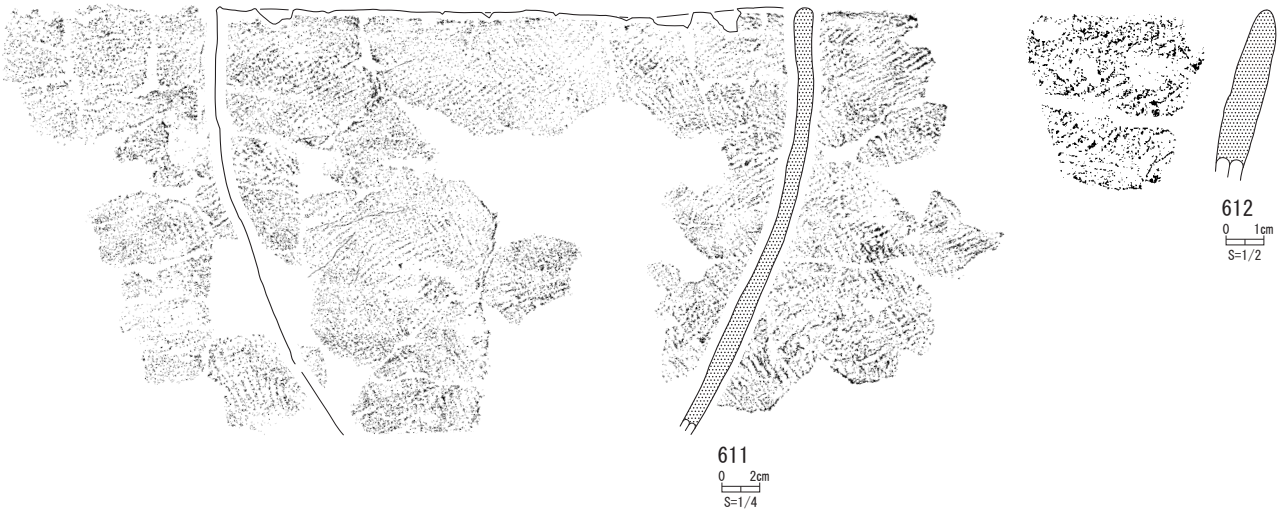
PJ008B 号・009B 号住居出土遺物







PJ-9



PJ008B 号・009B 号住居　PJ009 号住居出土遺物

PJ008 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
614	6 － 010－ 2012	IG-1613（PJ-8 内）	胴部	－	－	－	52.0	破片	10YR3/2 7.5YR4/4	遺構確認面出土。頸部から胴部上半にかけての破片。爪形文状の刻み 1 列がめぐる。内外面は指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅱ式か
615	6 － 010－ 2012	IG-1611（PJ-8 内）	口縁部	－	－	－	57.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR5/4	遺構確認面出土。無文で内外面に指頭圧痕が残る。器壁はやや薄手で、胎土に繊維を含まない。中越Ⅲ式か
616	6 － 010－ 2012	IG-1612（PJ-8 内）	口縁部	－	－	－	45.0	破片	5YR5/6 7.5YR5/4	遺構確認面出土。口唇部に刻み、口縁部は条痕による格子目文。頸部に刻み隆帯。内面ヨコナデで、指頭圧痕が残る。器壁は薄手で、胎土に繊維を含まない。器面の色調は明るい赤褐色。木島Ⅶ式か中越 1 式か判断が難しい。
617	6 － 010－ 2012	IG-528（PJ-8,9 内）	口縁部	－	－	－	26.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/6	遺構確認面出土。口唇部に刻み、口縁部に格子目文。内外面に指頭圧痕が顕著。木島Ⅶ式か
618	6 － 010－ 2012	IG-223（PJ-8,9 内）	口縁部	－	－	－	34.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	遺構確認面出土。口縁部は条痕状の格子目文。口縁部はやや肥厚し胴部との間に段差があり、段差部につまみ上げて施文した刻みがめぐる。内面はヨコナデ調整で指頭圧痕が残る。器壁はやや厚手で、胎土に繊維を含まない。木島Ⅶ式か。
619	6 － 010－ 2012	PJ-8 94	口縁部	－	－	－	16.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	遺構確認面出土。口縁部に櫛歯状工具を刺突し、ややずらした刺突文。胎土に繊維を含まない。
620	6 － 010－ 2012	PJ-8 94	胴部	－	－	－	64.0	破片	10YR3/1 7.5YR6/6	遺構確認面出土。底部に近い胴部下端の破片。器壁は厚く、胎土に繊維を含む。
621	6 － 010－ 2012	PJ-8 28	口縁部	－	－	－	47.0	破片	10YR5/4 7.5YR4/3	床面から 3 ㎝浮いて出土。表面にまばらな縄文が施文される。器壁はやや薄手で、胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
622	6 － 010－ 2012	PJ-8 86	口縁部	－	－	－	54.0	破片	10YR7/4 7.5YR7/6	床面から 13 ㎝浮いて出土。内外面は雑なヨコナデ調整でナデ痕が明瞭に残る。器壁は厚く、胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
624	6 － 010－ 2012	PJ-8 41	口縁部	－	－	－	341.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR3/2	床面から 5 ㎝ほど浮いて出土。口唇部から胴部に斜縄文を施文。内面はヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。補修孔 1 ヶ所あり。神ノ木式
625	6 － 010－ 2012	PJ-8	胴部	－	－	－	7.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。器面に擦痕状の沈線文。器壁は薄手で、胎土に繊維を含まない。木島式
628	6 － 010－ 2012	PJ-8 103	口縁部	－	－	－	110.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/3	床面から 7 ㎝浮いて出土。外面は斜縄文､内面は平滑にヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
631	6 － 010－ 2012	PJ-8 81	口縁部	－	－	－	40.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	床面から 3 ㎝浮いて出土。口縁部に櫛歯状工具の刺突文。胴部は斜縄文。内面は平滑なヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
632	6 － 010－ 2012	PJ-8 69	胴部	－	－	－	18.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/4	PJ005 住 426 と同一個体。床面から 4 ㎝浮いて出土。組紐のような縄文。胎土に繊維を含む。神ノ木式
633	6 － 010－ 2012	PJ-8 27、PJ-8 30、PJ-8 33、PJ-8 42、PJ-8 53、PJ-8 50、PJ-8 66、IG-1627	胴部	－	－	－	356.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	住居床面に散らばるように出土。頸部に連点状刺突文。胴部は羽状縄文。内面は平滑なヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
636	6 － 010－ 2012	PT-124	胴部	－	－	－	37.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR5/4	PJ008 号住居柱穴 PT124 出土。まばらな縄文地文。器面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。器壁はやや薄手。神ノ木式
637		PT-123	胴部	－	－	－	11.0	破片	7.5YR3/1 5YR5/6	PT123 号ピット出土。縄文。内面ていねいなミガキ。胎土に繊維を含む。関山式
638		PT-123 1	口縁部	－	－	－	17.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR6/6	PT123 号ピット出土。格子目文。胎土に繊維を含む。中越式

PJ008 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2373	PJ-8　51	剥離のある剥片	チャート	3/4				21.2	住居中央の床面出土。暗紅色と青灰色のチャート。剥片端に錆色の礫面が残る。
2374	PJ-8	石鏃	黒曜石	1/1	34.9	25	8.8	7.18	埋土一括取り上げ。石鏃未成品。暗褐色の斑入り黒曜石
2375	PJ-8	石鏃	黒曜石	1/1	31.6	20	9.6	5.34	埋土一括取り上げ。石鏃未成品。透明感のある黒曜石
2376	PJ-8　61	剥離のある剥片	石英岩	1/1				12	住居北東角の埋土下層出土。やや灰色にくすんだ石英岩
2377	PJ-8　18	石鏃	黒曜石	1/1	27.6	19.7	7.7	2.75	PT125 東脇の埋土下層出土。石鏃未成品。透明感のない黒曜石
2378	PJ-8	両極石器	黒曜石	1/1	19	24	5	2.1	埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
2379	PJ-8	石鏃	黒曜石	3/4	25.4	19	3.6	1.6	埋土一括取り上げ。薄い剥片の縁辺のみを加工。石鏃未成品。透明な黒曜石
2380	PJ-8	石鏃	黒曜石	3/4	25.2	15.2	3.2	0.88	埋土一括取り上げ。石鏃未成品。透明な黒曜石
2381	PJ-8　77	石鏃	黒曜石	3/4	24.4	-15.5	3.8	-0.85	PT115 西脇の埋土下層出土。片脚先端欠損。ブルーブラック系黒曜石
2382	PJ-8	石鏃	黒曜石	1/2	-	-14.7	3	-0.3	埋土一括取り上げ。脚部のみの破片。透明と黒色の斑の黒曜石
2383	PJ-8	石鏃	黒曜石	1/1	19	14	3.8	0.72	埋土一括取り上げ。透明と黒色の斑の黒曜石
2384	PJ-8	石鏃	黒曜石	1/1	17.6	16.8	5.3	1.39	埋土一括取り上げ。有茎石鏃の未製品。透明と黒色縞模様の黒曜石
4042	DK-69　3	石鏃	黒曜石	1/1	23.6	14.3	3.6	0.82	柱穴と思われる DK69 号土坑出土。透明で黒色縞模様のある黒曜石。
7032	IG-1624	石匙	黒曜石	-				1.3	埋土下層出土。つまみ部頂部稜に磨耗痕。有抉顕磨石器かも
7033	IG-112	石鏃	黒曜石	1/1	20.4	13.4	2.5	0.4	埋土上層出土。全体に風化痕跡。被熱痕跡か。半透明と黒色縞の黒曜石
7034	IG-113	石鏃	黒曜石	-				0.41	埋土上層出土。先端部破片。調整粗く未成品か。透明で黒色縞の黒曜石
10598	PJ-8　98	磨石類	安山岩類	3/4	37.0	67.0	33.0	213	PT124 号ピット上の床面高で出土。両面に二つずつ顕著な敲打痕。側面作業面が敲打により欠け
10599	PJ-8　102	磨石類	砂岩類	3/4	177.0	70.0	71.0	1256	DK73 号土坑北東脇の床面で出土。4 面が平滑に磨耗した稜磨石。一面に敲打痕あり。
10600	PJ-8　96	磨石類	安山岩類	1/2	60.0	56.0	38.0	172	住居北壁近くの埋土下層出土。断面が四角い石鹸のような形状。
10601	PJ-8　104	台石	砂岩類	3/4	387.0	319.0	99.0	17200	住居南端の床面で出土した台石。片面は被熱して黒色に変色、破砕。
11146	PT-125　1	磨石類	安山岩類	1/1	58.0	51.0	27.0	107	柱穴と思われる PT125 号ピット出土。やや平滑に磨耗した小さな扁平円礫

PJ008B 号・PJ009B 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
477		PJ-40	胴部	-	-	-	10.0	破片	5YR4/6 7.5YR3/2	PJ40 埋土一括取り上げ。細い粘土紐で窓枠状文様を描出。内面は平滑なヨコナデ調整。胎土は諸磯式に似るが、器壁は薄手。在地的な北白川下層Ⅱｃ式か
483		PJ-40	口縁部	-	-	-	53.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/1	PJ40 埋土一括取り上げ。口唇部に突起を貼付。口縁部は細い粘土紐で窓枠状の文様を描出。内面は粗いヨコナデ調整。器壁は厚手で、器面色調は黒色。諸磯式と明らかに異なる胎土質。北白川下層Ⅱｃ式
562		PJ-40	口縁部	-	-	-	94.0	破片	5YR4/6 5YR3/3	PJ40 埋土一括取り上げ。口縁部に幅狭の押引き文、胴部は縄文地文に竹管平行沈線による木の葉文。内面は平滑にナデ調整。諸磯ａ式新段階
563		PJ-40	口縁部	-	-	-	96.0	破片	5YR4/6 5YR3/3	PJ40 埋土一括取り上げ。口縁部に幅狭の押引き文。胴部は縄文地文に竹管平行沈線による木の葉文。内面は粗いヨコナデ調整。諸磯ａ式新段階
564		PJ-40	口縁部	-	-	-	54.0	破片	5YR4/6 7.5YR3/2	PJ40 埋土一括取り上げ。口縁部に幅広押引文。胴部は押引きのある併行沈線。内面は平滑にヨコナデ調整。諸磯ｂ式古段階

PJ008B 号・PJ009B 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
565		PJ-40	胴部	－	－	－	20.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	PJ40 埋土一括取り上げ。幅広の隆帯に山形刻み。隆帯間に押引き。諸磯式か
566		PJ-40	胴部	－	－	－	56.0	破片	5YR3/4 5YR2/1	PJ40 埋土一括取り上げ。幅広の押引き平行沈線と円文。内面は平滑にナデ調整。諸磯ｂ式古段階
567		PJ-40	胴部	－	－	－	41.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	PJ40 埋土一括取り上げ。胴部がそろばん玉状に屈曲する鉢形土器破片。押引き平行沈線と縄文地文。内面は平滑にナデ調整。諸磯ｂ式古段階
568		PJ-40	口縁部	－	－	－	21.0	破片	5YR5/6 5YR5/8	PJ40 埋土一括取り上げ。有孔浅鉢の口縁部破片。諸磯ｂ式
570		PJ-40	口縁部	－	－	－	11.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。灰褐色の色調。口唇部は平らに面取り調整。竹管平行沈線、内面は丁寧なナデミガキ調整。胎土に繊維をわずかに含む。
584		PJ-40	胴部～底部	－	－	7.4	87.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	PJ40 埋土一括取り上げ。外面縄文。底面に木葉痕(クズか)と縄文あり。胎土に繊維を含まない。有尾式もしくは諸磯式
613		IG-1618（PJ-8 内）	口縁部	－	－	－	69.0	破片	7.5YR5/6 7.5YR5/6	口縁部にイノシシ型突起が退化した貼付け。胴部は浮線文。諸磯ｂ式中段階。
627		PJ-8　101	口縁部	－	－	－	285.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/3	口唇部に細い粘土紐を貼り付け。胴部は縄文地文で円形、弧状、平行の沈線文。内面は平滑なナデミガキ調整。胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱｃ式と諸磯ｂ式の折衷的な土器
782		PJ-9 3	底部	－	－	(10.4)	173.0	破片	5YR4/6 7.5YR4/4	底部破片。胎土に繊維を含まない。諸磯式
3035		PT-548	胴部	－	－	－	53.0	破片	2.5YR2/2 2.5YR4/6	PT548 号ピット出土。幅広の押引き平行沈線。諸磯ｂ式古段階

PJ008B 号・PJ009B 号住居石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
4444	PT-427(PJ-9 内）	石鏃	砂岩	1/1	39.2	28.6	7.3	7.50	PJ009B 号住居柱穴とした PT427 号ピット出土。細粒砂岩の石鏃。模造品とみるべきか。北杜市明野町上神取の寺前遺跡では、土器片を素材とした諸磯式期の石鏃模造品あり。
4449	PT-531	石鏃	黒曜石	1/1	23.0	17.2	4.9	1.34	PJ009 号住居内の PT531 号ピット出土。未成品。ブルーブラックの黒曜石
7060	IG-1644	磨石類	安山岩類	1/1	100.0	75.0	45.0	539	PJ009B 号住居確認面出土。断面が四角い形状。磨石作業面は 2 面で敲打による凹みあり。側縁は黒色に変色。長軸両端部に敲打痕。
7061	IG-1651	石匙	珪質頁岩	1/1	25.0	48.0	7.0	7.30	PJ009B 号住居 PT427 号ピットの脇で出土。複刃。薄灰色の珪質頁岩製。搬入石材か。表面刃部を含めた範囲が茶色に変色。
7062	IG-1654	石錐	珪質頁岩	1/1	37.0	24.0	9.0	6.40	PJ009B 号住居確認面で出土。先端部に使用痕。青灰色の在地産珪質頁岩
7063	IG-1657	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				8.30	PJ009B 号住居確認面出土。礫面が残る横形剥片の鈍角な一辺に使用痕剥離あり。透明感のある黒曜石
7064	IG-1657	原石	黒曜石	1/1				19.30	PJ009B 号住居確認面出土。転石ズリ。わずかに剥離面があるが風化している。半透明の黒曜石

PJ009 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
611		PJ-9 1、IG-1643、IG-527	口縁部～胴部	31.0	－	－	1,194.0	1/4	7.5YR6/6 7.5YR4/3	PT423 号ピット南側の埋土下層で破片状態となって出土。口縁部がやや厚手であるが器壁はやや薄手。外面に羽状縄文、内面はヨコナデで指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含む。神ノ木式か
612		PJ-9	口縁部	－	－	－	17.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。口縁部破片。外面縄文、内面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。神ノ木式か

PJ010 号住居

位　　置：D-5 グリッドに位置する。PJ11 号住居を切る。DK33 号土坑、DK79 号土坑、DK241 号土坑、DK303 号土坑と重複する。

規　　模：遺構の大半が削平されていて規模は不明である。残った部分からやや不整形な隅丸方形プランであったと推測される。

埋　　土：水平に層理が確認された黒褐色土の埋土である。

床　　面：黄褐色砂質の地山を床面としている。DK303 西側の住居中央に相当すると思われる箇所では固く踏みしめられた床が検出された。

炉　：PT160 号ピットと PT163 号ピットの中間の床面が、狭い範囲ながら僅かに焼土化していた。ほかに明確な地床炉は検出されなかった。

周　　溝：検出されなかった。

柱　　穴：本遺跡の諸磯式期の住居との対比から、本住居の柱穴は円形に配置される PT160、PT161、PT566、DK303 内のピット、PT564、PT565、PT562 の 7 基が想定される。さらに DK79 に切られて失われたピット 1 基も想定できよう。これらのピットは深さが 10 cmから 50 cmとばらつくが 30 cm以内と浅いものが多い。

さらに PT163 は PJ10 号住居床面から 48 cmと深い。PT165 は PJ11 に切られて深さが 32 cmと浅いが、PJ10 号住居の床面からみると 40 cm以上の深さとなるが、想定される西壁沿いであり、位置に不自然さを感じる。DK315 は深さが柱穴と同様 22 cmと浅い。

PT563、PT566、DK315 は DK303 号土坑に切られるピットで、本住居の柱穴とするには位置が不自然であるが、大きさ深さが柱穴に似るため、本住居に付属するものとしておく。

出土遺物：土器は埋土から散発的に出土した破片が主であるが、諸磯 b 式土器の大形破片が目立つ。出土した土器破片の総量は 16,020g で、内訳は前期初頭 105g、木島式 190g、中越式 1,015g、神ノ木式 1,205g、有尾式 633g、諸磯式 10,746g、北白川下層式 179g、前期と思われる破片 1,755g、中期土器破片 121g である。

出土した石器の内訳は、石鏃 12 点、削器 1 点、石匙 1 点、打製石斧 1 点、磨石類 1 点、磨製石斧 1 点、ハンマー 2 点、剥離のある剥片 1 点、黒曜石原石 5 点である。このほかに黒曜石剥片 143 点 374g、石英岩剥片 6 点 15g がある。

時　　期：本遺構の時期を明確に示す資料は得られなかったが、諸磯 b 式の大形破片が多いことから、本遺構は諸磯 b 式期、特に古段階に位置づけられると思われる。

PJ010 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	覆土色	備考（遺物など）
PT-159	10 住内	22*25	26	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴か
PT-160	10 住内	22*23	17	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴。縄文地文土器小片
PT-161	10 住内	15*15	10	10YR3/4（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 10%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ10 号住居柱穴
PT-162	10 住内	14*16	13	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 5%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ10 号住居柱穴
PT-163	18 住西 2.5m	24*25	48	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ10 号住居柱穴
PT-164	10 住内	29*20	24	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 20%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ10 号住居柱穴。諸磯 a 式土器小片
PT-165	11 住北東壁	24*20	32	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴か
PT-542	10 住内	25*25	42	10YR3/3（暗褐）に 10YR5/4（にぶい黄褐）が 10%、炭化物が 1%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ10 号住居柱穴。DK303 に切られる。
PT-545	10 住内	40*-	18	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK303 と重複。諸磯 b 式
PT-559	10 住内	33*(33)	28	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴か
PT-562	10 住内	25*(25)	25(35)	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴。中越式？土器小片
PT-563	10 住内	48*(48)	18	10YR3/3（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	DK303 に切られる。
PT-564	10 住内	36*36	50	10YR3/3（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴。縄文土器小片
PT-565	10 住内	42*(52)	15	10YR3/3（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴。縄文土器小片
PT-566	10 住内	18*18	27	10YR3/3（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ10 号住居柱穴
DK-315	10 住内	40*(55)	22(27)	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3%、炭化物が 1%混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK303 に切られる。有尾式。PJ10 号住居との関係は不明だが、大きさ、深さが柱穴に似る。

PJ011 号住居

位　　置：D-5 グリッドに位置し、PJ10 号住居に切られる。DK20 号土坑、DK22 号土坑、DK23 号土坑、DK24 号土坑、DK80 号土坑に切られる。

規　　模：旧農地の造成により西側と南側が削平されていることから、規模は不明であるが、残された遺構の平面形と柱穴配置から、東西 5.5m ほどの隅丸方形住居と推測される。

埋　　土：暗褐色土が堆積し、上下 2 枚の硬化面が検出された。

床　　面：上下 2 枚の硬化面のうち上面は暗褐色土と黄褐色土が斑に混じり、やや硬くしまっていた。これをはぎ取ると、黄褐色粘質土の地山を床面とした下面硬化面が検出された。

炉　：検出されなかった。

周　　溝：上下 2 面の床面で計 5 本の小溝を検出した。これらは同心円状に平行に配されていることから、本住居の建て替えに伴う周溝と考えられる。

柱　　穴：6 本のピットを検出した。これらは住居床面に掘り込まれたであろう柱穴のうち北側に位置する柱穴と思われる。大きさ、深さから DK81 と PT49 が最も新しく拡大した住居の柱穴と推測される。DK81 は平面形が楕円形であることから 2 基が重複していると思われる。PT45、46、47、50 の 4 基はより旧い段階の柱穴であろう。北壁沿いで検出された PT157 と 158 は、亀甲状の柱穴配置となった場合に PT49、DK81 と組み合う可能性がある。

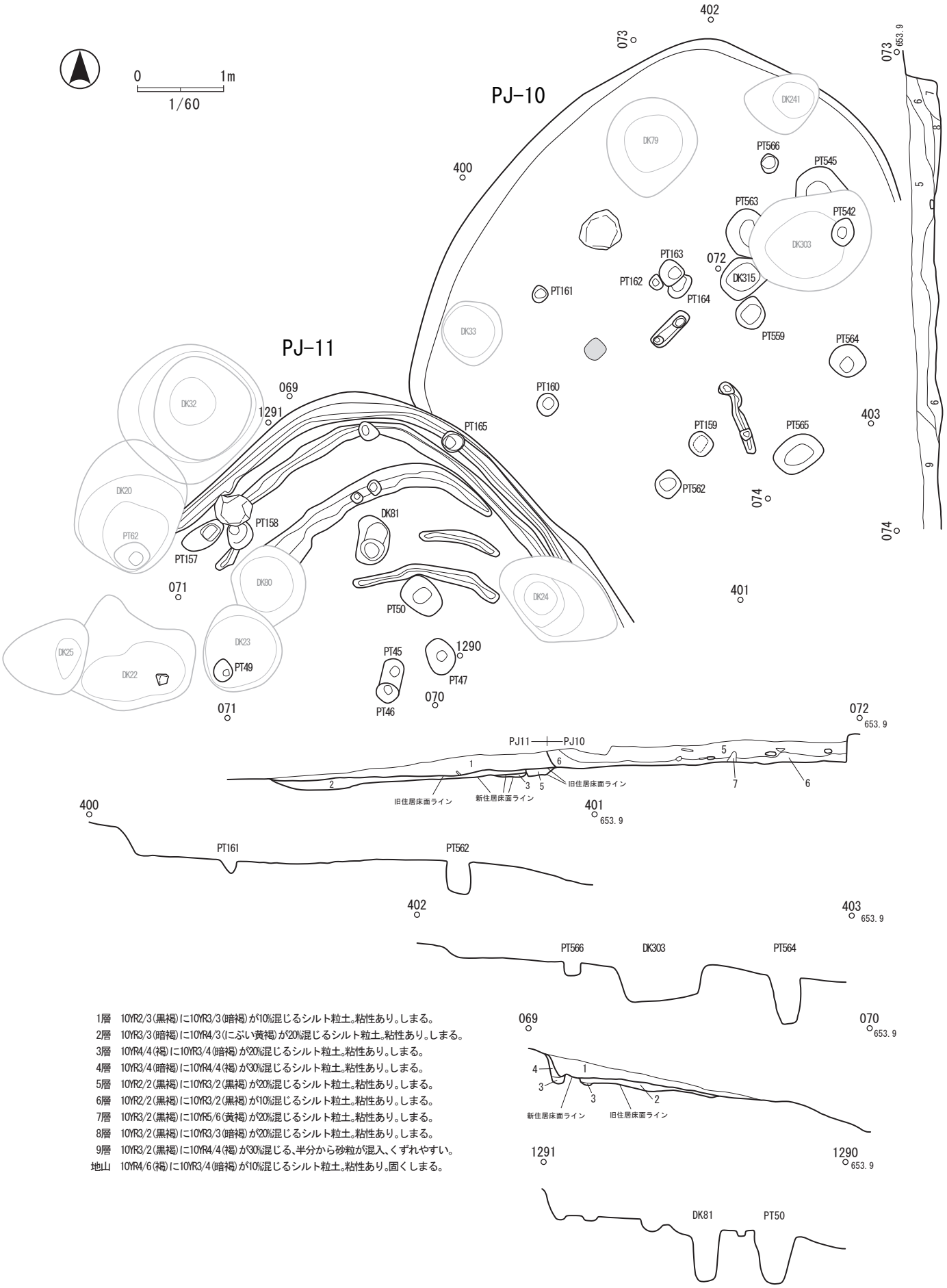
出土遺物：出土した土器の総量は4,456gで、釈迦堂Z3式土器がもっともまとまる。ほかに中越式、神ノ木式、有尾式、諸磯式土器が出土している。

石器は、石鏃 5 点、石錐 1 点、ハンマー 1 点、石皿 1 点が出土した。

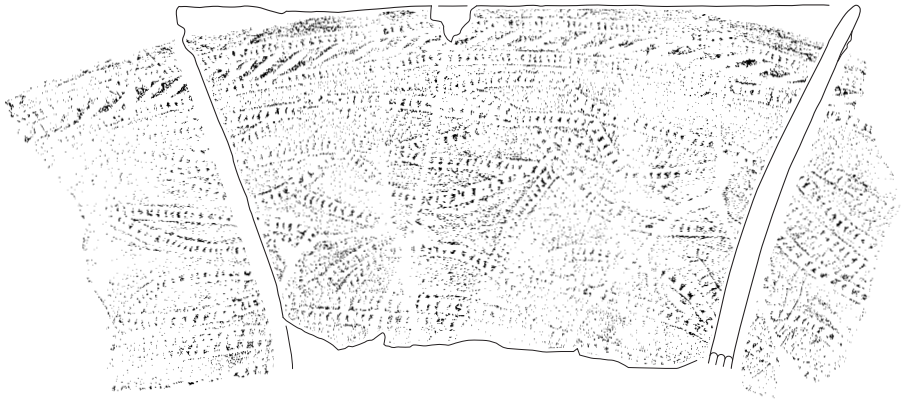
時　　期：釈迦堂 Z3 式期

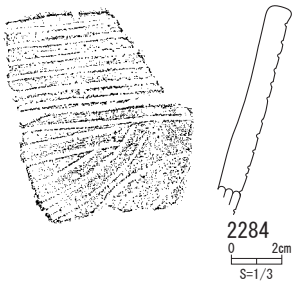
PJ011 号住居　土坑ピット一覧表

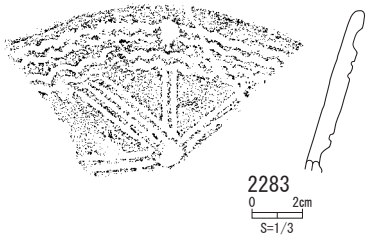
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-045	11 住内	21*(26)	22(38)	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 20% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT-46 に切られる。
PT-046	11 住内	43*-	42	10YR3/4（暗褐）に 10YR3/3（暗褐）が 2% 混じる。シルト粒土。しまる。	繊維土器小片
PT-047	11 住内	26*26	41	10YR3/4（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-049	11 住内	25*19	19	10YR3/4（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-050	11 住内	50*37	61	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 20%、10YR5/6（黄褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-157	11 住内	22*24	25	10YR4/4（褐）に 10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-158	11 住内	28*25	47	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 20%、10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式？土器小片
DK-081	11 住内	(68)*(42)	-58	10YR4/4（褐）に 10YR3/4（暗褐）が 30%、10YR5/6（黄褐）が 2%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	神ノ木式小片

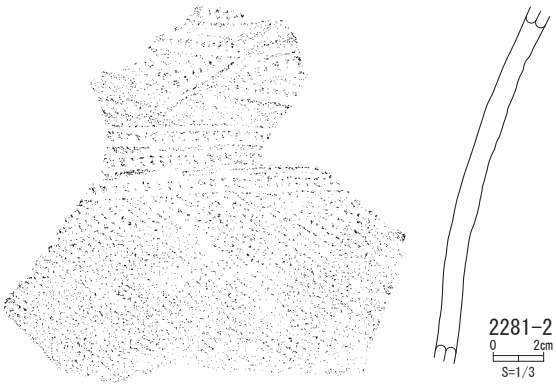


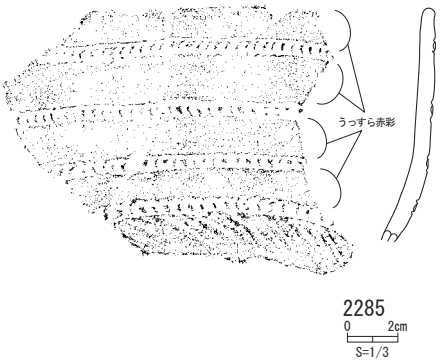
PJ1010 号・PJ011 号住居



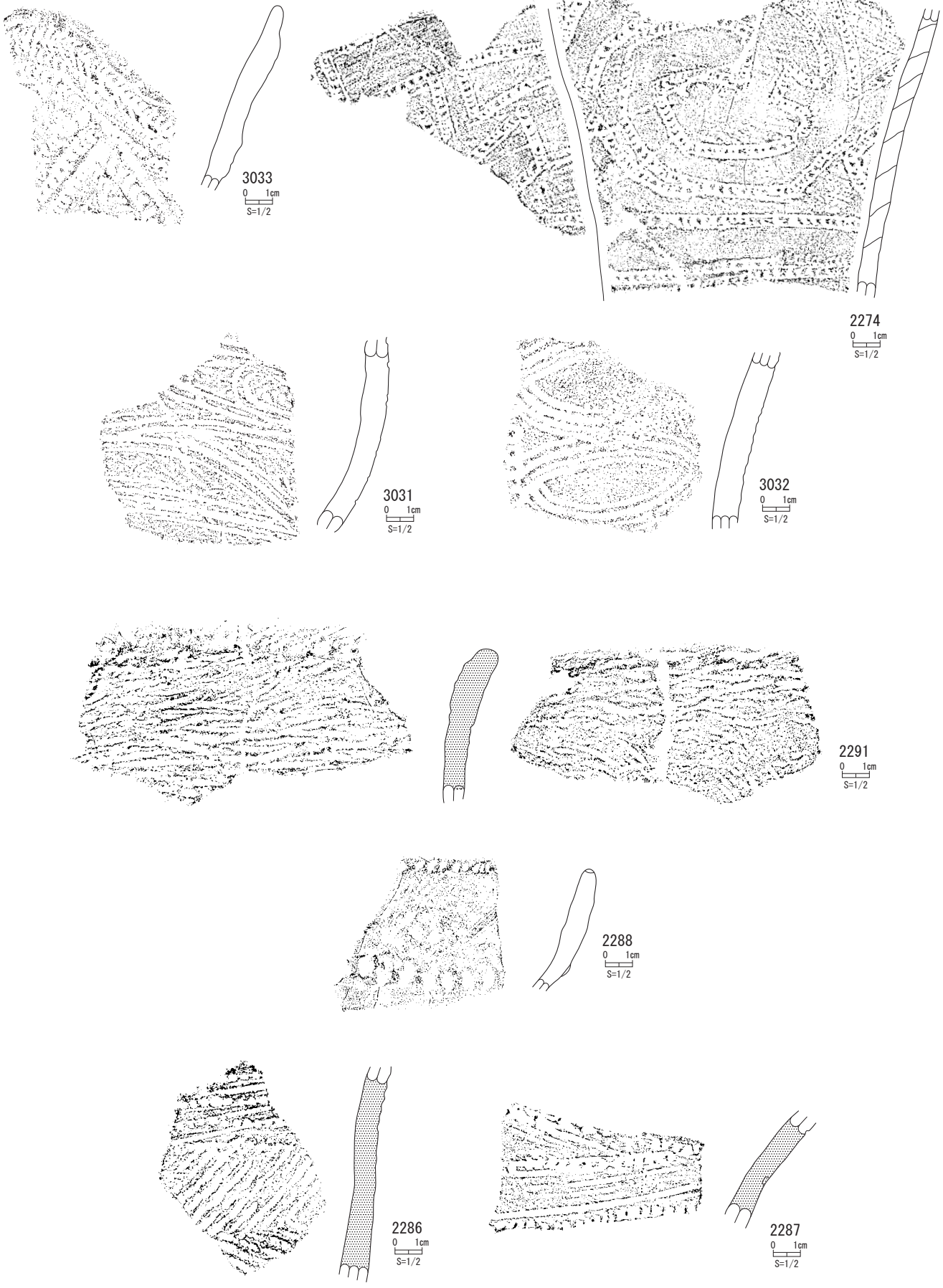








PJ010 号・PJ011 号住居出土遺物

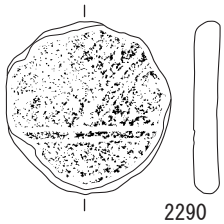


PJ010 号・PJ011 号住居出土遺物

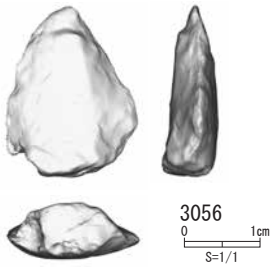
3029
0 1cm
S=1/2

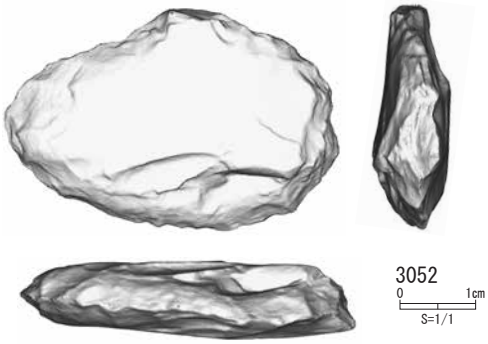
2289
0 1cm
S=1/2

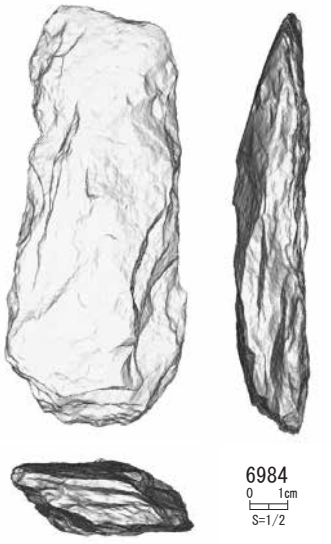
3030
0 1cm
S=1/2

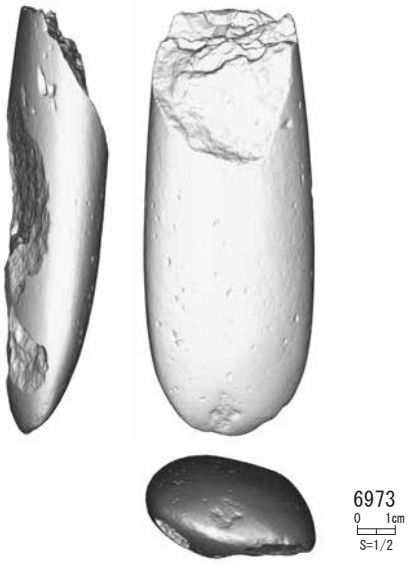

2290
0 1cm
S=1/2

6970
0 1cm
S=1/1

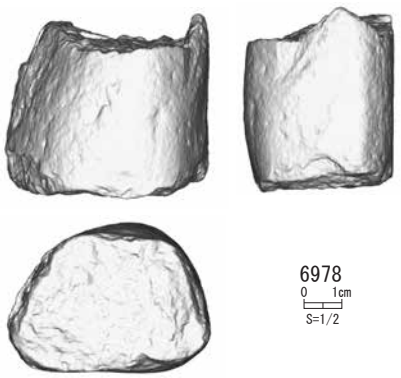

3056
0 1cm
S=1/1

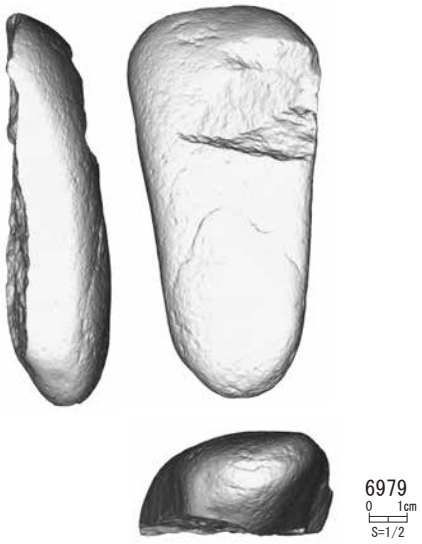

3052
0 1cm
S=1/1

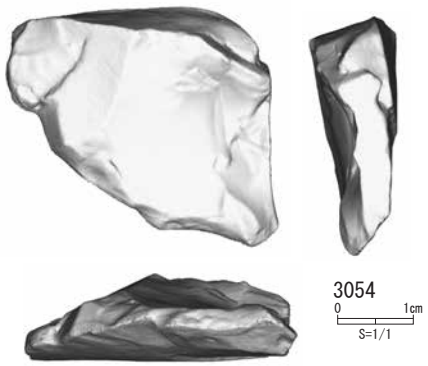

6984
0 1cm
S=1/2


6973
0 1cm
S=1/2

PJ010 号・PJ011 号住居出土遺物

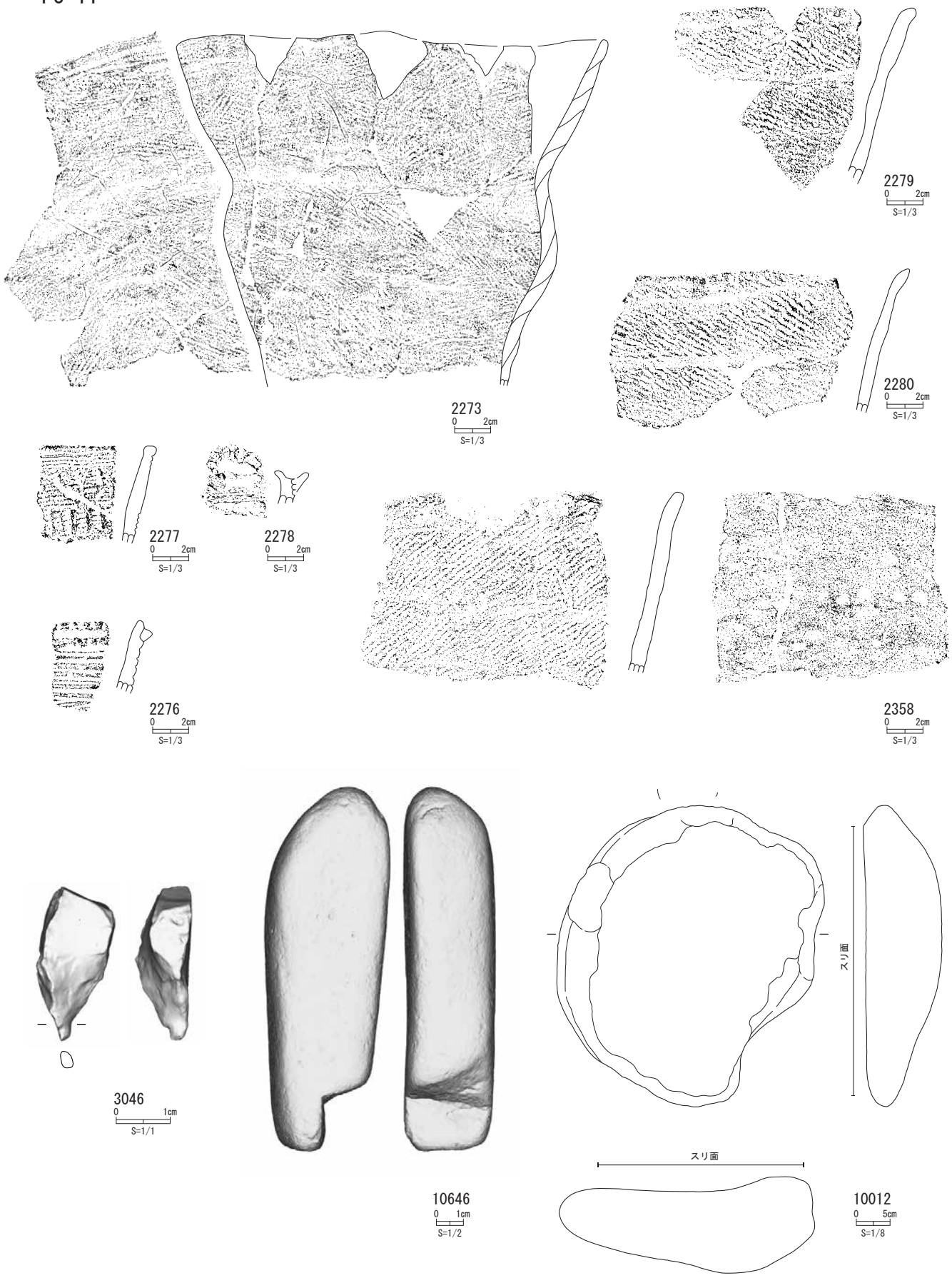






PJ010 号・PJ011 号住居出土遺物

PJ-11



PJ010 号・PJ011 号住居出土遺物

PJ010 号住居　土器観察表

実測番号	注記(6-010-2012)	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2274	DK-315、PJ-10	胴部	－	－	－	220.0	破片	5YR4/4 5YR4/6	DK315 出土。押引き平行沈線で描出された木の葉文で、木の葉文内部に縄文施文。種実圧痕あり。諸磯ｂ式古段階
2281	PJ-10 5、PJ-10 6、PJ-10 17、PJ-10 20、PJ-10 37、PJ-10 51、IG-1899、PJ-10 65、PJ-10、DK-241、IG-179、IG-1132	口縁部～胴部	(27.0)	－	－	1,125.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	住居内の焼土から DK79 にかけての埋土上層で出土。口縁部に押引き平行沈線に挟まれた刻み隆帯。口縁部から胴部は押引き平行沈線で描出される木の葉文。胴下半部は縄文地文。補修孔と種実圧痕あり。諸磯ｂ式古段階
2282	PJ-10 71、PJ-10 72、PJ-10 73、PJ-10	口縁部～胴部	(26.6)	－	－	407.0	破片	2.5YR4/6 5YR4/4	住居内の焼土上面、埋土上層で出土。肥厚する口唇部、口縁部に半截竹管の平行沈線による波状文。思われる縦位の梯子状区画文。波状文施文部位には断片的に縄文地文が残る。諸磯ｂ式古段階
2283	PJ-10 42、PJ-10	口縁部	－	－	－	87.0	破片	5YR4/3 5YR4/6	住居西端の床面で出土。ゆるい波状口縁器形。口縁部に半截竹管の波状文。円形くぼみを起点とした「米」字文。同一個体の別破片には波状文と縄文地文。内面ミガキ顕著。諸磯ａ式
2284	PJ-10 19	口縁部	－	－	－	70.0	破片	2.5YR4/6 5YR3/2	半截竹管による浅い平行沈線。粗雑な印象の木の葉文。諸磯ｂ式
2285	PJ-10、PJ-10 24、PJ-10 39	口縁部～胴部	－	－	－	104.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/3	埋土上層出土。器壁が薄い椀型器形。口縁部から４本の爪形押引き文がめぐり、胴部下位は縄文地文。無文部には赤彩あり。長石、石英が混じる胎土で、諸磯式の胎土のように雲母が目立たない。器面の色調は明るい黄褐色で、赤褐色の諸磯式と異なる。北白川下層Ⅱｂ式に類似する。
2286	PJ-10 40	胴部	－	－	－	44.0	破片	5YR4/6 7.5YR5/4	DK33 上面、埋土下層出土。連点状刺突文と羽状縄文。胎土に繊維を含む。有尾式
2287	PJ-10 36	胴部	－	－	－	40.0	破片	10YR4/2 5YR5/6	埋土上層出土。沈線に、爪形文とも連点状刺突文とも思える施文。胎土に繊維を含む。有尾式
2288	PJ-10 74	口縁部	－	－	－	29.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	焼土付近の埋土下層出土。口唇部に刻み、口縁部は格子状沈線文、刻み列がめぐる。胎土に繊維を含まず、器壁は薄い。木島式
2289	PJ-10、IG-1854、IG-1146、IG-1888	口縁部	－	－	－	27.0	破片	7.5YR2/2 7.5YR3/3	埋土上層出土。３列の刻みのある細凸帯と縄文地文。器壁は非常に薄手で、胎土に繊維を含まない。内面は平滑にナデミガキされ指頭圧痕は目立たない。北白川下層ⅡＣ式
2290	IG-1168	－	4.6	4.4	0.7	19.0	ほぼ完形	7.5YR5/6 7.5YR4/4	埋土上層出土。諸磯ｂ式土器破片を用いた土製円盤
2291	IG-1904	口縁部	－	－	－	76.0	破片	10YR6/4 10YR3/2	埋土上層出土。土器内面、口唇部、外面に撚糸文。胎土に繊維を含む。前期初頭花積下層式併行
3029	IG-1897	胴部	－	－	－	8.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR4/2	埋土上層出土。大きな爪形文原体を左右にシーソー状に振って施文。爪形文列と爪形文の列の間は、無文で浮き彫り状に残る。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱａ式か
3030	IG-1842	胴部	－	－	－	24.0	破片	10YR3/2 7.5YR4/2	埋土上層出土。丸味を帯びた胴部破片。刻みのある隆線文。器壁はやや薄手で、胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱｃ式
3031	IG-179	胴部	－	－	－	59.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	埋土上層出土。竹管による平行沈線。かすかな縄文地文。内面ヨコナデ。繊維を含まない胎土。諸磯ｂ式
3032	IG-178	胴部	－	－	－	73.0	破片	5YR5/4 7.5YR5/4	埋土上層出土。竹管の円形刺突文と平行沈線で描出された変形肋骨文。内面は丁寧なナデミガキ。胎土に繊維を含まず、雲母が目立つ。
3033	IG-186	口縁部	－	－	－	41.0	破片	2.5YR4/4 5YR3/2	埋土上層出土。大きな波状口縁部破片。隆帯貼付と竹管の爪形文施文。内面は丁寧なナデミガキ。胎土に繊維を含まない。
3034	IG-1883	口縁部～胴部	－	－	－	124.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	埋土上層出土。小さな波状口縁土器の口縁部破片。口縁部に２列の爪形文、刻み隆帯、その下位に竹管による平行沈線の木の葉文。諸磯ｂ式古段階

PJ010 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3051	PJ-10	原石	黒曜石					6.10	原石分割礫。埋土一括取り上げ。転石ズリ。やや透明感のある黒曜石
3052	PJ-10	石匙	頁岩	3/4	30.0	45.0	10.0	16.20	埋土一括取り上げ。つまみ部欠損。刃部、縁辺を両面加工
3053	PJ-10	原石	黒曜石					6.50	埋土一括取り上げ。転石ズリ。透明感のある黒曜石
3054	PJ-10	原石	黒曜石					11.00	埋土一括取り上げ。転石ズリ。やや透明感のある黒曜石
3055	PJ-10	原石	黒曜石					5.50	埋土一括取り上げ。転石ズリ。漆黒の黒曜石
3056	PJ-10	石鏃	黒曜石	1/1	22.6	17.9	6.9	2.40	埋土一括取り上げ。石鏃未成品。透明な黒曜石
3057	PJ-10　59	削器	珪質頁岩		18.0	26.0	9.0	3.90	埋土下層出土。急角度な刃部
3058	PJ-10	石鏃	黒曜石	3/4	15.0	17.0	3.8	0.72	埋土一括取り上げ。石鏃未成品。灰色の筋がある透明な黒曜石
3059	PJ-10	石鏃	黒曜石	1/2	23.4	－	5.4	(0.98)	埋土一括取り上げ。石鏃未成品。漆黒の黒曜石
3060	PJ-10	石鏃	黒曜石	3/4	14.2	(12.5)	3.1	0.40	埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
3061	PJ-10	石鏃	黒曜石					(0.25)	埋土一括取り上げ。石鏃脚部破片
6970	IG-1126	石鏃	黒曜石	1/1	19.6	18.1	3.3	0.75	埋土下層出土。長脚石鏃。縞模様のある透明な黒曜石
6972	IG-145	原石	黒曜石	1/1				39.50	一発コア。埋土上層出土。転石ズリ。わずかに透明感がある黒曜石
6974	IG-1148	石鏃	黒曜石	1/1	30.0	20.4	8.0	3.95	埋土上層出土。転石ズリを素材にした石鏃未成品。わずかに透明感がある黒曜石
6975	IG-1434	剥離のある剥片	黒曜石	3/4				1.30	埋土上層出土。鋭い縁辺に使用痕剥離。透明な黒曜石
6976	IG-185	石鏃	黒曜石	1/1	20.1	22.4	8.4	3.82	北壁沿いの埋土上層出土。石鏃未成品。縞模様がある透明な黒曜石
6977	IG-1129	石鏃	黒曜石	1/2	19.6	19.5	6.8	2.68	埋土上層出土。石鏃未成品。縞模様がある透明な黒曜石
6984	IG-180	打製石斧	頁岩	1/1	111.0	48.0	18.0	114.10	埋土上層出土。灰緑色の砂泥交互岩。刃部の片端に使用痕
6985	IG-1837	石鏃	黒曜石	1/1	15.8	12.8	4.2	0.55	埋土上層出土。縁辺加工のみの小さな石鏃。やや透明な黒曜石
6987	IG-1147	石鏃	黒曜石	3/4	15.0	15.9	4.1	0.82	埋土上層出土。先端部欠損。透明な黒曜石
8143	PJ-10	石鏃	黒曜石	－				0.87	埋土一括取り上げ。先端部、脚部欠損。漆黒の黒曜石
6973	IG-1156	磨製石斧	緑色岩	1/2	(113.0)	46.0	(25.0)	186	埋土上層出土。基部欠損。黒色に変色し、被熱により胴部が破砕。扁平な断面形
6978	IG-1900	ハンマー	ホルンフェルス	－	(55.0)	(54.0)	(40.0)	161	埋土上層出土。変成してキラキラと光る粒子が生じているが結晶片岩というほどに層理構造は発達していない。両端が欠損しているが、平坦な面に敲打痕が認められる。
6979	IG-1905	ハンマー	砂岩類	3/4	104.0	51.0	(29.0)	176	埋土上層出土。偏平棒状礫を素材としたハンマー。長軸端部に敲打痕。反対側が縦割れ。
6983	IG-276	磨石類	安山岩類	1/2				623	PT562 上面の床面出土。扁平な断面形。磨石作業面のうち、1 面が平坦。側縁は稜磨石的、滑らかでない。端部に敲打痕。

PJ011 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (6-010-2012)		部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2273	6-010-2012	PJ-11 5、PJ-11 6、PJ-11 7、PJ-11、IG-1908	口縁部～胴部	(24.1)	−	−	613.0	2/5	2.5YR4/4 5YR4/3	PT157 と住居北壁の間、床面から 15 cm浮いて出土。頸部がくびれ、無節縄文がまばらに施文される。内外面とも指頭圧痕、整形痕が目立つ。器壁はやや薄手で、胎土に繊維を含まない。器形は有尾式に似るが、そのほかの特徴は釈迦堂 Z3 式に相当する。
2276	6-010-2012	PJ-11	口縁部	−	−	−	15.0	破片	5YR4/6 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。口縁直下に隆帯。口唇部と隆帯に竹管の刻み。胴部は竹管による平行沈線。胎土に繊維を含まない。諸磯式か
2277	6-010-2012	PJ-11	口縁部	−	−	−	26.0	破片	5YR6/6 7.5YR3/1	埋土一括取り上げ。口縁部破片。櫛歯状工具による平行沈線とややずらした刺突文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2278	6-010-2012	PJ-11	口縁部	−	−	−	11.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/1	埋土一括取り上げ。口縁部破片。口唇部に櫛歯状文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2279	6-010-2012	PJ-11 10、PJ-11 13、PJ-11、PJ-11 15、PJ-11 16、PJ-11 17、PJ-11 20、PJ-10、DK-81、PT-160	口縁部～胴部	−	−	−	339.0	破片	7.5YR3/3 5YR3/3	埋土上層出土。やや尖った口唇部。外面は無節縄文。内外面とも指頭圧痕と整形痕が目立つ。器壁はやや薄手で、胎土の繊維を含まない。2280 と同一個体か。釈迦堂 Z3 式
2280	6-010-2012	PJ-11 15	口縁部～胴部	−	−	−	110.0	破片	5YR4/4 2.5YR4/4	埋土上層出土。尖った口唇部。外面は無節縄文。内外面とも指頭圧痕と整形痕が目立つ。器壁はやや薄手で、胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式
2358		DK-22 1、DK-22 10	口縁部～胴部	−	−	−	177.0	破片	5YR3/2 2.5YR4/6	DK22 出土。PJ11 からの混入と判断。縄文。内面指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式

PJ011 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
3045	PJ-11　14	石鏃	黒曜石	3/4	15.6	−	2.7	(0.30)	埋土上層出土。片脚部欠損。縞模様がある透明な黒曜石
3046	PJ-11	石錐	黒曜石	1/1	28.0	14.0	9.0	3.40	埋土一括取り上げ。先端部つぶれ。やや透明な黒曜石
3047	PJ-11	石鏃	黒曜石	3/4	16.7	16.3	5.6	1.62	埋土一括取り上げ。先端部欠損。未成品。やや透明な黒曜石
3048	PJ-11	石鏃	黒曜石	1/2				12.90	埋土一括取り上げ。透明な黒曜石剥片を素材とする。未成品
6957	IG-1154	石鏃	黒曜石	ー				(0.48)	埋土上層出土。先端部のみの破片。縞模様があるやや透明な黒曜石
6958	IG-1154	石鏃	黒曜石	−				0.46	埋土上層出土。先端部のみの破片。縞模様があるやや透明な黒曜石。未成品
10646	PJ-11	ハンマー	砂岩類	1/1	135.0	44.0	34.0	334	埋土一括取り上げ。棒状砂岩の先端部に弱い敲打痕あり
10012	PJ-11 22	石皿	安山岩類	1/1	425.0	379.0	150.0	27,700	住居北壁沿い、上面床で出土。　扁平で湾曲した河原礫の凹面を磨り面として使用。石皿らしい成形はなし。

PJ017a 号・P0J17b 号住居：中期

位　　置：H-2 グリッドに位置する。PJ17a 号住居が最も新しく、次いで PJ17b 号住居、PJ18 号住居、PJ29 号住居の順で旧くなる。PJ17a 号、PJ17b 号住居は中期中葉藤内式期、PJ18 号住居は前期後葉諸磯式期、PJ29 号住居は前期前葉中越式期の遺構である。

規　　模：規模が推定できる PJ17a 号住居は、南北推定 5m、東西 5.3m の円形で、竪穴は深さ 40 cmが残る。17a 号住居、17b 号住居は床面が工事掘削深度より深いため、柱穴の一部は半截もしくは検出段階で調査を中断した。

埋　　土：PJ17a 号住居は、黒褐色土を主とする埋土が堆積し、焼土粒子と炭化材破片が混じる。壁際に三角堆積した 4 層が確認され、床面上には 3 層が均一に堆積していた。1 層と 2 層はレンズ状に堆積する。3 層は、本住居より古い 18 号住居埋土が崩落して堆積したと思われる。こうした層理の状況から自然堆積土で埋まった住居と考えられる。埋土から炭化材、焼土、完形に近い土器、土器大形破片がまばらに出土した。炭化材と焼土はまとまらず、焼失住居とは思われなかった。土器などとともに竪穴跡に投棄されたものと思われる。

床　　面：下層に前期前葉の PJ29 号住居が重複していて、床面のほとんどは黒褐色で軟弱であったが、住居東側では黄褐色粘質土の貼床が認められた。

炉　：住居中央に花崗岩礫 2 個、安山岩の台石破片と角柱状礫を環状に置いた炉が検出された。これは最新段階の 17a 号住居の炉と判断される。17b 号住居炉跡は検出されなかった。失われたか、もしくは炉の更新がなかったと推測される。炉石の周囲の床面は被熱焼土化し、炭化材が散らばっていた。花崗岩の炉石は風化して崩れ、被熱の有無は確認できなかった。炉石に転用された角柱状礫は、46 号住居埋土で出土した礫と接合した。

柱　　穴：住居の主軸線は不明瞭だが、柱穴配置と地形の傾斜から、東西方向に主軸を想定することが妥当と思われる。床面上で多くの柱穴を検出し、貼床の有無、埋土の特徴、位置から本住居の柱穴を抽出した。

本住居の柱穴は、新旧 2 組が想定される。新しい柱穴の組み合わせを PJ17a 号住居、旧い組み合わせを PJ17b 号住居とする。

PJ17a 号住居の柱穴は、370 号、405 号、379 号、486 号、386 号、426 号、421 号、422 号ピットの 8 本と考えた。これらは深さ 30 cmから 63 cmと深い。421 号ピットと 422 号ピットの間の 188 号土坑は貯蔵穴と思われる。

PJ17b 号住居は、492 号、404 号、518 号、409 号、506 号、502 号、433 号、489 号ピットの 8 本を想定したが、浅いピット、未調査のピットがある。

出土遺物：17a 号住居の埋土中で、土器と石器が、炭化材と焼土塊とともにまばらに出土した。土器は完形に近い個体、大形破片個体が多い。

出土した土器は、ほとんどが埋土中で出土し、PJ17a 号住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。そのなかで PJ17a 号住居の廃棄時期に最も近いと考えられるのは、188 号土坑底面で出土した 1277 である。出土位置から近い時期に一括して投棄された可能性がある土器を列挙すると、1057 と 1069 は 421 号ピット周辺の床面から埋土上層でまとまって出土し、本住居の埋没初期段階で投棄されたと思われる。1009、1013、1015、1016、1056 は 496 号ピット周辺でまとまって出土している。1018、1019、1020、1061、1064、1067 は PJ17a 号住居炉の上面でまとまって出土している。1014、1036、1053、1037、1055、1063 は炉東側から 386 号ピットにかけての地点の床面から浮いた高さで、ゆるくまとまって出土している。1012、1038、1066、1068 は炉西側の埋土下層から床上 23 cmまでの高さでまとまって出土している。

土器の総重量は 80,340g で、中期の土器が 57,166g で、そのほか中越式土器 2,914g、諸磯式土器 4,317g など、重複する遺構からの混入と思われる土器破片が含まれる。

出土した石器は、土器と同様、大半が住居埋土中に散らばって出土した。微小な剥片類以外の石器

では、石鏃16点が出土し、チャート製が1点、ほかは黒曜石製である。ほか打製石斧23点、横刃型石器13点、大形粗製石匙2点、小形精製石匙3点、黒曜石製ミニチュア石匙1点、素刃削器3点、石錐1点、黒曜石製の両極石器6点、黒曜石原石4点、黒曜石石核1点、黒曜石の素材剥片1点、剥離のある剥片5点、剥片1点、珪質頁岩の大形砕片1点、石皿片1点、台石2点、磨石類5点、石柱状角礫1点、ハンマー2点、磨製石斧5点が出土した。その他、微小な剥片等が490点、1860g出土した。

住居の北西隅、370号ピットの周辺で打製石斧、横刃型石器、磨製石斧が床面ないし埋土下層にまとまって出土している。また497号ピット北側で焼土と炭化材がまとまって出土しているが、同地点でほぼ完形の石鏃2点がまとまって出土している。この2点の石鏃は形態は異なるが、透明度の高い黒耀石を素材としている。

時　　期：出土した土器には、炉体土器などPJ17a号住居の利用時期ないし廃棄時期を端的に示す資料がない。住居埋土で出土した土器は、若干の時期幅を帯びているようにみえるが、188号土坑出土土器は中期中葉、藤内式1段階に位置付けられると思われる。したがって本住居の廃絶時期は、同時期もしくはそれ以前となろう。

PJ018号住居：前期後葉

位　　置：H-2グリッドに位置し、PJ17a号住居に切られ、PJ29号住居を切る。北壁から西壁にかけて前期後葉、諸磯式期と思われる土坑と重複する。

規　　模：不明であるが、直径5.5m程度のややゆがんだ円形の竪穴住居と思われる。竪穴は最大で深さ30cmが残る。壁は直立せず緩やかに傾斜する。

埋　　土：PJ17a号住居埋土と大差ない黒褐色土が堆積していた。

床　　面：硬くしまった床面は検出されなかった。

**炉　　**：検出されなかった。

柱　　穴：本住居の平面形がよく残る北壁沿いで、小溝で連結された浅いピットが検出され、これらが柱穴と思われる。壁沿いには小ピットを伴う小溝が検出された。257号ピット付近で、向かう方向が異なる小溝が検出されたことから、本住居は建て替えもしくは複数の住居が重複しているとみられる。PJ17a号住居東壁に沿うように同じような形状の土坑とピットが弧状に並んで検出されていて、これらも柱穴と推測される。PJ29号住居炉南側の485号、504号ピットも本住居の柱穴と思われる。

出土遺物：本住居の確実に伴う土器は出土しなかった。257号、289号、325号、345号、434号、522号ピットで諸磯式土器の小破片が出土した。それらは諸磯b式が主体である。埋土から北白川下層Ⅱc式の小破片が出土した。出土した土器の総量は4,035gで、小破片ばかりである。

出土石器は、住居埋土中に散らばって出土した。内訳は石鏃3点、石錐1点、掻器1点、素刃削器1点、剥離のある黒耀石剥片1点、黒曜石原石2点、小さな扁平円礫1点、ハンマー1点である。黒耀石原石と剥離のある剥片の3点は、角礫ズリの礫面が残り、見た目も類似する。その他、微小な剥片等が35点、69g出土した。

時　　期：柱穴と思われるピットの出土遺物と、円形の平面形、浅く不規則な柱穴の配置から、前期後葉、諸磯b式期の遺構と推測される。

PJ029 号住居：前期前葉

位　　置：H-2 グリッドと H-3 グリッドにまたがって検出された。PJ17a 号住居、PJ18 号住居に切られる。

規　　模：南北 5.1m、東西 4.2m の隅丸方形で、竪穴は PJ17a 号住居と重複しない南壁沿いで 50 ㎝である。

埋　　土：やや砂質の黒褐色土が堆積し、485 号、486 号ピットが埋土を切って掘り込まれている。

床　　面：黄褐色のやや砂質粘質土の地山を床面としている。床は平坦で炉周辺で硬く踏み固められていた。

炉　：住居の中央で浅いくぼみと焼土が検出された。この地床炉は 18 号住居の柱穴と推測される 503 号ピットと 504 号ピットに切られている。

柱　　穴：本住居は複数の周溝が検出されたことから、最低 3 回の建て替え、拡張が想定される。もっとも新しい段階は平面形が最大になった段階で、490 号、496 号、512 号、517 号ピットの 4 本が主柱穴と推測される。もっとも古い段階は平面形が最小の段階と思われ、508 号、510 号、519 号ピットが主柱穴と推測される。中間段階は、495 号、499 号、505 号ピットが主柱穴と推測される。

出土遺物：住居の北半分側の床面上と埋土下層で前期前葉、中越式土器破片、石器、礫がまとまって出土した。1 は住居北東隅､490 号ピットの北側の床面で出土した。口縁部を下にして伏せた状態で出土している。胴下半が欠損しているが、本来は完形土器を伏せて片付けた状態であったものが、住居廃絶後に PJ18 号住居、PJ17 号住居の竪穴を掘削する際に破壊されたと推測される。同様の出土状況は、堰口遺跡の北 4.5㎞に所在する同時期の板橋遺跡 21 号住居でも確認されている。ほかに木島式土器の小破片、神ノ木式と思われる小破片が出土した。本住居から出土した土器の総量は、6,545g で、前期前葉中越式土器が最も多く、ついで重複した新しい遺構からの混入であろう諸磯式、中期中葉土器が混じる。

床面上と埋土下層から磨石類を主体とする石器が出土している。内訳は､石鏃 5 点､小形精製石匙 2 点、削器 2 点、掻器 1 点、石錐 1 点、両極石器 1 点、剥片 3 点、磨石類 11 点、研磨具 2 点、ハンマー 3 点、石器の可能性がある礫 2 点である。磨石類は、壁際の床面で出土し、本住居内で使用され放棄されたとみられる出土状況を示すものもある。石材質は安山岩類が多い。ほかに黒耀石、チャート、石英岩などの微小な剥片 99 点、351g が出土した。

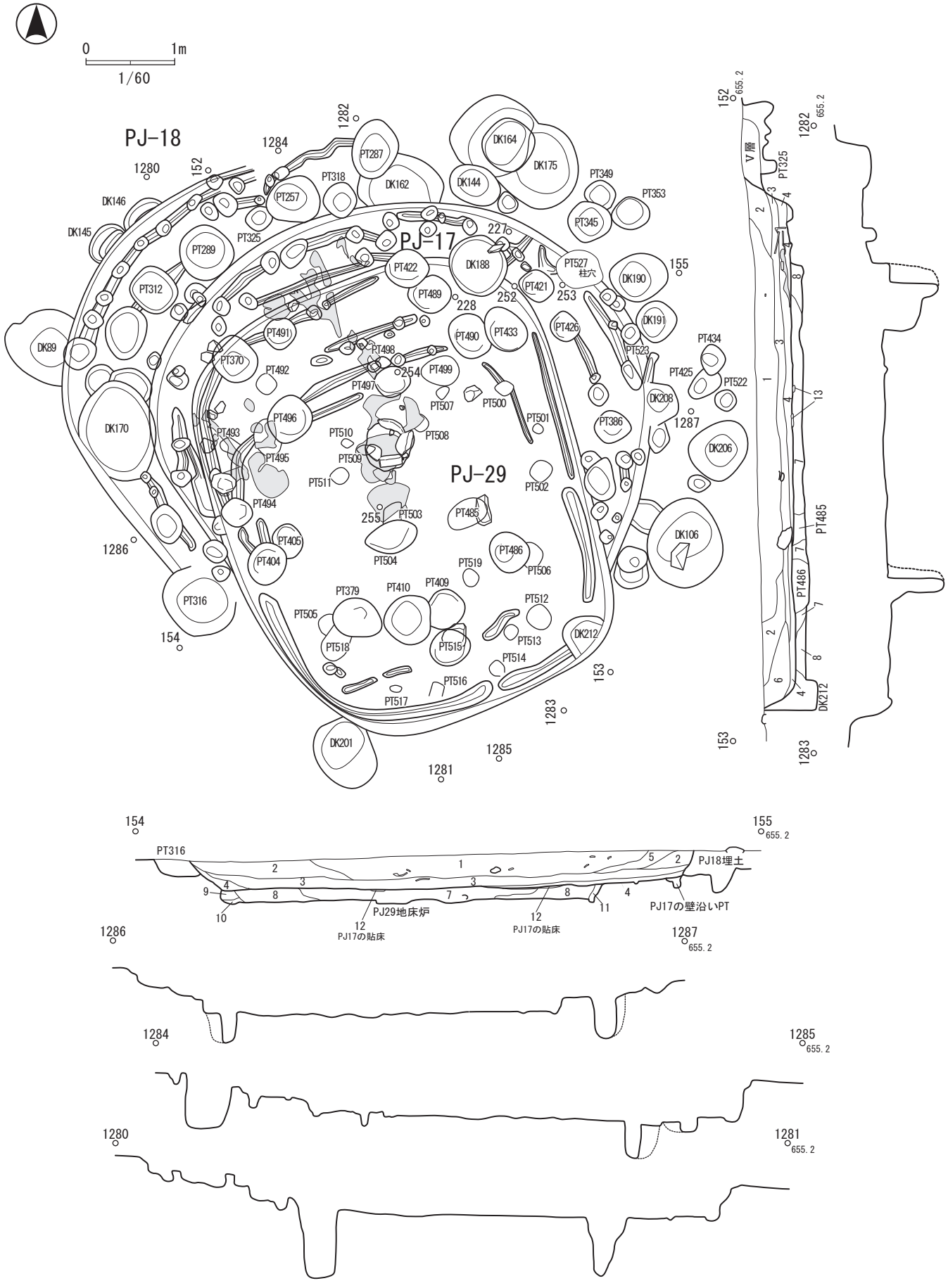
時　　期：出土した土器から、前期前葉の中越Ⅲ式期と推測される。

PJ017 号・PJ018 号・PJ029 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	帰属先遺構	径(cm)	深さ(cm)	覆土色	備考（遺物など）
DK-144	17 住 北 0.5m	PJ18	61*47	20	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	
DK-188	17 住内	PJ17a	58*(60)	55	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	17a 号住居貯蔵穴。中期土器片、ミニチュア土器、前期土器小片 4、諸磯土器小片 6
DK-190	17 住 東 0.5m	PJ18	55*-	34	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
DK-191	17 住 東 0.5m	PJ18	42*-	33	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
DK-208	17 住 東壁	PJ18	44*-	23	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器小片、中越式土器小片
PT-257	18 住内	PJ18	53*54	64	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR4/6（褐）のローム ブロック 1 ～ 2㎝角が 5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ-17 に切られる。諸磯式土器小片
PT-289	18 住内	PJ18	70*52	40		諸磯式土器小片
PT-312	18 住内		47*47	10		
PT-318	18 住内	PJ18	38*33	34	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器小片
PT-325	18 住内	PJ18	25*22	18		諸磯式土器小片
PT-345	17 住 北東 0.5m	PJ18	43*(43)	47	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器小片
PT-370	29 住内	PJ17a	47*-	35	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中期土器小片 4、前期土器小片 8、溶岩？片
PT-379	29 住内	PJ17a	50*-	58	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	前期土器小片 1

PJ017 号・PJ018 号・PJ029 号住居　土坑ピット一覧表

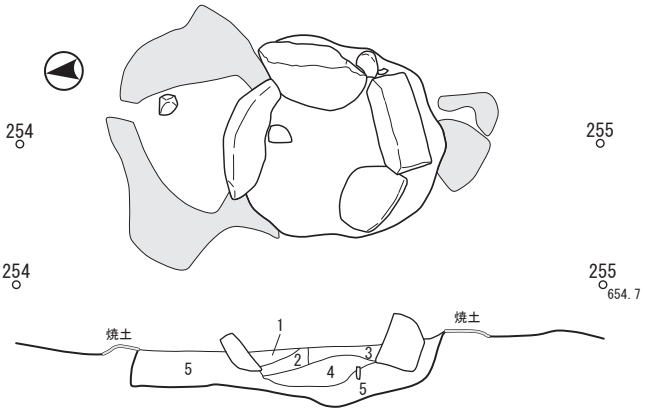
遺構番号	位置	帰属先遺構	径(cm)	深さ(cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-386	17 住内	PJ17a	37*-	50(37)		中期中葉小片 1、諸磯小片 1
PT-404	29 住内	PJ17b	19*-	40		諸磯式土器小片、中越式土器小片
PT-405	29 住内	PJ17a	42*-	46		炭化材多。中期土器小片 1、前期土器小片 2
PT-409	29 住内	PJ17b	41*-	45	10YR2/2（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器小片、中越式土器小片
PT-410	29 住内	PJ18	50*55	24	10YR2/3（黒褐）に 10YR10YR3/4（暗褐）が 15%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器小片
PT-421	17 住内	PJ17a	43	30	図面	炭化材が多く混じる。ミニチュア土器。中期土器小片、諸磯式土器小片
PT-422	29 住 北壁	PJ17a	51	59	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	炭化材が多く混じる。前期～中期土器小片
PT-426	17 住内	PJ17a	41	58		中期中葉小片 2 点、諸磯小片 1、前期繊維土器小片 1
PT-433	29 住内	PJ17b	54*-	30	10YR2/3（黒褐）。	炭化材粒子が多く混じる。中期土器小片、諸磯式土器小片、中越式土器小片
PT-434	17 住 東 0.5m	PJ18	26*24(26)	24		諸磯式土器小片
PT-485	29 住内	PJ29	48*32			中越式土器小片
PT-486	29 住内	PJ17a	36*-		黒褐色土に暗褐色土が混じるシルト粒土	炭化材が多く混入。前期土器小片 6
PT-489	29 住内	PJ17b	40*-	40		炭化材粒子が多く混じる。諸磯式土器小片、中越式土器小片
PT-490	29 住内	PJ29	47*-	10		中越式土器小片
PT-491	29 住内	PJ18	34*-	16		諸磯式土器小片
PT-492	29 住内	PJ17b	22*-			
PT-493	29 住内	PJ18	19*-			
PT-494	29 住 西壁	PJ18	30*-	34		
PT-495	29 住内	PJ29	26*-			PJ-29 の一番新しい柱穴。
PT-496	29 住内	PJ29	49*-	14		神之木台式土器小片
PT-497	29 住内	PJ18	40*-	9		
PT-498	29 住内	PJ29	17*-			
PT-499	29 住内	PJ29	40*-			PJ-29 の一番新しい柱穴。
PT-500	29 住内	PJ29	18*-			
PT-501	29 住内	PJ18	13*-			
PT-502	29 住内	PJ17b	21*-			
PT-503	29 住内	PJ18	21*-			PJ29 炉を切る
PT-504	29 住内	PJ29	55*-	32		
PT-505	29 住内	PJ29	20*-			PJ-29 の一番新しい柱穴。
PT-506	29 住内	PJ17b	30*-			PJ-29 の一番新しい柱穴。
PT-507	29 住内	PJ29	13*-			
PT-508	29 住内	PJ29	17*-			PJ-29 の一番古い柱穴。
PT-509	29 住内	PJ29	19*11			PJ17a 炉に切られる
PT-510	29 住内	PJ29	13*-			
PT-511	29 住内	PJ18	23*14			
PT-512	29 住内	PJ29	27*-			
PT-513	29 住内	PJ18	17*-			
PT-514	29 住内	PJ18	18*-			
PT-515	29 住内	PJ18	45*-	17		諸磯式土器小片
PT-516	29 住内	PJ18	19*-			
PT-517	29 住内	PJ29	13*-			
PT-518	29 住内	PJ17b	28*-			
PT-519	29 住内	PJ18	20*-			PJ-29 の一番古い柱穴。
PT-522	17 住 東 1.0m	PJ18	22*-	11		諸磯式土器小片
PT-523	17 住 東壁	PJ17a	20*(15)	18		中期土器小片
PT-527	17住 東壁 柱穴	PJ18	58*-	35		



PJ017 号・018 号・029 号住居

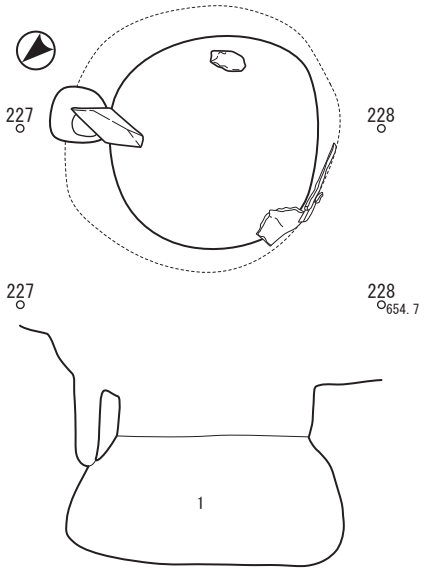
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が2%、焼土が1%以下、炭化物が3%、花崗岩小礫が1%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が30%、10YR4/4(褐)が10%、花崗岩小礫が1%、焼土2%、炭化物2%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が8%、焼土2%、炭化物10%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%焼土1%以下、炭化物1%以下、混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%、炭化物1%、焼土5%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が5%、10YR4/4(褐)が4%、混じる、焼土5%、炭化物2%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
床面　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%10YR5/6(黄褐)が5%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
壁　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が40%、10YR2/3(黒褐)が2%、10YR4/4(褐)が2%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化物が2%、花崗岩小礫が1%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
8層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR2/3(黒褐)が7%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が2%、花崗岩小礫が5%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
9層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化物が1%、花崗岩小礫が1%以下、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
10層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が7%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が1%、花崗岩小礫が1%以下、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
11層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が7%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が1%、花崗岩小礫が1%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
12層　10YR5/6(黄褐)、し細粒土。粘性ややあり。固くまる。地山の10YR6/6(黄褐)を厚さ1～2cmで貼床している。(PJ-17貼床)
13層　7.5YR4/6(褐)、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。(PJ-17炉の周りの焼土)
DK212　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR4/6(褐)が7%、炭化物が1%、花崗岩小礫が2%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PT485　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が1%、花崗岩小礫が1%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PT786　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR4/6(褐)が5%、炭化物が2%、花崗岩小礫が2%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PJ-29　床面　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、花崗岩小礫が15%、混じる、細粒土。粘性ややあり。固くしまる。
PJ-29　壁　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、花崗岩小礫が10%、混じる、細粒土。粘性ややあり。しまる。

PJ017号住居炉



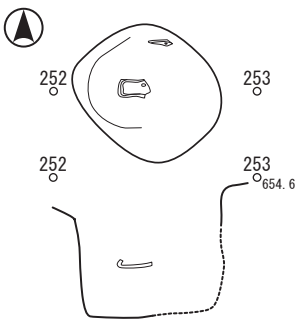
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が1%、炭化物0.5%、混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が1%(焼土)、炭化物3%、混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が5%(焼土)、10YR4/4(褐)が2%、炭化物1%、混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が1%、炭化物0.5%、焼土0.5%、混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR2/3(黒褐)が3%、混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。

DK188

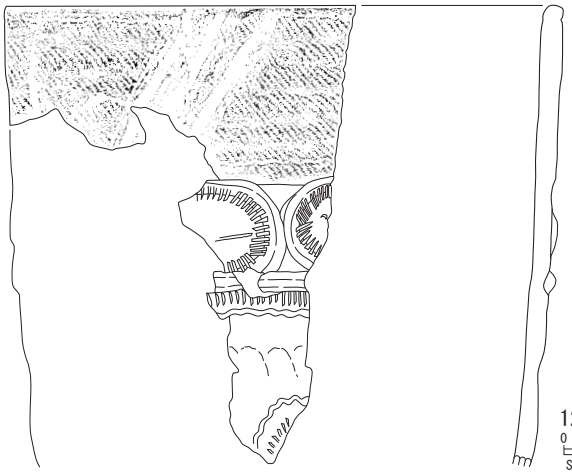


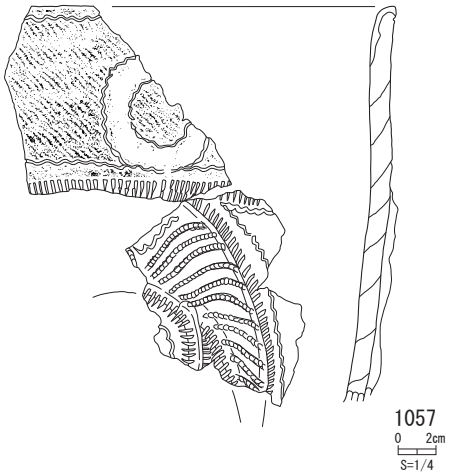
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が2%、炭化物が1%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

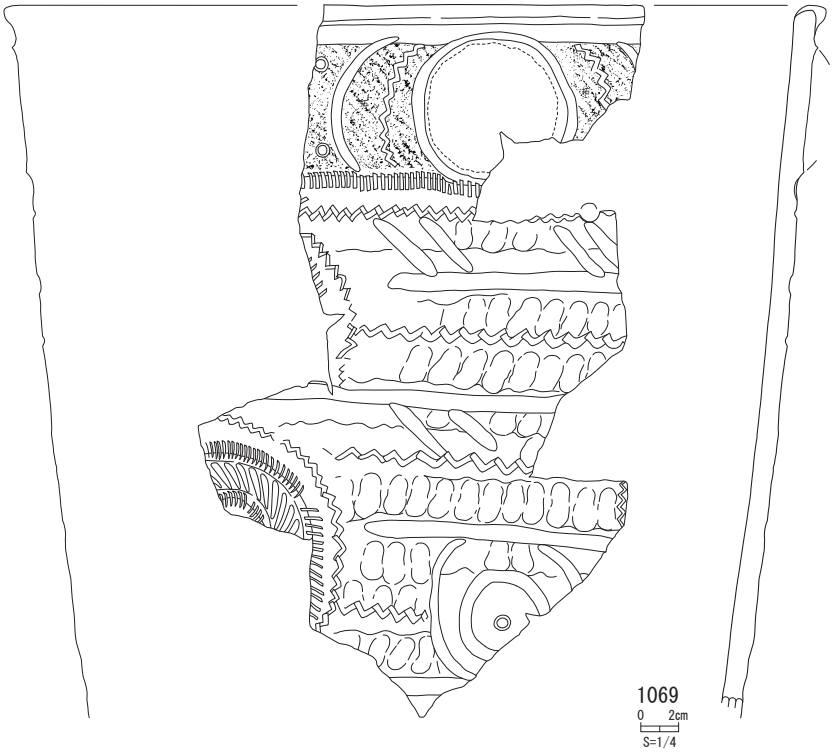
PT421

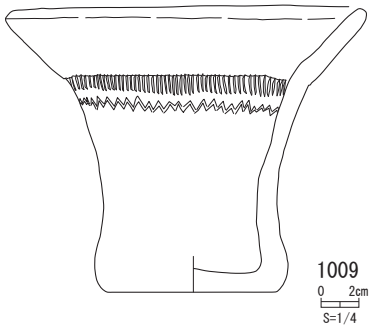


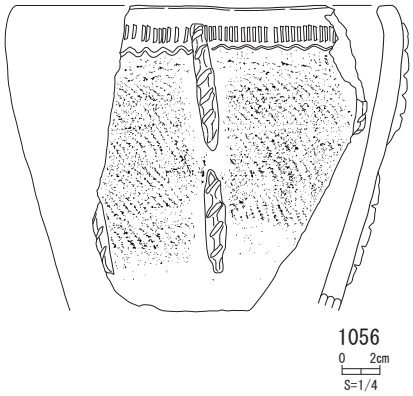
PJ017 号・018 号・029 号住居

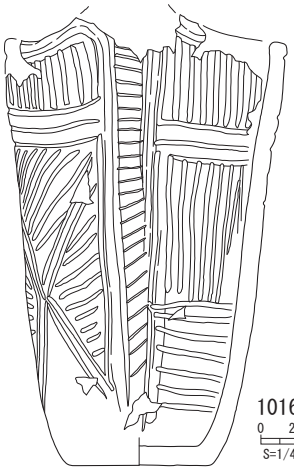


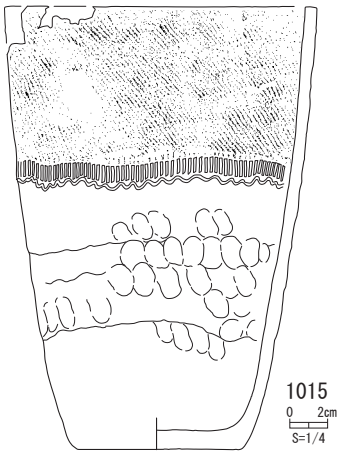


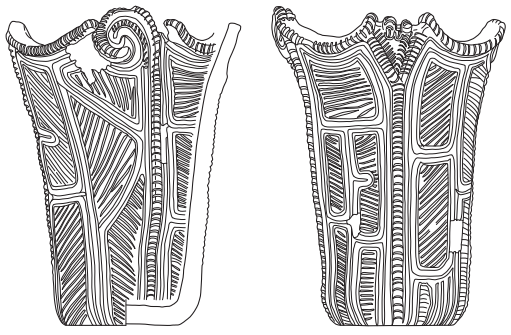




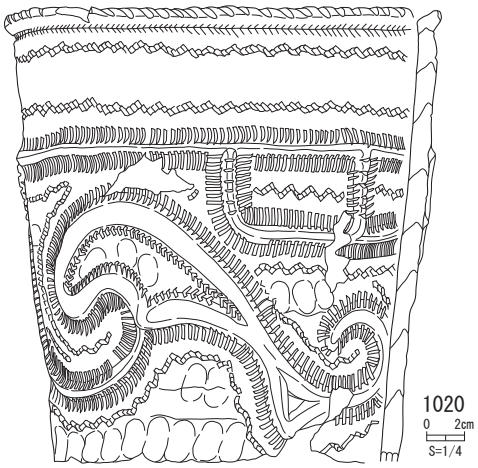


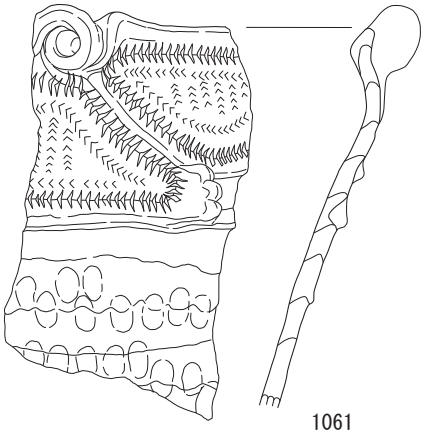


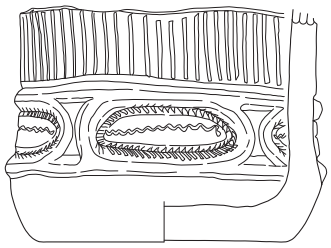


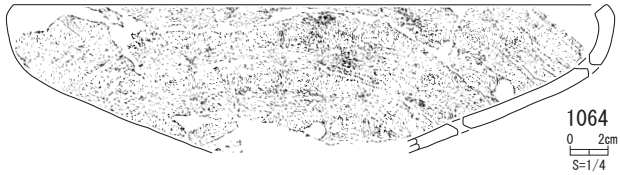


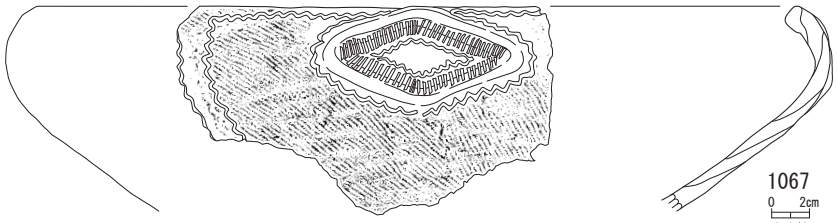
PJ017 号住居出土遺物

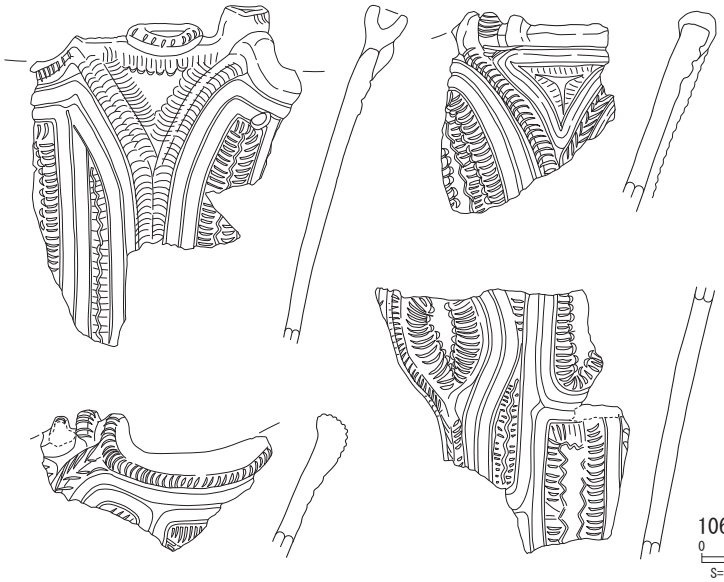


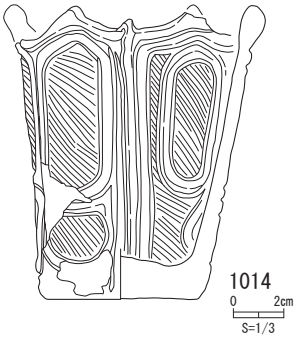




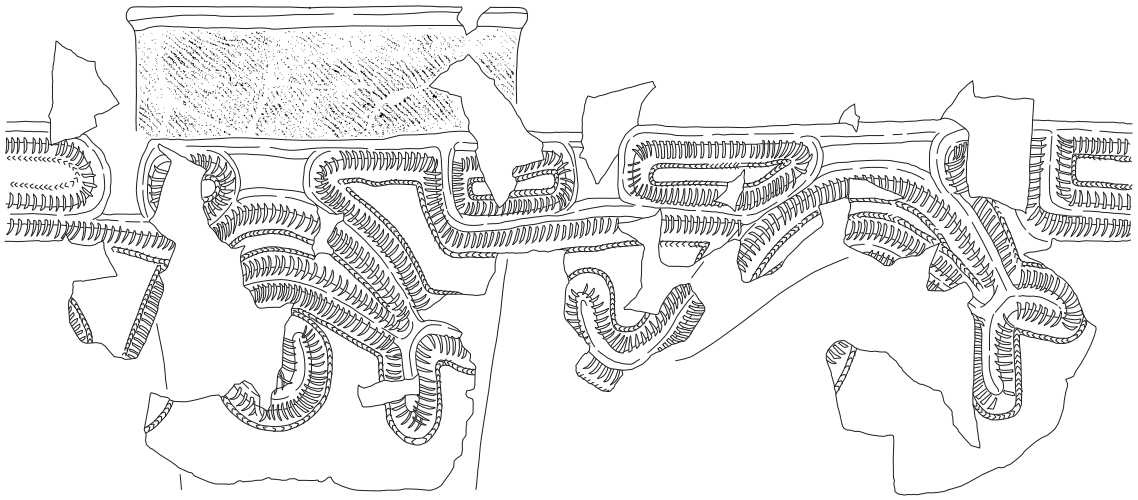


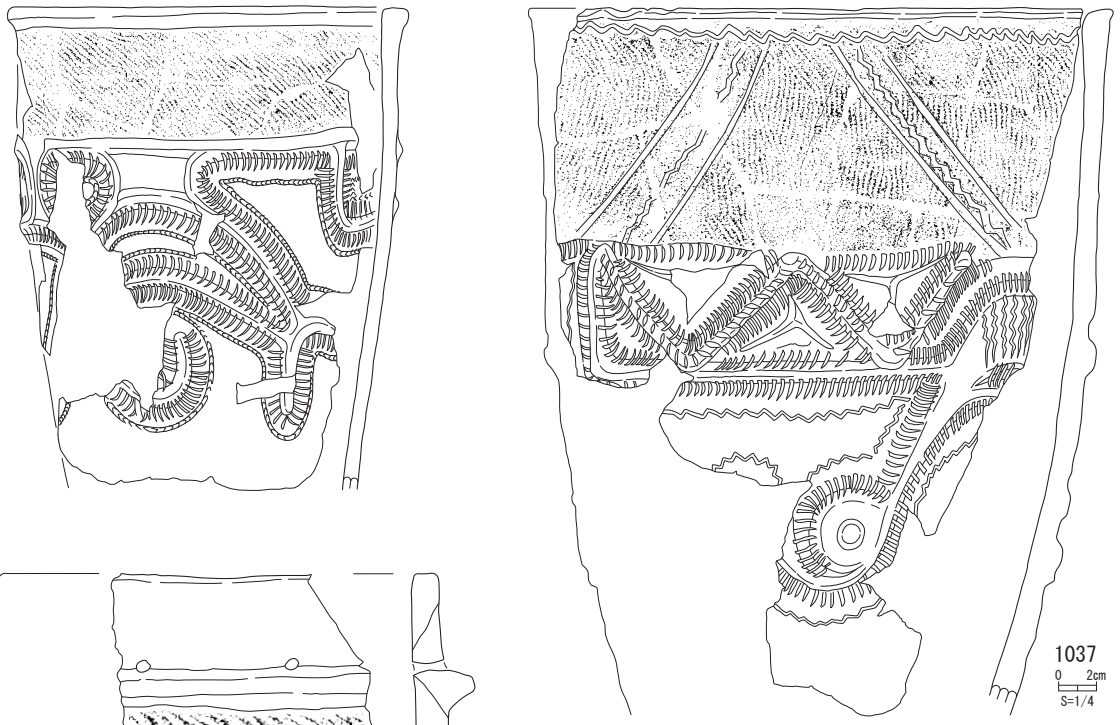


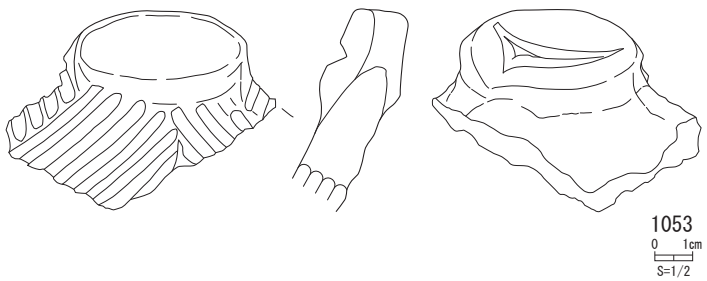


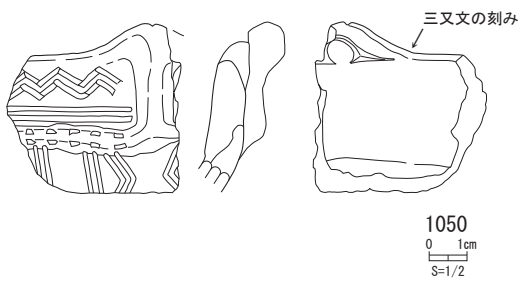


PJ017 号住居出土遺物

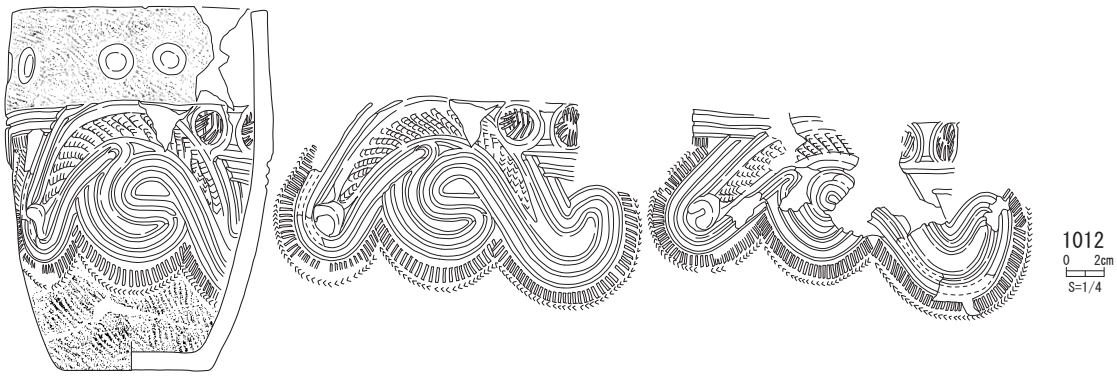


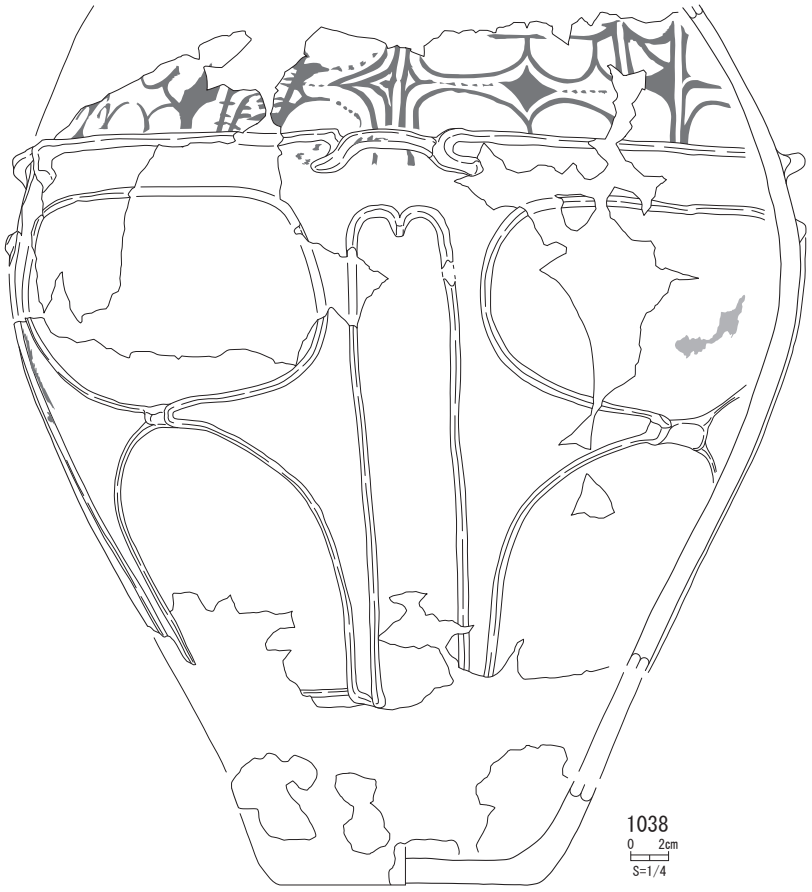


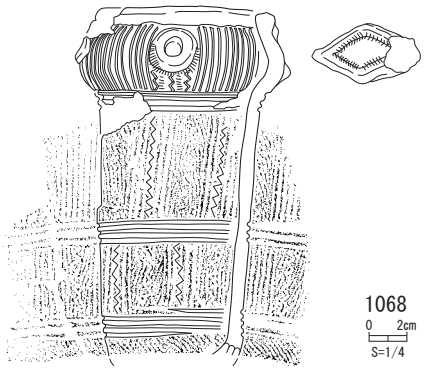




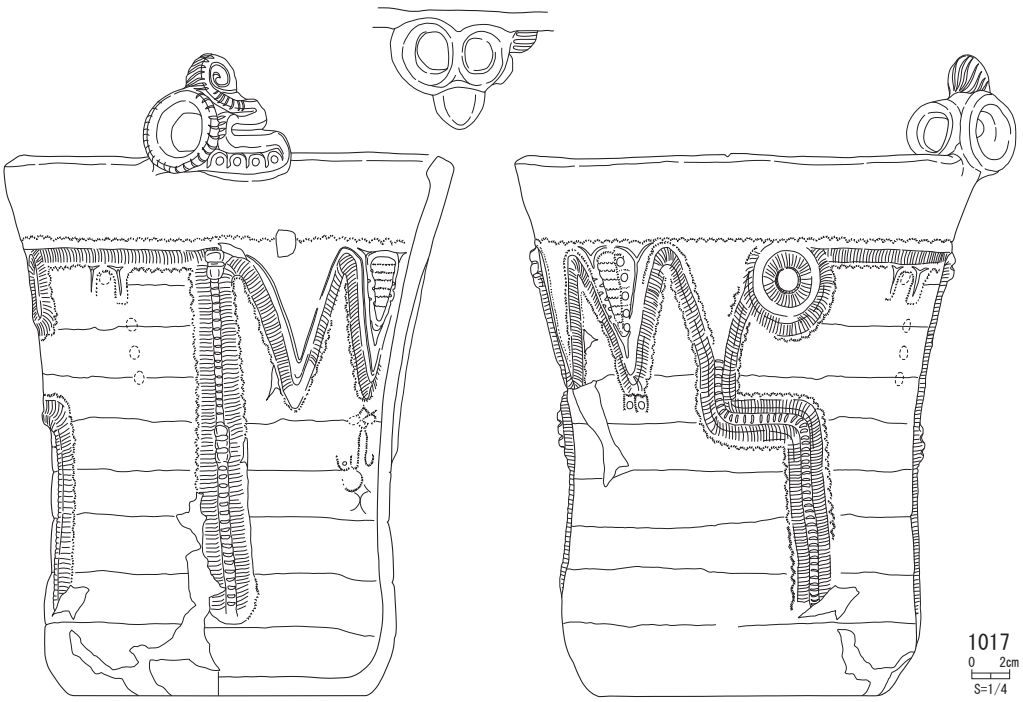
PJ017 号住居出土遺物

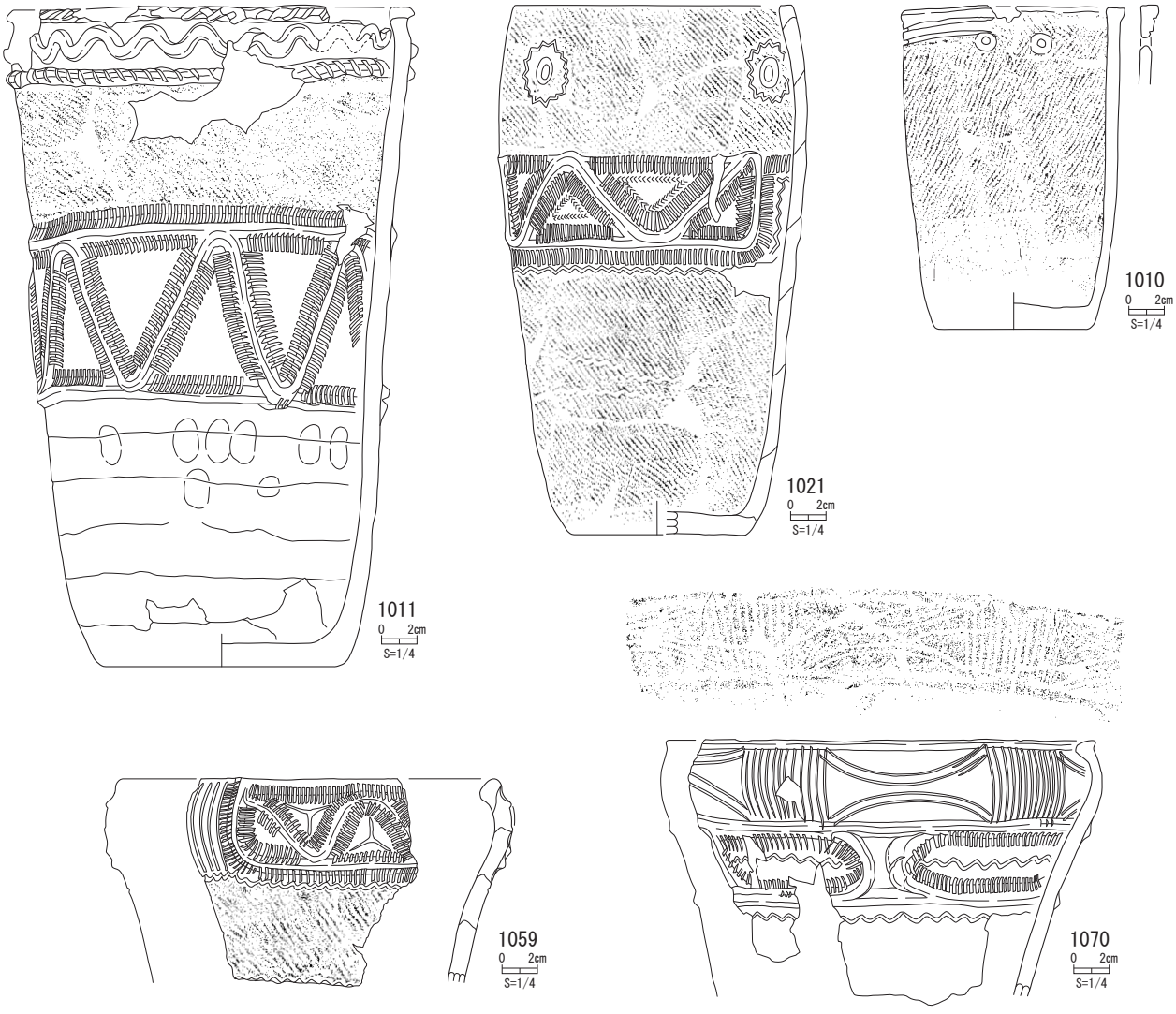




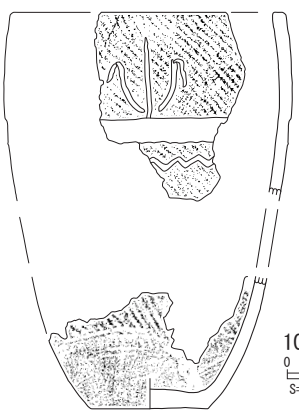


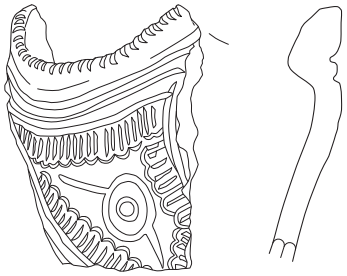
PJ017 号住居出土遺物

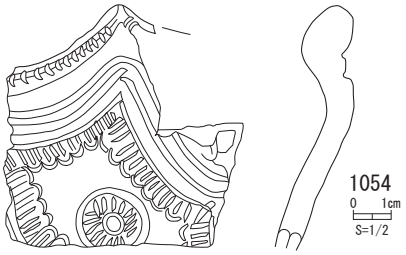


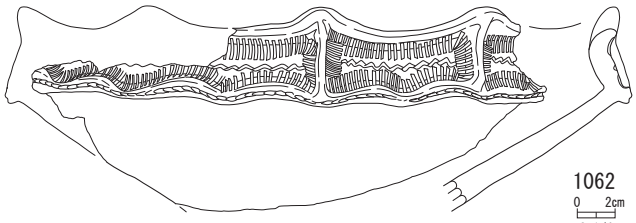


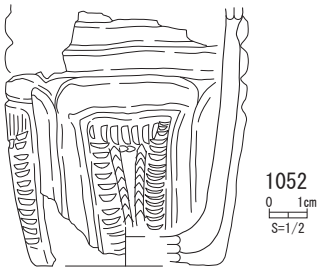
PJ017 号住居出土遺物

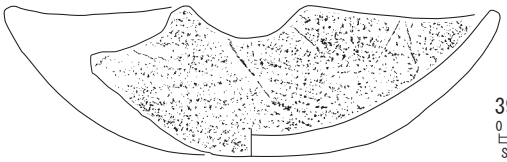


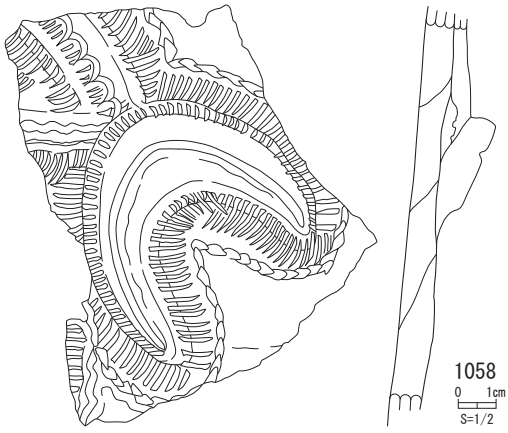


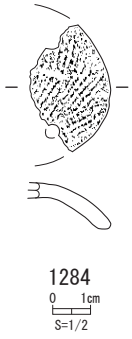


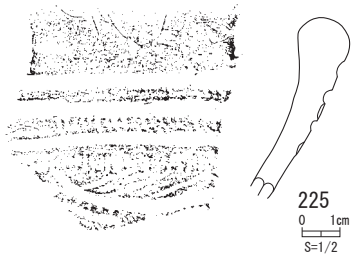


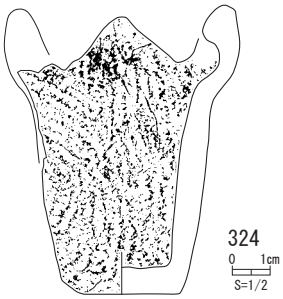




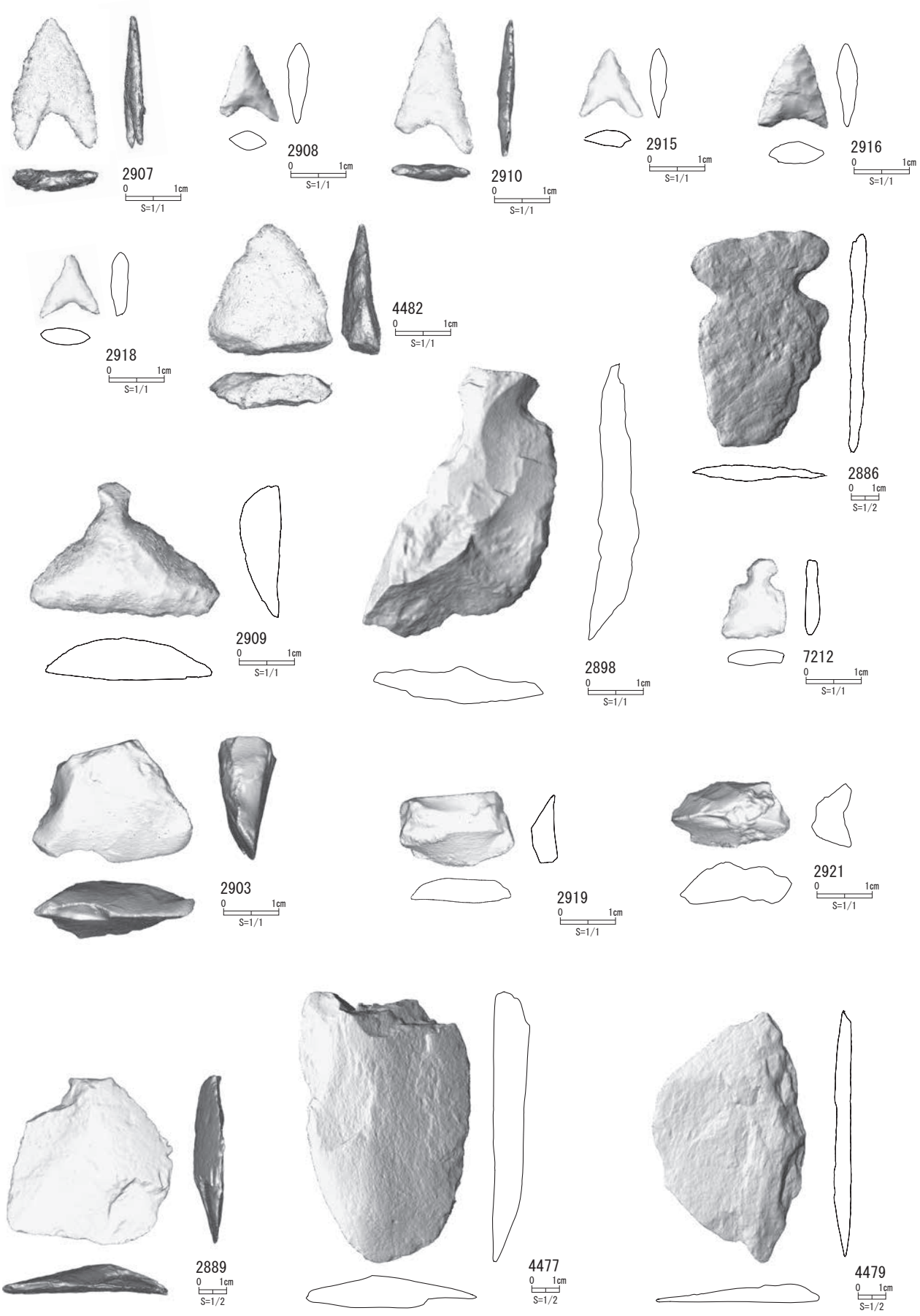




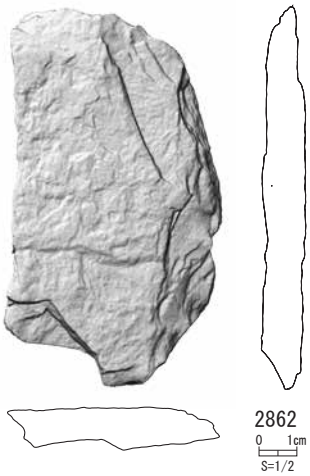


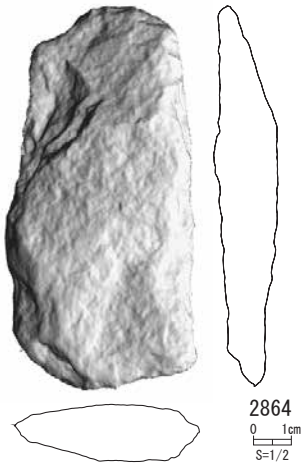


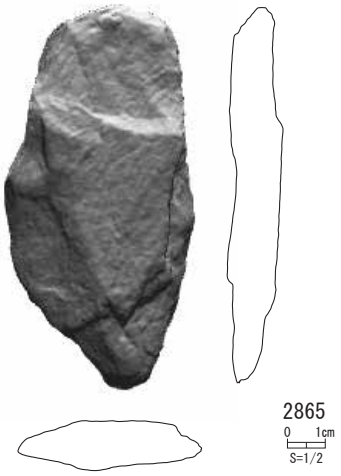
PJ017 号住居出土遺物

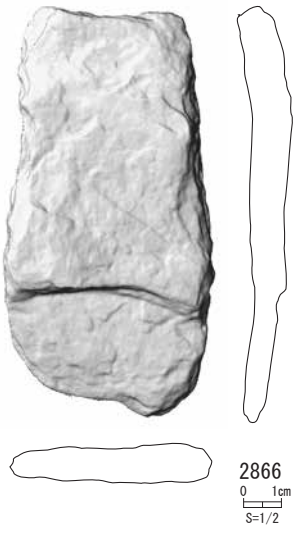


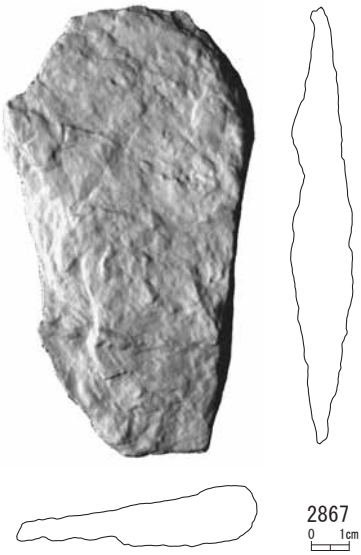
PJ017 号住居出土遺物

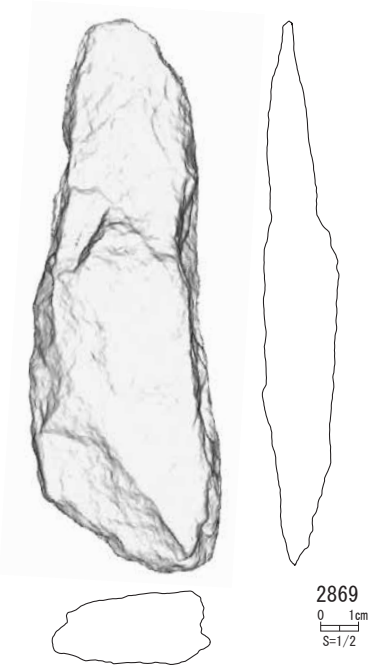


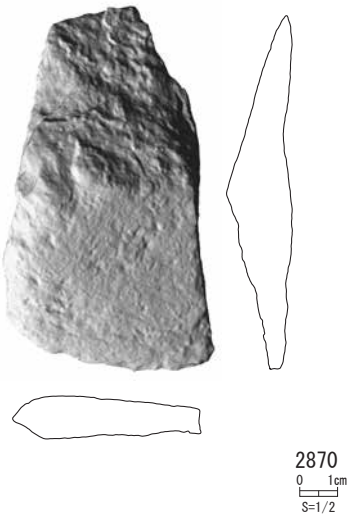


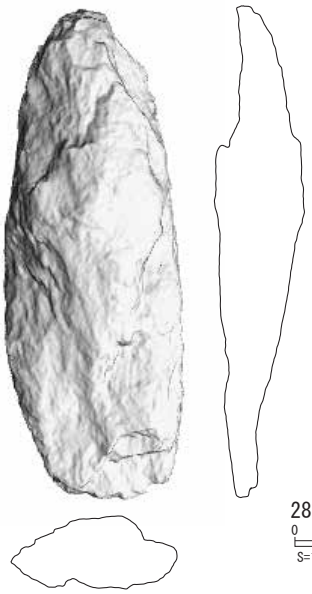


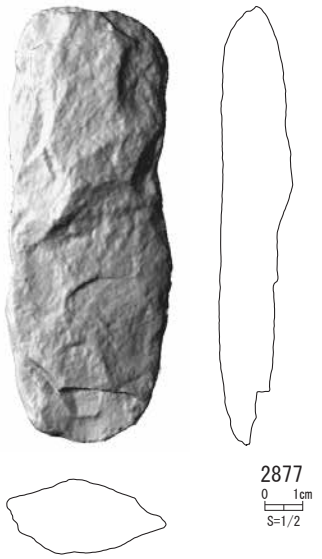




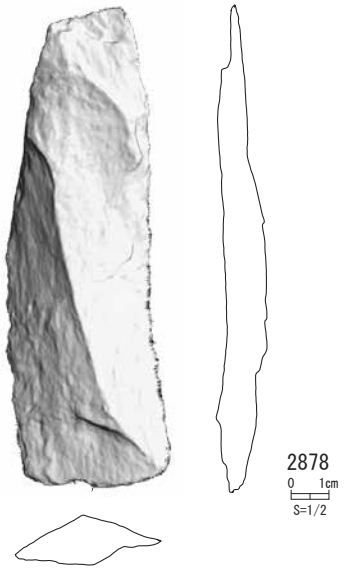


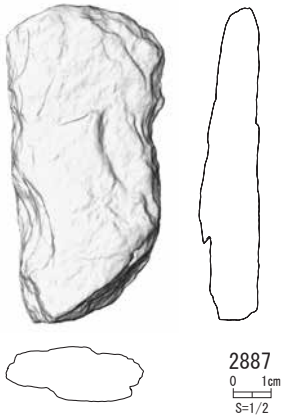


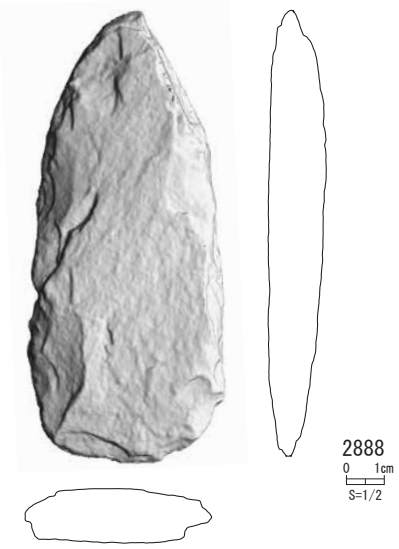


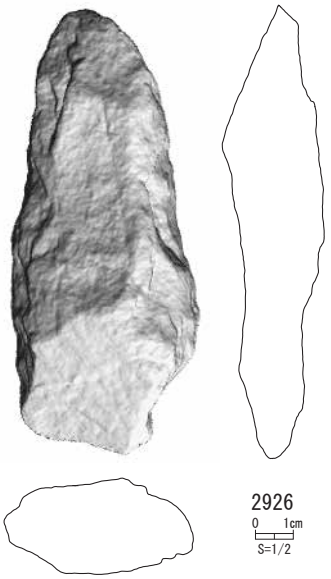


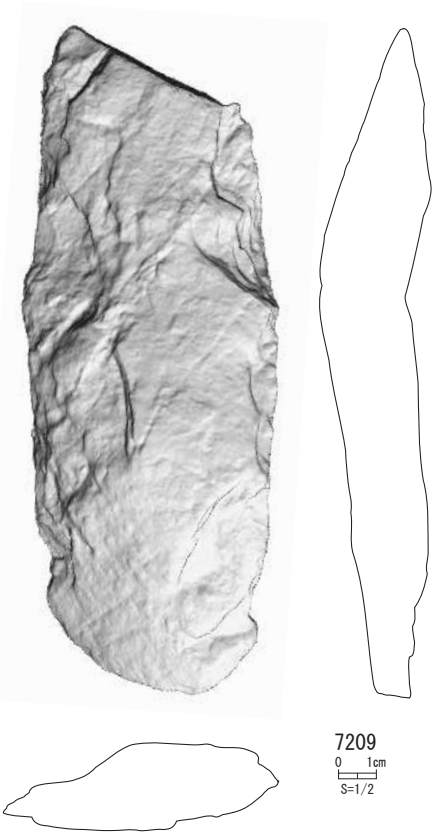
PJ017 号住居出土遺物

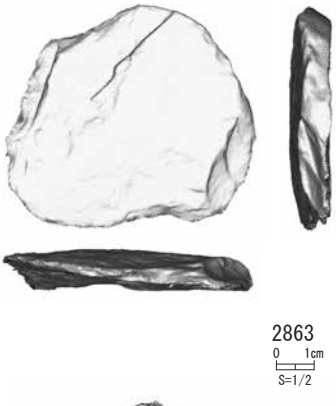


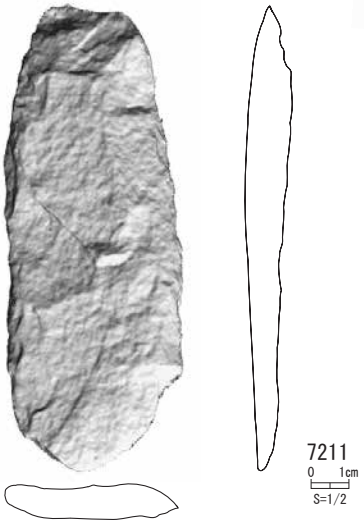


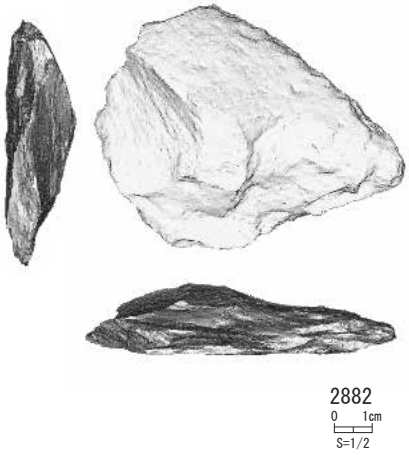




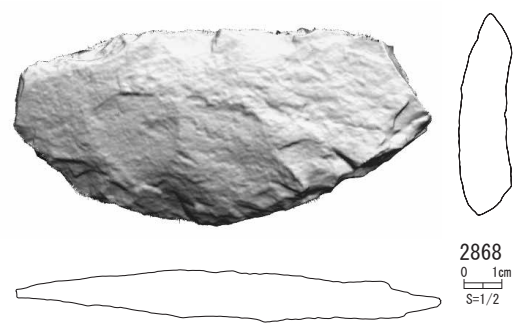


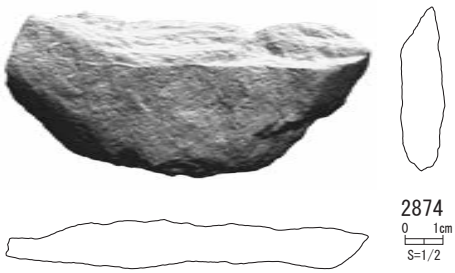


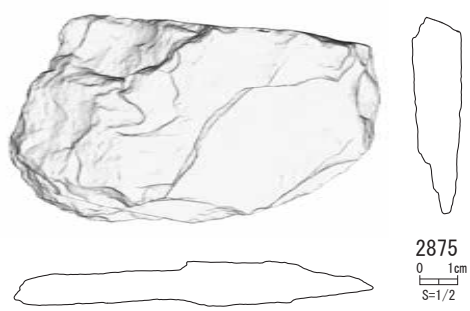


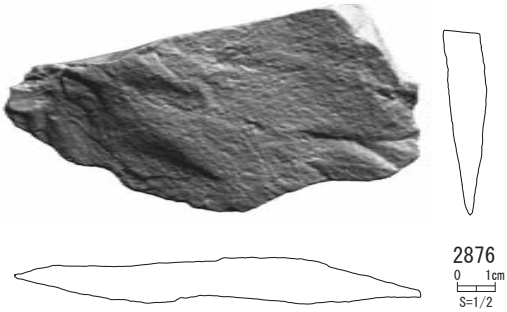


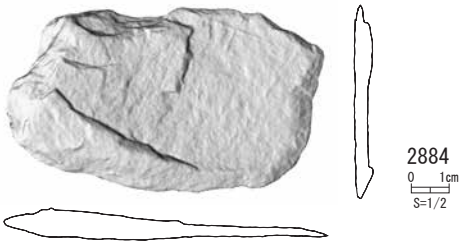
PJ017 号住居出土遺物

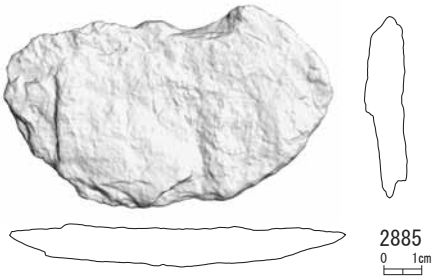


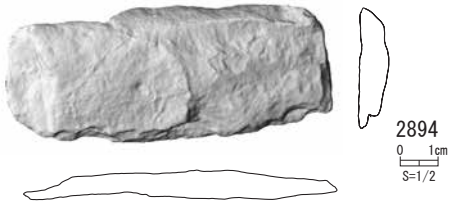


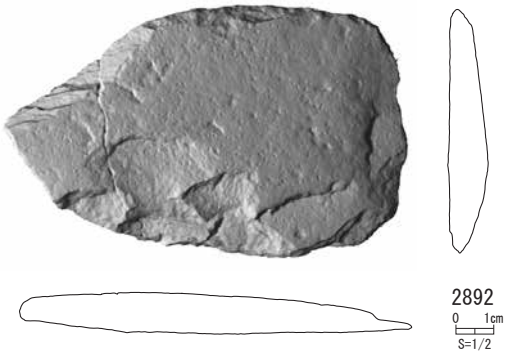


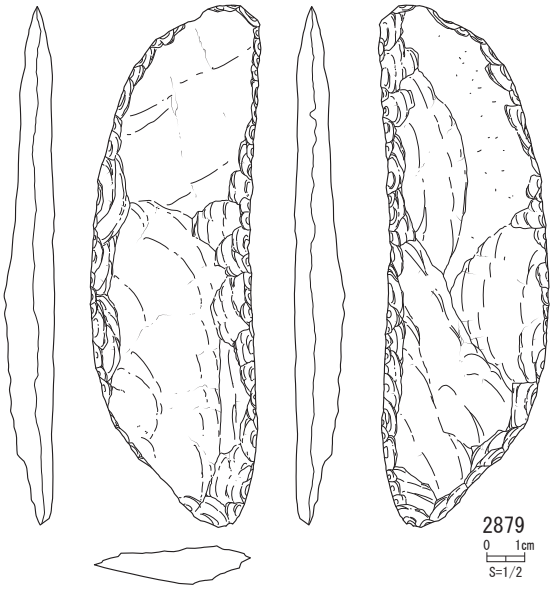




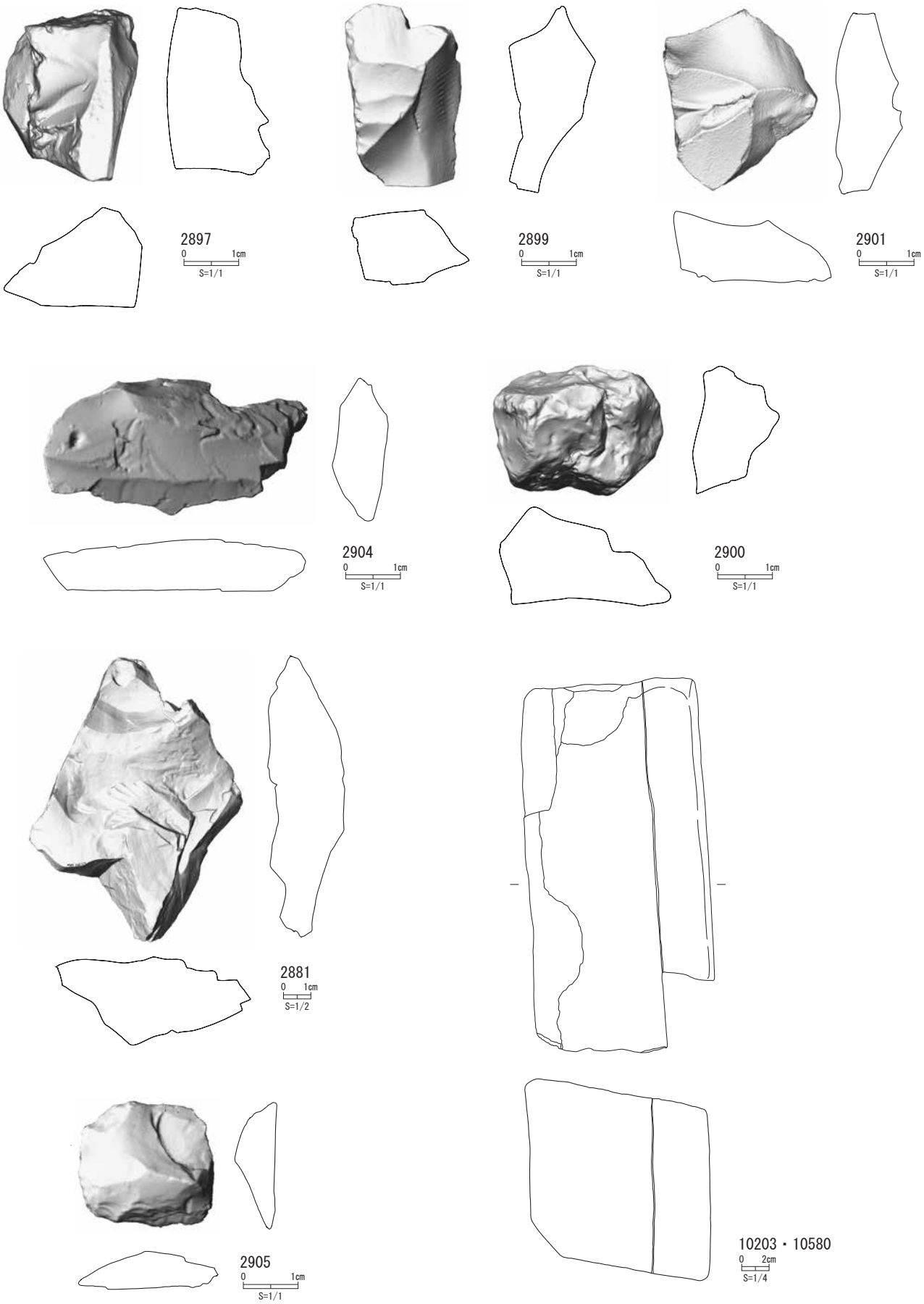




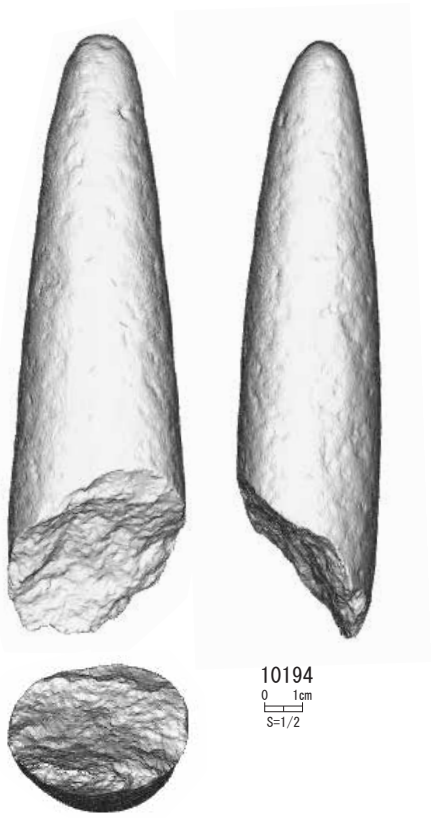


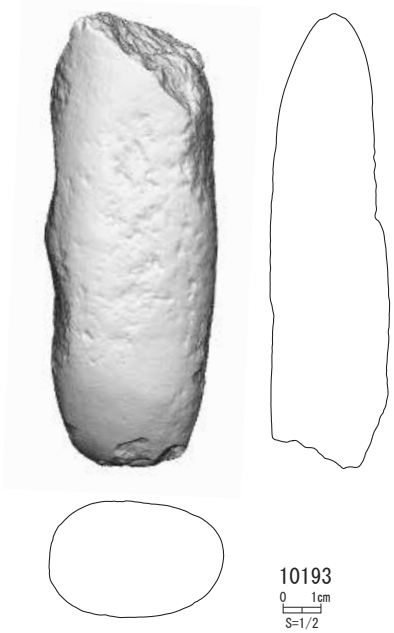


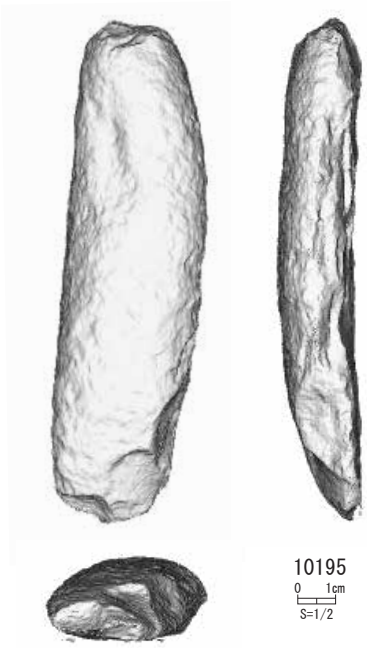
PJ017 号住居出土遺物

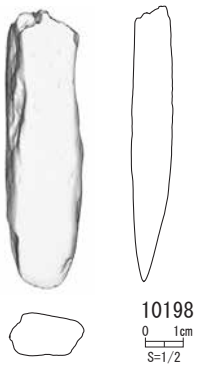


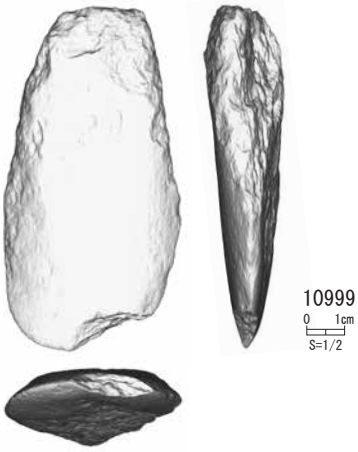
PJ017 号住居出土遺物

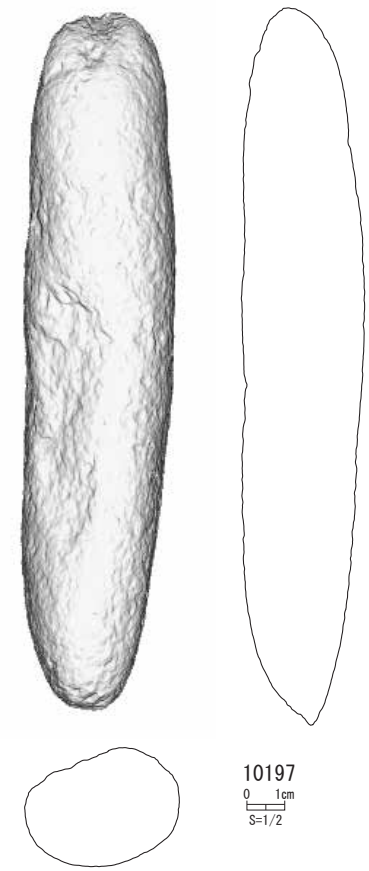


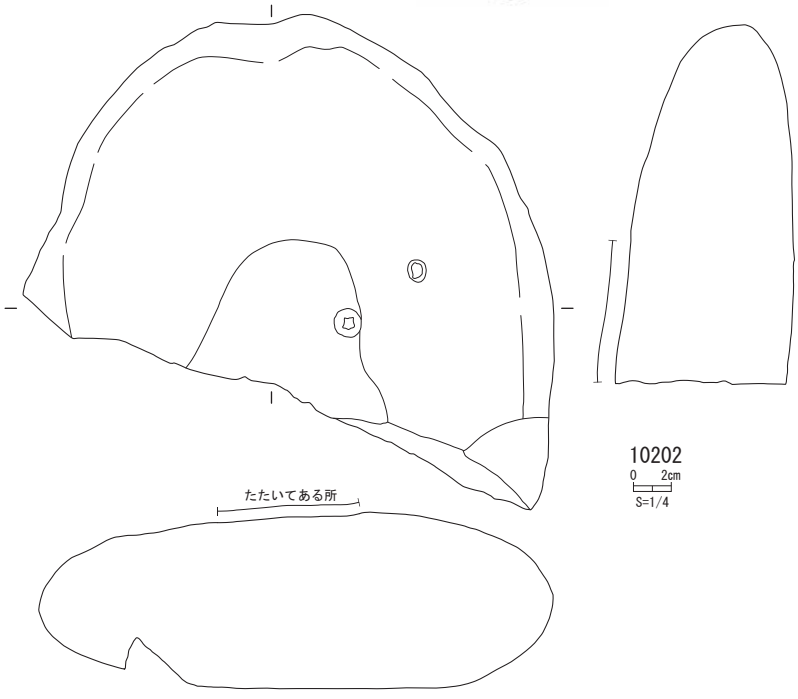




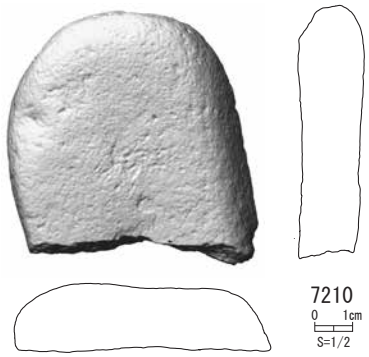


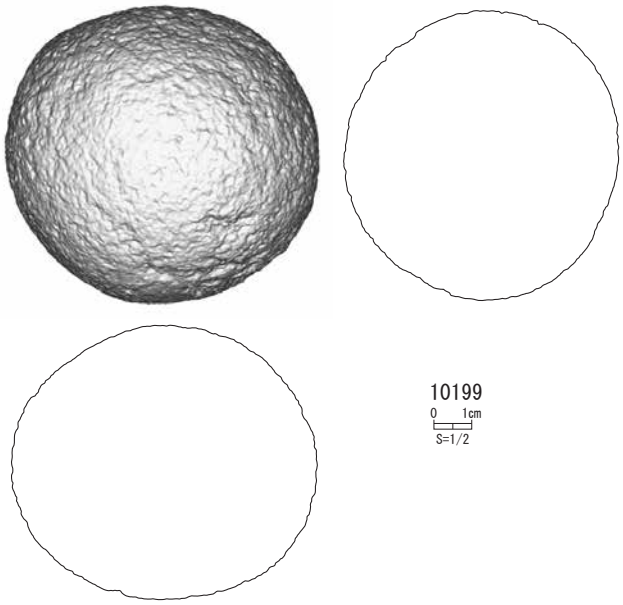


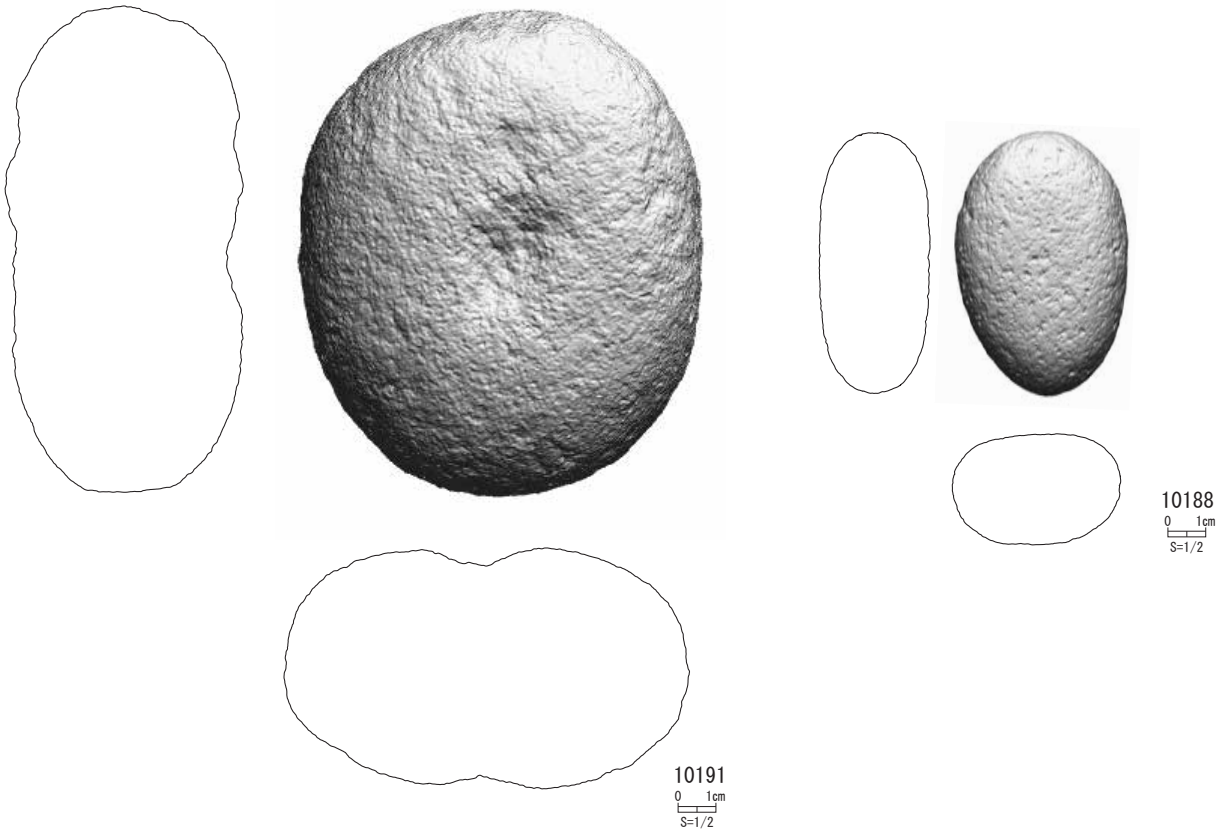




PJ017 号住居出土遺物

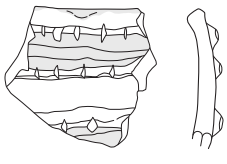




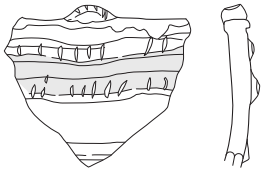


PJ017 号住居出土遺物

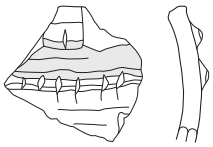
口縁にも赤彩あり



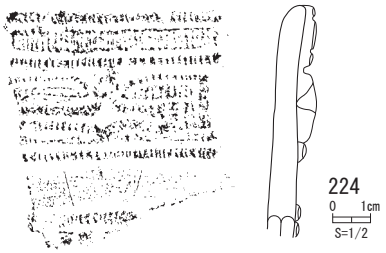
40
0 1cm
S=1/2
赤彩あり



41
0 1cm
S=1/2
赤彩あり

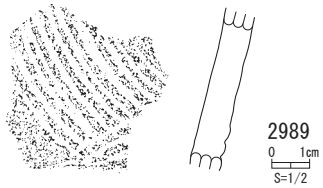


42
0 1cm
S=1/2
赤彩あり

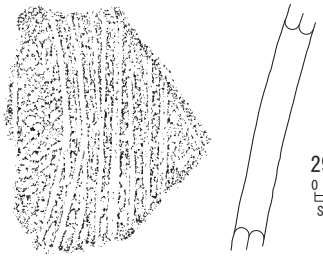


224
0 1cm
S=1/2

2986
0 1cm
S=1/2

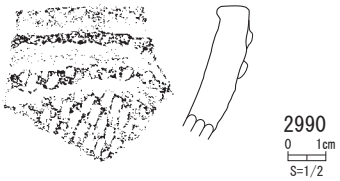


2989
0 1cm
S=1/2

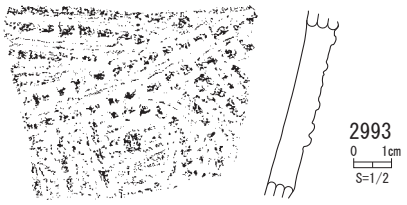


2992
0 1cm
S=1/2

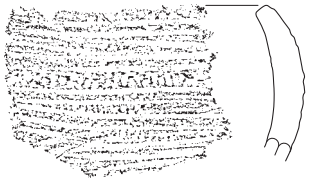
2987
0 1cm
S=1/2



2990
0 1cm
S=1/2



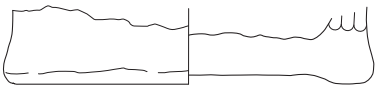
2993
0 1cm
S=1/2

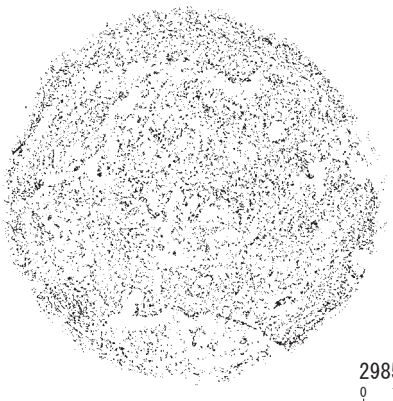


2988
0 1cm
S=1/2

2991
0 1cm
S=1/2

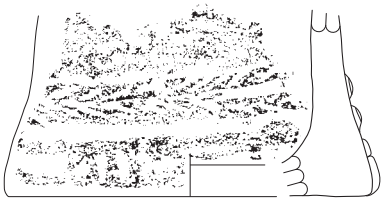
2994
0 1cm
S=1/2





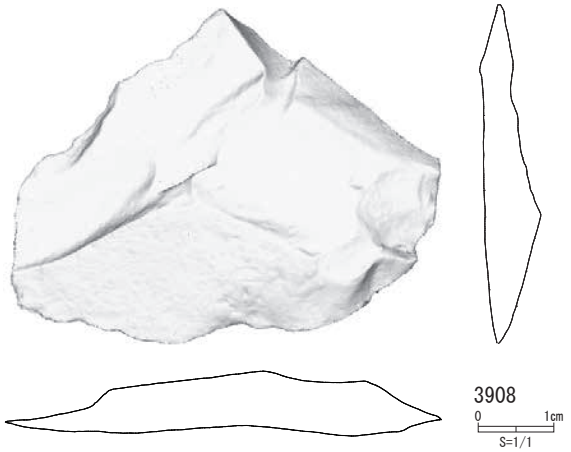
2985
0 1cm
S=1/2

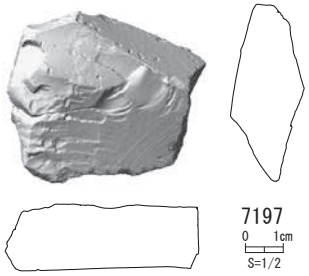
296
0 1cm
S=1/2

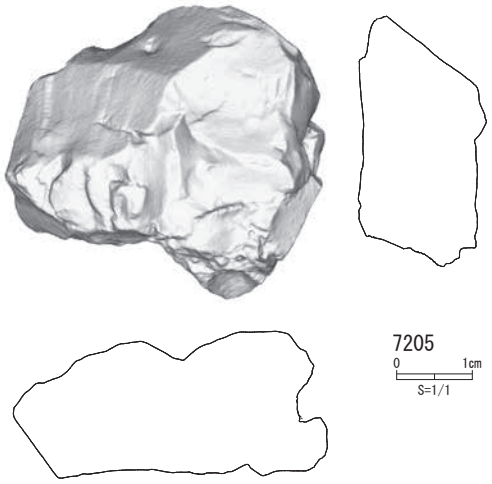


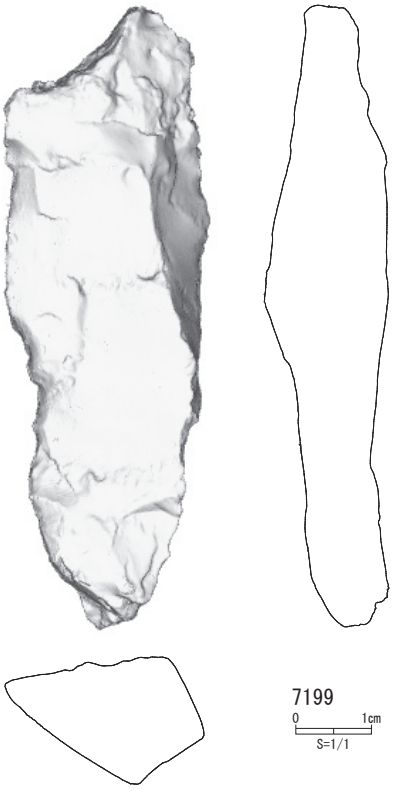
216
0 1cm
S=1/2

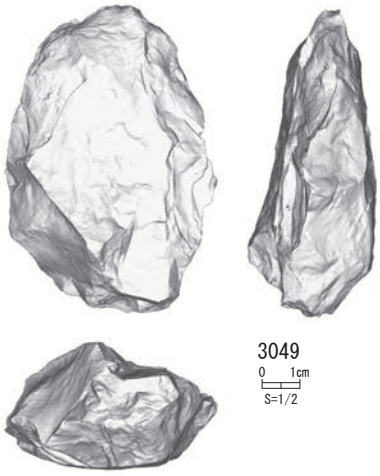
PJ018 号住居出土遺物





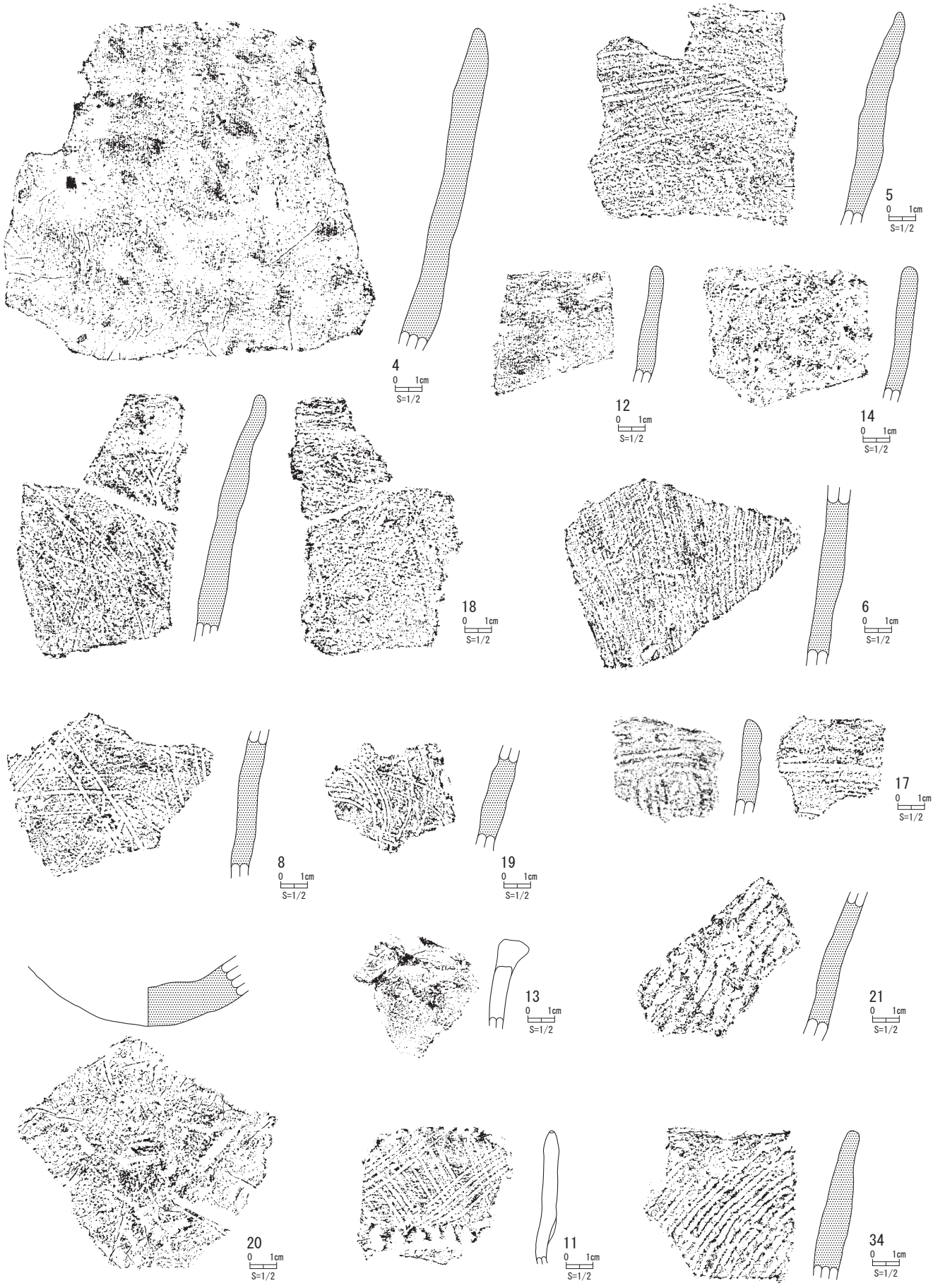




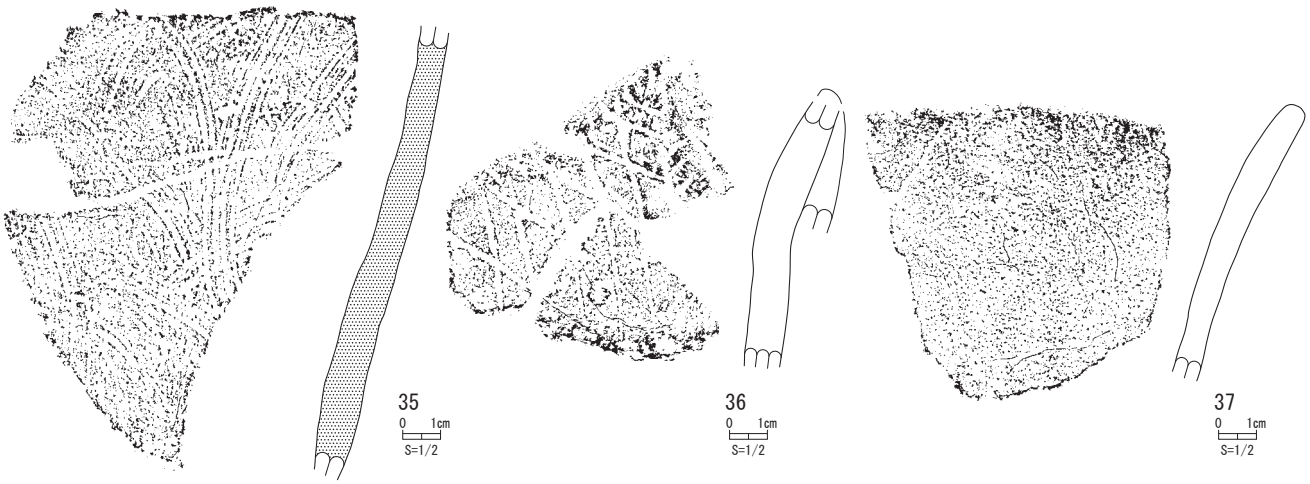


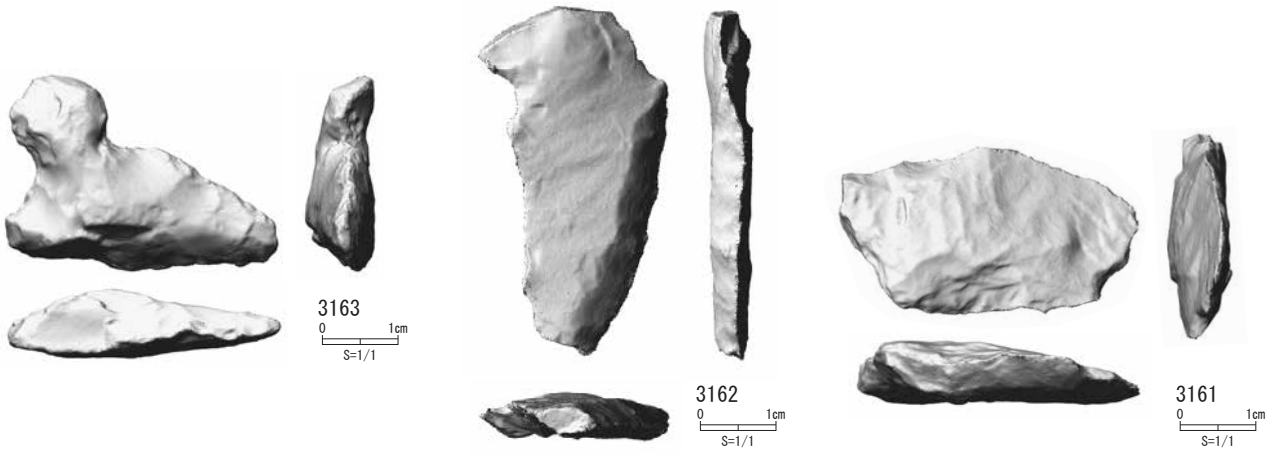
PJ018 号住居出土遺物

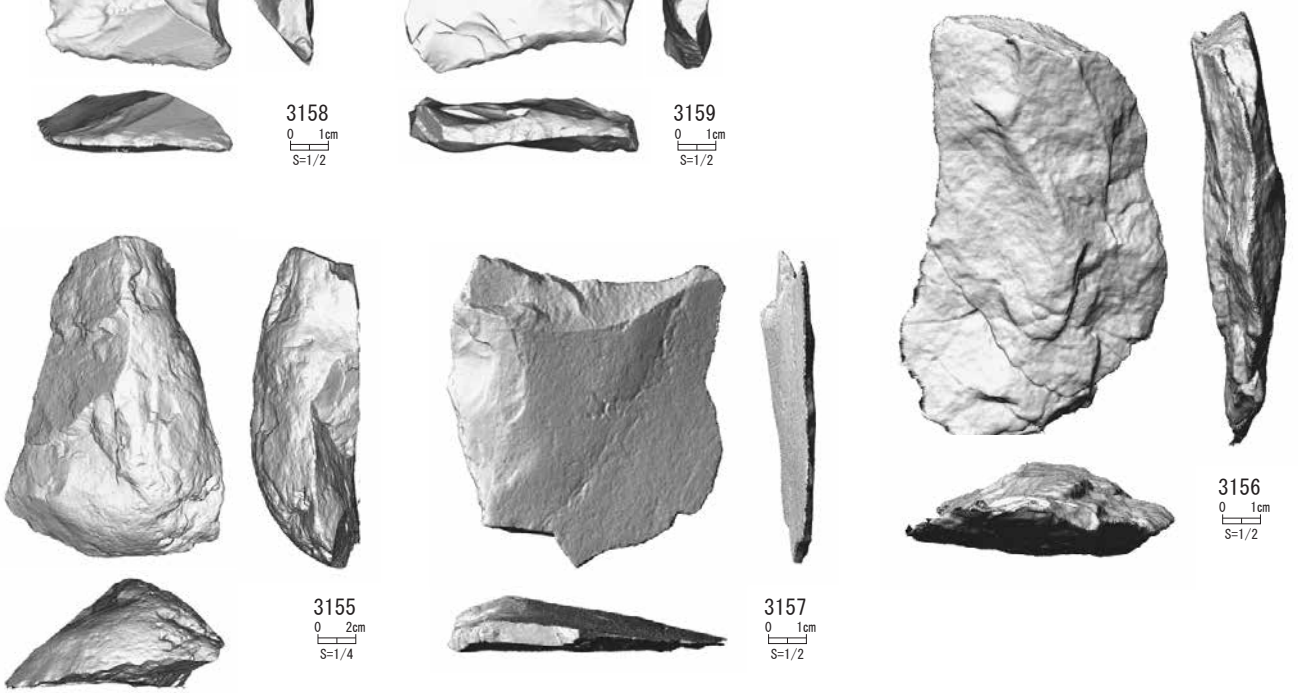
PJ029 号住居出土遺物



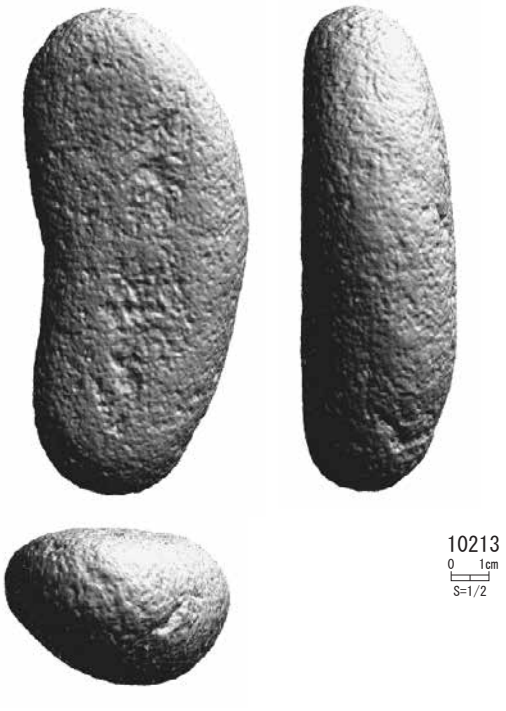
PJ029 号住居出土遺物

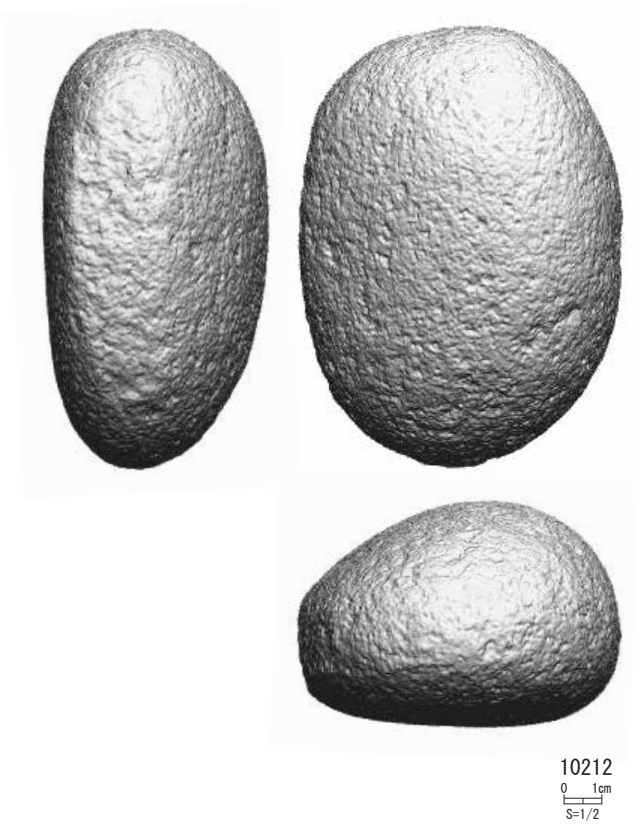


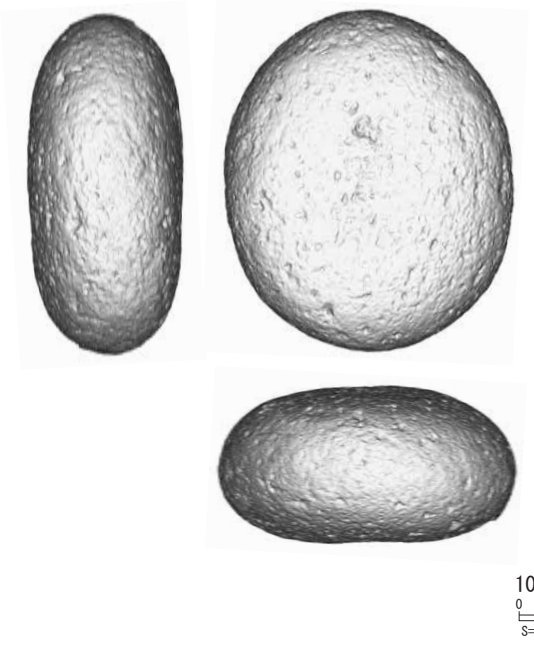


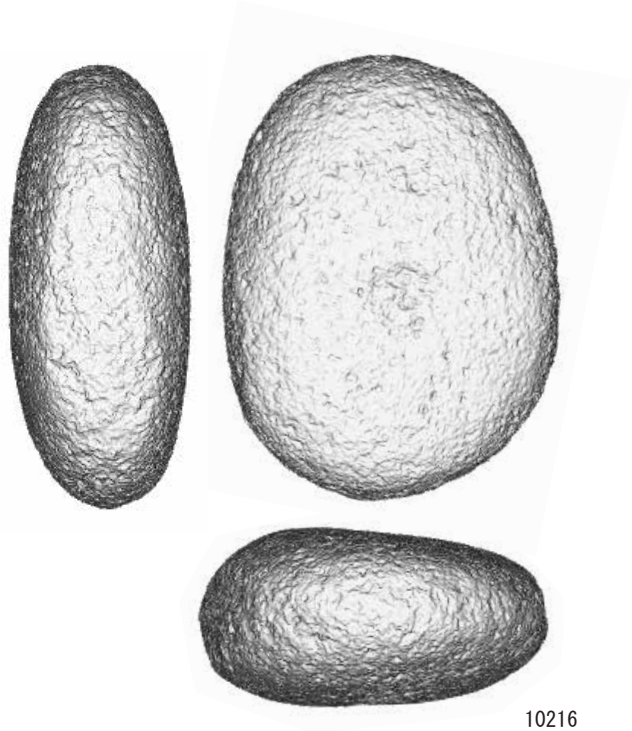


PJ029 号住居出土遺物

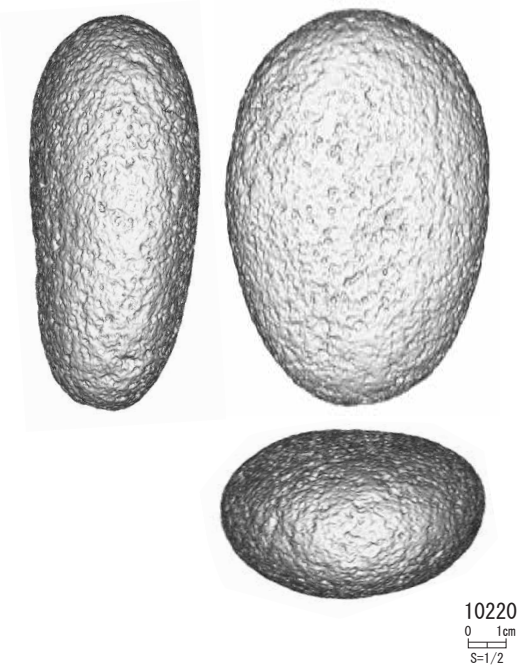


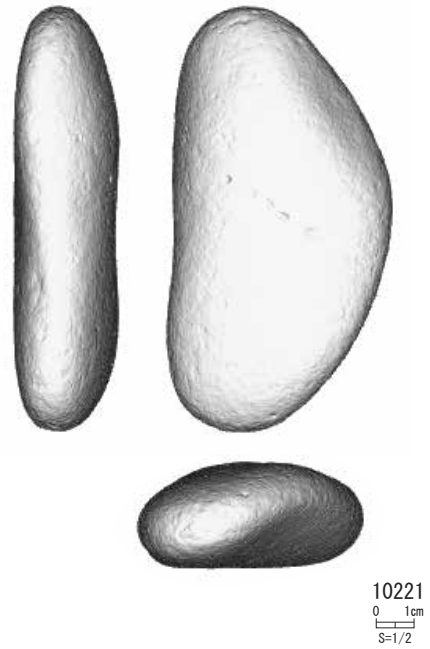


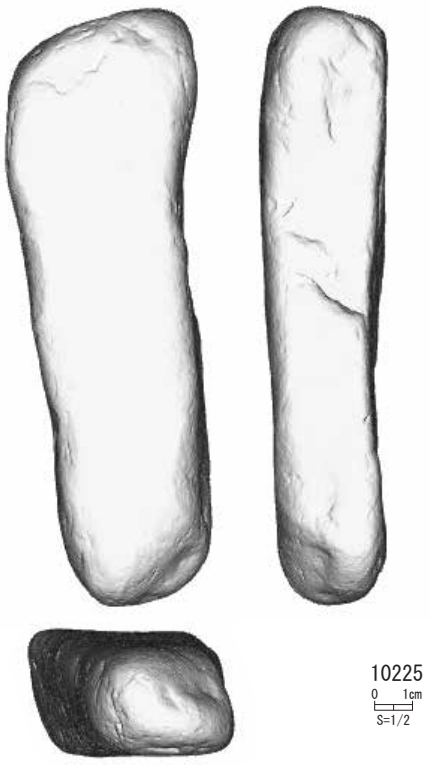




PJ029 号住居出土遺物







PJ029 号住居出土遺物

PJ017 号住居　土器観察表

実測番号	注記		帰属遺構	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	総重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
39	6-010-2012	PJ-17 、IG-7030	PJ-17	口縁部～底部	13.0	3.8	4.0	115.0	1/2	10YR6/4 10YR7/4	片口か、丸底
225	6-010-2012	PJ-17	PJ-17	口縁部	－	－	－	35.0	破片	2.5Y7/1 2.5Y7/1	沈線、C字状爪形文、刺突、縄
324	6-010-2012	PT-421 図1、図2	PJ-17	口縁部～底部	6.0	7.6	3.2	63.0	1/2	5YR4/6 7.5YR5/6	
1009	6-010-2012	PJ-17 257	PJ-17	口縁～底部	19.1	15.2	8.9	1,112.0	完型	2.5YR5/8 2.5YR4/6	PT496 上面の床面で出土
1010	6-010-2012	PJ-17	PJ-17	口縁～底部	12.7	18.5	8.7	759.0	5/6	7.5YR4/1 7.5YR6/6	埋土中に散在して出土
1011	6-010-2012	PJ-17 162、41、10	PJ-17	口縁～底部	(23.0)	37.4	13.4	3,879.0	4/5	7.5YR6/4 5YR4/2	PT501 上面の埋土上層、床面から 25 cm浮いて出土。
1012	6-010-2012	PJ-17 225、239	PJ-17	口縁～底部	13.5	19.4	7.8	1,083.0	ほぼ完型	7.5YR4/1 5YR5/6	PT405 東 60 cmの埋土下層、床面から 5 ～ 13 cmほど浮いて出土。
1013	6-010-2012	PJ-17 259	PJ-17	口縁～底部	12.4	17.0	6.2	559.0	完形	7.5YR5/2 7.5YR6/4	PT492 西 30 cmの埋土、床面から 13 cm浮いて出土
1014	6-010-2012	PJ-17 248	PJ-17	口縁～底部	(10.5)	11.7	6.2	318.0	完形	7.5YR5/4 5YR5/6	PT485 北 20 cmの埋土下層、床面から 8 cmで出土
1015	6-010-2012	PJ-17 258	PJ-17	口縁～底部	16.5	23.5	8.8	1,149.0	ほぼ完形	7.5YR6/4 7.5YR5/4	PT496 北 30 cmの埋土下層、床面から 11 cm浮いて出土
1016	6-010-2012	PJ-17 260	PJ-17	口縁～底部	(15.0)	－	7.5	930.0	4/5	7.5YR6/4 7.5YR6/6	PT496 上面の床面から 10 cm浮いて出土
1017	6-010-2012	PJ-17 261	PJ-17	口縁～底部	23.8	34.0	15.8	3,200.0	完形	7.5YR6/6 7.5YR6/6	PJ17 北壁沿いで、炭化材、焼土とともに床面から 10 cm浮いて出土
1018	6-010-2012	PJ-17 遺物① 図-7	PJ-17	胴部～底部	－	－	13.0	1,760.0	破片	10YR6/3 7.5YR6/6	PJ17 炉上、床面から 20 cm浮いて出土
1019	6-010-2012		PJ-17	胴部～底部	－	－	12.8	2,339.0	3/4	7.5YR5/4 5YR5/6	PJ17 炉上、床面から 20 cm浮いて出土
1020	6-010-2012	PJ-17 遺物① 図1	PJ-17	口縁～胴部	23.2	－	－	2,540.0	2/3	5YR5/4 5YR5/4	PJ17 炉上、床面から 20 cm浮いて出土
1021	6-010-2012	PJ-17 159、205、一括	PJ-17	口縁～底部	15.7	30.0	9.8	1,655.0	5/6	7.5YR5/4 5YR4/3	PJ17 炉東から南にかけての埋土中、床面から 15 cm浮いて出土
1036	6-010-2012	PJ-17 13、101、204、205、206、207、232、233、244、250、251、253、一括	PJ-17	口縁～胴部	(21.3)	－	－	1,435.0	1/3	5YR6/6 7.5YR5/4	PJ17 炉東側の埋土下層、床面から 5 cm～ 20 cm浮いて出土。破片がやや広がって出土した
1037	6-010-2012	PJ-17 131、135、143、144、150、151、250、一括	PJ-17	口縁～胴部	(31.0)	－	－	1,504.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/6	PT502 上面の床面と床面から 5 cm浮いて出土。破片はやや広い範囲い散らばって出土した
1038	6-010-2012	PJ-17 163、107、159、109、104、225、一括	PJ-17	胴～底部	－	－	13.5	5,735.0	破片	5YR5/6 5YR6/6	PJ17 炉西側 50 cmと南側 1m の埋土中、床面から 8 cm～ 22 cm浮いて出土。漆塗彩文様あり。
1050	6-010-2012	PJ-29 下層	PJ-29	口縁突起部	－	－	－	25.0	破片	7.5YR6/6 5YR5/6	平出Ⅲ類 A か
1052	6-010-2012	PJ-17 83、一括	PJ-17	胴～底部	－	－	5.0	72.0	破片	2.5YR4/4 5YR4/3	PT486 南側 20 cmの埋土下層、床面から 4 cm浮いて出土
1053	6-010-2012	PJ-17 25	PJ-17	口縁部	－	－	－	61.0	破片	5YR5/6 7.5YR6/6	五領ヶ台式土器破片。PJ17 炉東側 1m の埋土下層、床面から 16 cm浮いて出土
1054	6-010-2012	PJ-17 191、251、一括	PJ-17	口縁部	－	－	－	118.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	1036 とともに出土
1055	6-010-2012	PJ-17 135、68、80、158、166、227、一括、IG-1502	PJ-17	口縁部	11.4	－	－	388.0	破片	5YR5/5 5YR4/4	1037 とともに出土
1056	6-010-2012	PJ-17 256	PJ-17	口縁～胴部	(20.0)	－	－	399.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	PT496 上面、床面から 9 cm浮いて出土

PJ017 号住居　土器観察表

実測番号	注記		帰属遺構	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	総重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1057	6-010-2012	PJ-17 156、90、一括、PT-421	PJ-17	口縁～胴部	–	–	–	344.0	破片	5YR4/4 2.5YR5/6	PT421 埋土中と、PT421 周辺の埋土上層、床面から 34 cm浮いて出土
1058	6-010-2012	PJ-17 64	PJ-17	胴部	–	–	–	138.0	破片	10YR6/3 7.5YR6/4	PT502 西側 60 cm、床面から 5 cm浮いて出土
1059	6-010-2012	PJ-17 121、122、34	PJ-17	口縁～胴部	(21.0)	–	–	230.0	破片	7.5YR5/4 5YR5/6	1036、1037 とともに出土
1060	6-010-2012	PJ-17 205、32、52、202、116、一括	PJ-17	口縁～底部	(14.4)	(21.0)	6.2	284.0	破片	5YR2/1 5YR4/4	PT489 周辺と炉東側 2m の埋土中、床面から 6 ～ 20 cm浮いて出土
1061	6-010-2012	PJ-17 ①図 5、図 8	PJ-17	口縁～胴部	–	–	–	602.0	破片	7.5YR7/6 5YR5/6	炉上、床面から 20 cm浮いて出土
1062	6-010-2012	PJ-17 255、28、244、231、207、一括、IG-1703、	PJ-17	口縁～胴部	(31.4)	–	–	794.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	炉東側 2m の埋土中、床面から 3 ～ 36 cm浮いて出土
1063	6-010-2012	PJ-17 16、207、117、119、118、一括	PJ-17	口縁～胴部	–	–	–	501.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR6/6	
1064	6-010-2012	PJ-17 図 6、197、66、199、192、207、253	PJ-17	口縁～胴部	(31.4)	–	–	515.0	1/3	5YR4/4 2.5YR4/4	PJ17 炉上と PT433 南 1m の埋土下層、床面から 20 cm浮いて出土
1066	6-010-2012	PJ-17 165、一括	PJ-17	口縁～底部	(27.6)	12.7	7.8	438.0	1/3	7.5YR6/6 7.5YR6/6	PT494 東 30 cmの埋土中、床面から 23 cm浮いて出土
1067	6-010-2012	PJ-17 図 2、27、95	PJ-17	口縁～胴部	(40.6)	–	–	572.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	PJ17 炉上、PT379 北 30 cm、PT433 南 30 cmの床面から 12 ～ 20 cm浮いて出土
1068	6-010-2012	PJ-17 105、103、106、一括	PJ-17	口縁～胴部	9.5	–	–	431.0	2/3	7.5YR6/4 7.5YR6/4	PJ17 炉西側 50 cmの埋土ちゅ、床面から 15 ～ 22 cm浮いて出土
1069	6-010-2012	PJ-17 169、242、174、171、173、123、170、166、11、59、71、114、133、176、201、228、251、一括	PJ-17	口縁～胴部	(43.0)	–	–	2,215.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	PT433 と DK188 の間の埋土中、床面直上から 15 cm浮いた高さで出土
1070	6-010-2012	PJ-17 99、78、111、162、198、166、125、186、184、一括、IG-1701	PJ-17	口縁～胴部	(24.2)	–	–	999.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	PT433 周辺のやや広い範囲の埋土中、床面から 9 ～ 37 cm浮いて出土
1277	6-010-2012	DK-188 図 2	PJ-17a	口縁～胴部	(29.6)	–	–	787.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR4/6	DK188 底面壁沿いで出土
1278	6-010-2012	PJ-17 208、160	PJ-17	口縁～胴部	(34.0)	–	–	256.0	破片	5YR5/6 5YR4/4	PT485 周辺の埋土中、床面から 10 ～ 12 cm浮いて出土
1284	6-010-2012	DK-188	PJ-17a	口縁～胴部	–	–	–	4.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR3/2	DK188 出土

PJ017 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
2862	PJ-17　269 床直	PJ	17	打製石斧	砂泥交互	1/2	105.0	64.0	12.0	103.10	PT404 北、床面で出土
2863	PJ-17　22	PJ	17	横刃型石器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	60.0	68.0	10.0	49.10	PJ17 炉上面、床から 8 cm浮いて出土
2864	PJ-17　168 下層	PJ	17	打製石斧	砂岩	1/1	102.0	49.0	16.0	108.20	刃部に使用痕。DK188 上面、床から 6 cm浮いて出土
2865	PJ-17　126	PJ	17	打製石斧	砂泥交互	3/4	101.0	50.0	15.0	91.00	刃部欠損。PT489 西、床から 16 cm浮いて出土
2866	PJ-17　62	PJ	17	打製石斧	黄色風化泥岩	3/4	113.0	59.0	11.0	108.20	PT497 北、床から 6 cm浮いて出土
2867	PJ-17　274 床直	PJ	17	剥片	頁岩	3/4	118.0	66.0	17.0	145.00	PT370 上面の床面で出土
2868	PJ-17　146	PJ	17	横刃型石器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	53.0	114.0	13.0	104.10	PT386 上面、床から 6 cm浮いて出土
2869	PJ-17　161 上層	PJ	17	打製石斧	砂岩	3/4	149.0	52.0	20.0	161.60	PT485 上面、床から 3 cm浮いて出土
2870	PJ-17　219	PJ	17	打製石斧	砂泥交互	3/4	93.0	54.0	18.0	85.90	ややホルンフェルス化した石材。PT422 北側、床から 11 cm浮いて出土
2871	PJ-17　152	PJ	17	打製石斧	頁岩	1/2	57.0	36.0	10.0	30.50	北壁沿い、床から 7 cm浮いて出土
2872	PJ-17　56	PJ	17	打製石斧	緑色岩	1/1	130.0	47.0	22.0	160.40	表面に敲打痕。PT433 南側、床から 19 cm浮いて出土
2873	PJ-17　149	PJ	17	打製石斧	砂岩	3/4	94.0	44.0	20.0	94.00	東壁際、床から 13 cm浮いて出土
2874	PJ-17　70	PJ	17	横刃型石器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/2	51.0	100.0	13.0	69.80	PT490 上面、床から 30 cm浮いて出土
2875	PJ-17　279	PJ	17	横刃型石器	頁岩	1/1	54.0	96.0	12.0	85.40	PT370 南の床面で出土。刃部反対側面は円礫状の礫面のまま
2876	PJ-17　185	PJ	17	横刃型石器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	50.0	109.0	12.0	77.70	PT426 南、床から 29 cm浮いて出土
2877	PJ-17　112	PJ	17	打製石斧	砂泥交互	3/4	116.0	45.0	18.0	122.30	PT502 南、床から 24 cm浮いて出土
2878	PJ-17　139	PJ	17	打製石斧	泥岩	3/4	130.0	45.0	14.0	84.20	PT379 南、床から 8 cm浮いて出土
2879	PJ-17　140	PJ	17	横刃型石器	砂岩	1/1	47.0	138.0	12.0	80.10	PT422 北、床面から 18 cm浮いて出土
2880	PJ-17　87	PJ	17	大形粗製石匙	砂岩	3/4	67.0	65.0	10.0	36.20	PT502 南、床から 24 cm浮いて出土
2881	PJ-17　148	PJ	17	砕片	珪質頁岩		79.0	105.0	33.0	200.10	PJ17 東壁沿い、床から 8 cm浮いて出土。乱雑に割り取っただけの砕片
2882	PJ-17　145	PJ	17	横刃型石器	頁岩	3/4	61.0	80.0	18.0	82.80	PT386 東、床から 19 cm浮いて出土。刃部端に磨耗あり
2883	PJ-17　84	PJ	17	打製石斧	頁岩	1/2	－	50.0	20.0	101.90	PT486 南、床から 26 cm浮いて出土
2884	PJ-17　30	PJ	17	横刃型石器	黄色風化泥岩	1/1	52.0	87.0	8.0	37.60	PT502 西、床から 18 cm浮いて出土
2885	PJ-17　188	PJ	17	横刃型石器	頁岩	1/1	53.0	90.0	10.0	64.70	PT433 南、床から 30 cm浮いて出土
2886	PJ-17　113	PJ	17	大形粗製石匙	砂泥交互	1/1	80.0	53.0	7.0	34.00	PT386 南西、床から 24 cm浮いて出土
2887	PJ-17　100	PJ	17	打製石斧	黄色風化泥岩	3/4	83.0	41.0	15.0	74.80	PT502 東、床から 27 cm浮いて出土。刃部側折損
2888	PJ-17　91	PJ	17	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	118.0	52.0	15.0	130.20	基部側折損。PJ17 炉北、床から 8 cm浮いて出土
2889	PJ-17	PJ	17	素刃削器	頁岩	3/4	62.0	60.0	10.0	37.20	埋土一括
2890	PJ-17　110	PJ	17	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/2				41.30	PT499 南、床から 7 cm浮いて出土。折損
2891	PJ-１７　272 床直	PJ	17	打製石斧	砂岩	－	－	－	18.0	78.30	PT370 南の床面で出土。折損
2892	PJ-１７　224	PJ	17	横刃型石器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	65.0	106.0	10.0	93.70	刃部に磨耗あり。PT405 北、床から 3 cm浮いて出土
2893	PJ-17　37	PJ	17	横刃型石器	砂泥交互	1/1	50.0	61.0	15.0	40.30	一面に礫面が残る。PJ17 炉北、床から 5 cm浮いて出土
2894	PJ-１７　128	PJ	17	横刃型石器	黄色風化泥岩	1/1	33.0	83.0	7.0	28.10	PT410 北、床から 6 cm浮いて出土

PJ017 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	現存長(mm)	現存幅(mm)	現存厚(mm)	重量(g)	観察所見
2895	PJ-17　43	PJ	17	打製石斧	砂岩	1/2	65.0	29.0	10.0	21.20	刃部に使用痕。折損後に素刃削器として転用か？ PT502 南、床から 21 cm浮いて出土
2896	PJ-17	PJ	17	打製石斧	緑色岩	－				28.80	基部側か。折損品
2897	PJ-17	PJ	17	原石	黒曜石					18.70	角礫の転石。一面が折り取られている
2898	PJ-17	PJ	17	小形精製石匙	珪質頁岩	3/4	51.0	47.0	8.0	12.70	
2899	PJ-17	PJ	17	原石	黒曜石					11.20	角礫の転石。一面が折り取られている
2900	PJ-17	PJ	17	石核	黒曜石					14.30	一面に割り取り剥離面。ほかは角礫面が残る
2901	PJ-17	PJ	17	原石	黒曜石					13.00	やや風化した剥離面で囲まれている
2902	PJ-17　床直	PJ	17	剥片	黒曜石	1/1				6.70	小さな剥離がある面以外は、やや風化した礫面に囲まれる
2903	PJ-17	PJ	17	小形精製石匙	黒曜石	1/1	26.0	25.0	10.0	5.20	端部に抉りをいれる剥離あり。折損品ではない。
2904	PJ-17	PJ	17	原石	黒曜石					13.60	埋土一括
2905	PJ-17	PJ	17	素材剥片	黒曜石	1/1	26.0	24.0	8.0	4.40	埋土一括
2906	PJ-17	PJ	17	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				4.00	埋土一括
2907	PJ-17　216	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/1	25.5	16.8	3.2	0.95	PT497 北、床面から 14 cm浮いて出土
2908	PJ-17　67	PJ	17	石鏃	黒曜石	3/4	(19.0)	(14.2)	4.0	(0.54)	PT491 北、床面から 21 cm浮いて出土
2909	PJ-17　180 下層	PJ	17	小形精製石匙	黒曜石	1/1	24.0	35.0	8.0	4.60	PT500 東の床面で出土
2910	PJ-17　130	PJ	17	石鏃	黒曜石	3/4	23.8	(14.4)	3.0	(0.55)	PT379 南、床面から 8 cm浮いて出土
2911	PJ-17	PJ	17	両極石器	黒曜石	1/1	20.0	15.0	5.0	1.70	埋土一括
2912	PJ-17　207	PJ	17	両極石器	黒曜石	1/1	12.0	11.0	4.0	0.50	PT485 西、床面から 3 cm浮いて出土
2913	PJ-17	PJ	17	石鏃	黒曜石	3/4	19.7	－	2.8	(0.33)	埋土一括
2914	PJ-17	PJ	17	石鏃	黒曜石	－	－	－	3.6	(0.77)	埋土一括
2915	PJ-17　216	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/1	17.7	16.7	3.2	0.44	PT497 北、床面から 14 cm浮いて出土。2907 とともに出土
2916	PJ-17　61	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/1	17.4	14.6	3.9	0.63	PT379 北、床面から 18 cm浮いて出土
2917	PJ-17　50	PJ	17	石鏃	黒曜石	3/4	－	16.5	3.7	(0.77)	PT497 西、床面から 3 cm浮いて出土
2918	PJ-17　20	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/1	15.6	15.0	3.2	0.45	PT500 南、床面から 34 cm浮いて出土
2919	PJ-17	PJ	17	両極石器	黒曜石	1/1	19.0	12.0	4.0	1.20	埋土一括
2920	PJ-17	PJ	17	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.10	埋土一括
2921	PJ-17　273 床直	PJ	17	両極石器	黒曜石	1/1	22.0	13.0	7.0	1.80	PT370 北の床面で出土
2922	PJ-17	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/2	16.8	19.2	3.7	1.22	埋土一括
2923	PJ-17	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/1	22.5	17.4	7.3	2.95	埋土一括。石鏃未成品
2924	PJ-17　床直	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/2				1.18	床直出土。石鏃未成品
2925	PJ-17	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/2				(0.19)	埋土一括
2926	PJ-17　132	PJ	17	打製石斧	砂岩	3/4	123.0	51.0	26.0	180.50	PT502 北で出土
4475	PT-422	PJ	17	石錐	黒曜石	1/1	23.0	17.0	4.0	1.30	PJ17 柱穴 PT422 出土
4476	PT-489	PJ	17	打製石斧	砂岩	－	72.0	50.0	14.0	53.70	PJ17 柱穴 PT489 出土
4477	PT-489	PJ	17	素刃削器	ホルンフェルス	1/1	104.0	64.0	13.0	101.30	PJ17 柱穴 PT489 出土
4478	PT-489	PJ	17	剥離のある剥片	黄色風化泥岩	1/1	47.0	28.0	9.0	10.40	PJ17 柱穴 PT489 出土

PJ017 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
4479	PT-489	PJ	17	素刃削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	60.0	97.0	7.0	38.80	PJ17 柱穴 PT489 出土
4481	PT-421	PJ	17	横刃型石器	黄色風化泥岩	1/1	46.0	123.0	10.0	62.60	PJ17 柱穴 PT421 出土
4482	PT-433(PJ-17 内)	PJ	17	石鏃	チャート	1/1	24.1	22.9	6.7	3.12	PJ17 柱穴 PT433 出土
7209	IG-7030	PJ	17	打製石斧	砂泥交互	3/4	197.0	76.0	25.0	423.80	PT421 出土。大形の打製石斧
7211	IG-1700	PJ	17	打製石斧	砂岩	1/1	124.0	48.0	12.0	86.60	PT421 上面、床面から 40 cm浮いて出土
7212	IG-1701	PJ	17	ﾐﾆﾁｭｱ石匙	黒曜石	3/4	19.1	11.7	2.6	0.41	PT426 南、床面から 37 cm浮いて出土。諸磯式期の石器が混入したか？
7218	IG-1541	PJ	17	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/2				106.10	PJ17 東壁沿い、床面から 38 cm浮いて出土。中央部で折損
8144	PJ-17	PJ	17	石鏃	黒曜石	－			3.4	(0.48)	埋土一括
8145	PJ-17	PJ	17	石鏃	黒曜石	1/2			3.1	(0.45)	埋土一括
8146	PJ-17	PJ	17	両極石器	黒曜石	1/1	15.0	13.0	8.0	1.50	埋土一括
8147	PJ-17	PJ	17	両極石器	黒曜石	1/1	18.0	16.0	8.0	1.90	埋土一括
8148	PJ-17	PJ	17	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.30	埋土一括
8149	PJ-17	PJ	17	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.90	埋土一括

PJ017 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察事項
7210	IG-7030	PJ	17	ハンマー	砂岩類	－				171	PT421 出土。磨石類もしくはハンマーの破片と思われる。破損して扁平に割れている。
10188	PJ-17　241	PJ	17	磨石類	安山岩類	1/1	6.9	4.5	2.9	121	PT404 北、西壁沿い、床面で出土。小形の磨石。作業面 1 面、縦断・横断ともに平坦面が広い。磨耗痕は縦断･横断ともに側縁部まで認められる。側面、長軸端部に成形痕・使用痕が認められない。
10189	PJ-17　249	PJ	17	磨石類	安山岩類	1/1	(7.7)	6.8	3.7	278	炉東、床面から 10 cm浮いて出土。作業面は 2 面だが、両面とも磨耗度は不明瞭。両面とも、縦断・横断ともに平坦面が広い。1 面は長軸端部から側縁部に磨耗痕が見られ、長軸線状に平面円形の凹部がある。凹部は断面 U 字状で凹部内面に段差が認められることから複数回の敲打によるものと判断できる。凹部内面は磨耗している。縁に浅い皿状敲打痕が重複する。他面は両側縁に磨耗痕が認められ、平面がやや不整形な凹部がある。凹部は線状または点状敲打痕からなり、皿状剥離痕も重複し断面 U 字状の凹部をなす。内面は磨耗している。両側面に平坦面、両面とも敲きによるも磨耗で構成され、縦断・横断ともに平坦。1 面は横断で側縁中ほどに稜があり、角度が異なる 2 面の平坦面。長軸端部に軸に直交する敲きによるごく狭い平坦面、これに隣接して軸に斜行するわずかな皿状敲打痕からなる狭い面が認められる。
10190	PJ-17　29	PJ	17	磨石類	安山岩類	3/4	10.8	(8.3)	11.2	654	炉北､床面から 10 cm浮いて出土。作業面は 2 面､1 面は縦断は緩やかに凸湾、横断は平坦面が広い。磨耗痕は顕著。磨石作業面に点状・皿状敲打痕がまばらに残る。他面は長軸端部片側にわずかに磨耗痕が認められ、磨耗痕の長軸反対側に皿状・点状敲打痕が比較的密に残る。側面に割れ。長軸に斜行する位置に割れの打点が残り、側縁を打ち欠いている。
10191	PJ-17　137	PJ	17	磨石類	安山岩類	1/1	12.9	10.7	6.4	1,126	PT409 北、床面から 16 cm浮いて出土。作業面 2 面、1 面は縦断・横断ともに平坦面が広い。研磨による磨耗痕は長軸端部片側にわずかに認められ、それ以外は敲きによる微妙な凹凸のある磨耗痕。稜磨石の作業面に近い。長軸線上端部よりに凹部が 2 つ並ぶ。一方は U 字状敲打痕で、内部に皿状・点状敲打痕が見えるので敲打痕の集中によるもの、もう一方は浅い皿状敲打痕。両者とも内面が敲きによる磨耗痕が認められる。他面は、縦断・横断ともにゆるやかに凸湾、研磨行為による磨耗は不明瞭だが他方より顕著。凹部が長軸線上端部寄りに並ぶ。断面 U 字状敲打痕が最も端部寄りにあり内面は磨耗している。他の凹部は皿状・点状・線状敲打痕が重複したもので、深い敲打痕が 3 ヶ所長軸線上に並ぶ。側面には皿状敲打痕が残るが面はなさない。長軸端部は皿状敲打痕の集中により凹凸の激しい面が軸に著っこする面をなす。一方は敲打の頻度が激しく平坦面に近い状態になっている。

PJ017 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察事項
10192	PJ-17　259	PJ	17	磨製石斧	頁岩類	—	(4.1)	(3.2)	(0.7)	5	褐色に風化。新鮮な断面は黒色粒子と白色粒子が混在し灰色。葉理が発達している為頁岩とする。側面をもち基部平坦面との間を斜めに面取り。成形時の剥離痕が残る。刃部は外湾。PT496 北側、258 土器の中から出土
10193	PJ-17　154	PJ	17	ハンマー	輝緑凝灰岩	1/2	(12.3)	4.6	3.4	322	住居北西壁際、床面から 13 ㎝浮いて出土。乳棒状石斧をハンマーに転用。断面楕円形、敲打成形の後研磨。刃部に潰れと剥離痕、側縁部に磨製石斧研磨面を壊す敲打痕の集中による抉れができている。敲打痕は磨製石斧破損面（折れ面）まで及ぶ。
10194	PJ-17　82	PJ	17	磨製石斧	輝緑凝灰岩	1/2	(17.1)	5.1	4.3	478	住居南東壁沿い、床面から 18 ㎝浮いて出土。断面楕円形、基端に敲きによる磨耗、面をなさない。基部の基端側に光沢を伴う帯状の磨耗面。最大 6㎝、最少 4㎝ ほどの幅をもつ。敲打により窪んだ面には光沢はない。装着痕あり
10195	PJ-17　7	PJ	17	磨製石斧	緑色凝灰岩	1/1	12.7	3.6	2.2	151	住居東壁沿い、床面から 35 ㎝浮いて出土。成形剥離が終了し敲打による調整を半面に加えた段階で製作を中止している。断面凸レンズ状。敲打が加えられた面に赤褐色錆状付着物
10196	PJ-17　267	PJ	17	磨石類	砂岩類	1/2	(14.2)	6.6	5.9	561	北壁沿い、床面から 23 ㎝浮いて出土。断面楕円形の柱状亜円礫素材。1 面をわずかに横断がわずかに凸湾する磨耗面、側縁部に同様にわずかに凸湾する磨耗面 1 面、反対側の側縁に敲きによる磨耗と見られる稜磨石的作業面と、これと鈍角に斜行する幅の狭い研磨面の 2 面がある。平坦な面の反対面に点状敲打痕が集中する部分が 2 ヶ所ある。長軸端部にも軸に直交する狭い平坦面と、軸に斜行する狭い平坦面がある。軸に平行する方向で縦割れ。平坦な研磨面から長軸端部にスス状の付着物。
10197	PJ-17　138	PJ	17	磨製石斧	輝緑凝灰岩	1/1	19.2	4.2	3.4	431	PT404 南の床面で出土。断面偏平楕円形の乳房状石斧未成品。成形剥離作業の後、敲打を全面に加えた時点で製作が中止されている。刃部に研磨なし
10198	PJ-17 下層 181	PJ	17	磨製石斧	砂泥交互	不明	(7.2)	2.0	(1.2)	25	PT386 西側、床面から 10 ㎝浮いて出土。断面隅丸四角形の柱状礫を素材とする。両片刃で幅の狭いノミ状の刃部をもつ加工用斧。基端欠損。
10199	PJ-17　147	PJ	17	ハンマー	安山岩類	1/1	8.2	7.5	7.5	522	PT386 西、床面で出土。皿状敲打痕が集中するやや平坦な面がありこの面から胴部に暗い紫色に変色した部分が帯状に続く。この面の反対側には敲きによると思われる狭い磨耗面がある。2 つの面以外の場所に皿状敲打痕がある。単に丸石の可能性もあるが、球状ハンマーと考えた。
10200	PJ-17　98	PJ	17	石皿	安山岩類	—	(10.4)	(10.5)	(6.1)	639	PT386 西、床面から 23 ㎝浮いて出土。有文石皿。皿部奥の部分のみ。縁と側縁部に幅をもつタイプ。荘園部に沈線が垂下する。皿部内面は敲打痕が残るが磨耗している。皿部縁から側縁部にかけての沈線が施された平坦面が平滑であるが、研磨により整形されたか否かは不明。側縁部割れ面。
10201	PJ-17 下層 175	PJ	17	台石	安山岩類	—				210	PT490 南、床面から 6 ㎝浮いて出土。偏平円礫の台石破片。平滑な摩耗痕あり
10202	PJ-17　炉 図 1	PJ	17	台石	安山岩類	1/2	(28.7)	(26.6)	10.0	7,300	PJ17 炉の炉石に転用された扁平円礫素材の台石。平坦面中央に点状・皿状敲打痕が集中し、敲きによる磨耗も見られる。石皿未成品かも。側縁部に敲打痕を皿状敲打痕、底面の側縁部近くに皿状敲打痕の集中。側縁部に接合する断片の割れ面が赤紫色に変色。本体割れ面の一部も同色に変色。
10203	PJ-17　炉 図 2	PJ	17	石柱	安山岩類	不明	(26.6)	14.9	(9.9)	7,150	PJ17 炉の炉石に使用されていた。PJ-46・61（整理番号 10580）と接合。角柱状礫。稜端部を剝離し、稜を敲打により面取り。頭部割れ面に黒色変化。割れ面以外は平滑に磨耗している。

PJ018 号住居　土器観察表

実測番号	注記	帰属遺構	部位	時期	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
40	PJ-17	PJ-18	口縁部	北白川下層Ⅱｃ	10.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/4	口唇部および外面赤彩あり。41､42と同一個体。PJ17a埋土出土。隆帯、刻み
41	PJ-17	PJ-18	口縁部	北白川下層Ⅱｃ	13.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	口唇部および外面赤彩あり40､42と同一個体。PJ17a埋土出土。隆帯、刻み、粘土貼付
42	DK-170	PJ-18	口縁部	北白川下層Ⅱｃ	7.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/4	口唇部および外面赤彩あり40､41と同一個体。DK170出土。隆帯、刻み
216	DK-190	PJ-18	胴部～底部	諸磯ｂ？	58.0	破片	10YR3/1 7.5YR4/6	縄、隆帯、刻み、RL縄文か
224	PJ-17	PJ-18	口縁部	十三菩提併行	43.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR4/4	内面磨き顕著。PJ17a埋土出土。隆帯、C字状爪形文、条線、切り出し
296	DK-190	PJ-18	口縁部	諸磯ｂ	32.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR4/4	縄、隆帯、粘土貼付、刻み、RL縄文
2985	PT-434	PJ-18	底部	諸磯	170.0	破片	10YR5/2 5YR5/4	434号ピットで出土。胎土質、底面の成形具合から諸磯式期と判断した。
2986	IG-1343	PJ-18	胴部	諸磯	16.0	破片	7.5YR5/6 5YR5/6	浮線文と、浮線文上にかすかな縄文
2987	IG-1343	PJ-18	胴部	諸磯	23.0	破片	5YR4/2 5YR5/4	かすかな縄文施文と竹管による雑な沈線
2988	IG-1503	PJ-18	口縁部	諸磯	26.0	破片	5YR4/6 5YR5/6	かすかな縄文施文と竹管による沈線
2989	IG-1331	PJ-18	胴部	諸磯	20.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/1	竹管による沈線
2990	IG-1331	PJ-18	口縁部	諸磯	20.0	破片	5YR4/6 5YR4/3	細い隆線とRL縄文
2991	IG-1748	PJ-18	胴部	諸磯	28.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	竹管による平行沈線とRL縄文
2992	IG-1748	PJ-18	胴部	諸磯	40.0	破片	5YR4/4 5YR4/6	竹管による沈線とかすかな縄文
2993	IG-1758	PJ-18	胴部	諸磯	36.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/3	結節浮線文と小さなボタン状貼付文、竹管による平行沈線
2994	IG-1758	PJ-18	胴部	諸磯	22.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	RL縄文と竹管による平行沈線

PJ018 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	現存長(mm)	現存幅(mm)	現存厚(mm)	重量(g)	観察所見
3908	DK-190	PJ	18	素刃削器	頁岩	1/1	48.0	57.0	8.0	21.00	DK190出土
3909	DK-190	PJ	18	掻器	黒曜石	1/1	27.0	25.0	10.0	4.30	DK190出土。打面に礫面が残る剥片の端部に調整剥離と使用痕あり
3910	DK-190	PJ	18	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.1	(0.44)	DK190出土
7197	IG-1750	PJ	18	原石	黒曜石	1/1				57.30	PJ17北壁沿い、PJ17の床面から48cm浮いて出土。角礫ズリで、原石の形状をとどめる。PJ18埋土に含まれる遺物と判断した。
7199	IG-1749	PJ	18	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				32.40	PJ18埋土出土。角礫ズリの礫面を多く残す。7197原石の近くで出土
7202	IG-1518	PJ	18	石錐	黒曜石	3/4	22.0	7.0	5.0	0.60	PJ18埋土出土。片側端部が折損
7205	IG-1519	PJ	18	原石	黒曜石	1/1				32.40	PJ18北壁沿いで出土。角礫ズリの礫面で囲まれ、原石の形状をそのまま残す。
7213	IG-1360	PJ	18	石鏃	黒曜石	3/4	19.0	(11.4)	2.9	(0.35)	DK144上面、PJ18埋土出土。鋸歯縁石鏃。
7217	IG-1758	PJ	18	石鏃	黒曜石	1/1	16.5	20.1	3.8	0.94	PT425南側で出土。石鏃未成品か

PJ018 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察事項
7204	IG-1517	PJ	18	扁平円礫	頁岩類	1/1	2.1	1.7	0.4	2	DK162上面、PJ18埋土出土。小さな扁平円礫で、研磨具かも。
7216	IG-2345	PJ	18	ハンマー	砂岩					94	DK106南側で出土。砂岩扁平円礫の端部に敲打により形成された平坦面あり。

PJ029 号住居　土器観察表

実測番号	注記	帰属場所	部位	時期	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	重さ合計(g)	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
1	PJ-29 25	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅲ	20.4	－	－	679.0	1/2	7.5YR4/3 7.5YR4/4	外面粘土帯接合部縦位調整痕あり。PT490 北の床面で、口縁部を下に伏せた状態で出土。
2	PJ-29 10、9、8	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	(13.7)	－	丸底	323.0	1/3	10YR6/3 7.5YR6/6	指頭圧痕顕著
3	PJ-29 12	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅲ	－	－	－	115.0	破片	10YR3/2 7.5YR4/3	
4	PJ-29 29	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	－	－	－	200.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR2/1	
5	PJ-29 36	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	－	－	－	67.0	破片	10YR6/4 10YR3/3	外面調整痕顕著
6	PJ-29 21	PJ-29	胴部	中越Ⅳ	－	－	－	52.0	破片	10YR6/4 7.5YR3/3	外面調整痕顕著
7	PJ-29 42、下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	－	－	－	131.0	破片	7.5YR5/6 7.5YR4/4	
8	PJ-29 28	PJ-29	胴部	中越Ⅳ	－	－	－	34.0	破片	10YR6/4 10YR4/3	
9	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅲ	(24.0)	－	－	121.0	破片	7.5YR4/3 10YR4/2	垂下隆帯がはがれている
10	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	－	－	－	58.0	破片	10YR7/4 10YR7/4	
11	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	木島Ⅷ	－	－	－	18.2	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	
12	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	－	－	－	13.7	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	
13	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部	中越Ⅱ	－	－	－	26.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	
14	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	－	－	－	28.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	
15	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅲ	－	－	－	18.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	
16	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅲ	－	－	－	15.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	
17	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	まばらな縄文	－	－	－	11.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR3/3	内面条痕調整あり。L 縄文
18	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅳ	－	－	－	53.0	破片	10YR6/4 7.5YR4/3	内面条痕調整あり
19	PJ-29 下層	PJ-29	胴部	中越Ⅳ	－	－	－	15.0	破片	5YR4/4 5YR4/4	
20	PJ-29 下層	PJ-29	底部	中越Ⅳ	－	－	丸底	92.0	破片	5YR5/4 5YR5/6	
21	PJ-29 下層	PJ-29	胴部	有尾	－	－	－	21.0	破片	10YR3/1 7.5YR3/2	L 縄文
34	PJ-17 275 床	PJ-29	口縁部	神ノ木	－	－	－	33.0	破片	10YR4/2 7.5YR4/4	PT499 上面、PJ17a 号住居床面で出土。L 縄文
35	PJ-17 167、PJ-17 51	PJ-29	胴部	中越	－	－	－	79.0	破片	″7.5YR6/6 7.5YR5/6″	
36	PJ-17 炉、PJ-17	PJ-29	口縁部	中越Ⅱ～Ⅲ	－	－	－	49.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	PJ17 a 炉内出土
37	PJ-17 108	PJ-29	口縁部	中越Ⅲ	－	－	－	62.0	破片	7.5YR5/4 10YR3/3	PJ29 北西壁際出土
44	PJ-29 下層	PJ-29	口縁部～胴部	中越Ⅱ～Ⅲ	－	－	－	44.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	外面炭化物付着。14C 年代測定実施。

PJ029 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
3155	PJ-29　1	PJ	29	礫器	砂岩	1/1	169.0	117.0	55.0	1021.50	住居南西角の床面で出土。端部に鋸歯縁状の剥離もしくは使用痕。側縁部にも小さな剥離あり。
3156	PJ-29　41	PJ	29	剥離のある剥片	砂岩	3/4	114.0	68.0	21.0	158.20	炉東、床面から 6 ㎝浮いて出土。打製石斧のようにもみえるが、節理面で破損していて原形をとどめるか不明。
3157	PJ-29　2	PJ	29	剥片	砂泥交互	1/1	73.0	82.0	13.0	72.50	PT379 南、床面から 6 ㎝浮いて出土。縁辺部は薄く鋭いが、微小剥離がみられない。
3158	PJ-29　埋土下層	PJ	29	削器	珪質頁岩	1/1	40.0	53.0	15.0	33.30	埋土下層出土。青灰色の珪質頁岩。複刃。
3159	PJ-29　埋土下層	PJ	29	掻器	珪質頁岩	1/1	51.0	60.0	13.0	39.50	暗青灰色の良質な珪質頁岩。複刃。礫面が残る。
3160	PJ-29　埋土下層	PJ	29	剥離のある剥片	砂泥交互	－	45.0	34.0	9.0	21.10	埋土下層出土。片方の側縁に剥離。折損、節理面による割れで原形をとどめるか不明。
3161	PJ-29　埋土下層	PJ	29	削器	チャート	1/1	25.0	44.0	9.0	7.80	埋土下層出土。濃緑色と濃紅色のチャート。天竜川流域産か。
3162	PJ-29　埋土下層	PJ	29	石匙	珪質頁岩	1/1	27.0	45.0	5.0	6.60	埋土下層出土。濃灰色と明灰色のチャートもしくは珪質頁岩。先端は折損か。
3163	PJ-29　34	PJ	29	石匙	黒曜石	1/1	25.0	36.0	9.0	5.80	炉と PT501 の中間地点、床から 10 ㎝浮いて出土。透明感のある黒耀石を素材とする。つまみ端部に礫面が残る。
3164	PJ-29	PJ	29	石鏃	珪質頁岩	3/4	21.7	15.1	4.1	1.23	埋土一括。側縁部に細かな調整剥離がなく、未成品と思われる。濃青灰色の珪質頁岩
3165	PJ-29　埋土下層	PJ	29	石錐	黒曜石	1/1	23.0	13.0	3.0	0.60	礫面が残る剥片を素材とした石錐。
3166	PJ-29　埋土下層	PJ	29	石鏃	黒曜石	3/4	17.0	16.1	4.2	1.06	埋土下層出土。石鏃未成品と思われる。
3167	PJ-29　埋土下層	PJ	29	石鏃	黒曜石					1.70	埋土下層出土。石鏃未成品と思われる、やや厚手の剥片
3168	PJ-29　埋土下層	PJ	29	両極石器	黒曜石	1/1	25.0	11.0	2.0	0.60	埋土下層出土。剥片の両端部に小さな打撃痕があり、両極石器と判断した。
3169	PJ-29　35	PJ	29	石鏃	黒曜石	1/1	23.6	15.8	3.4	0.72	PT490 上面、床面から 5 ㎝浮いて出土。透明度の高い黒耀石を素材としている。
3170	PJ-29　24	PJ	29	石鏃	黒曜石	3/4	18.7	－	3.4	(0.45)	PT497 北側、床面から 5 ㎝浮いて出土。透明感のある黒耀石を素材としている。

PJ029 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(g)	観察事項
10212	PJ-29　39	PJ	29	磨石類	安山岩類	1/1	11.7	8.7	6.3	810	PT433 南、床面直上で出土。磨石作業面は 2 面、一面は縦断凸湾、横断偏った凸湾で磨耗痕が不明瞭、他面は縦断・横断がともに平坦面が広い。磨耗が凸湾の作業面より刃発達している。側面片側に敲きによる磨耗でなる平坦面、縦断は緩やかに凸湾するが、実際は 1.5㎝・2㎝、それ以下の短い平坦面の 3 または 4 面で構成されている。いずれの面も横断は平坦。反対側の側面に線状敲打痕と敲きによる磨耗で構成されるごく狭い面がわずかに見られる。長軸両端部にごく狭い平坦面がある。一端は敲きによる磨耗でできた軸に直交する狭い平坦面、他方は敲打痕の集中でできた軸に直交する平坦面。
10213	PJ-29　37	PJ	29	磨石類	安山岩類	1/1	12.5	5.7	4.1	350	PT499 南、床面から 5 ㎝浮いて出土。磨石作業面は 2 面、磨耗の発達度は両面ともに弱い。1 面は縦断平坦、横断が凸湾する。作業面には長軸線上に線状・点状・皿状敲打痕が残されている。他面は縦断・横断ともに平坦面が広い。作業面に長軸線に沿って、線状・点状敲打痕が残されている。側縁のうち外湾する面に敲きによる磨耗でできた、長さ 2㎝、2.5㎝の 2 面の平坦面がある。内湾する側面にも面積は狭いが、端部近くの 2 ヶ所に平坦面が残る。面の状態は外湾する側面の平坦面と同様に敲きによる磨耗と見られるものである。最も内湾する部分には面は見られないが、両端の平坦面同士は完全な水平面では同時に接触しないが、ごく緩い湾曲面であれば 2 つの面が同時に接触する。素材の礫が湾曲しているにも関わらず長軸両端部にごく狭い平坦面がある。一端は敲打痕が集中する面、他端は敲きによる磨耗が残るごく狭い平坦面である。

PJ029 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察事項
10214	PJ-29　4	PJ	29	磨石類	安山岩類	3/4	(13.3)	12.6	6.1	827	PT519 横の床面で出土。磨石作業面は 2 面、磨耗度の発達は弱い。1 面は極めて珍しく縦断形で端部が突出し凹湾する部分を持つ作業面である。磨耗は突出部近くまで及ぶ。突出部以外の部分では、縦断・横断ともに平坦面が広い。片側側縁に偏った場所に残されている。磨棒的。作業面に皿状敲打痕がまばらに残されている。敲打痕内部は磨耗している。他面は縦断・横断ともに平坦。作業面に凹部。長軸端部側に偏った位置から長軸線上に列状に残る。U 字形敲打痕、線状・皿状敲打痕である。敲打痕の一部の内面が軽く磨耗している。両側面に平坦面がある。1 面は敲きによる磨耗で構成される。縦断・横断ともに平坦である。細かく見ると縦断は 2 面の平坦面に分かれる。縦断の長さは 4cm 程度と長い。他面は、敲打痕の集中による凹凸が激しい面で縦断・横断ともに平坦で、縦断の長さは 6.5 ｃｍと長い。長軸端部に軸に直交し敲打痕と敲きによる磨耗からなる広めの（槌形石器的な）平坦面と、軸に斜行し側縁部方向に伸びる狭い平坦面がある。長軸に直交する方向で割れている。平坦な作業面からの割れ面が 2 面認められる。
10215	PJ-29　26	PJ	29	磨石類	花崗岩類	1/1	8.8	6.6	5.4	420	PT490 上面、床面から 9 ㎝浮いて出土。磨石作業面は 3 面で、断面形に応じて隣り合う位置にあり、特異。1 面は縦断・横断ともに平坦で、横断では、若干内湾する。内湾する部分を含め磨耗が認められる、一般的な磨石作業面。側面に磨石作業面と平坦面が認められる。側面の磨石作業面は縦断はほんのわずかに内湾するがほぼ平坦、横断は平坦である。作業面面積は狭い。この面に隣り合う稜に、擦り運動による磨耗面が見られ、これが 3 つ面の作業面である。外湾する稜に沿って磨耗面があり、端部近くでは敲きによる磨耗で構成される磨石的作業面に移行する。磨石作業面であるか、検討を要する。他面は量をなし、敲きによる磨耗で構成される平坦面、縦断で 2 面に別れ、横断は凸湾する。縦断の 1 面は縦断の形は平坦だが、もう 1 面は凸湾する。長軸両端部に敲きによる磨耗で構成された曲面と、敲打痕集中による曲面が残されている。いずれも長軸に直交する。最も広い磨石作業面を中心に点状に赤褐色変化した部分が広がり、1 点からは亀裂が入っている。被熱痕跡か。
10216	PJ-29　3	PJ	29	磨石類	安山岩類	1/1	11.8	8.8	4.9	600	PJ29 南壁沿い、PT516 と壁の間の床面で出土。磨石作業面は 2 面、磨耗度が異なる。1 面は縦断・横断ともに緩やかに凸湾し、磨耗度が強い。作業面に長軸線に沿い敲打痕が列をなす。皿状・線状敲打痕があり重複しつつ列をなす。線状敲打痕が目立つ。一部の敲打痕内が磨耗している。他面は縦断・横断ともに直線的で平坦面が広い。磨耗度は弱く部分的。長軸端部よりの平坦面が磨耗。作業面長軸線上、平面形上の中心と長軸線上端部寄りに点状・皿状敲打痕が重複する凹部。長軸線上端部寄りの凹部は浅い。両側面に平坦な作業面。1 面は敲打痕による面で、磨石作業面に切られる。敲打痕は広い範囲に残され、磨石作業面際までおよぶ。縦断・横断ともに凸湾する。他面は敲きによる磨耗面と敲打痕で構成されている。縦断は複数面に別れ縦断の平坦面は長さ 1.5cm ほどである。横断は平坦。長軸両端部には敲きによる磨耗面がわずかに認められるが不明瞭で面はなさない。
10217	PJ-29　11	PJ	29	磨石類	安山岩類	3/4	8.1	(7.3)	4.4	300	PJ29 北西角壁沿い、床面から 6 ㎝浮いて出土。割れ面を作業面と捉えれば楕円型Ⅱ類。磨石作業面は不明瞭ながら 1 面。縦断・横断ともに凸湾。作業面長軸線上で平面形上の中心に皿状敲打痕の重複による凹部。凹部の範囲は広く浅い。反対面の長軸線上で平面形上の中心に皿状敲打痕の重複による凹部。凹部の範囲は広く、浅い。側面に敲きによる平坦面と敲打による剥離痕。剥離痕が大きく平坦面は痕跡的に認められる程度。長軸両端部にわずかな平坦面。一方は敲きによるもので、他方は皿状敲打痕と底から生じた剥離痕。
10218	PJ-29　40	PJ	29	磨石類	安山岩類	1/1	9.0	7.7	3.4	380	PT508 東、床面で出土。磨石作業面は 2 面、1 面は縦断・横断ともに緩やかに凸湾。作業面が礫の断面形状の傾斜に合わせ片側側縁部に偏る。作業面長軸端部寄りに皿状敲打痕による凹部、内面が磨耗。他面は縦断・横断ともに直線的で平坦面が広い。長軸線上端部寄りに皿状敲打痕の重複による奥部、内面磨耗。側面片側に縦断は側縁部の形に沿い外湾し横断が幅の狭い平坦面。敲きによる磨耗。長軸端部は成形・使用を示す痕跡は無名量。

PJ029 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	帰属遺構		器種	石材種	残存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察事項
10219	PJ-29　20	PJ	29	磨石類	安山岩類	3/4	(11.2)	8.9	4.1	584	PT489 上面、床面で出土。磨石作業面は 2 面、縦断平坦・横断緩やかに凸湾する。磨耗度は反対面に比べ弱い。作業面長軸線上を中心に敲打痕の重複が列をなす。長軸端部に寄るに従い軸線上から外れる。皿状・線状敲打痕。他面は縦断・横断ともに直線的で平坦面が広い。磨耗度は反対面に比べ強い。作業面長軸線上を中心に敲打痕が重複、1 ヶ所に深い凹部。内面磨耗。両側面に平坦面。いずれも敲きによる磨耗と敲打痕、敲打により生じた割れ面と、作業面に直交する剝離からなる。割れ面を切り敲きによる磨耗が見られることから、側面の割れは使用によるものと判断した。縦断・横断ともに直線的で平坦面をなす。縦断の接地距離は3cm程度。長軸両端部には、表裏面からの割れが集中している。わずかな部分で観察したに過ぎないが敲きによる磨耗で平坦面が形成されていたと判断した。長軸端部の割れは大きく、表裏面側から割れていることから意図的な加工の可能性もある。
10220	PJ-29　43	PJ	29	磨石類	安山岩類	1/1	10.4	6.9	4.5	401	PT508 南、床面で出土。磨石作業面は 2 面、1 面は縦断直線、横断凸湾、磨耗度は反対面より弱い。作業面に皿状敲打痕がまばらに残る。比較的端部寄りに集中する部分がある。他面は縦断・横断ともに直線的で平坦面が広い。磨耗度は反対面より強い。作業面の長軸線上に皿状敲打痕が列状に重複。片側側面に縦断長さ 2cm 程度の接地面 2 枚からなる敲きによる磨耗面。反対側には敲きによる磨耗と思われる部分があるが面をなさない。長軸両端部に狭い平坦面。一端は敲きによる軸に直交する磨耗面、他端は皿状敲打痕の集中による軸に直交する面。
10221	PJ-29　6	PJ	29	磨石類	砂岩類	1/1	5.7	10.9	2.7	247	炉北側の床面で出土。断面偏平な礫を素材。長軸両端部に軸に直交する敲打痕の集中。側縁部に磨耗痕が散在。他の偏平板状石器に比べ側縁の使用痕跡が少ない。再検討すること。
10222	PJ-29　17	PJ	29	磨石類	砂岩類	1/1	5.2	13.4	3.8	326	PT491 南、床面から 5 ㎝浮いて出土。稜磨作業面 3 面、滑らか。1 つの作業面に直交する剝離がある。茶色の付着物。長軸端部尖ったほうに軸に緩く斜行する敲きおよび敲打による狭い面 2 面た対向。多端の稜の突端に軸に直行する敲打痕。もう一つの稜の集まる突端に軸に斜行する敲打・敲きによる磨耗面。こちらは曲面。稜磨石の作業面の発達が弱い。
10223	PJ-29　5	PJ	29	ハンマー	砂岩類	1/1	12.3	6.2	3.5	344	炉上、床面で出土。断面隅丸三角形の柱状亜角礫素材。長軸先端部尖ったほうに軸に直交する面と稜上に斜行する敲打痕集中。この稜が平坦面をわずかになし、稜磨石的。10222 と類似する例。多端に軸に直交する敲打痕が少数認められる。磨耗痕に関しては人為的なものと自然に生じる摩滅との識別はできなかった。
10224	PJ-29　23	PJ	29	礫	砂岩類	1/1	12.8	5.8	4.6	398	PT489 上面、床面から 3 ㎝浮いて出土。器面が風化し、使用痕不明瞭。ハンマーの可能性が考えられる。
10225	PJ-29　33	PJ	29	ハンマー	砂岩類	1/1	16.0	5.2	3.5	450	PT508 東、床面から 4 ㎝浮いて出土。断面台形の柱状亜角礫素材。柱状重量型。細い端部に軸に直交する敲打痕集中が認められる。
10226	PJ-29　埋土下層	PJ	29	研磨具	頁岩類	1/1	5.6	3.8	2.4	63	埋土下層出土。平坦面一隅に稜が集中する緩い突端に褐色の表面が青灰色に変化している部分がある。ここに磨耗痕が見られると判断した。土器製作などに使用した研磨具を想定した。
10227	PJ-29　18	PJ	29	ハンマー	砂岩類	1/1	7.1	4.0	2.0	84	PJ29 北壁沿い、床面から 9 ㎝浮いて出土。断面四辺形の小型礫素材。先端部分と稜に磨耗状の面がわずかに残る。
10228	PJ-29　埋土下層	PJ	29	礫	片岩類	1/1	4.9	4.4	3.0	88	埋土下層出土。使用痕が不明瞭のため礫としたが、研磨具あるいは小形のハンマーの可能性が考えられる。
10229	PJ-29　16	PJ	29	研磨具	輝緑凝灰岩	1/1	6.7	3.8	2.1	80	PT491 西、床面から 6 ㎝浮いて出土。断面三角形の亜角礫の小礫。尖った部分がわずかに磨耗していると見た。軟質の石材への敲打によってもこのような磨耗が生じるか？

PJ19 号住居・PJ19B 号住居・33 号住居

位　　置：H-3 グリッドに位置する。3 軒が重複する。PJ19B 号住居が PJ19 号住居と PJ33 号住居より新しい。DK101 号土坑、DK194 号、DK196 号、DK197 号土坑、DK213 号、DK215 号土坑はいずれも 3 軒の住居より新しい土坑である。

調査着手時に PJ19 号住居を最初に認識し発掘し始め、PJ19 号住居床面まで掘り下げたところで PJ19B 号住居の存在に気づいた。これにより住居の新旧関係と逆の順番で発掘した結果となり、出土遺物を分別できなくなった。

規　　模：PJ19 号住居は南北 4.3m、東西 3.7m の小判形で、竪穴は深さ 35 cmが残る。北壁の一部が事前の試掘調査で失われている。

PJ19B 号住居は南北 3.1m、東西 3.1m の不整円形で竪穴は深さ 70 cmが残る。

PJ33 号住居は南北 3. 3m、東西 3.2m の隅丸方形で竪穴は深さ 45 cmが残る。

埋　　土：PJ19 号住居と PJ19B 号住居の埋土は、黒褐色土を基調とし白色の花崗岩片が多数混じる。PJ19B 号住居埋土はレンズ状の層理がみられ、自然堆積したと考えられる。PJ19 号住居埋土の第 3 層は黄褐色土主体で、その由来がよく分からない。

PJ33 号住居埋土は、PJ19 号住居埋土よりもやや黒味が強く、同様に白色の花崗岩片が多数混じっていた。レンズ状の自然堆積層が観察された。

床　　面：3 軒の住居は黄褐色の砂質地山を平坦に掘って床面としている。PJ19 号住居と PJ19B 号住居では、顕著な硬化面は観察されなかった。PJ33 号住居では中央部がやや踏みしめられて硬化していた。

炉　：PJ19 号住居は住居中心からやや北にずれて位置で風化した花崗岩を伴う浅いくぼみが検出され、底面は赤く焼土化していた。これが PJ19 号住居の地床炉と判断される。PJ19B 号住居と PJ33 号住居では、焼土は確認できなかった。PJ33 号住居の PT886 号ピットとした深さ 6 cmの浅い皿状のくぼみは焼土が確認されなかったが、地床炉かもしれない。

周　　溝：PJ19 号住居は､PJ19B 号住居に掘り込まれた箇所以外で周溝が検出された。PJ19B 号住居は南側を除き、周溝が検出された。PJ33 号住居は PJ19B 号住居に切られて失われた箇所以外で周溝が全周した。

柱　　穴：PJ19 号住居の柱穴は、PT381 号、DK197 号、PT411 号、PT420 号ピットの 4 基と考えられる。これらは PT420 号ピットが 19 cmと浅いほかは深さが 40 cmを超える。また PT380 号、PT431 号ピットの 2 基は深さが 14 cmと 15 cmで、4 基の主柱穴と亀甲型に組みあい、上屋を支える補助的な構造材であったと考えられる。

PJ19B 号住居では床面で数基のピットが確認できたものの整った配置を示さず、柱穴は不明である。住居中心部に近接してまとまるピットが柱穴であろうか。

PJ33 号住居は、PT888 号、PT889 号ピットの 2 基が主柱穴と思われるが、南側で組み合う適当な深さのピットが検出されなかった。番号を付さなかった深さ 5 cm程度のピットが柱穴であろうか。

出土遺物：PJ19 号住居と PJ19B 号住居の埋土を識別することなく発掘したことにより、時期が異なる両遺構の遺物が混在したまま一括して取り上げてしまった。光波測量機により出土位置を記録した遺物は両遺構ごとに分別できたが、埋土一括で取り上げた遺物は分別できなくなった。

土器は出土位置を記録した資料を頼りに、両住居の時期を検討し、後述するとおり PJ19 号住居が中越式期、PJ19B 号住居を諸磯式期と判断し、埋土一括で取り上げた土器を型式ごとに仕分けることとした。中越式、神ノ木式、木島式、関山式、大木 2a 式は PJ19 号住居、釈迦堂 Z3 式、有尾式、黒浜式、諸磯式は PJ19B 号住居に仕分けて、出土量を計量した。もとより便宜上の措置である。ただし出土位置が記録されたものは、土器型式に関わらず出土した遺構に帰属させた。

出土した土器の総量は、PJ019 号住居が 2,773g で、中越式と神之木式が主体となる。PJ019B 号住居分は 10,914g で諸磯式が主体である。

石器も土器と同様に出土位置が判明するものは、両住居ごとに仕分け、埋土一括で取り上げたものは、便宜上、PJ19 号住居分として集計した。

PJ19 号住居に帰属することが確認できる石器は、石鏃 3 点、黒曜石原石 1 点である。

PJ19B 号住居に帰属することが確認できる石器は、石鏃 7 点、磨石類 2 点、黒曜石原石 1 点である。

帰属先の住居を分別できずPJ19 号住居として一括して取り上げた石器は、石鏃 8 点、削器 2 点、石錐 2 点、両極石器 1 点、ミニチュア石匙 1 点、剥離のある剥片 5 点、磨製石斧 1 点、黒曜石原石 5 点である。

PJ33 号住居で出土した土器は、坂平式 93g、木島式 32g、中越式 2445g、神ノ木式 1456g、関山式 38g、有尾式 20g、諸磯式 1170g、北白川下層式 11g、前期土器破片 769g、中期土器 101g などである。

PJ33 号住居で出土した石器は、石鏃 4 点、削器 2 点、石匙 1 点、扁平板状石器 1 点、石皿 1 点、磨石類 4 点、ハンマー 2 点、剥離のある剥片 1 点、黒曜石原石 2 点、石英岩原石 1 点、頁岩原石 1 点、円礫 1 点である。

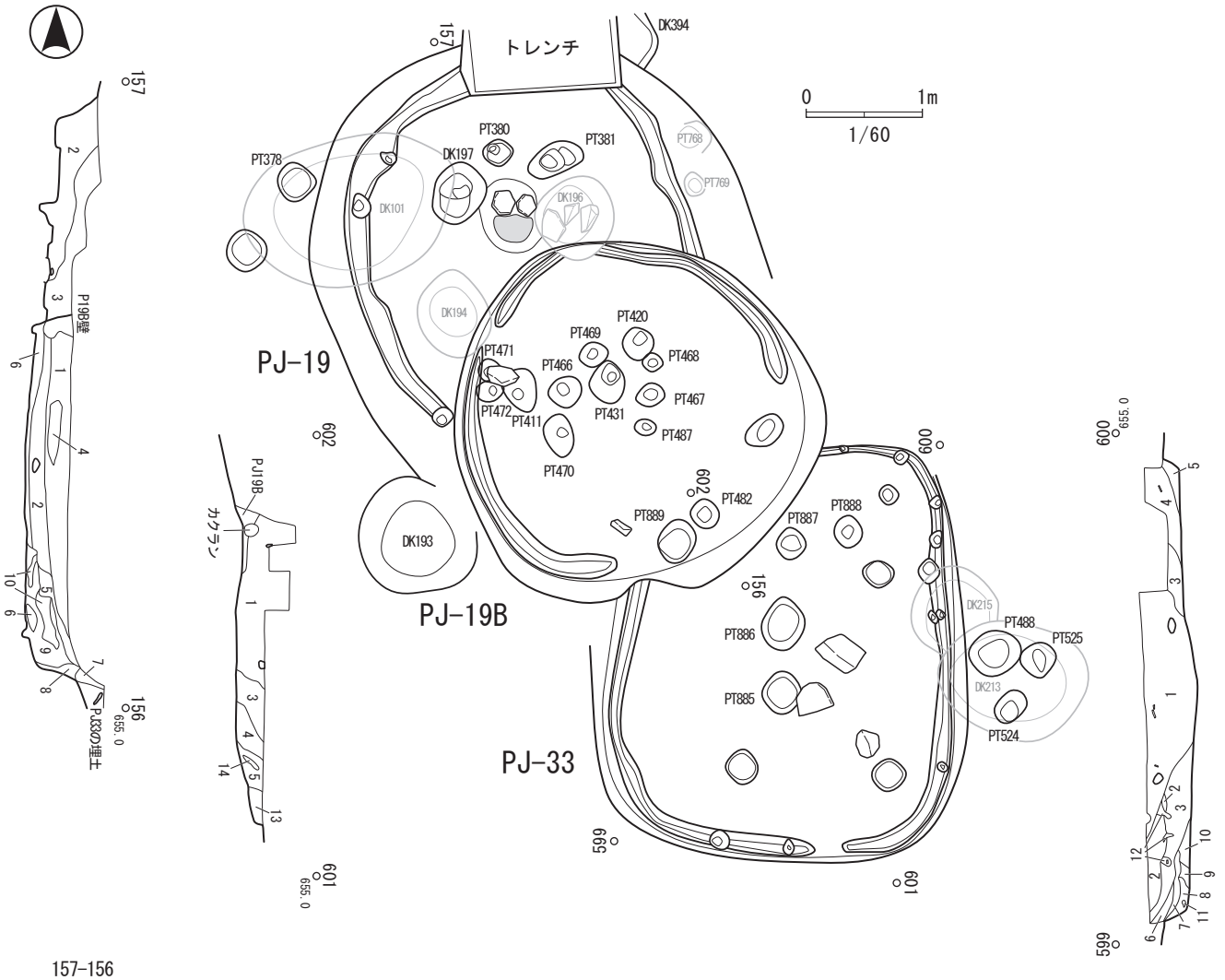
時　　期：土土器と遺構の特徴から時期を推定した。最も新しいPJ19B 号住居は埋土下層で諸磯 a 式土器が小破片ながら出土していること、小形円形の遺構で、同時期の他遺構との比較対照からから諸磯式期の遺構と判断した。

PJ19 号住居は中越Ⅳ式、神ノ木式、大木 2a 式、木島式土器が出土したことから、当該時期に帰属すると判断した。

PJ33 号住居は出土遺物が限られるものの中越式、神之木式が主体となるため、PJ19 号住居と同様の時期と考えられる。

PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
DK-197	19 住内	38*30	57	10YR2/3（黒褐） 花崗岩が混じる。ややしまる	PJ19 号住居柱穴。上面は皿状で浅く、中心部が柱穴状に深い。
PT-380	19 住内	23*21	14	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	PJ19 号住居柱穴。上面は皿状で浅く、局所的に細く深い。
PT-381	19 住内	26	43	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	PJ19 号住居柱穴
PT-411	19B 住内	36*28(18)	41	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ19 号住居柱穴
PT-420	19B 住内	28*23	19	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ19 号住居柱穴
PT-431	19B 住内	14*12	15	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	PJ19 号住居柱穴
PT-466	19B 住内	24*(24)	27	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	PJ19B 号住居柱穴か
PT-467	19B 住内	(17)*17	28	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	PJ19B 号住居柱穴か
PT-468	19B 住内	(14*14)	13	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	
PT-469	19B 住内	20*(16)	19	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	
PT-470	19B 住内	36*29	25	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	PJ19B 号住居柱穴か
PT-471	19B 住内	16*16	28	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	
PT-472	19B 住内	12*12	18	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	
PT-482	19B 住内	22*(22)	27	10YR3/3（暗褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	
PT-487	19B 住内	(15*11)	13	10YR2/3（黒褐） 花崗岩片が混じる。ややしまる	
PT-885	33 住内	31*(31)	8	10YR2/3（黒褐）に 10YR10YR3/2（黒褐）が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-886	33 住内	46*-	6(10)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ33 号住居の炉跡か。焼土検出されず。皿状の浅いくぼみ
PT-887	33 住内	24*(24)	10	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。しまる。	
PT-888	33 住内	20*(20)	15	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ33 号住居柱穴か
PT-889	19B 住内	34*(28)	10	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ33 号住居柱穴か。PJ19B 号住居床面から深さ 10 ㎝であるが、PJ33 号住居床面からみると 30 ㎝程度の深さになる。



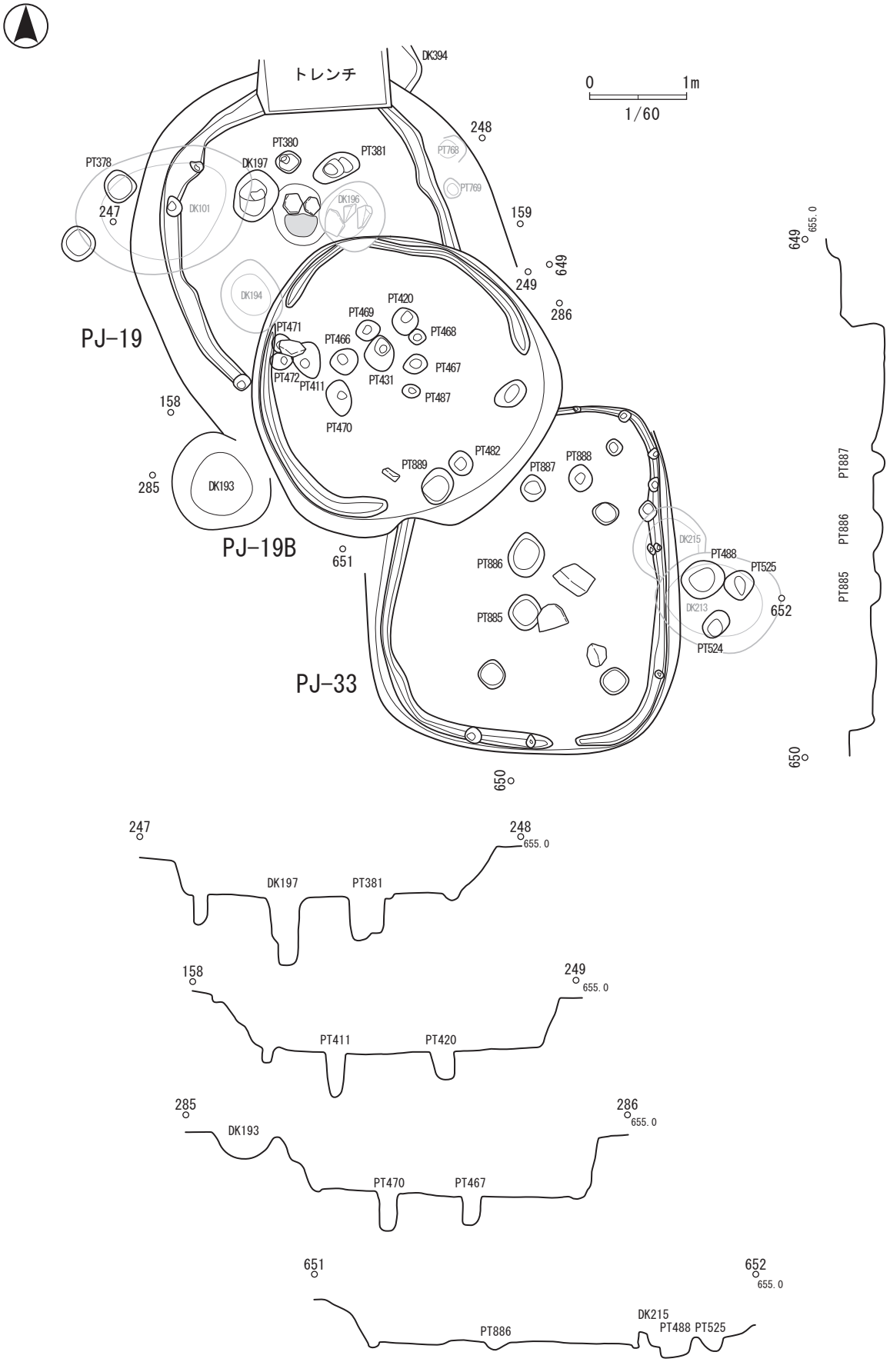
157-156

1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR4/4(褐)が10%、10YR4/6(褐)が2%、焼土1%以下、炭化物が2%、花崗岩小礫が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が40%、10YR4/6(褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化物1%以下、花崗岩小礫が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)がブロック状に20%、10YR4/4(褐)が2%、10YR2/2(黒褐)が2%、炭化物1%以下、花崗岩小礫が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR2/3(黒褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が2%、花崗岩小礫が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
5層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR4/6(褐)が10%、10YR2/3(黒褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が1%以下、花崗岩小礫が1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PJ-19 床面　10YR5/6(黄褐)に10YR2/3(黒褐)が30%、10YR3/4(暗褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PJ-19 壁　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が30%、10YR2/3(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
6層　10YR5/4(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、炭化物2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が20%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
9層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が5%、10YR5/4(にぶい黄褐)が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
10層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PJ-19B 床面　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR3/4(暗褐)が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PJ-19B 壁　10YR5/6(黄褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が30%、10YR3/4(暗褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

602-601 599-600

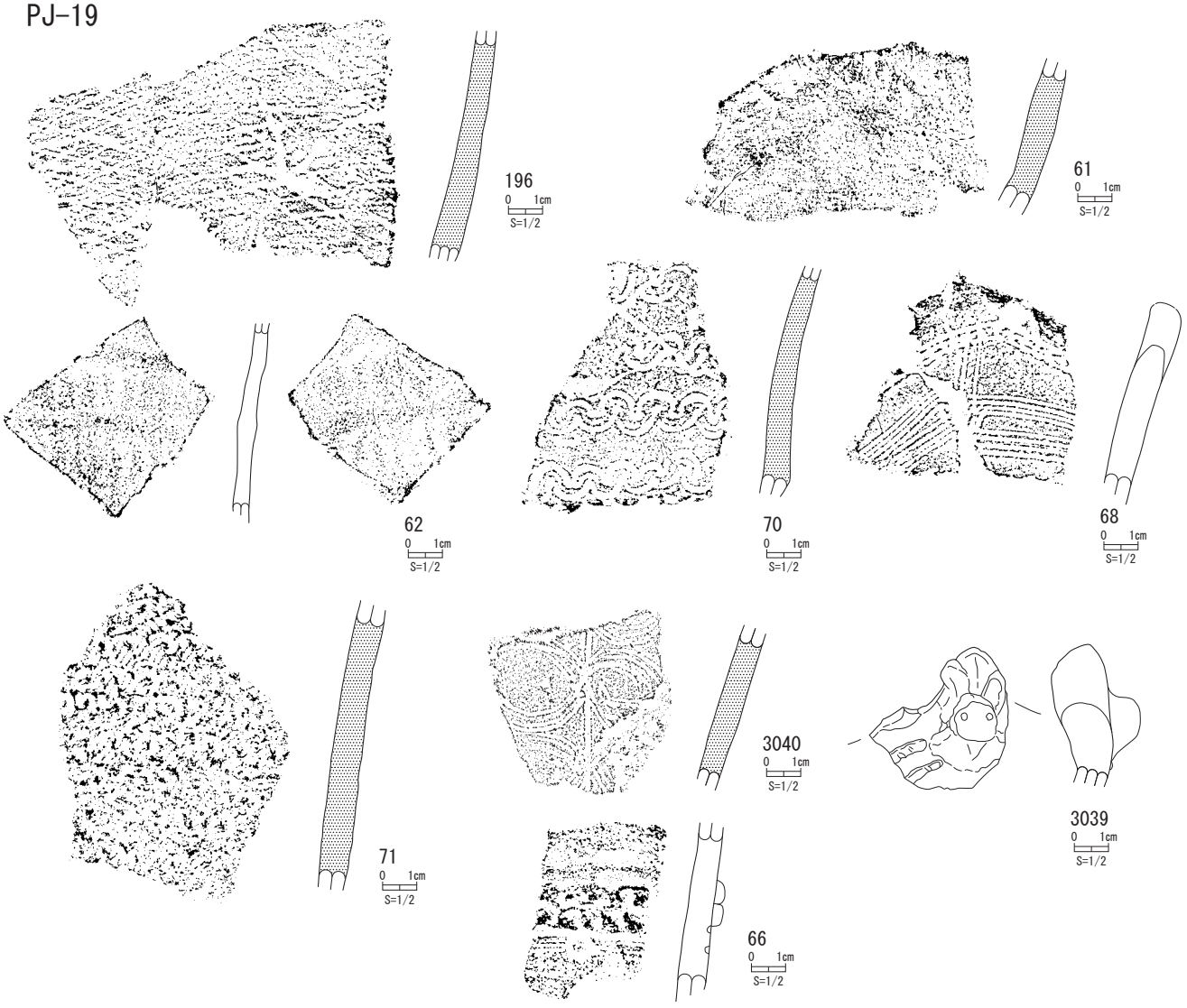
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/3(黒褐)が7%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR3/3(暗褐)が3%、10YR3/4(暗褐)が3%、10YR5/6(黄褐)が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR3/4(暗褐)が7%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR4/4(褐)が7%、10YR3/4(暗褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が30%、10YR5/6(黄褐)が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
9層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が20%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
10層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
11層　10YR2/1(黒)、炭化物、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
12層　7.5YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
13層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/2(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
14層　10YR3/3(暗褐)　シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居

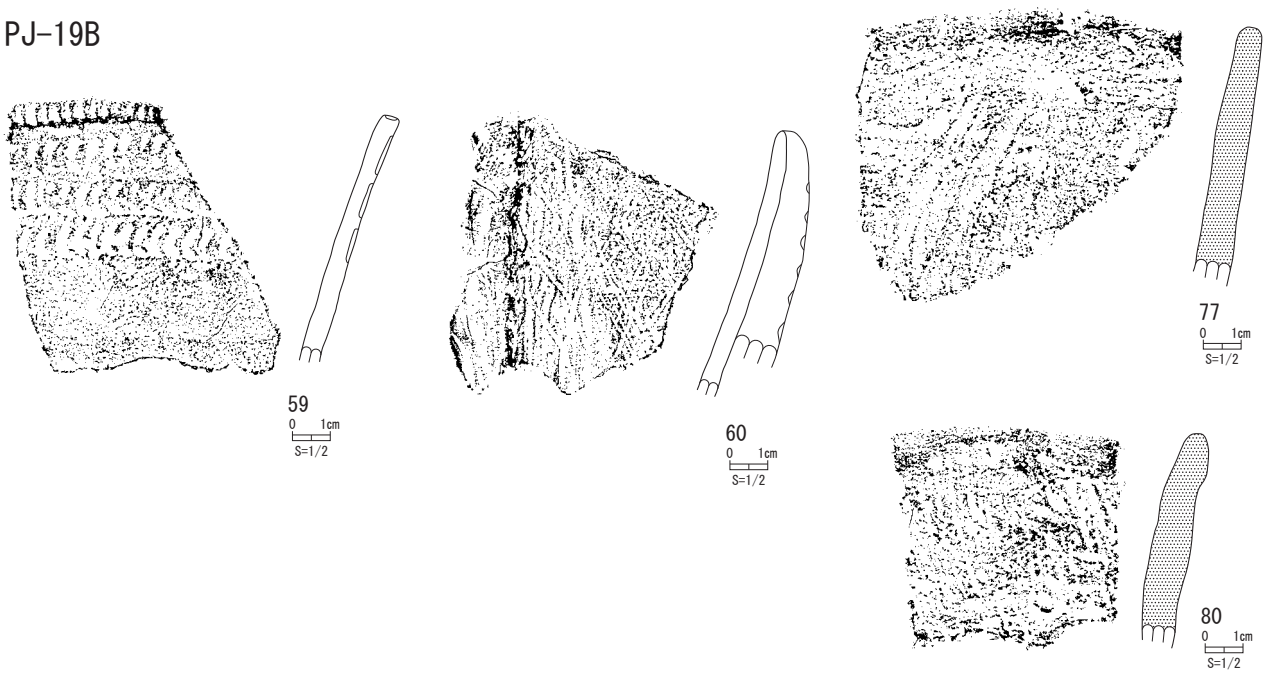


PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居

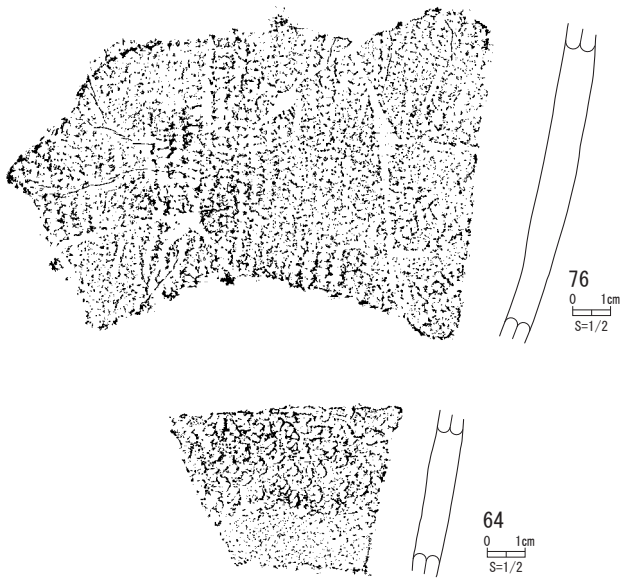
PJ-19

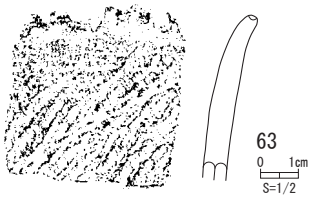


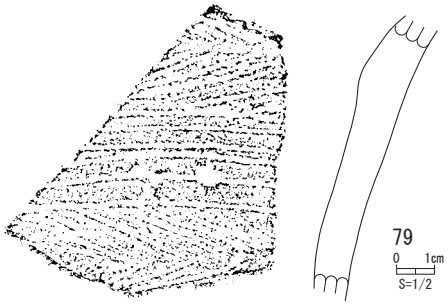
PJ-19B

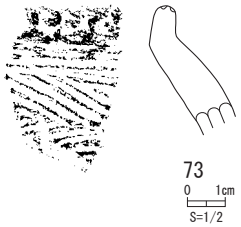


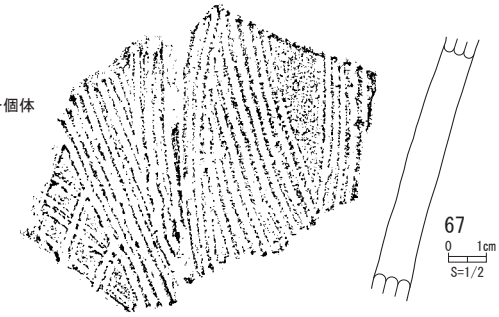
PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居出土遺物



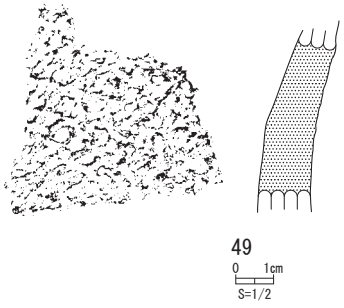


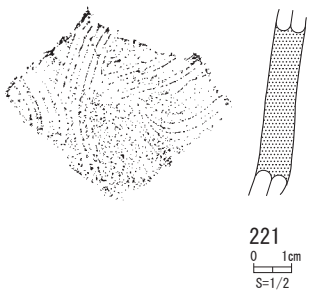


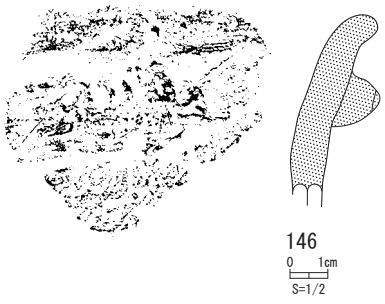




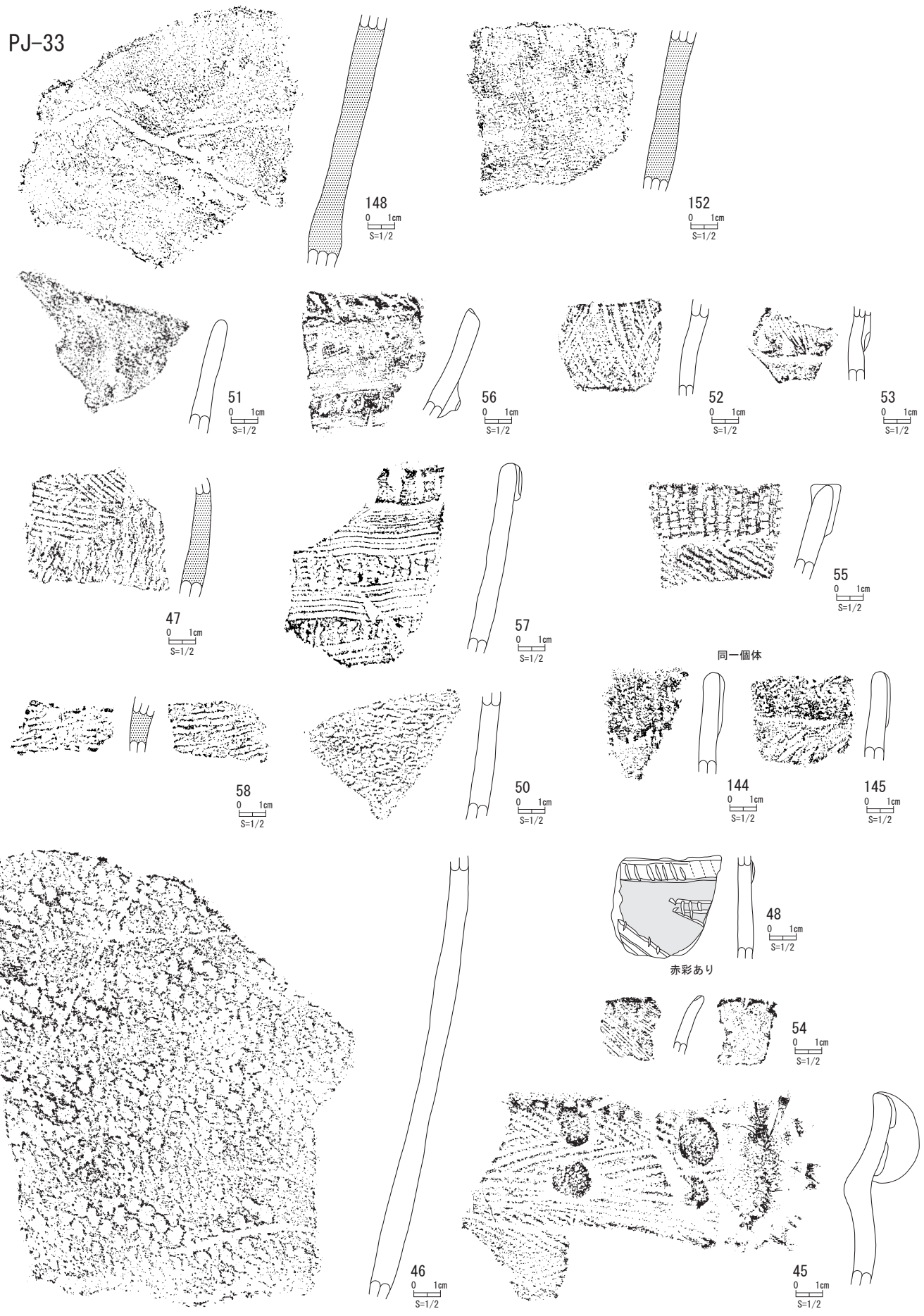
PJ-33





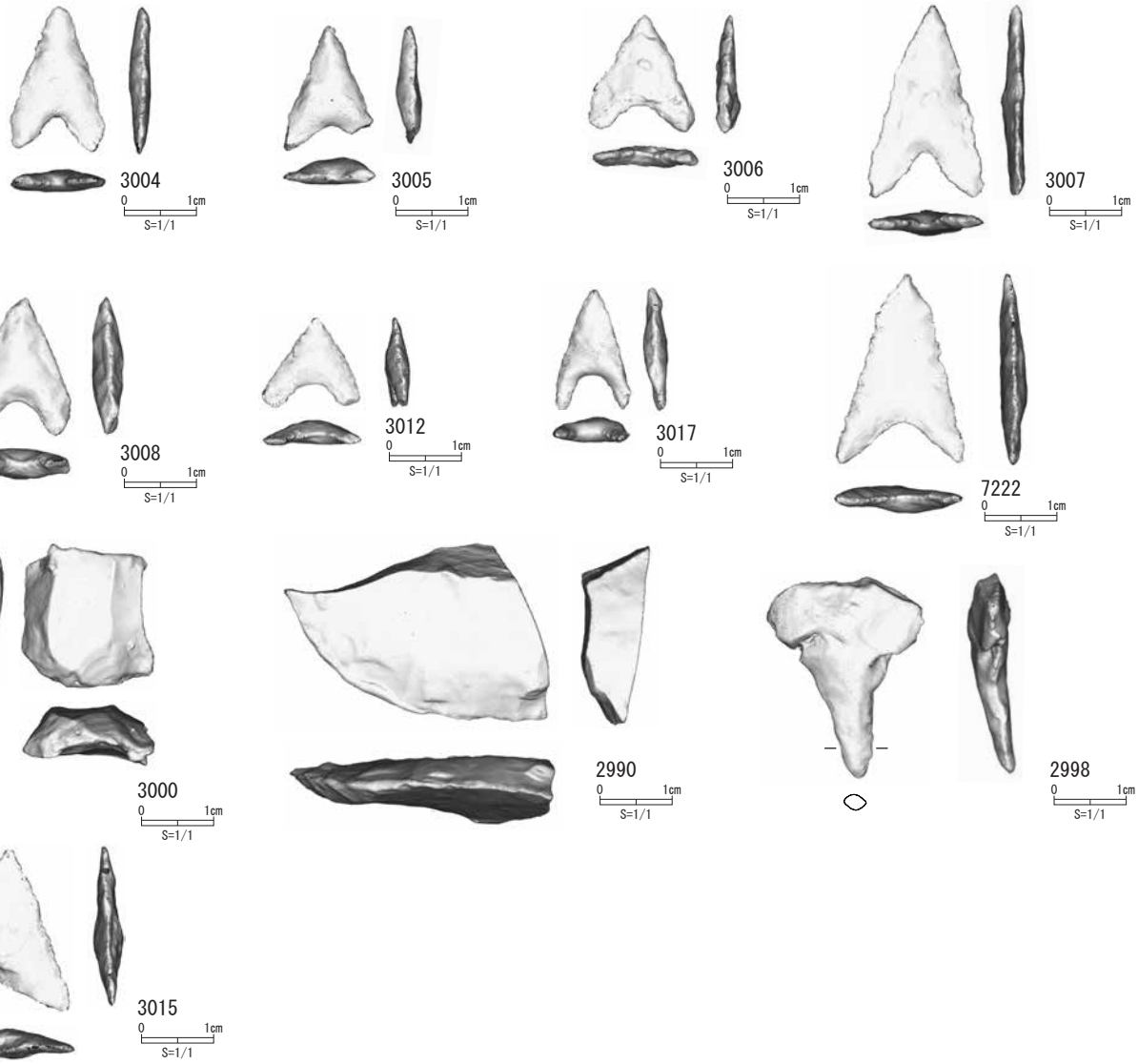


PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居出土遺物

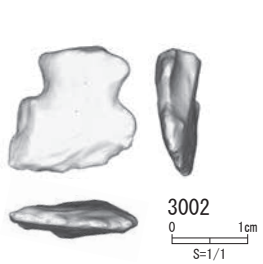


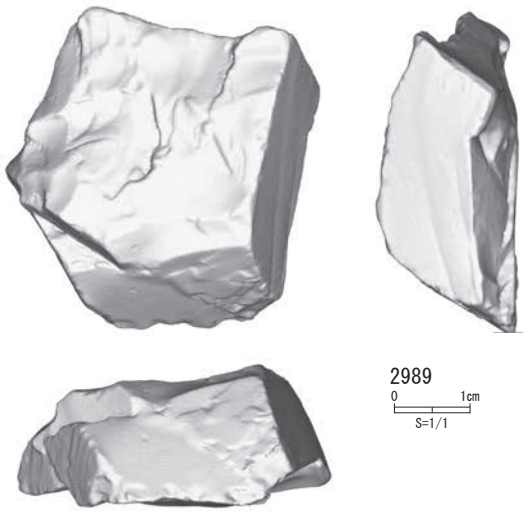
PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居出土遺物

PJ-19・19B

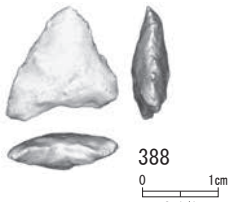


PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居出土遺物

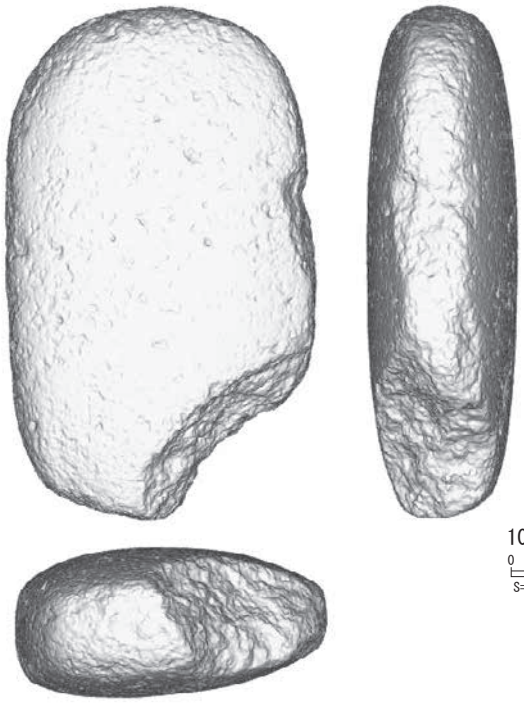


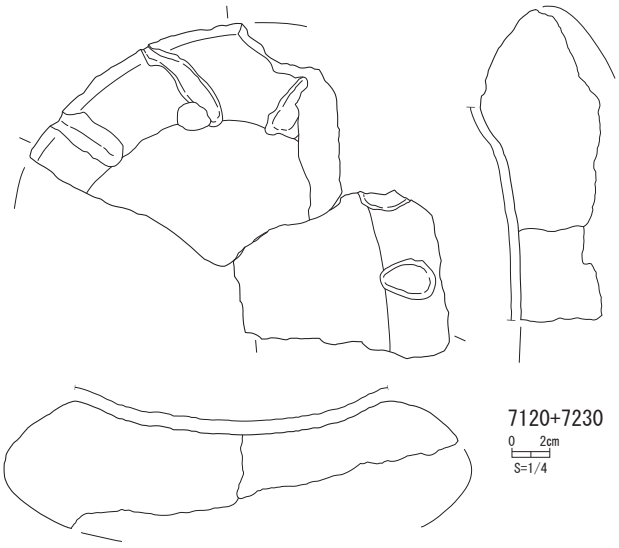


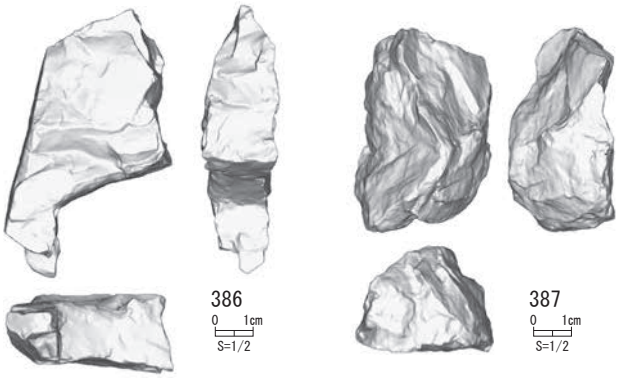
PJ-33

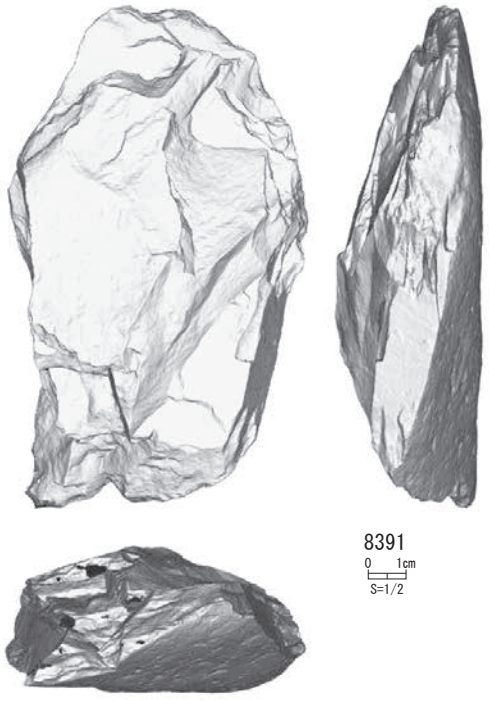


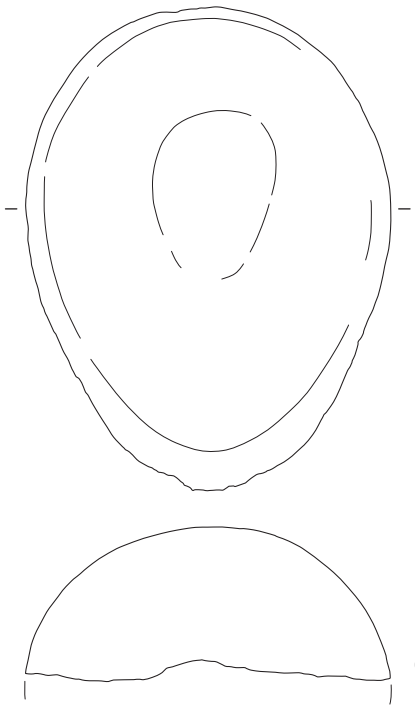
PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居出土遺物











PJ19 号・PJ19B 号・PJ33 号住居出土遺物

PJ019・019B 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
59	PJ-19 30	口縁部	－	－	－	28.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	PJ19B 号住居埋土出土。口唇部に貝殻腹縁？か縄の刻み、口縁部に竹管？の爪形文列を 3 条施文。その下にかすかな爪形がまばらにみられる。内面指頭圧痕顕著。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。上の坊式？
60	PJ-19 52	口縁部	－	－	－	54.0	破片	10YR6/4 10YR6/3	PJ19B 号住居埋土出土。口唇部に刻み。口縁部から垂下する刻み隆帯。口縁部にかすかな格子目文。内面指頭圧痕顕著。器壁は中厚手で、胎土に繊維を含まない。中越Ⅱ式
61	PJ-19 15	胴部	－	－	－	44.0	破片	7.5YR7/4 10YR8/4	PJ19 号住居床面から 18 cm浮いて出土。厚手で内外面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式か
62	PJ-19 17	胴部	－	－	－	15.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	PJ19 号住居床面から 39 cm浮いて出土。内外面指頭圧痕顕著。器壁は薄手で、胎土に繊維を含まない。木島式
63	PJ-19 53	口縁部	－	－	－	18.0	破片	5YR3/4 7.5YR3/2	PJ19B 号住居埋土下層出土。口唇部に刻み、胴部斜縄文。内面横ナデ。器壁はやや薄手で胎土に繊維を含まない。雲母粒子が目立つ。諸磯ａ式か
64	PJ-19 71	胴部	－	－	－	26.0	破片	10YR3/2 7.5YR3/1	PJ19B 号住居西壁沿い埋土出土。内面横ナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
65	PJ-19 81、PJ-19 69	口縁部～胴部	－	－	－	54.0	破片	7.5YR4/6 7.5YR3/4	PJ19B 号住居埋土上層出土。　不明瞭だが羽状縄文。内面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式
66	IG-1696	胴部	－	－	－	22.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	PJ19 号住居確認面で出土。刻み隆帯と円形刺突文、条線文。諸磯ｂ式古
67	PJ-19 8、PJ-19 12	胴部	－	－	－	75.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/2	PJ19B 号住居埋土上層出土。　集合沈線文。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。諸磯ｃ式
68	IG-1696	胴部	－	－	－	49.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/3	PJ19 号住居確認面で出土。小突起がある波状口縁。口縁部に爪形列。その下位に櫛歯条線文。内面ミガキ顕著。胎土に繊維を含まない。有尾式
70	IG-1500	胴部	－	－	－	37.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	PJ19 号住居確認面で出土。コンパス文。内面ミガキ顕著。胎土に繊維を含む。黒浜式もしくは有尾式
71	G-3-6、IG-1696	胴部	－	－	－	70.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/2	PJ19 号住居確認面出土。末端環付縄文。内面ミガキ顕著。胎土に繊維を含む。関山式
73	IG-1200	口縁部	－	－	－	14.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/2	67 と同一個体の口縁部破片
76	PJ-19 26	胴部	－	－	－	102.0	破片	5YR4/4 5YR4/4	PJ19B 号住居埋土出土。縄文。内面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
77	PJ-19 52	口縁部	－	－	－	59.0	破片	7.5YR7/1 5YR3/2	PJ19B 号住居埋土出土。内外面指頭圧痕がやや残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式かⅣ式
78	PJ-19 82	口縁部	－	－	－	18.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/6	PJ19B 号住居埋土下層出土。口唇部刻み、竹管文と縄文。内面横ナデ。胎土に繊維を含まない。諸磯ｂ式古
79	PJ-19 7	胴部	－	－	－	84.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/2	PJ19B 号住居埋土上層出土。矢羽状と平行の沈線文。内面横ナデ。諸磯ｂ式新
80	PJ-19 59	口縁部	－	－	－	36.0	破片	10YR6/4 7.5YR6/6	PJ19B 号住居埋土上層出土。外面に縦方向の擦痕状文様。内面横ナデ。内外面とも指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式かⅣ式
196	PJ-19 60、DK-148、PJ-19 5、PJ-20、DK-99 7、IG-1195	胴部	－	－	－	154.0	破片	5YR4/3 5YR6/6	PJ19 号住居埋土、DK99 号土坑、DK148 号土坑埋土で出土した破片が接合。網目状撚糸文。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含む。大木 2a 式か。PJ19 号住居を掘り込んだ DK196 号土坑などの掘削により諸磯式期の土坑埋土に破片が混入したか。
3039	PJ-19	口縁部	－	－	－	25.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR4/3	PJ19 号住居埋土一括。イノシシ形の獣面突起。耳、鼻の表現が識別できる。諸磯ｂ式
3040	PJ-19	胴部	－	－	－	25.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/2	PJ19 号住居埋土一括。半截竹管を二重施文した楕円文を縦横に並べ、縦沈線でつなぐ。器壁は薄手で、内外面ともていねいなナデミガキ調整。胎土に繊維を含む。縦区画文が残る段階の諸磯ａ式

PJ033 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
45	IG-2321、IG-1768	口縁部	(35.0)	−	−	75.0	破片	5YR5/6 7.5YR4/3	PJ33 号住居埋土上層出土。耳たぶ状貼付文とボタン状貼付文。矢羽状集合沈線。内面ナデ調整。土器は磨耗が進んでいる。諸磯ｃ式
46	PJ-33 4、H-3-24、H-4-9	胴部	−	−	−	368.0	破片	5YR5/4 5YR5/6	PJ33 号住居埋土、床面から 12 cm浮いて出土。複節縄文。内面ナデ調整で指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
47	PJ-33	胴部	−	−	−	23.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/2	埋土一括。施文方向が違う縄文。内面ナデ調整で指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。神ノ木式か
48	PJ-33	胴部	−	−	−	11.0	破片	10YR7/4 10YR7/6	埋土一括。竹管文と低隆帯に刻み。無文部に赤彩。内面は平滑に調整。器壁薄く、胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱｃ式併行
49	PJ-33	胴部	−	−	−	38.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	埋土一括。内面は平滑にナデ調整。器壁非常に厚く胎土に繊維を含む。関山式
50	PJ-33	胴部	−	−	−	19.0	破片	7.5YR6/4 10YR6/4	埋土一括。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式か
51	PJ-33	口縁部	−	−	−	16.0	破片	5YR5/4 7.5YR3/1	埋土一括。波状口縁。外面指頭圧痕が残る。内面はナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅲ式かⅣ式
52	PJ-33	胴部	−	−	−	11.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	埋土一括。格子目文。中厚手。内面ナデ調整で指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。中越Ⅱ式
53	PJ-33	胴部	−	−	−	6.0	破片	7.5YR6/6 5YR4/6	埋土一括。肥厚口縁部に格子目文、下端に刻み。器壁やや厚手で器面は赤褐色。胎土に繊維を含まない。木島式とよぶには違和感を感じる。中越Ⅰ式併行
54	PJ-33	口縁部	−	−	−	3.0	破片	7.5YR6/4 10YR7/4	埋土一括。口唇部に刻み。口縁部に先端が分かれた工具による擦痕状の斜沈線。器壁薄く、胎土に繊維を含まない。木島式
55	PJ-33	口縁部	−	−	−	23.0	破片	7.5YR6/6 5YR4/3	埋土一括。肥厚口縁。口唇部は平らに面取り調整。口縁部に櫛歯状工具の列点文。胴部は縄文。内面ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
56	PJ-33	口縁部	−	−	−	19.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	埋土一括。口唇部に刻み。口縁部下位に刻み隆帯。外面に指頭圧痕がやや残る。内面ナデ調整。器壁は中厚手。胎土に繊維を含まない。中越Ⅱ式
57	PJ-33	口縁部 ～胴部	−	−	−	36.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/1	埋土一括。肥厚口縁部から口縁部下位にかけて櫛歯状工具の列点文と条線文を交互に施文。内面ナデ調整で指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
58	PJ-33	胴部	−	−	−	7.0	破片	10YR2/1 10YR2/1	埋土一括。表裏に縄文施文。胎土に繊維を含む。神ノ木式の口縁部破片か。
144	PJ-33	口縁部	−	−	−	9.0	破片	7.5YR6/6 10YR2/1	埋土一括。145 と同一個体。やや肥厚する口縁部に櫛歯状工具の列点文。下位は縄文。内面ナデ調整。胎土に繊維を含まない。
145	PJ-33	口縁部	−	−	−	113.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	144 と同一個体
146	PJ-33 12、IG-2318、H-4-9	口縁部	−	−	−	93.0	破片	7.5YR5/4 5YR3/3	PJ33 号住居床面出土。遺構外出土破片と接合。外反する口唇部、口縁部に刻み隆帯。内外面粗雑なナデ調整。器壁厚く、胎土に繊維を含む。前期初頭、坂平式
148	PJ-33	胴部	−	−	−	109.0	破片	5YR3/3 5YR5/6	埋土一括。内外面ナデ調整で指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式かⅣ式
152	PJ-33	胴部	−	−	−	41.0	破片	7.5YR4/3 5YR5/6	埋土一括。内外面ナデ調整で指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式かⅣ式
221	PJ-33	胴部	−	−	−	20.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/2	埋土一括。ハケ状工具による格子目状弧線文。内面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越式

PJ019 号・019B 号住居石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2985	PJ-19	剥離のある剥片	頁岩		66.0	36.0	11.0	31.00	埋土一括。角礫面が残る短冊状剥片の一側縁に使用痕。キナコ状に風化した頁岩
2987	PJ-19	原石	黒曜石					13.50	埋土一括。板状のズリ。白筋と粒が入る漆黒黒曜石
2988	PJ-19	原石	黒曜石					25.20	埋土一括。ズリ。一発コア。白筋と粒が入る漆黒黒曜石
2989	PJ-19 67	原石	黒曜石					29.70	PJ19 号住居床面出土。ズリ面で囲まれた原石。縞のある半透明黒曜石
2990	PJ-19	削器	玉髄	-	25.0	40.0	8.0	7.30	埋土一括。折り取った剥片素材の薄い側縁に押圧剥離で刃部作出。やや透明感のある灰白色石材。
2991	PJ-19	原石	黒曜石					8.40	埋土一括。板状ズリ。縞のある半透明黒曜石
2992	PJ-19	石鏃	黒曜石	1/1	26.8	22.2	10.4	5.63	埋土一括。未成品。厚みのある砕片状素材の一部のみ両面加工し、尖った先端を作出。石鏃でなく、ピック的使用法が考えられるか。縞のある半透明黒曜石
2993	PJ-19	削器	珪質頁岩	1/1	31.0	29.0	6.0	5.70	埋土一括。横長剥片素材の厚い側縁を両面加工。薄い側縁に使用痕。灰色で砂泥交互状の珪質岩。
2994	PJ-19	原石	黒曜石					9.10	埋土一括。風化面に囲まれたサイコロ状原石。縞のある半透明黒曜石
2995	PJ-19	原石	黒曜石					8.00	埋土一括。ズリ面で囲まれた板状原石。一発コア。漆黒の黒曜石
2996	PJ-19	石鏃	黒曜石	1/1	28.0	21.7	12.8	6.41	埋土一括。未成品。礫面が残る厚い素材を両面加工したが、厚みが減じず放棄か。縞のある透明黒曜石
2997	PJ-19	剥離のある剥片	黒曜石					1.50	埋土一括。指爪大の剥片に調整剥離。斑入りの透明黒曜石
2998	PJ-19	石錐	黒曜石	1/1	27.0	22.0	5.0	1.80	埋土一括。剥片の一部をつまみ状に残す。先端に弱い使用痕あり。透明な黒曜石
2999	PJ-19	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				3.50	埋土一括。小さな剥片の薄い一辺に使用痕。濁りのある半透明黒曜石
3000	PJ-19	両極石器	黒曜石	1/1	19.0	18.0	6.0	2.60	埋土一括。親指爪大の剥片の両端に加撃潰れ。半透明黒曜石
3001	PJ-19	剥離のある剥片	黒曜石	3/4				0.50	埋土一括。小さな剥片の一辺に調整剥離。漆黒の黒曜石
3002	PJ-19	ミニチュア石匙	黒曜石	1/1	16.5	16.7	4.5	1.25	埋土一括。ズリ面のある剥片素材。つまみ部を作出。刃部に顕著な磨耗。縞のある半透明黒曜石
3003	PJ-19B	石鏃	黒曜石	-	-	-	4.1	(0.55)	PJ19B 号住居埋土出土。未成品。基部片側の断片。斑入りの透明黒曜石
3004	PJ-19 32	石鏃	黒曜石	1/1	19.7	12.9	2.8	0.52	PJ19B 号住居埋土出土。片面中央に主剥離面が残る。縞のある透明黒曜石
3005	PJ-19 13	石鏃	黒曜石	3/4	17.3	(12.1)	3.3	(0.41)	PJ19B 号住居西壁沿い埋土出土。片脚欠損。濁りのある半透明黒曜石
3006	PJ-19 19	石鏃	黒曜石	1/1	16.3	14.8	2.8	0.40	PJ19 号住居埋土出土。透明な黒曜石
3007	PJ-19B 89	石鏃	黒曜石	1/1	27.2	15.9	3.1	0.75	PJ19B 号住居北壁沿い、床面から 9 cm浮いて出土。側縁鋸歯状で、先端針状。脚部の抉りがやや深い両面加工の優品。片面に主剥離面が残る。透明な黒曜石。7222 と大きさ、形状が酷似する。
3008	PJ-19 75	石鏃	黒曜石	1/1	19.2	14.2	4.1	0.68	PJ19 号住居埋土下層出土。透明な黒曜石

PJ019 号・019B 号住居石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3009	PJ-19	剥離のある剥片	黒曜石	3/4	23.0	16.0	6.0	1.40	埋土一括。折り取られた砕片状素材の一端に尖った刃部を作出。先端欠損。縞のある透明黒曜石
3010	PJ-19	石鏃	黒曜石	−	−	−	3.4	(0.46)	埋土一括。ズリ面が表裏面に残る薄い剥片素材。片側側縁 1/2 が欠損。漆黒の黒曜石
3011	PJ-19	石鏃	黒曜石	1/1	15.1	12.2	4.3	0.63	埋土一括。未成品。両面から加工中に先端が折損して放棄か。漆黒の黒曜石
3012	PJ-19　86	石鏃	黒曜石	1/1	13.0	13.7	3.1	0.29	PJ19 号住居炉直上床面出土。小形で長脚。縞のある半透明黒曜石
3013	PJ-19	石鏃	黒曜石	3/4	(19.8)	−	3.4	(0.59)	埋土一括。先端と片脚欠損。細身で、基部が浅い。斑入りの半透明黒曜石
3014	PJ-19	石鏃	黒曜石	1/1	24.1	21.8	5.7	3.01	埋土一括。未成品。表裏に風化面がある薄い板状剥片を両面から調整剥離した途中で廃棄か。縞のある半透明黒曜石
3015	PJ-19B	石鏃	石英岩	3/4	22.6	−	3.9	(0.68)	PJ19B 号住居埋土一括。両面加工の優品。片脚欠損。
3016	PJ-19	石鏃	黒曜石	1/1	22.8	16.0	5.9	1.61	埋土一括。未成品。ズリ面が小さく残る剥片素材。整形が進んだ段階だが、厚みが減らずに放棄か。縞のある透明黒曜石
3017	PJ-19　20	石鏃	黒曜石	1/1	17.5	10.6	3.1	0.30	PJ19B 号住居埋土出土。細身で小型の石鏃。やや長脚。斑入りの透明黒曜石
7222	IG-1395	石鏃	黒曜石	1/1	27.3	18.0	3.5	1.02	PJ19 号住居北壁沿いの埋土上層出土。側縁鋸歯縁。先端針状。脚部抉りがやや深い両面加工の優品。斑入りの透明黒曜石
7226	IG-1764	原石	黒曜石	1/1				16.20	PJ19B 号住居埋土上層出土。角柱状ズリで流紋岩が大きく付着する。白筋のある漆黒黒曜石
8150	PJ-19	石鏃	黒曜石	3/4	22.7	19.9	3.6	1.16	埋土一括。ズリ面が残る剥片素材。両面から整形中に基部から大きく破損、放棄。漆黒の黒曜石
8151	PJ-19	石錐	黒曜石	1/1	24.0	16.0	6.0	1.10	埋土一括。ズリ面が残る剥片の片端に尖った錐部を作出。使用痕なし。縞のある透明な黒曜石
10182	PJ-19　10	磨石類	安山岩類	3/4	98.0	86.0	50.0	545	PJ19B 号住居埋土出土。楕円型。磨石作業面 2 面。平滑に磨滅し、敲打集中のくぼみあり。長軸端部に点状敲打痕がわずかにあり。被熱黒変し、弾け割れと亀裂。
10183	PJ-19B　1	磨石類	安山岩類	1/1	102.0	73.0	48.0	460	PJ19B 号住居西壁沿い、床面から 6 cm浮いて出土。石鹸型。磨石作業面 2 面。両面とも平滑に磨滅し、敲打集中によるくぼみが発達。側面は稜磨石状に磨滅し平坦化。長軸両端部に敲打痕あり。
11691	PJ-19	磨製石斧	緑色岩	−	60.0	31.0	13.0	23	埋土一括。磨製石斧のどの部位破片か分からない小破片。器面の研磨整形はていねい。一辺に調整剥離か

PJ033 号住居石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0383	PJ-33	削器	頁岩	1/1	45.0	93.0	10.0	42.00	埋土一括。亜円礫面が残る不整形剥片の一辺に使用痕？　裏面に局所的な磨滅痕。
0384	PJ-33	削器	泥岩	1/1	34.0	64.0	12.0	34.60	埋土一括。短冊板状の剥片の一辺に急傾斜の刃部。器面風化し使用痕不明瞭。黄色風化泥岩
0385	PJ-33	原石	黒曜石					9.80	埋土一括。ズリ。縞のある不透明黒曜石
0386	PJ-33　15	原石	黒曜石					51.40	PJ33 号住居南壁際の床面出土。非常に角張ったズリ。縞のある不透明黒曜石
0387	PJ-33　13	原石	石英岩					53.00	PJ33 号住居北壁近く、床面から 15 cm浮いて出土。角張った石英岩。剥離痕の有無はよく分からない。
0388	PJ-33　7	石鏃	黒曜石	3/4	(16.7)	(15.4)	4.8	(0.77)	PJ33 号住居埋土、床面から 14 cm浮いて出土。正三角形で脚部抉りが浅い。片脚先端欠損。両面加工。やや濁りがある透明黒曜石。
0389	PJ-33	石鏃	黒曜石	3/4	17.2	11.8	3.4	0.54	埋土一括。未成品。両面から調整が進んだ段階で、基部側が欠損。縞のある透明黒曜石
0390	PJ-33	石鏃	黒曜石	1/1	20.3	17.2	4.5	1.63	埋土一括。未成品。両面に主剥離面が残る剥片を 3 方向から調整。先端側？が大きく折損。漆黒の黒曜石
0391	PJ-33	剥離のある剥片	黒曜石					1.10	埋土一括。打面にズリ面が残る薄い剥片の一辺に使用痕。漆黒の黒曜石
0392	PJ-33　1	石匙	黒曜石	1/1	23.0	51.0	7.4	6.80	PJ33 号住居北壁近く、床面から 28 cm浮いて出土。体部側縁に潰し。表裏刃部に 8 mm幅くらいで曇ったような使用痕。刃部に平行する線状痕が観察される。刃部稜は潰れ。ブルーブラック黒曜石
1712	PJ-33	石鏃	黒曜石	1/1	18.6	13.1	2.8	0.78	埋土一括。未成品。主剥離面を大きく残す剥片の縁辺部のみ調整。先端欠損。濁りのある透明黒曜石
7230	IG-1767	石皿	安山岩類	－	(90.0)	(116.0)	(53.0)	445	PJ33 号住居東壁沿い埋土、床面から 30 cm浮いて出土。F-5-25 グリッドで出土した大きな破片 7120 と接合。有縁石皿破片。側縁部にU字状に彫った文様。
7231	IG-2317	ハンマー	頁岩類	3/4	(99.0)	50.0	25.0	196	PJ33 号住居東壁沿い、床面から 34 cm浮いて出土。細長い板状の亜円礫。片側が大きく欠損するが、形状からハンマーと考えた。
8391	PJ-33　6	原石	頁岩	1/1	132.0	77.0	38.0	393.20	PJ33 号住居中央から南寄り、床面から 15 cm浮いて出土。亜円礫面が残る青灰色頁岩の礫で、片面に調整剥離がみられる。
10149	PJ-33　9	磨石類	安山岩類	1/1	108.0	72.0	47.0	513	PJ33 号住居南西角、床面から 25 cm浮いて出土。石鹸型。磨石作業面 2 面。両面が平滑に磨耗し、敲打集中によるくぼみが 2 ヶ所ずつ発達。側面 2 面は敲打により平坦。
10150	PJ-33　14	磨石類	安山岩類	3/4	114.0	82.0	50.0	550	PJ33 号住居 PT886 北東脇、床面で出土。石鹸型。磨石作業面 2 面。片面は非常に平滑に磨耗し、減りが進行。反対面は器体中央に大きな割れがあるが、他の部位はやや磨耗。長軸片端は敲打により平坦化。
10151	PJ-33　10	磨石類	安山岩類	3/4	(136.0)	82.0	41.0	652	PJ33 号住居 PT887 号ピット南西脇、床面から 14 cm浮いて出土。石鹸型。磨石作業面は 2 面。両面とも非常に平滑に磨耗。両側面は敲打により平坦化。局所的にV字状にへこんだ敲打痕が発達。長軸端部が大きく欠損し、割れ面が黒く変色。
10152	PJ-33　3	扁平板状石器	砂泥交互	1/1	50.0	82.0	25.0	196	PJ33 号住居埋土、床面から 44 cm浮いて出土。偏平礫の薄い側縁部が作業面。剥離と線条痕がみられ、剥離稜は磨滅。線条痕は刃部に平行に走る。長軸両端に敲打面。
10153	PJ-33	ハンマー	砂岩類	3/4	120.0	(40.0)	20.0	92	埋土一括。長軸両端に敲打痕。長軸両端が欠損。細粒砂岩
10155	PJ-33	磨石類	安山岩類	―				166	埋土一括。楕円形石器の断片。
10176	PJ-33　8	円礫	花崗岩類	1/2	(256.0)	(194.0)	(82.0)	4,300	ＰＪ 33 号住居南東側、床面から 22 cm浮いて出土。使用痕跡はみられない。花崗岩円礫を丸石にみたてたものか。半割状態で出土。

PJ020 号住居

位　　置：H-3 グリッドに位置する。PJ033 号住居、PJ058 号住居と重複する。

規　　模：長軸 6.1m、短軸 4.7m ほどの不整楕円形の変色部を検出し、住居と認定して発掘調査した。北側壁は明瞭であったが、ほかの壁面は不明瞭で、特に PJ058 号住居と重複する東側は全く壁面が分からなかった。竪穴の深さは 15 cmほどであった。

埋　　土：暗褐色を基調とした埋土で、竪穴が浅いことから断面図に作図は省略した。遺構確認面で SD010 号焼土を検出した。

床　　面：落ち込みの中心部分がやや硬く踏みしまった感触があったが、明瞭な硬化面は検出されなかった。

炉　：住居中心からやや北東にずれた位置で、黄褐色地山が被熱、焼土化した箇所を検出した。これが地床炉となる可能性がある。

周　　溝：検出されなかった。

柱　　穴：落ち込みの内部で多数のピットを検出した。PT464、PT475、PT439 号ピットの 3 基は掘り方がやや大きく深い。これらが柱穴になる可能性があり、地床炉の位置とも整合的である。もう 1 基、DK099 号土坑の北側にピットがあるべきだが、現地調査では見落としたようである。あらためて写真を見直すと、円形の暗褐色の落ち込みが認められ、これが柱穴になる可能性がある。

出土遺物：土器破片と石器類が暗褐色の落ち込みから出土した。

出土した土器の総量は 7,599g で、木島式 52g、中越式 3,655g、神ノ木式 101g、堂之上 Z 式 67g、関山式 20g、有尾式 178g、諸磯式 2,306g、前期土器破片 684g、中期土器破片 163g である。出土量は中越式と諸磯式が多い。

出土した石器の内訳は、石鏃 5 点、削器 1 点、素刃削器 1 点、石錐 1 点、両極石器 1 点、磨石類 3 点、、ハンマー 1 点、礫器 1 点、剥離のある剥片 3 点、黒曜石原石 2 点、玉髄剥片 1 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・砕片が 71 点 170g 出土した。

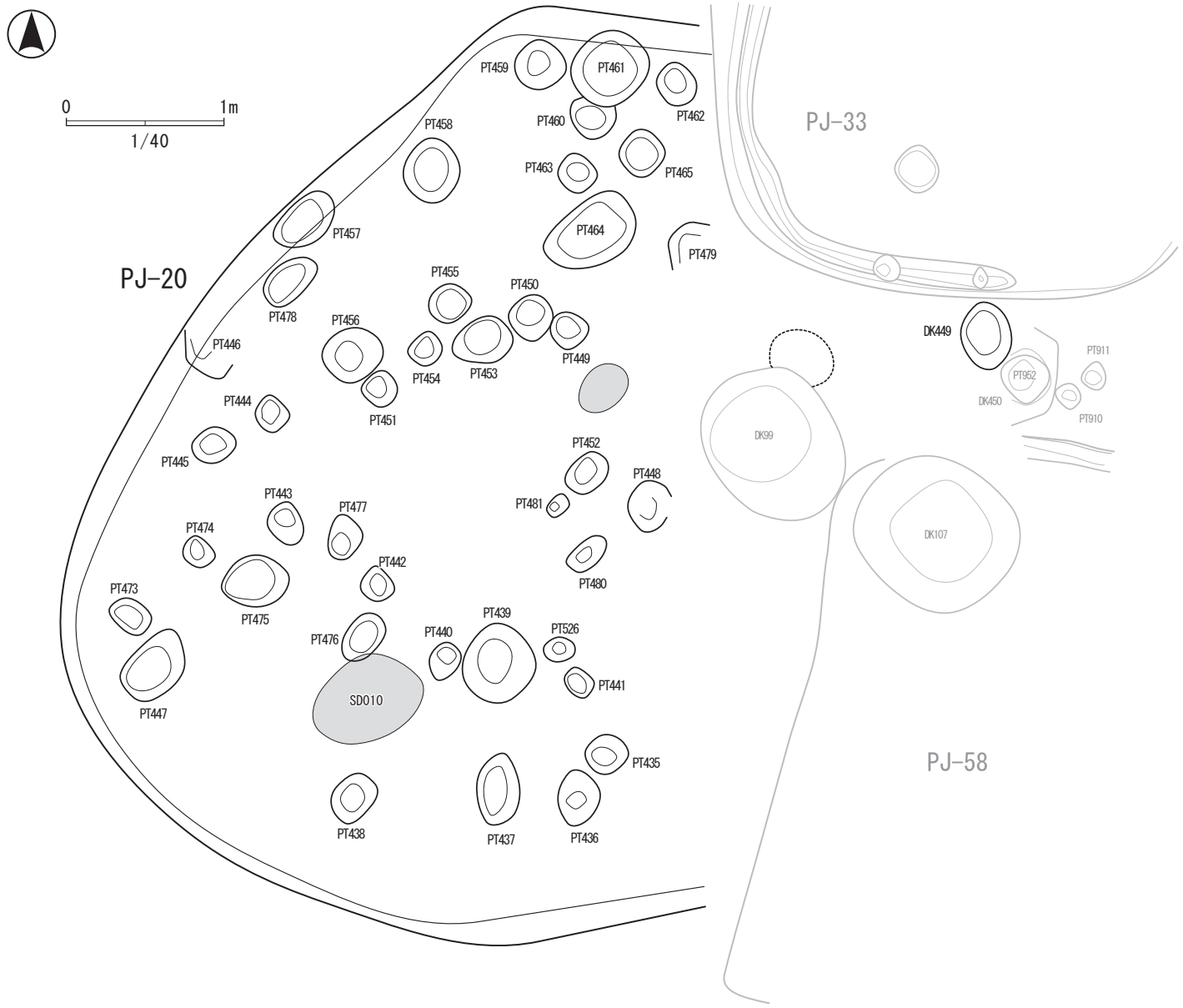
時　　期：出土した土器は、中越式と諸磯式が主体であった。本調査では数少ない諸磯 c 式土器破片もみられる。検出されたピットの多さから、二時期の遺構が重複していると推測される。おそらく諸磯式期の遺構はほとんど削平されて失われ、ピットと一部の遺物だけが残されたのだろう。検出された竪穴は中越式期の遺構と思われる。

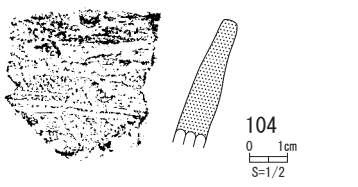
PJ020 号住居　土坑ピット一覧表

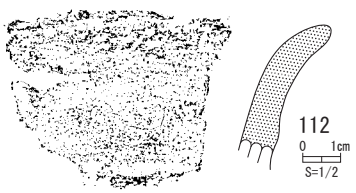
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
DK-449	20 住	40	25	10YR3/2（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、諸磯 b 式
PT-435	20 住	25	30	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-436	20 住	28	29	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-437	20 住	40	25	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-438	20 住	32*27	10	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-439	20 住	40	36	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	Φ 30 cmほどの黒色土。柱痕か。PT440 に切られる。中越式
PT-440	20 住	18	13	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、諸磯式
PT-441	20 住	25	16	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、諸磯式
PT-442	20 住	19	12	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式
PT-443	20 住	22	36	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、諸磯式

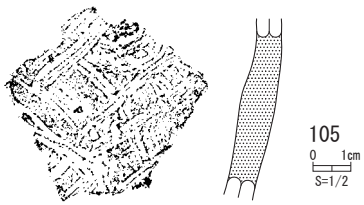
PJ020 号住居　土坑ピット一覧表

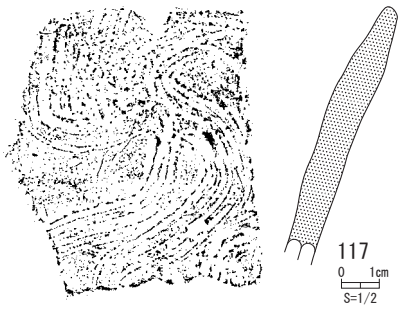
遺構番号	位置	径（cm）	深さ（cm）	覆土色	備考（遺物など）
PT-444	20 住	18	13	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-445	20 住	27*24	14	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-446	20 住	35	35	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-447	20 住	17	10	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-448	20 住	32*27	20	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式
PT-449	20 住	20	18	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式
PT-450	20 住	28	64	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-451	20 住	20	11	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-452	20 住	26	11	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式
PT-453	20 住	36	29	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、諸磯ｂ式
PT-454	20 住	22	18	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-455	20 住	26	30	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-456	20 住	35	21	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式
PT-457	20 住	40	13	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式
PT-458	20 住	32	17	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式
PT-459	20 住	28	28	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-460	20 住	29	15	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式
PT-461	20 住	45	20	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式
PT-462	20 住	25	18	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-463	20 住	22	35	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、神ノ木式
PT-464	20 住	58	36	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	2 基のピットが連結。中越式、神ノ木式
PT-465	20 住	27	9	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-473	20 住	18	5	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式
PT-474	20 住	18	18	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式
PT-475	20 住	42*32	30	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式、諸磯式
PT-476	20 住	30	7	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-477	20 住	27*23	5	10YR3/1（黒褐）に 10YR6/6（明黄褐）がやや混じる。シルト粒土。しまる。	中越式

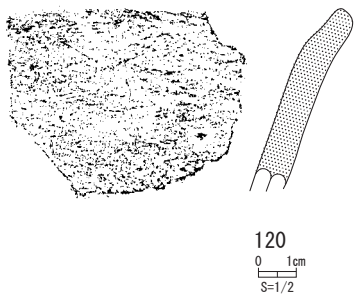


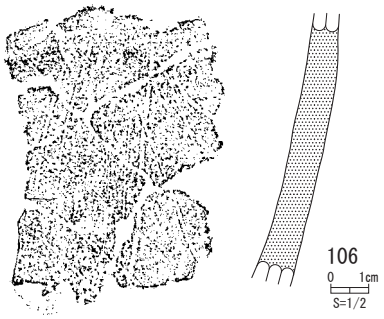




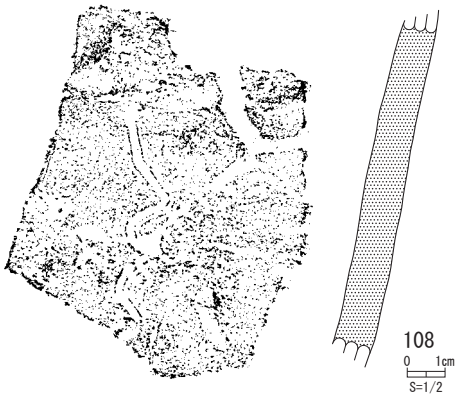


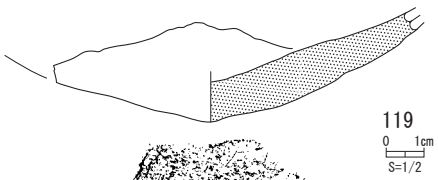


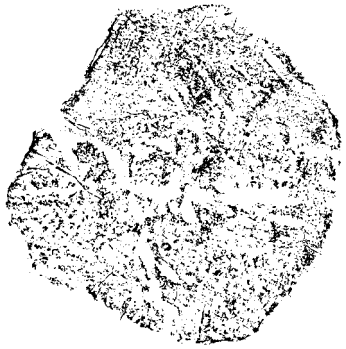


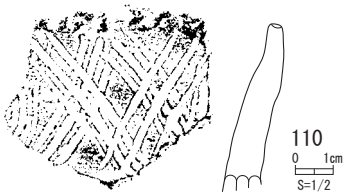


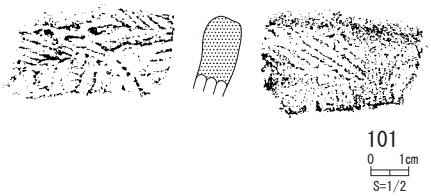
PJ020 号住居・出土遺物

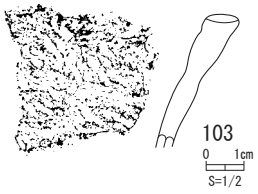


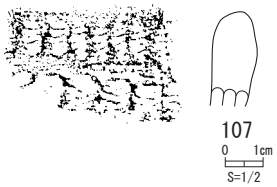


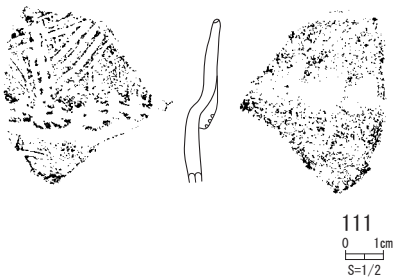


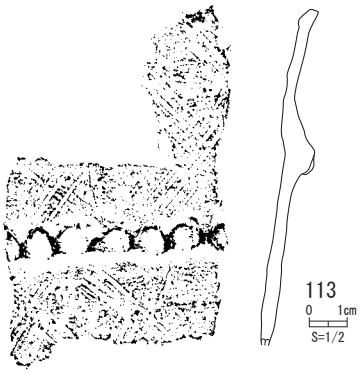


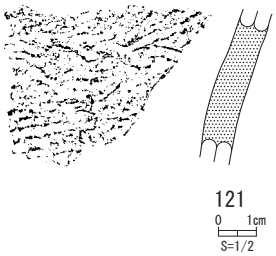




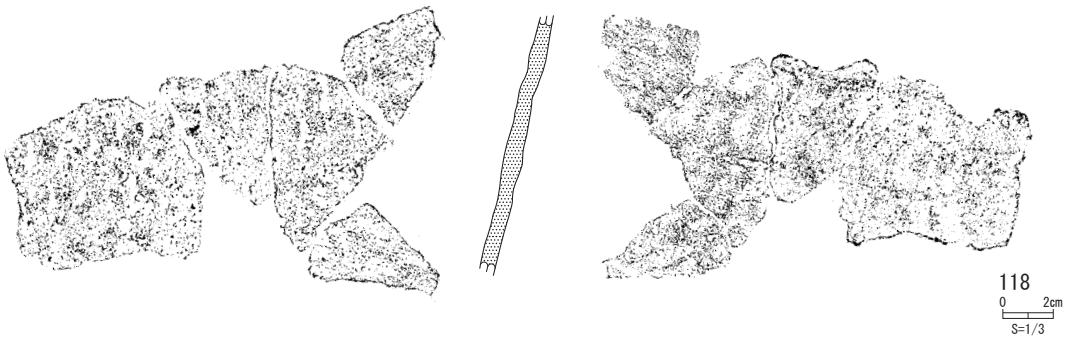


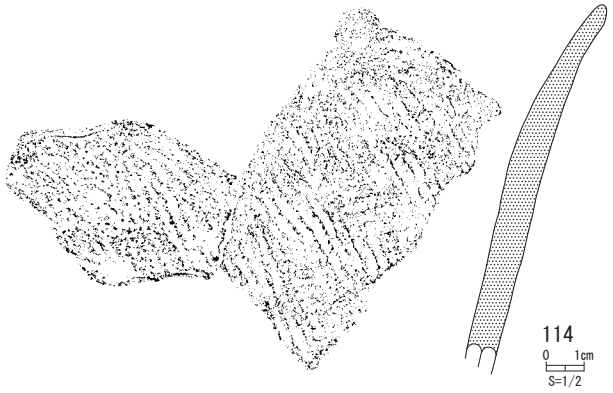


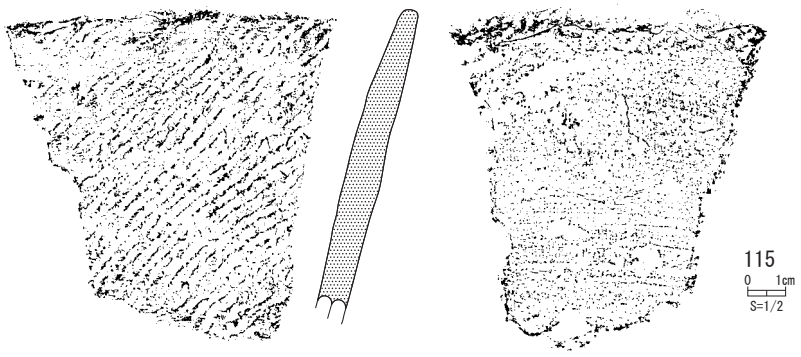




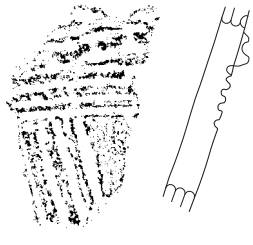
PJ020 号住居・出土遺物

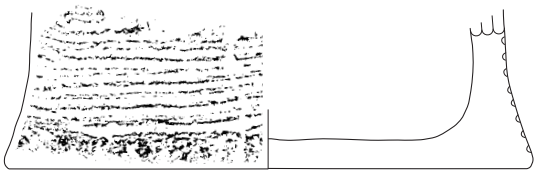


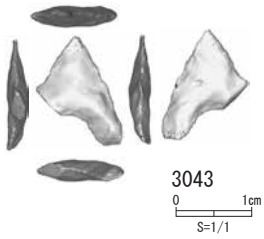


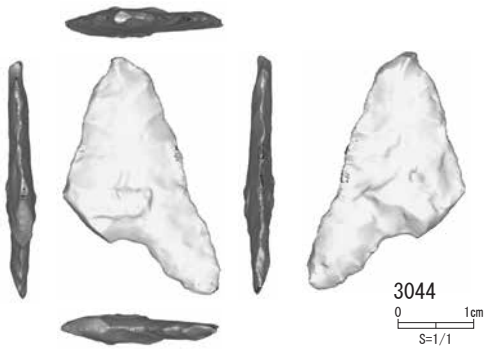


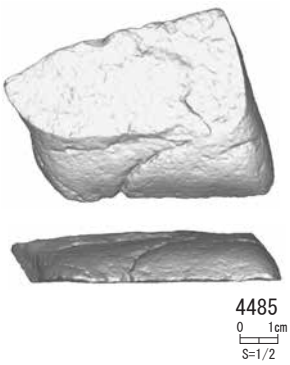
PJ020 号住居・出土遺物

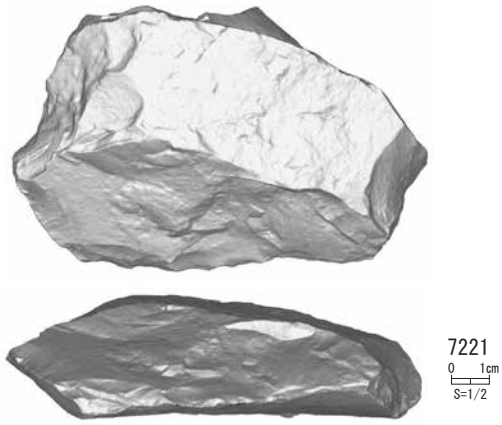




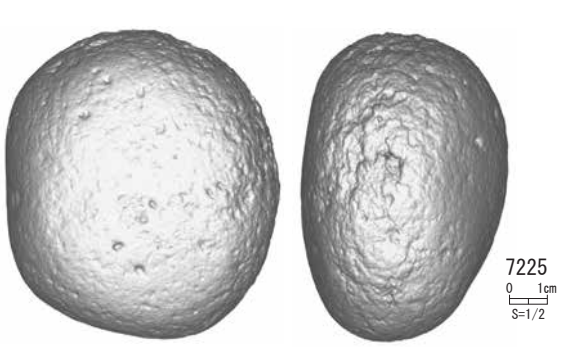


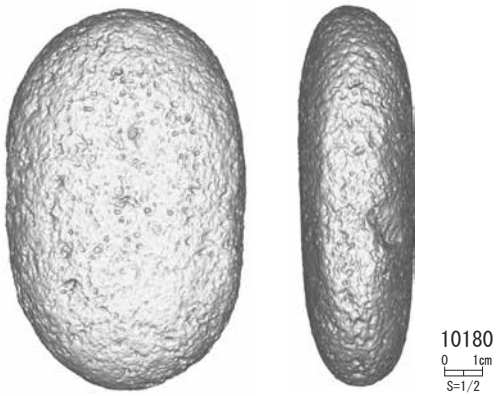


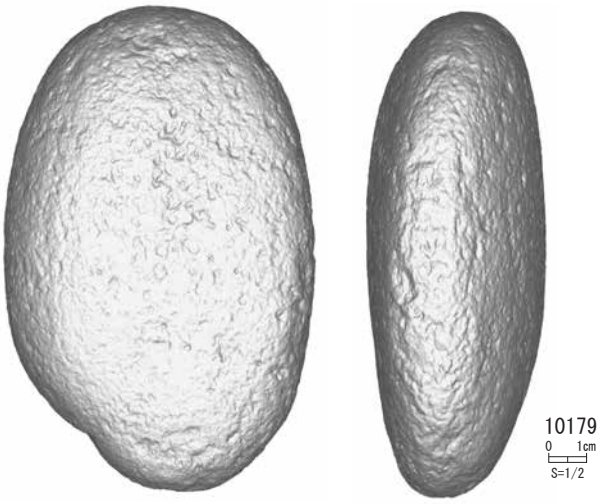


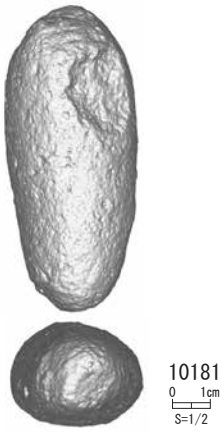


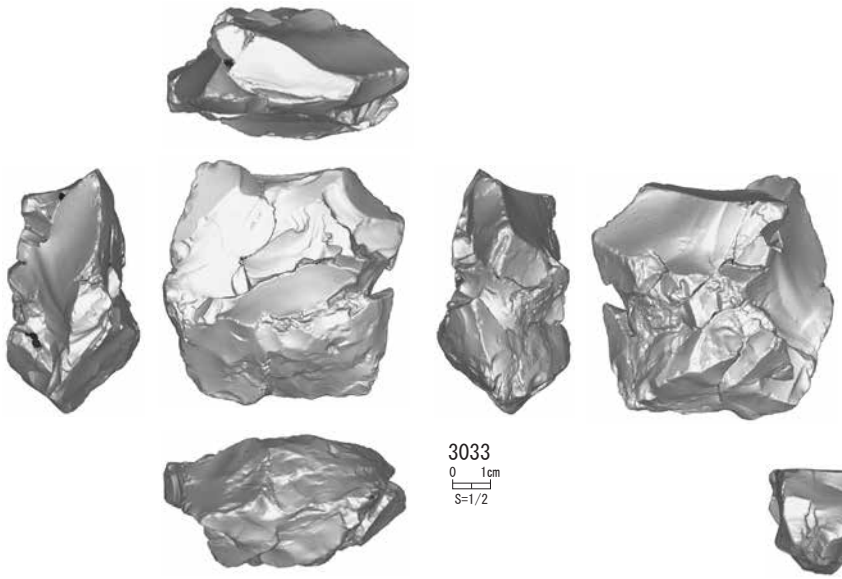
PJ020 号住居・出土遺物

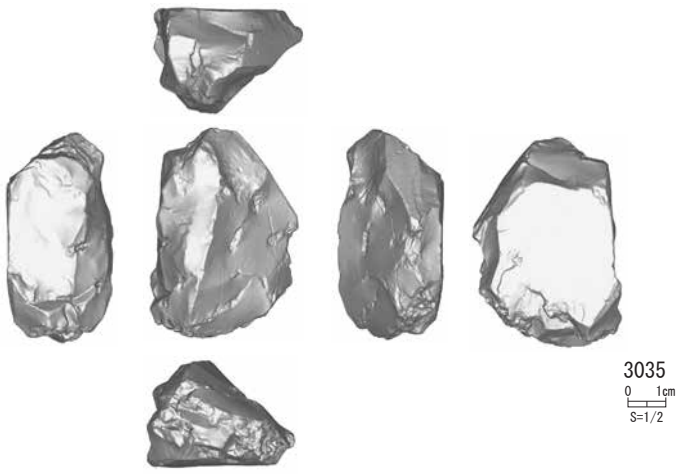












PJ020 号住居・出土遺物

PJ020 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
101	PJ-20	口縁部				11.4	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	口縁部の内外面に縄文。胎土に繊維を含む。神ノ木式併行
103	PJ-20	口縁部				11.0	破片	5YR4/4 5YR4/3	口唇部に指で押さえたような凹み。縄文。内外面に輪積み痕が残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式併行か
104	PJ-20	口縁部				12.2	破片	7.5YR6/4 10YR6/3	外面は粗雑な格子目状の条線文。内面は工具を使用したヨコナデか。胎土に繊維を含む。中越式併行
105	PJ-20 5	胴部				19.0	破片	10YR4/2 7.5YR4/3	外面は粗雑な格子目条線文。内面風化。胎土に繊維を含む。中越式併行
106	PJ-20 31	胴部				48.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/3	外面は細沈線による格子目文。内面指頭圧痕。風化。胎土に繊維を含む。中越式併行
107	IG-1789	口縁部				14.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	櫛歯状工具の刺突文。内面平滑なナデミガキ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
108	IG-1788	胴部				73.0	破片	10YR6/4 7.5YR4/2	外面に垂下する蛇行沈線。内外面整形の凹凸がやや残る。胎土に繊維を含む。中越式併行
110	PJ-20 8	口縁部				23.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR6/6	口唇部に刻み。格子目文。内面指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式
111	PJ-20	口縁部～胴部				9.0	破片	10YR7/4 7.5YR5/3	口縁部に明瞭な段差。格子目文。段差に櫛歯状工具の刺突。内面指頭圧痕。器壁は薄手。木島式
112	PJ-20 5	口縁部				23.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/4	内外面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越式
113	PJ-20	口縁部～胴部				38.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/3	口唇部に刻み。格子目文。段差につまみ状の刻み。内面指頭圧痕とヨコナデ。器壁は薄手。木島式
114	PJ-20 4	口縁部～胴部				94.0	破片	10YR7/6 7.5YR6/6	羽状縄文。内外面に整形の凹凸が残る。内面指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。PJ042 号住居出土の土器 1657 は同一個体。有尾式
115	PJ-20 8	口縁部				54.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/3	口縁部内面に縄文。輪積み痕が内外面に残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。有尾式
116	PJ-20 35	口縁部				37.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	幅狭の竹管押引文。内面ミガキ。諸磯 a 式新段階か諸磯 b 式古段階
117	PJ-20 33	口縁部				50.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR2/1	蛇行する条線文。内外面整形の凹凸が残る。胎土に繊維を含む。中越式併行
118	PJ-20 、PJ-20 10	胴部				67.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/1	内外面に整形の凹凸が残る。外面は爪形刺突を施文後にナデ調整。内面指頭圧痕とヨコナデ。器壁は薄手で、胎土質は木島式に類似。堂之上 Z 式
119	PJ-20 9	底部				90.0	破片	7.5YR6/8 7.5YR6/6	平坦に近い丸底。植物茎か細い枝状の圧痕が底部にあり。胎土に繊維を含む。中越式
120	PJ-20 27	口縁部				30.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR3/2	内外面に整形の凹凸が残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越式
121	PJ-20 16	胴部				20.0	破片	10YR6/4 7.5YR4/3	縄文。結節？内面平滑にナデ。胎土に繊維を含む。関山式
122	PJ-20 23、PJ-20 12、PJ-20	胴部				232.0	破片	5YR4/3 5YR4/4	竹管平行沈線で蛇行文。内外面に整形の凹凸が残る。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越式併行
226	IG-1786	胴部～底部			(14.0)	190.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR4/6	PT439 上面で出土。集合沈線。諸磯 c 式？
3224	IG-1774	胴部				10.0	破片	5YR5/6 5YR4/3	結節浮線文、平行沈線。諸磯 b 式新段階か諸磯 c 式
3235	IG-1785	胴部				86.0	破片	5YR3/6 5YR3/6	平行沈線文、縄文地文。諸磯 b 式中段階
3236	IG-1785	胴部				13.0	破片	10YR4/3 10YR5/3	竹管平行沈線による鋸歯状文が縦位に展開。諸磯 c 式

PJ020 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3033	PJ-20　21	原石	黒曜石					130.60	PT464 南西､床面から 18 cm浮いて出土。ズリ。サンドペーパー状の礫面。白筋のある漆黒黒曜石
3034	PJ-20	剥離のある剥片	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/2	46.0	56.0	19.0	56.40	円礫面が残る厚手の剥片。縁辺に微小剥離。風化し使用痕不明瞭
3035	PJ-20　20	原石	黒曜石					63.10	PT464 上、床面から 16 cm浮いて出土。ズリ。汚れた剥離面状の礫面。乳白色夾雑物が混じる透明系黒曜石
3036	PJ-20	石鏃	黒曜石	1/2	17.5	－	3.2	(0.70)	凹基、長脚、両面加工。先端、片脚欠損。赤褐色がかった黒曜石
3037	PJ-20	両極石器	黒曜石	1/1	28.0	16.0	7.0	3.90	自然面が残る板状剥片の両端に衝撃剥離。黒斑入り透明黒曜石
3038	PJ-20	剥離のある剥片	黒曜石					1.20	小さな剥片の 1 辺に両面から調整剥離。透明黒曜石
3039	PJ-20	石鏃	黒曜石	破片	－	－	3.0	(0.38)	片脚破片。透明黒曜石
3040	PJ-20	石鏃	黒曜石	破片	－	－	3.1	(0.36)	未成品。片縁辺のみの破片。葛湯状半透明黒曜石
3041	PJ-20	石錐	黒曜石	1/1	20.0	16.0	8.0	1.80	未成品。やや厚手の小さな剥片に錐部を作出。先端に使用痕がなく、錐部が短いことから未成品とした。葛湯状透明黒曜石
3042	PJ-20	剥片	玉髄					5.50	白色とべっ甲色の玉髄。搬入石材
3043	PJ-20　17	石鏃	黒曜石	3/4	14.3	－	2.7	(0.25)	凹基、両面加工、片脚欠損。ブルーブラック黒曜石
3044	PJ-20	石鏃	黒曜石	3/4	31.6	20.7	3.5	1.46	未成品。大形、凹基、両面加工。縁辺の最終調整段階。先端部の調整がやや粗い。ブルーブラック黒曜石
4483	PT-475	削器	黒曜石	1/1	17.0	84.0	9.0	14.10	PT475 上層出土。風化剥離面状の自然面がある縦長素材の片面を調整。片側側縁に直線的な刃部。黒斑入り透明黒曜石
4484	PT-477	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.00	PT477 出土。小さな剥片の片面 3 辺に調整剥離。剥片の裏面稜は摩耗している。葛湯状透明黒曜石
4485	PT-464	素刃削器	砂岩	1/1	50.0	64.0	14.0	60.00	PT464 出土。亜円礫面が残る剥片の 1 辺が直線的で薄い素刃。微小剥離と摩耗あり。細粒砂岩
7221	IG-1790	礫器	頁岩	1/1	71.0	111.0	29.0	263.50	亜円礫面が残る厚手の剥片。両極打法による剥離か。長く薄い縁辺に刃部の調整剥離。刃部はわずかに摩耗。
7225	IG-1771	磨石類	花崗岩類	1/1	83.0	73.0	55.0	448	球状に近い円礫。広い 2 面に摩耗。敲打痕。側面は敲打による荒れか。緻密か花崗岩
10179	PJ-20　28	磨石類	安山岩類	1/1	128.0	82.0	49.0	640	PT475 南東脇、床面から 5 cm浮いて出土。楕円形。広い 2 面が摩耗、疎らな敲打痕。側面 2 面と長軸端面にも敲打痕
10180	PJ-20　34	磨石類	安山岩類	1/1	101.0	64.0	34.0	273	PT441 上、床面出土。扁平楕円形。広い 2 面が摩耗、敲打集中の凹み。側面 1 面が平坦、稜磨石状。多孔質安山岩
10181	PJ-20	ハンマー	安山岩類	1/1	82.0	35.0	30.0	97	棒状円礫。長軸端部に敲打による割れと平坦面

PJ021 号住居

位　　置：E-3 グリッドに位置し、諸磯 b 式期の PJ003 号 b 住居に切られる。

規　　模：西側は調査区外、南側は PJ003 号住居に切られ、規模は不明である。隅丸方形の平面形と推測される。

埋　　土：黒褐色土を主体とする埋土で、住居西端、調査区端の土層断面を観察したところ PJ003 号住居に切られることが確認された。

床　　面：黄褐色砂質の地山をそのまま床面とし、調査範囲内で硬化面は検出されなかった。

炉　：調査範囲内で検出されなかった。

周　　溝：壁沿いに小溝を検出した。調査区端に 3 本の小溝を検出したが、シミ状の小さな遺構である。

柱　　穴：調査範囲内で検出されなかった。

出土遺物：出土した土器破片の総量は 1,990g である。前期から中期の土器が混在し、内訳は、木島式 74g、中越式 287g、神ノ木式 20g、有尾式 99g、諸磯式 561g、細分できない前期土器 698g、中期土器 251g である。諸磯式が多いのは、発掘調査の過程で PJ003 号 b 住居の遺物を本住居分として一括取り上げした結果と考えられる。また中期土器は後世の攪乱による混入であろう。その他の土器型式では、中越式が多く、次いで有尾式が多い。

石器は、石鏃未成品 3 点、剥離のある剥片 1 点、磨石類破片 1 点、剥片 47 点、123.2g が出土した。

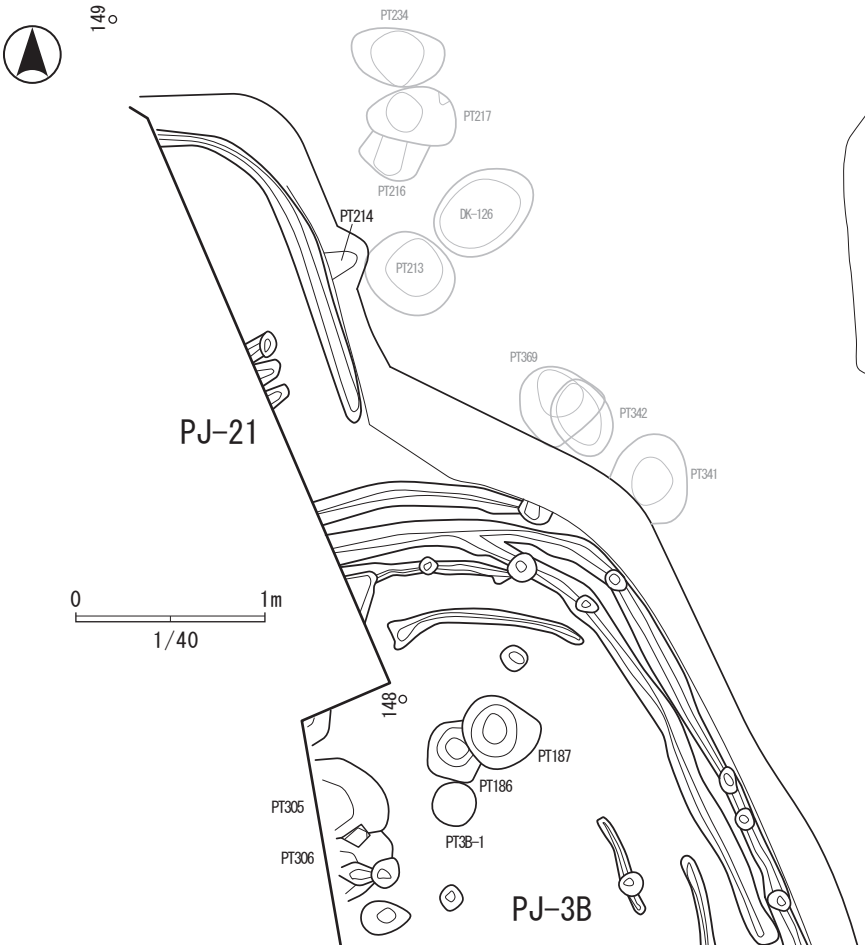
時　　期：わずかな出土土器と PJ003 号 b 住居との重複関係から、中越Ⅳ式期に位置づけられると思われるが、有尾式期の可能性も残る。

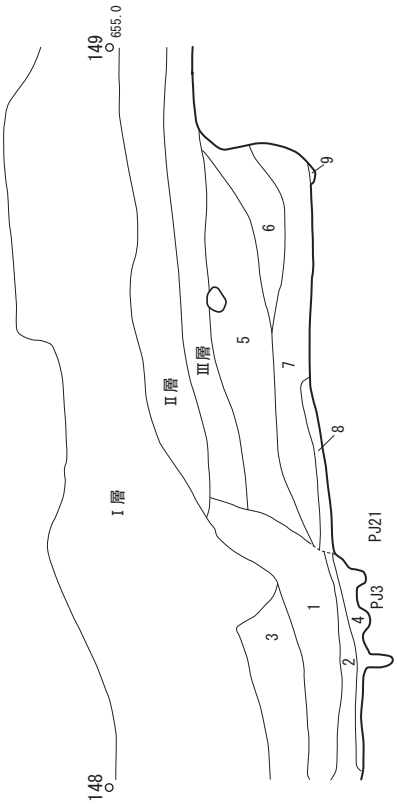
PJ021 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2830	PJ-21	胴部	-	-	-	86.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR3/2	内面条痕調整、外面羽状縄文。神ノ木式
2831	PJ-21	口縁部	-	-	-	69.0	破片	7.5YR6/6 5YR4/4	胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式

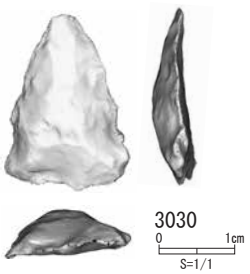
PJ021 号住居　石器観察表

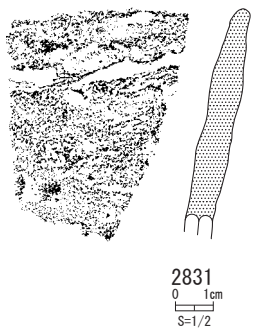
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
3030	PJ-21	石鏃	黒曜石	1/2	22.8	16.1	4.4	1.29	埋土一括取り上げ。未成品。剥片の稜が残る面に調整が集中する。
3031	PJ-21	石鏃	黒曜石	1/1	25.2	18.8	4.1	1.20	埋土一括取り上げ。両面の調整剥離が進行し、きれいなレンズ状断面形になっている。縁辺部の最終調整がみられず、未成品か。
3032	PJ-21	剥離のある剥片	黄色風化泥岩					6.70	埋土一括取り上げ。黄色風化泥岩。縁辺部に鋸歯状の剥離
6990	IG-1587	石鏃	黒曜石	1/2	21.9	21.7	7.8	3.35	遺構確認面で取り上げ。石鏃未成品。素材剥片を四方から大きく剥離したのみの段階
10608	PJ-21	磨石類	安山岩類					79	磨石類の小破片。片面は平坦に磨耗し、片面は凸面状

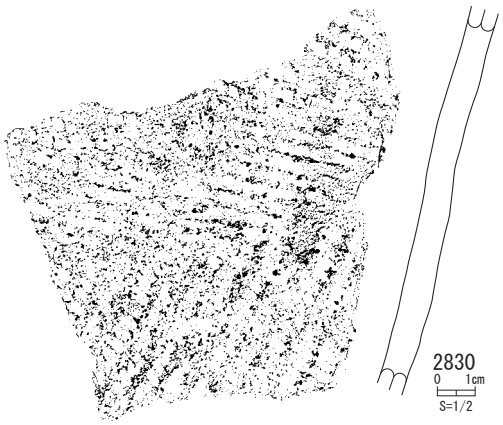


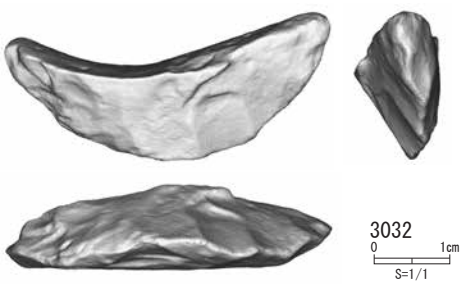


Ⅰ層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土。粘性なし。ややしまる。(表土層)
Ⅱ層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、10YR4/2(灰黄褐)が2%混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。(縄文時代の包含層)
Ⅲ層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が7%、10YR3/2(黒褐)が3%混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。(縄文時代の遺構確認面)
1層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR4/3(にぶい黄褐)が2%、10YR5/6(黄褐)1%、焼土1%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が1%、焼土1%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、10YR3/4(暗褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/6(褐)が2%混じる。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、10YR3/3(暗褐)が5%混じる、焼土1%以下、炭化物1%、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。花崗岩小礫2%
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR4/6(褐)が5%、10YR4/4(褐)が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。花崗岩小礫1%以下
7層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)　が20%、10YR4/4(褐)が10%、10YR4/6(褐)が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。炭化物1%以下
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR4/4(褐)が5%、10YR4/6(褐)が1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。炭化物1%以下、焼土1%以下
9層　周溝10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が3%、10YR2/3(黒褐)　が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。花崗岩小礫1%
床　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。花崗岩小礫2%　(PJ-21)
壁　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。(PJ-21)









PJ021 号住居・出土遺物

PJ023 号住居

位　　置：F-2 グリッドから G-2 グリッドにまたがって位置する。方形と円形プランの住居 2 軒が重複している。方形プランの住居を PJ023a 号住居、小形円形プランの住居を PJ023b 号住居とする。DK6 号、DK127 号、DK128 号土坑と重複し、土坑が新しい。本住居の北側には黒色土で埋没した浅谷があり、本住居北側はこの浅谷に重なるため、壁面を検出できなかった。

規　　模：円形プランの PJ023b 号住居は直径 4m 程度で、方形プランの PJ023a 号住居の規模は南北長 5m 程度とみられる。竪穴は深さ 20cm が残る。

埋　　土：白色の花崗岩片が混じる黒色土で、層理は観察されなかった。埋土厚が薄いため土層断面図は省略した。

床　　面：黄褐色砂質土を平坦に掘り込み、そのまま床面としている。DK128 号土坑の南脇に台石状の扁平円礫があり、その周囲は硬く踏みしまっていた。

炉　：床面が被熱、焼土化した箇所が 3 箇所検出され、これらが地床炉とみられる。

周　　溝：円形プラン、方形プランの壁に沿って小溝が部分的に検出された。

柱　　穴：PT239、PT241、PT244、PT248 号ピットの 4 基は 43cm から 50cm と深く、大きさも揃っている。その位置、配置から方形プランの住居の主柱穴とみられる。本来なら北東角に相当する柱穴があるはずだが、浅谷の黒色埋積土のなかで見落とした可能性が高い。また南西角の柱穴は調査区外に位置すると思われる。

円形プランの住居柱穴は、弧状の周溝の内側に沿って点在する PT236、PT255、PT256 号ピット、南側の番号がない小ピット 2 基などが該当するとみられる。

出土遺物：土器の大半は埋土中で出土した。総重量は 16,020g である。そのうち 23a 号住居に帰属すると確認された重量は 1,393g で中越式 1,703g、神之木式 73g、諸磯式 1,195g である。また 23b 号住居に帰属すると確認された重量は 2,032g で、中越式 933g、神之木式 15g、諸磯式 805g である。そのほかの土器は一括して取り上げたため帰属先を分別できない。

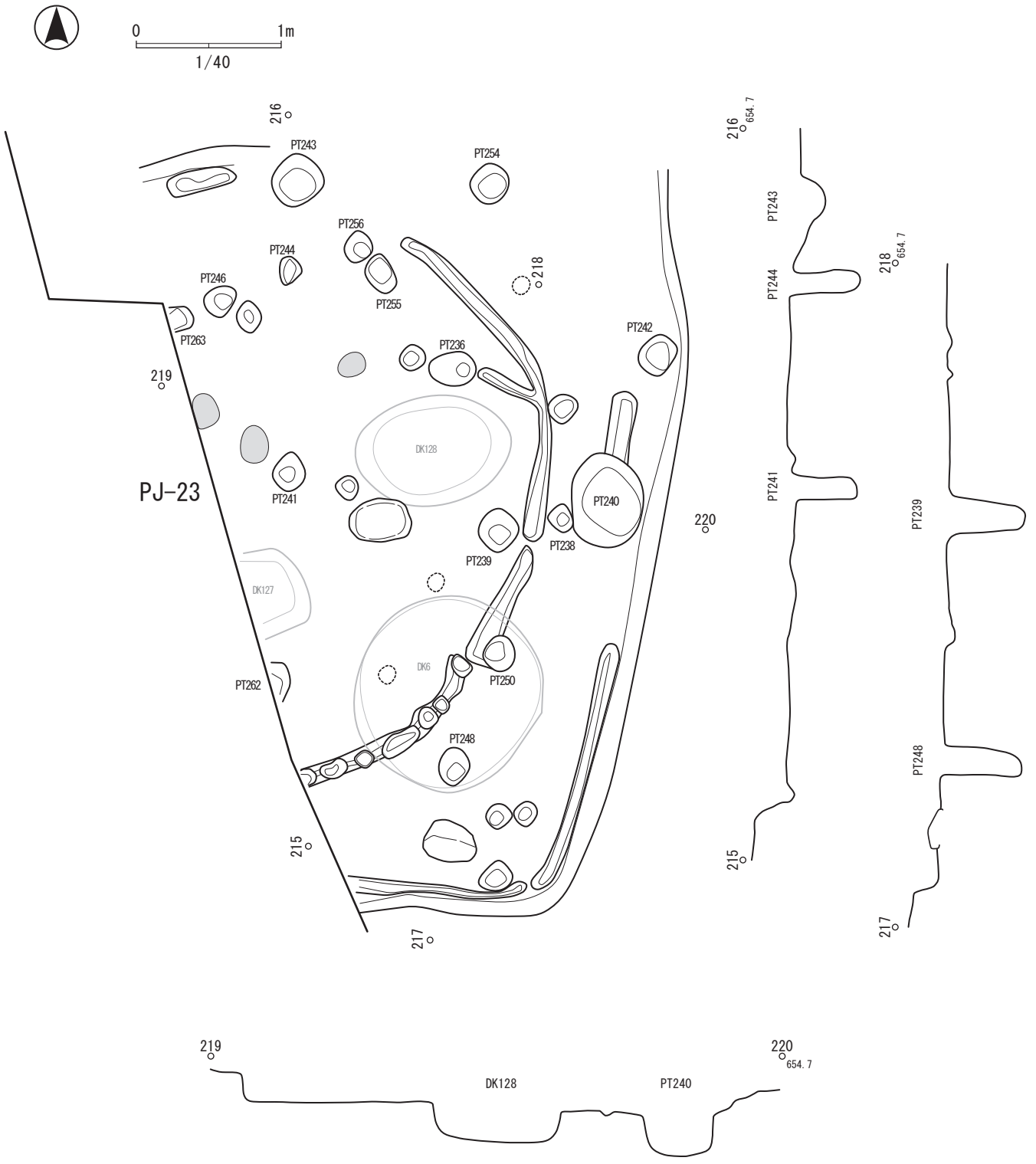
北陸地方に分布の中心をもつ布目式とみられる 158 が出土しており、神之木式と共伴するとみられる。

出土した石器は、石鏃 5 点、掻器 1 点、削器 5 点、石匙 1 点、磨石類 2 点、石皿 1 点、台石 1 点、ハンマー 1 点、礫器 1 点、剥離のある剥片 3 点、黒曜石原石 2 点である。このほか黒曜石を主とする剥片 72 点 197g が出土した。

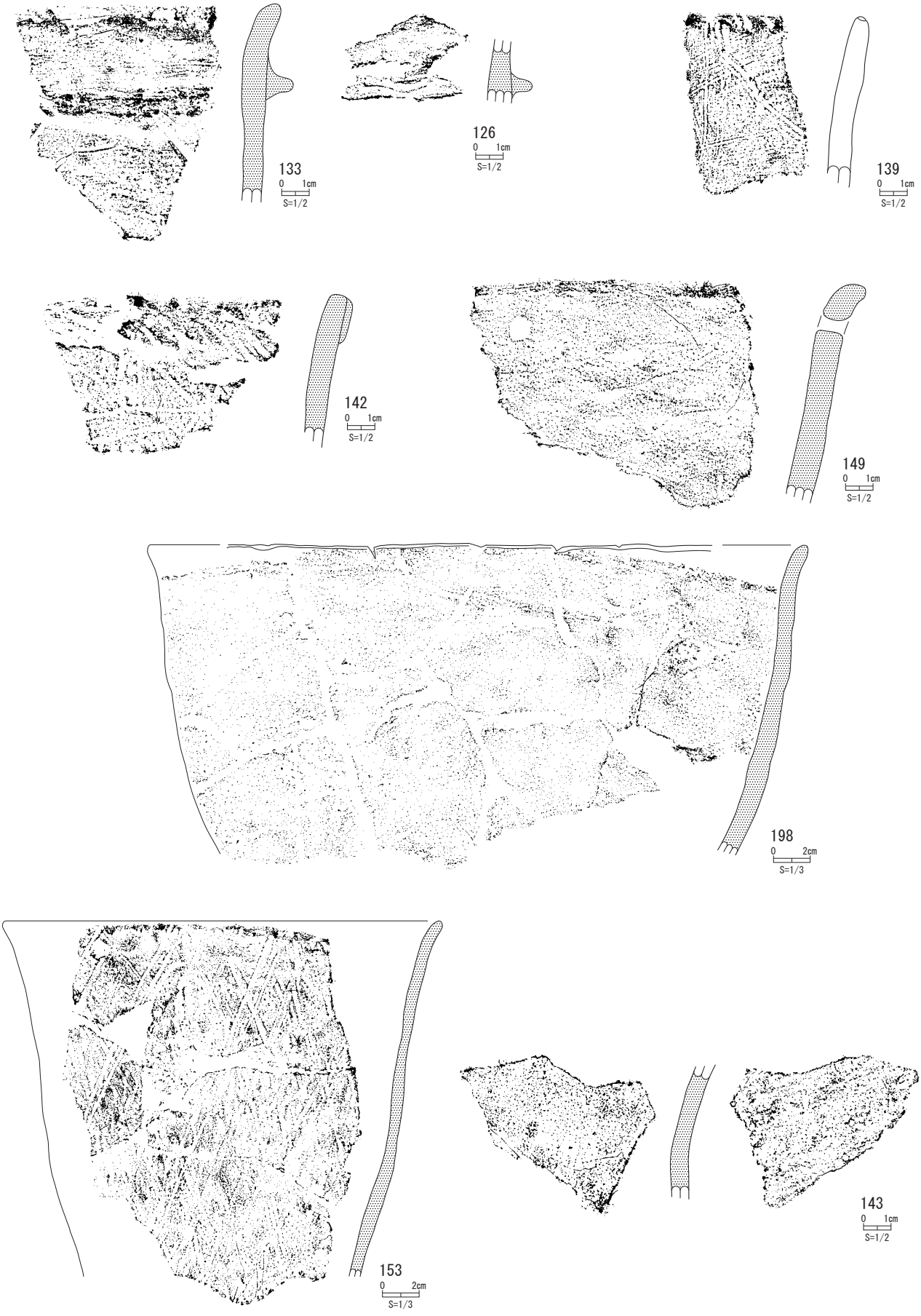
時　　期：出土した土器は、中越式と神之木式が多く、諸磯式が次ぐ。住居は方形プランの 23a 号住居と小形円形プランの 23b 号住居に分離できた。本遺跡内の他の遺構との対比から、23a 号住居が神之木式土器を伴う段階の中越Ⅳ式期、23b 号住居が諸磯 b 式期にそれぞれ位置づけられると思われる。

PJ023 号住居　土坑ピット一覧表

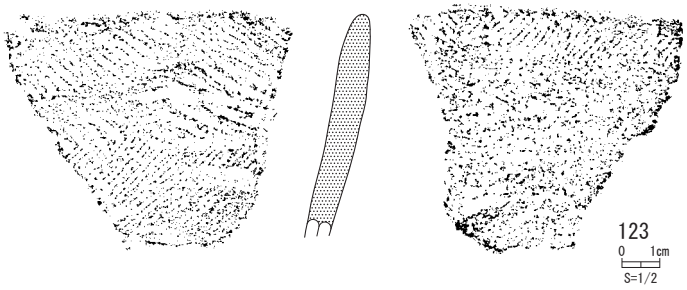
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-236	23 住内	15*15	36	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-238	23 住内	14*12	10	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-239	23 住内	21*24	50	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ23a 号住居柱穴か
PT-240	23 住内	60*43	28	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 50% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器破片
PT-241	23 住内	21*18	43	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）と焼土が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ23a 号住居柱穴か
PT-242	23 住内	25*27	15	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	前期土器破片
PT-243	23 住内	25*35	5	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。しまる。	中越式土器破片、削器
PT-244	23 住内	16	46	10YR3/3（暗褐）。シルト粒土。しまる。	PJ23a 号住居柱穴か
PT-246	23 住内	19*17	10	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/1（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器破片
PT-248	23 住内	20*18	49	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ23a 号住居柱穴か。前期の繊維土器破片
PT-250	23 住内	18*12	12	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-254	23 住内	24*25	9	10YR3/2（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-255	23 住内	18*26	18	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-256	23 住内	20*21	18	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器破片
PT-262	23 住西壁	20	15	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/1（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-263	23 住内	17*-	6	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/1（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯 b 式土器破片

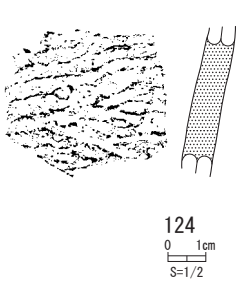

0
1m
1/40
PJ-23
216
217
218
219
220
215
PT243
PT254
PT256
PT244
PT246
PT255
PT263
PT236
PT242
PT241
PT240
PT238
PT239
PT262
PT250
PT248
DK128
DK127
DK6
654.7
DK128
PT240

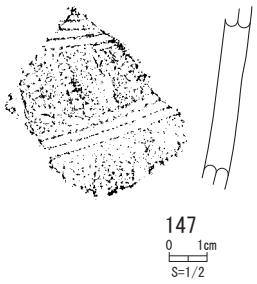
PJ023 号住居

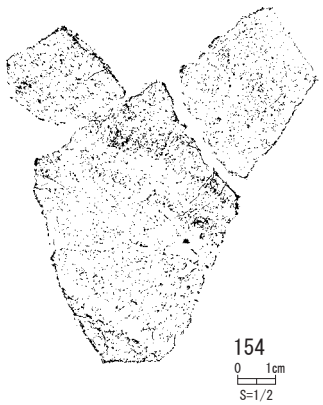


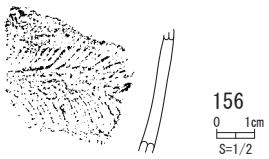
PJ023 号住居出土遺物

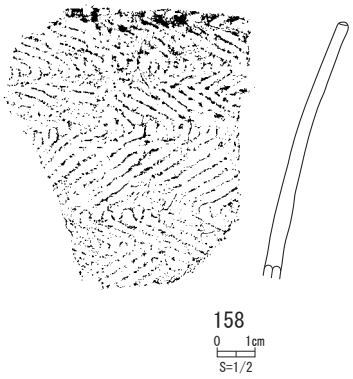


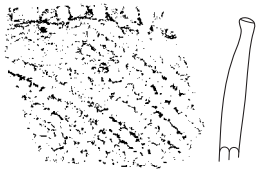


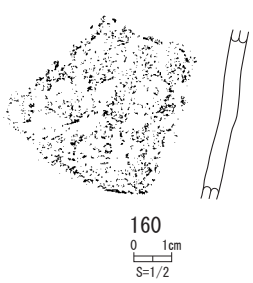


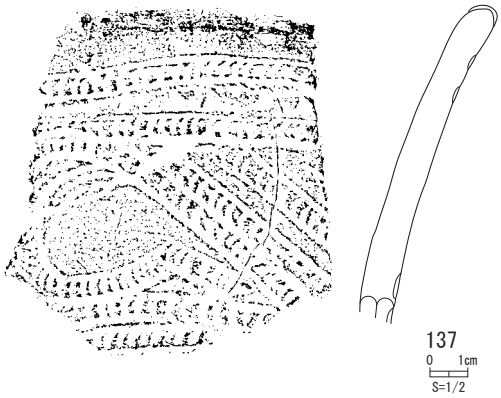




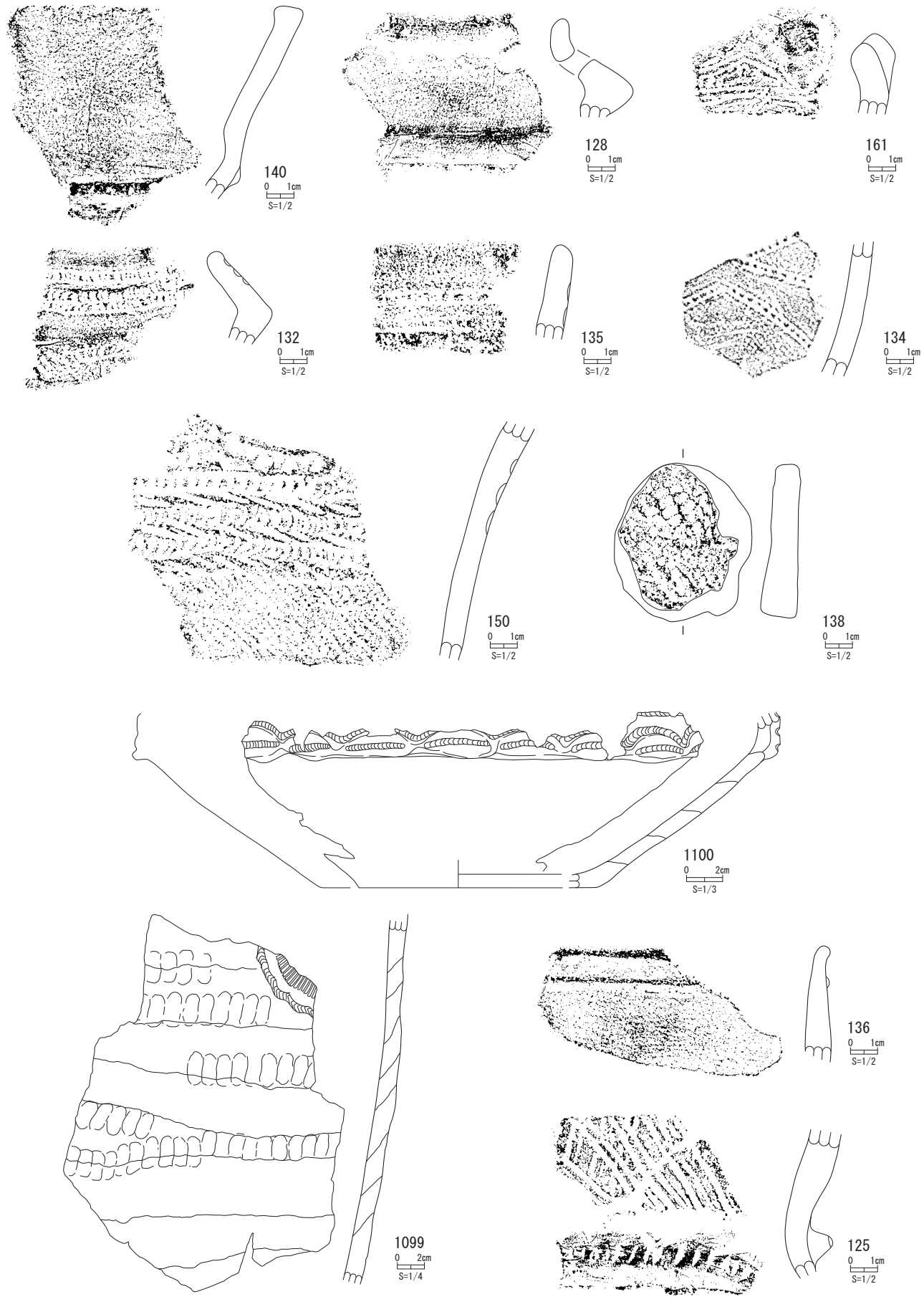




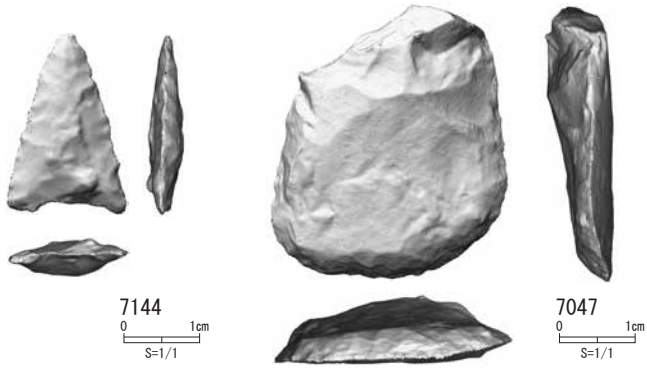


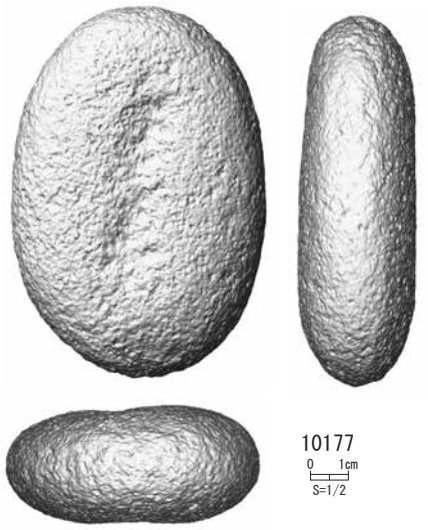


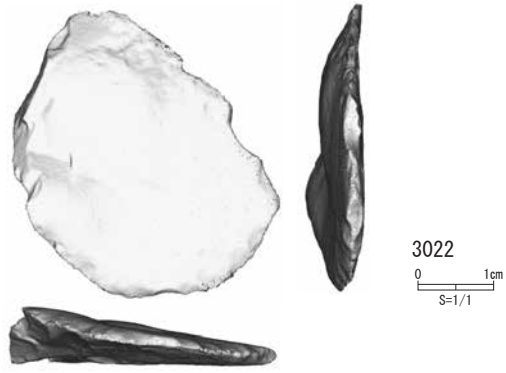
PJ023 号住居出土遺物

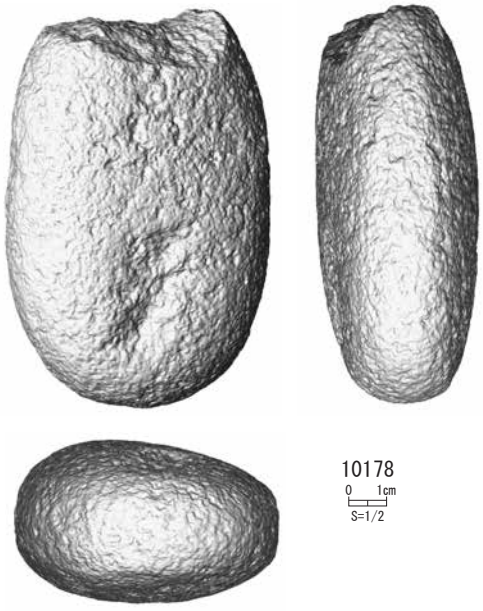


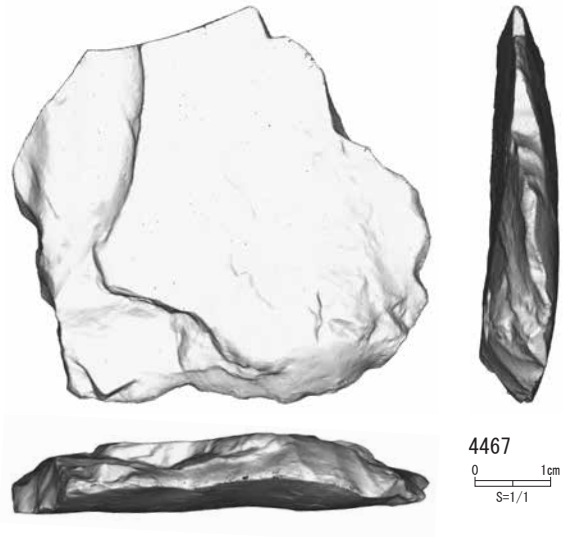
PJ023 号住居出土遺物



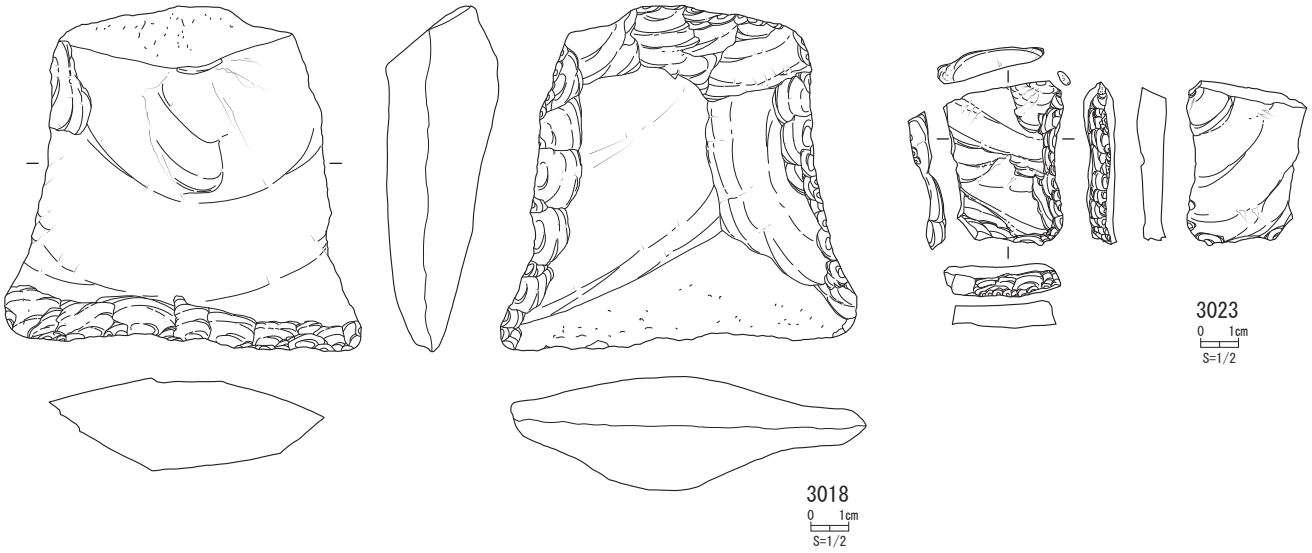


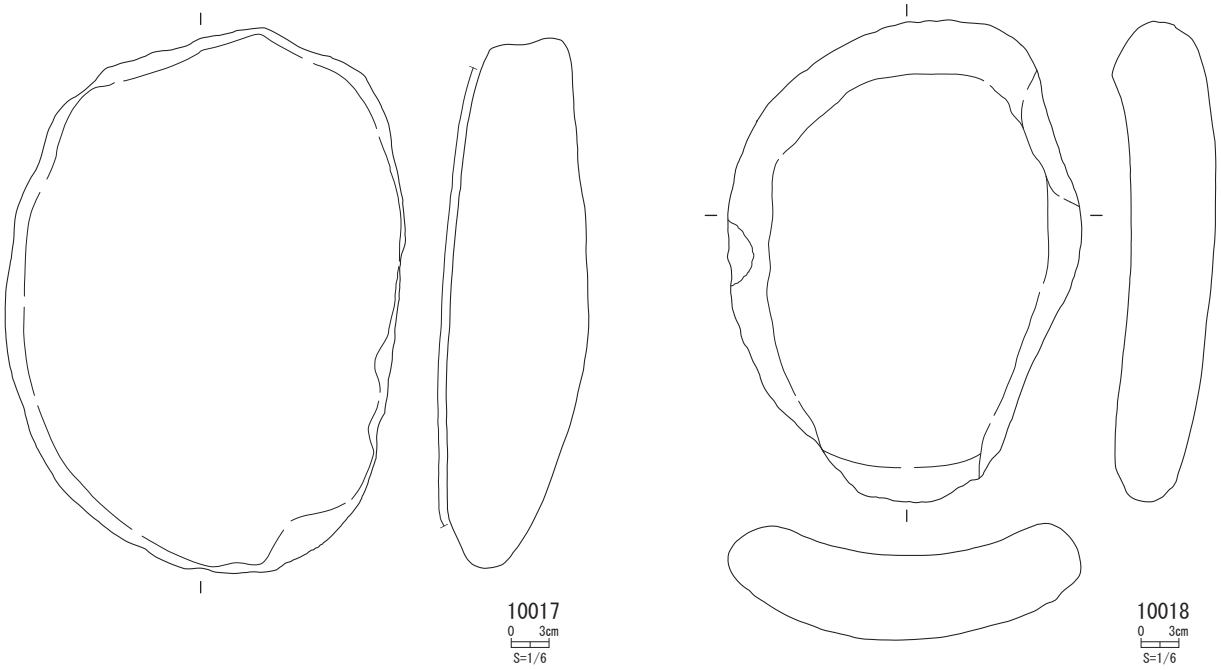






PJ023 号住居出土遺物





PJ023 号住居出土遺物

PJ023 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
123	IG-1571	口縁部	−	−	−	37.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	PJ023a 号住居埋土出土。無節縄文を羽状に施文。口縁部内側にも施文。内外面とも指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。神之木式
124	IG-1564	胴部	−	−	−	15.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	PJ023b 号住居埋土出土。縄文。内面は指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。神之木式
125	IG-1567	胴部	−	−	−	57.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	PJ023b 号住居確認面出土。鍔状の刻み隆帯と格子目文。内面ヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。中期中葉
126	IG-1567	胴部	−	−	−	14.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/4	PJ023b 号住居確認面出土。タガ状隆帯。内外面とも指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。坂平式
128	IG-1568	口縁部	−	−	−	55.0	破片	5YR3/6 2.5YR3/6	埋土一括。有孔浅鉢。外面はていねいなミガキ調整。諸磯ｂ式新段階かｃ式
132	PJ-23	口縁部	−	−	−	25.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	埋土一括。くの字状に屈曲した口縁部。竹管押引文と木の葉文。諸磯ｂ式古段階
133	PJ-23 21	口縁部	−	−	−	53.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR4/2	PJ023b 号住居埋土出土。タガ状隆帯。内外面とも指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。坂平式
134	PJ-23 21	胴部	−	−	−	27.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	PJ023b 号住居埋土出土。竹管押引文と縄文。木の葉文か。内面はていねいなミガキ調整。諸磯ａ式か
135	PJ-23 25	口縁部	−	−	−	20.0	破片	2.5Y6/2 5Y6/1	PJ023b 号住居埋土出土。やや幅広の竹管押引文。被熱して灰色に変色、器面も風化。諸磯ｂ式
136	PJ-23 31	口縁部	−	−	−	37.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR4/3	PJ023a 号住居埋土出土。外反する口唇部。微隆起線。内外面ともていねいなミガキ調整。中期中葉か
137	PJ-23 34	口縁部	−	−	−	113.0	破片	5YR3/4 5YR3/2	PJ023a 号住居埋土出土。やや幅広の竹管押引文で崩れた木の葉文を施文。別破片の口唇部には、諸磯ｃ式のような複数の薄く小さな貼付文がつく。諸磯ｂ式中段階か
138	PJ-23 24	—	5.8	5.1	1.2	44.0	ほぼ完形	7.5YR3/3 7.5YR3/2	PJ023b 号住居埋土出土。縄文。厚手の胴部破片の周縁を土製円盤状に整形。諸磯式
139	PJ-23 25	口縁部	−	−	−	30.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	PJ023b 号住居埋土出土。口唇部に刻み。やや乱れた格子目文。内外面とも指頭圧痕が目立つ。器壁は中厚手。胎土に繊維を含まない。中越Ⅰ式か
140	PJ-23 33	口縁部	−	−	−	51.0	破片	10YR3/1 7.5YR4/4	PJ023a 号住居埋土出土。胴部中位で屈曲する鉢形土器。内面ナデミガキ調整。諸磯ｂ式古段階か
142	PJ-23 6	口縁部	−	−	−	36.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	PJ023a 号住居埋土出土。やや肥厚する口唇部に雑な格子目文。内面ヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式
143	IG-1567、1894-1	胴部	−	−	−	59.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/3	PJ023b 号住居埋土出土。外面縦ナデ調整、内面ヨコナデ調整。内外面とも指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式かⅣ式。種実圧痕を多く含む。
147	IG-1568	胴部	−	−	−	28.0	破片	5YR5/6 5YR4/4	埋土一括。櫛歯状工具による連点刺突文と平行沈線。器壁は中厚手で、胎土に繊維を含まない。神之木式
149	PJ-23 11	口縁部	−	−	−	85.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	PJ023b 号住居埋土出土。弱く外反する口唇部。内外面ともヨコナデ調整で指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。補修孔あり。中越Ⅲ式か
150	PJ-23 35	胴部	−	−	−	150.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR3/2	PJ023a 号住居埋土出土。幅広の竹管押引文とごく低い刻み隆帯。下位に縄文地文。別破片の上位はくずれた木の葉文。内面ナデミガキ調整。諸磯ｂ式古段階
151	PJ-23 35、PJ-23 32	口縁部	−	−	−	178.0	破片	7.5YR3/3 5YR3/4	PJ023a 号住居埋土出土。竹管の平行沈線で波状文。内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含まない。諸磯ａ式
153	PJ-23 19	口縁部～胴部	(23.6)	−	−	265.0	1/5	7.5YR6/6 7.5YR4/3	PJ023a 号住居南壁沿いの埋土下層出土。弱く外反する口唇部。器面全体に粗雑な格子目文。内外面とも指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。中越Ⅱ式かⅢ式
154	PJ-23 15、PJ-23	胴部	−	−	−	108.0	破片	10YR5/3 10YR3/1	PJ023b 号住居出土。外面上位には文様とも調整痕ともつかない粗雑な格子目文。内外面とも指頭圧痕が目立つが、ていねいにナデ調整。器壁は薄手。胎土に繊維を含まない。木島式か中越式の古い段階か判断がつかない。

PJ023 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
155	PJ-23	口縁部	－	－	－	12.0	破片	5YR5/4 7.5YR5/4	埋土一括。口唇部に刻み。口縁部はていねいに施文された格子目文。内面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。木島式
156	PJ-23	胴部	－	－	－	6.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR4/2	埋土一括。大きな爪形文が密に施文される。器壁は薄手。内面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱａ式
157	PJ-23	胴部	－	－	－	7.0	破片	10YR4/1 10YR3/1	埋土一括。頸部に刻み隆帯。内面は指頭圧痕が残る。器壁は中厚手。胎土に繊維を含まない。木島式もしくは中越式
158	PJ-23	口縁部	－	－	－	24.0	破片	5YR5/4 7.5YR3/2	埋土一括。平口縁。口唇部に刻み。胴部は第１種結節縄文を多段に施文。縄文原体は 15㎜ 程度と短い。内面は横方向の擦痕が顕著で指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維をほとんど含まず、雲母粒子が混じる。器壁は薄手。布目式古段階
159	PJ-23	口縁部	－	－	－	15.0	破片	5YR3/2 5YR3/3	埋土一括。口唇部に細い棒状工具を押捺した刻み。胴部は斜縄文。器壁厚、胎土質は 158 に似る。内面は横方向の擦痕。布目式とも神之木式ともつかない。
160	PJ-23	胴部	－	－	－	11.0	破片	5YR3/2 7.5YR4/4	埋土一括。爪を立てて指先を押捺したような痕跡。器壁厚、胎土質は 158、159 に似る。内面は横方向の擦痕、指頭圧痕が目立つ。
161	IG-2332	口縁部	－	－	－	18.0	破片	5YR3/2 7.5YR3/3	埋土一括。波状口縁の波頂部に痕跡的な獣面突起。諸磯ｂ式中段階か新段階
198	PJ-23 43	口縁部～胴部	(36.0)	－	－	1,075.0	1/5	7.5YR6/8 7.5YR5/6	PJ023a 号住居埋土下層出土。口縁部がやや外反する。内外面とも指頭圧痕が目立つヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。器壁は厚手。中越Ⅲ式か
1099	IG-2332	胴部	－	－	－	960.0	破片	内：7.5YR6/6 外：5YR4/4	PJ023 号住居西端、調査区境界の壁面で出土。サンショウウオ文をキャタピラー文と三角押引き文で縁取り施文した中期中葉の深鉢胴部破片。外面は輪積み痕と指頭圧痕が目立ち、内面はていねいなナデミガキ調整。
1100	IG-2332	胴部～底部	－	－	(15.4)	431.0	破片	内：5YR4/6 外：5YR4/6	PJ023 号住居西端、調査区境界の壁面で出土。口縁部に大柄の鎖状隆帯を施文した浅鉢。外面は横方向のケズリ調整、内面はナデミガキ調整。中期中葉

PJ023 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（㎜）	現存幅（㎜）	現存厚（㎜）	重量（g）	観察所見
3018	PJ-23　13	礫器	頁岩	1/1	90.0	94.0	29.0	230.90	PJ023b 号住居床面出土。礫面が残る厚い剥片素材の一辺に粗い調整剥離による刃部を作出。白筋があるやや砂っぽい青灰色頁岩
3019	PJ-23　22	原石	黒曜石					40.70	PJ023a 号住居北端床面出土。ズリ面が残る原石。白色の夾雑物が多く、石器素材にはならない印象。漆黒の黒曜石
3020	PJ-23　40	削器	黒曜石	1/1	28.0	49.0	10.0	17.10	PJ023b 号住居東壁沿いの床面出土。礫面が残る板状素材の一辺に深い押圧剥離による刃部を作出。細かな刃こぼれあり。半透明の黒曜石
3021	PJ-23	剥離のある剥片	ホルンフェルス	1/1	45.0	38.0	10.0	13.90	PJ023 号住居埋土一括。剥片の一辺に刃こぼれ。黄色に風化したホルンフェルス
3022	PJ-23	削器	珪質頁岩	1/1	38.0	31.0	5.0	7.60	PJ023 号住居埋土一括。角礫面が残る剥片素材の一辺に押圧剥離による刃部を作出。刃部に刃こぼれと摩滅の使用痕。白筋がある青灰色で珪質度の高い珪質頁岩
3023	PJ-23	削器	珪質頁岩	1/1	31.0	43.0	8.0	14.40	PJ023 号住居埋土一括。板状剥片の二辺に刃部。凹刃と、角部に突出した刃部。刃部は掻器状に急傾斜で、刃こぼれ痕が顕著。素材は灰色で油脂状にぬめりを感じる触感のち密な珪質頁岩。搬入石材か
3024	PJ-23	原石	黒曜石					11.90	PJ023 号住居埋土一括。礫面で囲まれた原石。半透明の黒曜石
3025	PJ-23	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				8.50	PJ023 号住居埋土一括。風化した剥離面で囲まれた素材の一辺に刃部を作出。刃こぼれ痕が顕著。半透明の黒曜石
3026	PJ-23	削器	珪質泥岩	－	35.0	35.0	5.0	4.80	PJ023 号住居埋土一括。剥片素材の一辺に刃部。刃部には摩滅の使用痕あり。淡緑色で軟質の珪質泥岩
3027	PJ-23	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	2.6	(0.33)	PJ023 号住居埋土一括。基部を大きく欠損。半透明の黒曜石
3028	PJ-23	石鏃	黒曜石	1/2				1.93	PJ023 号住居埋土一括。片面に礫面、片面に大きく主剥離面を残す。未成品。基部を大きく欠損。透明な黒曜石

PJ023 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3029	PJ-23	石匙	黒曜石	-	-	-	5.0	0.90	PJ023 号住居埋土一括。石匙のつまみ部のみの破片。透明な黒曜石
4467	PT-243	削器	珪質頁岩	1/1	53.0	51.0	10.0	32.30	PT243 号ピット一括。角礫面が残る剥片素材の丸みのある一辺に刃部を作出。刃こぼれ痕あり。白筋がある青灰色の珪質頁岩
7046	IG-1568	ハンマー	頁岩類	1/2				77	PJ023b 号住居西側の調査区壁面で出土。断面方形の棒状亜円礫素材。長軸方向の両端部を欠損。稜線上に敲打痕あり
7047	IG-1568	掻器	珪質頁岩	1/1	37.0	32.0	8.0	10.70	PJ023b 号住居西側の調査区壁面で出土。拇指状の掻器。刃部に刃こぼれと摩滅の使用痕あり。白筋がある青灰色珪質頁岩
7048	IG-1568	石鏃	黒曜石	1/2			3.4	(0.94)	PJ023b 号住居西側の調査区壁面で出土。先端、両脚を欠損。白筋がある漆黒の黒曜石
7144	IG-2343	石鏃	黒曜石	1/1	24.2	15.8	4.8	11.90	PJ023b 号住居西側の調査区壁面で出土。鋸歯縁石鏃。先端部と片脚先端欠損。両面調整のていねいなつくり。透明な黒曜石
7146	IG-1808	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				8.70	PJ023b 号住居北東壁沿いの埋土上層出土。礫面が残る板状剥片素材の一辺に刃こぼれ使用痕が並ぶ。縞のある半透明黒曜石
7150	IG-1569	石鏃	黒曜石	3/4	19.6	15.6	2.9	0.71	PJ023a 号住居北端、遺構確認面出土。先端と片脚欠損。周縁部調整はまだ粗い。両面加工のていねいなつくり。未成品か。赤褐色斑入りの黒曜石
10017	PJ-23 44	台石	安山岩類	1/1	435.0	310.0	110.0	21,500	PJ023b 号住居床面、DK128 号土坑南脇で出土。扁平円礫。片面は弱い凸面でやや摩滅し、片面は強く湾曲し、使用痕は不明瞭。弱い凸面側は擦る作業よりも石器上で叩く作業の結果、生じた摩滅に感じられる。
10018	PJ-23　45	石皿	安山岩類	1/1	384.0	281.0	96.0	11,000	PJ023a 号住居南東角部の床面出土。石皿の皿面を下に伏せた状態で出土。皿部はかき出し口から縁まで磨耗。底面に敲打痕が全面に残る。
10177	PJ-23　28	磨石類	安山岩類	1/1	98.0	67.0	34.0	277	PJ023b 号住居南東壁沿いの床面出土。楕円型。磨石作業面 2 面。両面に敲打集中の凹部が器軸に沿って並ぶ。
10178	PJ-23　27	磨石類	安山岩類	3/4	(106.0)	70.0	46.0	436	PJ023b 号住居東壁沿い、埋土下層出土。石鹸型。磨石作業面は 2 面。両面に敲打の小さなくぼみがあり、器体中心から端部側に寄った箇所には敲打が集中した大きな凹みがある。長軸端部に敲打痕。片側端部は欠損。

写真３　現状保存区域の遺構検出状況（Ｋ－７グリッド一帯）

PJ024 号住居

位　　置：F-3 グリッドに位置する。

規　　模：長軸 6.35m、短軸 5.7m の楕円形で、竪穴は深さ 30 cmが残る。

埋　　土：黒褐色土が水平に堆積する。

床　　面：黄褐色の砂質粘質土を床面としている。炉周辺は硬く踏みしめられていた。

**炉　　**：住居中央で石囲炉と焼土を検出した。石囲炉はやや小ぶりの扁平礫 4 枚を炉内を囲うようにコの字に並べてあった。北辺の炉石は抜き取られていると思われる。焼土は炉石の外側に広く広がっていて、床面とした地山が被熱、焼土化していた。炉石で囲まれた炉内には黒褐色土が堆積し、顕著な焼土の堆積、生成は認められなかった。炉石で囲った掘り込みが設けられているものの、炉の使用時には、炉石を超えて火が焚かれていたと思われる。

周　　溝：壁際に小穴を伴う小溝 2 条が検出された。また主柱穴を連結する小溝が検出された。

柱　　穴：小溝で連結された 156 号、158 号、159 号、160 号、161 号土坑、292 号、309 号ピットの 7 基が主柱穴と思われる。これらは、掘り方上部が広く、やや深い位置から柱穴らしく細く掘り込まれている。柱穴埋土で柱痕が確認されていないことから、柱を抜き取ったと推測される。

158 号土坑は 278 号ピットと重複しており、建て替えがあったことを示唆する。ほかの柱穴では掘り方が明瞭に分離されなかったが、同様の状況が予想される。

PT283 は、本住居と重複する 5 号掘立柱建物の北東角柱穴である。PT284 は、本住居と重複する 6 号掘立柱建物の北西角柱穴である。2 棟の掘立柱建物は、出土土器から前期後半、諸磯式期と推測される。

本住居の南東部には、285 号、286 号、293 号ピットが検出されている。うち 285 号ピットと 286 号ピットは 11 ～ 17 cmと浅い。284 号ピットは 40 cm、293 号ピットは 60 cmと深い。これらは本住居の主柱穴とみるには、位置が不規則であり、重複する掘立柱建物の一部とみたほうがよいであろう。

出土遺物：住居埋土中にまばらに遺物が出土した。1108 は PT292 で出土した小形深鉢で、本住居の廃絶時期にもっとも近い位置にあると判断される。1110 の土偶胴部破片は、脚部割れ面に磨耗整形痕が認められ、破壊もしくは破損後に再利用されていると思われる。柱穴内から土器の小破片が出土しているが、多くは諸磯式土器の小片である。

出土した土器の総量は 15,549g で、中期中葉の土器破片が 5kg ほどともっとも多いが、ほかに前期と思われる土器破片 1.9kg、諸磯式土器破片 6.1kg、中越式土器破片 1.1kg がある。

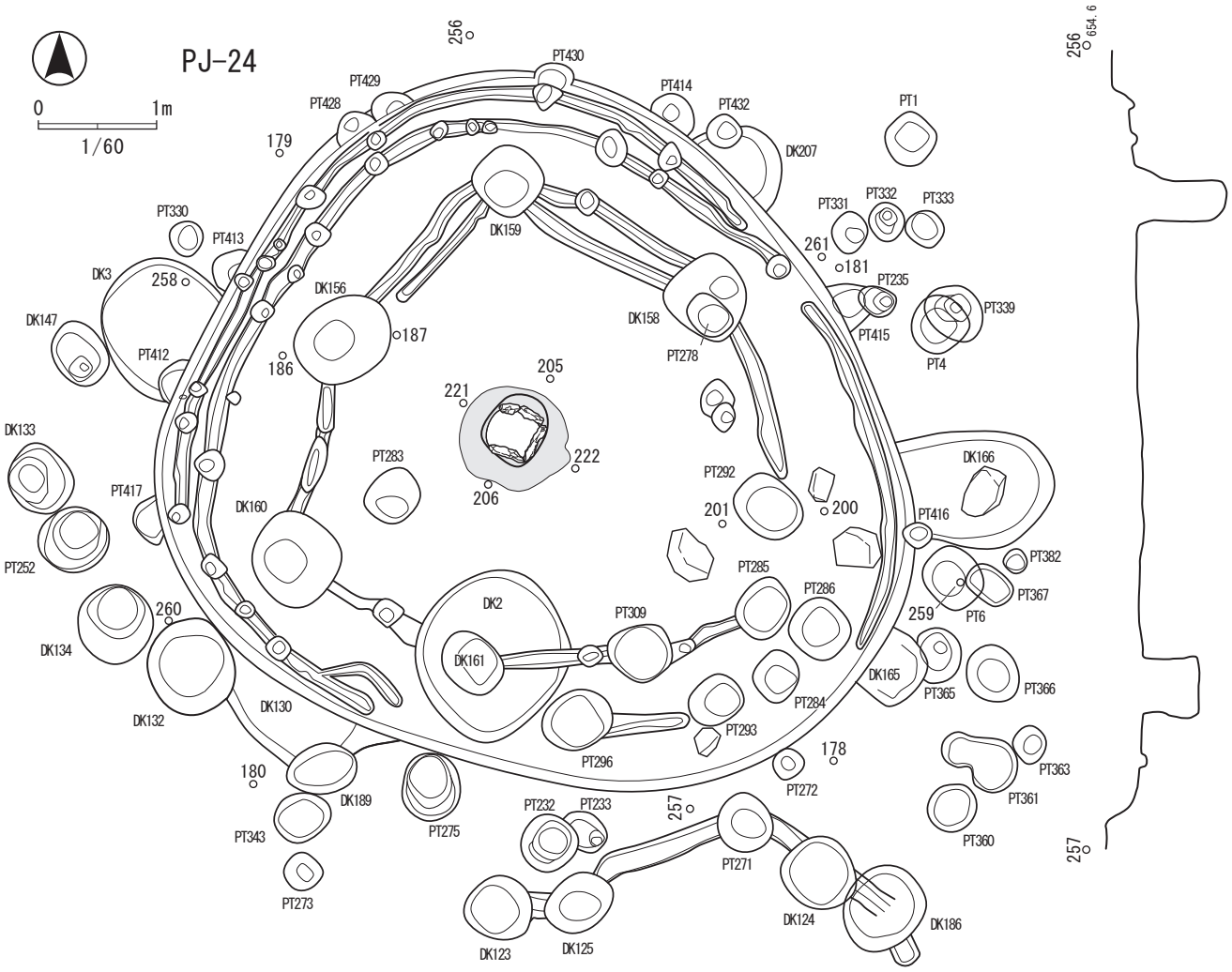
出土した石器は、石鏃 13 点、削器 1 点、素刃削器 1 点、石錐 2 点、両極石器 1 点、打製石斧 4 点、大形粗製石匙 2 点、横刃型石器 3 点、黒曜石の原石と砕片 4 点、剥片 4 点、台石 3 点、多孔石 1 点、磨石類 1 点、磨製石斧 2 点である。そのほか微小な剥片等が 171 点、528.1g 出土した。

出土土器総量の 2/3 は、本住居に先行する時期の所産と考えられることから、出土した石器も 2/3 は前期段階の所産である可能性がある。確実に本住居に帰属する石器は、打製石斧、大形粗製石匙、横刃型石器、台石、多孔石、磨石類、磨製石斧に限られるであろう。

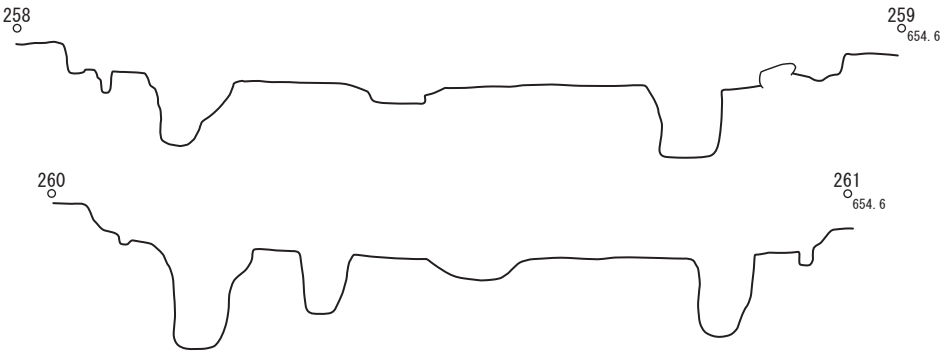
時　　期：出土した土器が少なく、細分時期を絞り込めない。藤内式前半と位置付けておきたい。柱穴埋土から中越式、諸磯式土器が一定量、出土していることから、本住居の所在する地点には、先行する前期段階の遺構があった可能性が高いと思われる。

PJ24 号住居　土坑ピット一覧表

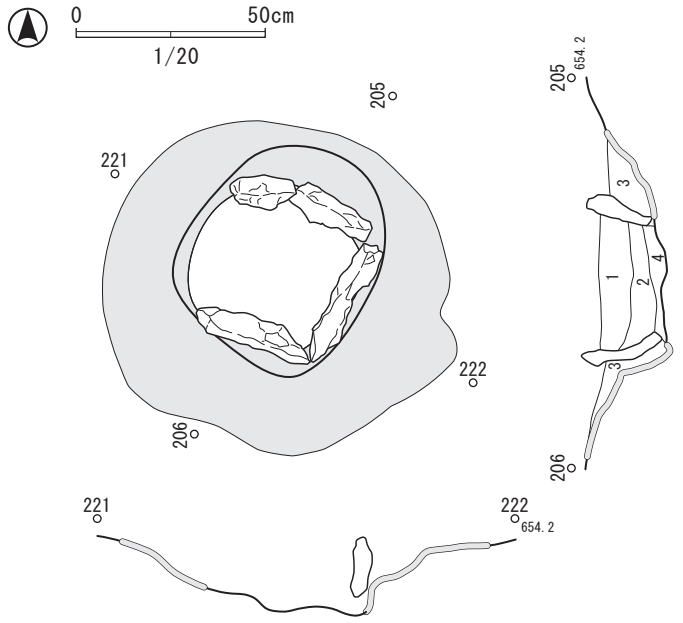
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
DK-156	24 住内	73*76	55	図面	諸磯式土器小片
DK-158	24 住内	29*30	54	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器小片
DK-159	24 住内	52*50	77	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10%、10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	遺物なし
DK-160	24 住内	79*75	80	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 20%、10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式、諸磯式土器小片
DK-161	24 住内	50*42	68	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器小片
PT-278	24 住内	39*32		10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ24 柱穴。DK158 と重複する。旧柱穴と思われる。
PT-292	24 住内	49*48	58	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ24 柱穴。諸磯式土器小片、中期中葉の小形深鉢出土。
PT-309	24 住内	50*47	47	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	遺物なし



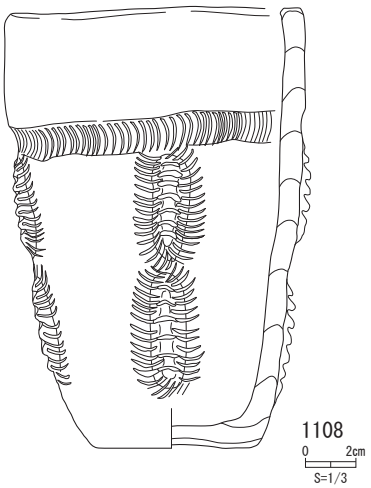
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、炭化物が1%、焼土が1%、花崗岩小礫が3%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が25%、10YR4/4(褐)が10%、炭化物が3%、焼土が2%、花崗岩小礫が5%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が5%、花崗岩小礫が3%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が5%、花崗岩小礫が2%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
5層　10YR2/2(黒褐)　シルト粒土に10YR4/6(褐)砂粒土が30%混じる。固くしまる。
6層　10YR5/6(黄褐)粘質土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が混じる。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR2/3(黒褐)が25%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
壁　10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が15%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
DK-130　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が7%、炭化物が1%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。



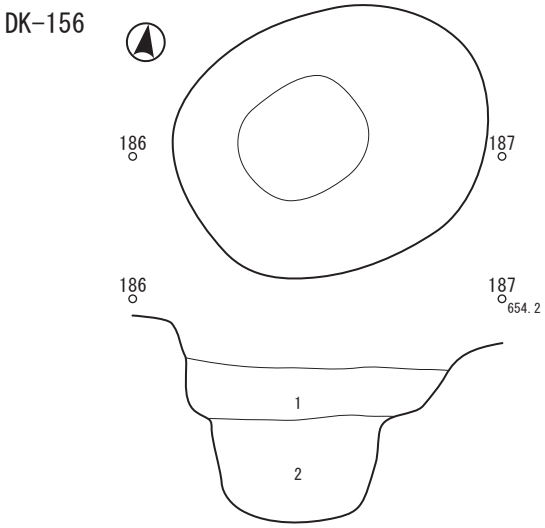
PJ024 号住居



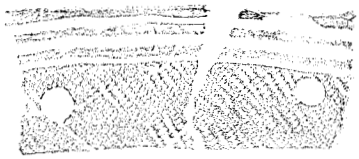
1層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化物7%、焼土1%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
2層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物3%、焼土1%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR3/2(黒褐)15%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化物10%、焼土、5YR4/8(赤褐)が10%混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、10YR3/2(黒褐)が3%、炭化物2%、焼土1%混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が5%混じる、シルト粒土。粘性なし。しまる。



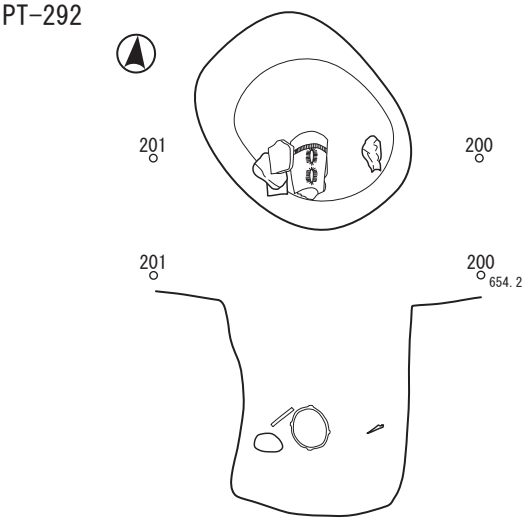
DK-156

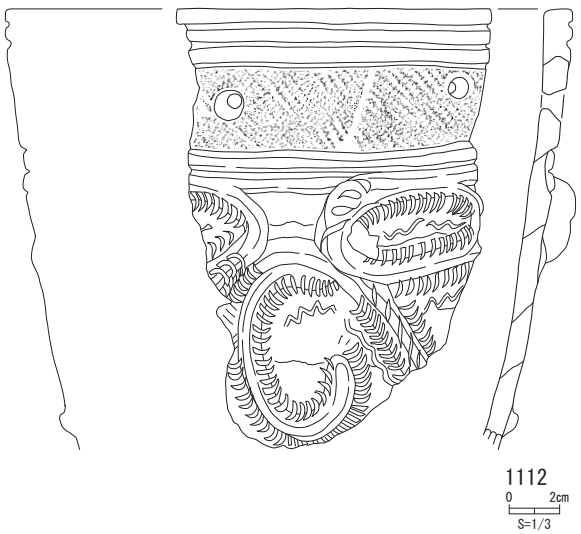


1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/2(黒褐)が5%、炭化物が3%混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/3(にぶい黄褐)が5%混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。
地山　10YR4/4(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が5%混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。

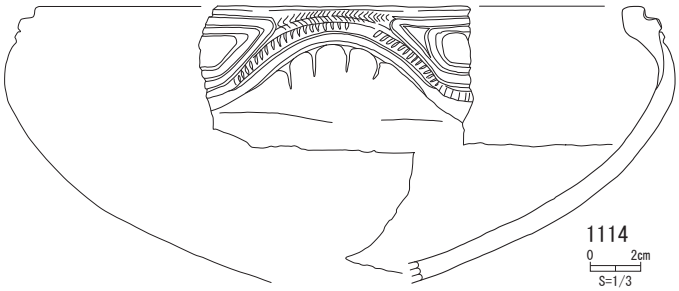


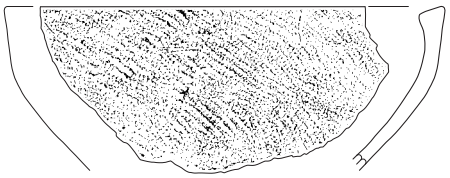
PT-292

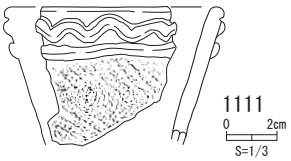


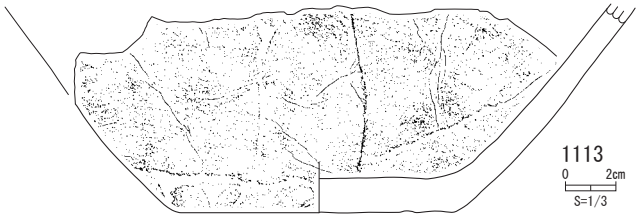


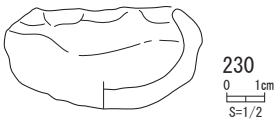
PJ024 号住居・出土遺物

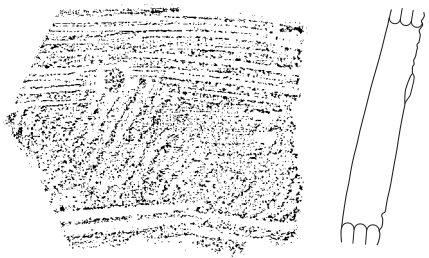


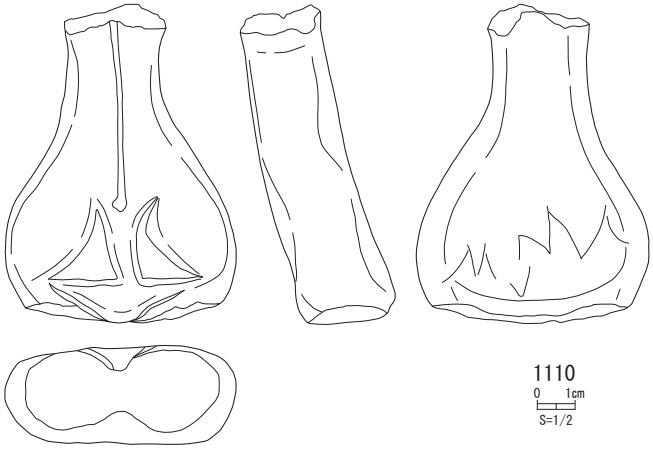


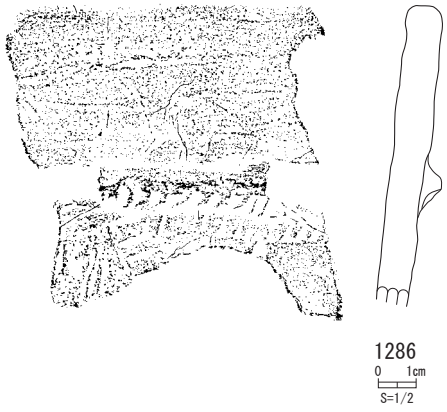




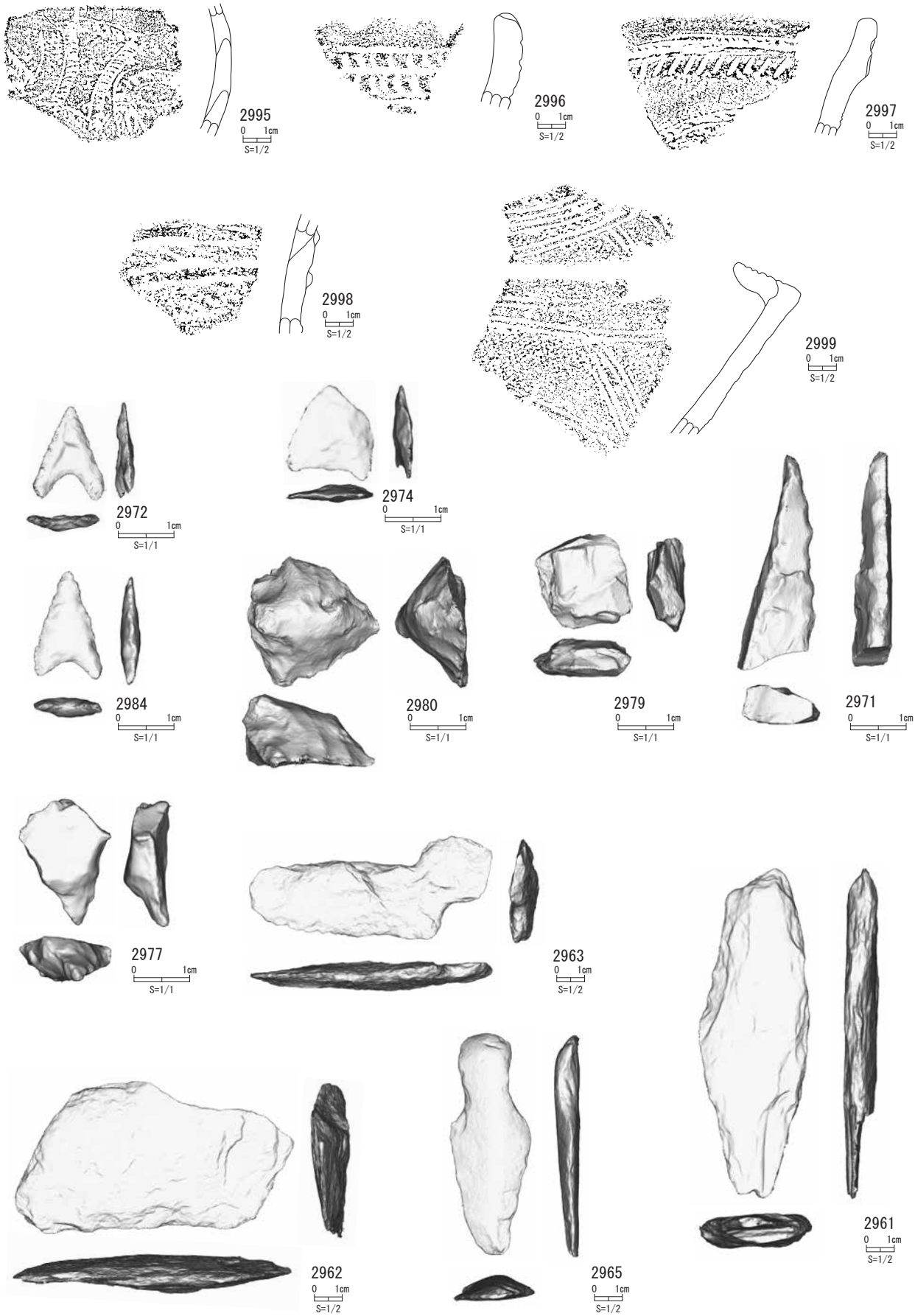




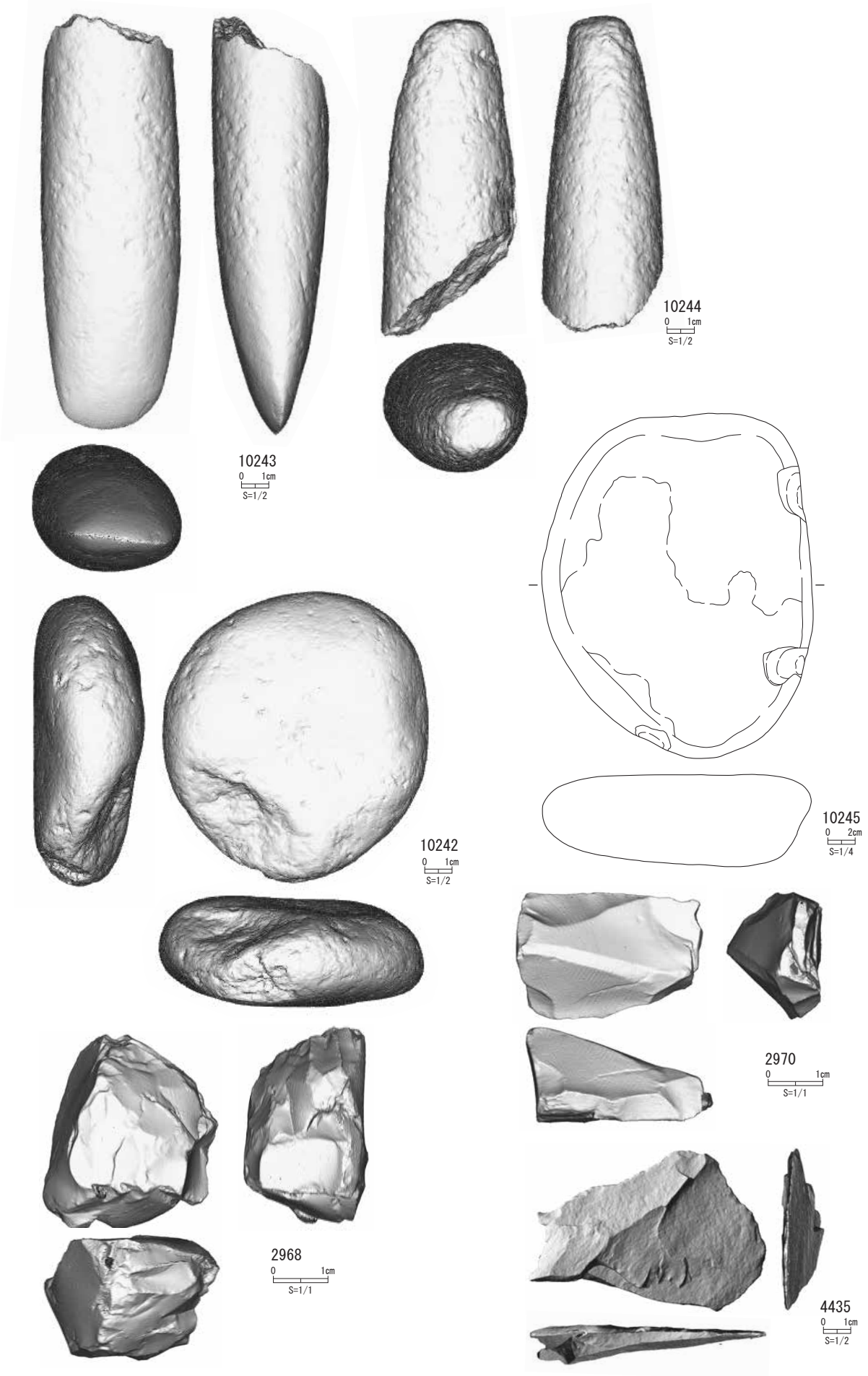




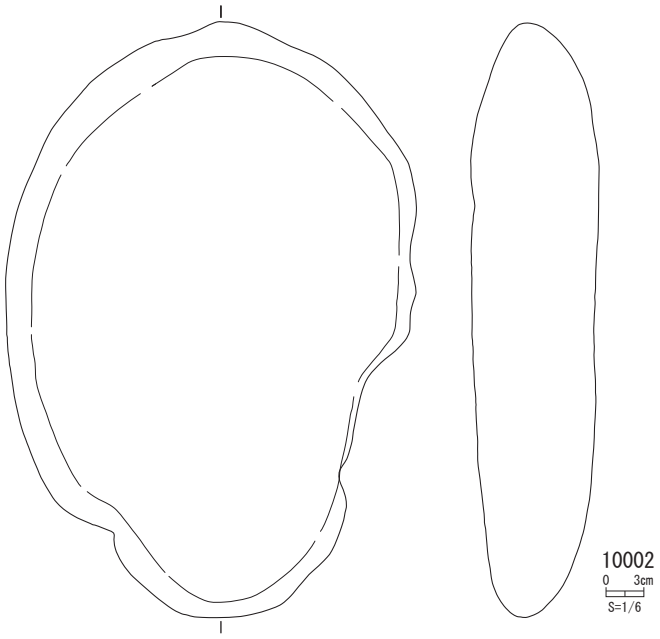
PJ024 号住居出土遺物

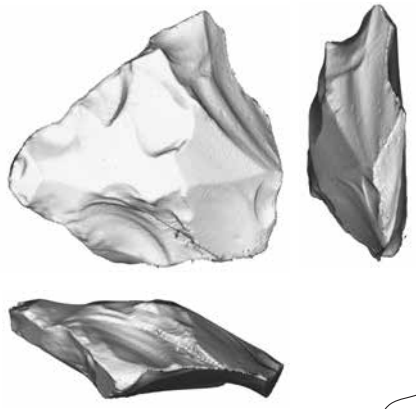


PJ024 号住居出土遺物



PJ024 号住居出土遺物





PJ024 号住居出土遺物

PJ24 号土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
230	PJ-24 20		3.6	2.7		36.0	完形	5YR5/6 5YR5/6	PT292 東、床面から 17 cm浮いて出土
1108	6-010-2012 PT-292 図 3	口縁～底部	11.4	17.5	6.5	807.0	ほぼ完形	7.5YR4/2 5YR4/4	PT292 出土。藤内式土器小片、諸磯式土器小片とともに出土
1109	6-010-2012 PJ-24 53、DK-158 一括	口縁～胴部	(17.3)			95.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	DK158 上面、床面から 12 cm浮いた破片と、DK158 埋土で出土した破片とが接合した。
1110	6-010-2012 PJ-24 28	土偶胴部	8.5	6.2	3.7	116.0	1/2	7.5YR6/4	PT292 北、床面から 10 cm浮いて出土。脚部の割れ面の一部は、平滑に研磨されており、脚部が割れた後にも使用されていた可能性がうかがえる。土偶背面、臀部付近には傷なのか文様なのか判別できない鋸歯状の細く浅い模様がみえる。
1111	6-010-2012 PJ-24 18	口縁～胴部	(8.2)			29.0	破片	5YR4/3 2.5YR5/4	PT285 上面、床面から 25 cm浮いて出土した小形の深鉢
1112	6-010-2012 PJ-24 29	口縁～胴部	(22.4)			307.0	破片	7.5YR5/4 5YR4/4	PT292 北、床面から 10 cm浮いて出土。補修孔の片側は外側から穿孔、のこる補修孔は内外面から穿孔されている。
1113	6-010-2012 PJ-24 29、PJ-24 15	胴部～底部			11.2	832.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	PT292 周辺、床面から 10 cm浮いて出土。
1114	6-010-2012 PJ-24 44	口縁部	(24.0)			208.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR7/4	住居北西角、床面から 34 cm浮いて出土
1285	6-010-2012 PT-292 図 4	胴部				78.0	破片	5YR5/6 7.5YR4/3	PT292 出土。諸磯ｂ式。接合面とみられる割れ面に人工的な傷が並んでいる。接合時に有機質物質を接合材として使用したか？
1286	6-010-2012 PT-292 図 1	胴部				94.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	PT292 出土。藤内式土器
2995	6-010-2012 DK-118 2	胴部				29.0	破片	5YR4/4 5YR4/4	DK118 出土。諸磯式土器
2996	6-010-2012 DK-129	口縁部				18.0	破片	5YR5/6 5YR3/2	DK129 出土。諸磯式土器
2997	6-010-2012 PT-275 1	口縁部				32.0	破片	5YR4/4 5YR4/6	PT275 出土。諸磯式土器
2998	6-010-2012 DK-121	胴部				22.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR5/6	DK121 出土。諸磯式土器
2999	6-010-2012 PT-230 1	口縁部				58.0	破片	5YR4/6 5YR3/4	PT230 出土。諸磯式土器

PJ024 号　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
2959	PJ-24　24	打製石斧	黄色風化泥岩	1/2	69.0	44.0	12.0	56.40	2966によく似た石材。同一個体の可能性あり。床面から22cm浮いて出土。
2960	PJ-24　47	横刃型石器	砂岩	1/1	61.0	83.0	10.0	48.10	床面から 22 cm浮いて出土。素材は河原の円礫剥片。
2961	PJ-24　27	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	118.0	40.0	11.0	61.70	床面から 10 cm浮いて出土。
2962	PJ-24　42	横刃型石器	黄色風化泥岩	1/1	54.0	101.0	14.0	74.70	床面から 14 cm浮いて出土。
2963	PJ-24　43	大形粗製石匙	頁岩	1/1	38.0	85.0	10.0	27.30	床面から 16 cm浮いて出土。刃部、その他の縁辺に点々と摩滅痕あり
2964	PJ-24　2	削器	頁岩	1/1	49.0	37.0	18.0	25.00	床面から 28 cm浮いて出土。
2965	PJ-24　21	大形粗製石匙	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	79.0	29.0	8.0	18.50	床面から 21 cm浮いて出土。器面は風化し使用痕は観察できない。
2966	PJ-24　9	打製石斧	黄色風化泥岩	－	－	37.0	8.0	22.60	床面から 22 cm浮いて出土。
2967	PJ-24　10	横刃型石器	砂岩	1/1	40.0	68.0	9.0	32.30	床面から 19 cm浮いて出土。
2968	PJ-24	原石	黒曜石					26.40	風化礫面は残らないが、やや風化した面で囲まれている。
2969	PJ-24	砕片	黒曜石	－	36.0	34.0	14.0	10.70	一部に礫面が残る
2970	PJ-24	原石	黒曜石					12.10	角礫ズリ
2971	PJ-24	石錐	黒曜石	1/1	39.0	12.0	7.0	2.80	錐部先端に使用痕が認められず、未成品と思われる。
2972	PJ-24　37	石鏃	チャート	1/1	17.1	13.1	2.8	0.38	光沢のない赤色チャート。床面から 33 cm浮いて出土。
2973	PJ-24	石鏃	黒曜石	1/1	22.5	14.1	4.5	0.98	石鏃未成品
2974	PJ-24	石鏃	黒曜石	3/4	－	15.7	3.2	(0.58)	漆黒の黒耀石を素材とした石鏃

PJ024 号　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2975	PJ-24	石鏃	黒曜石	3/4	(22.1)	−	4.5	(0.92)	脚部が折損し、先端は無傷
2976	PJ-24	石鏃	黒曜石	1/1	18.1	19.2	5.2	1.63	埋土出土。未成品
2977	PJ-24	石錐	黒曜石	1/1	23.0	16.0	7.0	2.10	埋土出土
2978	PJ-24	石鏃	黒曜石	1/1	11.8	13.3	2.3	0.44	埋土出土。漆黒の黒耀石を素材とする。未成品か
2979	PJ-24	両極石器	黒曜石	1/1	16.0	16.0	6.0	2.00	埋土出土。赤茶色の斑入り黒耀石
2980	PJ-24	石鏃	黒曜石	1/1	24.4	23.1	12.3	4.23	埋土出土。未成品。
2981	PJ-24	石鏃	黒曜石	1/2	17.0	10.0	3.0	0.60	埋土出土。側縁に抉り？
2982	PJ-24	石鏃	黒曜石	3/4	(11.9)	12.9	2.1	(0.22)	埋土出土。漆黒の黒耀石を素材とする。
2983	PJ-24	石鏃	黒曜石	3/4	20.4	−	4.0	(0.69)	埋土出土。透明な黒耀石を素材とする。
2984	PJ-24　46	石鏃	黒曜石	1/1	19.7	12.3	3.5	0.57	床面から 29 cm浮いて出土。透明な黒耀石を素材とする。
3935	DK-156	剥離のある剥片	頁岩	1/1	65.0	26.0	6.0	9.60	PJ24 柱穴 DK156 出土。
3938	DK-160	石鏃	黒曜石	3/4	(19.4)	−	3.4	(0.61)	PJ24 柱穴 DK160 出土
4433	PT-292	剥片	黒曜石	1/1	44.0	35.0	5.0	8.40	PJ24 柱穴 PT292 出土。
4434	PT-292	原石	黒曜石		41.0	22.0	11.0	10.00	PJ24 柱穴 PT292 出土。調整剥離あり
4435	PT-292 図 2	素刃削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	82.0	65.0	11.0	40.70	PJ24 柱穴 PT292 出土。
7050	IG-1580	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	77.0	42.0	11.0	54.80	床面から 50 cm浮いて出土。刃部欠損。基部から側縁に礫面。礫面は亜円礫
7053	IG-1594	石鏃	黒曜石	1/1	18.6	13.5	4.8	1.06	床面から 45 cm浮いて出土。未成品
7054	IG-1826	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				6.40	床面から 44 cm浮いて出土。折れ面に微小剥離があるため、残存度 1/1。折れた剝片素材。すりガラス状の礫面が残る。
8152	PJ-24	剥離のある剥片	黒曜石	1/2	15.8	14.5	4.1	0.82	埋土出土。漆黒の黒耀石を素材とする。角礫面あり。石鏃未成品か。

PJ024 号　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察事項
10242	PJ ― 24　54	磨石類	花崗岩類	完形	10.5	9.7	4.0	563	PT309 東、床面で出土。磨石作業面となっている礫面に凹凸部分が大きいが、縦断・横断ともに直線的な平坦面が広い作業面。長軸両端部に長軸に直交する作業面。一端は敲打による平坦面と敲打で生じた剝離痕（調査中のものか？）、他端は敲きによる磨耗面と点状敲打痕。磨耗面は平坦面をなさず縦断・横断ともに曲面。石質が緻密で硬いため。
10243	PJ-24　11	磨製石斧	緑色凝灰岩	1/2	(15.5)	5.1	4.3	529	PT296 上面、床面から 9 cm浮いて出土。刃部以外は敲打整形と弱い研磨整形。刃部右側が磨耗し、刃線が傾いている。刃先も磨耗している。刃部先端から 4.2cm 胴部奥まで磨耗して石材の緑色の発色が強い。基端側が欠損。上面から下面への折れ。
10244	PJ-24　38	磨製石斧	輝緑凝灰岩	1/2	(11.3)	(4.7)	(4.0)	302	床面から 21 cm浮いて出土。基部破片。PJ-43 出土の刃部側破片 10236 と接合。基端に平坦面。敲きによる磨耗した面。磨耗度は強い。敲打整形後、敲打痕が残る程度に研磨整形。被熱後に斧身中央に衝撃が加わり、折損したか。
10245	PJ-24　57	台石	安山岩類	完形	25.1	21.0	6.9	5,000	PJ24 南壁沿い、床面から 19 cm浮いて出土。作業面は平坦、擦り作業による磨耗痕が礫平坦面中心部の広い範囲に残る。磨耗度は弱い。作業面に皿状敲打痕が少数残る。作業面の一部と底面の一部が黒色変化。側縁部が赤色変化。底面も磨耗するが、磨耗痕は研磨によるものではない。作業に伴い生じたか、または調査中に生じたもの。底面に線状・皿状敲打痕がまばらに残る。
10002	PJ-24 55	台石	安山岩類	完形	47.2	32.7	11.3	21,800	PT292 と PT309 の中間、床面で出土。扁平円礫で、平坦面は弱く摩滅している。
10003	PJ-24 56	台石	花崗岩類	完形	40.6	33.2	13.0	25,200	PT292 と南壁の間、床面で出土。花崗岩の亜円礫で平坦面があるが、器面全体が風化し、使用痕は不明。
10004	PJ-24	多孔石	安山岩類	完形	36.1	43.3	33.3	35,000	PJ24 埋土出土。35kg の自然礫の一稜線に 30 ヶ所ほどの穿孔あり。

PJ025 号住居

位　　置：H-2 グリッドに位置する。

規　　模：調査区の北東角にあたり、規模は不明である。竪穴は深さ 60 ㎝が残る。

埋　　土：縄文時代中期中葉以降、平安時代以前に発生した水性堆積の黄褐色砂層に下位で検出され、2 層から 4 層の黒褐色土層に分層される。2 層、3 層中に中期中葉の遺物を多く含み、自然堆積により埋積した遺構と判断された。

床　　面：黄褐色粘質土の地山を床面としている。硬化面は検出されなかった。

**炉　　**：調査範囲内では検出されなかった。

周　　溝：東壁沿いに小穴を伴う小溝を検出した。

柱　　穴：319 号ピットが柱穴と思われる。174 号土坑は位置、形状から本住居の貯蔵穴と思われるが、本住居床面と思われる薄い黄褐色土層が埋土上面に認められたことから、本住居に先行する別遺構もしくは古い貯蔵穴の可能性がある。

出土遺物：主に埋土中から、投棄されたような状態で土器が出土した。これらの土器は調査区外につづく埋土中にも多数が包含されている。1003 は床面直上で出土した小ぶりの深鉢で、板状粘土を貼り付けて造作したサンショウウオ文が施文される。胴部には橋状把手が貼付される。胴部上位には、大柄な三叉文と玉抱三叉文がみられる。1001 は口縁部に 4 単位の円形突起をつけ、胴部には重三角文と、抽象化されたサンショウウオ文のような文様が施文される。これらに沿って三角押文が施文される。

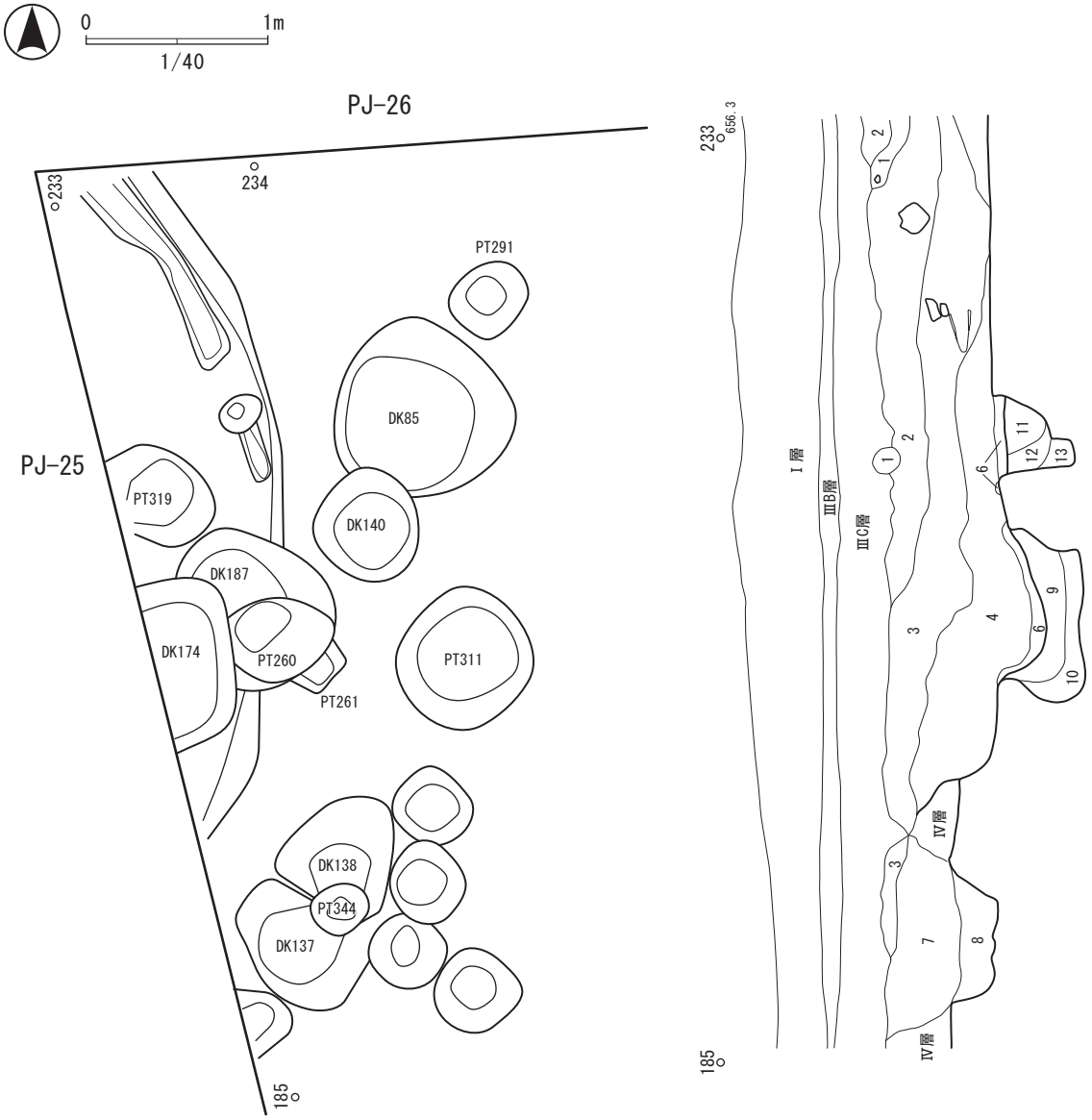
本住居で出土した土器の総重量は 21,776g で、諸磯式土器 1,653g を含むが、大半は中期前葉の新道式から中期中葉の藤内式 1 段階にかけての破片である。

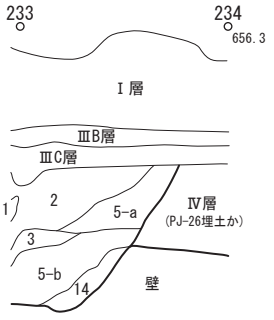
石器も大半が埋土から出土している。内訳は打製石斧 4 点、ハンマー 2 点、礫器 1 点、剥片 1 点、磨石類 3 点、礫器 1 点、礫 1 点である。このほか微小な剥片類が 65 点、634.9g 出土した。

時　　期：出土した土器は新道式 2 段階もしくは藤内式 1 段階に位置付けられると思われる。これらの土器は本住居が廃棄、埋没してから投棄されているため、土器の年代観よりも、やや先行する遺構と思われる。

PJ025 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
DK-174	25 住内	90*30	45	暗褐色砂質土に黄褐色砂質土が 20% 混じる。	PT-260 と DK187 を切る。中期土器小片、諸磯式土器小片
PT-319	17 住 北東 1.0m	59	52	暗褐色砂質土と黄褐色砂質土が交互に堆積する	中期土器小片、諸磯式土器小片





1層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、10YR4/2(灰黄褐)が2%混じる、砂粒土。粘性ややあり。しまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が2%、炭化物2%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR4/4(褐)が3%、炭化物5%、土器、石、多数(PJ-17の家財道具捨てたのか)シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が2%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
5-a層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が8%、炭化物2%、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
5-b層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR4/6(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%炭化物2%、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

(DK-137)
7層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR4/6(褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が2%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
8層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が10%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

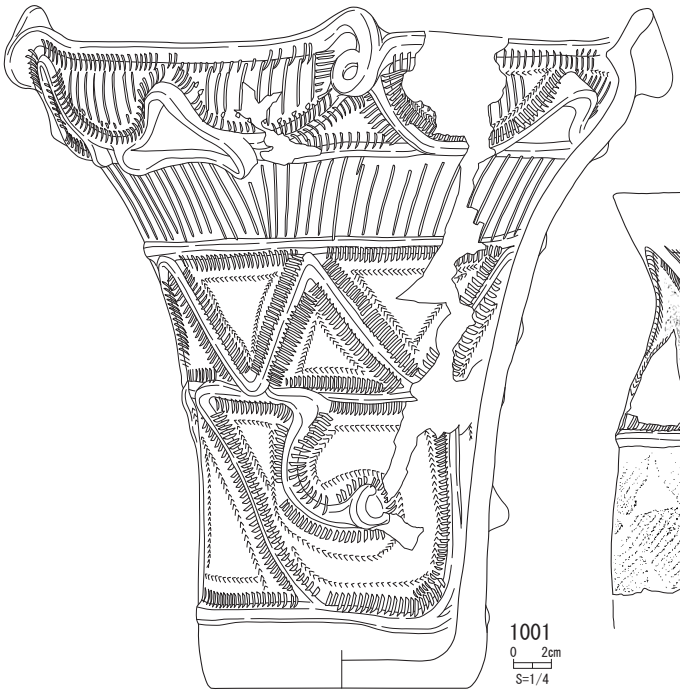
(DK-174)
9層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が20%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
10層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が5%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

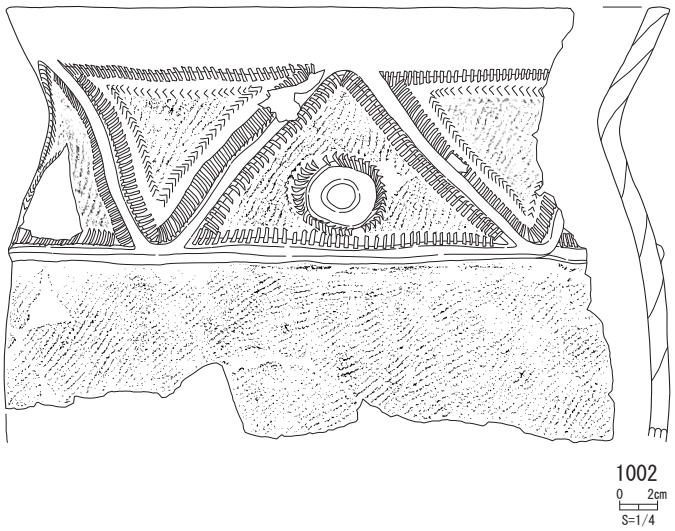
(PT-319)
11層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物1%以下、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
12層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が20%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
13層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

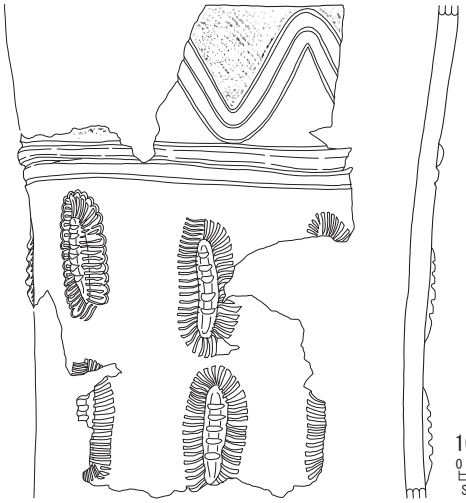
14層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、10YR2/3(黒褐)が2%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
床面　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、10YR2/3(黒褐)が5%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
壁　10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が20%混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

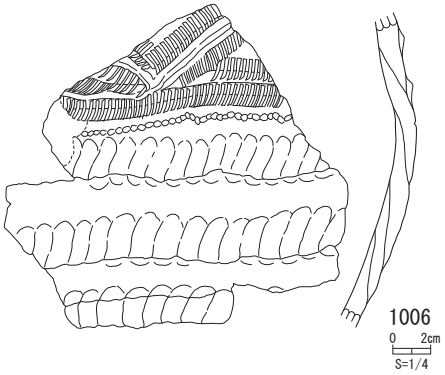
6層　PJ-25床面

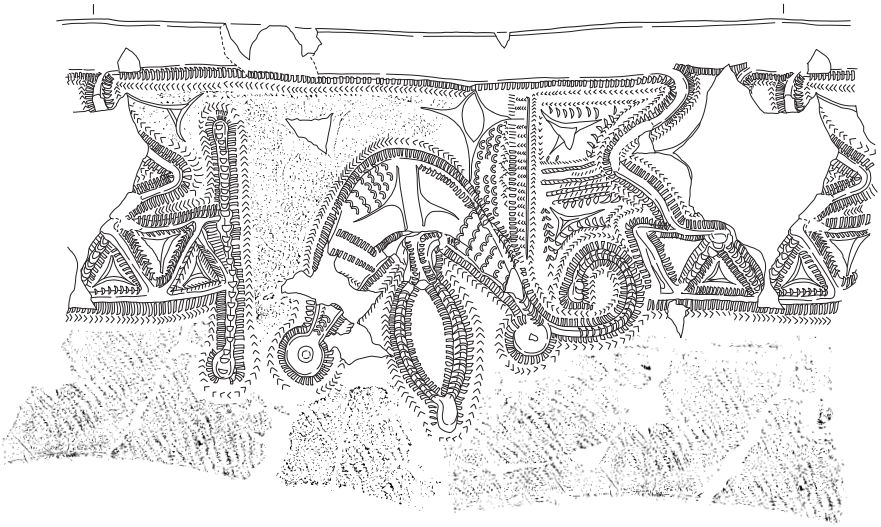
PJ025 号住居

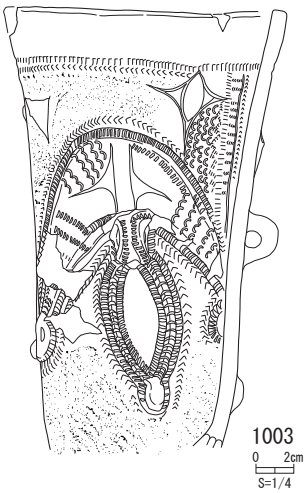




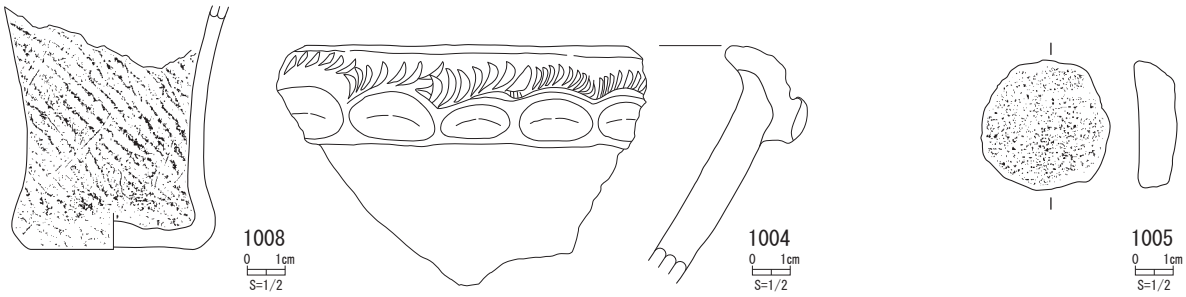


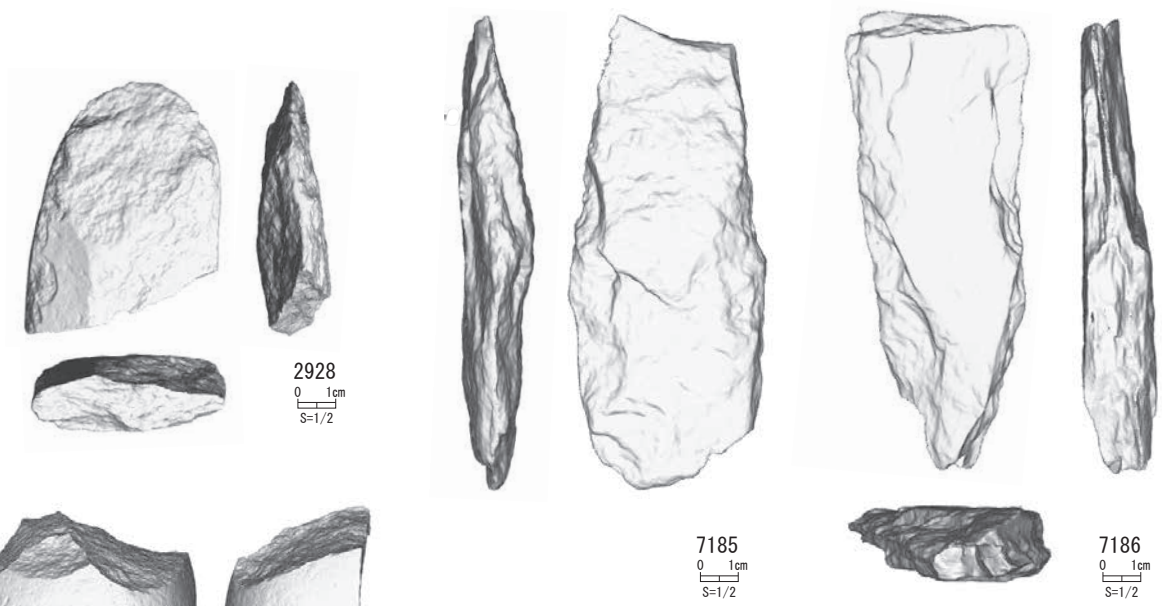


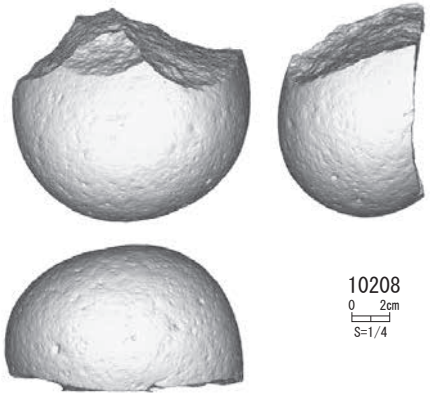


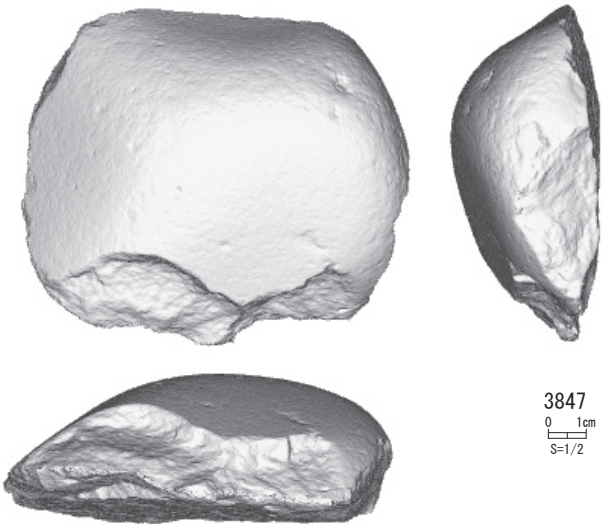


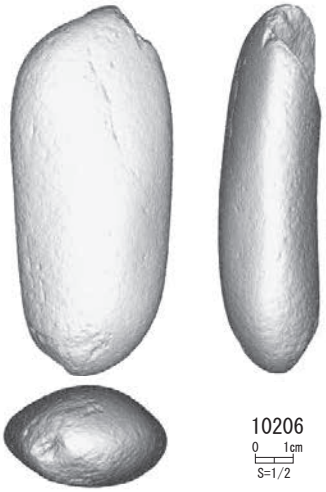
PJ025 号住居出土遺物











PJ025 号住居出土遺物

PJ025 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (6-010-2012)	部位	口径 / 縦 (cm)	器高 / 横 (cm)	底径 / 厚さ (cm)	重量 (g)	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1001	PJ-25 8、PJ-25 12	口縁～底部	33.0	36.0	13.6	4,380.0	9/10	内：7.5YR5/4 外：5YR5/6	床面から 7 cm浮いて出土。口縁部の重三角文と胴部の抽象文様化したサンショウウオ文に沿って、三角押文を施文。
1002	PJ-25 1、PJ-25 4、PJ-25 一括、IG-1730、IG-1878、H-2-9	口縁～胴部	(35.0)			1,870.0	破片	内：7.5YR6/4 外：7.5YR5/3	床面から 25 cm～ 36 cm浮いて出土。頸部の重三角文に沿って三角押文を施文
1003	PJ-25 10	口縁～胴部	15.1			1,070.0	4/5	内：7.5YR7/6 外：7.5YR6/6	床面出土。粘土板を貼り付けた縦シマ模様のサンショウウオ文。口縁部、胴部文様に沿って三角押文を施文。胴部上位には三叉文と大きな玉抱三叉文を施文。サンショウウオ文から垂下する楕円文の根元には、橋状把手。
1004	PJ-25 一括	口縁部				109.0	破片	内：7.5YR6/6 外：7.5YR6/4	埋土出土。浅鉢口縁部破片
1005	IG-1741	-	3.5	3.4	1.1	15.0	完形	内：7.5YR6/6 外：7.5YR6/6	床面から 30 cm浮いて出土。
1006	PJ-25 18	胴部				436.0	破片	内：10YR5/3 外：7.5YR5/4	床面から 16 cm浮いて出土。
1007	PJ-25 19、IG-1737、IG-1739	胴部				915.0	破片	内：10YR5/2 外：7.5YR5/4	床面から 14 ～ 32 cm浮いて出土。胴部にタガ状隆帯を 2 条めぐらせ、ワラジ状文を貼付。内面に厚く炭化物が付着。
1008	IG-1731	胴部～底部			4.4	89.0	1/2	内：7.5YR4/3 外：7.5YR4/3	床面から 33 ～ 39 cm浮いて出土。

PJ025 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2927	PJ-25	打製石斧	頁岩	1/2		47.0	18.0	95.60	埋土出土。刃部、基部を折損。
2928	PJ-25	打製石斧	緑色岩	-		52.0	18.0	75.80	埋土出土。側縁部に平坦な磨耗痕。一部に礫面が残る。
2929	PJ-25	剥片	石英岩					1.30	埋土出土。調整剥離がみられる。
2930	PJ-25　12	ハンマー	砂岩	1/1	68.0	45.0	17.0	63.50	床面から 6 cm浮いて出土。鋭角な角頂部に敲打痕がみられることから、ハンマーと判断した。
3847	DK-174	礫器	花崗岩	1/1	89.0	103.0	39.0	426.60	DK174 出土。縁辺部に刃部を作り出している
7185	IG-1531	打製石斧	砂泥交互	3/4	125.0	52.0	20.0	148.70	床面から 43 cm浮いて出土。基部折損。
7186	IG-1734	打製石斧	頁岩	3/4	124.0	49.0	19.0	127.00	床面から 41 cm浮いて出土。刃部、基部折損。
10206	PJ-25　17	ハンマー	砂岩類	3/4	99.0	43.0	28.0	161	床面から 9 cm浮いて出土した棒状礫ハンマー。長軸両端に敲打痕と剥離痕、敲打痕集中、および敲き行為による磨耗面。太い端部には軸に直交する敲打痕、側縁部稜上に軸に斜行する敲きによる磨耗面と破損面。細い端部には軸に斜行する面が表面と裏面側に敲打痕の集中面が 2 面、側縁部稜上に伸びる敲き行為による磨耗面 1 面が認められる。細い先端部のハンマー作業面でない面から長軸片方に偏る部分に長軸方向に広がる磨耗面がある。かすかな稜を持ちながら 2 つの緩やかな曲面と端部近くの湾極度が強い面の 3 面に分かれる。
10207	PJ-25　7	稜磨石	花崗岩類	3/4	87.0	(111.0)	133.0	1,368	床面から 30 cm浮いて出土。短い稜を作業面にした珍しい例。稜が交わる先端部 3 ヶ所に敲打痕が集中している。稜を中心といた部分が黒色変化、赤褐色変化し割れている。黒色変化した部分の内部は赤褐色に変色している。稜上の敲打点から大きな剥離が生じ、他の敲打痕からは亀裂が延びている。ハンマーとしての使用のほかに、礫の分割を目的にしたものかもしれない。大きく割れた剥離面の脇に磨石作業面が残る。晶洞を探した？土器混和材？
10208	PJ-25　5	礫器	花崗岩類		114.0	126.0	78.0	1,305	床面から 15 cm浮いて出土。球形の円礫を半割、割れ面を打面に刃部加工。使用痕跡はない。
10209	PJ-25　13	磨石類	安山岩類	2/5				270	床面から 24 cm浮いて出土。磨石作業面 1 面、縦断・横断ともに平坦面が広い。磨石作業面及び反対面に皿状剥離痕がごく少数。長軸端部に軸に直交する敲きによる平坦面。
10210	PJ-25　20	磨石類	安山岩類	1/4				139	床面から 24 cm浮いて出土。磨石作業面 1 面を確認。
10211	PJ-25　3	亜円礫	花崗岩類					243	床面から 26 cm浮いて出土。礫面、割面全面が赤褐色に変色。

PJ026 号住居

位　　置：H-2 グリッドに位置する。PJ25 号住居、PJ18 号住居と周辺を調査している過程で、竪穴が検出されていないものの前期後葉の土器がまとまって出土する地点があることに気づき、削平された住居を想定して本住居を設定した。後述のとおり本住居の想定範囲は広く、多数の土坑とピットが重複しているが、新旧関係は不明である。

規　　模：竪穴が検出されていないため不明である。

埋　　土：竪穴が検出されていないため埋土は観察できなかった。

床　　面：硬くしまった床面は検出されなかった。

**炉　　**：調査区内で検出されなかった。多数の土坑と重複するため失われた可能性もある。

周　　溝：検出されなかった。

柱　　穴：H-2 グリッドには多数の土坑とピットが検出された。それらの形状からみて住居の柱穴とみてよさそうな遺構は、PT261、PT288、PT291、PT310、PT313、PT344、PT352 号ピット、PJ18 号住居と重複する PT318 号ピットなどが挙げられる。これらは直径 6m ほどの円形に並び、深さは 12cm から 39cm とばらつくが比較的浅い点で共通する。これらが柱穴であるなら、住居の平面形は PJ18 号住居と類似する、直径 7m 程度の円形になる。

出土遺物：PJ26 号住居の範囲は確認できなかった。そこで柱穴の可能性があるピットから想定される直径 7m 程度の円形範囲で出土した土器と石器を本住居に帰属する遺物として集計した。また遺構確認面で取り上げた遺物のうち、本住居に帰属しないとみられる土坑、ピットの位置に重なるものは、当該土坑、ピットに帰属するものとして、本住居の集計から除外した。

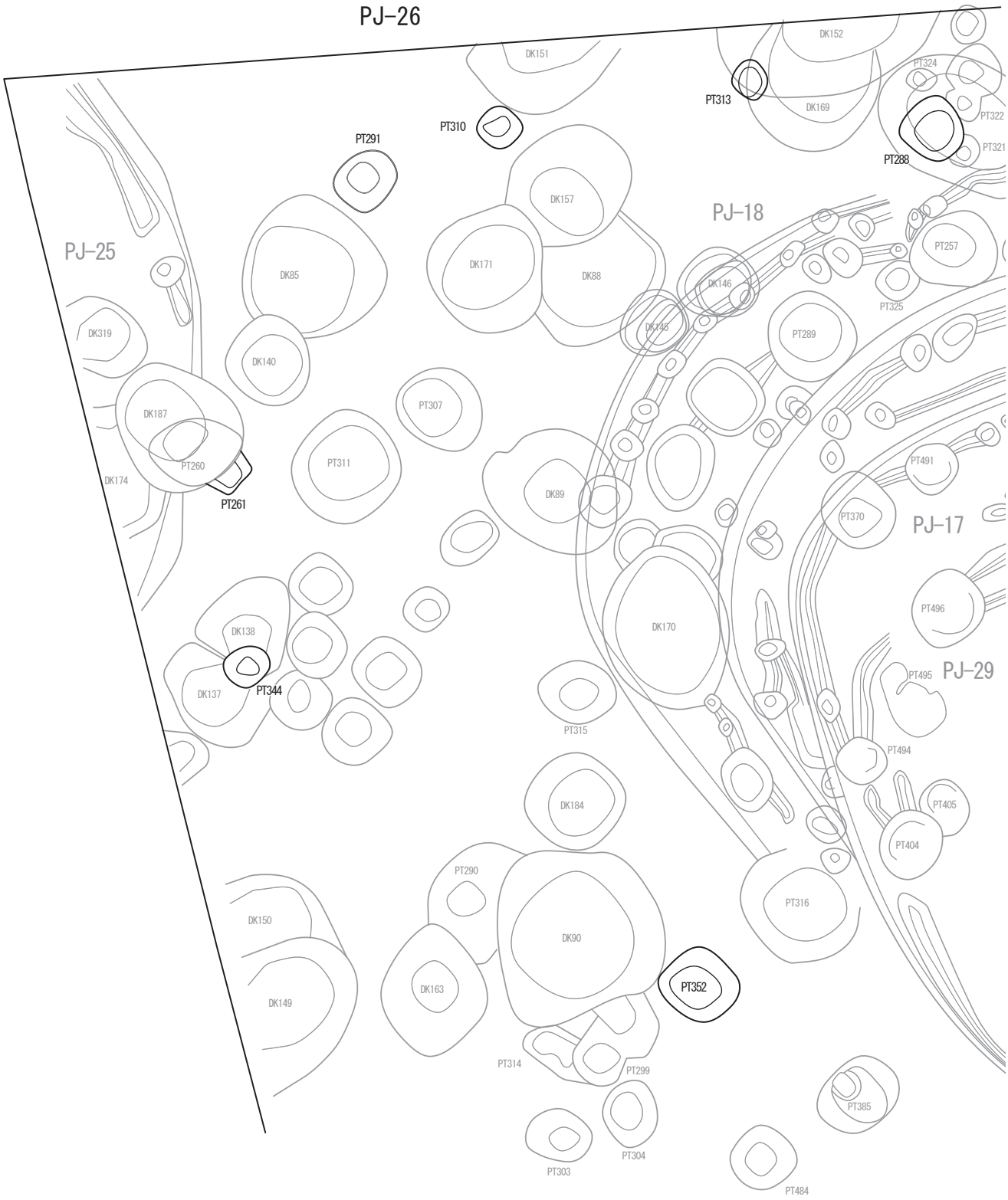
土器は、諸磯 b 式中段階土器の大きな破片が出土したほか、北白川下層Ⅱ b 式に類似する土器破片がみられる。また PJ17 号住居、PJ25 号住居と同時期の中期中葉土器が若干出土している。出土した総量は実測 953g、外 5,695g で、諸磯式土器が 3,237g と多数である。次いで中期中葉の土器破片 1,883g があるが、これは周辺に当該時期の住居 2 軒があり、特に遺構確認面で取り上げた遺物に混入するものが多かったためと思われる。ほかに北白川下層Ⅱ b 式、Ⅱ c 式、中越式、神之木式がわずかに出土した。

石器は、石鏃Ⅱ点、石錐 1 点、打製石斧 3 点、ミニチュア石匙 1 点、ヘラ状石器 1 点、磨石類 3 点、磨製石斧 3 点、黒曜石剥片 24 点 63g、黒曜石原石 1 点、ハンマー 1 点、剥片 27 点 150g が出土した。

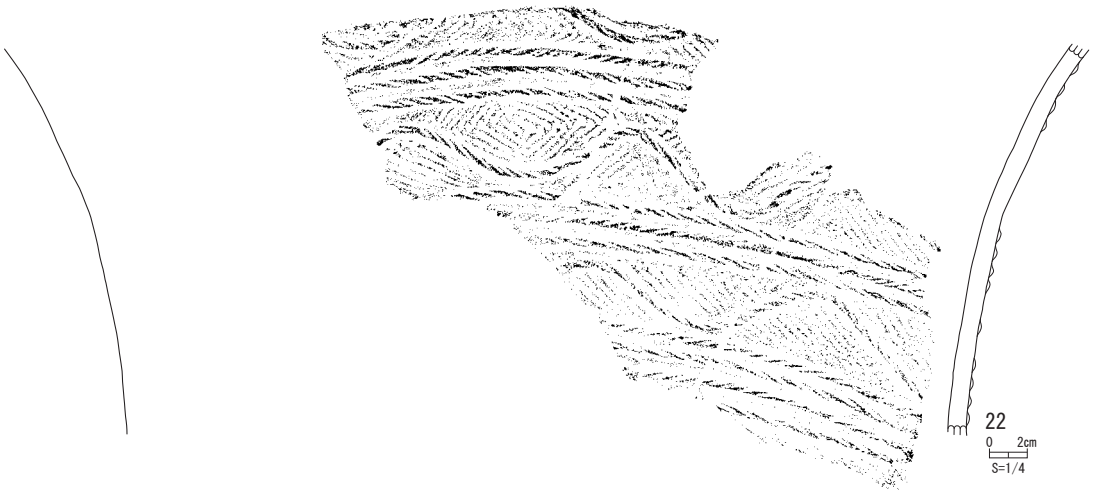
時　　期：住居かどうかを含めて検討の余地があるところだが、明確に判断する根拠は得られなかった。住居であるならば諸磯 b 式中段階の遺構と推測される。直径 7m を超える当該時期の大型住居は北杜市大泉町甲ッ原遺跡などに類例があるが、ごく限られた特殊事例である。

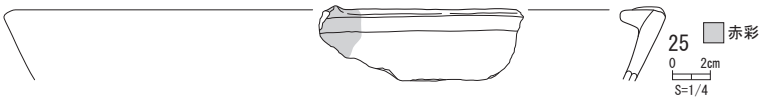
PJ26 号住居土坑ピット一覧表

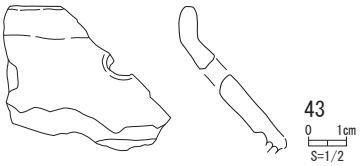
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-261	25 住 東 0.5m	30*22	13	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ26 号住居柱穴か。諸磯 b 式土器を伴う PT260 号ピットと重複
PT-288	18 住 北 0.5m	40*38	30	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ26 号住居柱穴か。諸磯式土器小片
PT-291	26 住内	35*35	39	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ26 号住居柱穴か。出土遺物なし
PT-310	26 住 西 0.5m	30*24	20	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ26 号住居柱穴か。出土遺物なし
PT-313	18 住内	38*33	34	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ18 号住居柱穴の可能性もあり。諸磯式土器小片
PT-344	25 住 南東 1.0m	26*27	12	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ26 号住居柱穴か。DK-138 に切られる。出土遺物なし
PT-352	29 住 西 1.5m	49*51	26	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ26 号住居柱穴か。諸磯式土器小片、磨製石斧破片

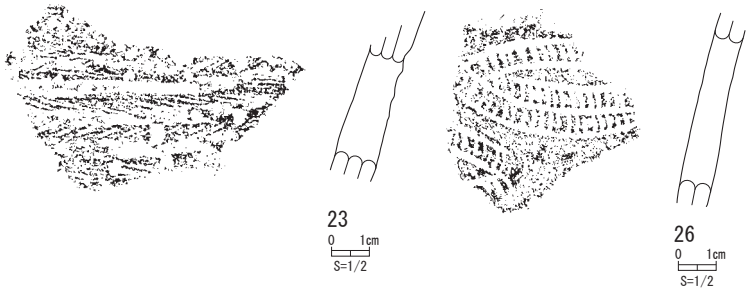

0
1m
1/40
PJ-26
DK151
DK152
PT324
PT313
DK169
PT322
PT310
PT321
PT291
PT288
DK157
PJ-18
PJ-25
PT257
DK171
DK88
DK85
DK146
PT325
DK319
DK148
PT289
DK140
PT307
DK187
PT311
PT260
PT491
DK174
DK89
PT370
PT261
PJ-17
PT496
DK170
DK138
PT495
PJ-29
DK137
PT344
PT315
PT494
DK184
PT405
PT404
PT290
PT316
DK150
DK90
PT352
DK163
DK149
PT314
PT299
PT385
PT304
PT303
PT484

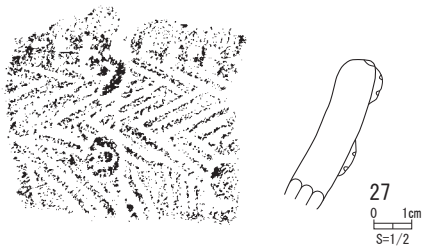
PJ026 号住居

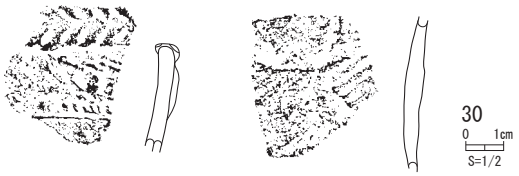


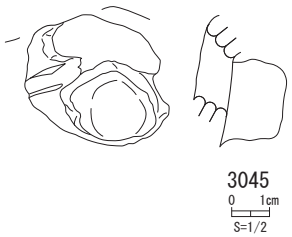


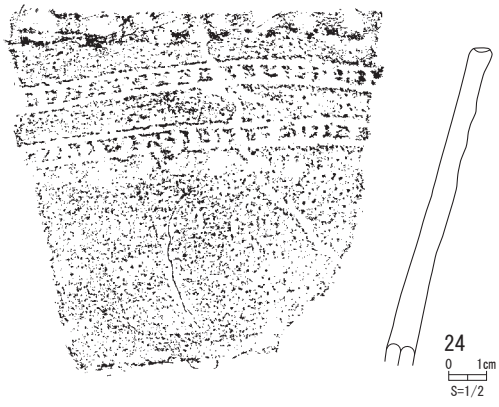


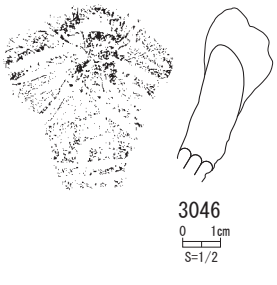




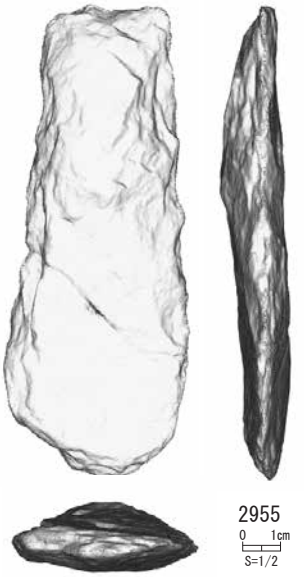


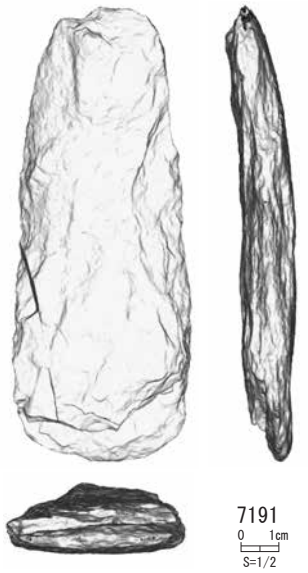


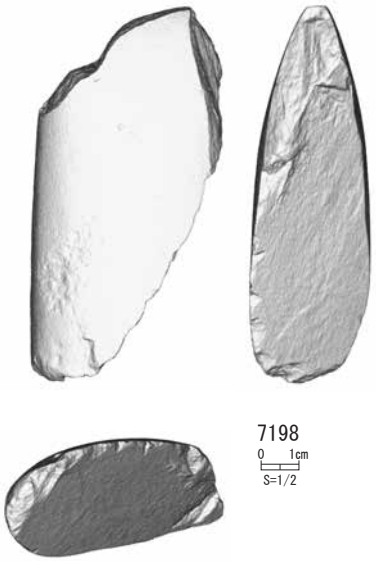


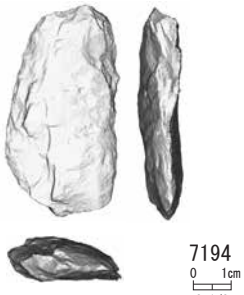


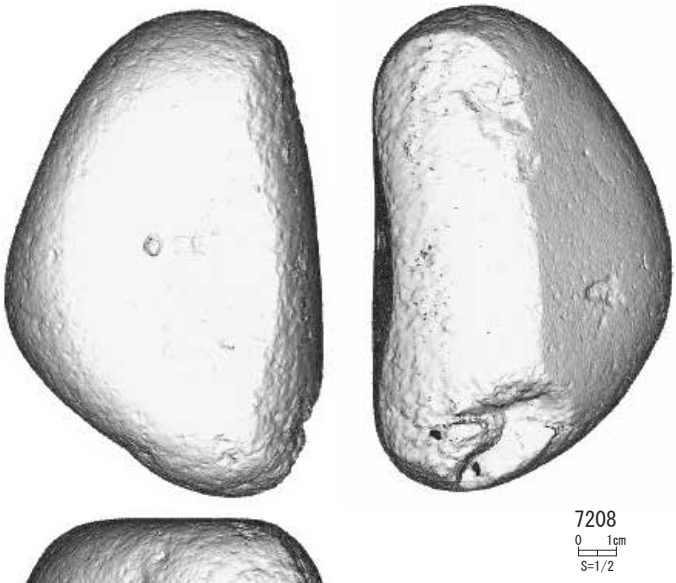
PJ026 号住居出土遺物

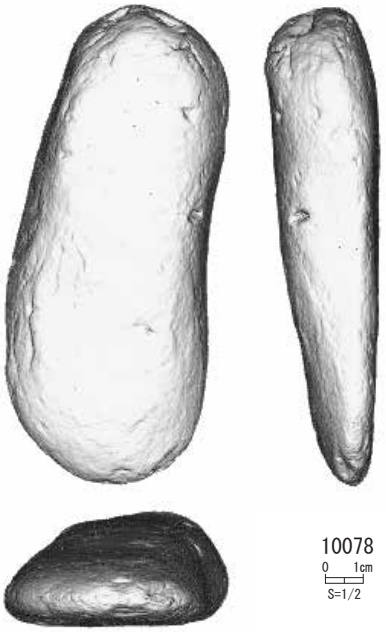












PJ026 号住居出土遺物

PJ026 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
22	PJ-26 床直	胴部	−	−	−	650.0	破片	7.5YR5/6 7.5YR4/4	H-2-10 グリッドの黄褐色砂質地山上で出土。この土器が出土したことからPJ026 号住居を設定した。浮線文と縄文地文の大型深鉢胴部の破片。諸磯ｂ式中段階
23	PJ-26	胴部	−	−	−	38.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR5/8	H-2-10 グリッド出土。幅狭で扁平の結節浮線文。内面ナデミガキ調整。諸磯ｂ式中段階
24	PJ-26	口縁部～胴部	−	−	−	65.0	破片	10YR6/6 7.5YR5/3	H-2-10 グリッド出土。口唇部に指で押さえたような刻み。口縁に半截竹管の爪形押引き文が 2 列。下位にまばらな爪形文がみられるが、意図的な施文かどうか。器壁は薄手で、外面は輪積痕がわずかに残り、内面は指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅱｂ式の文様描出
25	PJ-26	口縁部	(35.0)	−	−	76.0	破片	7.5YR4/2 5YR5/6	H-2-10 グリッド出土。浅鉢口縁部破片。口縁部に短い浮線文。内外面ミガキ調整。外面にかすかな赤彩が残る。諸磯ｂ式中段階
26	PJ-26	胴部	−	−	−	24.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/4	H-2-10 グリッド出土。やや幅広の竹管押引き文で木の葉文様を描出。内面はていねいなミガキ調整。諸磯ｂ式古段階
27	IG-1723	口縁部	−	−	−	37.0	破片	7.5YR5/3 5YR5/4	DK85 号土坑確認面で出土。矢羽状沈線文にボタン状貼付文。諸磯ｃ式古段階
30	DK-85	口縁部	−	−	−	5.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR3/1	DK85 号土坑出土。肥厚する口唇部に刻み。下位に結節浮線文と幅狭の竹管押引文。器壁は薄手で内面はナデミガキ。北白川下層Ⅱｃ式
43	DK-85	口縁部	−	−	−	13.0	破片	10YR4/2 7.5YR4/3	DK85 号土坑出土。浅鉢口縁部。くの字状に屈曲して立ち上がる口唇部の下に孔列。口縁部内面に赤彩あり。諸磯ｃ式古段階
3045	IG-1535	口縁部				23.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	H-2-18 グリッド出土。やや写実性が残る獣面突起。諸磯ｂ式中段階
3046	IG-1188	口縁部				22.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	H-2-20 グリッド出土。痕跡的に残る獣面突起。諸磯ｂ式中段階

PJ026 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
2955	PJ-26	打製石斧	砂泥交互	1/1	125.0	50.0	17.0	118.50	PJ26 号住居一括。細身の撥形打斧。器面が風化し使用痕が不明だが、刃部線端には摩滅痕
2956	PJ-26	原石	黒曜石					6.60	PJ26 号住居一括。風化面で囲まれた原石。縞模様のある透明黒曜石
2957	PJ-26	剥離のある剥片	黒曜石		18.0	25.0	5.0	2.30	PJ26 号住居一括。折損した剥片の 3 辺に調整剥離。やや灰色がかった半透明黒曜石
2958	PJ-26	石鏃	黒曜石	1/1	14.6	14.8	3.1	0.60	PJ26 号住居一括。両脚欠損。両面調整の石鏃。透明な黒曜石
7188	IG-1537	打製石斧	頁岩	−				32.50	H-2-13 グリッド出土。基部、刃部欠損。器面片面に顕著な摩滅痕
7189	IG-1537	打製石斧	砂泥交互	3/4	90.0	59.0	12.0	85.60	H-2-13 グリッド出土。刃部欠損。
7191	IG-1525	打製石斧	砂岩	1/1	121.0	47.0	14.0	111.70	H-2-14 グリッド出土。粗粒砂岩で被熱、変色あり。刃部にやや摩耗あり
7192	IG-1525	石鏃	黒曜石	3/4	(12.0)	14.3	2.8	(0.30)	H-2-14 グリッド出土。先端部欠損。やや長脚の小形石鏃。縞のある透明黒曜石
7193	IG-1721	石錐	黒曜石	1/1	14.7	11.2	4.0	0.56	H-2-15 グリッド出土。石鏃未成品を転用した石錐か。石鏃先端部に使用による微小剥離。まだら模様の半透明黒曜石
7194	IG-1881	ヘラ状石器	安山岩	1/1	57.0	30.0	11.0	22.10	H-2-15 グリッド出土。小型の打製石斧のような形状。両刃の刃部の一部が欠損。やや発砲した黒色ち密な安山岩
7201	IG-2341	石匙	黒曜石	3/4	16.0	23.0	4.0	1.10	H-2-20 グリッド出土。ミニチュア石匙。つまみ部欠損。刃部端の尖った部分を石錐に使用か。縞のある透明黒曜石
7190	IG-1534	磨石類	砂岩	1/2				519	H-2-14 グリッド出土。花崗岩質砂岩の円礫の両面が平坦に摩耗。
7198	IG-1382	磨製石斧	緑色岩	−	(99.0)	(49.0)	(20.0)	171	H-2-19 グリッド出土。節理面で真っ二つに折損した磨製石斧破損をハンマーに転用。磨製石斧器面に黒色の変色部あり
7200	IG-1716	磨石類	安山岩類	1/4				346	H-2-20 グリッド出土。楕円形、扁平な磨石
7207	IG-1713	磨製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	−				70	H-2-25 グリッド出土。器面は非常に平滑で、在地石材を用いた磨製石斧の破片と思われる。
7208	IG-1598	磨石類	花崗岩類	1/1	81.0	126.0	81.0	1023	H-2-25 グリッド出土。いびつな花崗岩円礫の側面を稜磨石として使用。長軸両端に敲打痕。
10078	PJ-26	ハンマー	頁岩類	1/1	124.0	56.0	30.0	281	PJ26 号住居一括。偏平長方形の棒状礫素材。長軸両端に敲打痕。白筋のある青灰色頁岩
11156	PT-352	磨製石斧	緑色岩	1/6	(70.0)	(48.0)	(31.0)	125	H-2-17 グリッド出土。形状、仕上げ研磨は中期的。基部のみの破片

PJ027 号住居

位　　置：G-3 グリッドに位置する。調査区を東西に横切る埋没谷地形の北端から黄褐色砂質地山が確認される尾根地形との境界に位置する。

規　　模：東西長 5.4m のやや不整形な円形で、竪穴は深さ 10 ㎝を残すのみである。

埋　　土：本住居が位置する地点は、旧谷地形が埋まった黒褐色地山で、遺構埋土は地山よりもやや明るい黒褐色土であった。

床　　面：黒褐色土の地山を床面とし、硬化面は確認されなかった。

**炉　　**：住居中央で炉石と焼土を検出した。炉は、扁平板状の花崗岩 4 点と砂岩 1 点、亜円礫の花崗岩 1 点が、長方形に並んで炉石を構成し、炉の外側は強く被熱焼土化し、硬化している。炉底面は被熱焼土化していたが、その程度は炉外側よりも弱い。炉埋土は焼土と黒褐色土が混じりあっていた。小口方向に垂直に立ててあった炉石を外したところ、炉石下面も焼土化していた。南辺の炉石下は特に強く焼土化していて、炉の使用により焼土が炉石下まで生成したというよりも、炉石を移動したのではと思わせる状況であった。柱穴の組み合わせから、本住居の建て替えが想定され、炉も作り直されたと推測される。

周　　溝：検出されなかった。

柱　　穴：黒褐色地山で、住居埋土と同じくやや明るい黒褐色の柱穴を検出した。柱穴は新旧 2 組が検出された。新しい柱穴は、176 号、178 号、192 号、204-B 号、185 号、181 号土坑の 6 基と思われる。この新しい柱穴群に 182 号土坑が貯蔵穴として付属すると思われる。旧い柱穴は、317 号ピット、177 号、192 号、204 号、185 号、180 号土坑の 6 基と思われる。この古い柱穴群に 183 号土坑が貯蔵穴として付属すると思われる。180 号土坑は 181 号土坑より古く、183 号土坑は 182 号土坑より古い。200 号土坑も貯蔵穴と思われるが、新旧いずれに伴うか判断できない。

出土遺物：住居竪穴の保存状態が不良のため出土遺物は少ない。土器は埋土から 1107 が出土している。217 と 1103 は貯蔵穴と判断した 183 号土坑出土である。1107 と 1103 は同一個体の破片であるが、接合しない。出土した土器の総量は 5,742g で、木島式、中越式、諸磯式など前期土器破片が総重量のうち 3,666g を占める。

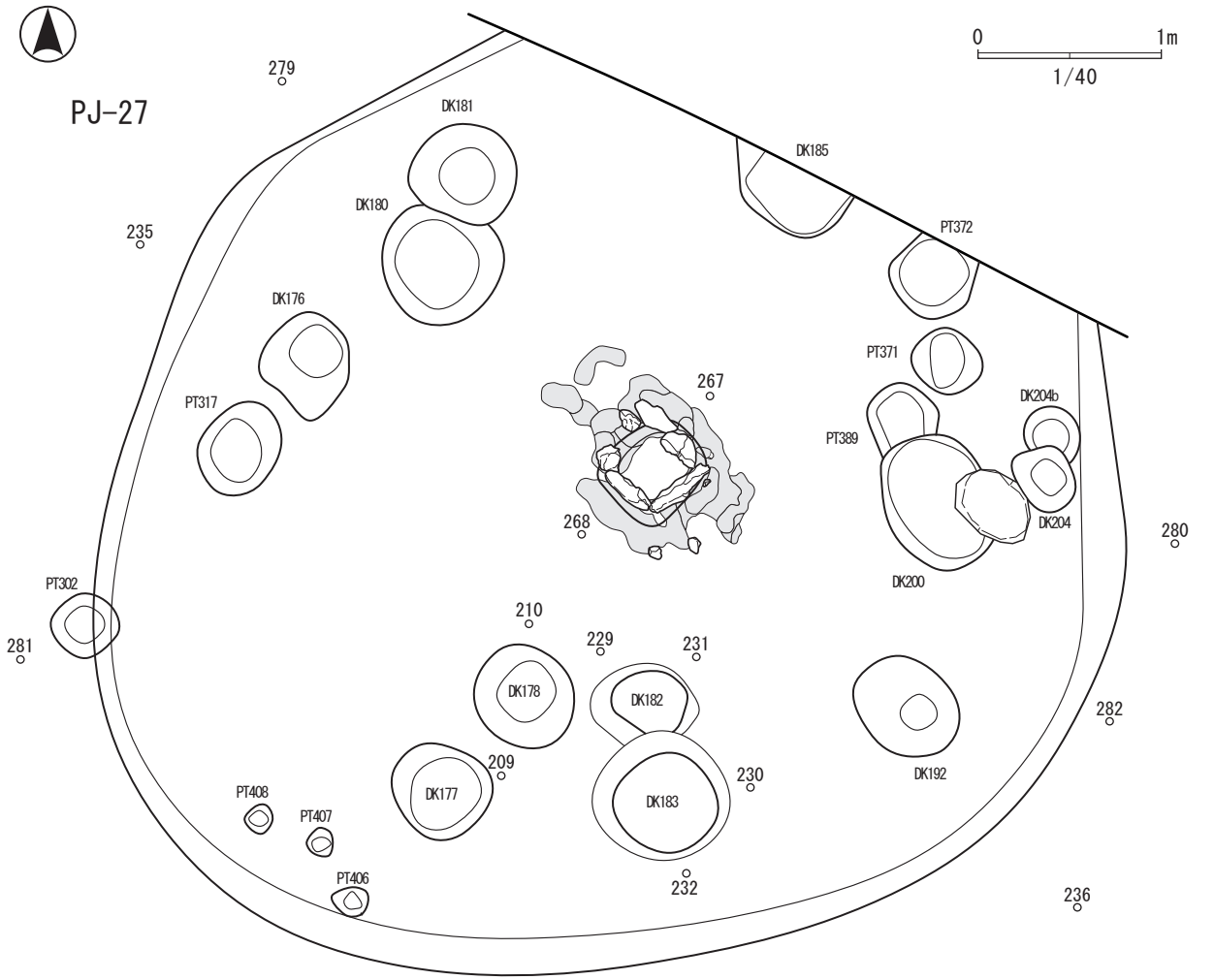
出土した石器の内訳は、打製石斧 15 点、横刃型石器 5 点、大形粗製石匙 1 点、石鏃 3 点、両極石器 1 点、黒曜石原石・石核 7 点、黒曜石剥片・砕片 2 点、台石 1 点、石皿 1 点、磨石類 2 点である。このほか微小な剥片類が 122 点、654.2g 出土した。

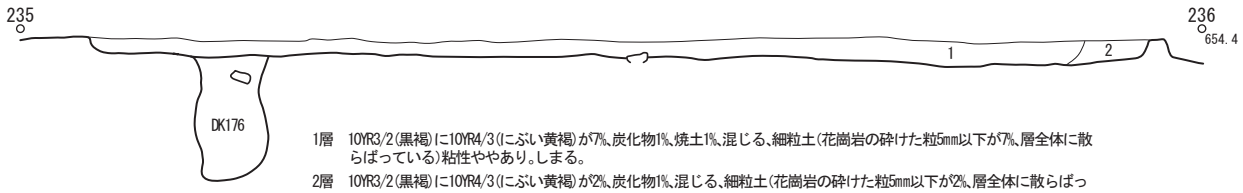
黒曜石原石と石核は、317 号ピット周辺でまとまって出土した。埋土から諸磯式など前期土器が多数出土したことから、これらの黒曜石も前期の所産である可能性があるが、原石、石核は床面でまとまって出土していること、柱穴、貯蔵穴からも黒曜石が出土していることから、これらは本住居に伴うものと考えておきたい。

時　　期：貯蔵穴である 183 号土坑などの出土土器から、本住居は中期中葉藤内式と思われるが、資料が少なく細分時期まで絞り込めなかった。前期、とりわけ諸磯式土器破片が中期以上に多いことから、本住居地点には確認できなかった当該時期の遺構があった可能性がある。

PJ027 号住居　土坑ピット一覧表

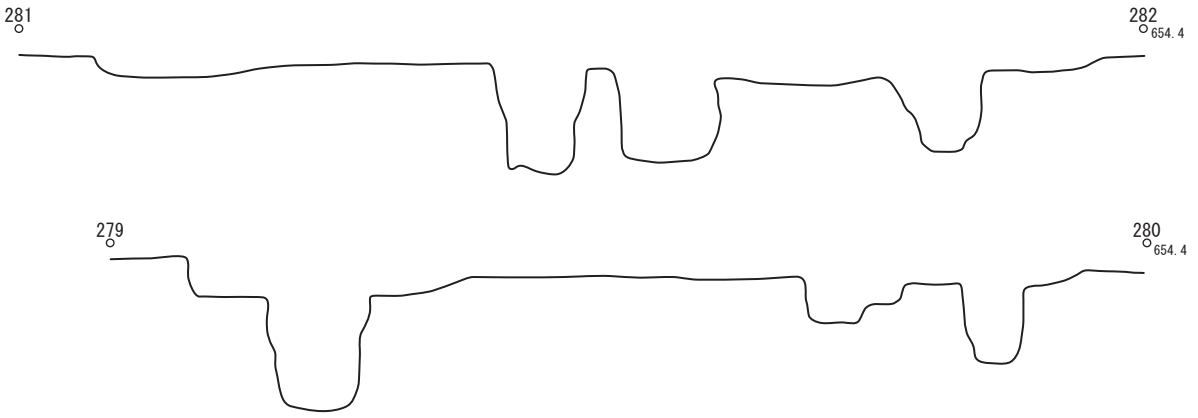
遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
DK-176	27 住内	60*40	56	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。粗い粒混入。細粒土。しまる。	
DK-177	27 住内	57*55	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。粗い粒混入。細粒土。ややしまる。	
DK-178	27 住内	52*52	57	10YR2/2（黒褐）。粗い粒混入。細粒土。ややしまる。	
DK-180	27 住内	62*-	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。粗い粒混入。細粒土。ややしまる。	DK-181 が新しい。
DK-181	27 住内	56	60	10YR2/3（黒褐）。粗い粒混入。	DK-180 を切る。
DK-182	27 住内	53*46	50	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。粗い粒混入。細粒土。しまる。	DK-183 を切る。完掘時に袋状土坑であることを確認した。
DK-183	27 住内	73*63	50	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 15%、炭化物が 1% 混じる。粗い粒混入。細粒土。しまる。	半截時に埋土断面で袋状土坑であることを確認した。
DK-185	27 住内	69	46	10YR2/3（黒褐）。粗い粒混入。細粒土。かたくしまる。	
DK-192	27 住内	60*47	39	10YR2/3（黒褐）。粗い粒混入。細粒土。かたくしまる。	
DK-200	27 住内	74*50	45	10YR2/3（黒褐）。粗い粒混入。細粒土。しまる。	PT-389 が新しい。
DK-204	27 住内	36*30	45	10YR2/2（黒褐）。細粒土。ややしまる。	
PT-317	27 住内	42*50	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10%、粗い粒が混じる。細粒土。ややしまる。	





1層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が7%、炭化物1%、焼土1%、混じる、細粒土(花崗岩の砕けた粒5mm以下が7%、層全体に散らばっている)粘性ややあり。しまる。

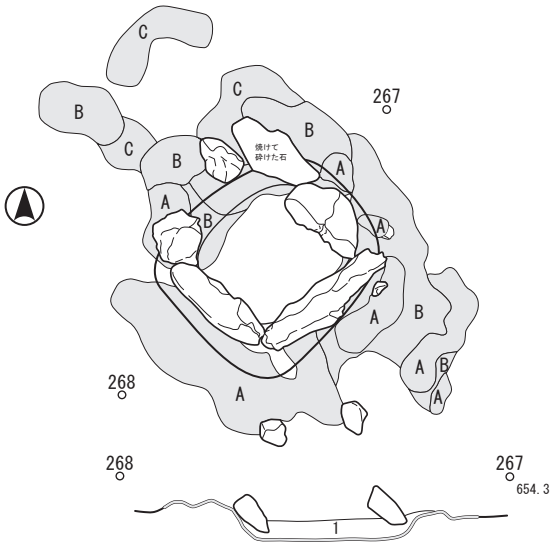
2層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が2%、炭化物1%、混じる、細粒土(花崗岩の砕けた粒5mm以下が2%、層全体に散らばっている)粘性ややあり。しまる。



PJ027 号住居

0　　50cm
1/20

炉

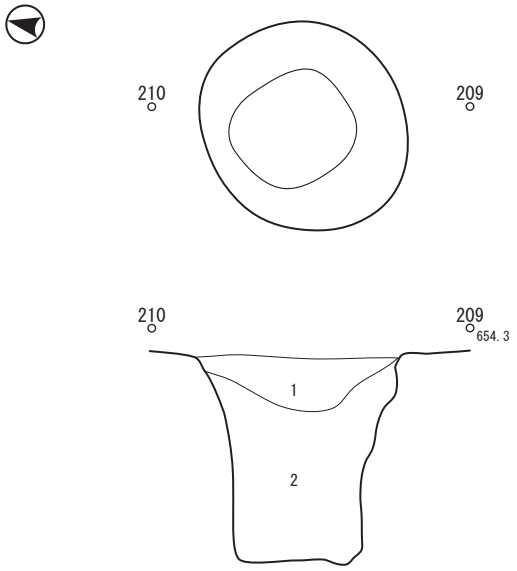


焼土　A層　5YR5/6(明赤褐)ないし5YR5/8(明赤褐)の焼土が焼けて固くなっている。
B層　5YR5/8(明赤褐)の焼土が散っている。
C層　5YR5/8(明赤褐)の焼土が粒子状に弱く混じる。

1層　5YR4/4(にぶい赤褐)に10YR3/2(黒褐)が10%、5YR4/8(赤褐)が10%(ブロック状)混じる、細粒土(焼土)。粘性あり。しまる。焼土層

地山　10YR2/1(黒)に5YR4/4(にぶい赤褐)が30%、焼土、粘性あり。しまる。

DK-178

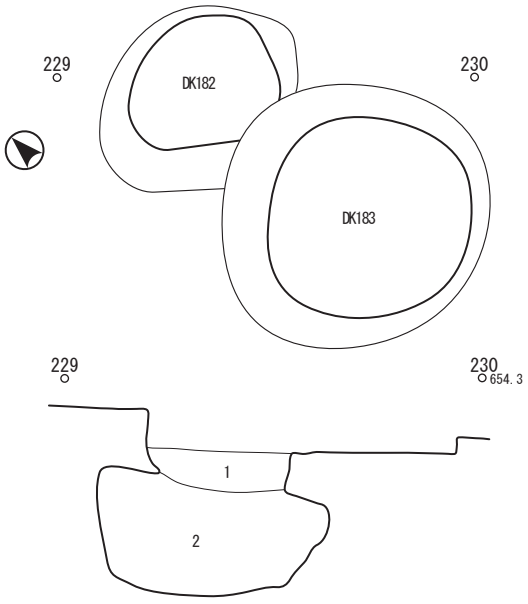


1層　10YR2/3(黒褐)にシルト粒土(炭化物が1%含む)に、10YR3/2(黒褐)に租砂粒土が15%混じる、粘性あり。しまる。

2層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/1(黒)が5%混じる、砂粒土。粘性あり。ややしまる。

地山　10YR5/4(にぶい黄褐)、砂粒土。

DK-182

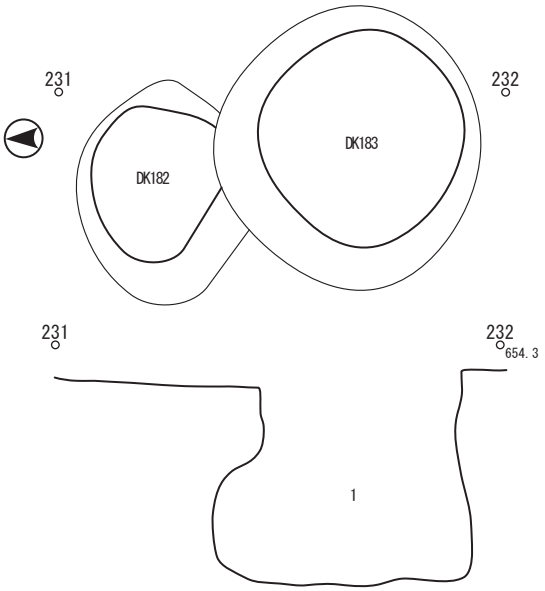


1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/2(灰黄褐)が5%、炭化物が1%混じる、細粒土。粘性ややあり。しまる。

2層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/2(灰黄褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が1%混じる、細粒土(花崗岩の砕けた粒1～3mmφが2%、層全体に散ばっている)粘性ややあり。しまる。

地山　10YR5/6(黄褐)、細粒土。粘性ややあり。しまる。

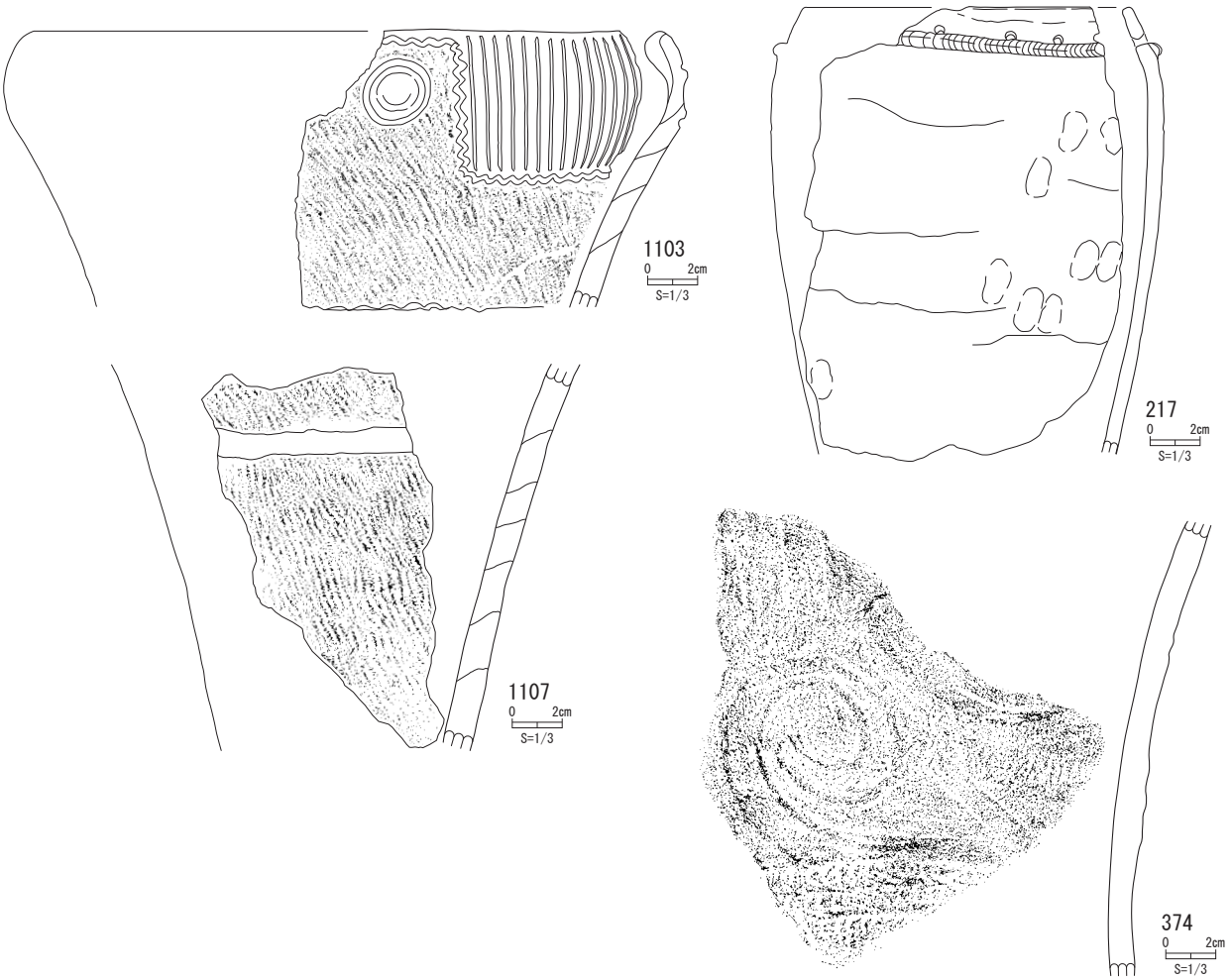
DK-183

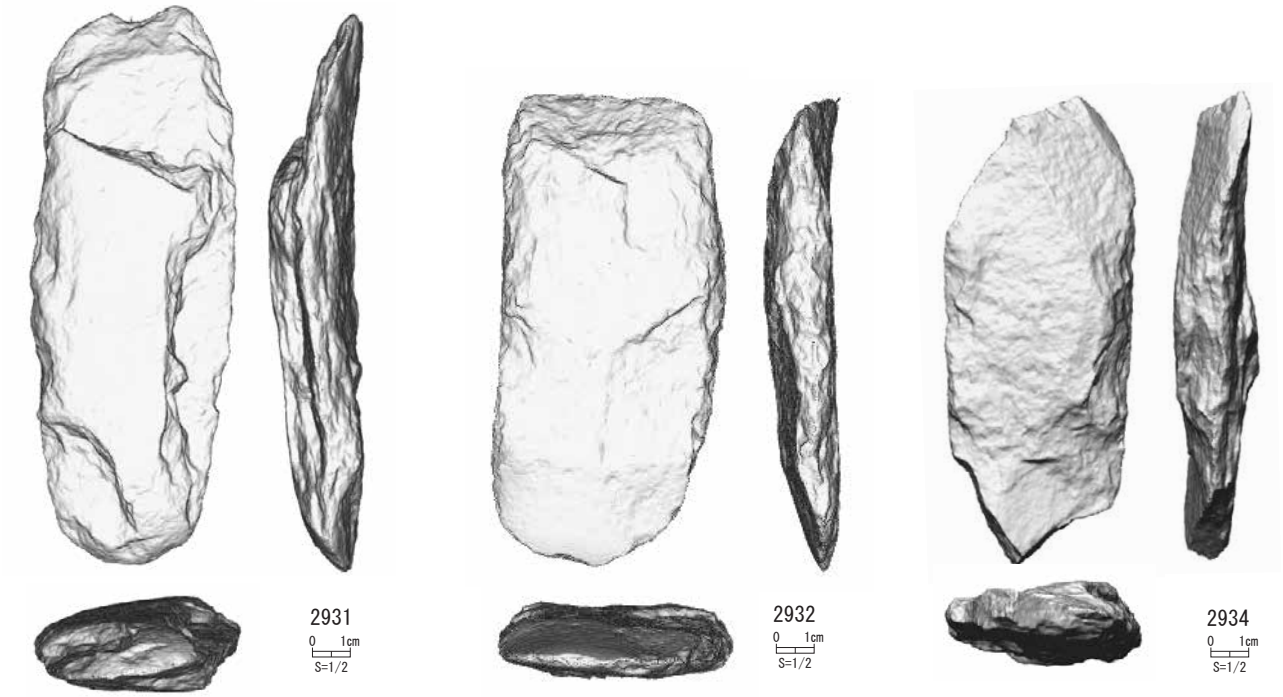


1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/2(灰黄褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が2%、焼土が1%混じる、細粒土(花崗岩の砕けた粒5mmφ以下が5%、3mmφ以下の小礫が3%、層全体に散ばっている) 粘性ややあり。しまる。

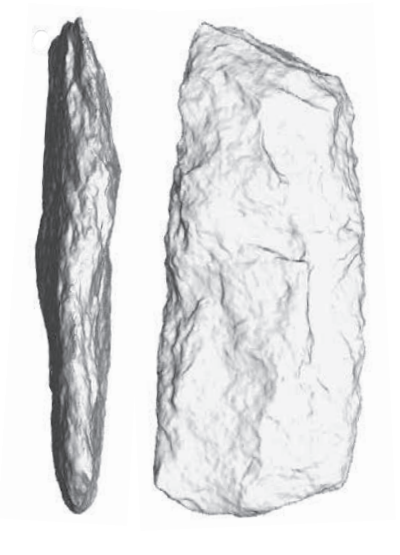
地山　10YR5/6(黄褐)、細粒土。粘性ややあり。しまる。

PJ027 号住居

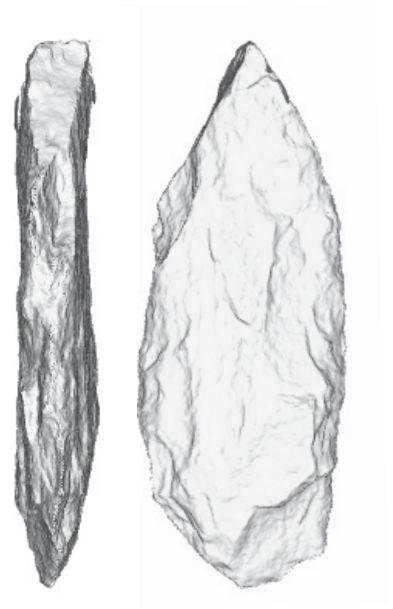




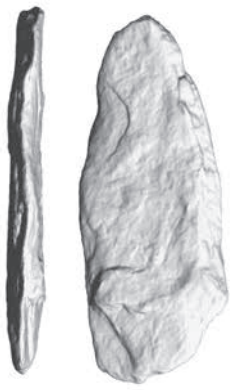
PJ027 号住居出土遺物



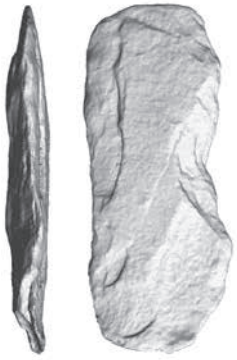
2935
0 1cm
S=1/2



2939
0 1cm
S=1/2



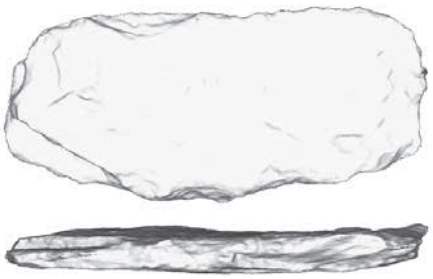
2940
0 1cm
S=1/2



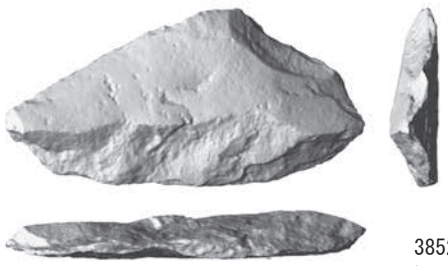
2944
0 1cm
S=1/2

3936
0 1cm
S=1/2

2946
0 1cm
S=1/2

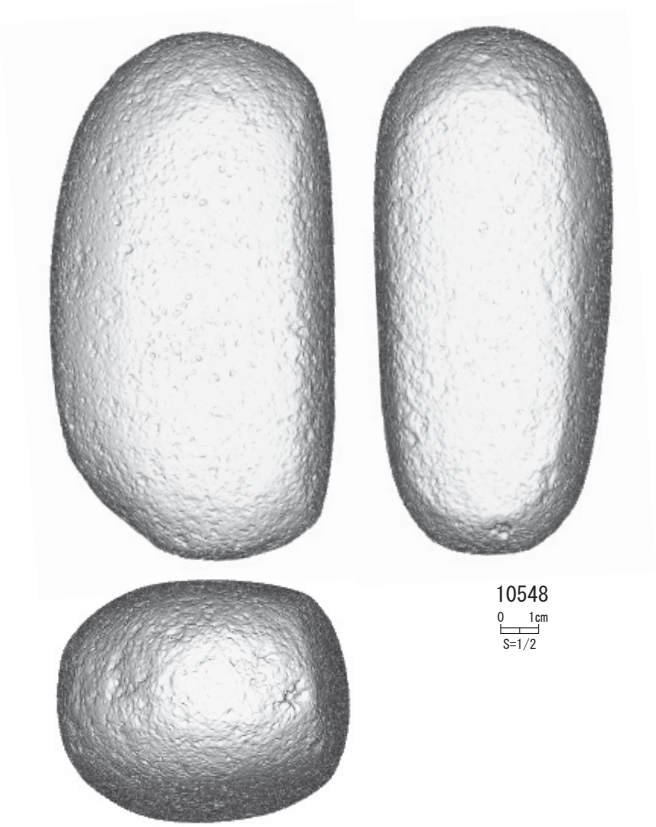


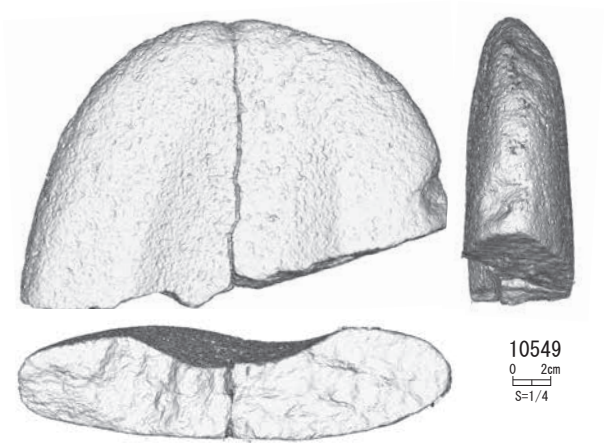
2933
0 1cm
S=1/2

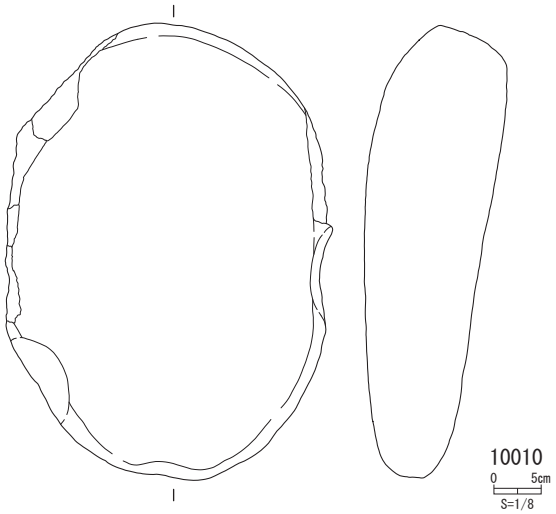


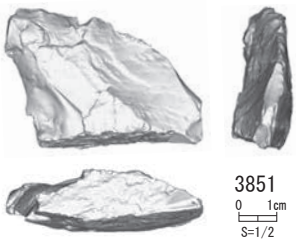
3852
0 1cm
S=1/2

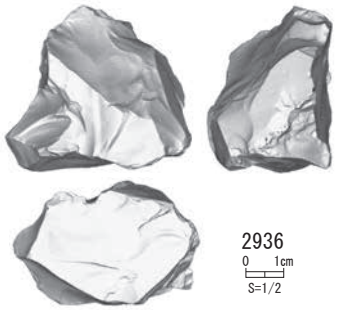
PJ027 号住居出土遺物

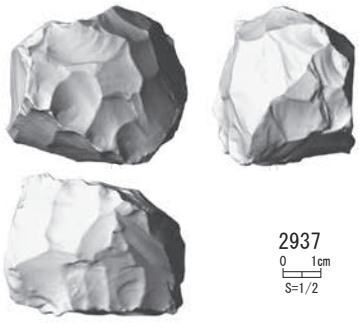


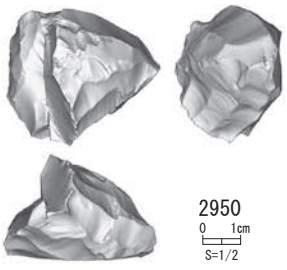












PJ027 号住居出土遺物

PJ027 号住居　土器観察表

実測番号	注記 (6-010-2012)	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1103	DK-183 一括	胴部				208.0	破片	5YR4/3 7.5YR4/3	DK183 埋土出土。胴部上位にナデ凹線がめぐる。1107 と同一個体である。
1107	IG-6516	口縁～胴部	(20.2)			308.0	破片	7.5YR4/4 5YR4/3	床面から 19 ㎝浮いて出土。1103 と同一個体である。
217	DK-182 1、DK-182	口縁部～胴部	(13.2)	－	－	246.0	破片	7.5YR5/6 5YR5/6	DK182 埋土出土。鍔部に爪形の刻み。器面は著しく風化
374	DK-200 2	胴部	－	－	－	336.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/6	DK200 埋土出土。内面磨き顕著。諸磯ｂ式

PJ027 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（㎜）	現存幅（㎜）	現存厚（㎜）	重量（g）	観察所見
2931	PJ-27　22	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	146.0	53.0	20.0	212.00	DK181 上面、床面高で出土。
2932	PJ-27　6	打製石斧	砂岩	3/4	125.0	60.0	16.0	193.00	床面から 9 ㎝浮いて出土。側縁には敲打整形痕。刃部の表裏面には摩耗して平滑になった使用痕あり。低倍率観察では線条痕は認められない。
2933	PJ-27　11	横刃型石器	頁岩	1/1	51.0	112.0	11.0	92.70	DK178 西側、床面から 7 ㎝浮いて出土。器面が風化し、使用痕は観察できない。
2934	PJ-27　5	打製石斧	砂岩	3/4	124.0	50.0	21.0	135.60	DK183 西側、床面から 6 ㎝浮いて出土。基部折損。刃部は素材剥片端部を無調整でそのままか？
2935	PJ-27　3	打製石斧	砂岩	3/4	130.0	55.0	19.0	179.10	DK182 上面、床面から 8 ㎝浮いて出土。基部折損。刃部の片端から側縁にかけて摩滅痕あり。
2936	PJ-27	石核	黒曜石		47.0	48.0	33.0	56.90	埋土出土。暗赤褐色の斑入りの黒曜石。一部に礫面が残る。
2937	PJ-27　19	石核	黒曜石		38.0	47.0	41.0	89.20	PT317 横の床面で出土。やや風化した亜角礫状の礫面が残る。透明度の少ない黒曜石
2938	PJ-27　19	剥片	黒曜石					25.30	PT317 横の床面で出土。一部に礫面が残る。やや透明度のある黒曜石
2939	PJ-27　22	打製石斧	砂岩	3/4	142.0	55.0	19.0	184.40	DK181 上面、床面高で出土。基部に円礫状の礫面が残る。
2940	PJ-27　14	打製石斧	黄色風化泥岩	1/1	98.0	39.0	9.0	46.60	炉と DK192 の中間地点、床面で出土。器面は風化している。
2941	PJ-27　16	打製石斧	砂泥交互岩	3/4	95.0	45.0	8.0	40.20	東壁沿い、DK204 北側の床面で出土。刃部折損。
2942	PJ-27　15	打製石斧	頁岩	1/1	100.0	35.0	10.0	39.50	東壁沿い、DK204 南側の床面で出土。器面は風化。付近で出土した 2941 に似て、小形で薄手である。
2943	PJ-27　7	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	93.0	44.0	8.0	36.30	DK178 西側、床面から 4 ㎝浮いて出土。砂泥交互岩がホルンフェルス化したもの。小形で薄手である。
2944	PJ-27　17	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	92.0	38.0	11.0	46.90	DK200 南の床面で出土。器面が風化し使用痕は観察できない。砂泥交互岩がホルンフェルス化した石材
2945	PJ-27　12	横刃型石器	砂泥交互岩	1/1	58.0	90.0	10.0	47.60	PT317 南東の床面で出土。器面は風化し、使用痕が観察できない。
2946	PJ-27　10	大形粗製石匙	黄色風化泥岩	1/1	88.0	44.0	7.0	36.40	DK177 上面、床面高で出土。器面は風化し、使用痕が観察できない。
2947	PJ-27　20	横刃型石器	砂泥交互岩	1/1	36.0	95.0	7.0	29.70	DK180 西側の床面で出土。器面は風化し、使用痕が観察できない。
2948	PJ-27　18	原石	黒曜石					31.70	DK176 上面の床面で出土。角礫ズリ状の礫面が残る。やや透明度がある黒曜石
2949	PJ-27　11	打製石斧	砂泥交互岩	1/4		49.0	13.0	45.50	DK1 上面、床面から 7 ㎝浮いて出土。刃部側の破片か。円礫状の礫面が残る。
2950	PJ-27　19	石核	黒曜石		37.0	34.0	29.0	32.10	細石刃石核のような石核。PT317 横の床面で出土。透明度の少ない黒曜石
2951	PJ-27	横刃型石器	砂泥交互岩	1/4		50.0		34.40	埋土一括。打製石斧破片かと思ったが、側縁部の微小な剥離から横刃型石器と判断した。

PJ027 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2952	PJ-27　9	打製石斧	砂泥交互岩	1/1	86.0	37.0	10.0	30.50	DK177 北の床面で出土。器面が風化し、使用痕ははっきりと観察できない。
2953	PJ-27	石鏃	黒曜石		19.7	(13.6)	3.9	(0.77)	PJ27 埋土で出土。石鏃未成品か
2954	PJ-27	石鏃	黒曜石	1/2			3.8	(0.87)	PJ27 埋土出土
3850	DK-185	打製石斧	頁岩	1/2	77.0	47.0	20.0	90.80	DK185 出土。ややホルンフェルス化した頁岩で､表面はキナコ状に風化。刃部欠損
3851	DK-185	原石	黒曜石					24.00	DK185 出土。風化した角礫ズリ状の礫面が残る。白い筋が多数入った、やや透明度のある黒曜石。
3852	DK-181	横刃型石器	頁岩		47.0	94.0	12.0	52.70	DK181 出土。円礫状の礫面を残す。白色筋が入る青灰色の頁岩
3853	DK-204	打製石斧	頁岩	1/2	80.0	38.0	10.0	33.00	DK204 出土。
3878	DK-177	原石	黒曜石		49.0	26.0	21.0	17.30	DK177 埋土で出土。やや風化した角礫ズリ状の礫面が残る。
3879	DK-177	原石	黒曜石		38.0	40.0	19.0	26.10	DK177 埋土で出土。すりガラス状の角礫ズリ状礫面が残る。やや透明度のある黒曜石。
3880	DK-177	剥片	黒曜石		40.0	36.0	11.0	13.20	DK177 埋土で出土。一部に使用痕が認められる。
3936	DK-183　1	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ		92.0	42.0	9.0	42.60	DK183 出土。黒色頁岩がホルンフェルス化し、表面はキナコ状に風化。
3937	DK-183	両極石器	黒曜石		19.0	29.0	7.0	3.50	DK183 出土。透明度がある黒曜石
8153	PJ-27	石鏃	黒曜石		18.3	11.0	3.2	0.55	PJ27 埋土出土。石鏃未成品か
8411	PJ-27　19	砕片	黒曜石					8.90	PT317 横の床面で出土。角礫ズリ状の礫面が残る。
10010	PJ-27 25	台石	安山岩類	1/1	481.0	342.0	128.0	30,000	DK200 と DK204 の間、床面で出土。扁平丸石の広い両面が平滑に磨耗している。
10548	PJ-27　8	磨石類	安山岩類	1/1	139.0	75.0	66.0	1,107	DK177 北側の床面で出土。湾曲した広い２面と稜に顕著な摩耗痕、敲打痕がみられる。
10549	PJ-27　炉図 -1	石皿	安山岩類	1/2		212.0	59.0	2,266	炉東辺の炉石に転用された石皿破片。被熱度合いはさほど強くないように見える。擦り面を下にして炉石に転用されていた。
10551	PJ-27　13	磨石類	砂岩類	1/2				515	炉西側の床面で出土。割れ面を含め全体が赤く変色している。稜と、湾曲した広い面が平滑に磨耗している。端部にわずかな敲打痕がある。

PJ028 号住居

位　　置：H-3 グリッド、調査区北端に位置する住居で、大半は調査区外に展開する。DK141 号土坑ほかの土坑に切られる。

規　　模：隅丸方形らしいという点以外は不明である。竪穴は深さ 50cm が残る。

埋　　土：黒褐色土に暗褐色土が斑に混じる埋土で、水平の層理が観察された。自然堆積により埋まった住居と思われる。

床　　面：黄褐色砂質の地山を水平に掘り込み、そのまま床面としている。DK179 号土坑側の床が一部、硬くしまっていた。

炉　：調査区内では検出されなかった。

周　　溝：調査区内で検出された南壁に沿って小溝が検出された。

柱　　穴：調査区内では検出されなかった。

出土遺物：土器はわずかな数量の破片が出土したのみで、中越式と神之木式が多く、ほかに諸磯式土器が遺構確認面で出土している。出土土器の総量は 152g と少量で、中越式 40g、神之木式 13g、関山 33g、釈迦堂 Z3 式 23g、諸磯式 43g である。

出土した石器は、削器 1 点、石匙 1 点、黒曜石石核 1 点、黒曜石原石 1 点、磨石類 1 点、黒曜石剥片 6 点 20g である。

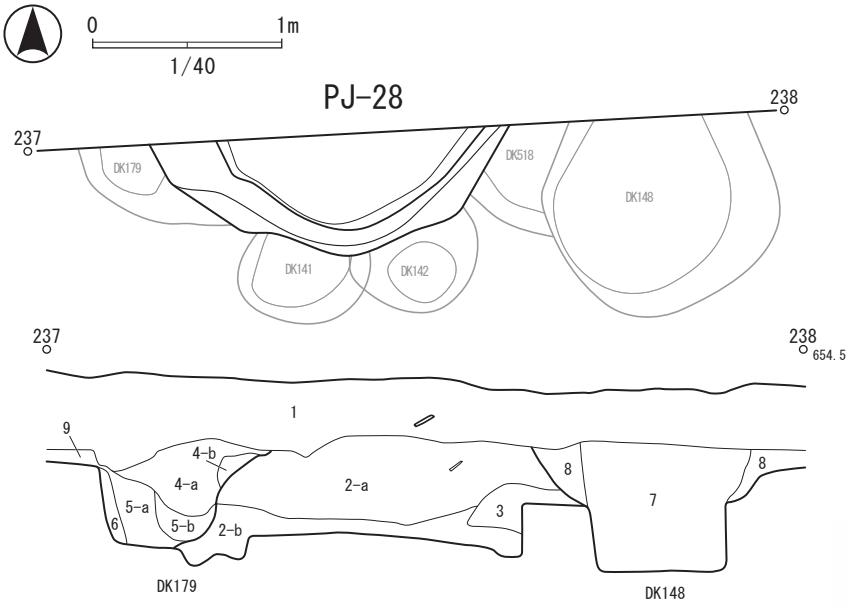
時　　期：明瞭な決め手に欠けるが、土器と石器の状況から神之木式土器を伴う中越Ⅳ式期と推測される。

PJ28 号住居土器観察表

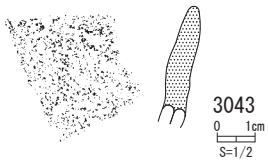
実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
3043	PJ-28	口縁				7.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/6	埋土一括。内外面指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越式
3044	PJ-28	胴部				33.0	破片	10YR7/4 5YR6/6	埋土一括。大きな単節縄文を縦位に羽状施文。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含む。関山式か

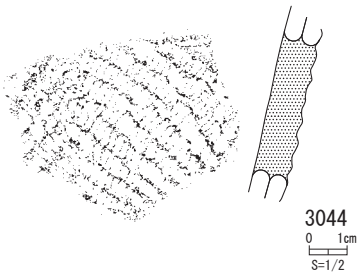
PJ28 号住居石器観察表

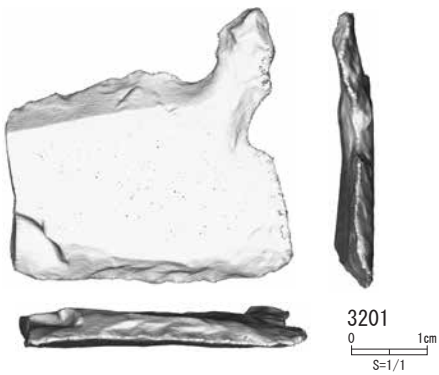
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
3199	PJ-28	石核	黒曜石		40.0	47.0	23.0	41.60	埋土一括。ズリ面、風化した剥離面で囲まれた石核で、風化していない剥離面はわずか。斑模様の半透明黒曜石
3200	PJ-28	削器	珪質頁岩	1/1	29.0	59.0	11.0	20.80	埋土一括。礫面が残る厚手の剥片素材の長辺に刃部。青灰色の珪質頁岩
3201	PJ-28	石匙	珪質頁岩	2/3	36.0	37.0	4.0	7.30	埋土一括。器体の一部が欠損。剥片の一辺に刃部。白筋のある青灰色珪質頁岩
3202	PJ-28	原石	黒曜石					6.10	埋土一括。ズリ。小さく不整形な原石。漆黒の黒曜石
10205	PJ-28　1	磨石類	花崗岩類	1/1	122.0	92.0	53.0	793	南壁沿いの床面出土。楕円型。磨石作業面は 1 面。点状敲打痕がまばらに認められる。長軸端部に敲きによる狭い平坦面と敲打痕集中。

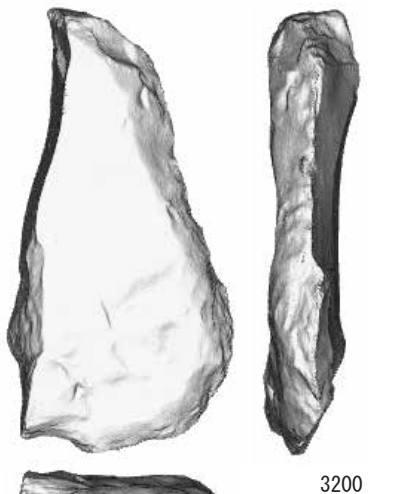


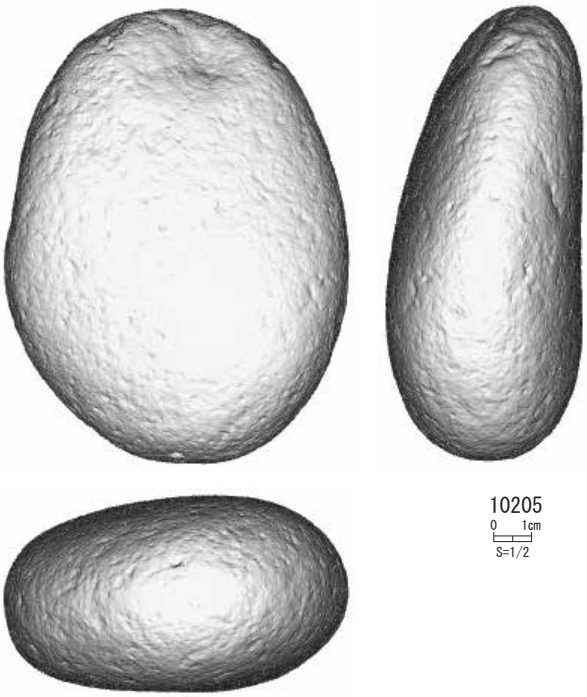
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、10YR4/2(灰黄褐)が2%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。(調査区北側基本層序Ⅳ)
2-a層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が7%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。
2-b層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
3層　10YR4/4(褐)に10YR2/3(黒褐)が5%、10YR2/1(黒)が3%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
4-a層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が1%、炭化物0.5%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
4-b層　10YR3/2(黒褐)に炭化物0.5%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
5-a層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が3%、10YR4/4(褐)が1%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。
5-b層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が2%、10YR4/4(褐)が2%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
6層　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が10%、10YR2/2(黒褐)が1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
7層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が7%、10YR4/4(褐)が3%、炭化物0.5%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
8層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が7%、10YR2/2(黒褐)が1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
9層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が2%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。
壁　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
地山　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が10%混じる。

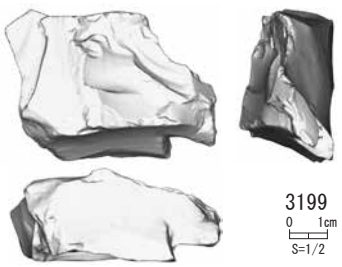












PJ028 号住居・出土遺物

PJ030 号住居　PJ038 号住居

位　　置：G-13 グリッドに位置する。同一地点で入れ子状に 2 基の住居が重複する。PJ30 号住居が新しく、PJ38 号住居を切る。

規　　模：PJ30 号住居は、東西長 3.6m、南北長 4.2m の楕円形で、竪穴は深さ 15 ㎝を残す。PJ38 号住居は、東西長 4.65m、南北長 7m の不整円形で、竪穴は深さ 20 ㎝を残す。

埋　　土：PJ30 号住居の埋土は、黒褐色土で、竪穴が浅いため、堆積状況は確認できなかった。PJ38 号住居は、やや明るい暗褐色土埋土であった。最初の遺構確認時には、2 基の住居が重複しているとは分からず、発掘調査したところ、PJ30 号住居の周溝と壁が離れすぎること、明らかに時期が異なる土器が出土すること、炉跡が 2 基検出されることなどから、重複を認識した。

床　　面：PJ30 号住居床面は PJ38 号住居埋土中にあることから、平面的に確認することはできず、埋土断面観察で確認できたのみである。PJ38 号住居床面は黄褐色砂質地山を床面とし、硬化面は確認されなかった。

炉　：PJ30 号住居炉は、住居中央からやや北側にずれた位置で検出された。遺跡近くで容易に採取できる花崗岩もしくは花崗岩質砂岩の円礫 6 点をやや長方形に並べて炉石とし、浅い掘り込みを伴う。炉底は被熱焼土化していた。炉石は風化して脆くなっていた。

PJ38 号住居炉は、炉掘り込みのみが確認された。当初、炉跡と分からず DK257 と土坑番号を付した。炉底の被熱焼土化の度合いは弱い。

周　　溝：PJ30 号住居は 2 条を検出した。外側の周溝は明瞭に検出され、全周する。内側の周溝は断片的であった。PJ38 号住居周溝は検出されなかった。

柱　　穴：PJ30 号住居の柱穴は、720 号、721 号、723 号、730 号ピットの 4 基を検出した。さらに 726 号ピットより新しいピットを検出したが、調査途中で、このエリアの現状保存が確定したため調査しなかった。これを含めて 5 本主柱穴構造と推測される。柱穴の深さは、34 ㎝から 63 ㎝である。

PJ38 号住居柱穴は、壁沿いに直径 30 ㎝程度のピットを検出したが、実際に発掘したのは、722 号、726 号、729 号ピットの 3 基である。これらは深さが 20 ㎝から 41 ㎝であった。

以上の柱穴のほか、717 号ピットと 719 号ピットを検出した。埋土断面の観察から、これらのピットは、PJ30 号住居よりも古く、PJ38 号住居埋土を切って掘り込まれていることを確認した。その位置は曽利式期の埋甕と同じであるが、土器は検出されず、また後世に土器を盗掘した形跡も認められなかった。

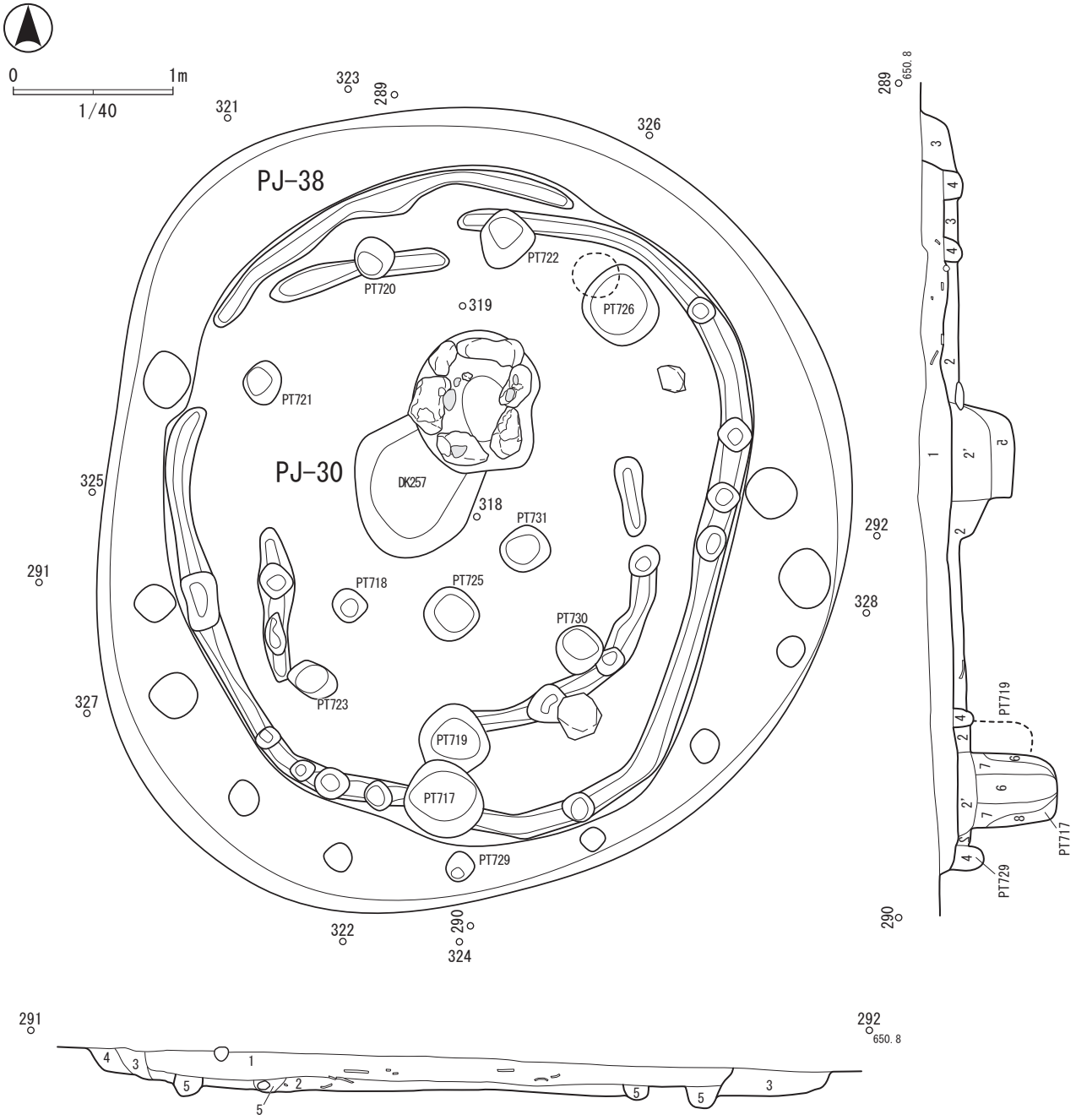
出土遺物：PJ30 号住居の埋土から土器の大形破片がまとまって出土した。1250 は炉北西側の埋土下層で出土した土偶頭部破片である。PJ38 号住居に帰属すると思われる土器は、1261 の 1 個体のみである。

石器も土器と同様に主に埋土で出土している。内訳は、石鏃 2 点、削器 1 点、素刃削器 1 点、両極石器 6 点、石錐 1 点、鋸歯縁石器 1 点、打製石斧 10 点、横刃型石器 1 点、黒曜石の原石と石核 2 点、剥離のある剥片 3 点である。このほか微小な剥片類が 104 点、409.6g 出土した。

時　　期：出土した土器から、PJ30 号住居は曽利Ⅱ式期に位置づけられる。PJ38 号住居は土器が限定されるが、新道式期であろう。

PJ030 号住居　PJ038 号住居　土坑ピット一覧表

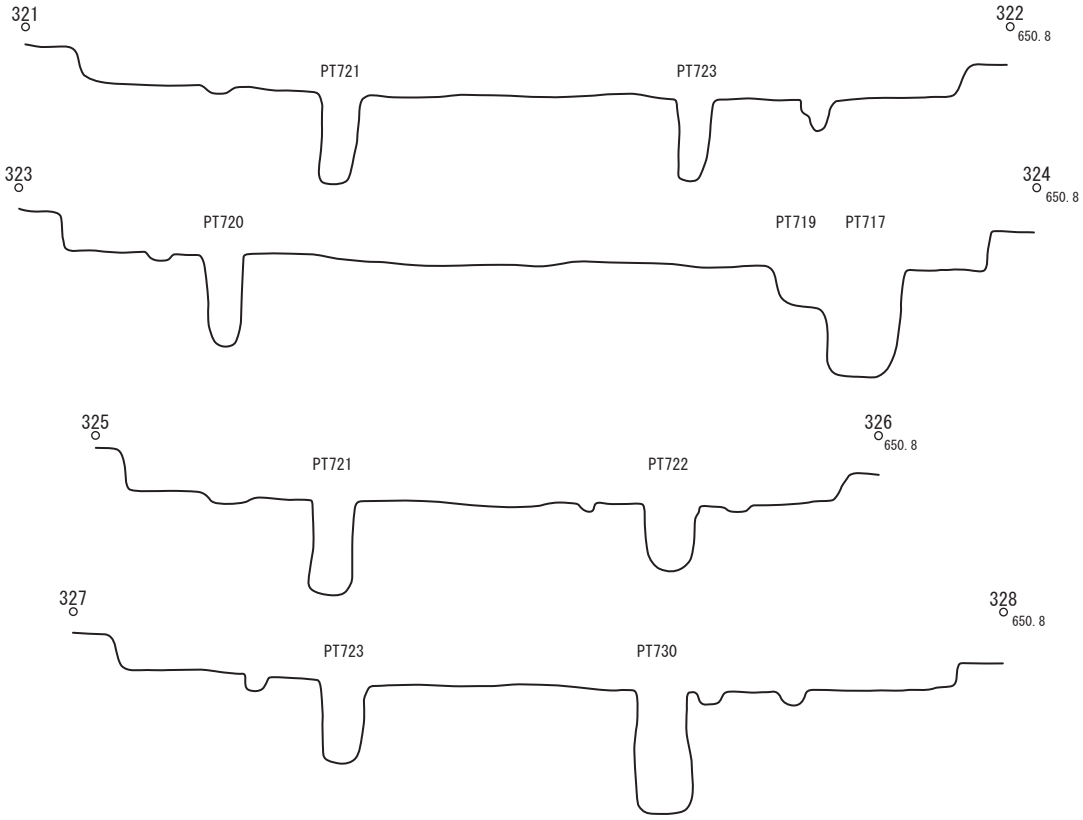
遺構番号	位置	径（cm）	深さ（cm）	覆土色	備考（遺物など）
DK-257	30 住内	87*80	32	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ38 号住居炉跡。中越式、諸磯式、中期土器破片出土
PT-717	30 住内	46*38	54	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT719 を切る
PT-718	30 住内	18*19	16	10YR4/4（褐）に 10YR4/6（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-719	30 住内	40*37	22	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR4/6（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT717 に切られる
PT-720	30 住内	22*20	45	10YR4/4（褐）に 10YR4/6（褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ30 号住居柱穴
PT-721	30 住内	24*23	42	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が混じる。シルト粒土。しまる。	PJ30 号住居柱穴
PT-722	30 住内	35*25	28	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ38 号住居柱穴
PT-723	30 住内	25*20	34	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ30 号住居柱穴
PT-725	30 住内	30*31	25	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-726	30 住内	45*40	20	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ38 号住居柱穴。PJ30 号住居柱穴（未調査）に切られる。
PT-729	38 住内	15*15	41	シルト粒土。ややしまる。	PJ38 号住居柱穴
PT-730	30 住内	26*26	63	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PJ30 号住居柱穴
PT-731	30 住内	18*17	10	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	



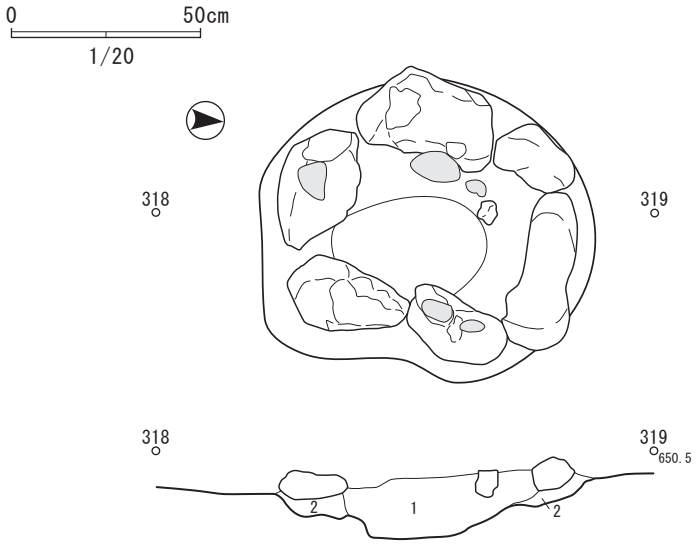
東西セクション
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が3%、10YR3/3(暗褐)が2%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が5%、10YR3/4(暗褐)が2%、10YR4/4(褐)が2%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
2'層　PT-717埋土。2層に同じだが、PT-717壁の立ち上がりで分層された。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR4/4(褐)が2%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
4層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が3%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。(周溝)

南北セクション
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が2%、10YR4/3(にぶい黄褐)が1%、炭化物2%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
2'層　PT-717埋土。2層に同じだが、PT-717壁の立ち上がりで分層された。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR4/3(にぶい黄褐)が2%、10YR4/4(褐)が2%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、10YR4/4(褐)が2%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。(周溝)
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR2/3(黒褐)が3%炭化物1%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
7層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR2/3(黒褐)が5%、炭化物1%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
8層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が3%、10YR2/2(黒褐)が1%、混じる、シルト粒土。粘性なし。ややしまる。
床面　10YR5/6(黄褐)に10YR3/2(黒褐)が15%、混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。

PJ030 号・PJ038 号住居



炉

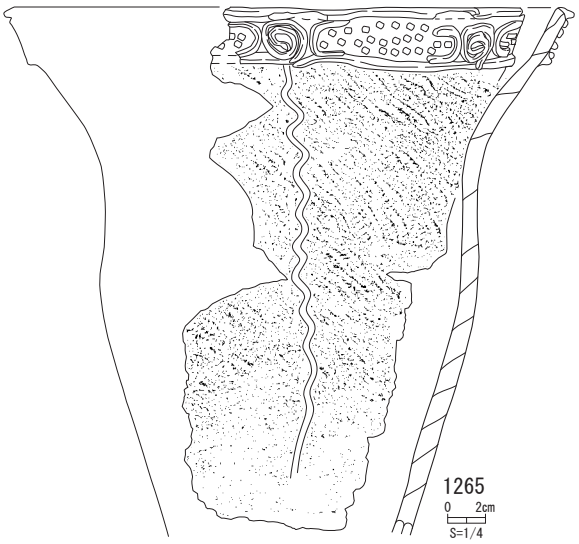


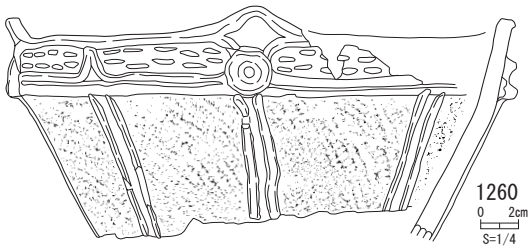
1層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が7%、炭化物が1%、焼土が1%、混じる、シルト粒土。粘性あり。ややしまる。

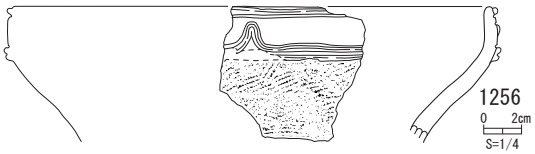
2層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、混じる、細粒土。粘性あり。ややしまる。(石　掘り方)

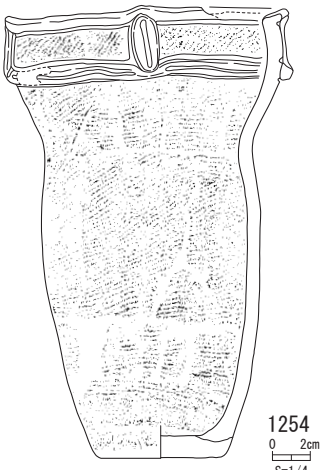
地山　10YR5/4(にぶい黄褐)、シルト粒土。粘性あり。しまる。

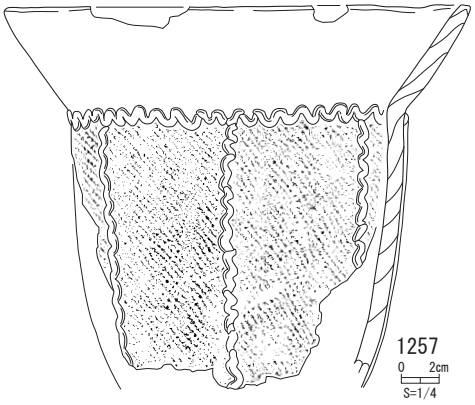
PJ030 号・PJ038 号住居

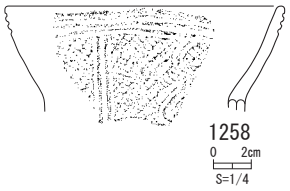


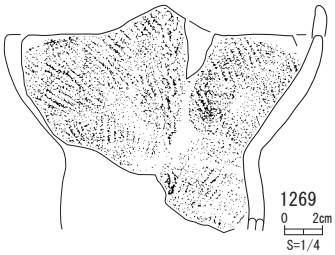


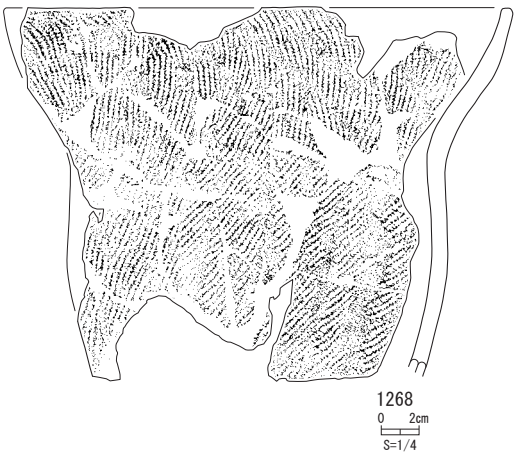


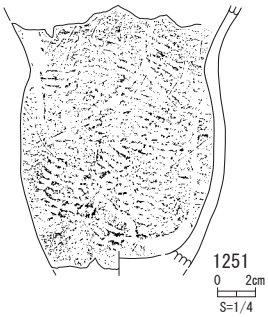


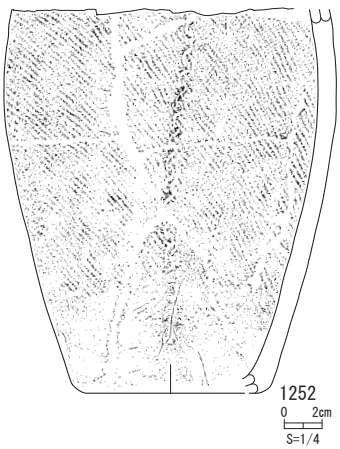




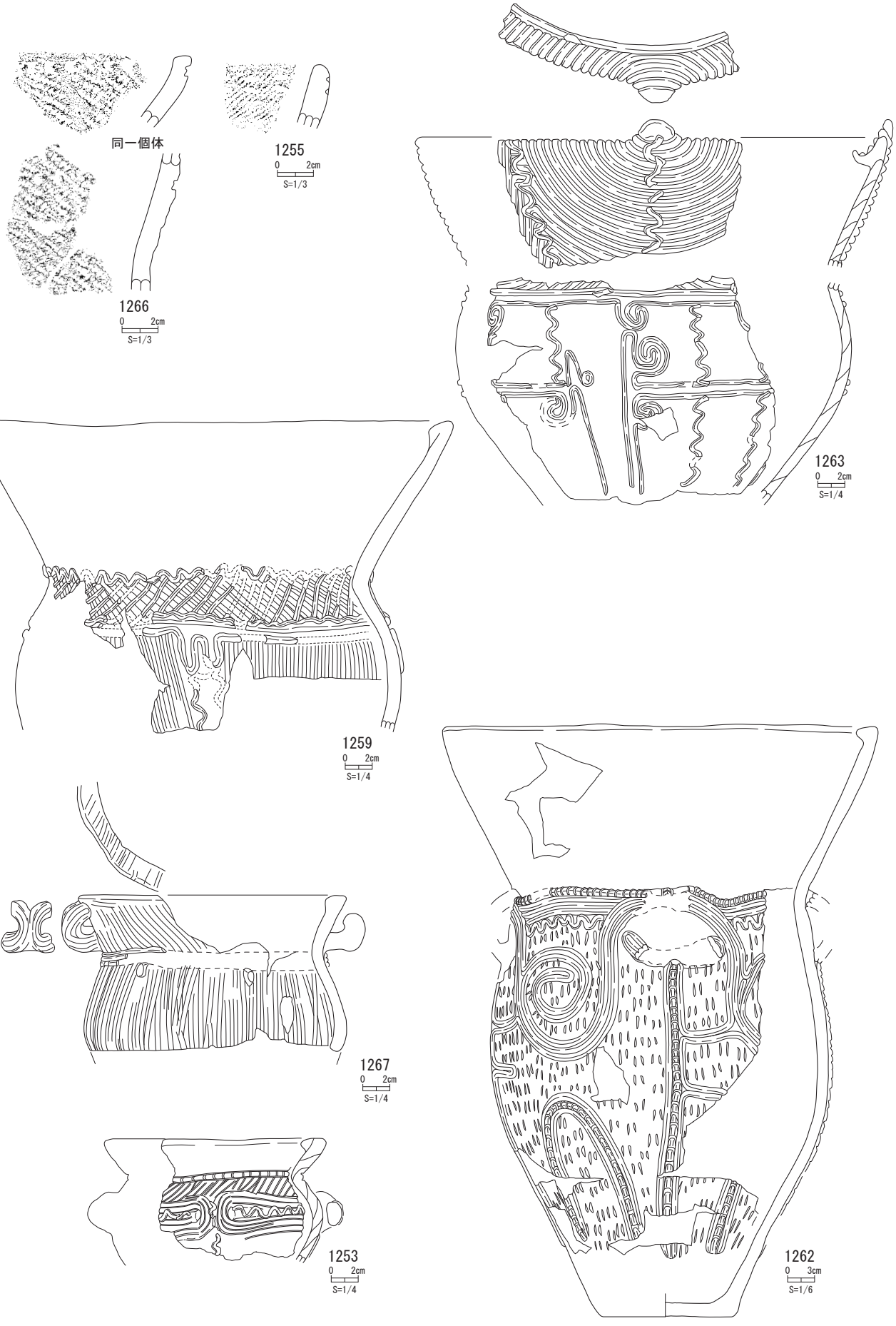




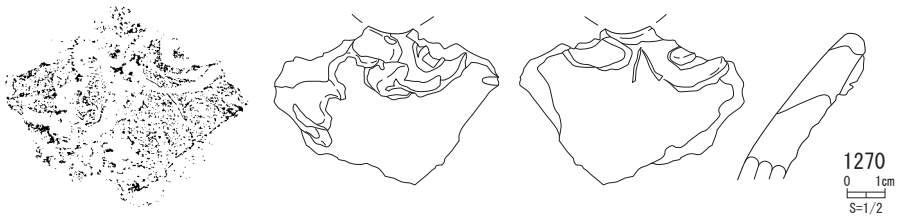


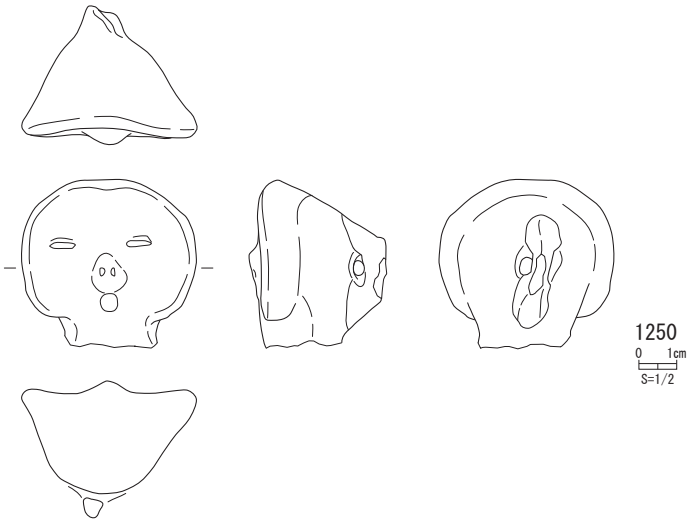


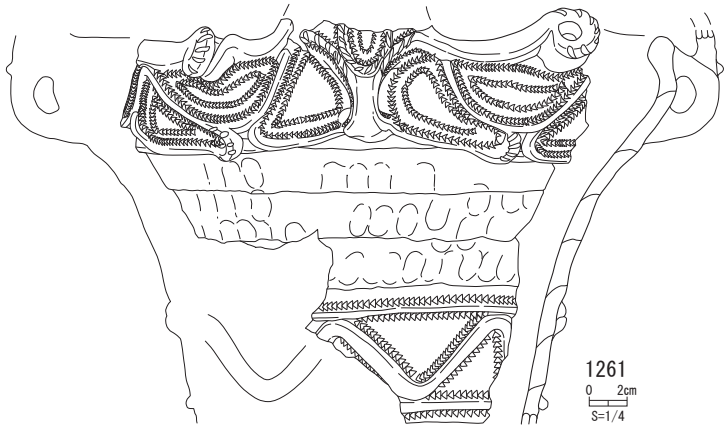
PJ030 号・PJ038 号住居出土遺物

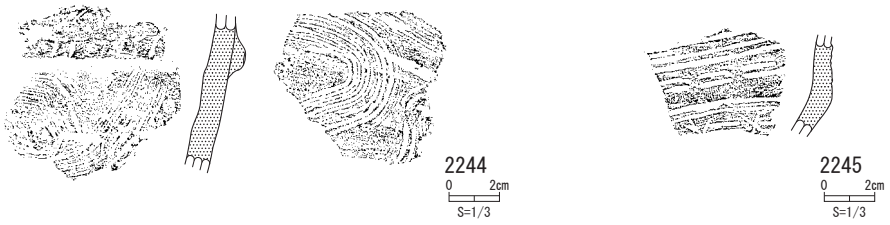


PJ030 号・PJ038 号住居出土遺物





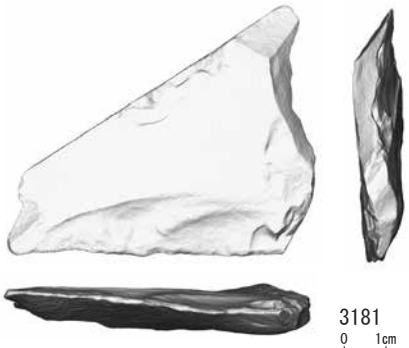




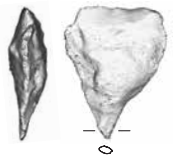
PJ030 号・PJ038 号住居出土遺物

3186
0 1cm
S=1/2

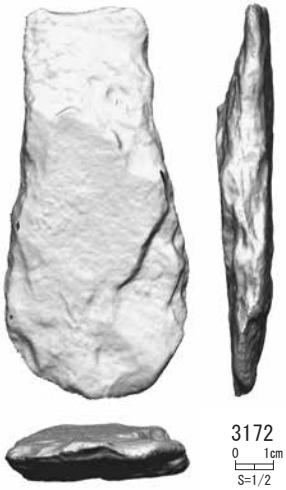
3194
0 1cm
S=1/1



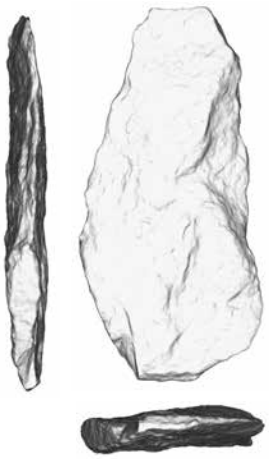
3181
0 1cm
S=1/2



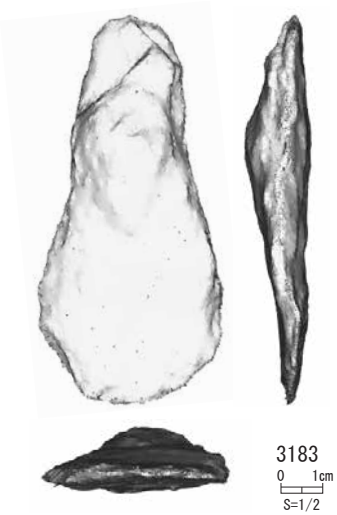
3196
0 1cm
S=1/1



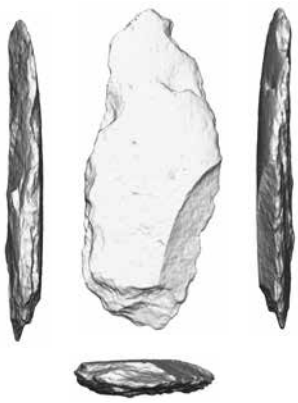
3172
0 1cm
S=1/2



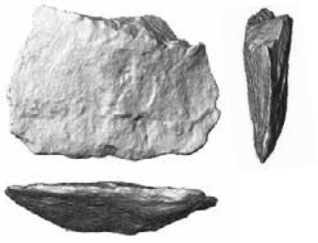
3175
0 1cm
S=1/2



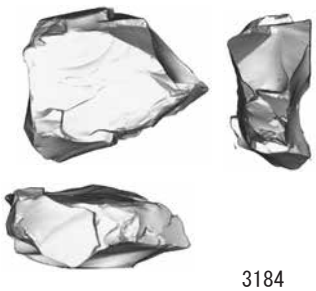
3183
0 1cm
S=1/2



3178
0 1cm
S=1/2



3179
0 1cm
S=1/2



3184
0 1cm
S=1/2

PJ030 号・PJ038 号住居出土遺物

PJ030 号・PJ038 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1250	6-010-2012 RJ-3036	頭部		高 (4.5)	厚 3.6	49.0	破片	5YR6/6	炉北西床面で出土した土偶頭部破片。後頭部が張出し、穴が開けられている。首の割れ面には再生痕なし。
1251	6-010-2012 RJ-3073、RJ-30一括	胴部				640.0	2/3	5YR5/6 5YR5/6	炉南西、床面から 7 cm浮いて出土。砂が多く混じらない良質の胎土で、まばらな縄文が施文される。
1252	6-010-2012 RJ-3059、RJ-3021、RJ-3064、RJ-30一括	胴部～底部			(9.2)	841.0	破片	7.5YR5/4 5YR5/6	PT719 北側、床面から 4 cm浮いて出土。結節縄文
1253	6-010-2012 RJ-3027	口縁～胴部	(16.4)			183.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	炉東側、床面から 5 cm浮いて出土。砂が混じらない良質な胎土。両耳壺と思われる。
1254	6-010-2012 RJ-3072、RJ-3017	口縁～底部	14.5	23.8	6.4	1,062.0	5/6	5YR4/6 5YR4/6	PT721 南、床面から 7 cm浮いて出土。口縁部に粘土紐を貼付して区画文を施文。縄文地文→区画文貼付の施文順序
1255	6-010-2012 RJ-3026	口縁部				22.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/3	炉東側、床面から 11 cm浮いて出土。口縁部に二又工具による列点文
1256	6-010-2012 RJ-3016	口縁部	(25.0)			103.0	破片	7.5YR6/4 5YR4/4	住居西壁沿い、床面から 25 cm浮いて出土。粘土紐貼付で区画文を施文。区画内は無文。縄文地文施文後に口縁部を磨り消して区画文を貼付。
1257	6-010-2012 RJ-3020、RJ-3033、RJ-30一括	口縁～胴部	(24.0)			899.0	破片	5YR5/6 5YR3/4	PT719 東側、床面から 9 cm浮いて出土。内面下部に炭化物付着
1258	6-010-2012 RJ-30一括	口縁部	(14.4)			47.0	破片	7.5YR6/4 5YR5/6	埋土一括。大柄な縄文を施文し、沈線を施文。
1259	6-010-2012 RJ-30一括、RJ-3043、RJ-3044、RJ-3048、RJ-3040、RJ-3028、RJ-3045、RJ-3047	口縁～胴部	(34.7)			3,295.0	破片	5YR5/6 5YR5/8	炉東側と PT726 東側に離れて出土した破片が接合。床面から 8 cm浮いて出土。頸部→胴部貼付文→胴部条線地文の順に施文。
1260	6-010-2012 RJ-30一括、RJ-3015、RJ-3019	口縁～胴部	(27.0)			1,105.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	住居西壁沿い、床面から 5 cm浮いて出土。地文縄文施文後に垂下隆線を貼付。
1261	6-010-2012 RJ-30一括	口縁～胴部	(31.0)			795.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	PJ38 号住居埋土一括。口縁部と胴部の重三角文を三角押文で縁取り。胴部輪積み痕が明瞭に残る。PJ30 号住居の曽利式土器とは胎土質、色調が異なる。
1262	6-010-2012 RJ-3066、RJ-3023、RJ-3065、RJ-3060、RJ-3030、RJ-3029、RJ-3014、RJ-3026、RJ-3056、RJ-3010、RJ-30一括	口縁～底部	48.6	65.8	15.5	10,217.0	2/5	10YR7/4 5YR5/6	炉南西、床面から 14 cm浮いてばらばらの破片状態で出土。主文様を貼付した後に胴部に二又工具による刺突文を充填。
1263	6-010-2012 RJ-3022、RJ-3031、RJ-3063、RJ-307、RJ-30一括	口縁～胴部	(34.0)			1,067.0	破片	5YR5/6 2.5YR5/6	炉南西、床面から 4 cm浮いて出土。縄文地文施文後に胴部のソーメン状粘土紐を貼付
1265	6-010-2012 RJ-3053、RJ-30一括	口縁～胴部	(29.0)			689.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	炉南東、床面から 15 cm浮いて出土。口縁部に細い粘土紐で区画文。胴部に竹管による蛇行沈線文。口縁部区画文→縄文地文→蛇行沈線の順に施文
1266	6-010-2012 RJ-3029、RJ-30一括	口縁～胴部				108.0	破片	5YR 5/4 5YR4/4	炉東、床面から 7 cm浮いて出土。口縁部に竹管による列点文
1267	6-010-2012 RJ-3028、RJ-3054、RJ-3025、RJ-3050、RJ-3055、RJ-3029、RJ-30一括	口縁～胴部	(20.2)			865.0	破片	7.5YR6/6 5YR6/6	炉南東側のやや広い範囲で、床面から 5 cm浮いて出土。口縁部に 2 単位の把手がつく。胴部割れ面は研磨・再生している。
1268	6-010-2012 RJ-3037、RJ-3038、RJ-3039、RJ-3074、RJ-30一括	口縁～胴部	(27.0)			751.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/6	炉西側、床面から 20 cm浮いて出土。外面口縁部から胴部くびれにかけてうすく煤が付着
1269	6-010-2012 RJ-30一括	口縁～胴部	(16.8)			247.0	破片	7.5YR3/2 5YR4/6	埋土一括。4 単位の波状口縁。波頂部から結節縄文が垂下
1270	6-010-2012 RJ-30一括	口縁部				34.0	破片	7.5YR5/3 5YR4/3	口縁部破片だが、器形がよく分からない。外面ははがれあり。内面にも深く細い沈線で施文される
2244	6-010-2012 RJ-30	胴部				51.0	破片	7.5YR6/6 5YR6/6	外面にタガ状の刻み隆帯を貼付。内外面条線波状文を施文。胎土に繊維を多く含む。
2245	6-010-2012 RJ-30	胴部				19.0	破片	10YR6/3 10YR6/3	後期土器のような乳白色で、断面は黒色の土器破片。文様も細い沈線で繊細に施文される。胎土にやや繊維を含むようにみえる。

PJ030 号・PJ038 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3171	PJ-30　41	打製石斧	砂岩	3/4	90.0	66.0	18.0	143.90	炉上､床面から 13 cm浮いて出土。片刃直刃､トランシェ状。基部側折損。刃部も折損したか？
3172	PJ-30　12	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	103.0	49.0	14.0	91.70	PT720 南、床面から 24 cm浮いて出土。砂泥交互岩が弱くホルンフェルス化した石材。器面が風化し、使用痕は観察できない。
3173	PJ-30　3	打製石斧	黄色風化泥岩	3/4	105.0	47.0	17.0	104.20	PT730 北西側、床面で出土。刃部側が折損。器面が風化し、使用痕は観察できない。
3174	PJ-30　d 区	素刃削器	砂岩	1/1	68.0	59.0	22.0	90.60	住居北東側の埋土で出土。亜円礫面が残る剥片の薄い側縁を刃部とする。
3175	PJ-30　35	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	99.0	50.0	9.0	55.60	北壁沿い、床面から 23 cm浮いて出土。器面が風化し、使用痕は観察できない。幅広い刃部側？が厚いまま残されている。
3176	PJ-30	打製石斧	頁岩	破片	62.0	69.0	2.6	119.00	側縁側は節理面で折損。胴部は折損。円礫面が部分的に残る。
3177	PJ-30　5	打製石斧	黄色風化泥岩	破片				41.70	床面から 4 cm浮いて出土。器面が風化して使用痕は観察できない
3178	PJ-30　69	横刃形石器	頁岩	1/1	38.0	82.0	9.0	33.10	炉南、床面から 9 cm浮いて出土。円礫面が残る。長辺どちら側の側縁が刃部かよく分からない。
3179	PJ-30	鋸歯縁石器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ		40.0	56.0	12.0	28.50	端部を鋸歯状に調整。折損品か？
3180	PJ-30	打製石斧	砂岩	破片				37.00	打製石斧破片。節理面で折損
3181	PJ-30	削器	頁岩	1/1	67.0	82.0	10.0	60.40	埋土出土。横長剥片の薄い側縁に使用痕がついている。
3182	PJ-30　51	打製石斧	頁岩	破片				44.00	炉南東、床面で出土。刃部側の破片。刃部は摩耗して円礫状に平滑。
3183	PJ-30　11	打製石斧	黄色風化泥岩	1/1	101.0	48.0	17.0	73.20	PT721 東、床面から 6 cm浮いて出土。刃部側がひろいしゃもじ形。器面が風化し、使用痕は観察できない。
3184	PJ-30　6	石核	黒曜石					40.30	炉南西、床面から 28 cm浮いて出土。角礫ズリ状の礫面が残る。全体にやや風化しているようにみえる。
3185	PJ-30　b.d 区上層	打製石斧	砂岩	破片				52.90	住居北側埋土出土。刃部と基部を折損
3186	PJ-30　a.c 区下層	両極石器	珪質頁岩	1/1	42.0	23.0	11.0	11.50	住居南側埋土出土。青灰色に白い筋が入る珪質頁岩。
3187	PJ-30	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				9.90	埋土出土。剥片の一辺に使用痕
3188	PJ-30　a 区	原石	黒曜石					10.10	角礫ズリの一発コア。なぜこのような原石が搬入されるのか？
3189	PJ-30　c 区	両極石器	珪質頁岩	1/1	39.0	22.0	7.0	3.60	青灰色で白い筋が入る珪質頁岩。砕片を両極石器に使用。
3190	PJ-30	石鏃	黒曜石	1/2	24.2		4.2	(0.93)	先端折損、片側側縁は節理面で割れ
3191	PJ-30　a 区	石鏃	黒曜石	破片				0.48	石鏃未成品か
3192	PJ-30	両極石器	黒曜石	1/1	23.0	18.0	8.0	2.90	礫面が残る剥片。暗赤色の斑入り黒曜石
3193	PJ-30	両極石器	黒曜石	1/1	18.0	17.0	4.0	1.40	やや透明な黒色で、表面が擦りガラス状の黒曜石
3194	PJ-30　b.d 区上層	両極石器	黒曜石	1/1	21.0	13.0	9.0	2.40	
3195	PJ-30　c 区	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.50	灰色、半透明の黒曜石
3196	PJ-30　d 区	石錐	黒曜石	1/1	18.0	13.0	4.0	0.70	漆黒の黒曜石剥片を素材とし、両面に調整がはいっている。石鏃未成品か
3197	PJ-30	両極石器	黒曜石	1/1	12.0	9.0	4.0	0.50	小指の爪サイズの両極石器
3198	PJ-30　a.　b 区上層	剥離のある剥片	黒曜石					0.40	微小な使用痕？がある砕片

PJ031 号住居

位　　置：F-13 グリッドに位置する。DK258 号土坑と DK260 号土坑に切られる。

規　　模：調査区境界をまたぐ遺構で、南側と東側は農地境界で削平されている。推定規模は径 5.5m 程度の円形である。竪穴は深さ 10 cmが残る。

埋　　土：暗褐色を基調とする埋土で、竪穴が浅いことから耕作等の影響が大きく、堆積層理は確認できなかった。

床　　面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。踏みしまった硬化面は検出されなかった。

**炉　　**：検出されなかった。

周　　溝：西壁沿いで小溝を検出した。

柱　　穴：壁にそって弧状に配置されたピットを検出した。PT706、PT710 号ピット、DK258 号土坑と重複する PT707b 号ピットが主柱穴で、壁柱穴がめぐる構造と考えられる。主柱穴 1 基は DK260 号土坑に切られて失われたと思われる。

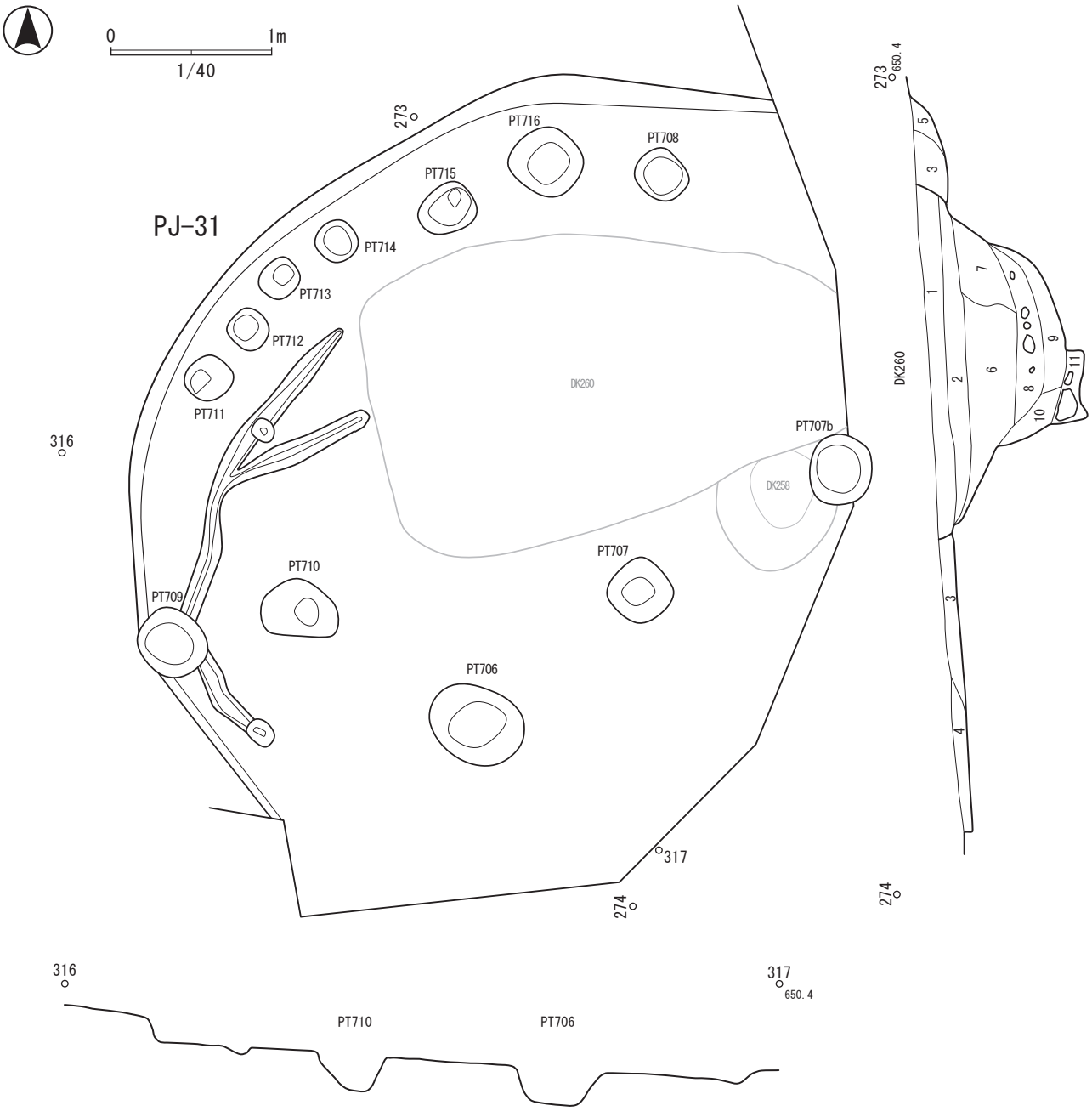
出土遺物：埋土から遺物がまばらに出土した。出土した土器の総量は 3,226g で、早期条痕文系土器 18g、神ノ木台式 15g、木島式 15g、中越式 1,409g、神ノ木式 580g、関山式 82g、堂之上 Z 式 6g、有尾式 146g、諸磯式 222g、前期土器破片 698g、中期土器破片 22g である。

出土した石器は、石鏃 4 点、磨石類 2 点、軽石製品 1 点、ハンマー 1 点、剥離のある剥片 3 点、黒曜石原石 1 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・砕片 115 点 272g が出土した。

時　　期：遺構の時期を端的に示す遺物の出土状況は確認されなかったが、出土土器の総量から本住居は神ノ木式を伴う中越式期に位置づけられると思われる。

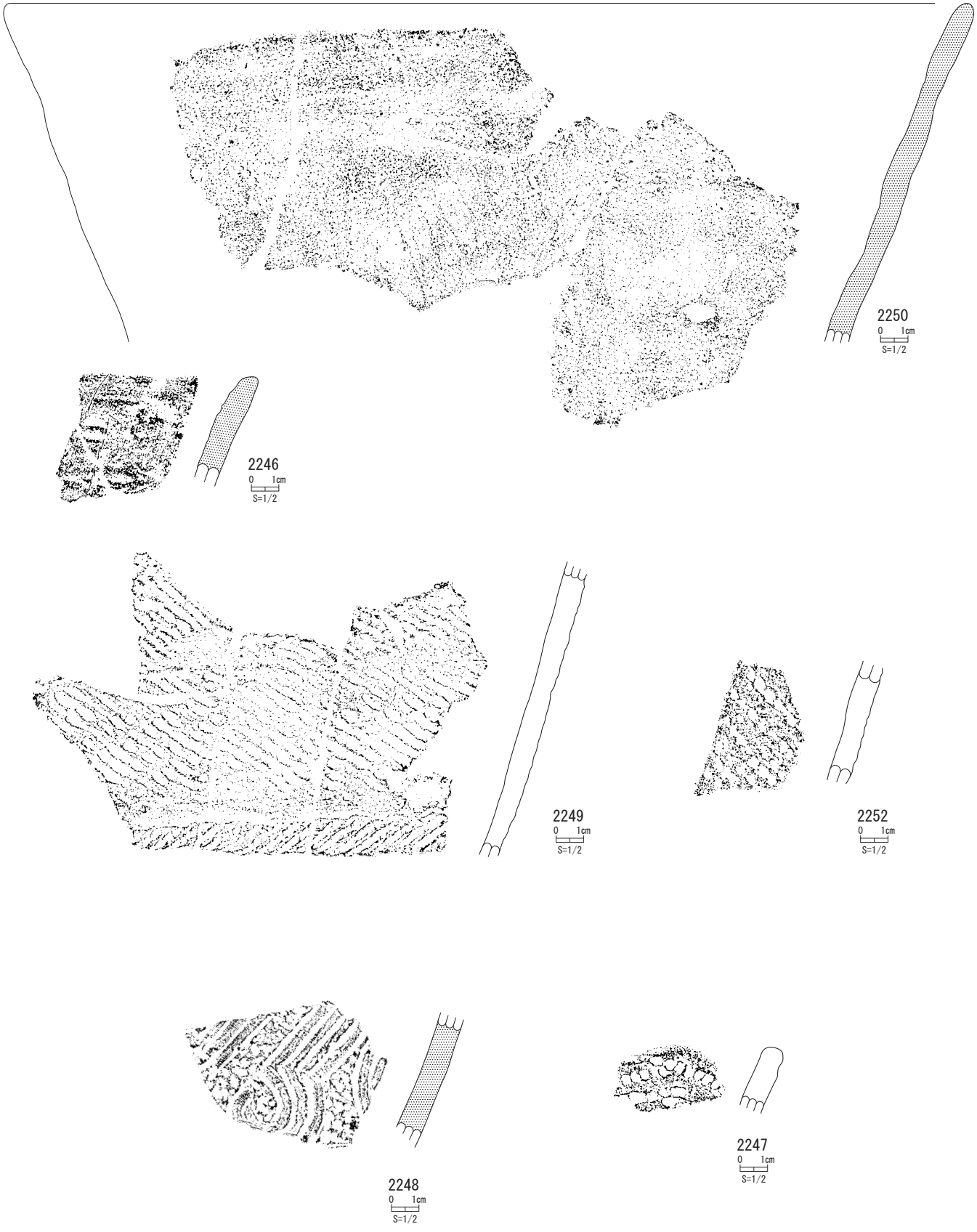
PJ031 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
PT-706	31 住内	55*41	24	10YR5/4（にぶい黄褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-707	31 住内	33*31	15	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR5/4（にぶい黄褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-707b	31 住内	30	40	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR5/4（にぶい黄褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK268 底面で検出、DK268 に切られる。
PT-708	31 住内	30*28	7	10YR4/4（褐）に 10YR5/4（にぶい黄褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-709	31 住内	40*41	30	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5%、10YR2/3（黒褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-710	31 住内	31*30	21	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR4/4（褐）が 5%、10YR2/2（黒褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-711	31 住内	21*17	35	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-712	31 住内	24*22	10	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-713	31 住内	15*17	33	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-714	31 住内	24	7	10YR4/4（褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10%、10YR2/2（黒褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-715	31 住内	17*20	40	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-716	31 住内	40	19	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式

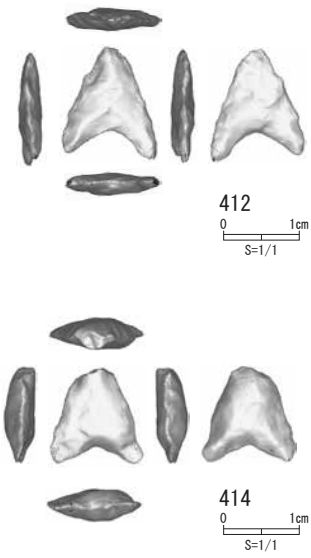


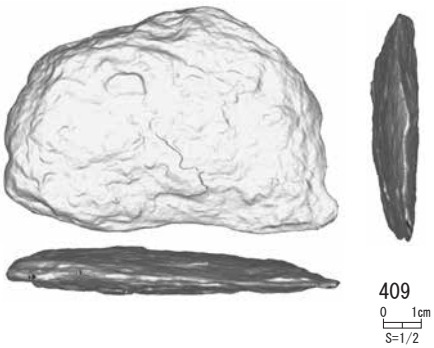
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が20%、10YR3/3(暗褐)が10%、10YR2/1(黒)が1%、10YR4/4(褐)が2%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が30%、10YR3/3(暗褐)が3%、10YR2/1(黒)が1%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR2/2(黒褐)が3%、10YR4/4(褐)が2%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR2/1(黒)が5%、10YR4/4(褐)が1%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。(盛土層)
5層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が30%混じるシルト粒土。粘性なし。ややしまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
7層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
8層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/3(黒褐)が7%、10YR4/4(褐)が3%、花崗岩を含む礫層が、混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
9層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が3%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
10層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が7%、10YR2/2(黒褐)が5%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
11層　10YR4/6(褐)に10YR2/3(黒褐)　が2%、花崗岩の崩れた租砂層が、混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。

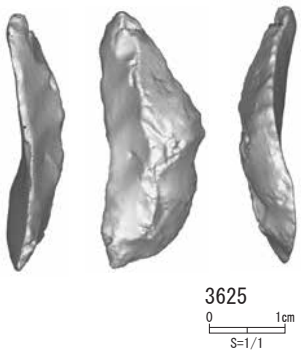
PJ031 号住居

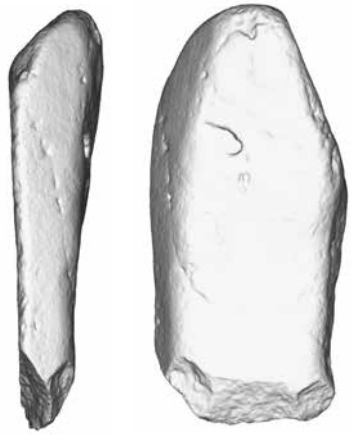


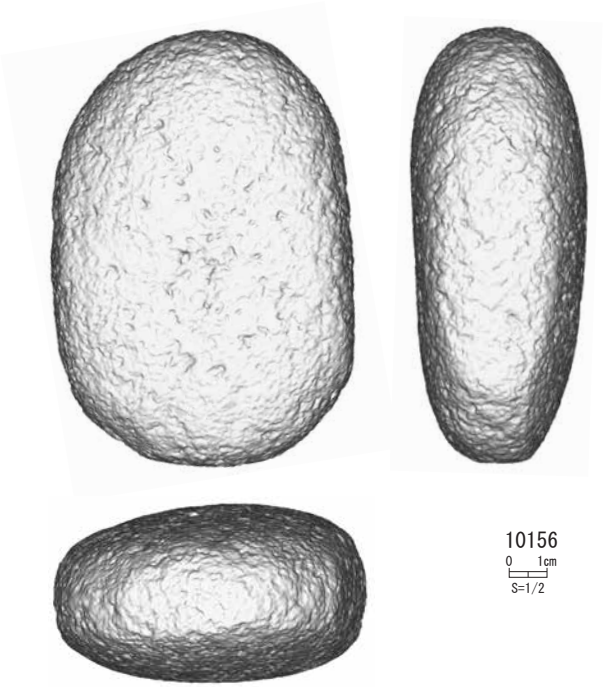
PJ031 号住居出土遺物











PJ031 号住居出土遺物

PJ031 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2246	PJ-31	口縁部				23.0	破片	10YR6/6 10YR6/6	内外面に整形の凹凸が残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越式
2247	PJ-31	口縁部				11.0	破片	7.5YR6/6 5YR6/6	波状口縁。連点状刺突文。内面ナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式
2248	PJ-31	胴部				38.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR5/4	菱形構成の文様。竹管平行沈線、縄文。内面ていねいなミガキ。胎土に繊維を含む。関山式
2249	PJ-31	胴部				148.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	羽状施文の縄文、内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2250	PJ-31 3、PJ-31、DK260 上層	口縁部～胴部	(35.0)			536.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR4/3	内外面に整形の凹凸が残る。胎土に繊維を含む。中越式
2252	PJ-31 床面	胴部				19.0	破片	7.5YR5/6 5YR5/6	複節縄文。内面指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式

PJ031 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0409	PJ-31　1	剥離のある剥片	砂泥交互	1/1	60.0	88.0	12.0	75.50	PT706 西側、床面出土。薄い剥片の縁辺に調整。刃部は素刃。風化し使用痕不明
0410	PJ-31	原石	黒曜石					12.40	ズリ。透明系黒曜石
0411	PJ-31　2	石鏃	黒曜石	3/4	-	-	2.9	(0.33)	凹基、両面加工、両脚欠損。透明黒曜石
0412	PJ-31	石鏃	黒曜石	1/1	15.0	12.2	3.1	0.34	凹基、両面加工、先端欠損。黒筋のある透明黒曜石
0413	PJ-31	石鏃	黒曜石	1/1	25.4	23.9	11.6	5.95	未成品。風化剥離面状の自然面がある素材を両面、四方から調整。三角形状ができつつあり、素材の厚みが残る段階。透明黒曜石
0414	PJ-31　a 区	石鏃	黒曜石	3/4	(13.3)	12.3	4.0	(0.49)	凹基、両面加工、先端欠損。やや灰色がかった葛湯状透明黒曜石
0415	PJ-31	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.10	剥片の縁辺に両面から調整剥離。葛湯状透明黒曜石
3625	PJ-31 d 区	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	34.0	15.0	5.0	2.40	水磨のある自然面が残る剥片の縁辺に微小剥離と潰れ。透明黒曜石
10156	PJ-31　5	磨石類	安山岩類	1/1	117.0	87.0	48.0	599	石鹸形。広い 2 面は摩耗が弱く、中心に敲打集中。側面 2 面は稜磨石状。長軸端面に敲打による平坦面。多孔質安山岩
10157	PJ-31	ハンマー	砂岩類	3/4	52.0	(113.0)	24.0	177	扁平板状礫。長軸端部に敲打痕。別の端面に剥離。側面の一稜に線状敲打痕。細粒砂岩
10158	PJ-31	軽石製品	軽石	破片	(46.0)	(48.0)	(14.0)	10	扁平板状で、角が丸く摩耗した軽石破片。製品断片か。黄橙色、多孔質な軽石
10159	PJ-31　4	磨石類	安山岩類	1/2	(79.0)	70.0	54.0	390	楕円形。広い 2 面が摩耗、敲打集中の深い凹み。側面 2 面が稜磨石状。長軸端面に敲打痕。多孔質安山岩

PJ032 号住居

位　　置：E-3 グリッドから F-3 グリッドにまたがって検出された。竪穴は全く遺存しておらず、小溝で円形につながったピットが検出されたことから住居と認定した。

DK4 号､DK5 号､DK8 号､DK9 号､DK10 号土坑と重複する。これらは近世以降の土坑である。また HO03 号、HO05 号、HO06 号、HO07 号建物跡と重複する。

規　　模：小溝で囲まれた範囲は、直径 4m 程度の不整円形であるが、これが住居規模を反映するか不明である。

床　　面：硬くしまった床面は検出されなかった。

**炉　　**：検出されなかった。

周　　溝：ピットをつなぐ小溝が検出された。小溝は幅の割りに深く、MZ001 号溝跡と命名した。

柱　　穴：PT220、PT211、PT212、PT346 号ピットの 4 基が整った方形に配置し、かつ深さも 31cm から 45cm と深い。これらを主柱穴とみて、小溝でつながるピットを壁柱穴とみれば、中心点がずれるが構造的には完備された建物跡とみなすこともできる。ただしPT220 号ピットはHO06 号掘立柱建物跡を構成するピットとみられ、重複している可能性もある。

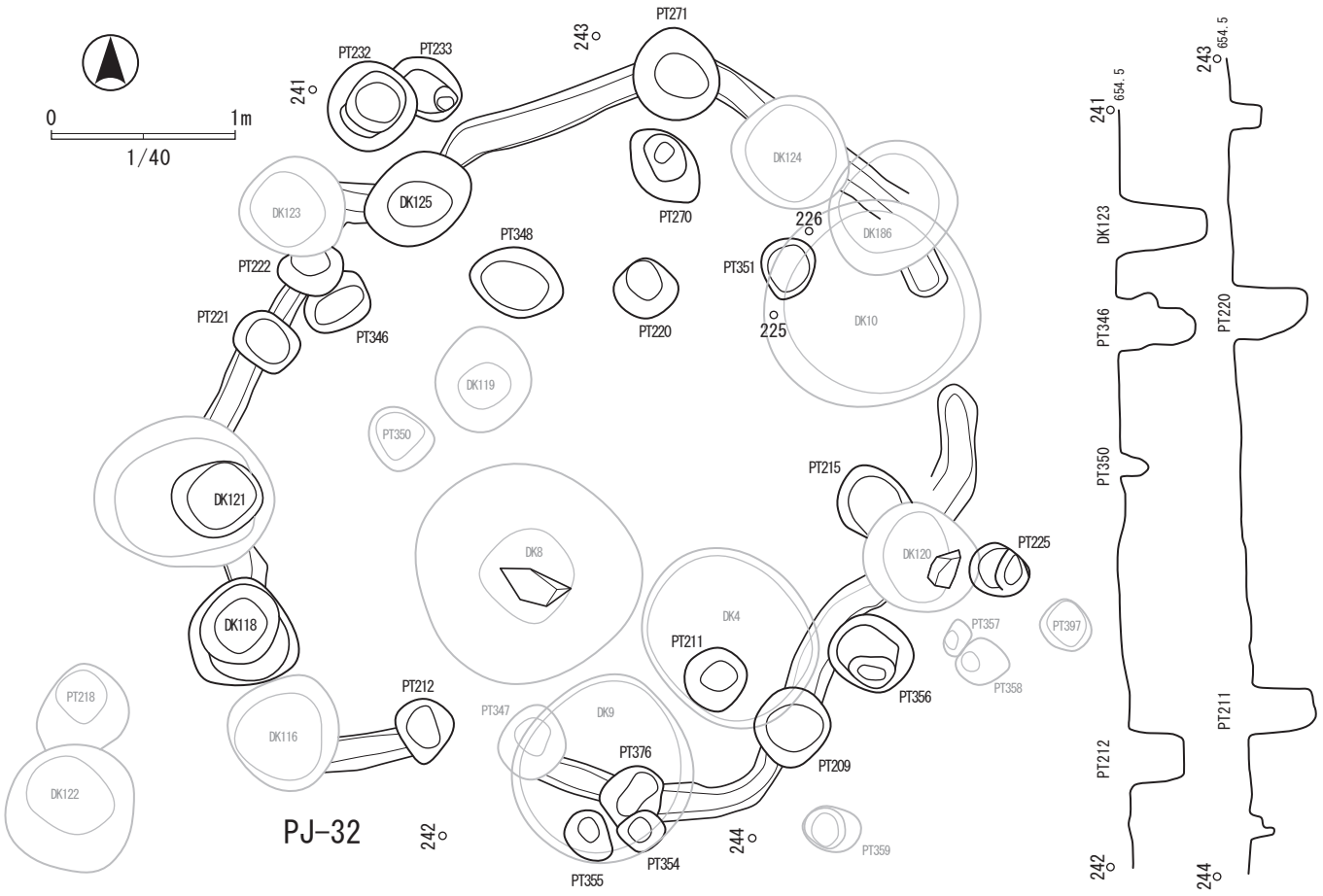
出土遺物：前期と中期の土器破片が散漫に出土し、遺構の時期を明示する出土状況は認められなかった。厚手で無文の中期と思われる土器破片も混じるが、時期が明瞭な破片は諸磯式が多い。

小溝で囲まれた範囲で出土した土器の総量は 1,180g で、中越式 115g、諸磯式 607g、中期中葉 373g である。小溝の範囲で出土した石器は、磨石類 1 点、黒曜石剥片 13 点、黒曜石原石 7 点である。PT351 号ピットは深さ 10cm の浅い小穴で、黒曜石原石 7 点、石核状の剥片 1 点がまとまって出土した。類似した黒曜石の集積は、PJ71 号住居内でもみられた。

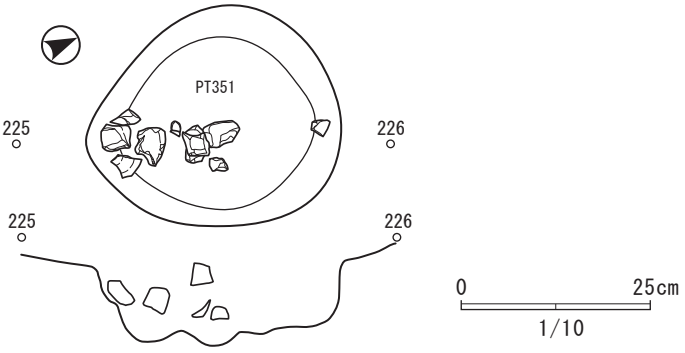
時　　期：ピットが小溝で連結する形態から中期中葉の住居を想定したが、ピットで出土する土器は前期のみで、ごくわずかに中期土器の小片が混じる程度であった。したがって本遺構が住居であるなら諸磯 b 式期と思われる。

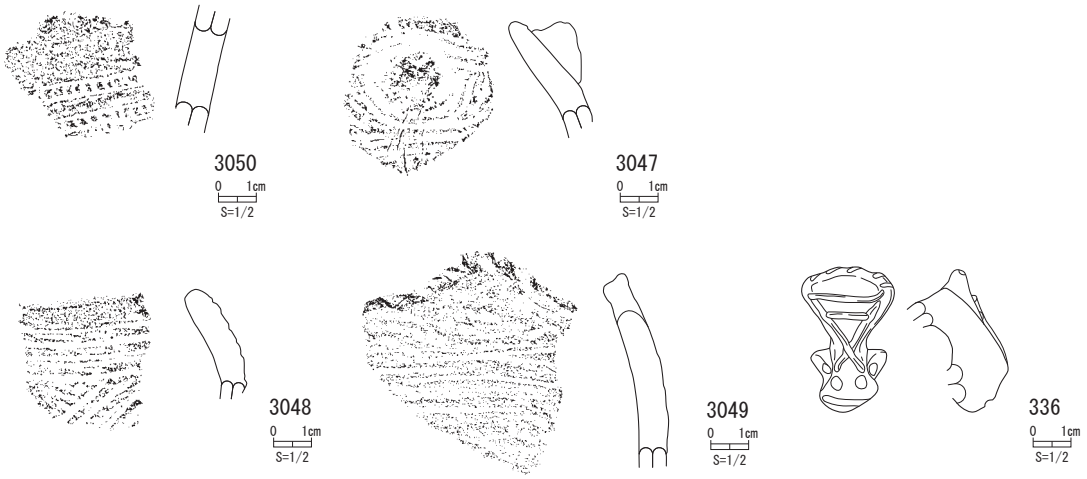
PJ032 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-209	32住 南壁	36*39	19	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神之木式？土器破片
PT-211	32住内	30*29	35	10YR3/4（暗褐）に 10YR5/6（黄褐）が 10% 炭化物が 1% 以下混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式浅鉢破片
PT-212	32住 南壁	31*27	31	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	砥磨石
PT-215	32住内	50*36	38	10YR3/4（暗褐）に 10YR2/3（黒褐）が 10%、10YR5/6（黄褐）と 10YR4/4（褐）が 5%、炭化物が 1% 以下混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器破片、諸磯 b 式土器破片
PT-220	32住内	30*30	40	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式土器小片。HO06 号掘立柱建物跡を構成するピットと重複
PT-221	32住 西壁	30*30	32	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式土器破片
PT-222	32住内	30*20	21	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-225	32住 東 0.5m	30*27	25	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/6（褐）が 5%、焼土が 1% 以下混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-232	24住 南 0.5m	40*42	25	10YR3/4（暗褐）に 3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式土器破片
PT-233	24住 南 0.5m	30*20	14	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器破片
PT-270	32住内	46*30	27	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式土器破片
PT-271	32住 北壁	44*45	20	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）と 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-346	32住内	36*28	45	10YR3/4（暗褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-348	32住内	49*33	25	10YR3/4（暗褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式土器破片
PT-351	32住内	30*25	10	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10% 混じる。シルト粒土。しまる。	諸磯式土器破片、黒曜石原石、石核 8 点
PT-354	32住 南壁	24*39	35	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT-355 を PT-354 が切る
PT-355	4住 北西 20m	30*33	25	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR3/2（黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-356	32住 南東壁	38*40	20	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-376	32住 南壁	22*30	40		中越式土器破片

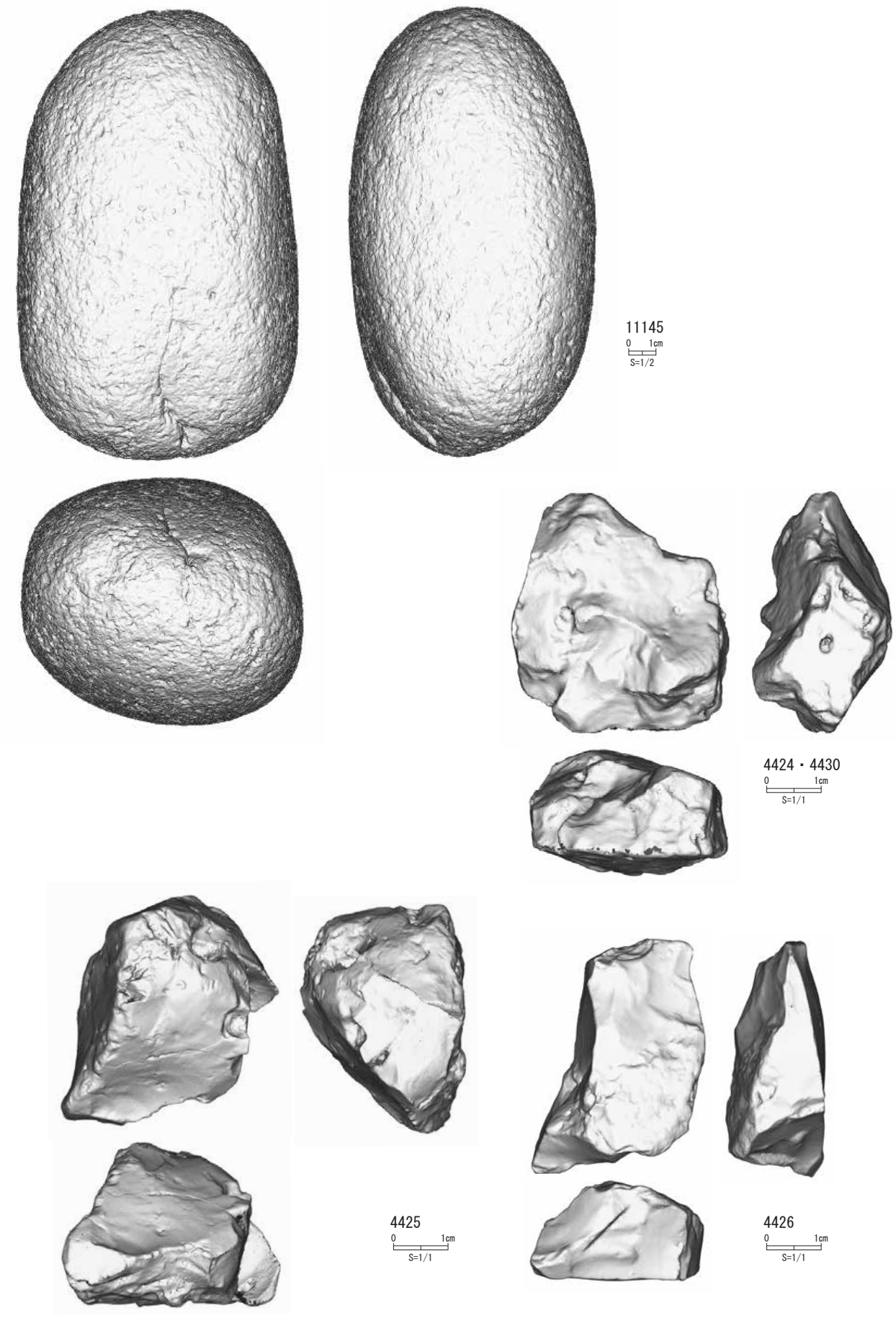


PT351(黒曜石埋納土坑)

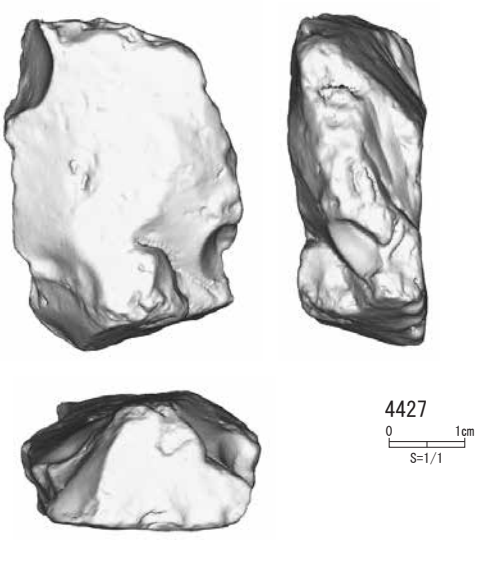


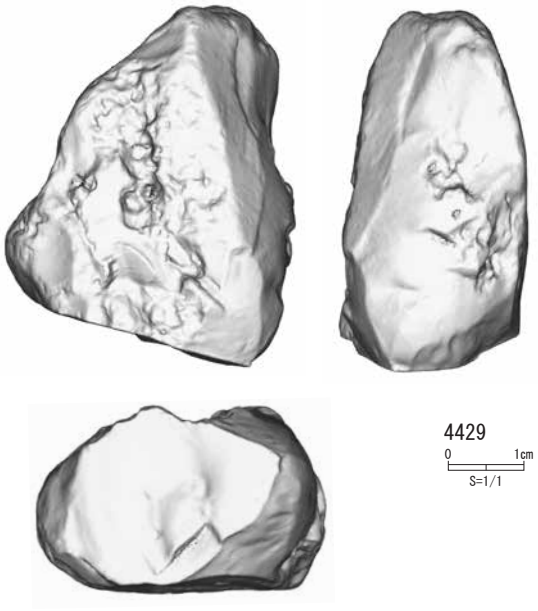


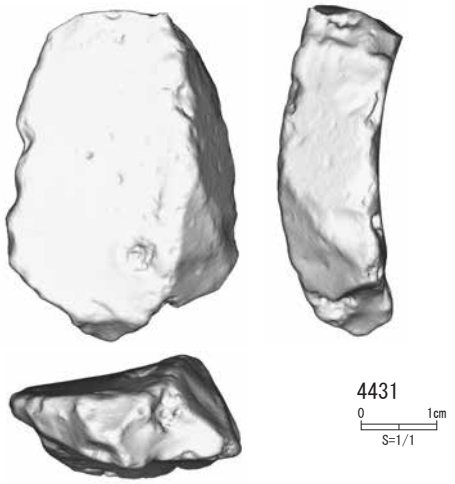
PJ032 号住居・出土遺物

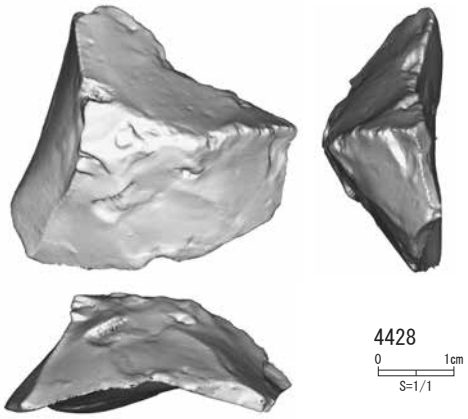


PJ032 号住居・出土遺物


4427
0 1cm
S=1/1


4429
0 1cm
S=1/1


4431
0 1cm
S=1/1


4428
0 1cm
S=1/1

PJ032 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
336	PT-215	—	-	-	-	11.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	PJ32 号住居内の PT215 号ピット出土。獣面突起破片。諸磯ｂ式中段階
3047	IG-1590	口縁部				17.0	破片	5YR4/6 2.5YR4/6	ボタン状貼付文化した獣面突起破片。諸磯ｂ式新段階
3048	IG-1591	口縁部				12.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	半截竹管の沈線文と縄文。諸磯ｂ式
3049	IG-1591	口縁部				25.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/2	小さな波状口縁。まばらでかすかな縄文地文と横位の沈線文。諸磯ｂ式
3050	PT-351	胴部				22.0	破片	5YR4/3 7.5YR3/3	PT351 号ピットで黒曜石原石とともに出土。やや幅狭の竹管押引文。諸磯ａ式新段階

PJ032 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
4424	PT-351 図 1	原石	黒曜石		28.0	28.0	22.0	21.70	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。4430 と接合する。固まったアスファルトのような礫面。半透明の黒曜石
4425	PT-351 図 4	原石	黒曜石		37.0	47.0	31.0	50.10	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。固まったアスファルトのような礫面。赤褐色斑入りの半透明黒曜石
4426	PT-351 図 5	原石	黒曜石		45.0	30.0	18.0	22.30	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。ざらざらした礫面と風化した割れ面で囲まれた原石。赤褐色斑入りの半透明黒曜石
4427	PT-351 図 6	原石	黒曜石		45.0	31.0	18.0	28.40	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。ざらざらした礫面に囲まれた亜角礫状の原石。赤褐色斑入りの黒曜石
4428	PT-351 図 7	剥片	黒曜石		35.0	36.0	14.0	12.20	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。ざらざらした亜角礫原石の一部を割り取った剥片。黒色で透明感のない黒曜石
4429	PT-351 図 9	原石	黒曜石		46.0	38.0	23.0	49.10	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。固まったアスファルトのような礫面。一部が割られた一発コア状原石。黒色で透明感のない黒曜石
4430	PT-351 図 10	原石	黒曜石		23.0	38.0	21.0	15.90	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。4424 と接合する。固まったアスファルトのような礫面。半透明の黒曜石
4431	PT-351 図 11	原石	黒曜石		44.0	31.0	14.0	21.80	PJ32 号住居内の PT351 号ピット出土。すりガラス状の礫面で囲まれた亜角礫状原石。半透明の黒曜石
11145	PT-212	磨石類	安山岩類	1/1	920.0	165.0	102.0	2,100	PJ32 号住居内の PT212 号ピット出土。厚みのある楕円礫の２側縁を稜磨石として使用

写真４　現状保存区域の遺構検出状況（Ｇ－１１グリッド一帯）

PJ034 号住居

位　　置：G-13 グリッドに位置する。

規　　模：調査区境界をまたぎ、北半分は未調査である。推定短軸 4m の隅丸方形住居と思われる。竪穴は深さ 20 cmが残る。

埋　　土：黒褐色土と暗褐色土が水平に堆積していた。層理間は漸移的であった。

床　　面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。踏みしまった硬化面は検出されなかった。

**炉　　**：調査範囲では検出されなかった。

周　　溝：検出されなかった。

柱　　穴：柱穴らしい規模のピット 3 基とやや大きな土坑 2 基を検出した。DK259 号土坑の底面で出土した土器破片が PJ034 号住居埋土中の土器破片と接合したことから、DK259 号土坑が住居埋土を切って掘り込まれ、床面から 10 cm以上浮いた埋土出土の土器破片が底面に入ったと理解し、DK259 号土坑は本住居より新しいと判断した。DK261 号土坑は埋土断面で住居を切ることが確認できず、PT724 号ピットなどと埋土質が類似することから、本住居の柱穴と考えた。これらのピットと土坑から 4 本主柱穴構造と推測される。

出土遺物：南壁近くの埋土中から土器破片がまとまって出土した。土器破片は DK259 号土坑出土の土器破片と接合した。

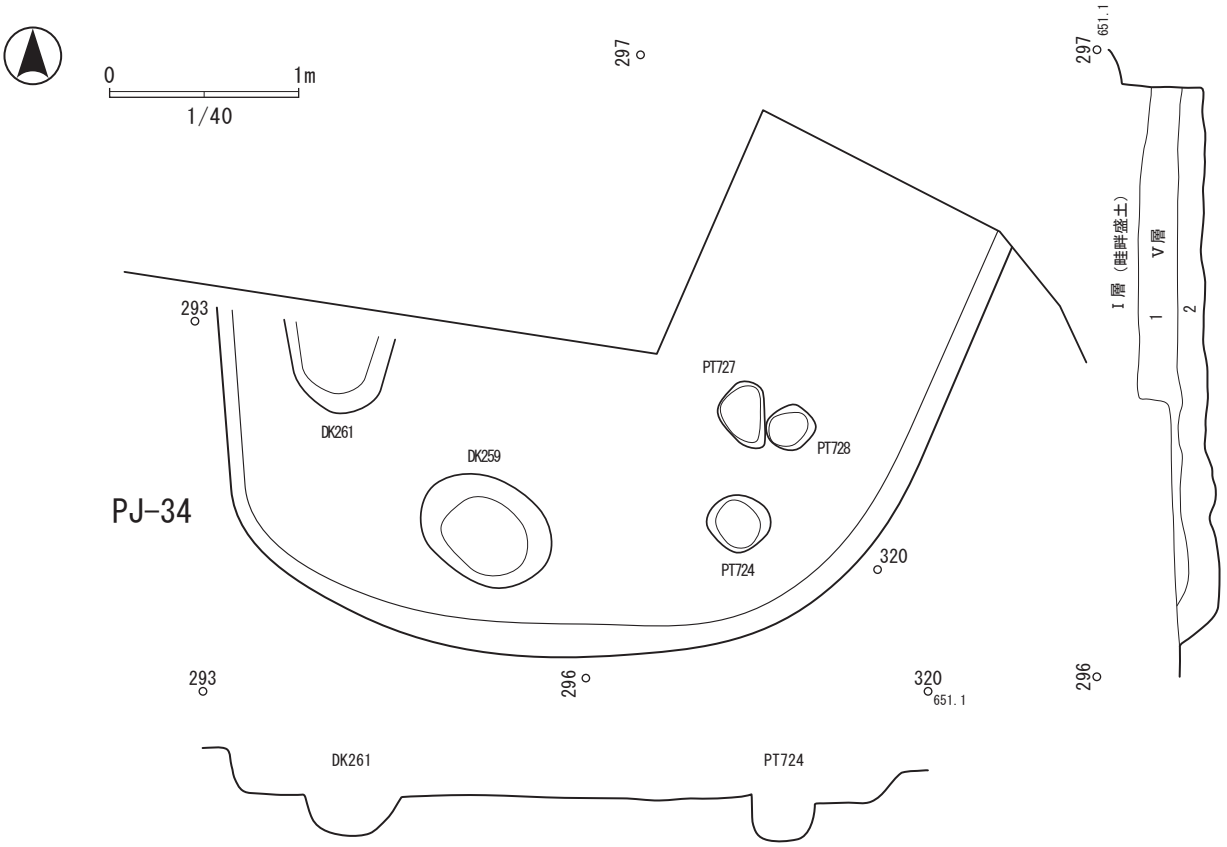
出土した土器の総量は 5,000g で、内訳は木島式 11g、中越式 656g、神ノ木式 3,791g、有尾式 104g、釈迦堂 Z3 式 31g、諸磯式 220、前期土器破片 187g などである。

出土した石器は石鏃 1 点、磨石類 1 点、黒曜石原石 1 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・砕片 5 点 67g が出土した。

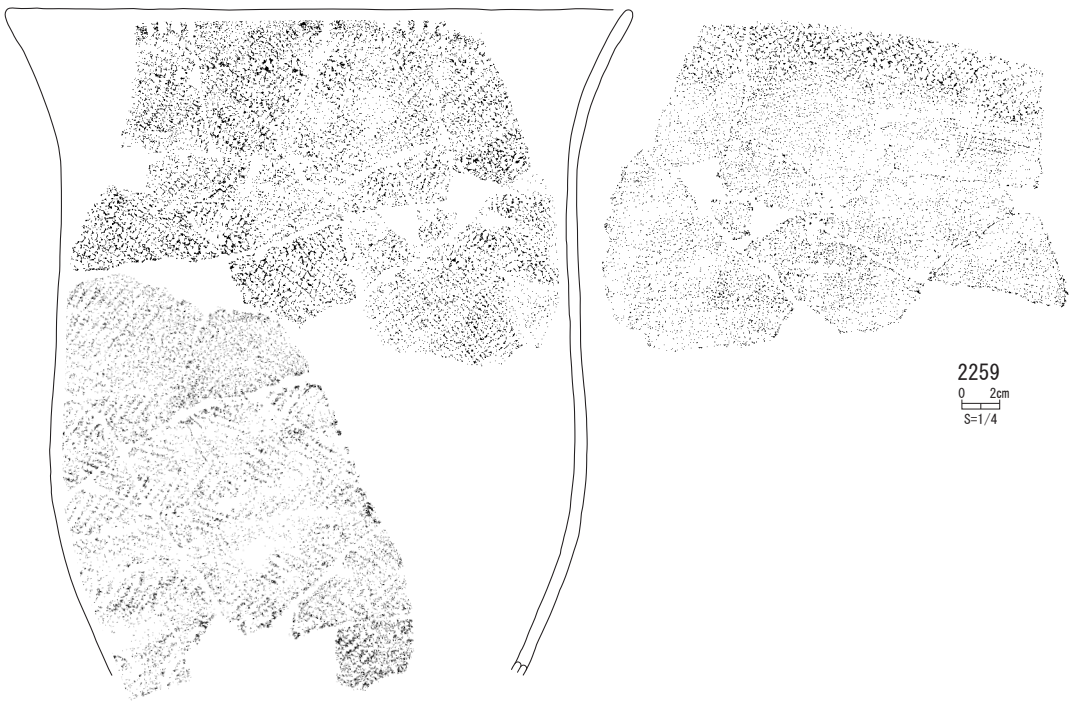
時　　期：神ノ木式土器がまとまって出土した状況から、本住居は当該時期には廃絶して埋没途上にあったと推測される。

PJ034 号住居　土坑ピット一覧表

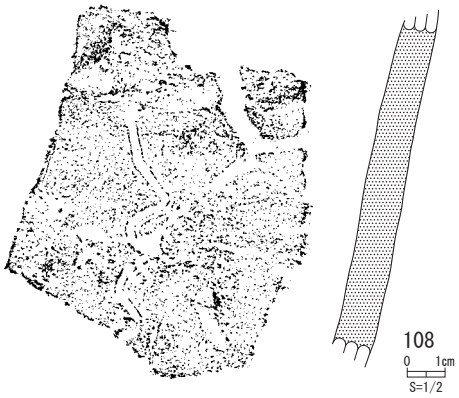
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
DK-261	34 住内	59*-	20	10YR2/3 （黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式
PT-724	34 住内	30*28	19	10YR4/4（褐）に 10YR4/6（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-727	34 住内	28*21	16	10YR4/4（褐）に 10YR4/6（褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-728	34 住内	23*23	9	10YR4/4（褐）に 10YR4/6（褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	

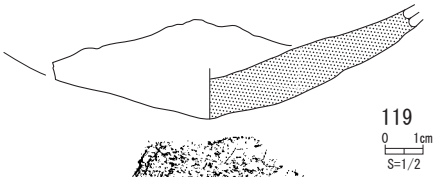


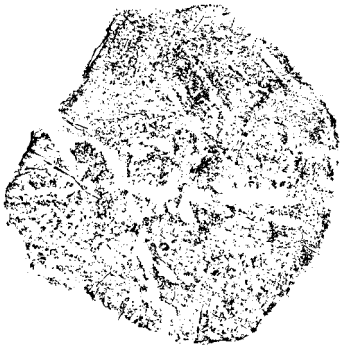
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR4/3(にぶい黄褐)が7%、炭化物1%以下、焼土1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。(V層)
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が25%、10YR2/3(黒褐)が10%、炭化物1%以下、花崗岩小礫が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。(PJ-34堆積土)
地山　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が15%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

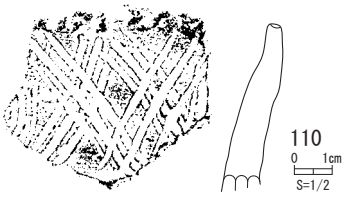


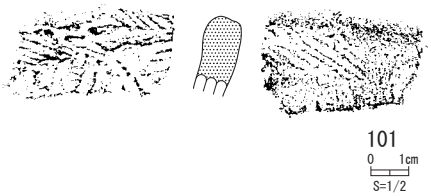
PJ034 号住居　PJ034 号住居出土遺物

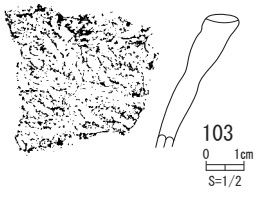


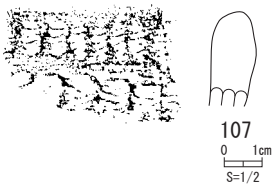


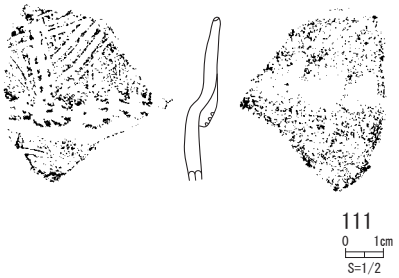


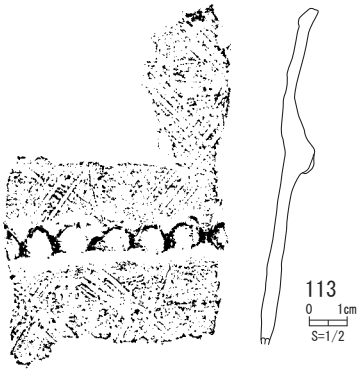


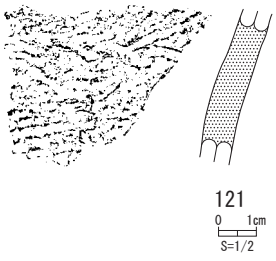












PJ034 号住居出土遺物

PJ034 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2259	PJ-34 1、2、PJ-34	口縁部～胴部	33.2	－	－	734.0	破片	5YR5/6 7.5YR5/6	口唇部刻み。内外面に接合痕がやや残る。外面は雑な菱形状に縄文施文。口縁部内面に縄文施文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2260	PJ-34 1、PJ-34 2、PJ-34 3、PJ-34、PJ-35	口縁部～胴部	23.8	－	－	537.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR4/4	口唇部に刻み。4 単位の刻み垂下隆帯。縄文。内外面に整形の凹凸、指頭圧痕が残る。外面ナデ調整、内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式併行
2262	PJ-34 1、PJ-34 2、PJ-34 5、PJ-34 6、PJ-34 7、PJ-34、PJ-31 、DK-259、1899-1	口縁部～胴部	(30.6)	－	－	1,430.0	3/5	7.5YR6/4 7.5YR6/4	口唇部に刻み。内外面に整形の凹凸が残る。縄文。内面指頭圧痕が顕著に残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2268	PJ-34 2、PJ-34 3、PJ-34、PJ-31、PJ-35、DK-259、1899-1	口縁部～胴部	(38.4)	－	－	1,562.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR7/6	やや角ばった口唇部。結節、羽状縄文。内面平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式

PJ034 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0393	PJ-34	石鏃	珪質頁岩	3/4	16.0	16.6	3.1	0.80	剥片素材の 2 辺を両面から調整。三角形状ができた段階。先端？欠損。白筋のある青灰色珪質頁岩
0394	PJ-34	原石	黒曜石					11.70	ズリ。透明系黒曜石
10609	PJ-34　4	磨石類	花崗岩類	1/1	100.0	75.0	41.0	534	楕円形。広い 2 面が摩耗、敲打集中の凹み。側面 2 面が稜磨石状。長軸端面に敲打痕。器面やや風化

写真５　調査区西端の遺構確認面（Ｆ－３グリッド付近）

PJ035 号住居

位　　置：F-13 グリッドに位置する。

規　　模：調査区境界をまたぎ、南側半分は農地境界のため削平されている。短軸推定 4m 程度の隅丸方形住居と思われる。竪穴は深さ 30 ㎝が残る。

埋　　土：暗褐色の埋土で壁沿いに地山由来の黄褐色土の三角堆積が認められた。

床　　面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。踏みしまった硬化面は検出されなかった。

炉　：調査区内では検出されなかった。PT705 号ピットを命名した浅い掘り込みには扁平礫が敷かれていた。焼土、被熱痕は認められなかったが、地床炉の可能性もあろう。

周　　溝：北壁沿いに込みを検出した。

柱　　穴：住居内で 5 基の土坑とピットを検出した。

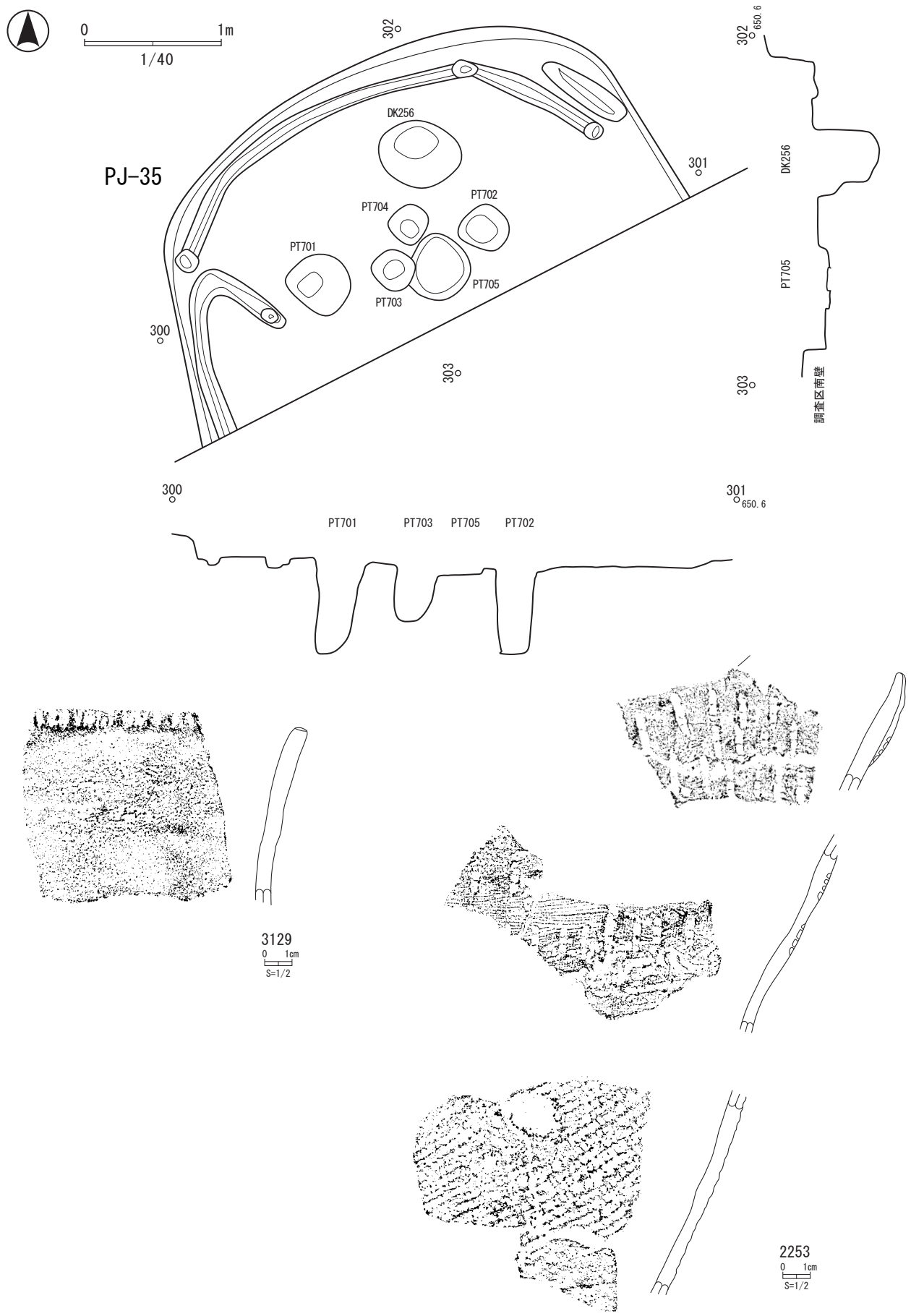
出土遺物：埋土中からまばらに遺物が出土した。出土した土器の総量は 2,076g で、内訳は神ノ木台式 34g、木島式 56g、中越式 484g、神ノ木式 616g、関山式 34g、有尾式 422g、諸磯式 69g、前期土器破片 361g などである。

出土した石器は、石鏃 3 点、削器 1 点、石匙 2 点、石錐 1 点、打製石斧 1 点、磨石類 1 点、台石 1 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・砕片 69 点 167g が出土した。

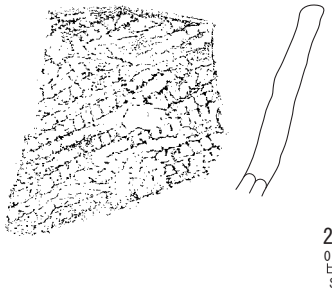
時　　期：遺構の時期を端的に示す遺物の出土状況は認められなかった。出土した土器破片はいずれも小破片で、土器型式ごとの出土量から遺構の時期を推定することも難しそうである。強いて憶測するなら神ノ木式期を中心として、旧くみれば中越式土器を伴う段階、新しくみれば有尾式土器を伴う段階と考えることができる。ただし無文、丸底の中越式とみえる土器は有尾式期にまで存続する可能性もあり、時期を絞り込むことは難しい。

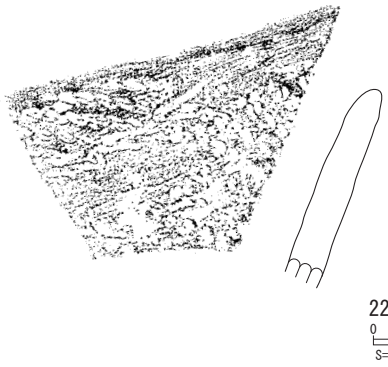
PJ035 号住居　土坑ピット一覧表

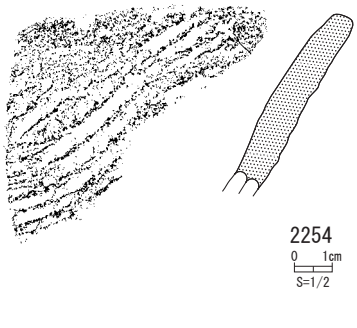
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
DK-256	35 住内	55*53	45	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	木島式、中越式
PT-701	35 住内	47*40	66	10YR4/4（褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式、有尾式
PT-702	35 住内	33*32	58	10YR4/4（褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式、神ノ木式
PT-703	35 住内	28*25	38	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-704	35 住内	27*28	30	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-705	35 住内	49*44	8	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	平石が敷かれる

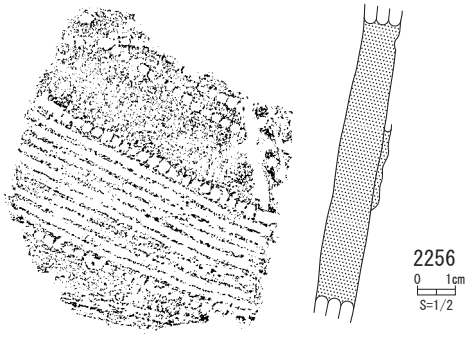


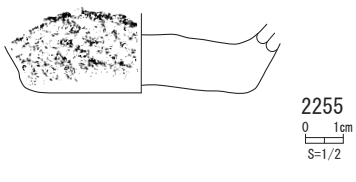
PJ035 号住居・出土遺物



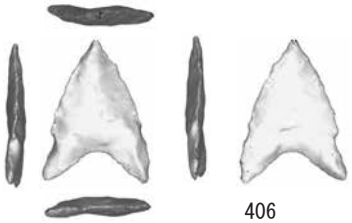


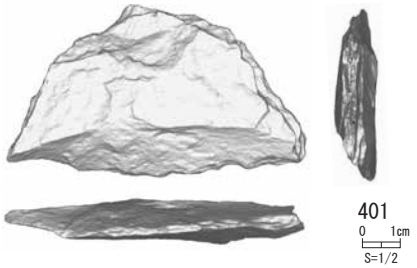


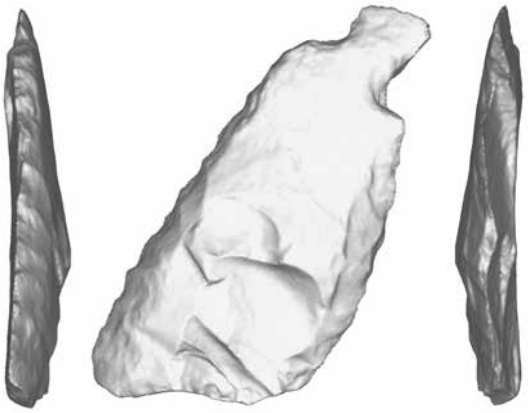


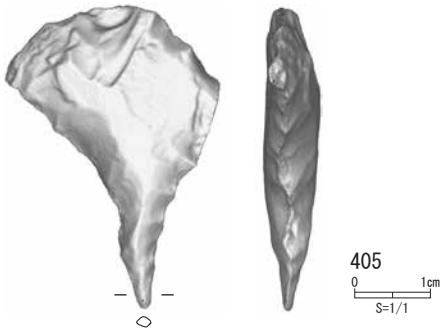


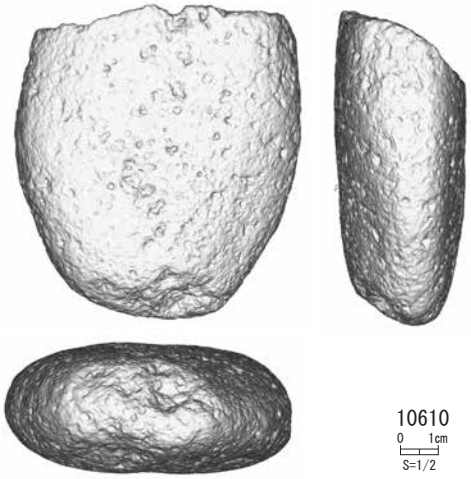
PJ035 号住居出土遺物

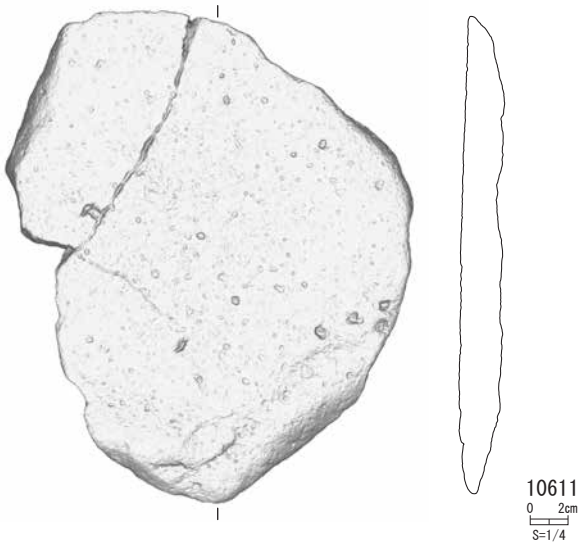












PJ035 号住居出土遺物

PJ035 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2253	PJ-35、1899-1	口縁部				118.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	低い波状口縁。肥厚口縁。櫛歯状工具の刺突文。縄文地文。内面平滑にヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2254	PJ-35	口縁部				28.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR3/2	縄文、内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。有尾式
2255	PJ-35 1	胴部～底部			6.2	84.0	破片	7.5YR5/6 5YR4/4	縄文。上げ底気味の底面。胎土に繊維を含まない。有尾式
2256	PJ-35 3	胴部				79.0	破片	2.5YR5/4 5YR3/2	連点状刺突と櫛歯状工具の条線文、刻みのある細隆線。内面平滑にミガキ。胎土に繊維を含む。有尾式
2257	PJ-35 6	口縁部				25.0	破片	10YR6/4 7.5YR5/4	縄文、内外面に整形の凹凸、指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2258	PJ-35 10	口縁部				48.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR5/3	波状口縁。複節縄文。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
3129	IG-2365	口縁部				53.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/4	口唇部に刻み。内外面に整形の凹凸がやや残る。外面ヨコナデ、内面風化。胎土に繊維を含まない。中越式
3130	IG-2365	胴部				81.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR6/4	縄の束。内面ヨコナデ。輪積み痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式

PJ035 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0401	PJ-35　9	削器	頁岩	1/1	46.0	80.0	10.0	40.00	DK256 北脇、床面出土。剥片の薄い縁辺に片刃の刃部と微小剥離。背部は粗い調整加工。刃部と廃部に弱い摩耗。
0402	PJ-35	打製石斧	頁岩	破片	67.0	60.0	16.0	60.10	刃部の破片。片面に原礫面が残る。刃部縁辺に潰れ
0403	PJ-35　2	石匙	頁岩	1/1	64.0	28.0	8.0	14.70	PT701 南脇、床面出土。原礫面が残る。剥片側縁 2 辺に片刃の刃部。刃部に微小剥離と摩耗。乳白色に風化変色
0404	PJ-35	石匙	チャート	1/1	29.0	18.0	6.0	1.57	ミニチュア石匙。内湾する刃部は両面調整で鋸歯縁状。刃部端が摩耗、石錐として使用か。灰色チャート
0405	PJ-35	石錐	珪質頁岩	1/1	40.0	28.0	7.0	5.70	錐部稜がわずかに摩耗。乳白色の珪質頁岩。搬入石材
0406	PJ-35　8	石鏃	黒曜石	1/1	19.8	14.3	2.4	0.45	凹基、両面加工。片側縁にガジリ。透明黒曜石
0407	PJ-35	石鏃	黒曜石	1/1	18.5	16.1	4.6	1.20	未成品。自然面が残る剥片素材。基部は平基の状態で、先端作出以前の段階。黒斑の透明黒曜石
0408	PJ-35	石鏃	黒曜石	3/4	19.7	20.4	5.2	2.02	未成品。裏面側縁部にコブが残る。尖端欠失で廃棄。基部は平基の状態で三角形状ができた段階。黒斑の透明黒曜石
10610	PJ-35　4	磨石類	安山岩類	1/2	(82.0)	78.0	41.0	315	やや不整な楕円形。広い 2 面に摩耗、敲打集中の凹み。側面に敲打痕。長軸端面に剥離。多孔質安山岩
10611	PJ-35　11	台石	安山岩類	1/1	230.0	238.0	29.0	1,914	PT705 に据えられていた平石。平坦な 1 面に摩耗、敲打痕。表裏面ともに被熱して黒く変色

PJ036 号住居

位　　置：H-11 グリッドに位置する。

規　　模：黒色の落ち込みを検出したが遺構の範囲、形状が不明瞭であったためトレンチを発掘して調査したところ、現状保存措置が決まったため未発掘となった。トレンチ調査結果をみる限り、竪穴が浅い遺構と深い遺構の 2 基が重複している可能性がある。

出土遺物：遺構確認面とトレンチで出土した遺物がある。PJ036 号住居とした範囲で出土した土器の総量は 4,874g で、内訳は早期条痕文系土器 9g、神ノ木台式 11g、木島式 99g、中越式 1,350g、神ノ木式 175g、有尾式 53g、諸磯式 1,441g、十三菩提式 16g、前期土器破片 1,095g、五領ヶ台式 59g、中期土器破片 543g などである。

出土した石器は、石鏃 2 点、削器 2 点、石匙 1 点、剥離のある剥片 1 点、円礫 1 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・砕片 40 点 123g が出土した。

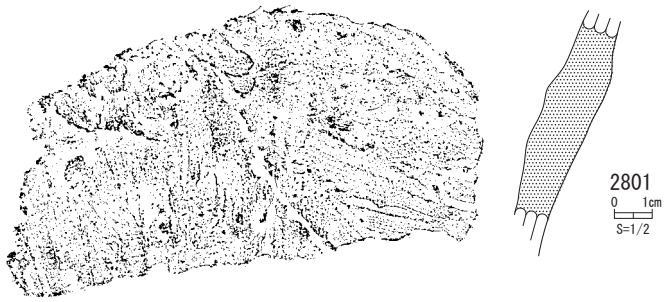
時　　期：遺構確認とトレンチ調査にとどまったため、時期は不明である。出土した土器は諸磯式土器が多い。本住居の近くにも諸磯式期の集石土坑が分布することから、当該時期の住居の存在も想定し得るだろう。

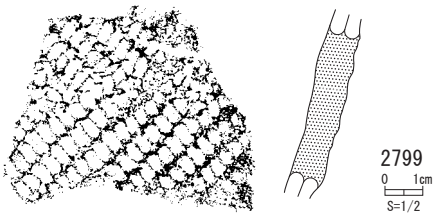
PJ036 号住居　土器観察表

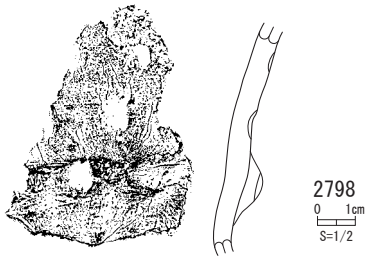
実測番号		部位	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2299	IG-2189	口縁部	16.0	破片	5YR5/4 7.5YR3/2	口縁部に輪状、平行線状の細粘土紐を貼付。竹管押引文、平行沈線文。十三菩提式
2310	IG-2171	口縁部	34.0	破片	5YR4/6 5YR4/3	波状口縁。円文。条線文。内面ミガキ。諸磯ａ式
2798	PJ-36（a）	胴部	22.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	爪形状刻み、隆帯。内外面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。木島式
2799	PJ-36（a）、PJ-36（c）	胴部	33.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/3	羽状縄文。内面指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。神ノ木式
2800	PJ-36（c）	口縁部	8.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	櫛歯状工具の条線文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式併行
2801	PJ-36（c）	胴部	107.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	内外面に整形の凹凸が残る。雑なタテ、ヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。中越式併行

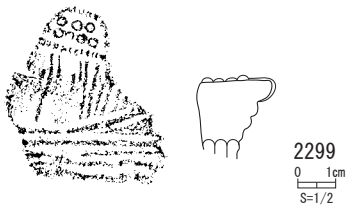
PJ036 号住居　石器観察表

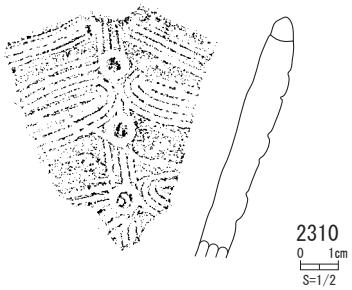
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
0395	PJ-36　a 区	削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	41.0	65.0	11.5	27.50	剥片の 1 辺に掻器状の刃部。刃部縁辺が摩耗。黄色く風化し使用痕不明
0396	PJ-36　a 区	石鏃	黒曜石	3/4	－	(16.2)	3.6	(0.66)	凹基、両面加工。先端欠損。わずかに発泡。被熱。透明黒曜石
0397	PJ-36　a 区	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	16.6	13.8	6.2	1.25	小さな剥片の縁辺に調整剥離と微小剥離、潰れ。葛湯状透明黒曜石
0398	PJ-36　b 区 1	石匙	珪質頁岩	1/1	35.0	26.0	6.0	5.40	つまみ部と比較して小さな身部と狭い刃部。左右から抉り調整しているため石匙とみたが、別器種か。白筋のある青灰色珪質頁岩
0399	PJ-36　b 区 2	石鏃	珪質頁岩	1/1	24.1	15.2	4.5	1.08	凹基、両面加工。灰色珪質頁岩
0400	PJ-36　c 区	削器	珪質頁岩	1/1	26.0	23.0	8.0	5.00	剥片の 1 辺に片刃の刃部と微小剥離。灰色珪質頁岩。母岩は石器 399 と同一か。
10612	PJ-36　b 区	円礫	花崗岩類	1/2	0.0	0.0	0.0	156	亜円礫。摩耗による作業面はみられない。長軸端面に弱い敲打痕。緻密な花崗岩

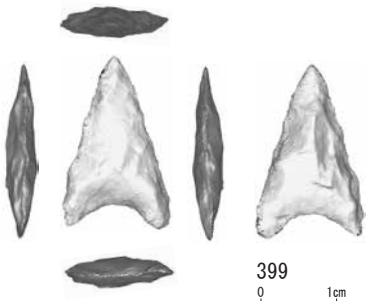


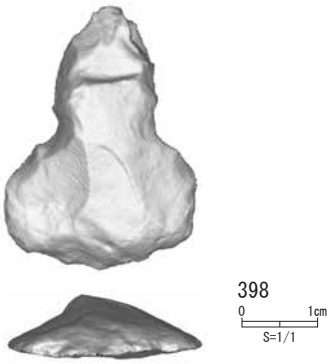












PJ036 号住居出土遺物

PJ040 号住居

位　　置：F-5 グリッドに位置する。PJ009 号住居と PJ009B 号住居に切られる。DK37 号土坑、DK226 号土坑、DK302 号土坑、DK305 号土坑に切られる。

北壁沿いで別遺構と重複すると判断し、その遺構を PJ048 号住居と名称を付したが、調査が進む過程で、遺構認定に誤りがあったと判断した。したがって PJ048 号住居は欠番とする。

規　　模：数回の建て替えが想定されるが、最大規模は南北 8m、東西 6.7m で、隅丸方形の平面形である。竪穴は深さ 80 cmが残る。

埋　　土：黒褐色土と地山由来の黄褐色砂質土、暗褐色土が縞状に堆積した層理を示し、自然堆積により埋没したと判断された。北壁沿いの 2 ヶ所の埋土最上層で散漫な焼土のまとまりを検出した。PJ009B 号住居などの地床炉とするには、位置が合致しない。

埋土中から多量の土器破片、大形破片、礫、石器が出土した。

床　　面：黄褐色砂質の地山をそのまま床面としているが、地床炉周辺で部分的な貼床が確認された。床面は住居中央がややくぼみ、壁面にむかって高くなっている。

炉　：住居中央からやや北に寄った位置で、床面が焼土化して浅くくぼんだ 2 基の地床炉を検出した。北側の地床炉は PT570 号ピットに切られていた。このことから南側の地床炉が最も新しく、北側地床炉は古い段階に位置づけられる。

周　　溝：壁沿いに小溝を検出した。さらに同心円状に数条の小溝を検出した。断片的な小溝もあり、正確な条数は不明であるが、数度の拡張、建て替えが想定される。

柱　　穴：周溝から想定される建て替え回数ほどではないが、3 組の柱穴が検出された。最も新しい段階の柱穴は、DK317 号ピット、DK318 号ピット、PT561 号ピット、PT568 号ピットの 4 基である。これらのピットは本来の柱穴よりも大きな掘り方を伴い、抜き取り痕と考えられる。DK304 号土坑は PT568 号ピットの抜き取り痕である。これらのピットの埋土では、抜き取った空隙に堆積した黒褐色土と、柱を立てた際に埋め戻した黄褐色土とが確認された。この 4 基に加えて PT567 号ピットと南壁沿いの遺構番号を付さなかった長楕円形のピットが上屋構造の支持材であると推測される。PT567 号ピットは深さ 35 cm、南壁沿いの長楕円形ピットは深さ 15 cm程度と浅いものの、4 基の主柱穴の中心軸、長方形の竪穴の主軸線上に位置して、全体として整った亀甲形の柱配置となる。

次いで先行する段階の柱穴は、PT560 号ピット、PT569 号ピット、PT1137 号ピット、PT1138 号ピットの 4 基で、同じく PT570 号ピットと PT574 号ピットが亀甲形の両端を構成する。PT570 号ピットは、北側の地床炉を切って掘り込まれている。

最も旧い段階の柱穴は、PT575 号ピット、PT575B 号ピット、PT1139 号ピット、PT1140 号ピットの 4 基で、PT1136 号ピットが亀甲形の南側に位置する。北側は精査しても検出されなかったことから、PT567 号ピットと重複するか、もしくはその周辺のやや浅い小ピットが該当すると思われる。

以上のように確認される 3 組の柱穴は、中心から外側に向かって規則的に掘り込まれている。一方で地床炉は、南側が新しく、北側が旧いと判断されたことから、いくらかの違和感を感じる。住居の中心に近い位置で最も旧い段階の地床炉が検出されてもよさそうなものと思い精査したが、わずかな焼土も検出されなかった。

出土遺物：深い竪穴の埋土中から多量の遺物が出土した。出土量が多いため、床面に近い遺物、遺構の時期を推定するために重要な遺物以外は、埋土一括で取り上げた。

完形に近い土器、大型破片は埋土下層で出土した。土器破片では神ノ木式土器が多い。実測図には神ノ木式の多様なバリエーションを提示するよう努めたが、図示しきれなかった破片資料にみえる縄文原体も多様である。ただし、神ノ木式の特徴である縄の束を施文した資料が意外に少なかった。

出土した土器の総量は 104,463g で、中越式 46,662gg、神ノ木式 42,047g、木島式 689g、関山式

448g、前期と思われる破片 10,768g、木島式か中越式か判別できないもの 1,395g で、在地の中越式、神ノ木式が主体を占める。ほかに堂之上 Z 式、清水ノ上式、貝殻腹縁文土器、上の坊式、早期条痕文系土器、神之木台式、坂平式（？）、中期土器などがわずかに混じる。

PJ040 号住居埋土で出土した実測外土器のうち釈迦堂 Z3 式、有尾式、諸磯式土器は PJ009B 号住居分として分別し、PJ009B 号住居に集計した。

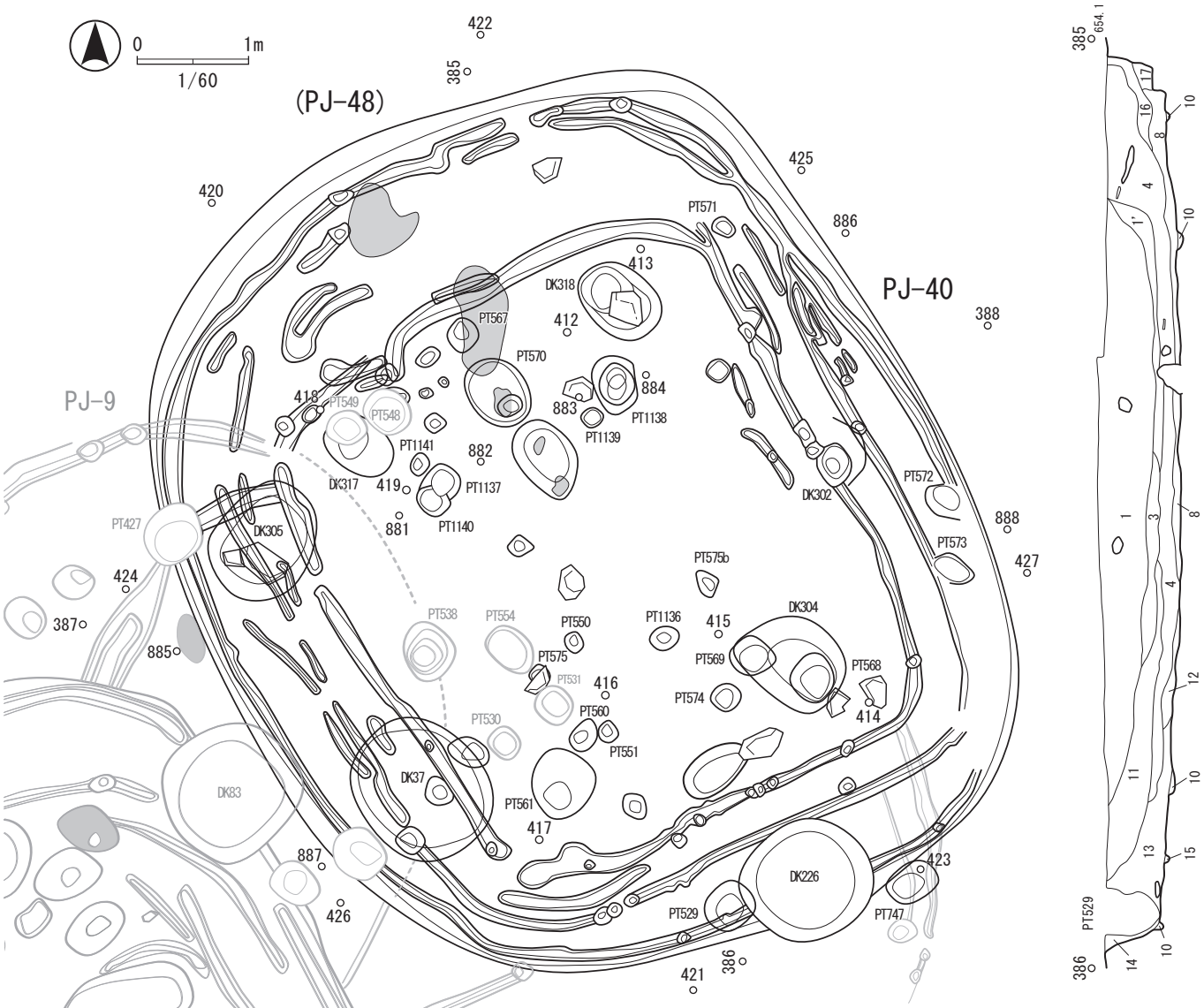
石器と剥片も多量に出土した。石器は時期ごとに分別できないため、すべて本住居分として観察し、集計した。しかし出土土器の型式と照らし、諸磯式期などの石器が少なからず混入していると推測される。

出土した石器は、石鏃 132 点、削器 13 点、掻器 1 点、石錐 20 点、両極石器 9 点、石匙 10 点、ミニチュア石匙 2 点、打製石斧 1 点、横刃形石器 1 点、石皿 4 点、磨石類 25 点、台石 10 点、ハンマー 12 点、磨製石斧 1 点、礫器 5 点、黒曜石石核 2 点、剥片 38 点、黒曜石原石 10 点、礫 3 点である。

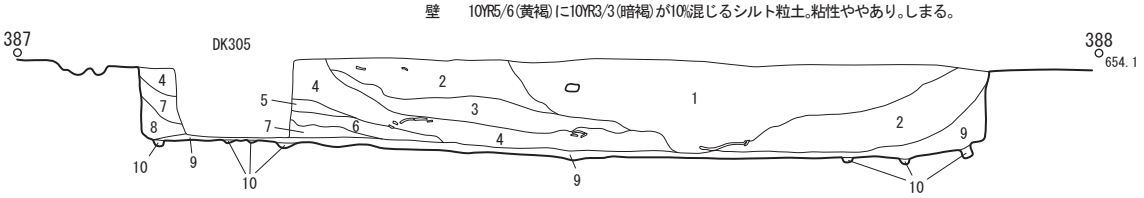
時　　期：遺構の時期を端的に示す遺物には恵まれなかったが、床面ないし埋土下層から中越Ⅳ式と神ノ木式土器が多量に出土していることから、本住居は当該時期に位置づけられる。

PJ40 号住居土坑ピット一覧表

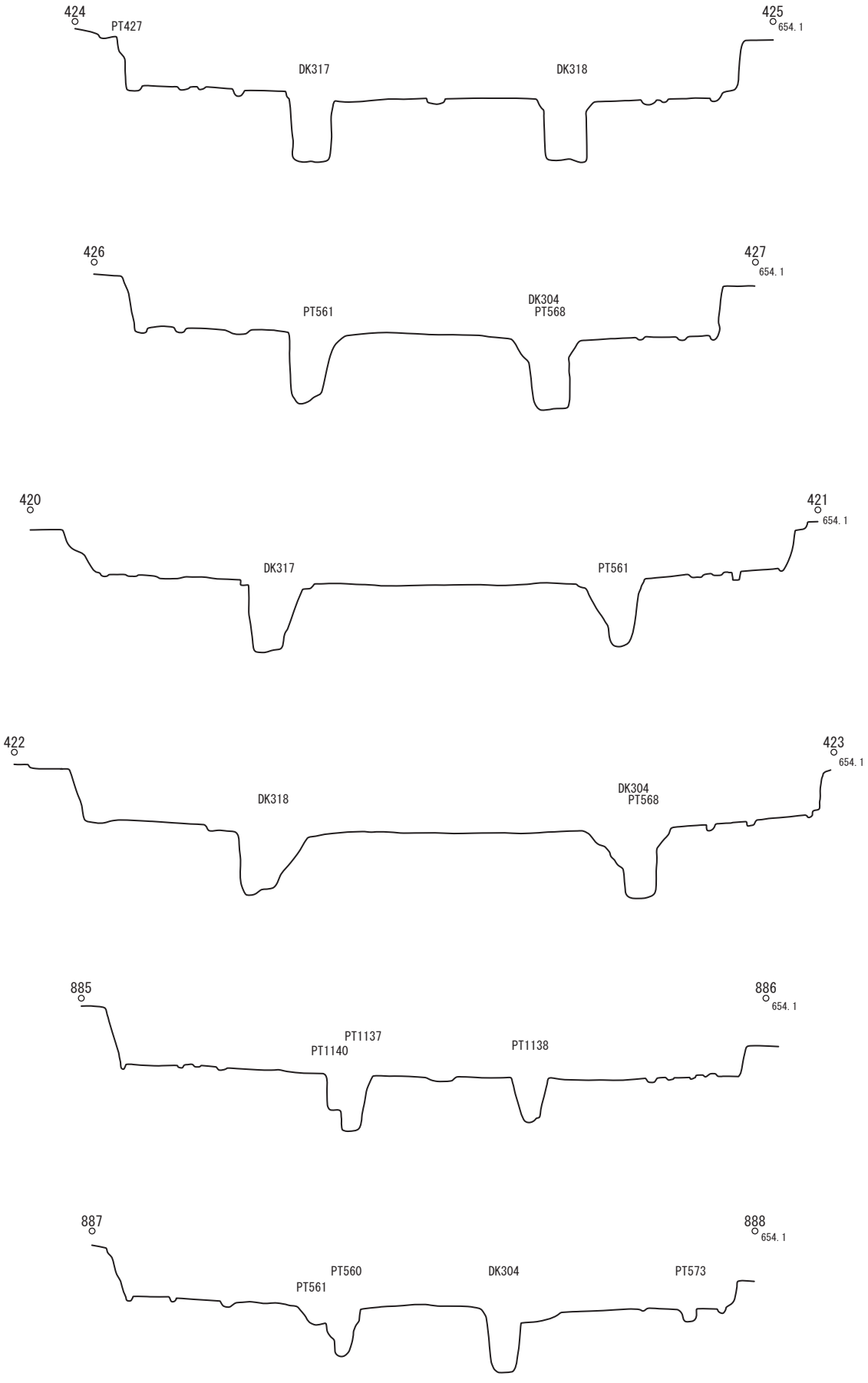
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
DK-304	40 住内	80*70	35	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。	PT568 の柱抜き取り痕。中越式、神ノ木式土器破片
DK-317	40 住内	56*-	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式、神ノ木式土器破片
DK-318	40 住内	80*45	65		中越式、神ノ木式、関山式土器破片
PT-560	40 住内	30	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5%、10YR4/6（褐）のロームブロックと焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-561	40 住内	30	65	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5%、10YR4/6（褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	抜き取り痕の大きさ　54 × 63 ㎝、深さ 44 ㎝。神ノ木式土器破片
PT-567	40 住内	25*-	35	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-568	40 住内	33	70	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	抜き取り痕の大きさ 72 × 65 ㎝、深さ 30 ㎝。
PT-569	40 住内	37	50	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	第 1 層は柱痕か。径 15 ㎝。中越式、神ノ木式土器破片
PT-570	40 住内	18*21	14	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる	旧い段階の地床炉を切って掘り込む
PT-574	40 住内	24	36	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-575	40 住内	20	28	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-575B	40 住内	20	13	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-1136	40 住内	23	34	10YR3/2（黒褐）。シルト粒土。しまる。	
PT-1137	40 住内	40*30	55	実測図あり	上面に貼床を検出したが、柱痕は確認されなかった。
PT-1138	40 住内	35*(47)	40	実測図あり	上面に貼床を検出したが、柱痕は確認されなかった。
PT-1139	40 住内	18	13	10YR3/3（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-1140	40 住内	38*20	38	10YR3/2（黒褐）。シルト粒土。しまる。	



1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR5/3(にぶい黄褐)が10%、炭化物が1%、焼土が1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
1'層　土色は、1と同じ、炭化物が5%、焼土が3%混じる、層全体に炭化物が散らばっていて、3cm角の炭化物(ブロック)を含む。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、10YR3/2(黒褐)が7%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が30%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
7層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が5%混じる。
8層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が2%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
9層　10YR2/1(黒)に10YR5/6(黄褐)が2%混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。
10層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が10%混じるシルト粒土。粘性あり。ややしまる。(周溝)
11層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/3(にぶい黄褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
12層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が15%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
13層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が1%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
14層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が7%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。
15層　10YR5/3(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が15%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。(周溝)
16層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
17層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が2%混じるシルト粒土。粘性なし。しまる。(PJ-48埋土)
床面　10YR5/6(黄褐)、シルト粒土。粘性なし。しまる。
壁　10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。



PJ040 号住居

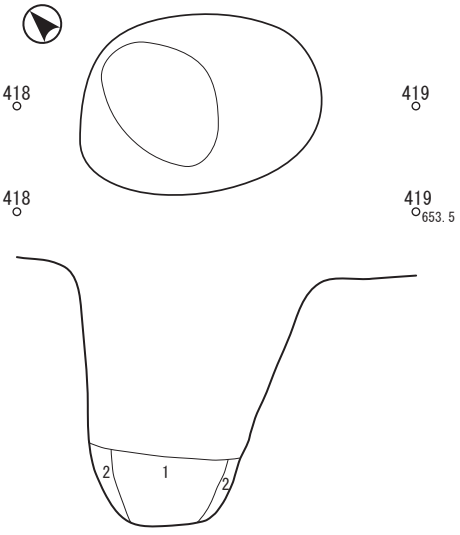

424
PT427
425
654.1
DK317
DK318
426
427
654.1
PT561
DK304
PT568
420
421
654.1
DK317
PT561
422
423
654.1
DK318
DK304
PT568
885
886
654.1
PT1137
PT1140
PT1138
887
888
654.1
PT560
PT561
DK304
PT573

PJ040 号住居

0　　50cm

1/20

DK-317



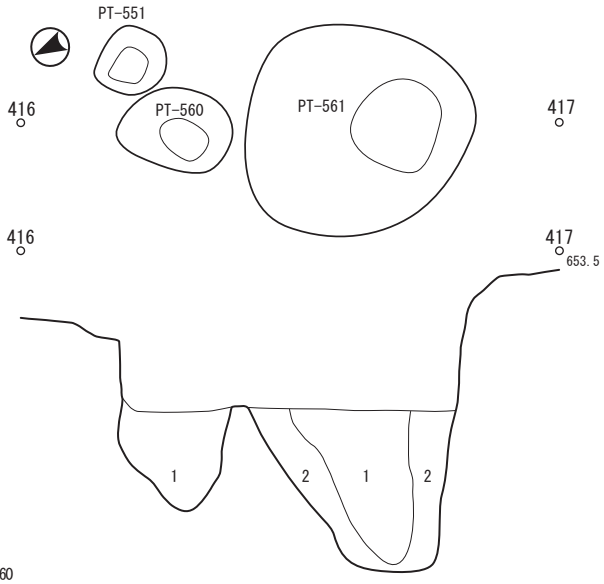
DK-317

1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が7%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。柱痕

2層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、花崗岩小礫が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。

PT-560
PT-561



PT-560

1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が25%、炭化物が1%以下、花崗岩小礫が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、花崗岩小礫が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。柱痕なし

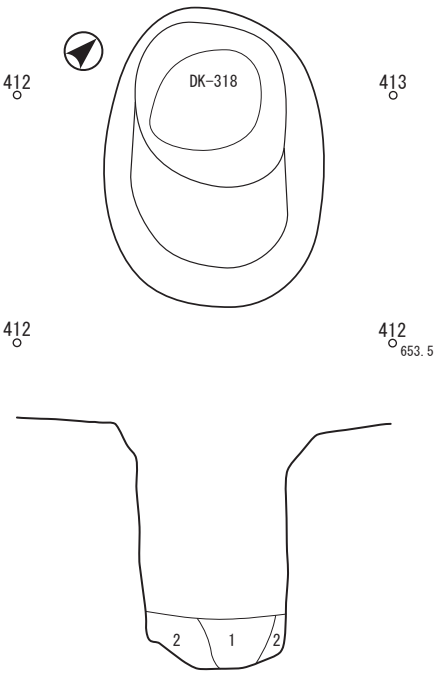
PT-561

1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が25%、10YR4/4(褐)が7%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

2層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、花崗岩小礫が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、花崗岩小礫が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。

DK-318



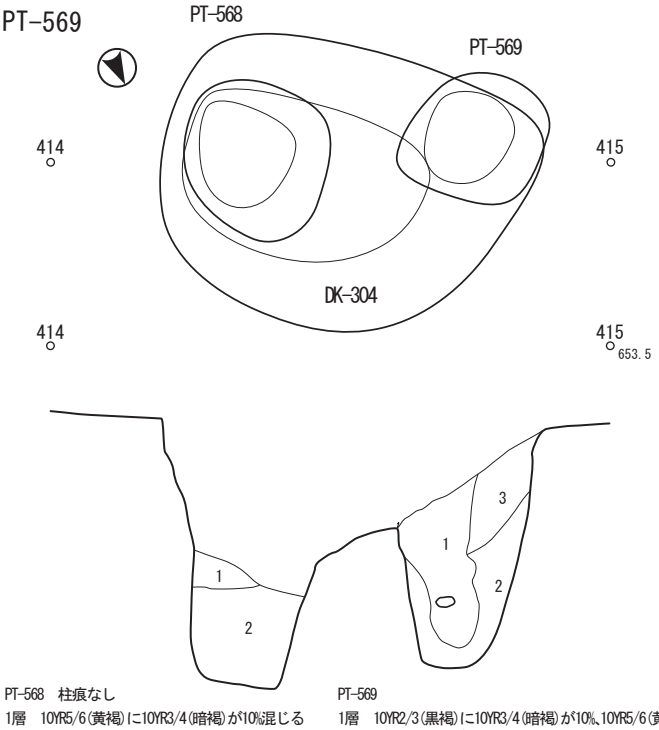
DK-318

1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化物が1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。柱痕

2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%、炭化物が1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

地山　10YR5/6(黄褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が20%、10YR3/3(暗褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。

PT-568
PT-569



PT-568　柱痕なし

1層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

地山　10YR5/6(黄褐)に花崗岩小礫が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。

PT-569

1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化物が1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。柱痕

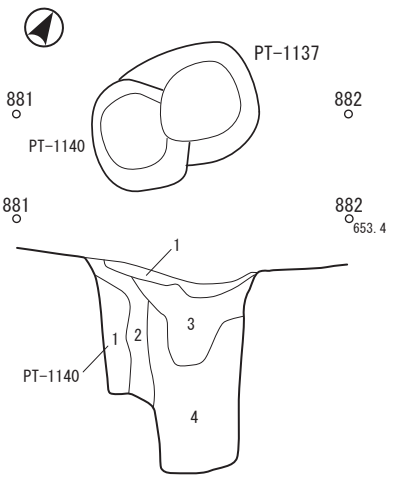
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

3層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が5%、花崗岩小礫が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

地山　10YR5/6(黄褐)に花崗岩小礫が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

PJ040 号住居

PT1137
PT1140



PT-1140

1層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が7%、花崗岩粒が1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

PT-1137

1層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/2(黒褐)が5%、花崗岩粒が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。(埋め戻して貼床)

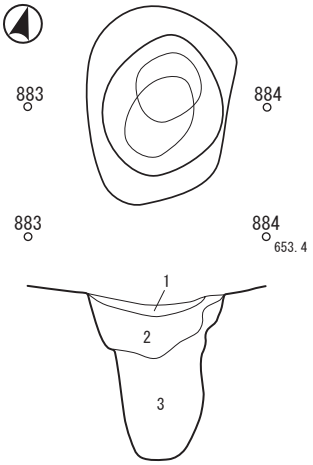
2層　10YR5/4(にぶい黄褐)に10YR3/2(黒褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%、花崗岩粒が1%以下、混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。

3層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が7%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性あり。ややしまる。

4層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまりなし。

地山　10YR5/6(黄褐)、花崗岩粒が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

PT1138



1層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/2(黒褐)が2%、花崗岩粒が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。

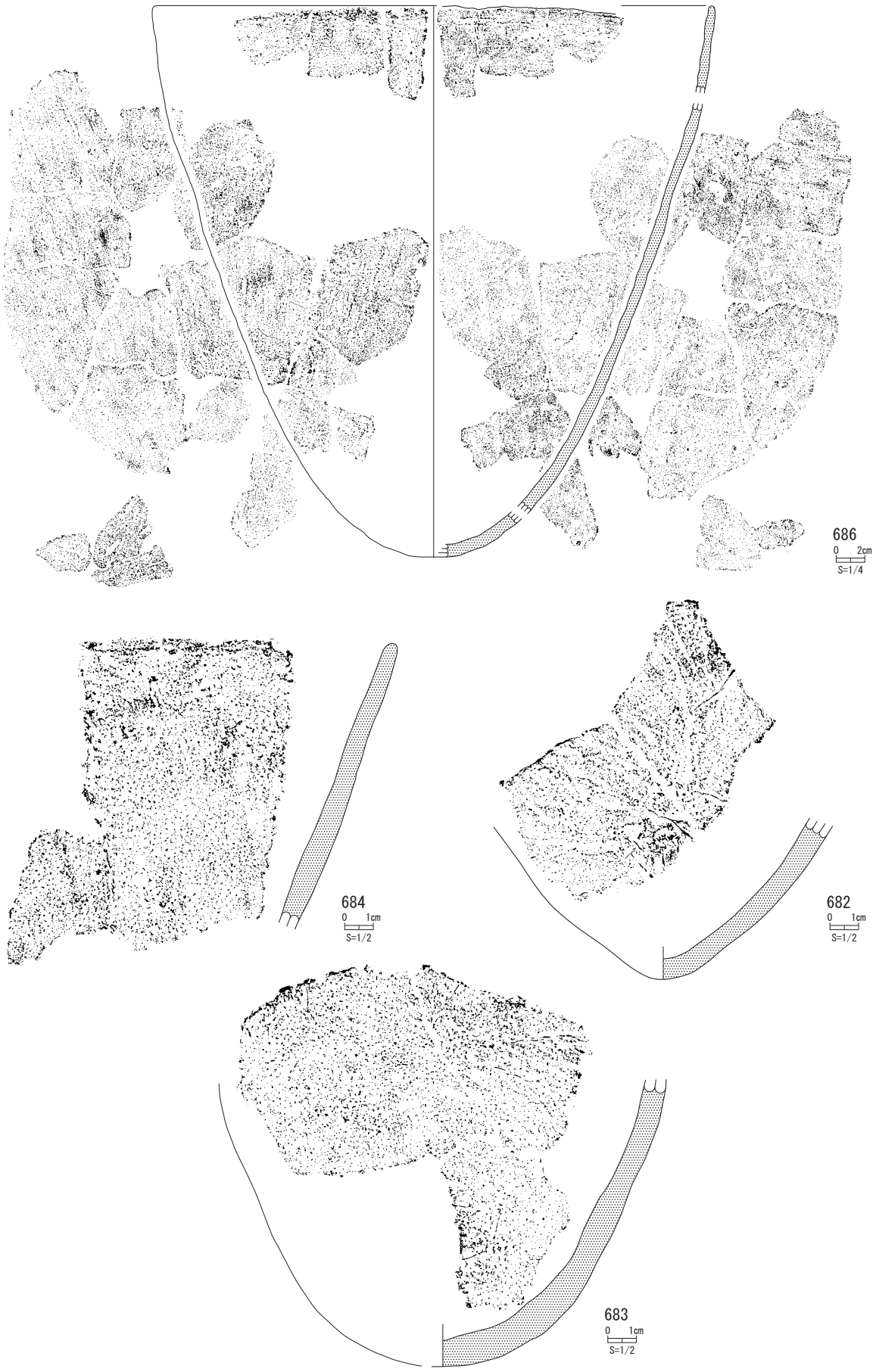
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化物が2%、焼土が1%、灰が1%混じるシルト粒土。粘性あり。しまりなし。

3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性あり。しまりなし。

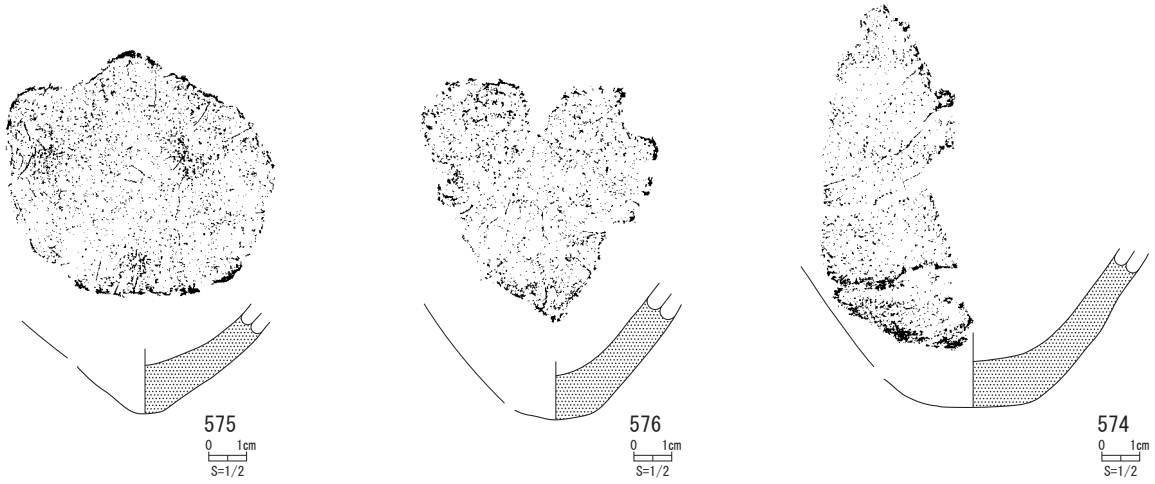
地山　10YR5/6(黄褐)に花崗岩粒が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

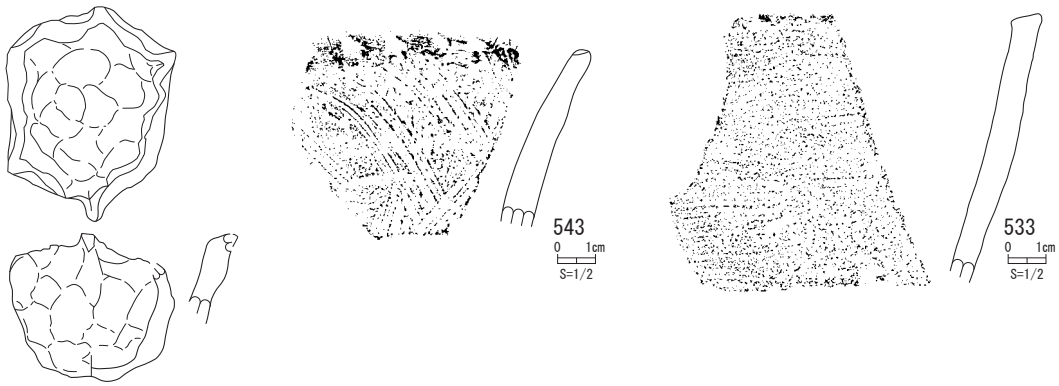
PJ040 号住居

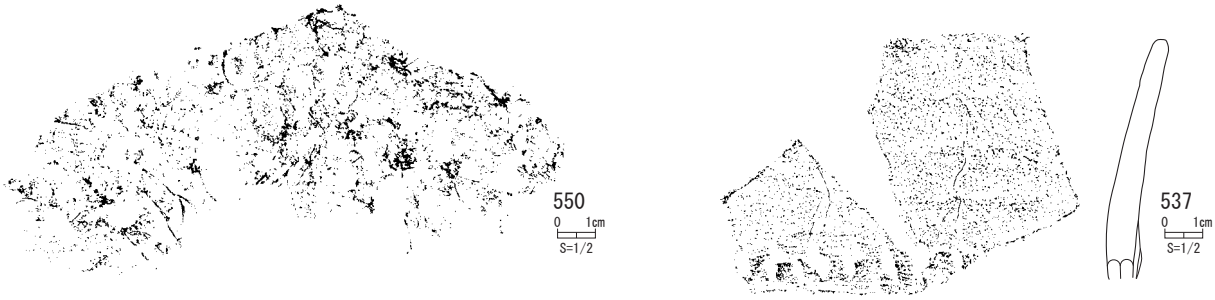
写真６　諸磯式期の集石群

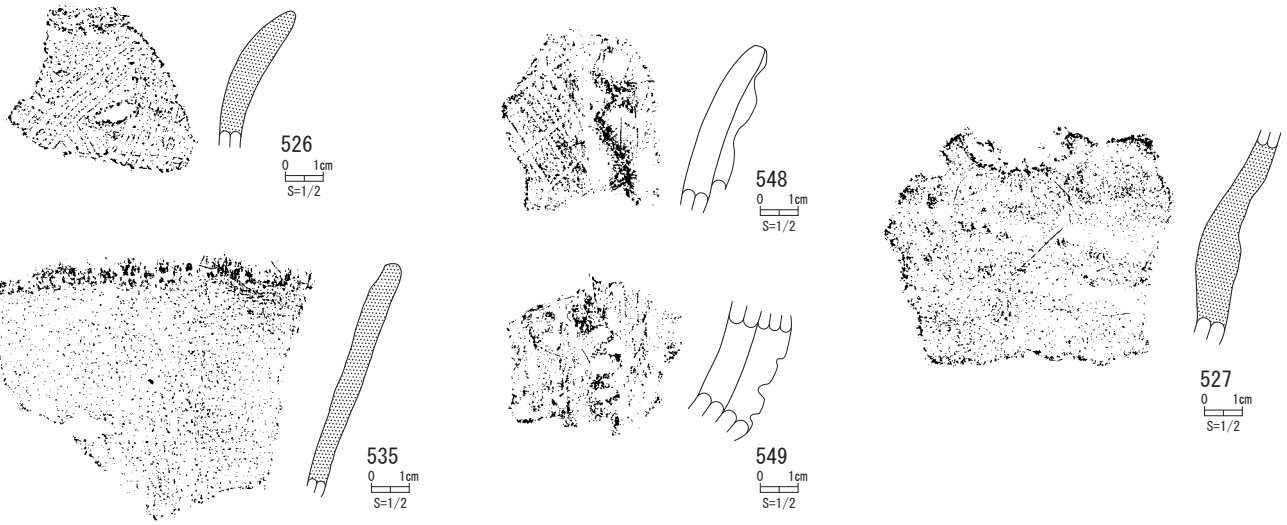


PJ040 号住居出土遺物

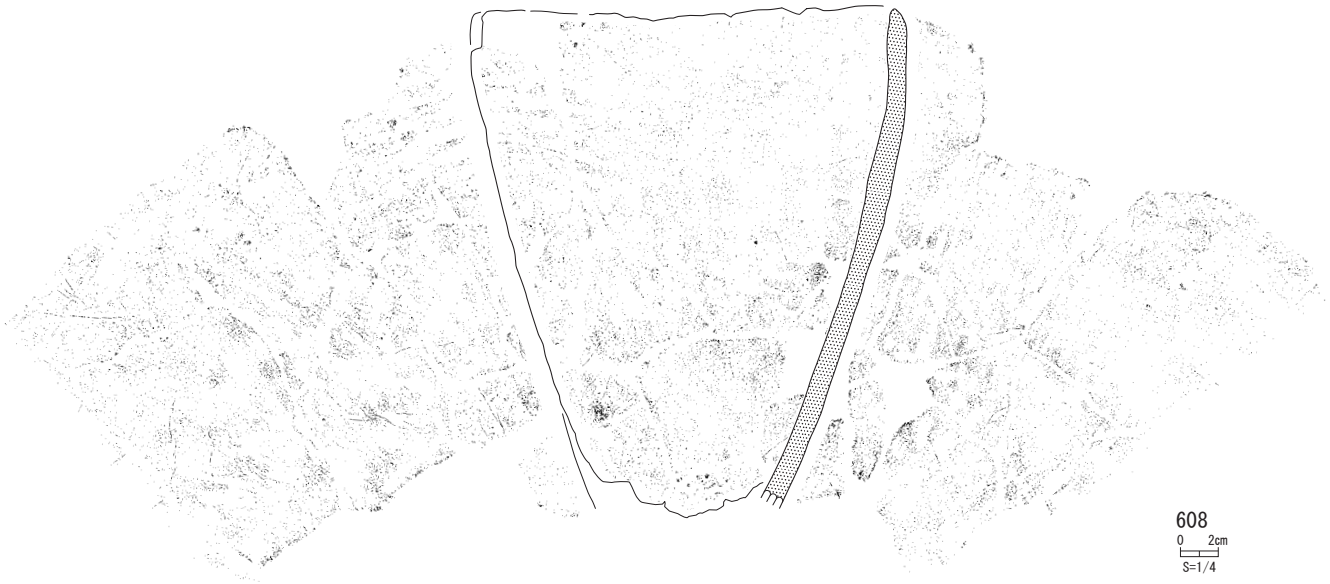


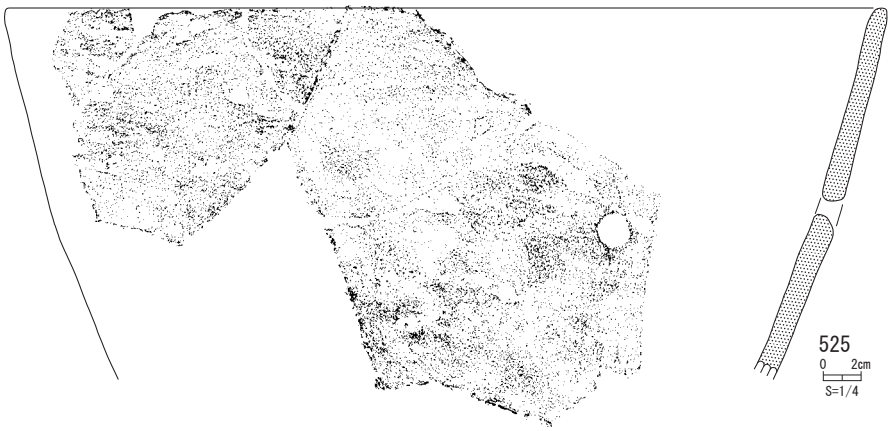






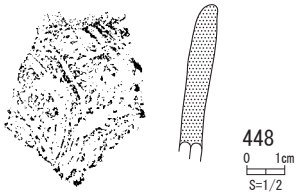
PJ040 号住居出土遺物

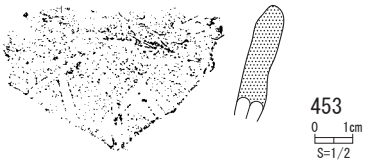


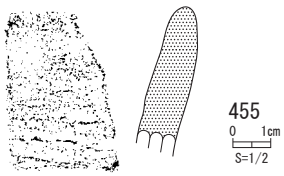


PJ040 号住居出土遺物

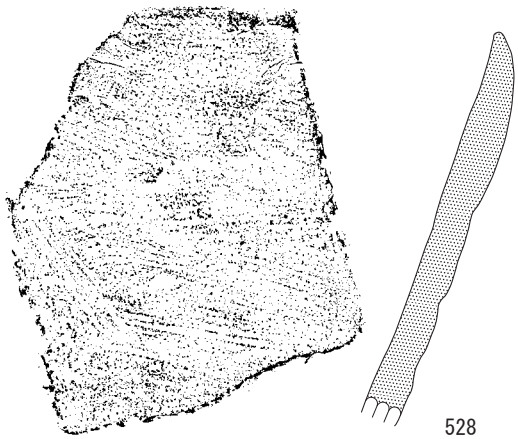
607
0 2cm
S=1/4

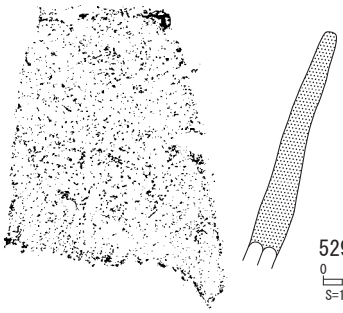

448
0 1cm
S=1/2

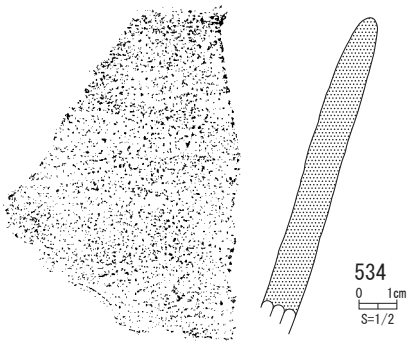

453
0 1cm
S=1/2

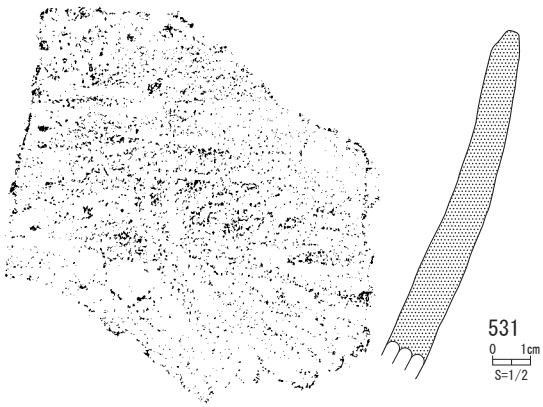

455
0 1cm
S=1/2

606
0 2cm
S=1/4

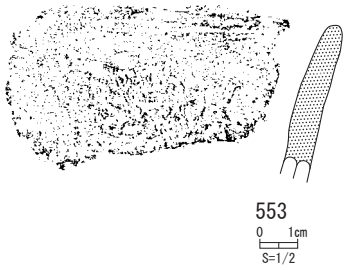

528
0 1cm
S=1/2

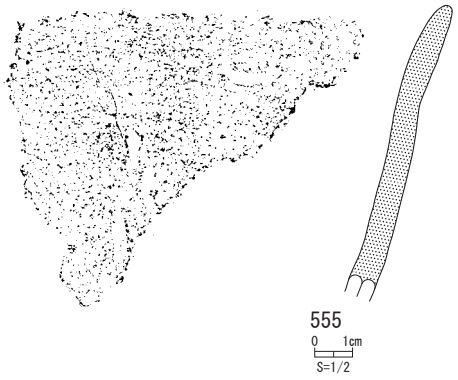

529
0 1cm
S=1/2

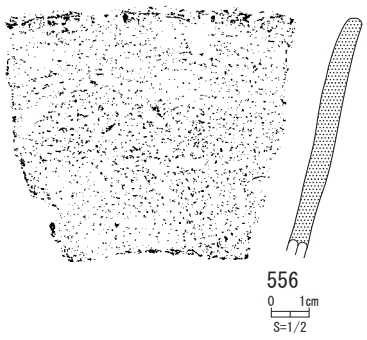

534
0 1cm
S=1/2

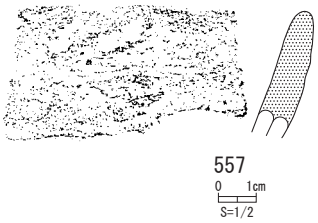

531
0 1cm
S=1/2

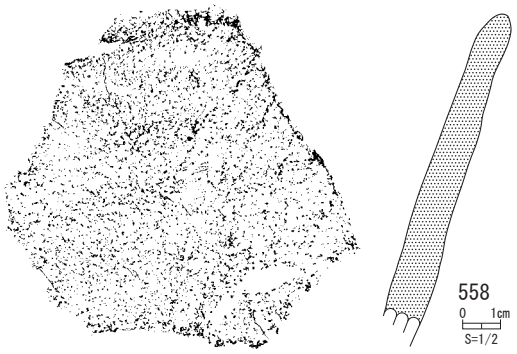
PJ040 号住居出土遺物

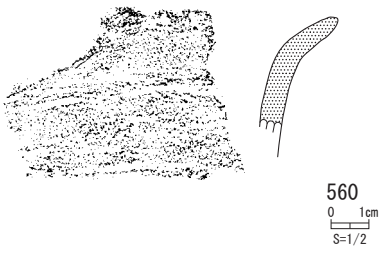


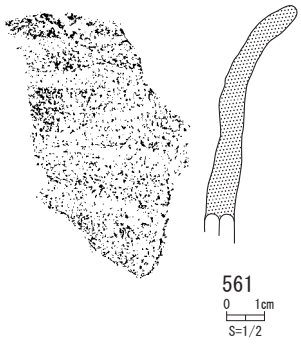




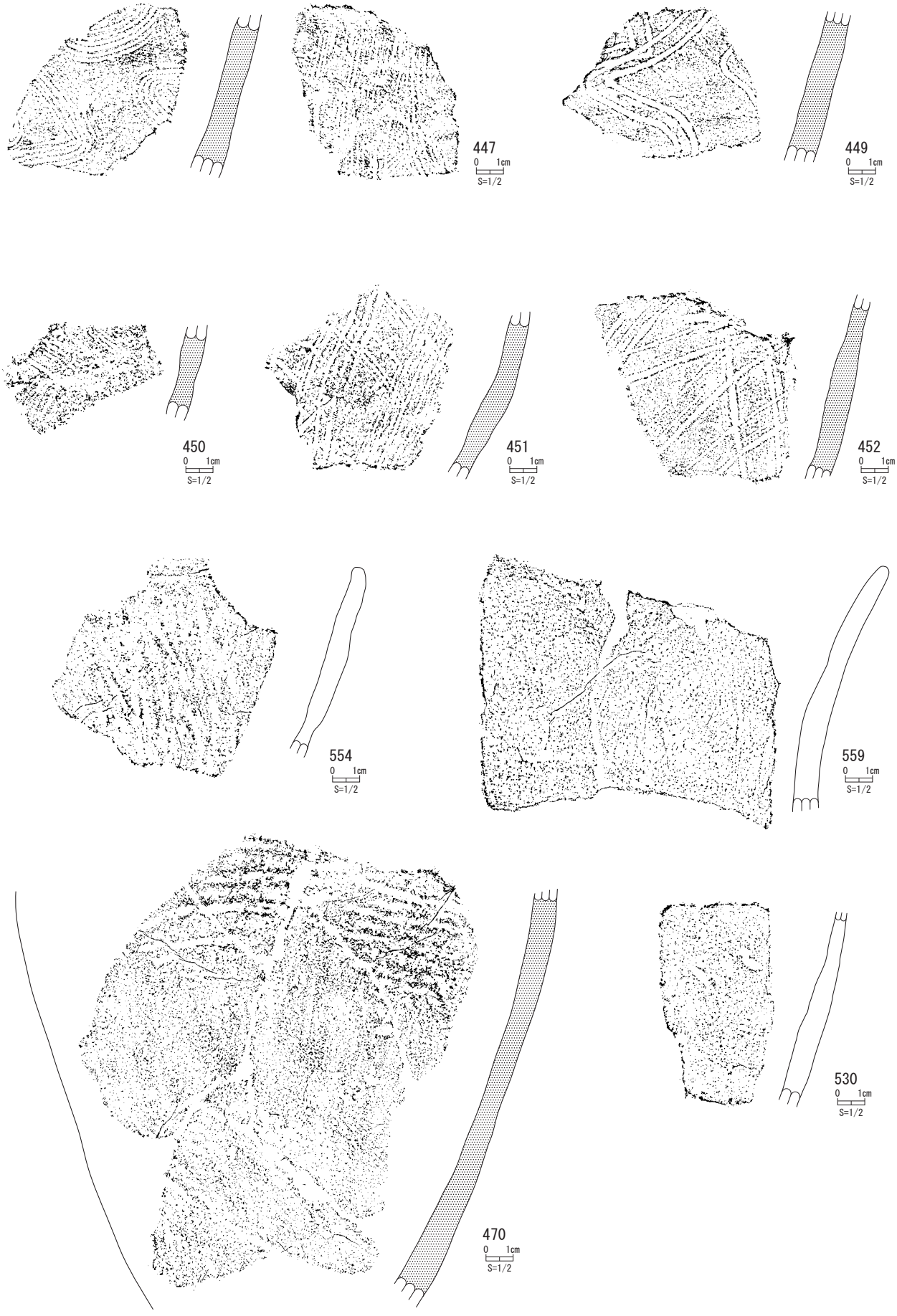








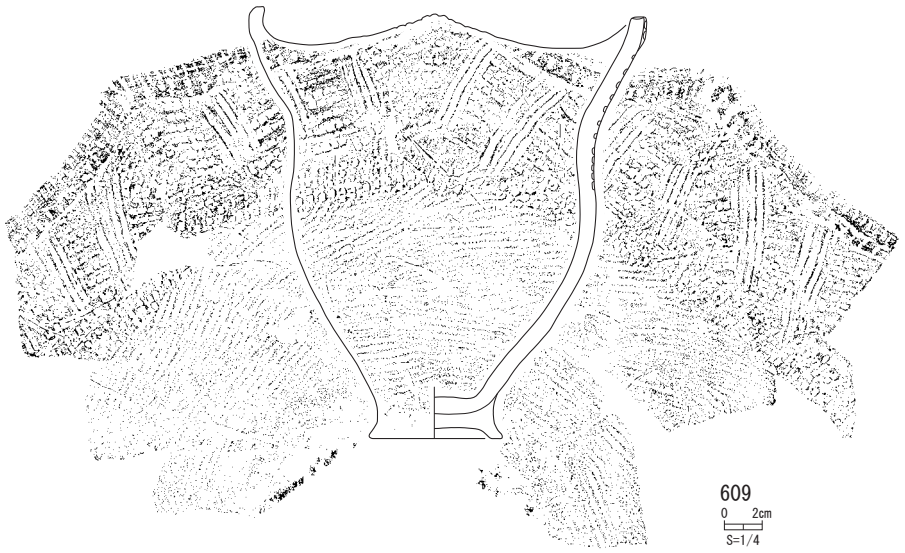
PJ040 号住居出土遺物

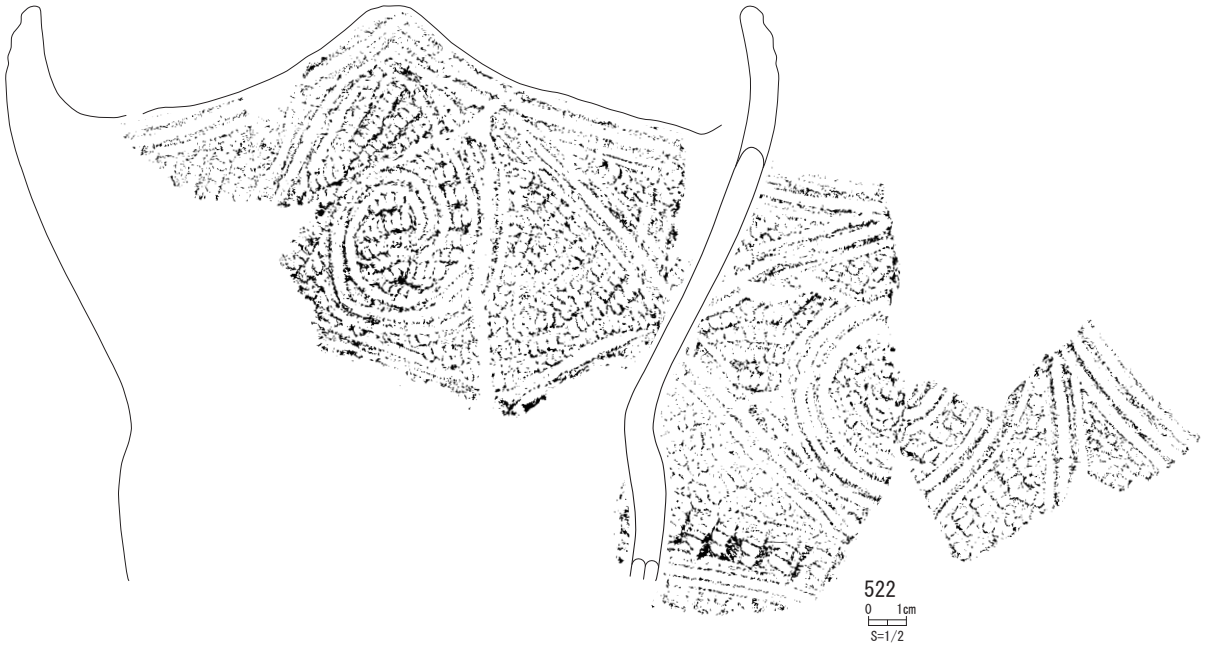


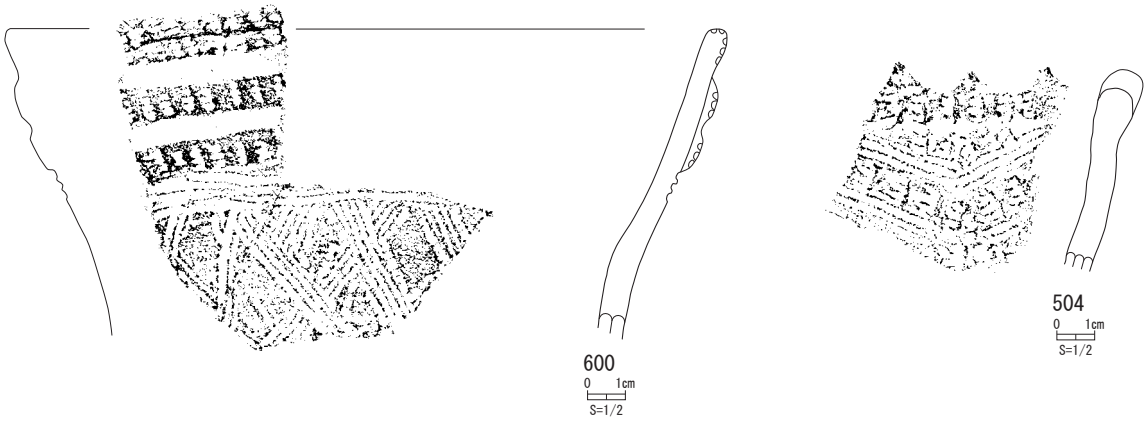
PJ040 号住居出土遺物

PJ040 号住居出土遺物

PJ040 号住居出土遺物

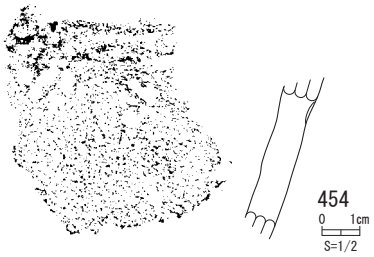


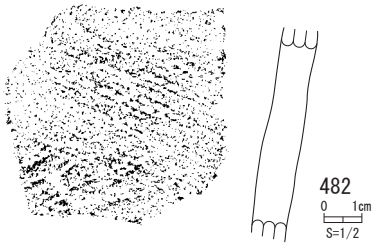


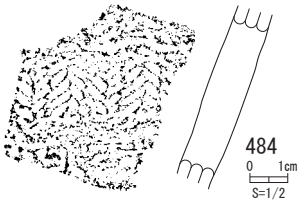


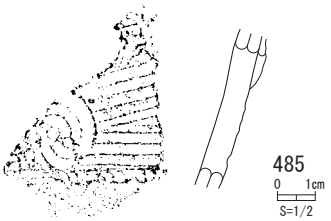
PJ040 号住居出土遺物

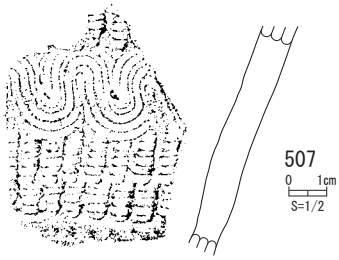
PJ040 号住居出土遺物

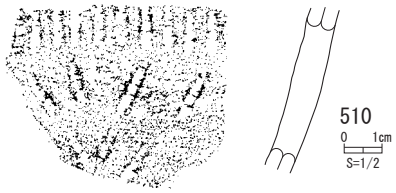


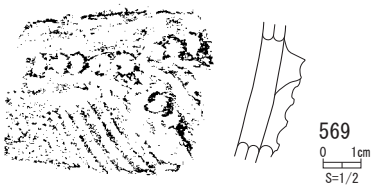


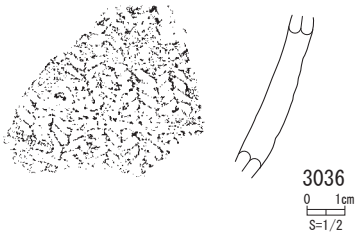


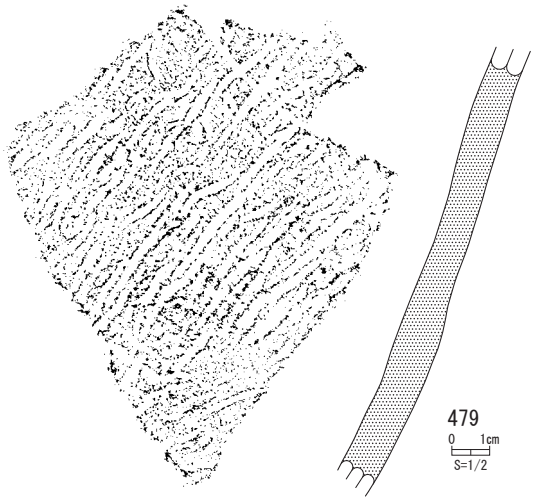


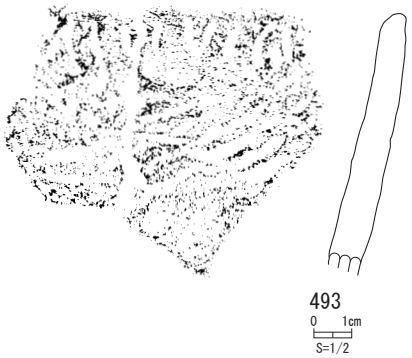




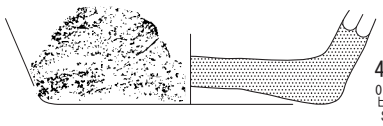


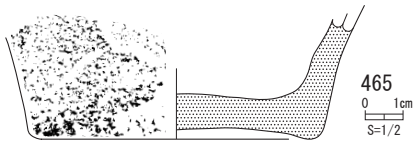


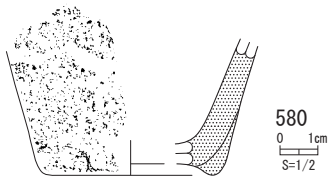


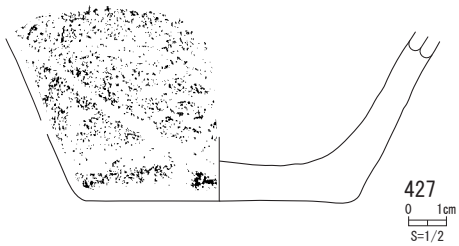


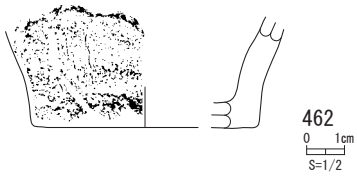
PJ040 号住居出土遺物

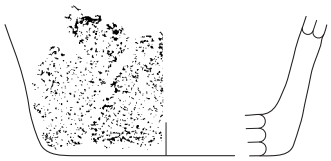


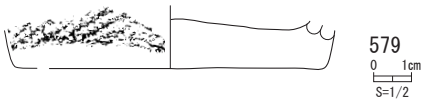


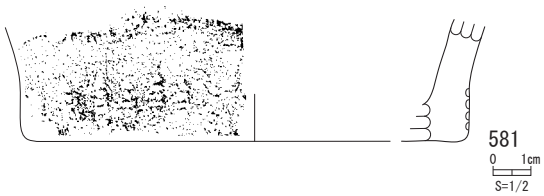


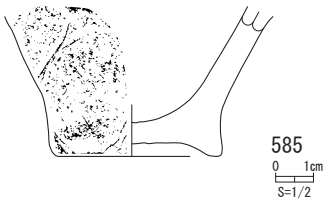


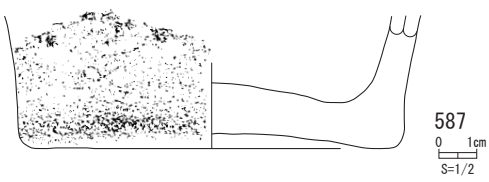


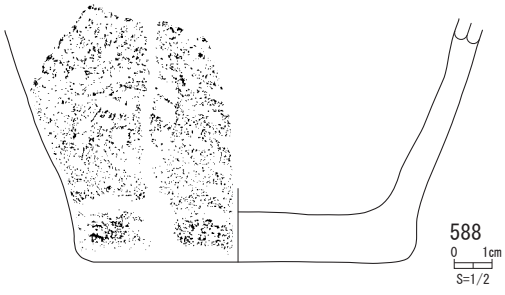




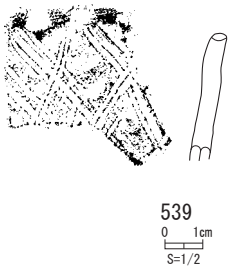


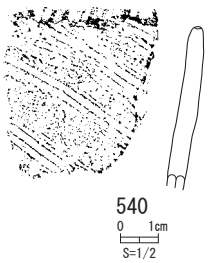


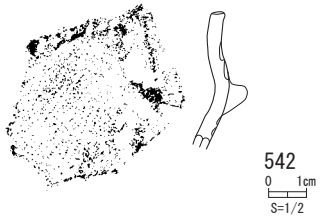


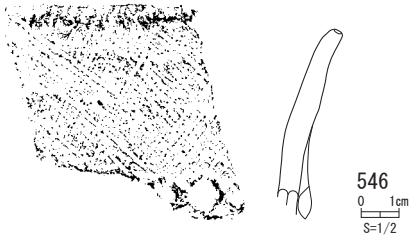


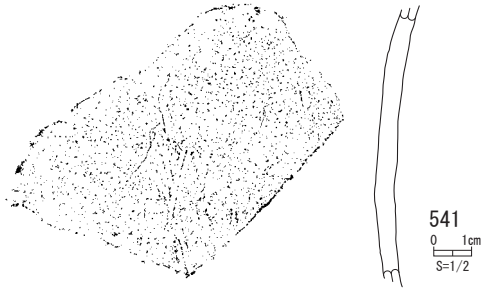
PJ040 号住居出土遺物

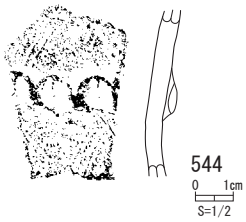


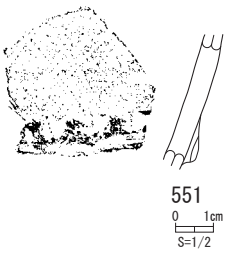


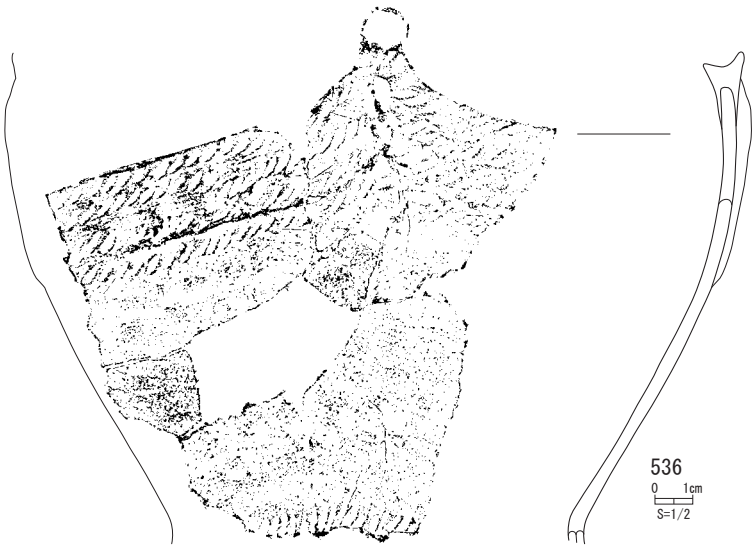


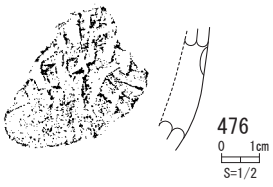




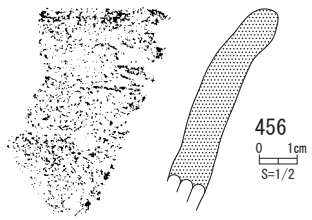


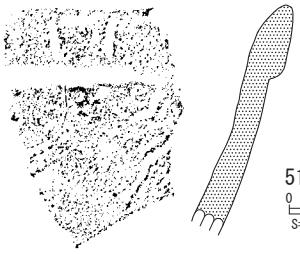


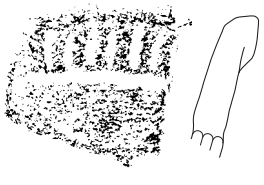


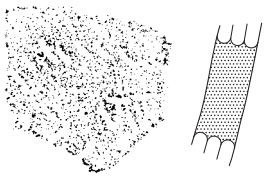


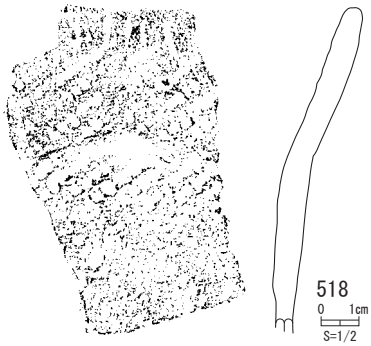
PJ040 号住居出土遺物

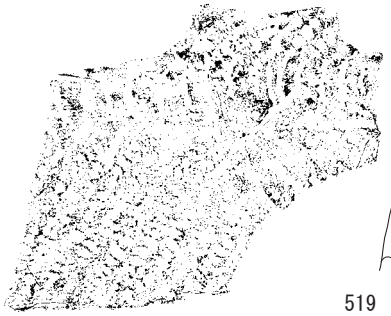

456
0 1cm
S=1/2


517
0 1cm
S=1/2


495
0 1cm
S=1/2

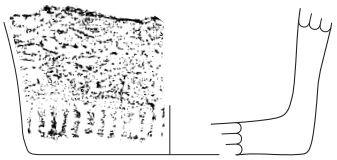

457
0 1cm
S=1/2

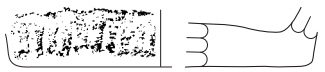

518
0 1cm
S=1/2


爪による
キザミ
519
0 1cm
S=1/2

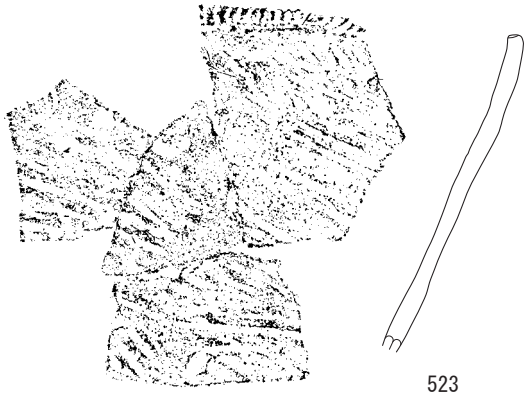
520
0 1cm
S=1/2

521
0 1cm
S=1/2

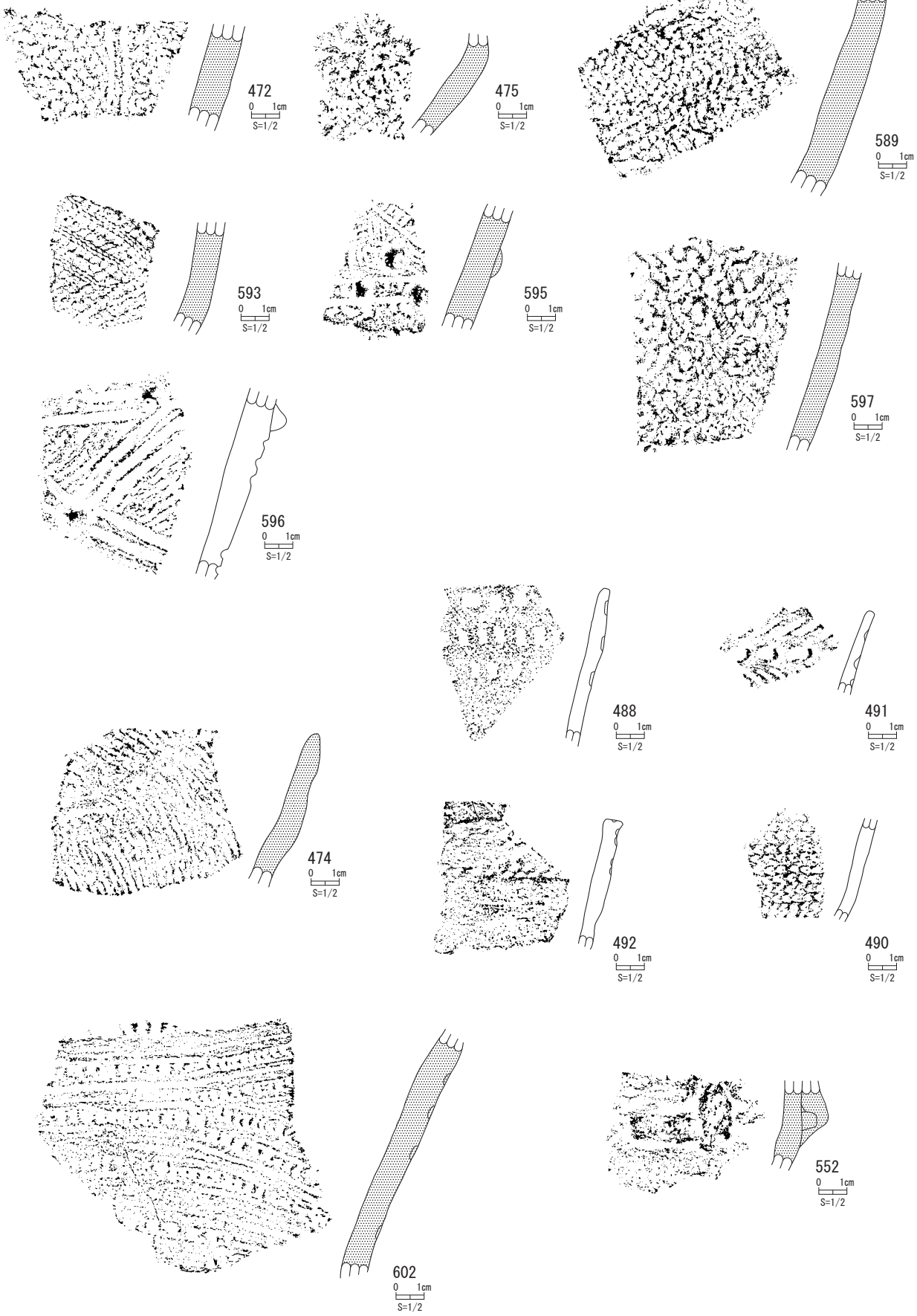

577
0 1cm
S=1/2


578
0 1cm
S=1/2

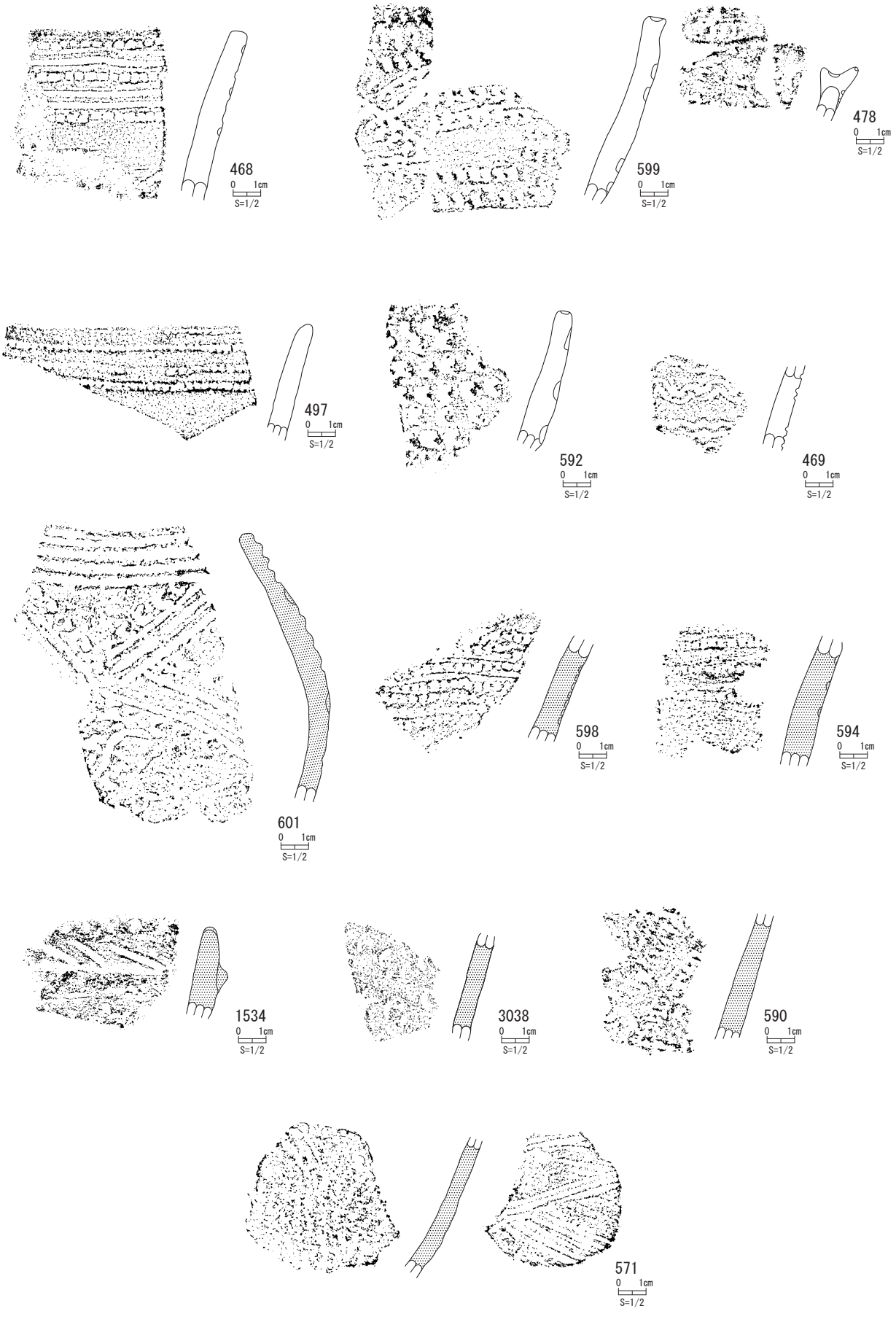
524
0 1cm
S=1/2


523
0 1cm
S=1/2

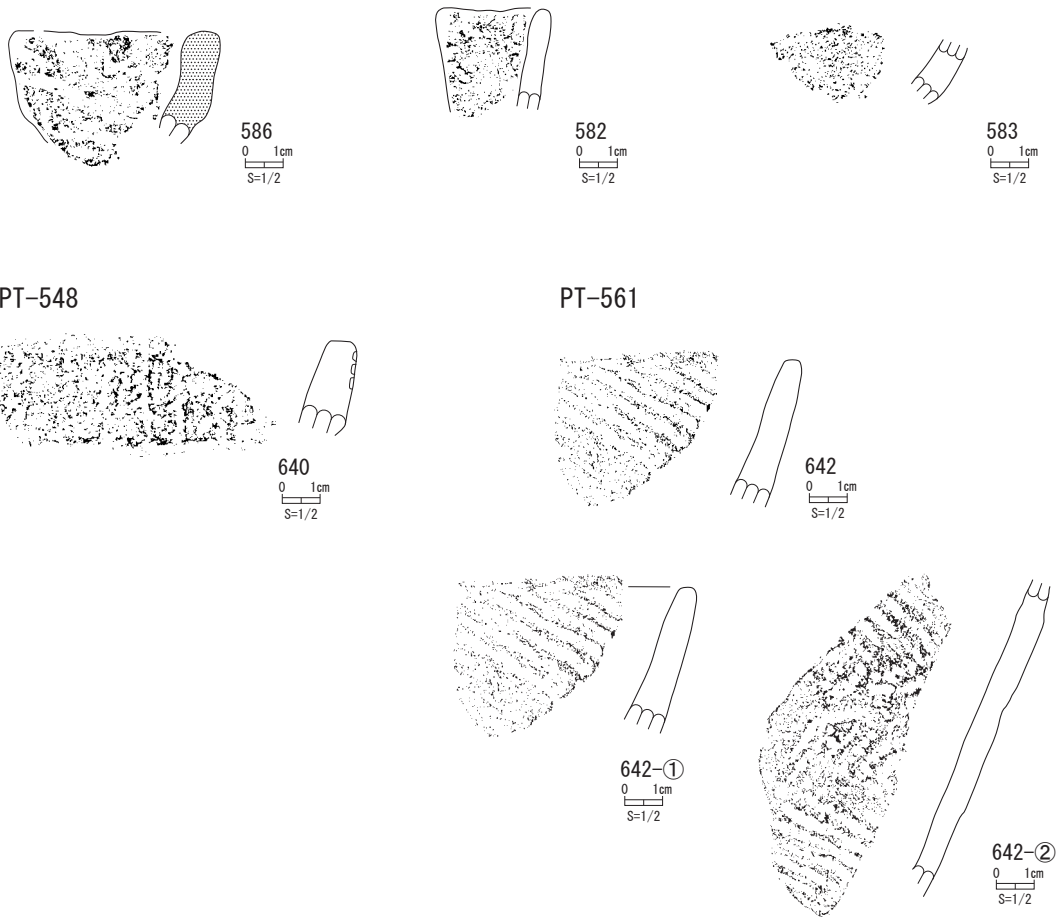
PJ040 号住居出土遺物



PJ040 号住居出土遺物

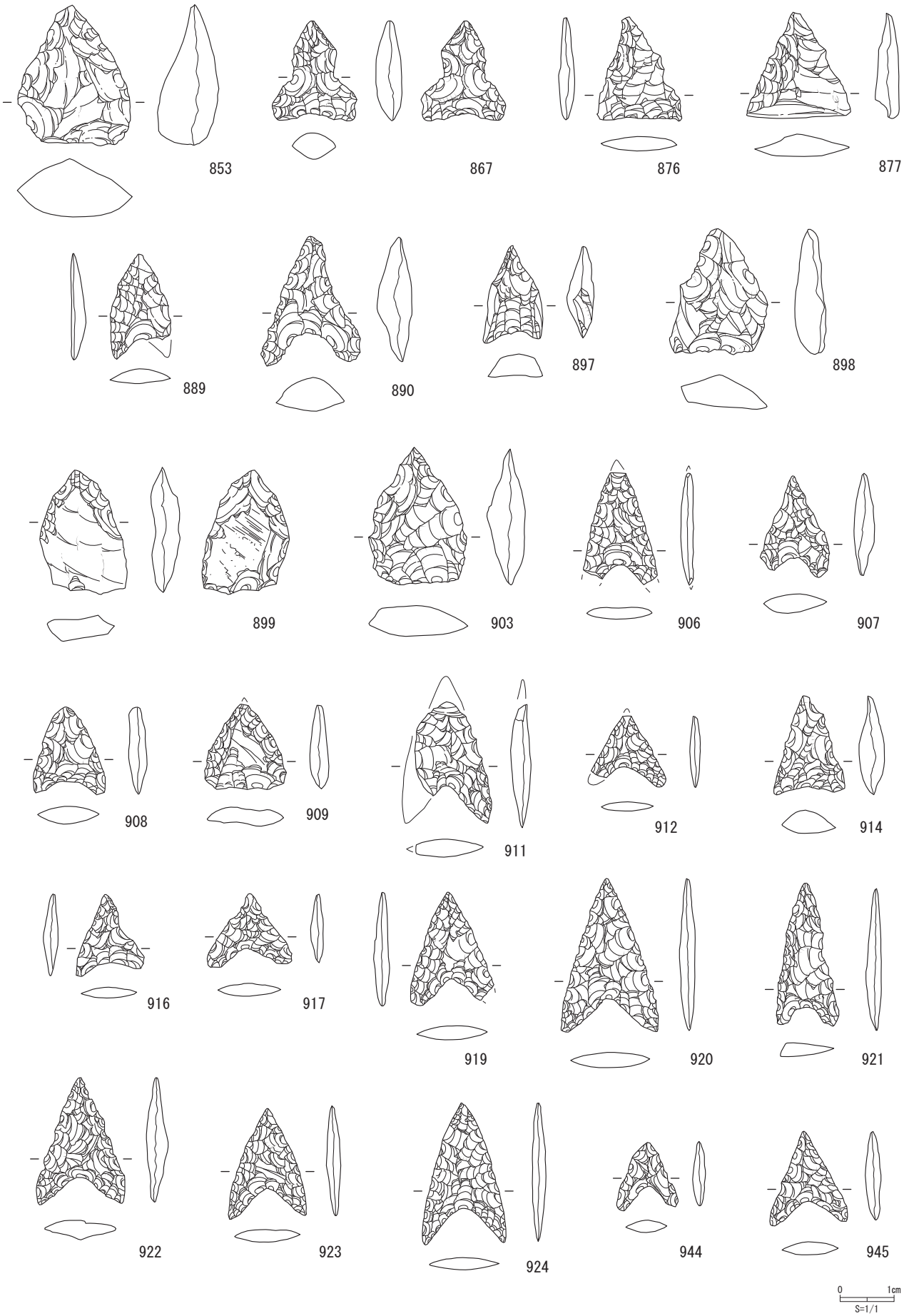


PJ040 号住居出土遺物

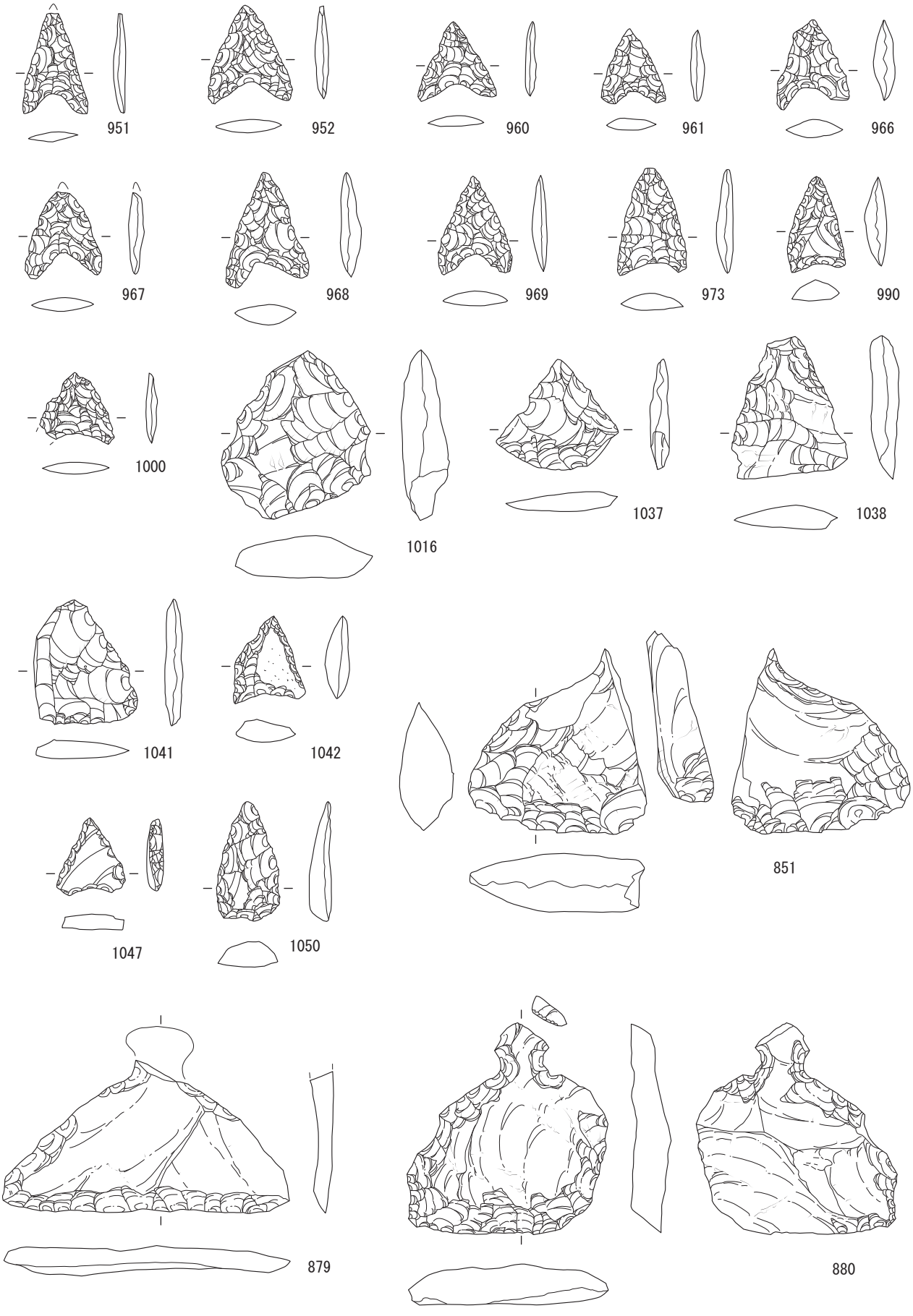


PJ040 号住居出土遺物

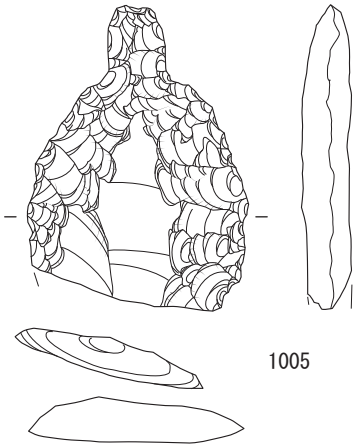
写真７　平安時代の遺構確認面（ＰＨ－００１付近）

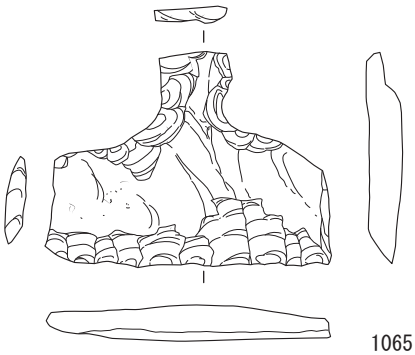


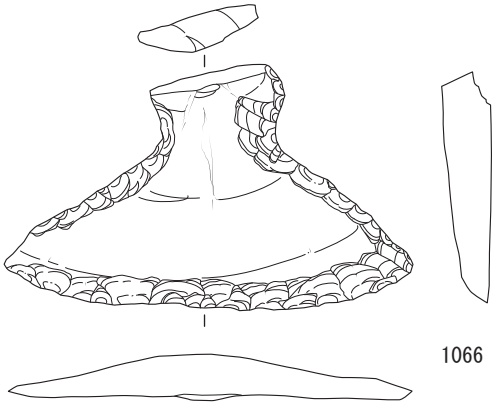
PJ040 号住居出土遺物

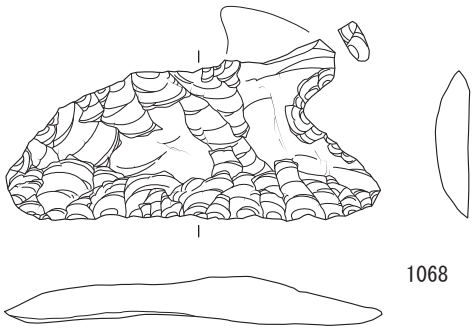


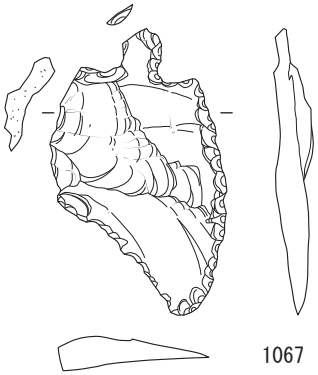
PJ040 号住居出土遺物

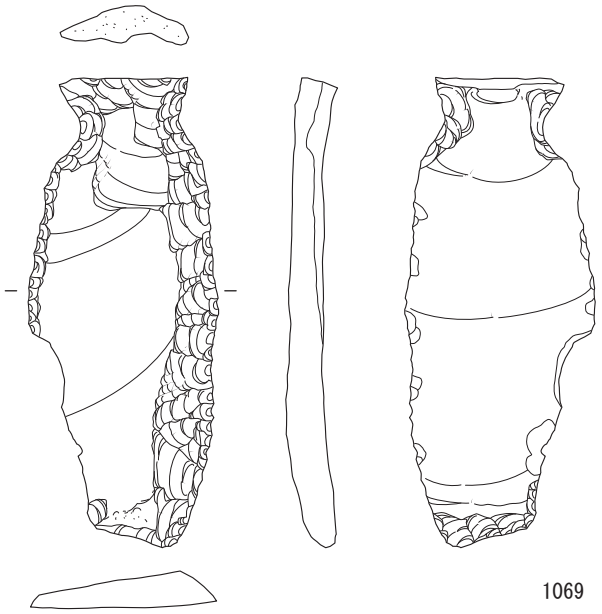

1005

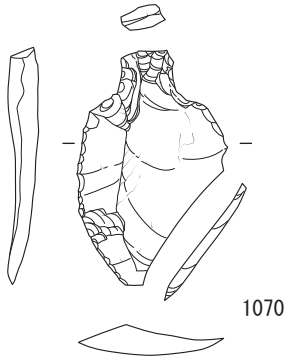

1065


1066


1068

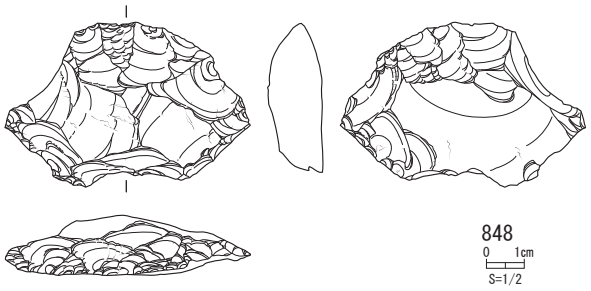

1067

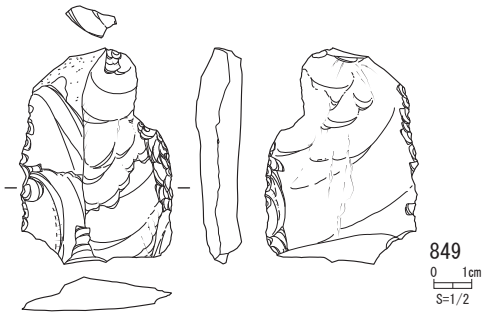

1069

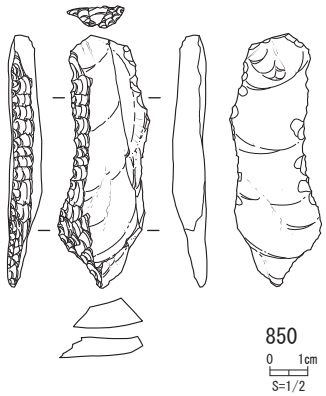

1070

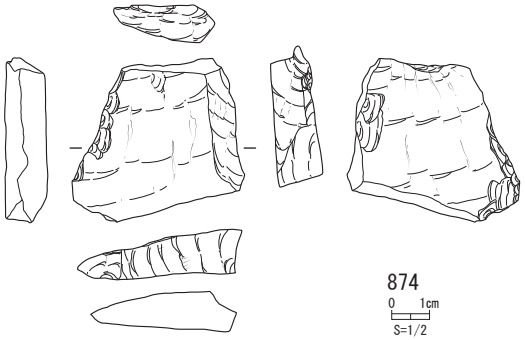
0 1cm
S=1/1

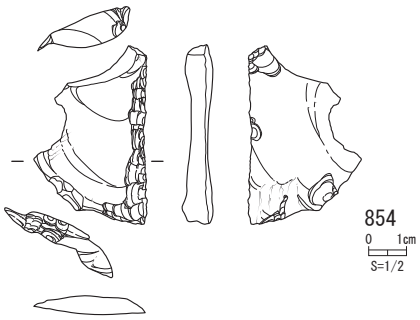
PJ040 号住居出土遺物

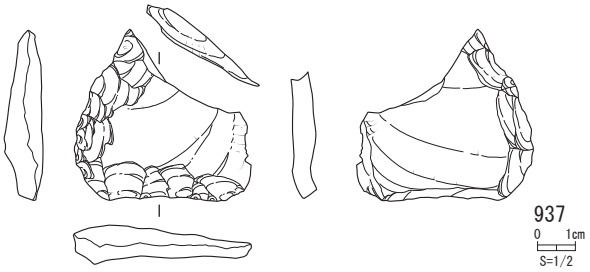


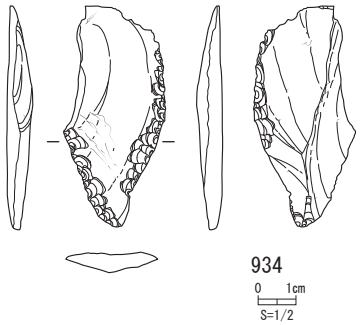


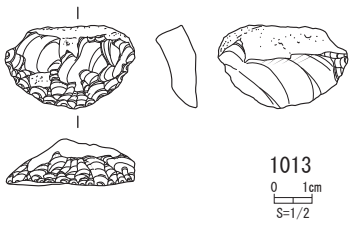


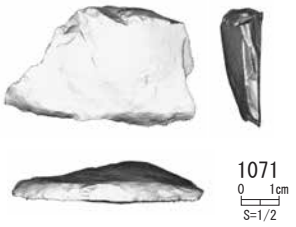


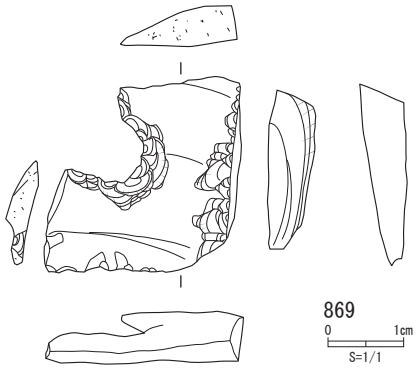


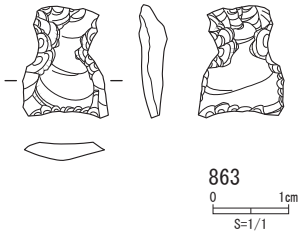




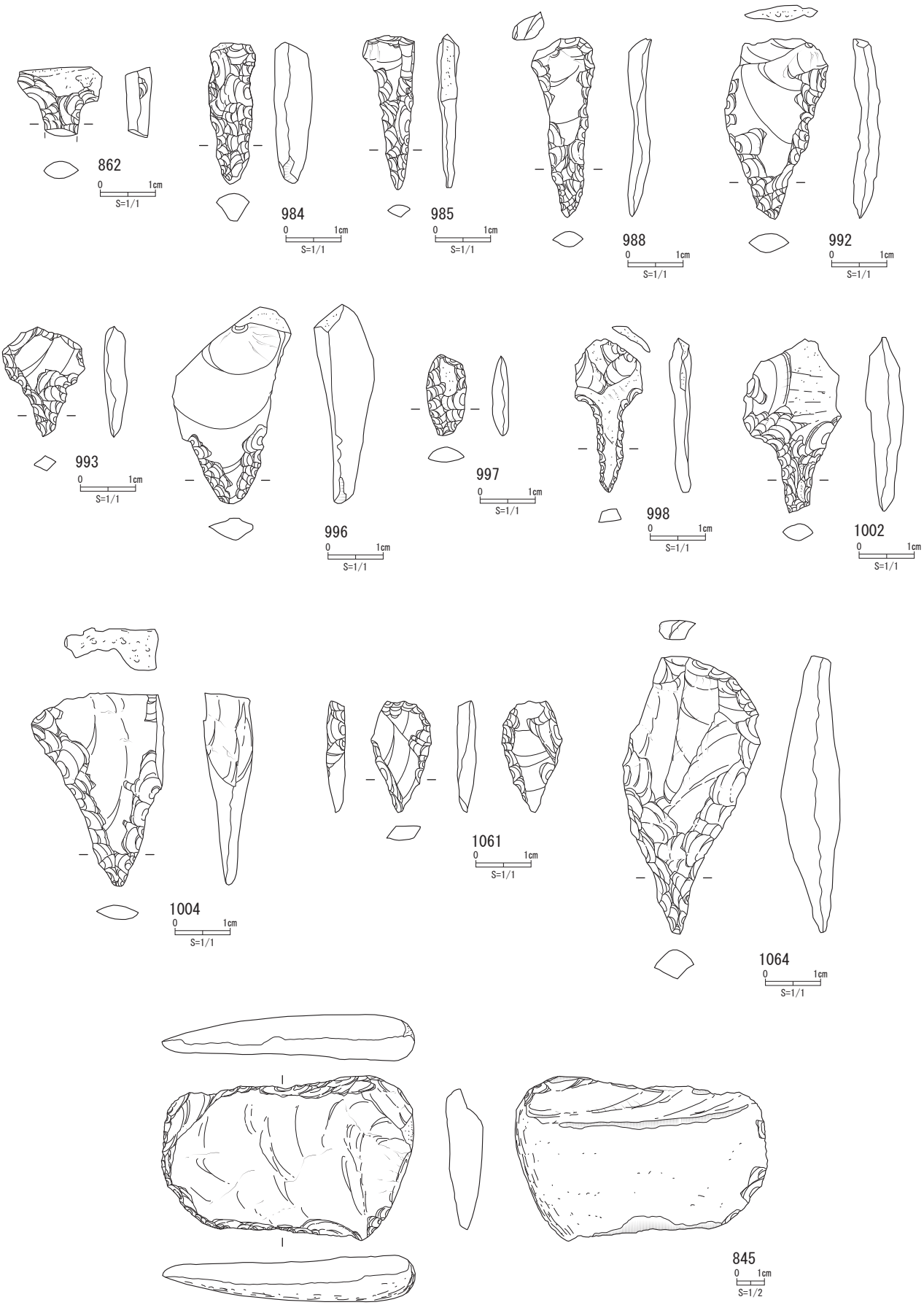




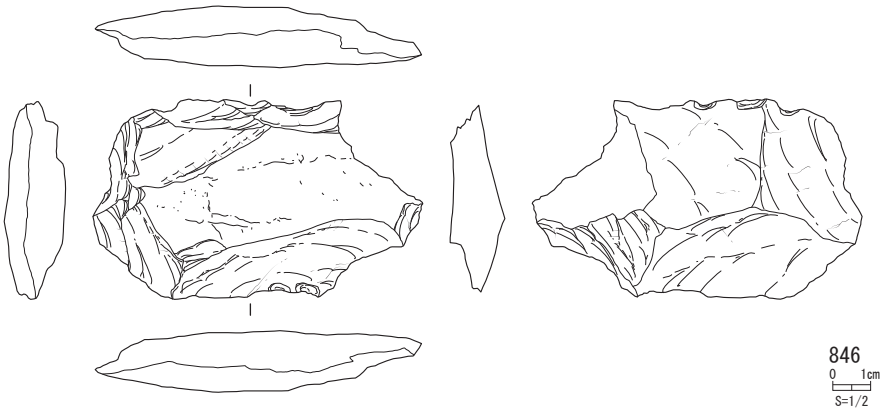


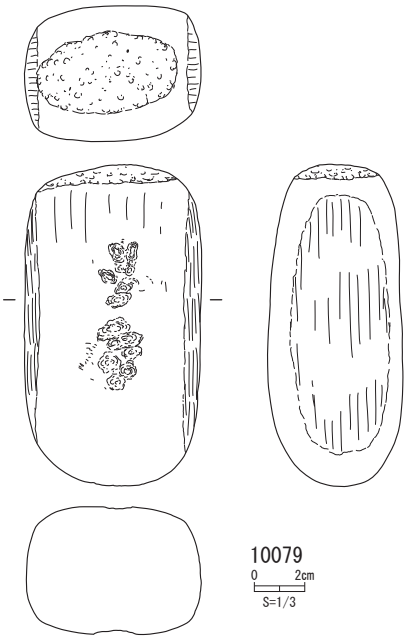


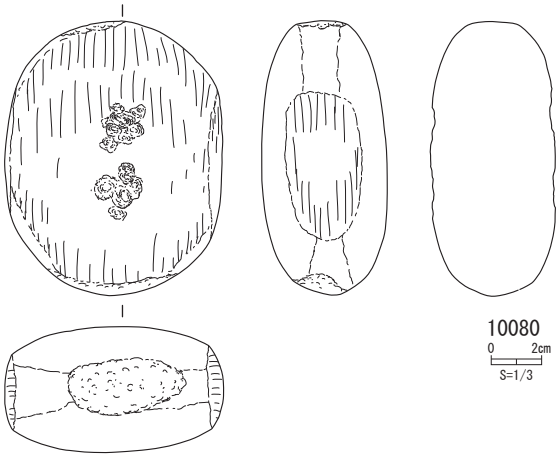
PJ040 号住居出土遺物

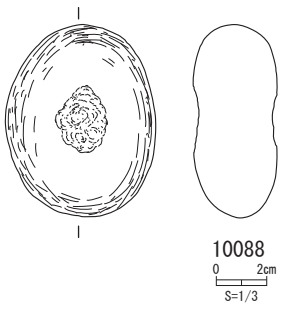


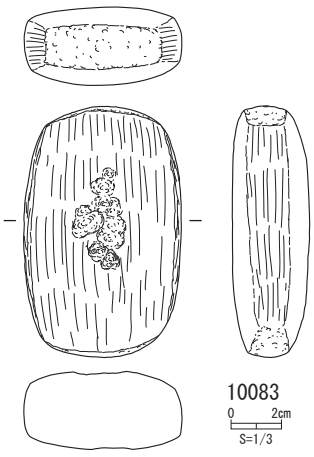
PJ040 号住居出土遺物

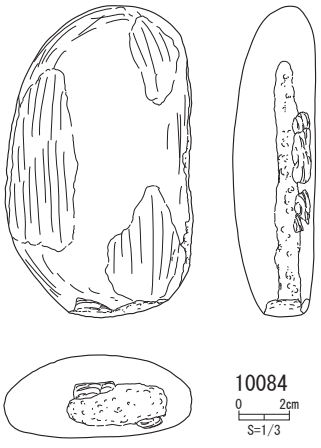


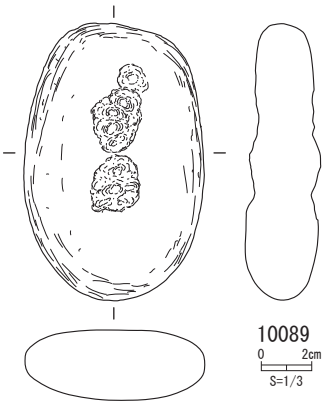




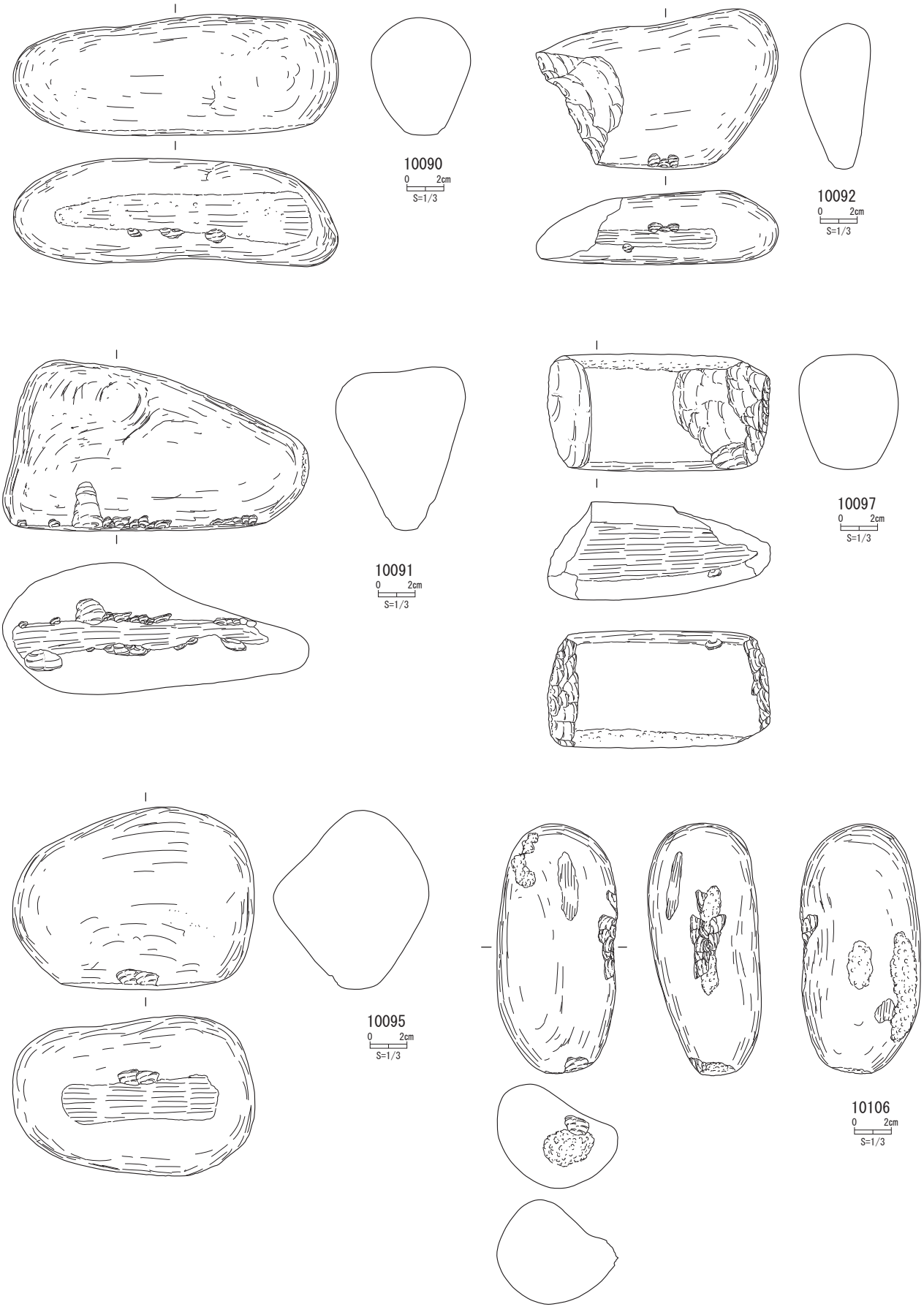




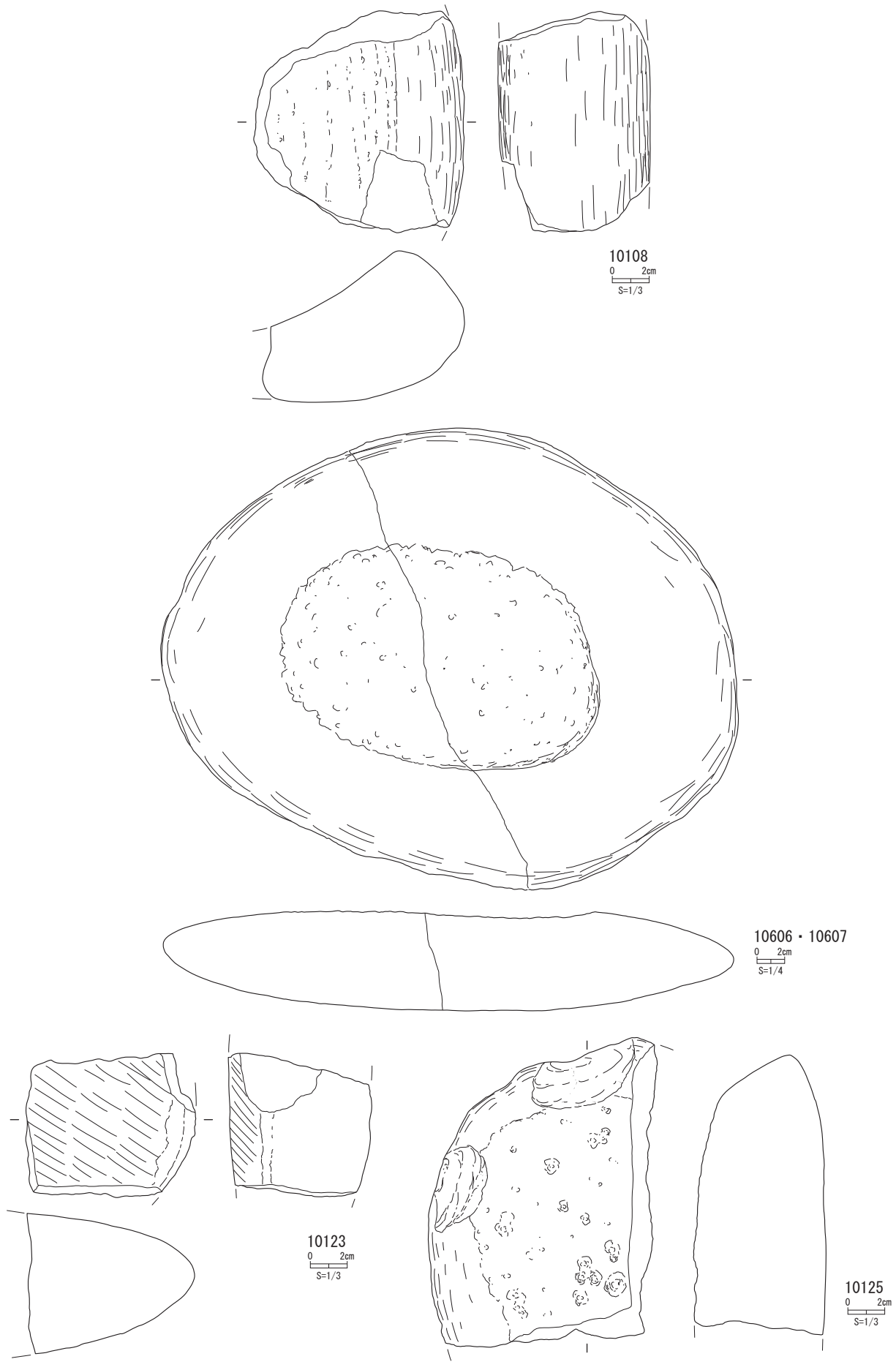




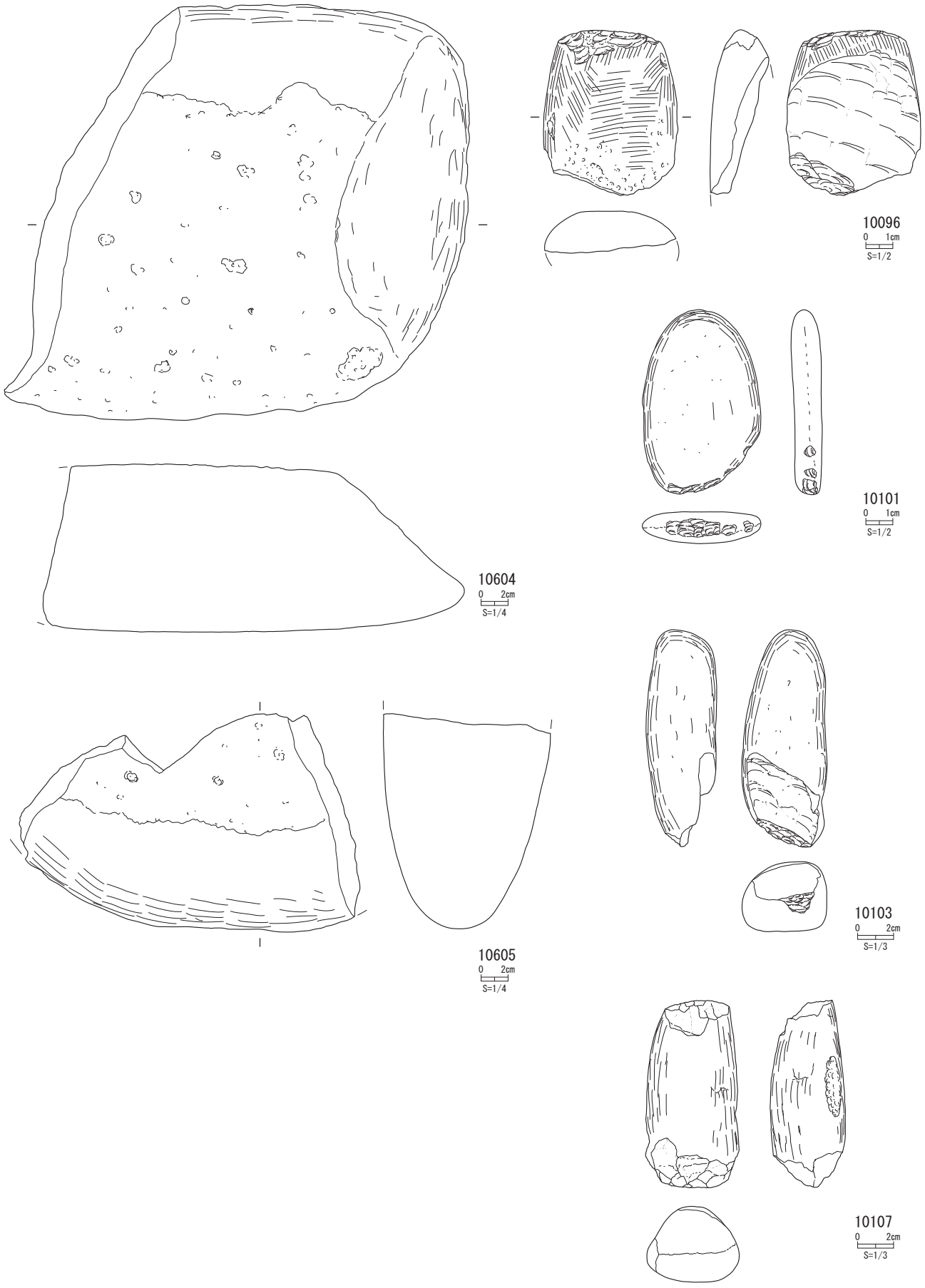
PJ040 号住居出土遺物



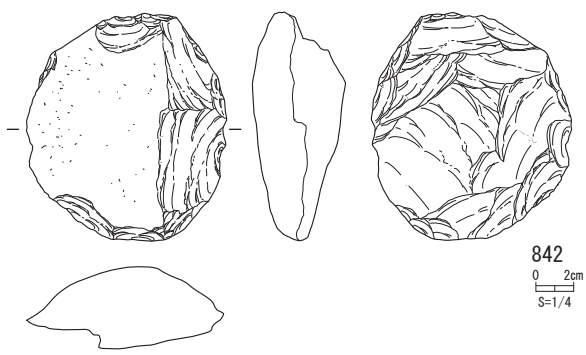
PJ040 号住居出土遺物

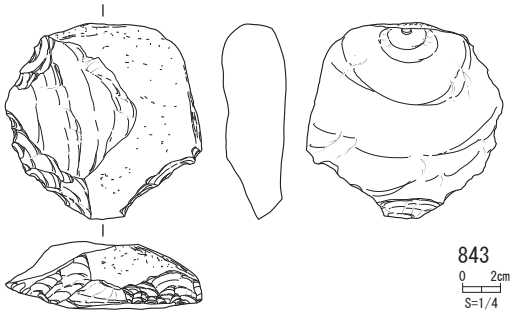


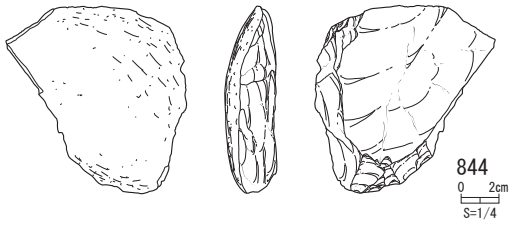
PJ040 号住居出土遺物

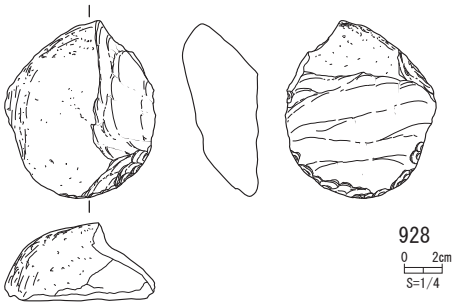


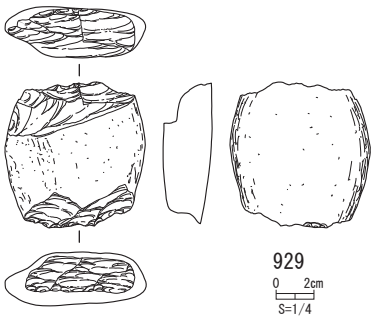
PJ040 号住居出土遺物

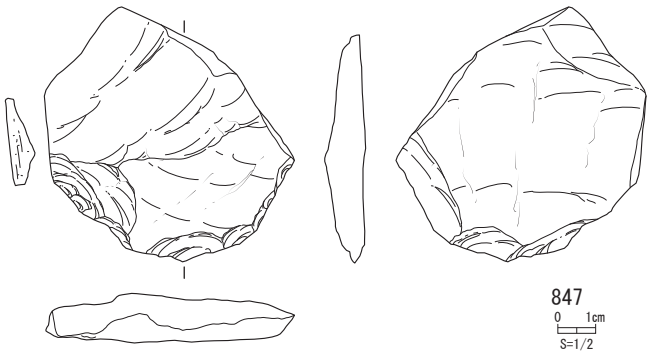


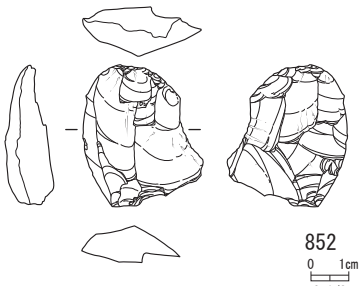


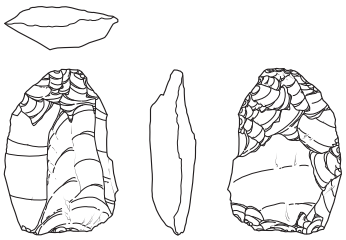


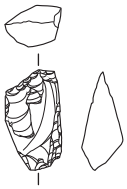


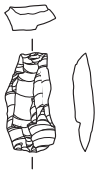


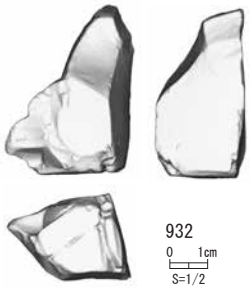


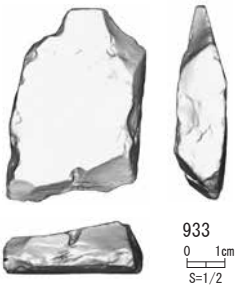


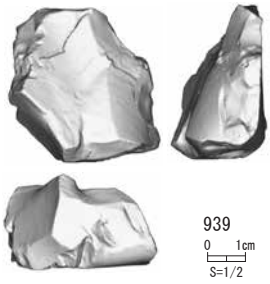


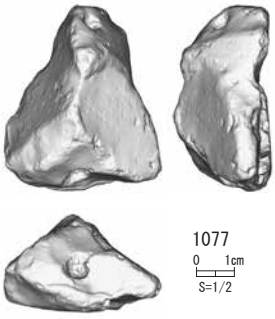




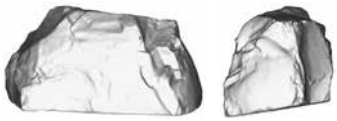


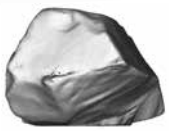


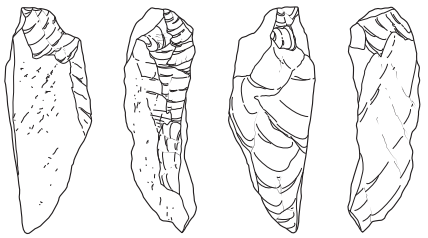


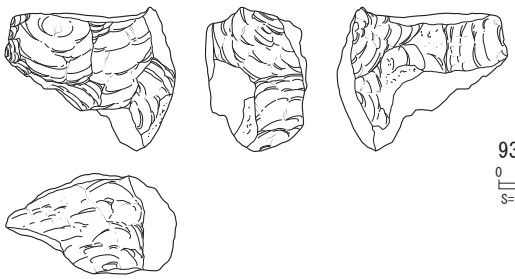


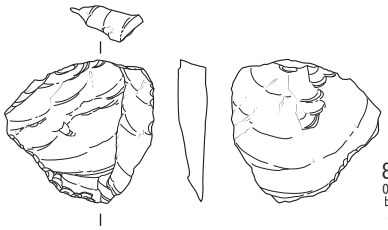
PJ040 号住居出土遺物

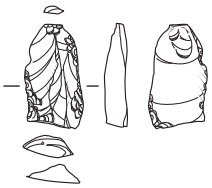


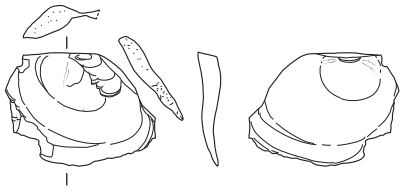


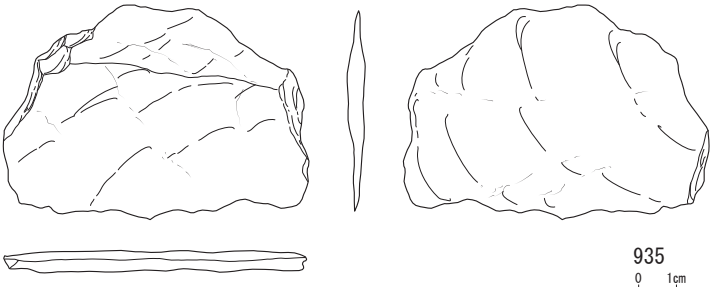












PJ040 号住居出土遺物

PJ40 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
427	6-010-2012	PJ-40	胴部～底部	－	－	7.2	129.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。まばらな縄文地文の土器底部。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
446		PJ-40	口縁部	－	－	－	10.0	破片	5YR5/6 5YR3/2	埋土一括取り上げ。口唇部が肥厚。胎土にわずかな繊維を含む。内面ヨコナデ。神ノ木式
447		PJ-40	胴部	－	－	－	42.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。外面に櫛歯状工具の波状文。内面は同じ工具で調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行か
448		PJ-40	口縁部	－	－	－	12.0	破片	5YR4/3 5YR3/2	埋土一括取り上げ。外面に櫛歯状工具の波状文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
449		PJ-40	胴部	－	－	－	46.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。外面に２条の平行沈線の波状文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
450		PJ-40	胴部	－	－	－	16.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。外面に波状の条線文。内面は凹凸が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
451		PJ-40	胴部	－	－	－	40.0	破片	10YR6/4 10YR5/4	埋土一括取り上げ。対面に粗雑な条線による格子文。内面は凹凸が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
452		PJ-40	胴部	－	－	－	51.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。外面に２条の平行沈線による格子文。内面は指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
453		PJ-40	口縁部	－	－	－	15.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/4	埋土一括取り上げ。外面は浅いひっかき傷のような沈線による格子文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
454		PJ-40	胴部	－	－	－	25.0	破片	7.5YR4/3 5YR4/4	埋土一括取り上げ。割れ面は疑口縁状。連点状の文様あり。胎土に繊維を含まない。内面は平滑にミガキ調整だが、剥離した箇所あり。神ノ木式か
455		PJ-40	口縁部	－	－	－	14.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR3/1	埋土一括取り上げ。器壁が厚い口縁部破片。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
456		PJ-40	口縁部	－	－	－	22.0	破片	10YR4/2 7.5YR6/4	埋土一括取り上げ。厚手の口縁部破片で、爪形文を縦方向に施文。胎土に繊維を含む。在地的な堂之上Ｚ式か
457		PJ-40	胴部	－	－	－	25.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。厚手の器壁。施文方向が曲線的な爪形文。胎土に繊維を含む。在地的な堂之上Ｚ式か。DK １０７号土坑 203 と同一個体
458		PJ-40	口縁部	－	－	－	45.0	破片	5YR3/4 5YR3/2	埋土一括取り上げ。口縁部直下が断面三角形に肥厚。羽状縄文地文。内面は平滑に横ナデ調整。胎土に繊維を含む。神ノ木式
459		PJ-40	口縁部	－	－	－	37.0	破片	5YR4/6 5YR2/1	埋土一括取り上げ。まばらな縄文地文。内面は指頭圧痕が残る横ナデ調整。胎土に繊維を含む。神ノ木式
460		PJ-40	口縁部	－	－	－	43.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/3	埋土一括取り上げ。縄文地文。内外面に凹凸が残る。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含む。神ノ木式
461		PJ-40	口縁部	－	－	－	18.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/1	埋土一括取り上げ。まばらな縄文地文。内外面にやや凹凸が残る。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含む。神ノ木式併行
462		PJ-40	胴部～底部	－	－	(5.8)	13.0	破片	10YR5/3 10YR6/4	埋土一括取り上げ。平底部破片。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
464		PJ-40	胴部～底部	－	－	(7.7)	93.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。平底部破片。底面はおおきくへこむ。胎土に繊維を含む。神ノ木式
465		PJ-40	胴部～底部	－	－	(7.5)	96.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。平底部破片。底面はややへこむ。胎土に繊維を含む。神ノ木式
467		PJ-40	胴部～底部	－	－	(6.0)	17.0	破片	10YR6/3 10YR2/1	埋土一括取り上げ。平底部破片。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
468		PJ-40	口縁部	－	－	－	40.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	埋土一括取り上げ。小突起のある口縁。平行沈線のなかに連点状刺突文と平行沈線。胎土に繊維を含まない。内面はやや指頭圧痕が残るが平滑に横ナデ調整。有尾式
469		PJ-40	胴部	－	－	－	11.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	埋土一括取り上げ。コンパス文。内面は平滑に横ナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式か

PJ40 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
470		PJ-40	胴部	−	−	−	220.0	破片	10YR3/1 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。まばらな縄文地文。内外面に指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
471		PJ-40	胴部	−	−	−	241.0	破片	7.5YR6/4 5YR4/3	埋土一括取り上げ。縄文地文。内面は指頭圧痕が残る横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
472		PJ-40	胴部	−	−	−	30.0	破片	7.5YR4/2 10YR4/3	埋土一括取り上げ。末端環付縄文。平行沈線。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含む。器壁は厚手。関山式
473		PJ-40	胴部	−	−	−	37.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR4/4	埋土一括取り上げ。縄文地文。内外面とも凹凸が残る。内面は粗雑な横ナデ調整。器壁は厚手。胎土に繊維を含む。神ノ木式併行
474		PJ-40	口縁部	−	−	−	38.0	破片	10YR7/4 10YR7/4	埋土一括取り上げ。無節縄文地文。内外面とも指頭圧痕が目立つ。内面はナデ調整。胎土に繊維を含む。黒浜式併行
475		PJ-40	胴部	−	−	−	16.0	破片	7.5YR2/2 5YR4/6	埋土一括取り上げ。末端環付縄文。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含む。関山式
476		PJ-40	胴部	−	−	−	5.0	破片	5YR6/6 5YR4/3	埋土一括取り上げ。爪形文。内面ハガレ。胎土に繊維を含まない。清水ノ上式併行
478		PJ-40	口縁部	−	−	−	7.0	破片	5YR6/6 5YR4/3	埋土一括取り上げ。口唇部は幅広、凹面状で竹管刺突文を施文。器面に先端二又工具の刺突。内面は平滑。胎土に繊維を含まない。599 と同一個体か。有尾式
479		PJ-40	胴部	−	−	−	170.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。反撚縄文地文と縦方向に施文した爪形文。内面は横ナデ調整。胎土五繊維を含む。堂之上Ｚ式と神ノ木式の折衷的土器か
480		PJ-40	口縁部	−	−	−	43.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。口縁部に 2 つの突起。3 本縄の束。内面は平滑な横ナデ調整。胎土に繊維を含む。神ノ木式
482		PJ-40	胴部	−	−	−	42.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。絡状体の回転施文。内面は平滑に横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
484		PJ-40	胴部	−	−	−	23.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。縄の束。内面は平滑に横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
485		PJ-40	胴部	−	−	−	12.0	破片	5YR4/3 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。櫛歯状工具で入組渦巻文と菱形文。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
486		PJ-40	口縁部	−	−	−	45.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。口縁部が肥厚。縄文地文。内面は指頭圧痕がやや残る横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
487		PJ-40	口縁部 ～胴部	−	−	−	61.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	埋土一括取り上げ。櫛歯状工具をずらし施文。内面は平滑に横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
488		PJ-40	口縁部	−	−	−	22.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR2/2	埋土一括取り上げ。ヘラ状工具？による横位の刺突列。器壁は薄く、内面は指頭圧痕がやや残るが平滑。胎土に繊維を含まない。上の坊式
489		PJ-40	口縁部	−	−	−	20.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。口唇部に環状突起。縄の末端を押捺したようなＣ字文。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
490		PJ-40	胴部	−	−	−	7.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。横位の竹管刺突列を密に施文。器壁は薄く、内面は指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。上の坊式
491		PJ-40	口縁部	−	−	−	4.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。横位の矢羽状単沈線と、ずらし施文した刺突文列。器壁は薄く、内面は指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。上の坊式
492		PJ-40	口縁部	−	−	−	17.0	破片	10YR5/3 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。先端二又のヘラ状工具による斜線文を横位に施文。口唇部は平坦に面取りされ、鋭い刻みを施文。内外面とも指頭圧痕が残り、内面はナデ調整。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。上の坊式
493		PJ-40	口縁部	−	−	−	47.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。口縁部上端に爪形文列。その下は縄文地文。内面は接合痕と指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含まず、479 に似た胎土質。堂之上Ｚ式と神ノ木式の折衷的土器か
495		PJ-40	口縁部	−	−	−	15.0	破片	7.5YR6/4 5YR5/4	埋土一括取り上げ。口縁部が肥厚し、爪形文列。内面は平滑。胎土に背にを含まない。堂之上Ｚ式

PJ40 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
496		PJ-40	口縁部～胴部	−	−	−	61.0	破片	7.5YR6/6 5YR4/3	埋土一括取り上げ。肥厚した波状口縁部に櫛歯状工具の刺突列。その下にＶ字状に刺突列を施文し、その周囲にＶ字状条線文。さらに下位に縄文。内面は平滑。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
497		PJ-40	口縁部	−	−	−	27.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/4	埋土一括取り上げ。口縁部に横位４列の連点状刺突列。内面は平滑。胎土に繊維を含まない。有尾式
498		PJ-40 、F-5-3	口縁部	−	−	−	51.0	破片	5YR5/4 5YR3/1	埋土一括取り上げ。肥厚した口縁部に櫛歯状工具をずらし施文した刺突文。その下位に平行条線。さらに下位には縄文に見せかけた櫛歯状工具の押引き文。内面は平滑なナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
499		PJ-40	口縁部	−	−	−	16.0	破片	5YR5/6 5YR5/4	埋土一括取り上げ。肥厚した口縁部に櫛歯状工具をずらし施文した刺突文。その下位に櫛歯状工具の刺突文と平行条線の渦巻文。口唇部は平坦に面取り。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
501		PJ-40	口縁部	−	−	−	40.0	破片	5YR4/3 5YR3/2	埋土一括取り上げ。櫛歯状工具による条線文で弧線を描き、その間に櫛歯状工具の横位の矢羽状刺突文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
503		PJ-40	口縁部	−	−	−	60.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。PJ008 号住居出土破片と同一個体。突起のある波状口縁で、口縁部に櫛歯状工具の刺突文。器壁は木島式のような薄さ。内面に指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
504		PJ-40	口縁部	−	−	−	27.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	埋土一括取り上げ。角状の小突起が口唇部に並び、口縁部が肥厚。櫛歯状工具による刺突文と条線。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
505		PJ-40	口縁部～胴部	−	−	−	61.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR5/3	埋土一括取り上げ。口縁部が肥厚。櫛歯状工具による刺突文と条線文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
506		PJ-40	口縁部	−	−	−	30.0	破片	7.5YR6/6 5YR4/4	埋土一括取り上げ。口縁部が肥厚。櫛歯状工具による刺突文。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
507		PJ-40	胴部	−	−	−	30.0	破片	5YR6/6 5YR5/6	埋土一括取り上げ。櫛歯状工具による刺突文とコンパス文を繰り返し施文。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
508		PJ-40	口縁部	−	−	−	24.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR4/1	埋土一括取り上げ。口縁部が肥厚。櫛歯状工具による刺突文と条線、縄文。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
509		PJ-40	口縁部～胴部	(18.0)	−	−	116.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。肥厚した口縁部に竹管で深い平行沈線を施文し、3 本の隆帯とする。その上に櫛歯状工具で刺突文。隆帯の下位にも刺突文。胴部は縄文。土器部位により条線文が施文される。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
510		PJ-40	胴部	−	−	−	25.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/4	埋土一括取り上げ。櫛歯状工具の刺突文、矢羽状の刺突文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
512		PJ-40	口縁部	−	−	−	59.0	破片	5YR5/6 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。口縁部が肥厚。口唇部に小突起。櫛歯状工具の刺突文と縄文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
513		PJ-40	口縁部	−	−	−	33.0	破片	5YR5/6 5YR3/1	埋土一括取り上げ。口縁部肥厚。縄文地文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。器壁は厚手で、胎土に繊維を含まない。神ノ木式
515		PJ-40	口縁部	−	−	−	47.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	埋土一括取り上げ。口縁部肥厚。櫛歯状工具の刺突文と条線文。その下位はまばらな刺突文。内面はナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
517		PJ-40	口縁部	−	−	−	26.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR5/3	埋土一括取り上げ。肥厚した口縁部に爪形文。胴部にまばらな縄文。内面は横ナデ調整。器壁や薄手。胎土に繊維を含む。堂之上Ｚ式
518		PJ-40	口縁部～胴部	−	−	−	44.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR5/3	埋土一括取り上げ。口縁部上端に爪形文。胴部は縄文。内外面とも指頭圧痕がやや残る。器壁は薄手。胎土に繊維を含まない。堂之上Ｚ式
519		PJ-40	口縁部	−	−	−	42.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/4	埋土一括取り上げ。口唇部に突起。口縁部に爪形文。その他の器面は縄文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。器壁はやや薄手。胎土に繊維を含まない。堂之上Ｚ式

PJ40 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
520		PJ-40	口縁部	−	−	−	11.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。DK364 号土坑埋土出土に同一個体あり。肥厚した口縁部に爪形文。胴部は縄文。器壁薄手で、内面はナデ調整。胎土に繊維を含まない。堂之上Ｚ式
521		PJ-40	口縁部	−	−	−	26.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	埋土一括取り上げ。肥厚した口縁部に爪形文。胴部は縄文。内面横ナデ。胎土に繊維を含まない。堂之上Ｚ式
522		PJ-40	口縁部 ～胴部	(18.8)	−	−	226.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。波状口縁。器壁は中厚手。外面は櫛歯状工具の縄文風の刺突文。竹管平行沈線で菱形文と渦巻文。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
523		PJ-40	口縁部 ～胴部	−	−	−	63.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。器壁は非常に薄い。口唇部に刻み。内外面に条痕文。内面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を含まない。北白川下層Ⅰ式併行か
524		PJ-40	口縁部 ～底部	(9.6)	−	(5.0)	71.0	破片	7.5YR4/2 5YR5/6	埋土一括取り上げ。接合痕、指頭圧痕が目立つ薄手の鉢形土器。胎土に繊維を含まない。
525		PJ-40 17、 PJ-40 20、 PJ-40	口縁部 ～胴部	(46.0)	−	−	690.0	破片	5YR6/6 7.5YR3/3	PJ040 号住居埋土下層、床面から 25 cm浮いて出土。厚手で大形の深鉢。口唇部はやや平坦に面取り。内外面に指頭圧痕が目立つナデ調整。胎土に繊維を含む。補修孔あり。中越Ⅳ式
526		PJ-40	口縁部	−	−	−	14.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR3/3	埋土一括取り上げ。口縁部に格子目文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式か
527		PJ-40	胴部	−	−	−	43.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。内外面指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。頸部のくびれ、屈曲が強い。中越Ⅲ式か
528		PJ-40	口縁部 ～胴部	−	−	−	103.0	破片	7.5YR7/4 5YR4/4	埋土一括取り上げ。接合痕と指頭圧痕が顕著。外面にヘラ状工具の擦痕。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
529		PJ-40	口縁部	−	−	−	35.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/3	埋土一括取り上げ。内外面指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
530		PJ-40	胴部	−	−	−	33.0	破片	5YR4/4 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。外面ナデ調整。内面指頭圧痕顕著。接合面で割れて疑口縁状。胎土に繊維を含まない。中越Ⅳ式か
531		PJ-40	口縁部	−	−	−	104.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。内外面指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
532		PJ-40	口縁部	−	−	−	65.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。内外面指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
533		PJ-40	口縁部	−	−	−	135.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。口唇部は内削ぎ状に面取り。内外面とも指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅲ式か
534		PJ-40	口縁部	−	−	−	49.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。内外面ナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
535		PJ-40	口縁部	−	−	−	34.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。内外面とも指頭圧痕が残るナデ調整。器壁は中厚手。胎土に繊維を含む。中越Ⅲ式
536		PJ-40	口縁部 ～胴部	(19.0)	−	−	60.0	破片	7.5YR4/2 10YR4/2	埋土一括取り上げ。突起のある波状口縁で、波頂部から粘土接合部のはみ出しの細線が垂下し左右に分岐。口縁部直下に段差をつくるように区画する。口縁部に爪形文のような単沈線。頸部のくびれに単沈線列。清水ノ上Ⅱ式もしくは上の坊式
537		PJ-40	口縁部	−	−	−	28.0	破片	10YR5/3 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。器壁はやや薄手。外面は指頭圧痕が目立ち、大きな爪形文をすり消すようにナデ調整。口縁部下位に刻みのある段差。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅱ式か
539		PJ-40	口縁部	−	−	−	9.0	破片	5YR5/4 7.5YR5/3	埋土一括取り上げ。口唇部につまんだような刻み、下位に格子目文。器壁は薄手。内外面に指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含まない。木島式
540		PJ-40	口縁部	−	−	−	11.0	破片	10YR6/4 10YR6/4	埋土一括取り上げ。口唇部刻み、下位に斜条線。器壁は薄手で内面に指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。木島式
541		PJ-40	胴部	−	−	−	26.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。器壁は薄手。内面指頭圧痕顕著。胎土に繊維を含まない。外面に格子状の擦痕。木島式
542		PJ-40	口縁部	−	−	−	9.0	破片	10YR6/3 7.5YR6/4	埋土一括取り上げ。口唇部に刻み。口縁部にヘラ状工具の刺突とつまんだような突起。平面形が菱形になる鉢形の器形か。器壁は薄手で胎土に繊維を含まない。木島式か

PJ40 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
543		PJ-40	口縁部	－	－	－	27.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	埋土一括取り上げ。口唇部に刻み。口縁部は格子目文。器壁は中厚手で、胎土に繊維を含まない。内面は指頭圧痕が顕著。中越Ⅰ式かⅡ式
544		PJ-40	胴部	－	－	－	10.0	破片	10YR8/4 10YR8/3	埋土一括取り上げ。つまみ隆帯。器壁は薄手で、胎土に繊維を含まない。木島式
545		PJ-40 、IG-6780	口縁部～胴部	(13.0)	－	－	82.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR3/3	埋土一括取り上げ。口唇部に刻み。口縁部はやや肥厚し、雑な格子目文。肥厚帯下端に刻み。その下位も雑な格子目。内面に指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。補修孔あり。木島式
546		PJ-40	口縁部	－	－	－	28.0	破片	7.5YR4/3 5YR4/4	埋土一括取り上げ。口唇部に刻み。口縁部に格子目。頸部に刻み。器壁は中厚手。焼成は硬質な外観。内面に指頭圧痕が顕著。外面は接合痕が残る。胎土に繊維を含まない。木島式
547		PJ-40	口縁部	－	－	－	15.0	破片	7.5YR5/6 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。口唇部に刻み。口縁部に格子目。頸部に刻み。器壁は薄手。内面に指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含まない。木島式
548		PJ-40	口縁部	－	－	－	17.0	破片	7.5YR6/6 5YR5/6	埋土一括取り上げ。口縁部破片。口縁部に格子目と垂下する刻み隆帯。器壁は中厚手。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅱ式
549		PJ-40	胴部	－	－	－	15.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。口縁部破片。垂下する刻み隆帯。器壁は中厚手。内面ナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅲ式
550		PJ-40	口縁部～底部	(5.0)	3.8	丸底	35.0	4/5	7.5YR5/6 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。手づくねのミニチュア土器。つまみ出した突起が６～７単位。内外面とも指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含まない。
551		PJ-40	胴部	－	－	－	12.0	破片	7.5YR7/4 5YR5/4	埋土一括取り上げ。口縁部に格子目文。頸部に段差と刻み。内面は横ナデ調整で、指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。木島式
552		PJ-40	胴部	－	－	－	15.0	破片	10YR3/2 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。横位のタガ状隆帯と縦位の隆帯。内面ナデ調整。胎土に繊維を含む。坂平式か
553		PJ-40	口縁部	－	－	－	28.0	破片	7.5YR3/3 10YR3/3	埋土一括取り上げ。外面にまばらな縄文か？　内面ナデ調整で指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
554		PJ-40	口縁部	－	－	－	47.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。外面縦方向のナデ調整、内面横方向のナデ調整。胎土に繊維を含まない。中越Ⅳ式
555		PJ-40	口縁部	－	－	－	40.0	破片	5YR3/3 7.5YR3/3	埋土一括取り上げ。内外面ナデ調整で指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
556		PJ-40	口縁部	－	－	－	34.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。外面ナデ調整、内面に指頭圧痕が残る。器壁は薄手で胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
557		PJ-40	口縁部	－	－	－	25.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/3	埋土一括取り上げ。外面にまばらな縄文。内面横ナデ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
558		PJ-40	口縁部～胴部	－	－	－	81.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR3/3	埋土一括取り上げ。外面横ナデ。内外面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
559		PJ-40	口縁部～胴部	－	－	－	120.0	破片	7.5YR2/1 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。波状口縁。外面縦ナデで炭化物が薄く付着。内面横ナデで指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。中越Ⅲ式
560		PJ-40	口縁部	－	－	－	19.0	破片	10YR7/4 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。内外面指頭圧痕。器壁は薄手。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
561		PJ-40	口縁部	－	－	－	42.0	破片	10YR7/3 10YR2/1	埋土一括取り上げ。内外面横ナデ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
569		PJ-40	胴部	－	－	－	24.0	破片	5YR5/4 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。外面に刻み隆帯。櫛歯状工具の条線文。内面横ナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
571		PJ-40	胴部	－	－	－	24.0	破片	7.5YR2/1 7.5YR4/6	埋土一括取り上げ。外面は縄文。内面に条痕。胎土に繊維を含む。早期後半か？
572		PJ-40	胴部	－	－	－	51.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR5/3	埋土一括取り上げ。外面はまばらな縄文。内外面とも器面調整は粗雑で指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式？
573		PJ-40	口縁部	－	－	－	38.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/3	埋土一括取り上げ。外面縄文、内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式

PJ40 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
574		PJ-40	胴部～底部	−	−	丸底	26.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。底部破片。胎土に繊維を含む。中越式
575		PJ-40	底部	−	−	丸底	26.0	破片	10YR3/1 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。底部破片。胎土に繊維を含む。中越式
576		PJ-40	底部	−	−	丸底	23.0	破片	7.5YR4/2 10YR5/3	埋土一括取り上げ。底部破片。胎土に繊維を含む。中越式
577		PJ-40	胴部～底部	−	−	(7.4)	59.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。底部外面下端に爪形文がめぐる。内面はナデ調整。胎土に繊維を含まない。堂之上Ｚ式
578		PJ-40	胴部～底部	−	−	(7.6)	34.0	破片	5YR6/4 5YR6/6	埋土一括取り上げ。底部外面下端に爪形文がめぐる。胎土に繊維を含まない。堂之上Ｚ式
579		PJ-40	胴部～底部	−	−	(8.2)	71.0	破片	5YR6/6 7.5YR4/2	埋土一括取り上げ。外面縄文。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
580		PJ-40	胴部～底部	−	−	(4.5)	9.0	破片	7.5YR2/2 10YR4/2	埋土一括取り上げ。へこんだ底面。胎土に繊維を含む。神ノ木式
581		PJ-40	胴部～底部	−	−	(11.4)	63.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR7/4	埋土一括取り上げ。底部外面下端に櫛歯状工具の刺突列がめぐる。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
582		PJ-40	口縁部	(3.0)	−	−	4.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。ミニチュア深鉢。外面に縄文、内面は横ナデ。胎土に繊維を含まない
583		PJ-40	胴部	−	−	−	4.0	破片	スス付着 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。ミニチュア土器。胎土に繊維を含まない。内面に炭化物付着
585		PJ-40	胴部～底部	−	−	4.6	55.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。へこんだ底面。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
586		PJ-40	口縁部～胴部	(5.3)	−	−	9.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR3/1	埋土一括取り上げ。ミニチュア土器。粗雑な手づくね成形。胎土に繊維を含む
587		PJ-40 16、PJ-40	胴部～底部	−	−	10.0	173.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	東壁沿いの床面から 4 cm浮いて出土。底面はややへこむ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
588		PJ-40	胴部～底部	−	−	8.8	158.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR7/4	埋土一括取り上げ。外面は刺突文。内面ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
589		PJ-40	胴部	−	−	−	56.0	破片	7.5YR5/3 10YR5/3	埋土一括取り上げ。結束羽状縄文。コンパス文。内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含む。関山式
590		PJ-40	胴部	−	−	−	13.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR7/6	埋土一括取り上げ。外面に細かな爪形文を斜位に施文。内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含む。
592		PJ-40	口縁部	−	−	−	32.0	破片	5YR5/4 10YR3/1	埋土一括取り上げ。口唇部に浅い刻み、外面は竹管の C 字刺突文。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式
593		PJ-40	胴部	−	−	−	18.0	破片	7.5YR6/6 10YR5/3	埋土一括取り上げ。直前段合撚を組み合わせた羽状縄文。内面ていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含む。関山式
594		PJ-40	胴部	−	−	−	21.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。櫛歯状工具の刺突文。内面はていねいな横ナデ調整。胎土に繊維を含む。有尾式
595		PJ-40	胴部	−	−	−	18.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。外面はハシゴ状文に貼付文。内面はていねいな横ナデ調整。胎土に繊維を含む。関山式
596		PJ-40	胴部	−	−	−	37.0	破片	5YR5/6 7.5YR4/4	埋土一括取り上げ。外面は竹管の菱形状文様と縄文、貼付文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。関山式
597		PJ-40	胴部	−	−	−	42.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。末端環付縄文、内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含む。関山式
598		PJ-40	胴部	−	−	−	19.0	破片	7.5YR5/4 10YR3/1	埋土一括取り上げ。櫛歯状工具の連点状刺突文。内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含む。有尾式
599		PJ-40	口縁部	−	−	−	40.0	破片	5YR4/3 5YR5/4	埋土一括取り上げ。口唇部と胴部外面に竹管の C 字刺突文。478 と同一個体。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式

PJ40 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
600		PJ-40	口縁部～胴部	(19.0)			70.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/2	埋土一括取り上げ。PJ08 埋土でも破片出土。低い波状口縁か。口縁部に櫛歯状工具の刺突文が施文された低隆帯 3 条。胴部は櫛歯状工具で描出した平行沈線の格子目文と刺突文。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
601		PJ-40	口縁部～胴部	－	－	－	71.0	破片	7.5YR3/2 5YR3/4	埋土一括取り上げ。口縁部に竹管沈線、下位に菱形状文様と C 字刺突文、まばらな縄文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維をわずかに含む。有尾式
602		PJ-40	胴部	－	－	－	98.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/6	埋土一括取り上げ。竹管沈線と C 字刺突文列。内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含む。有尾式
603		PJ-40	口縁部～胴部	(11.4)	－	－	457.0	破片	10YR3/2 10YR5/3	埋土一括取り上げ。縄文地文。器壁はやや薄手。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。底面はややへこむ。神ノ木式
605		PJ-40、IG-538、E-4-14、F-5-3、F-6-7、G-6-20、H-4-11、遺跡一括	口縁部～底部	(28.6)	(37.2)	7.6	1,457.0	1/3	7.5YR2/1 5YR4/6	PJ040 埋土と周辺グリッドから出土。口縁部に小突起。胴上半はまばらな組紐？　下半は無文。内面は指頭圧痕がやや残るナデ調整。器壁は中厚手。胎土に繊維を含まない。補修孔あり。神ノ木式
606		PJ-40	口縁部～胴部	－	－	－	725.0	破片	5YR6/6 5YR3/2	埋土一括取り上げ。内外面とも粗雑な調整。内面は繊維痕がくぼみ状に残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
607		PJ-40	口縁部～胴部	(40.0)	－	－	2,929.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR5/4	埋土一括取り上げ。内外面指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
608		PJ-40 20	口縁部～胴部	23.2	－	－	1,962.0	3/4	7.5YR4/2 7.5YR3/2	PT1140 号ピット西脇、床面から 21 ㎝浮いて出土。内外面指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
609		PJ-40 15、PJ-40	口縁部～底部	21.0	22.7	7.0	1,204.0	ほぼ完形	5YR4/3 5YR5/4	地床炉東脇、床面から 14 ㎝浮いて出土。4 単位の波状口縁。口唇部に刻み。頸部までは櫛歯状工具の沈線と刺突文。胴下半は縄文。内面はていねいな横ナデ調整。上げ底の底部。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
610		PJ-40 19、PJ-40	口縁部～底部	(29.2)	34.3	丸底	1,467.0	3/4	7.5YR4/4 7.5YR4/3	地床炉東側、床面から 8 ㎝浮いて出土。内外面指頭圧痕が顕著に残る。器壁は中厚手。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式
640		PT-548	口縁部	－	－	－	34.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR3/2	PJ040 内 PT548 号ピット出土。同一個体が PJ040 号住居埋土から出土。肥厚した口縁に櫛歯状工具による刺突文。肥厚口縁の下端に段差。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
642		PT-561	口縁部	－	－	－	59.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR3/1	PJ040 内 PT561 号ピット出土。外面羽状縄文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。神ノ木式
682		PJ-40	胴部～底部	－	－	丸底	49.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。内外面ともナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式
683		PJ-40	胴部～底部	－	－	丸底	157.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。内外面ナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式
684		PJ-40	口縁部～胴部	－	－	－	88.0	破片	5YR5/3 7.5YR4/3	埋土一括取り上げ。直線的に開く器形。内外面とも指頭圧痕が残る。内面はナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式
686		PJ-40 、PJ-40 18	口縁部～底部	(39.0)	(38.5)	丸底	1,117.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/2	埋土下層出土。直線的に開く器形。外面は縦ナデ、内面は横ナデ。内外面とも指頭圧痕が残る。器壁は中厚手。胎土に繊維を含む。中越式
1534		PJ-40	口縁部	－	－	－	18.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	埋土一括取り上げ。口唇部に刻み。口縁部にタガ状隆帯がめぐり、上位に斜位の沈線文。胎土に繊維を含む。
3036		PJ-40	胴部	－	－	－	18.0	破片	5YR5/4 5YR3/1	埋土一括。縄の束。内面ヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
3037		PJ-40	胴部	－	－	－	12.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/3	埋土一括。2 本に束ねた縄文を押捺施文。内面ヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
3038		PJ-40	胴部	－	－	－	10.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR5/4	埋土一括。器面調整、胎土質は中越式土器に似るが、外面にまばらな爪形文を施文。中越式併行

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0842	PJ-40　1	礫器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	106.0	121.0	46.0	647.70	住居中央付近、埋土上層出土。円礫面が残る厚い剥片の周縁に剥離
0843	PJ-40	礫器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	99.0	104.0	34.0	429.30	埋土一括取り上げ。円礫面が残る厚い剥片の二辺に剥離
0844	PJ-40　6	削器	頁岩	3/4	85.0	111.0	26.0	278.50	北壁沿い、床面から 28 ㎝浮いて出土。頁岩円礫の厚い剥片の一辺に使用痕剥離と磨耗、別の一辺に鋸歯縁状の剥離。
0845	PJ-40	横刃形石器	頁岩	1/1	91.0	59.0	17.0	103.20	埋土一括取り上げ。円礫面が残る剥片の二辺に剥離と磨滅痕。礫面側稜部に顕著な線条痕磨耗あり。
0846	PJ-40	打製石斧	頁岩	1/2	87.0	54.0	17.0	78.40	埋土一括取り上げ。亜円礫面が残る剥片に剥離。打製石斧とも削器ともみえる。
0847	PJ-40	礫器	頁岩	1/2	55.0	66.0	12.0	57.00	埋土一括取り上げ。薄い剥片状素材の一辺に両面加工の刃部
0848	PJ-40	削器	珪質頁岩	3/4	49.0	58.0	16.0	40.90	埋土一括取り上げ。刃部中央の調整角度が大きい。裏面に主剥離面を大きく残す。白筋のある青灰色珪質頁岩
0849	PJ-40	削器	下呂石	1/2	56.0	40.0	12.0	24.70	埋土一括取り上げ。縦長剥片両側縁を刃部とする。右側縁は小ぶりな刃部加工を施した削器と思える。亜角礫面がわずかに残る。
0850	PJ-40	削器	珪質頁岩	1/1	66.0	23.0	8.0	13.20	埋土一括取り上げ。折れ面先端側縁部使用、微小剥離。4 刃。掻器状刃部と掻器刃部が左側縁につくり分けられている。右側縁に微小剥離痕。茶灰色で白筋の入る珪質頁岩で、遠隔地石材か。
0851	PJ-40	石錐	珪質頁岩	－	－	32.0	11.0	12.00	埋土一括取り上げ。石匙のようにもみえるが、刃部は両面調整。先端を欠損した石錐とみた。灰色頁岩。
0852	PJ-40	両極石器	黄色頁岩	1/1	39.0	31.0	13.0	12.40	埋土一括取り上げ。両端に使用痕潰れ。黄土色の珪質頁岩。遠隔地石材
0853	PJ-40	石鏃	灰色チャート	1/1	20.0	27.0	10.0	4.99	埋土一括取り上げ。厚手で小形石匙を再加工した石鏃未成品か。黒斑のある灰色チャート
0854	PJ-40	削器	凝灰岩	1/1	30.0	47.0	7.0	7.90	埋土一括取り上げ。縦長剥片の主剥離面に刃部調整。側縁に階段状剥離。緑灰色の凝灰岩か？　在地石材ではない
0855	PJ-40	削器	珪質頁岩	1/1	39.0	55.0	13.0	26.70	埋土一括取り上げ。打面に亜角礫面を残す。厚手の剥片の二辺に刃部。片辺は掻器状の急角度の刃部。片辺は素刃削器状の使用痕。白筋のある青灰色珪質頁岩
0856	PJ-40	剥片	珪質頁岩	1/1				3.40	埋土一括取り上げ。打面に礫面を残す。青灰色の珪質頁岩
0857	PJ-40	剥片	珪質頁岩	3/4				5.90	埋土一括取り上げ。打面に亜円礫面を残す。青灰色で細かな白筋のある珪質頁岩
0858	PJ-40	剥離のある剥片	珪質頁岩	1/1				9.80	埋土一括取り上げ。一辺に使用痕剥離。白筋のある青灰色珪質頁岩
0859	PJ-40	剥片	珪質頁岩	1/1				6.10	埋土一括取り上げ。打面に礫面を残す。白筋がある青灰色珪質頁岩
0860	PJ-40	剥片	珪質頁岩	1/1				1.90	埋土一括取り上げ。青灰色の珪質頁岩
0861	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	22.0	22.0	9.0	3.40	埋土一括取り上げ。石鏃未成品か。厚みがとれずに欠損、放棄。濁りのある半透明黒曜石
0862	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	12.0	15.0	5.0	0.75	埋土一括取り上げ。先端欠損。透明な黒曜石
0863	PJ-40	ﾐﾆﾁｭｱ石匙	黒曜石	1/1	14.0	11.0	4.0	0.43	埋土一括取り上げ。親指の爪くらいの大きさのミニチュア品。漆黒の黒曜石
0864	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.00	埋土一括取り上げ。やや厚手の剥片の二辺に使用痕。濁りのある半透明黒曜石
0865	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石					0.50	埋土一括取り上げ。小さな剥片の一辺に使用痕。青灰色の不透明黒曜石。神津島産か
0866	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	19.0	20.0	5.0	1.46	埋土一括取り上げ。未成品。両脚欠損。夾雑物がある透明黒曜石
0867	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	18.0	16.0	5.0	1.00	埋土一括取り上げ。抉りのある石鏃とみた。透明感のある黒曜石

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
0868	PJ-40	両極石器	黒曜石	1/1				1.60	埋土一括取り上げ。両端に潰れ。側縁に使用痕。濁りのある半透明黒曜石
0869	PJ-40	石匙	黒曜石	－	－	－	7.0	3.60	埋土一括取り上げ。つまみ部周辺のみ残存。縞のある半透明な黒曜石
0870	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	18.7	15.8	4.3	1.04	埋土一括取り上げ。未成品。ズリ面が残る薄い剥片の二辺に調整。透明な黒曜石
0871	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.60	埋土一括取り上げ。小さな砕片の薄い縁辺に使用痕。縞のある半透明黒曜石
0872	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.90	埋土一括取り上げ。ズリ面が残る剥片の一辺に使用痕。漆黒の黒曜石
0873	PJ-40	石核	石英岩	1/1	60.0	20.0	14.0	24.30	透明な石英岩。一部に角柱状結晶があるが、表面はすりガラス状。
0874	PJ-40	削器	石英岩	1/1	41.0	50.0	11.0	25.70	板状素材の薄い縁辺に刃部調整。柱状結晶がない透明な石英岩
0875	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	－	－	3.9	(0.47)	埋土一括取り上げ。石鏃のような三角形の先端に潰れ。濁りのある半透明黒曜石
0876	PJ-40	石鏃	珪質頁岩	1/1	20.0	15.7	3.0	0.72	埋土一括取り上げ。加工剥離からみて再加工品か。白粒の混じる茶灰色の珪質頁岩。850 に似た石質
0877	PJ-40	石鏃	珪質頁岩	3/4	－	－	4.9	(1.18)	埋土一括取り上げ。基部に調整なし。尖頭器破片か。青灰色で白筋がある珪質頁岩
0878	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	2.8	(0.28)	埋土一括取り上げ。両脚欠損。両面加工の優品。透明な黒曜石
0879	PJ-40	石匙	泥岩	3/4	28.0	53.0	4.0	7.00	埋土一括取り上げ。つまみ部欠損。黄色風化泥岩
0880	PJ-40	石匙	チャート	1/1	38.0	39.0	6.0	10.20	埋土一括取り上げ。赤色と暗灰色の縞模様のチャート。
0882	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	2.2	(0.27)	埋土一括取り上げ。先端と基部欠損。両面加工。透明な黒曜石
0883	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(21.2)	－	3.8	(0.77)	埋土一括取り上げ。未成品。片脚先端欠損。片脚は節理面で大きく欠損。濁りのある透明黒曜石
0884	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.3	(0.44)	埋土一括取り上げ。基部側欠損。両面加工。白い夾雑物粒が入る青灰色の不透明黒曜石。
0885	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	28.0	(16.9)	4.7	(1.58)	埋土一括取り上げ。ズリ面が残る剥片素材。基部と片脚を調整中に欠損、放棄か。縞のある透明黒曜石
0886	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	15.8	13.2	3.5	0.56	埋土一括取り上げ。指爪くらいの小さな未成品。基部、脚部の調整前に放棄。もしくは凸基か。半透明黒曜石
0887	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	4.8	(1.18)	埋土一括取り上げ。未成品。両脚欠損。夾雑物粒の混じる透明黒曜石
0888	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	19.5	－	3.0	(0.51)	埋土一括取り上げ。未成品。両面に主剥離面を残す。縁辺調整中に片脚欠損。夾雑物が混じる漆黒黒曜石
0889	PJ-40	石鏃	チャート	3/4	18.9	－	3.0	(0.51)	埋土一括取り上げ。表面に礫面、裏面に大きく主剥離面が残る。茶褐色と黒色の斑がある灰色チャート
0890	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	24.6	18.1	6.5	1.32	埋土一括取り上げ。先端欠損。透明感のある黒曜石
0891	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(17.9)	－	3.1	(0.51)	埋土一括取り上げ。未成品。両脚欠損。両面加工。縞のある半透明黒曜石
0892	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	21.4	16.6	4.2	11.20	埋土一括取り上げ。未成品。基部調整中に片脚欠損か。白筋のある漆黒黒曜石
0893	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	19.1	13.8	3.4	0.81	埋土一括取り上げ。未成品。先端と基部欠損。透明な黒曜石
0894	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	3.4	(0.42)	埋土一括取り上げ。両脚欠損。両面加工の優品。漆黒の黒曜石
0895	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(20.1)	－	3.7	(0.44)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。細身。透明な黒曜石
0896	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	1.9	(0.09)	埋土一括取り上げ。脚部破片か。漆黒の黒曜石
0897	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	17.6	10.6	5.2	0.73	埋土一括取り上げ。石核のような厚みのある素材か。表裏に素材剥離面が残る。先端のみ調整剥離した五角形の石鏃。透明な黒曜石。

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0898	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	23.0	17.7	5.9	2.03	埋土一括取り上げ。表裏面にズリ面か主剥離面が小さく残る。未成品。縞のある透明な黒曜石
0899	PJ-40	石鏃	石英岩	3/4	23.0	15.8	4.8	1.93	未成品。凹基、両面加工。片脚欠損。礫面が残る。透明な石英岩
0900	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	−	−	3.1	(0.58)	埋土一括取り上げ。先端、片脚欠損。両面加工。黒斑入りの透明黒曜石
0901	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	−	−	3.3	(0.78)	埋土一括取り上げ。先端、片脚欠損。両面加工。漆黒の黒曜石
0902	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	18.6	−	3.0	(0.38)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。両面加工の優品。縞のある半透明黒曜石
0903	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	24.9	18.1	7.0	2.53	埋土一括取り上げ。未成品。白筋のある漆黒黒曜石
0904	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	−	20.2	3.1	(0.88)	埋土一括取り上げ。未成品。先端大きく欠損。片面に主剥離面が大きく残る剥片素材。縞のある半透明黒曜石
0905	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	16.2	16.1	3.8	0.83	埋土一括取り上げ。先端と片脚欠損。基部調整が粗く未成品か。縞のある透明な黒曜石
0906	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(20.5)	(13.5)	2.8	(0.55)	埋土一括取り上げ。先端部は衝撃剥離。両脚先端欠損。透明な黒曜石
0907	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	19.0	(12.7)	4.0	(0.57)	埋土一括取り上げ。黒縞のある透明な黒曜石
0908	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	16.1	13.3	3.8	0.59	埋土一括取り上げ。小さな白い夾雑物が入り半透明な黒曜石。冷山系か。
0909	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	16.4	14.9	3.6	0.80	埋土一括取り上げ。表裏に素材剥離面が残る。小さな夾雑物が混じる透明な黒曜石
0910	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	19.8	−	3.4	(0.49)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。やや長脚。両面加工の優品。濁りのある半透明黒曜石
0911	PJ-40	石鏃	石英岩	3/4	23.5	−	3.9	(1.02)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。透明な石英岩
0912	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(13.2)	−	2.0	(0.18)	埋土一括取り上げ。片脚先端欠損。黒縞のある半透明黒曜石
0913	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	16.0	−	3.3	(0.44)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。漆黒の黒曜石
0914	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	18.9	13.3	5.2	0.83	埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
0915	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	23.6	−	4.0	(0.87)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。基部調整粗く未成品か。両面加工。漆黒の黒曜石
0916	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	15.3	12.7	3.1	0.31	埋土一括取り上げ。縞のある透明な黒曜石
0917	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	13.8	15.5	2.8	0.31	埋土一括取り上げ。縞のある半透明な黒曜石
0918	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	2.3	(0.33)	埋土一括取り上げ。先端、片脚欠損。長脚。両面加工の優品。濁りのある半透明黒曜石
0919	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	20.7	(15.2)	3.1	(0.51)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。透明な黒曜石
0920	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	28.3	17.8	3.1	0.96	埋土一括取り上げ。漆黒の黒曜石
0921	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	26.3	11.9	3.1	0.58	埋土一括取り上げ。奇妙に細長い器形。再加工品か。やや緑がかった漆黒、白い粒が入る黒曜石。神津島産か？
0922	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	23.7	16.5	4.2	0.79	埋土一括取り上げ。流紋岩筋のある透明な黒曜石
0923	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	20.1	14.6	2.4	0.46	埋土一括取り上げ。表裏面に素材剥離面が残る。漆黒の黒曜石
0924	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	26.3	15.8	2.7	0.70	埋土一括取り上げ。漆黒の黒曜石
0925	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	−	−	2.7	(0.42)	埋土一括取り上げ。先端、片脚欠損。長脚。両面加工の優品。縞のある透明黒曜石
0926	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	17.4	13.4	5.1	0.84	埋土一括取り上げ。先端と両脚欠損。やや厚い。透明な黒曜石
0927	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(24.6)	−	4.0	(0.98)	埋土一括取り上げ。両脚欠損。両面加工の優品。縞のある透明黒曜石
0928	PJ-40	礫器	砂岩	1/1	93.0	79.0	33.0	276.10	埋土一括取り上げ。円礫面が残る厚い剥片の一辺に刃部潰れ
0929	PJ-40	礫器	頁岩	1/1	76.0	75.0	27.0	211.90	埋土一括取り上げ。円礫の片端に刃部、片端は折り取りか？

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
0930	PJ-40	石核	黒曜石	1/1				11.70	埋土一括取り上げ。礫面が残る。四方から剥離した薄い石核。白筋のある漆黒黒曜石
0931	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				6.40	埋土一括取り上げ。ズリ面が残る剥片の二辺に使用痕。縞のある半透明黒曜石
0932	PJ-40	原石	黒曜石					31.70	埋土一括取り上げ。角礫ズリ。一発コア。半透明の黒曜石
0933	PJ-40	原石	黒曜石					28.30	埋土一括取り上げ。河川転石。板状。赤褐色斑入りの黒曜石
0934	PJ-40	削器	珪質頁岩	3/4	25.0	57.0	6.0	8.60	埋土一括取り上げ。主剥離面を残す横長剥片の両側縁に刃部。片側に加工前の折損あり。濃緑灰色の珪質頁岩。遠隔地石材
0935	PJ-40	剥片	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	57.0	81.0	6.0	30.40	埋土一括取り上げ。薄く整った形状の剥片だが、剥離、使用痕なし
0936	PJ-40	剥片	頁岩	1/2				11.90	埋土一括取り上げ。打面に礫面を残す。ややホルンフェルス化した石材
0937	PJ-40	削器	泥岩	3/4	48.0	43.0	10.0	16.80	埋土一括取り上げ。上端は折損。黄色風化泥岩
0938	PJ-40	石核	石英岩	1/1	38.0	45.0	24.0	42.20	透明な石英岩。一部に礫面が残る。
0939	PJ-40	原石	黒曜石					36.80	埋土一括取り上げ。ズリ。白い夾雑物のある半透明の黒曜石
0940	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				6.50	埋土一括取り上げ。石核状の剥片の一辺に使用痕。白筋のある漆黒黒曜石
0941	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				6.90	埋土一括取り上げ。残核の薄い一辺に使用痕。縞のある透明な黒曜石
0942	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.30	埋土一括取り上げ。礫面が残る剥片の一辺を調整。縞のある半透明黒曜石
0943	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	20.9	19.2	6.2	1.73	埋土一括取り上げ。未成品。剥離に失敗して大きく欠損。白筋のある漆黒黒曜石
0944	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	22.6	11.0	2.4	0.18	埋土一括取り上げ。透明な黒曜石
0945	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	17.1	14.7	3.0	0.38	埋土一括取り上げ。実測図裏面に主剥離面が小さく残る。半透明の黒曜石
0946	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	20.7	－	4.1	(0.65)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。両面加工。縞のある半透明黒曜石
0947	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	17.2	－	3.0	(0.37)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。両面加工だが、片面の調整は粗い。漆黒の黒曜石
0948	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	－	20.4	3.1	(0.91)	埋土一括取り上げ。先端欠損。両面加工。縞のある透明な黒曜石
0949	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(17.3)	－	2.7	(0.35)	埋土一括取り上げ。両脚先端欠損。両面加工の優品。漆黒の黒曜石
0950	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	20.2	－	3.2	(0.49)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。両面加工の優品。透明な黒曜石
0951	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(18.5)	11.7	2.4	(0.30)	埋土一括取り上げ。実測図裏面に主剥離面が残る。透明な黒曜石
0952	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	17.8	15.1	2.8	0.46	埋土一括取り上げ。ブルーブラック系黒曜石
0953	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.70	埋土一括取り上げ。折れた剥片の一辺に使用痕。縞のある透明黒曜石
0954	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	18.5	－	2.4	(0.30)	埋土一括取り上げ。片面に主剥離面が大きく残る。片脚欠損。抉りが深い長脚。縞のある半透明黒曜石
0955	PJ-40	両極石器	黒曜石	1/1	19.0	10.0	5.0	1.00	埋土一括取り上げ。小さな角柱状の砕片の両端が潰れ。透明な黒曜石
0956	PJ-40	両極石器	黒曜石	1/1	17.0	18.0	6.0	1.90	埋土一括取り上げ。剥片の両端に打撃痕。透明な黒曜石
0957	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.60	埋土一括取り上げ。礫面が残る小さな剥片の一辺に使用痕。縞のある透明黒曜石
0958	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.90	埋土一括取り上げ。曲がった剥片の一辺に使用痕。半透明の黒曜石
0959	PJ-40	削器	黒曜石	1/1	22.0	47.0	9.0	10.80	埋土一括取り上げ。素材はズリ面で囲まれた板状原石。一辺に使用痕。縞のある透明黒曜石
0960	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	14.0	14.1	2.3	0.27	埋土一括取り上げ。透明な黒曜石

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0961	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	13.7	11.5	2.4	0.25	埋土一括取り上げ。縞模様の半透明黒曜石
0962	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	22.3	17.0	5.2	1.67	埋土一括取り上げ。未成品。基部側に厚みが残る。基部調整が進まない段階で片脚が欠損。縞のある透明黒曜石
0963	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	23.9	14.8	7.4	2.69	埋土一括取り上げ。未成品。厚手の剥片素材。先端に磨滅。縞のある半透明黒曜石
0964	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	18.6	－	3.5	(0.52)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。小さな夾雑物粒がある透明な黒曜石
0965	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	14.1	3.0	(0.30)	埋土一括取り上げ。先端欠損。両面加工。やや長脚。縞のある透明黒曜石
0966	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	16.9	13.6	4.3	0.57	埋土一括取り上げ。大きな剥離面で未成品か。先端部は欠損していない。黒縞のある透明な黒曜石
0967	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	16.4	14.0	2.9	0.47	埋土一括取り上げ。先端部欠損。漆黒の黒曜石
0968	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	20.3	15.2	4.0	0.78	埋土一括取り上げ。実測図裏面に礫面が小さく残る。黒縞のある半透明黒曜石
0969	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	17.8	13.4	2.8	0.42	埋土一括取り上げ。漆黒の黒曜石
0970	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	22.0	18.0	4.6	1.57	埋土一括取り上げ。未成品。両面に器体中央に届く深い押圧剥離を施す段階で脚部側が折損。夾雑物粒が混じる半透明黒曜石
0971	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	21.8	－	2.6	(0.39)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。両面加工。長脚鏃。縞のある半透明黒曜石
0972	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	20.7	17.3	4.2	1.20	埋土一括取り上げ。未成品。三辺に大きな調整剥離を終えた段階で放棄。縞のある透明黒曜石
0973	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	19.6	12.4	3.1	0.61	埋土一括取り上げ。実測図裏面に主剥離面が残る。透明な黒曜石。ややくすんでいるのは被熱したからか。
0974	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	4.1	(0.92)	埋土一括取り上げ。先端、両脚欠損。細身の鏃。透明な黒曜石
0975	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	21.2	－	2.8	(0.41)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。両面加工の優品。やや長脚。漆黒の黒曜石
0976	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	17.7	(15.4)	3.5	(0.56)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。両面加工の優品。長脚鏃。縞のある透明黒曜石
0977	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	20.8	－	3.7	(0.67)	埋土一括取り上げ。未成品か。片脚が夾雑物粒箇所で欠損。縞のある透明黒曜石
0978	PJ-40	石鏃	黒曜石	－	－	－	4.1	(0.80)	埋土一括取り上げ。未成品。先端、片脚欠損。縞のある半透明黒曜石
0979	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石					1.30	埋土一括取り上げ。折れた剥片の一辺に使用痕。半透明黒曜石
0980	PJ-40	石核	黒曜石					2.50	埋土一括取り上げ。両極打撃のような潰れあり。縞のある半透明黒曜石
0981	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.40	埋土一括取り上げ。尖った剥片の二辺に使用痕。黒斑入りの透明黒曜石
0982	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				4.70	埋土一括取り上げ。ズリ面のある剥片の一辺に使用痕。濁りのある半透明黒曜石
0983	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.90	埋土一括取り上げ。ズリ面がある剥片の一辺に使用痕。白筋のある漆黒黒曜石
0984	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	26.0	8.0	7.0	1.40	埋土一括取り上げ。礫面を残す三角柱状素材。先端に顕著な磨滅痕。漆黒の黒曜石
0985	PJ-40	石錐	珪質頁岩	1/1	28.0	9.0	4.0	0.80	埋土一括取り上げ。礫面が残る。先端は折損か。使用痕はみえない。青灰色の珪質頁岩
0986	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	17.8	14.7	6.9	1.62	埋土一括取り上げ。素材の厚みが残る石鏃未成品の先端を錐にしようか。先端に潰れあり。濁りのある半透明黒曜石
0987	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	30.9	21.8	8.4	5.74	埋土一括取り上げ。片面にズリ面が大きく残る。両面加工。未成品。白筋のある漆黒黒曜石

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
0988	PJ-40	石錐	珪質頁岩	1/1	32.0	11.0	4.0	1.20	埋土一括取り上げ。使用痕はみえない。白筋のある青灰色珪質頁岩
0989	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	23.8	－	4.2	(1.23)	埋土一括取り上げ。片脚欠損。片縁辺折れ。縞のある半透明黒曜石
0990	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	17.1	10.8	4.3	0.62	埋土一括取り上げ。剥片素材。透明な黒曜石
0991	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	27.5	19.5	9.3	4.09	埋土一括取り上げ。未成品。礫面が残る厚い素材の片側側縁に両面加工。縞のある半透明黒曜石
0992	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	33.0	13.0	4.0	2.20	埋土一括取り上げ。実測図裏面に礫面を残す剥片素材。先端ガジリ。使用痕はみえない。暗褐色斑入りの半透明黒曜石。被熱か
0993	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	19.0	14.0	3.0	0.70	埋土一括取り上げ。先端欠損？　使用痕はみられない。透明な黒曜石
0994	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	25.4	－	4.5	(1.12)	埋土一括取り上げ。未成品。片脚欠損。両面加工で縁辺調整が粗い。縞のある透明黒曜石
0995	PJ-40 炉	石鏃	黒曜石	3/4	－	17.9	4.4	(1.13)	地床炉の浅いくぼみの埋土で出土。先端欠損。両面加工。縁辺調整が粗く、未成品か。透明な黒曜石
0996	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	35.0	21.0	9.0	4.90	埋土一括取り上げ。ズリ面を残す断面三角形の厚手の剥片素材。刃部先端が磨滅。半透明の黒曜石
0997	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	10.0	7.0	3.0	0.30	埋土一括取り上げ。ズリ面が残る小さな縦長剥片素材。先端に潰れと磨耗。透明な黒曜石
0998	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	27.0	12.0	3.0	0.70	埋土一括取り上げ。先端に潰れと磨耗。縞のある透明な黒曜石
0999	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	2.1	(0.16)	埋土一括取り上げ。小指の爪くらいの小さな石鏃。両脚欠損。両面加工の優品。透明な黒曜石
1000	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	13.2	13.4	2.5	0.29	埋土一括取り上げ。緑がかった縞のある黒曜石。小さな白色粒の夾雑物あり。神津島産か
1001	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	21.8	17.8	8.3	3.19	埋土一括取り上げ。先端部に素材の厚みが残り、側縁と基部に粗い両面加工。石鏃素材としては不自然。小形の楔か？　透明な黒曜石
1002	PJ-40	石錐	黒曜石	3/4	31.0	18.0	6.0	2.20	埋土一括取り上げ。先端欠損。縞のある透明な黒曜石
1003	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	28.9	20.9	12.2	5.89	埋土一括取り上げ。未成品。厚みが１cmある素材を両面加工。厚みが減らずに片縁が大きく欠損し放棄か。濁りのある半透明黒曜石
1004	PJ-40	石錐	チャート	1/1	35.0	24.0	9.0	6.30	埋土一括取り上げ。亜円礫面を残す。使用痕はみられない。緑灰色で褐色縞のあるチャート
1005	PJ-40	石匙	黒曜石	3/4	39.0	29.0	6.0	7.00	埋土一括取り上げ。実測図裏面に大きく主剥離面を残す。器体下部を欠損。透明な黒曜石
1006	PJ-40	両極石器	黄色頁岩	1/1	43.0	29.0	12.0	16.60	埋土一括取り上げ。両端に使用痕潰れ。両極打撃後にも調整加工。並列する調整加工痕から、石鏃未成品の可能性あり。黄土色の珪質頁岩。遠隔地石材
1007	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.20	埋土一括取り上げ。打面に礫面を残す剥片の一辺に使用痕。縞のある半透明黒曜石
1008	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/2	14.4	23.4	7.3	2.44	埋土一括取り上げ。両面から石鏃未成品のように調整し、中央を折り取り。楔か？　赤褐色斑入りの黒曜石
1009	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1				4.30	埋土一括取り上げ。先端欠損。先端側側縁に潰れ。夾雑物が混じる透明黒曜石
1010	PJ-40	両極石器	黒曜石	1/1	26.0	15.0	10.0	3.40	埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石
1011	PJ-40	両極石器	黒曜石	1/1	26.0	14.0	6.0	2.40	埋土一括取り上げ。半透明の黒曜石。
1012	PJ-40	両極石器	黒曜石	1/1	24.0	17.0	12.0	3.70	埋土一括取り上げ。厚い砕片の両端に潰れ。縞のある半透明黒曜石
1013	PJ-40	掻器	黒曜石	1/1	22.0	34.0	11.0	7.40	埋土一括取り上げ。ズリ面を残す石核状の素材。縞のある透明な黒曜石
1014	PJ-40	削器	黒曜石	1/1	25.0	19.0	8.0	3.50	埋土一括取り上げ。ズリ面を残す厚い素材の薄い縁辺に刃部。刃部周辺に潰れ。濁りのある半透明黒曜石

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
1015	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	14.8	15.0	3.9	0.93	埋土一括取り上げ。未成品。先端欠損。半透明黒曜石
1016	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	31.0	27.4	8.8	5.91	埋土一括取り上げ。実測図裏面に主剥離面。横長剥片素材。未成品。白筋のある漆黒黒曜石
1017	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2				0.67	埋土一括取り上げ。未成品。先端、片脚欠損。縞のある透明な黒曜石
1018	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	20.4	15.9	8.7	2.09	埋土一括取り上げ。ごろごろした素材の厚みを減じていない段階の未成品。縞のある透明な黒曜石
1019	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	20.5	22.0	7.4	2.85	埋土一括取り上げ。素材の厚みを減じていない段階の未成品。先端欠損。縞のある透明な黒曜石
1020	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1				1.40	埋土一括取り上げ。薄い剥片素材を縁辺から押圧剥離。石鏃未成品か。縞のある半透明の黒曜石
1022	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	21.7	15.1	6.4	2.39	埋土一括取り上げ。厚い素材の厚みを減じていない段階の未成品。縞のある透明な黒曜石
1023	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				5.50	埋土一括取り上げ。ズリ面のある剥片の一辺に使用痕？　漆黒の黒曜石
1024	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石					2.00	埋土一括取り上げ。砕片に使用痕？　縞のある半透明な黒曜石
1025	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石					1.20	埋土一括取り上げ。砕片に使用痕？　半透明の黒曜石
1026	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.30	埋土一括取り上げ。礫面がある剥片の一辺に使用痕。縞のある透明な黒曜石
1027	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石					3.20	埋土一括取り上げ。厚みがある剥片の一辺に使用痕。漆黒の高揚咳
1028	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.60	埋土一括取り上げ。礫面を打面とした縦長剥片の一辺に使用痕。縞のある半透明な黒曜石
1029	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石					2.20	埋土一括取り上げ。石刃状剥片の両側縁に使用痕。下端は折損。縞のある透明な黒曜石
1030	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石					2.00	埋土一括取り上げ。深い押圧剥離がある。半透明な黒曜石
1031	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	15.3	14.6	2.8	0.70	埋土一括取り上げ。薄く小さな剥片に押圧剥離。未成品。縞のある透明な黒曜石。
1032	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	4.1	(0.66)	埋土一括取り上げ。未成品。片側側縁が折り取ったように欠損。透明な黒曜石
1033	PJ-40　炉土サンプル②	石鏃	黒曜石	−				(0.14)	地床炉のサンプル土から水洗回収した石鏃脚部の微細な破片。半透明な黒曜石
1034	PJ-40	石鏃	黒曜石	−				(0.26)	埋土一括取り上げ。大形石鏃の片脚破片。縞のある半透明な黒曜石
1035	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	−	−	3.4	(0.98)	埋土一括取り上げ。両脚欠損。縁辺部の調整剥離は大きく未成品か。縞のある透明な黒曜石
1036	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	18.5	17.4	3.9	1.26	埋土一括取り上げ。先端、片脚欠損。未成品。半透明な黒曜石
1037	PJ-40	石鏃	灰色チャート	3/4	17.5	18.8	3.5	1.42	埋土一括取り上げ。先端の向きがよく分からない。先端折損の石鏃未成品か。黒斑のある灰色チャート
1038	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	24.8	20.9	5.7	2.62	埋土一括取り上げ。未成品。夾雑物が多い半透明の黒曜石。なぜこのような低品質の黒曜石を選択したか
1039	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	2.6	(0.40)	埋土一括取り上げ。大形石鏃の片脚破片。縞のある半透明な黒曜石
1040	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	20.2	13.8	6.5	1.54	埋土一括取り上げ。素材の厚みがとれずに放棄された未成品。縞のある透明な黒曜石
1041	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	22.5	17.9	3.3	1.48	埋土一括取り上げ。片側折損。赤斑のある透明感のない黒曜石
1042	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	15.8	13.3	4.6	0.65	埋土一括取り上げ。表面にズリ面、裏面に主剥離面が残る。縞のある透明な黒曜石
1043	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	18.7	13.4	5.2	1.25	埋土一括取り上げ。未成品。縞のある透明な黒曜石

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
1044	PJ-40	石錐	黒曜石	3/4	21.4	14.7	4.9	1.62	埋土一括取り上げ。先端に使用痕潰れ。礫面が残る剥片。半透明の黒曜石
1045	PJ-40	石鏃	黒曜石	－				(0.49)	埋土一括取り上げ。石鏃の片側側縁を折り取ったような剥片。半透明な黒曜石
1046	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.1	(0.45)	埋土一括取り上げ。剥片を縁辺加工したのみの石鏃破片。縞のある透明な黒曜石
1047	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	13.6	12.3	2.9	0.47	埋土一括取り上げ。剥片の縁辺部を急斜加工。基部に磨滅痕あり。着柄痕か。縞のある半透明黒曜石
1048	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	19.0	16.1	6.0	1.48	埋土一括取り上げ。やや厚い素材の3辺を調整剥離。未成品。縞のある半透明な黒曜石
1049	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	19.1	16.6	4.8	1.42	埋土一括取り上げ。基部の調整剥離がある未成品。先端と脚部欠損。灰色縞のある漆黒の黒曜石
1050	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	21.4	11.6	4.0	0.82	埋土一括取り上げ。実測図裏面に主剥離面が残る。縞のある半透明黒曜石
1051	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	12.5	8.2	2.2	0.25	埋土一括取り上げ。1㎝以下の礫面が残る小さな剥片の二辺に調整剥離。未成品。透明な黒曜石
1052	PJ-40	石鏃	黒曜石	－				(0.40)	埋土一括取り上げ。剥片の片面に調整剥離が集中。1/2欠損。透明な黒曜石
1053	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.1	(0.39)	埋土一括取り上げ。やや長脚の石鏃。先端、片脚欠損。漆黒の黒曜石
1054	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	17.6	16.1	3.9	1.20	埋土一括取り上げ。欠損した未成品。漆黒の黒曜石
1055	PJ-40	石鏃	黒曜石	－				(0.25)	埋土一括取り上げ。微細な破片。半透明な黒曜石
1056	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/1	20.0	19.1	7.6	1.84	埋土一括取り上げ。器体中心の厚い箇所を薄くし切れていない未成品。基部側が大きく欠損。透明な黒曜石
1057	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	20.4	17.1	4.4	1.31	埋土一括取り上げ。先端、片脚欠損。未成品。漆黒の黒曜石
1058	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	23.6	15.1	5.4	1.69	埋土一括取り上げ。礫面が残る三角形の剥片の三辺を調整剥離。深い押圧剥離がなく、先端が欠損した石錐か。半透明な黒曜石
1059	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	2.9	(0.39)	埋土一括取り上げ。両脚欠損した小形の石鏃。半透明な黒曜石
1060	PJ-40	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	4.2	(1.22)	埋土一括取り上げ。二辺に調整剥離。基部側が大きく欠損。未成品。透明な黒曜石
1061	PJ-40	石錐	黒曜石	1/1	20.3	11.1	3.7	0.76	埋土一括取り上げ。先端が丸く磨耗。被熱してすりガラス状に変化。黒縞模様の透明な黒曜石。
1062	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	(19.5)	－	2.2	(0.43)	埋土一括取り上げ。片面に主剥離面を大きく残すが、調整剥離は丹念。基部側欠損。透明な黒曜石
1063	PJ-40	石鏃	黒曜石	－				0.65	埋土一括取り上げ。未成品。漆黒の黒曜石
1064	PJ-40	石錐	砂岩	1/1	50.0	25.0	11.6	10.10	埋土一括取り上げ。実測図裏面に主剥離面が大きく残る素材。先端に使用痕はみえない。青灰色の細粒砂岩
1065	PJ-40	石匙	泥岩	1/1	28.0	38.0	5.0	5.60	埋土一括取り上げ。黄色風化泥岩。器体片側側縁欠損。
1066	PJ-40	石匙	頁岩	1/1	32.0	54.0	6.0	7.50	埋土一括取り上げ。黄色風化泥岩か風化した黒色頁岩か
1067	PJ-40	石匙	珪質頁岩	1/1	37.0	23.0	3.0	3.03	埋土一括取り上げ。自然面を打面に残す横長剥片素材の側縁につまみ部を作出。ミニチュア石匙か。白筋のある暗灰色の珪質頁岩。
1068	PJ-40	石匙	チャート	3/4	24.0	50.0	6.0	6.10	埋土一括取り上げ。つまみ部一部欠損。青色、白色の小岩片を多量に含むチャート。遠隔地石材か
1069	PJ-40	石匙	珪質頁岩	3/4	62.0	25.0	5.0	8.50	埋土一括取り上げ。自然面を打面とした縦長剥片素材の側縁に刃部。一部欠損。打点側につまみ部。白筋のある灰色の珪質頁岩。遠隔地石材か

PJ40 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
1070	PJ-40	ﾐﾆﾁｭｱ石匙	珪質頁岩	3/4	19.4	28.4	4.2	1.88	埋土一括取り上げ。薄い縦長剥片素材。器体半分が欠損。ミニチュア石匙か。白筋のある灰色の珪質頁岩
1071	PJ-40	削器	珪質頁岩	1/1					埋土一括取り上げ。亜円礫面を打面にした横長剥片の一辺に急角度の刃部。白筋のある灰色の珪質頁岩
1072	PJ-40	剥離のある剥片	珪質頁岩					6.60	埋土一括取り上げ。亜角礫面が残る板状剥片の一辺に使用痕。白筋のある青灰色の珪質頁岩
1073	PJ-40	原石	黒曜石					18.10	埋土一括取り上げ。ズリ面で囲まれた角柱状の原石。一発コア。半透明の黒曜石
1074	PJ-40	原石	黒曜石					7.90	埋土一括取り上げ。ズリ面で囲まれた板状原石。漆黒の黒曜石
1075	PJ-40	原石	黒曜石					9.70	埋土一括取り上げ。ズリ面で囲まれたサイコロ状の原石。半透明な黒曜石
1076	PJ-40	原石	黒曜石					28.50	埋土一括取り上げ。ズリ面で囲まれた板状の原石。縞のある半透明な黒曜石
1077	PJ-40	原石	黒曜石					44.80	埋土一括取り上げ。河川転石と思われる亜角礫状の原石。
1078	PJ-40	原石	黒曜石					74.40	埋土一括取り上げ。ズリ面で囲まれた原石。白筋のある漆黒の黒曜石
1079	PJ-40	原石	黒曜石					47.20	埋土一括取り上げ。ズリ面で囲まれた角柱状原石。白筋が多数ある半透明な黒曜石
4086	DK-574	石鏃	黒曜石	3/4	30.5	-	3.3	(1.35)	PT574 出土。大形、凹基、両面加工、片脚欠損。黒縞のあるブルーブラック黒曜石
4087	PT-574	石鏃	チャート	1/1	17.7	21.6	3.0	0.85	PT574 出土。凹基、幅広、両面加工。先端欠損。明灰色チャート
4409	PT-561	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				11.40	PJ040 号住居柱穴 PT561 号ピット埋土出土。板状剥片の薄い一辺に調整。白筋のある漆黒黒曜石
4960	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	18.0	13.7	8.9	1.25	埋土一括取り上げ。未成品。小さくズリ面が残る。先端部の調整途上で放棄。白筋のある漆黒黒曜石
4961	PJ-40	石鏃	黒曜石	3/4	17.2	11.9	4.0	0.72	埋土一括取り上げ。未成品。主剥離面が残る剥片素材。縁辺調整途上で放棄。縞のある透明な黒曜石
4962	PJ-40	石鏃	凝灰岩	1/1	20.5	21.1	6.4	2.84	埋土一括取り上げ。風化面が残る剥片素材。未成品。先端調整で厚みがとれず放棄。青灰色で珪質の凝灰岩か。非在地石材
4963	PJ-40	石鏃	石英岩	3/4	21.5	13.5	3.6	0.96	埋土一括取り上げ。未成品。先端と片側縁に両面加工。もう片側側縁が折損か。
4964	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	3/4	28.0	13.0	4.0	1.50	埋土一括取り上げ。折り取った剥片素材の一辺に使用痕。縞のあるブルーブラック黒曜石
4965	PJ-40	両極石器	黒曜石	1/1	16.0	11.0	5.0	0.80	埋土一括取り上げ。爪のような小さな素材の両端に打撃と潰れ。透明な黒曜石
4966	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.60	埋土一括取り上げ。小さな縦長剥片素材の一辺に使用痕。縞のある透明な黒曜石
4967	PJ-40	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.60	埋土一括取り上げ。風化面を打面にした剥片素材の一辺に使用痕。透明な黒曜石

PJ40 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(cm)	現存幅(cm)	現存厚(cm)	重量(g)	観察所見
8353	PJ-40	石鏃	石英岩	1/2	22.4	17.3	7.4	2.57	埋土一括取り上げ。未成品。断面三角形の素材。三辺を調整するも厚みが減らずに放棄か。
8354	PJ-40	石匙	石英岩	―	22.0	26.0	6.0	2.90	埋土一括取り上げ。つまみ部のみ。未成品。器体 2/3 が欠損
8355	PJ-40	削器	泥岩	1/1	48.0	23.0	5.0	5.90	埋土一括取り上げ。三角形の剥片素材の三辺に調整。黄色風化泥岩
8356	PJ-40	削器	珪質頁岩	―				7.80	埋土一括取り上げ。礫面が残る断面四角形の厚い素材の一辺が薄く刃部状。白筋のある青灰色珪質頁岩
10079	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	8.0	7.0	5.5	731	埋土一括取り上げ。磨石作業面は 2 面。片面が黒色変化。両面に敲打集中による広く浅い凹部。側面は稜磨石的。
10080	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	11.0	8.7	5.0	700	埋土一括取り上げ。磨石作業面は 3 面。平坦な 2 面には敲打集中による浅いくぼみが発達。側面 1 面は稜磨石的。器体は被熱し黒変と赤変色。
10081	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	10.3	6.8	5.0	451	埋土一括取り上げ。丸味のある石鹸型。磨石作業面は広い 2 面と狭い稜面 2 面。広い 2 面には敲打による浅いくぼみあり
10082	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	10.2	7.2	6.8	612	埋土一括取り上げ。断面隅丸三角形の円礫。広い 3 面に磨石作業面。3 本の両面は稜磨石的で、敲打による浅いくぼみあり。
10083	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	9.9	6.4	3.3	299	埋土一括取り上げ。磨石作業面は 2 面で、両面ともに敲打集中による浅いくぼみが発達。片面が被熱し黒変。
10084	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	12.5	7.5	3.5	436	埋土一括取り上げ。長楕円形で稜磨石的な形状。磨石作業面は表裏面と側面 2 面、端部 1 面。側面と端部は稜磨石状。側面 1 面には敲打による剥離が発達。磨石として使用して損耗し扁平になった後に石器製作時のハンマーに転用か。
10085	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	10.3	6.4	3.8	389	埋土一括取り上げ。扁平、長楕円形で、凸面に磨耗痕と敲打痕あり。反対面はごく平坦だが使用痕は不明瞭。
10086	PJ-40　2	磨石類	砂岩類	1/1	6.9	5.5	4.4	238	埋土上層出土。卵大の楕円型。自然礫のようにもみえるが、全面を敲打整形していると思われる。やや粗粒で石英岩片が混じる砂岩
10087	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	9.5	8.7	4.4	352	埋土一括取り上げ。扁平な楕円形。磨石作業面は表裏 2 面。磨耗痕は不明瞭。磨石作業面に 1 ヶ所づつ凹部がみられ、敲打痕がまばらに残る。長軸両端部に敲き。
10088	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	7.6	6.1	3.4	191	埋土一括取り上げ。卵大の小さな磨石。片面は敲打集中による浅いくぼみが発達。反対面はくぼみがあるが敲打の結果か不明瞭。両面とも磨滅痕は不明瞭。器体は黒く変色するが、敲打面は新鮮。
10089	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/1	11.0	7.1	3.2	320	埋土一括取り上げ。扁平な器体は使用による磨滅の結果か、本来の器形か。表裏面が平滑に磨耗し、敲打集中による浅いくぼみが発達。
10090	PJ-40	磨石類	砂岩類	1/1	6.0	17.8	6.7	986	埋土一括取り上げ。棒状礫の一稜面を稜磨石とする。細粒緻密な砂岩
10091	PJ-40	磨石類	砂岩類	1/1	7.4	15.6	9.2	1,281	埋土一括取り上げ。最も狭い側面を稜磨石とする。やや尖った端部に敲打痕。細粒緻密な砂岩
10092	PJ-40	磨石類	砂岩類	3/4	4.3	(8.2)	8.4	556	埋土一括取り上げ。扁平不整形の礫の狭い稜面 2 面を稜磨石とする。広く平坦な面があるが使用痕は不明瞭。反対側の広くやや湾曲した 1 面にＶ字断面の鋭い敲打痕あり。やや粗粒緻密な砂岩
10093	PJ-40	磨石類	花崗岩類	1/1	9.1	7.8	3.9	384	埋土一括取り上げ。石鹸型。作業面は広く平坦な 2 面で平滑。片面には敲打集中による浅く広いくぼみ。側縁部に敲きによる平坦面。器面は風化し、使用痕は不明瞭
10094	PJ-40	礫	花崗岩類	1/1	11.5	8.0	7.5	1,132	埋土一括取り上げ。亜円礫素材。長軸先端の稜の集合部に敲打痕が多い。自然礫の可能性があるが器体は平滑に磨滅。
10095	PJ-40	磨石類	花崗岩類	1/1	8.8	13.6	10.0	1,521	埋土一括取り上げ。ざらついた粗粒花崗岩。細長い一稜面を稜磨石とする。広く平坦な 1 面があるが磨滅痕は不明瞭。
10096	PJ-40	磨製石斧	緑色岩	―	(6.3)	5.0	(2.3)	87	埋土一括取り上げ。折損した磨製石斧刃部に剥離と敲打痕。折損後にハンマーに転用したか。

PJ40 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	現存厚 (cm)	重量 (g)	観察所見
10097	PJ-40	磨石類	砂岩類	1/1	12.4	6.5	5.5	620	埋土一括取り上げ。大型の磨製石斧のようにもみえる。表裏面、側面は平滑に磨耗。刃部のような端部は剥離が潰れて丸くなっている。細粒緻密な砂岩。四面それぞれに磨滅度が異なり、稜磨石と考えた。仮に磨製石斧なら 30 cmを超える大型品となる。
10098	PJ-40	ハンマー	花崗岩類	1/1	6.6	8.8	4.0	300	埋土一括取り上げ。平面形は半円形。広い 1 面に敲打による浅いくぼみ
10099	PJ-40	ハンマー	花崗岩類	1/1	6.0	4.0	3.0	79	埋土一括取り上げ。卵大の円礫。長軸端部に敲きによる潰れ。
10100	PJ-40	ハンマー	砂岩類	1/1	5.0	8.9	2.0	119	埋土一括取り上げ。扁平円礫。長軸端部片側に弱い敲打痕。
10101	PJ-40	ハンマー	頁岩類	1/1	4.4	6.8	1.3	57	埋土一括取り上げ。側縁部に剥離痕が集中、稜がつぶれた部分と磨耗した部分がある。側縁部の敲打痕と研磨あるいは磨耗痕は全周する。表裏面にまばらに敲打痕が残る。
10102	PJ-40	ハンマー	頁岩	3/4	(11.0)	(3.8)	3.1	151	埋土一括取り上げ。断面不整形の棒状礫素材。狭い一稜面に敲打による線状くぼみが並ぶ。長軸端部方側が欠損。
10103	PJ-40	ハンマー	砂岩類	3/4	(12.1)	4.8	4.0	318	埋土一括取り上げ。断面隅丸四角形の柱状亜角礫素材。長軸端部稜突端に敲打痕。加撃により節理面で折れ。細粒緻密な砂岩
10104	PJ-40	ハンマー	砂岩類	1/1	14.0	5.1	4.2	401	埋土一括取り上げ。断面が隅丸三角形の柱状亜角礫素材。広く湾曲する面に敲打集中による浅いくぼみ 2 ヶ所。
10105	PJ-40	ハンマー	砂岩類	1/1	8.8	3.3	3.0	114	埋土一括取り上げ。断面隅丸三角形の棒状礫素材。長軸端部片側に敲きによる面
10106	PJ-40	磨石類	磨石類	1/1	5.6	8.7	7.2	730	埋土一括取り上げ。稜磨石がハンマー、敲石に転用されたか。狭く突出した稜面を稜磨石とし、剥離を伴う加撃点あり。他の面には敲打痕、局所的に平滑に磨耗した部分がみられる。狭い端部面に敲打痕の集中による平坦面が発達。細粒緻密な砂岩
10107	PJ-40　8	ハンマー	砂岩類	不明	(10.5)	(5.2)	(4.1)	313	DK318 号ピットの東脇、床面から 3 cm浮いて出土。断面隅丸三角形の柱状亜角礫素材。重量型ハンマー折損品を小形ハンマーに転用したものか。一端部は階段状剥離により両刃的な形状で、剥離面稜線が潰れ。側縁部に敲きによる平坦面があり、稜磨石的。平坦な一面に敲打による浅いくぼみ？ 3 ヶ所。やや粗粒緻密な砂岩
10108	PJ-40	石皿	安山岩類	―	(12.3)	(12.2)	(7.8)	1,429	埋土一括取り上げ。有縁石皿で作業面が石皿側縁部に達する、側縁に幅を持たないタイプ。皿部の磨耗度は激しく、縁周辺の磨耗度も高い。底面に著しい磨耗痕を残す部分が認められる。割れて細片化し、割れ面は黒く変色し、かつ磨耗している。割れた後に何らかの作業に転用したか。
10110	PJ-40　9	石皿	安山岩類	1/2	31.5	(18.7)	(6.6)	3,150	DK318 号ピット南 1m、床面から 6 cm浮いて出土。埋土から別に出土した 10109 と接合し完形になる。やや扁平な石皿。皿部平面は楕円半円形でかき出し部は皿部最大幅より狭い。皿部中心線で磨耗が著しい。皿部立ち上がりも磨耗している。
10111	PJ-40　12	台石	砂岩類	不明	(29.4)	(22.5)	(7.6)	7,100	DK304 号ピット南東脇、床面から 8 cm浮いて出土。大型偏平亜円礫素材。片面が被熱し剥落。もう片面に敲打痕。敲打痕は点状・U 字状と、線状がある。表裏面と割れ面の一部が赤黒く変色。細粒緻密な砂岩
10112	PJ-40　14	台石	安山岩類	不明	(27.7)	(14.2)	(13.9)	6,000	PT575 号ピット脇、床面から 2 cm浮いて出土。偏平亜円礫素材。平坦面に磨耗痕とわずかな線状・点状・U 字状の敲打痕。割られている。
10113	PJ-40	磨石類	安山岩類	―				102	埋土一括取り上げ。小形扁平円礫。磨石作業面は 1 面。作業面の反対面に敲打痕の集中する浅いくぼみ。長軸端部に敲きによるごく狭い平坦面。
10114	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/2				343	埋土一括取り上げ。丸味のある石鹸型。磨石作業面は 2 面で非常に平滑に磨耗。長軸端部に敲打による平坦面。
10115	PJ-40	磨石類	安山岩類	―				200	埋土一括取り上げ。磨滅して扁平になった磨石か。磨石作業面は 2 面で、ひじょうに平滑に磨耗。片面に敲打集中による浅いくぼみ。
10116	PJ-40	磨石類	安山岩類	―				333	埋土一括取り上げ。断面五角形の棒状円礫素材。稜磨石作業面は 2 面で、敲打痕が伴う。やや広い 2 面に磨石作業面。長軸端部に敲き。

PJ40 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	現存厚 (cm)	重量 (g)	観察所見
10117	PJ-40	磨石類	安山岩類	1/2				523	埋土一括取り上げ。断面隅丸三角形の扁平円礫が素材。稜磨石作業面は1面、滑らかで平坦。広い面1面が磨石的な磨耗面。
10118	PJ-40	ハンマー	ホルンフェルス	1/2				232	埋土一括取り上げ。断面隅丸三角形柱状礫素材。長軸端部に軸に直交する狭い敲き面。最も広い平坦面に部分的に磨耗または研磨面。極めて滑らかで砥石としての使用が考えられる。
10119	PJ-40	ハンマー	砂岩類	―				82	埋土一括取り上げ。扁平円礫が細片化。稜面の一部に敲打による平坦面。
10120	PJ-40	礫	安山岩類	―				135	埋土一括取り上げ。棒状礫が細片化。平滑面があるが使用痕か分からない。割れ面含めて被熱赤変
10121	PJ-40	台石	安山岩類	不明				504	埋土一括取り上げ。台石作業面2面、いずれも平坦面で磨耗と敲打痕。割られて細片化
10122	PJ-40	台石	安山岩類	不明				796	埋土一括取り上げ。分厚い鉄平石状の扁平礫。極めて滑らかな面をもつ。割られて細片化
10123	PJ-40	台石	安山岩類	不明				780	埋土一括取り上げ。緩やかな凸面に顕著な磨耗痕とわずかな敲打痕。打ち割られて細片化か。
10124	PJ-40	台石	安山岩類	不明				1,694	埋土一括取り上げ。ほぼ平坦な面に敲打痕。反対面は磨耗痕とわずかな敲打痕。割られて細片化。表裏面はやや赤く変色
10125	PJ-40	台石	安山岩類	不明	(17.3)	(11.9)	(6.8)	1,893	埋土一括取り上げ。偏平円礫。平坦面に線状･U字状の敲打痕と弱い磨耗。
10126	PJ-40	台石	安山岩類	不明				1,033	埋土一括取り上げ。偏平円礫素材。平滑でなくわずかに凹凸が残る磨耗的平坦面と少数の点状・U字状の敲打痕。割られて細片化
10127	PJ-40	磨石類	安山岩類	―				71	埋土一括取り上げ。器体の1/4程度の破片。磨石作業面は1面で、ややざらつく。敲きにより構成された面か。
10604	PJ-40　4	台石	安山岩類	1/2	(34.4)	31.3	12.3	16,800	DK318号ピット埋土に落ち込むように出土。大形の扁平円礫素材で、片面がやや平滑、もう片面に敲打痕が多数みられる。
10605	PJ-40　5	台石	安山岩類	不明	(17.5)	(24.9)	(13.0)	6,500	埋土上層出土。やや厚手の扁平円礫素材。片面に弱い敲打痕
10606	PJ-40	石皿	安山岩類	1/2	(31.9)	32.3	7.9	6,800	埋土一括取り上げ。10607と接合
10607	PJ-40　3	石皿	安山岩類	1/2	(28.5)	(31.2)	(7.7)	5,400	埋土上層で出土。10606と接合。石皿未製品。皿面は敲打整形途中で、磨り痕はみられない。
10932	DK-318	ハンマー	砂岩類	3/4	(10.2)	(3.8)	2.7	129	DK318号ピット埋土出土。器面が風化し使用痕は分からないが、棒状角礫の形態からハンマーと推測した。
10933	DK-318	礫	砂泥交互	1/1	4.2	3.1	2.5	50	DK318号ピットが出土した自然礫。DK496号土坑出土の礫と同一母岩か。
10934	DK-318	磨石類	砂岩類	-				132	DK318号ピット埋土出土。扁平円礫素材。狭い一稜面が稜磨石。やや粗粒緻密な砂岩

PJ041 号・PJ061 号住居

位　　置：C-6 グリッドと D-6 グリッドにまたがって位置する。同一地点で建替えた遺構で、PJ41 号と PJ61 号の遺構番号を付した。新旧関係は後述する。DK339 号土坑など大型土坑と重複する。DK295 号土坑は本住居より新しく、DK332、DK338、DK339 号土坑は本住居に先行する古い遺構である。DK247、DK366、DK385 号土坑との新旧関係は確認できなかった。

規　　模：PJ41 号住居は長軸 5.4m、短軸 5.2m の不整円形で、竪穴の深さは北壁沿いで 50cm ほど残っていた。PJ61 号住居の大きさは不明で、おそらく PJ41 号住居と同様の不整円形と推測される。

埋　　土：最上面に暗褐色土基調の 1 層が水平方向に堆積し、下位に地山由来の黄褐色土の大きなブロックの 2 層、さらに下位に炭化材が土壌化した漆黒色土を含む 3 層が薄く堆積する。東西方向の埋土断面（371-372 断面図）では、1 層と 20 層の境界が確認でき、新旧遺構の重複状況が推測されたが、南北方向の埋土断面（373-374 断面図）では、同様の境界は観察されなかった。

以上の埋土断面の観察から、PJ41 号住居は新旧の建替えが想定される。また土層断面で確認できなかったが、遺構確認面の状況から PJ61 号住居は先行する古い遺構と考えられる。

PJ41 号住居の埋土は、埋土下層に炭化材、炭化材が土壌化した黒色土層、その上位に焼土層が認められ、床面から 10cm ほど浮いた小さな焼土塊が住居全体にわたって散在していた。こうした状況は本住居が土屋根構造であったことを示唆する。

焼土の上位には地山由来の黄褐色土の大きなブロック（2 層）が検出されている。これは焼土層との間に間層を挟み、かつ遺構北側にまとまって検出されたことから土屋根が崩落したものではなく、本住居の埋積が進行する過程で他遺構の掘削土が廃棄されたものと解するべきであろう。ただし 2b 層は炭化材の層に挟まれていることから屋根土に由来する可能性がある。

床　　面：黄褐色の地山を平坦に掘り込み、そのまま床面としている。住居中心部がややくぼみ、硬く踏みしまっていたが、貼床は確認されなかった。

最終的に完掘した時点での床面から 5cm ほど高い位置で、黄褐色土と黒色土が混在する、硬くしまった土層が検出された。地床炉の一部はこの硬い土層に覆われていた。この土層は建替えに伴い新たに設けられた床面と考えられる。ただしこの上位の床面が確認された範囲は地床炉の周辺にとどまる。おそらくは住居中心部のくぼんだ床面を補正するために設けられたものと推測される。

炉　：住居の中心から北にずれた PT628 号ピット周辺の床が被熱して焼土化していた。これが地床炉と思われる。焼土は直径 20cm 程度で、3 ヶ所に分かれて検出された。

DK424 号土坑とした浅いくぼみの底面は焼土化していた。これが古い段階の地床炉と思われる。

周　　溝：同心円状に小溝が複数条検出された。小溝の形状と柱穴配置から推測すると、建替えを経て最も新しい段階の住居は、南北にやや長い小判形になったと思われる。その前には円形の住居を拡張する段階があったと想定される。

柱　　穴：深さ 30cm から 62cm の柱穴状のピットが円形に並んでいた。これらを深さ、形状から整理すると、最も新しい段階の柱穴の組み合わせは、PT748、PT658、PT749、PT630、DK393、PT668、PT831、PT650 号ピットの 8 基が想定できる。先行する段階の柱穴は、深さ 50cm 前後のやや大きめのピットで構成され、PT828、PT628、PT629、PT581、DK391、PT627、PT827 号ピットの 7 基が想定される。さらに PT833、PT642、PT644、PT659 号ピットが古い段階の柱穴であろうか。

PJ61 号住居の柱穴は不確かであるが、PT641、DK425、PT733、PT735、DK392 号ピットなどが想定し得る。

これらのピット以外にも周溝と壁に沿って小ピットが検出されていて、補助的な支持材、造作材と思われる。

出土遺物：PJ41 号住居の埋土中から土器破片と石器がまばらに出土した。遺構の時期を明確に示す土器は認められないが、大きな破片は諸磯 a 式新段階が多い。PJ61 号住居からは土器小破片がわずかに出土したのみである。

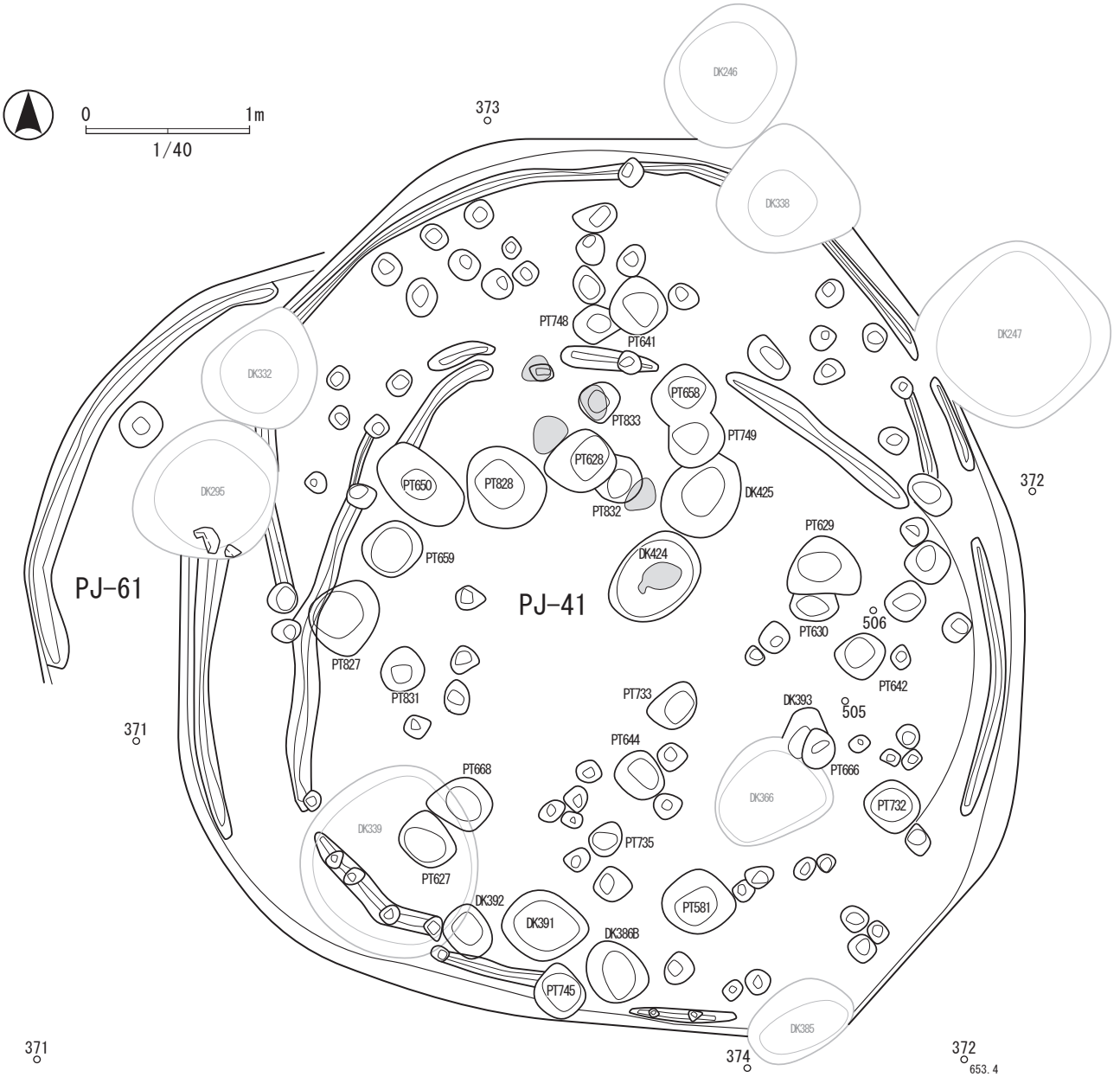
PJ41 号住居で出土した土器の総量は 29,700g で、主な内訳は木島式 405g、中越式 2,142g、神之木式 1,666g、有尾式 2,562g、釈迦堂 Z3 式 269g、諸磯式 12,373g である。このほか堂之上 Z 式、上の坊式、黒浜式がわずかに出土した。

PJ41 号住居で出土した石器の内訳は、石鏃 21 点、両極石器 4 点、石匙 5 点、削器 2 点、石錐 2 点、磨石類 5 点、石皿 1 点、台石 1 点、磨製石斧 2 点、剥離のある剥片 7 点、黒曜石原石 10 点である。このほか黒曜石を主にチャート、石英岩などの剥片類 671 点、1,864g が出土した。埋土中で出土した土器破片の細分型式には時期幅が認められるため、石器にも相応の時期幅が潜在すると推測される。

時　　期：出土土器から PJ41 号住居の廃絶時期は諸磯 a 式新段階と思われる。PJ41 号住居のなかで建替えがあるが、柱穴配置などから同じ諸磯式期に位置づけられると思われる。一方、有尾式には大きめの土器破片が目立つことから先行する PJ61 号住居は、有尾式期に位置づけられるかもしれない。

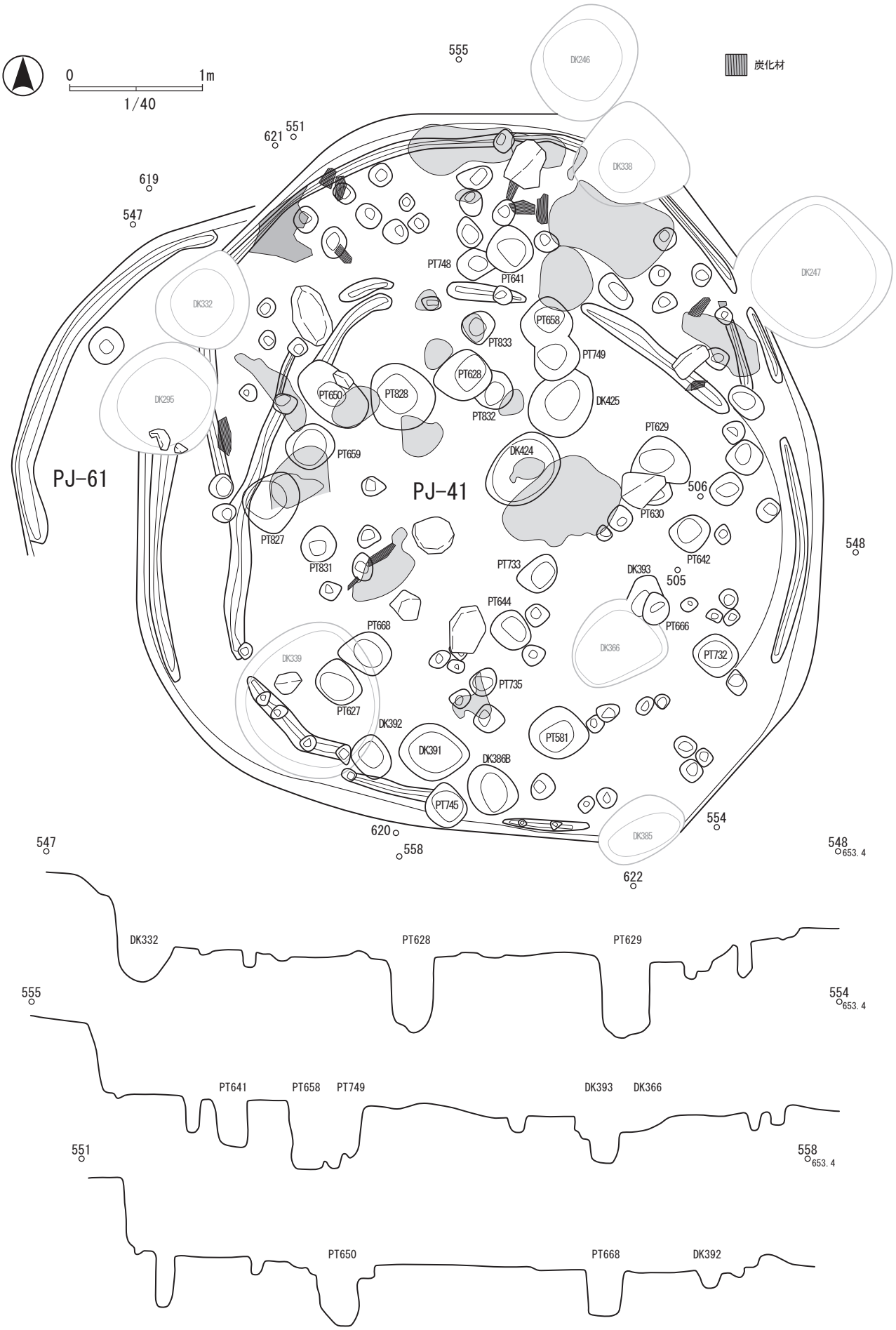
PJ041 号・PJ061 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-581	41 住内	34*(30)	53	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 3%、炭化物が 1%、10YR4/6（褐）のロームブロック 2 ～ 3　mm 角が混じる。シルト粒土。しまる。	
PT-627	41 住内	30*(30)	55	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-628	41 住内	40*(30)	55	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-629	41 住内	25*(30)	62	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT630 に切られる。
PT-630	41 住内	31*(24)	34	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）、焼土と炭化物が 1% 混じる。	PT629 を切る。
PT-641	41 住内	30*(35)	33	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-642	41 住内	27*27	28	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-644	41 住内	28*(28)	30	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-650	41 住内	44*(30)	45	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-658	41 住内	23*(30)	45	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-659	41 住内	34*(32)	44	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-666	41 住内	21*-	19	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK393 を切る。
PT-668	41 住内	27*(25)	32	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 1% 混じる。細粒。ややしまる。	
PT-732	41 住内	28*(28)	32	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-733	41 住内	29*-	32	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）、炭化物が 1% 混じる。	
PT-735	41 住内	14*14	14	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）、炭化物が 1% 混じる。	
PT-745	41 住内	33*(26)	44	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-748	41 住内	17*(21)	38	1 層　10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。 2 層　10YR2/3（黒褐）に 10YR10YR2/4（黒褐）が 2% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-749	41 住内	32*(22)	38	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-827	41 住内	36*33	43(47)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-828	41 住内	42*(43)	52	10YR3/3（暗褐）に 10YR2/3（黒褐）が 30%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-831	41 住内	24*(22)	38	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-832	41 住内	25*(23)	19(22)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	地床炉焼土に切られる
PT-833	41 住内	21*(21)	26(30)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
DK-391	41 住内	50*40	53	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
DK-392	41 住内	32*32	15	10YR3/2（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	
DK-393	41 住内	40*(40)	15(30)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT666 に切られる。
DK-424	41 住内	34*60	8	5YR2/3（極暗赤褐）に 5YR3/4（暗赤褐）が 15% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	地床炉
DK-425	41 住内	56*(40)	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が -% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	

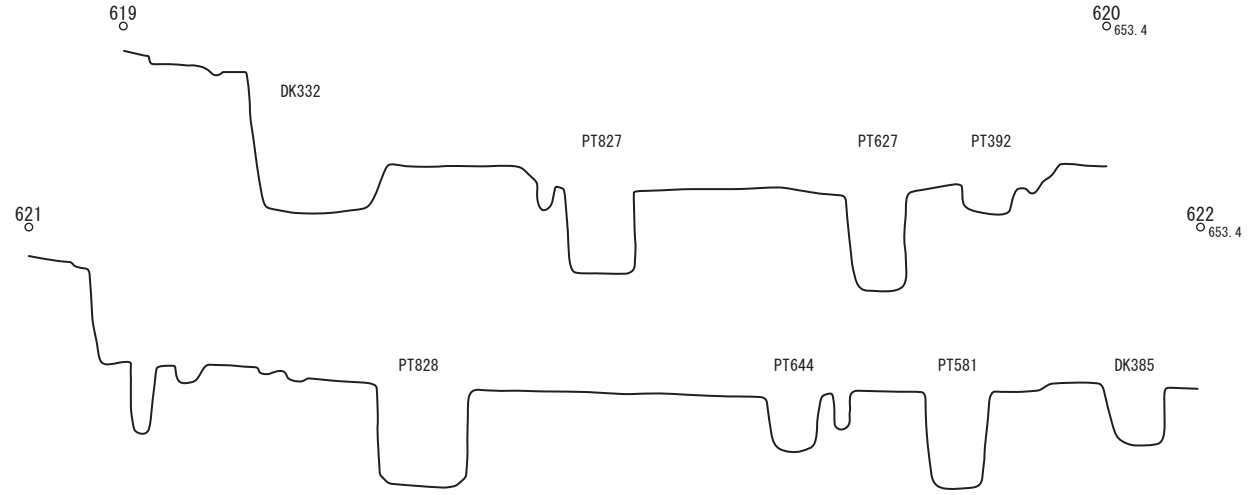


1層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、10YR4/6(褐)が5%混じる、炭化物3%、焼土(5YR5/6)が5%、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
2層　10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が40%、10YR4/4(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。(地山ブロック層)
2b層　10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が20%混じる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が30%、10YR2/3(黒褐)が5%、10YR4/6(褐)が3%、炭化物3%、焼土1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
5層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
6層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
7層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
(8・9層　PJ-41に先行する建物か)
8層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
9層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
地山　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が30%、10YR4/6(褐)が10%、10YR2/3(黒褐)画3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。
壁　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR5/6(黄褐)が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

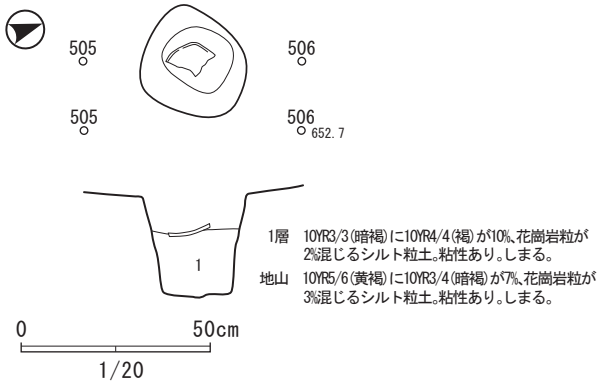
PJ041 号・PJ061 号住居

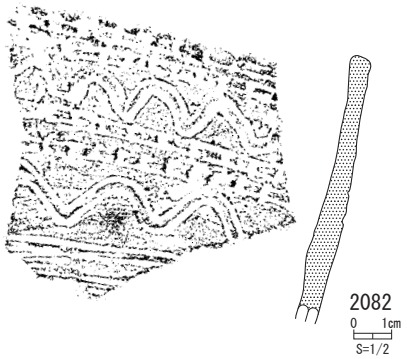


PJ041 号・PJ061 号住居

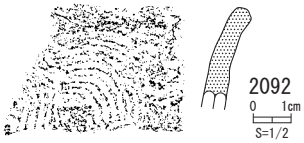


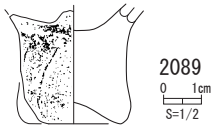
PT642

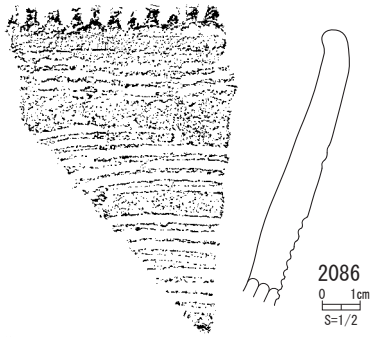


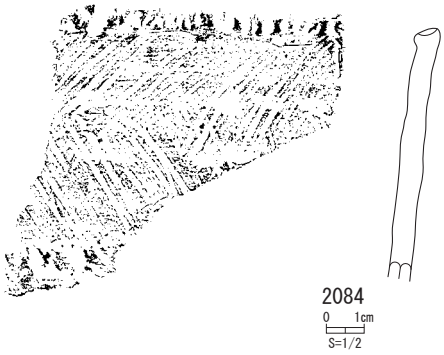


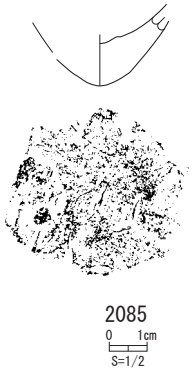
PJ-41



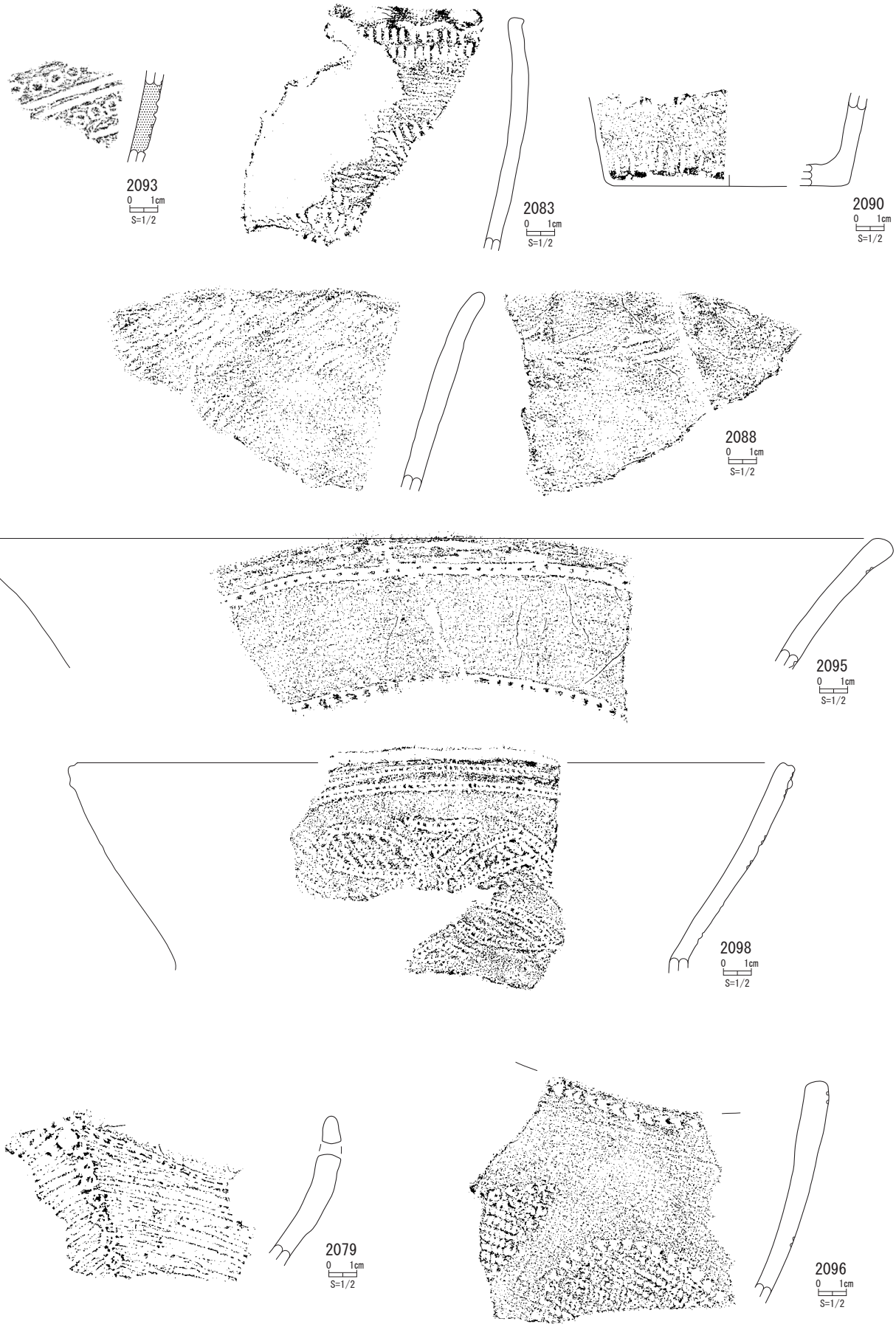




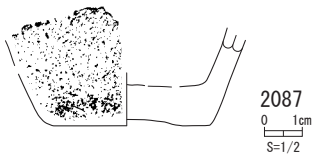


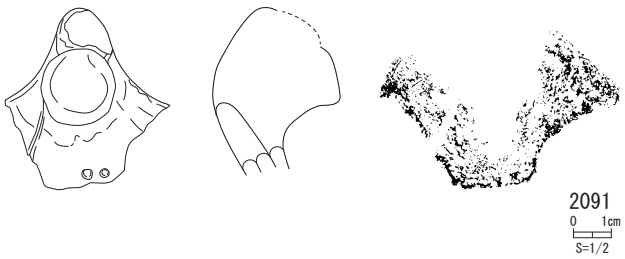


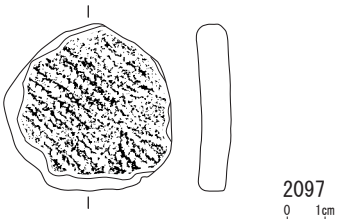
PJ041 号・PJ061 号住居出土遺物



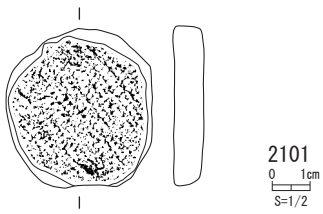
PJ041 号・PJ061 号住居出土遺物

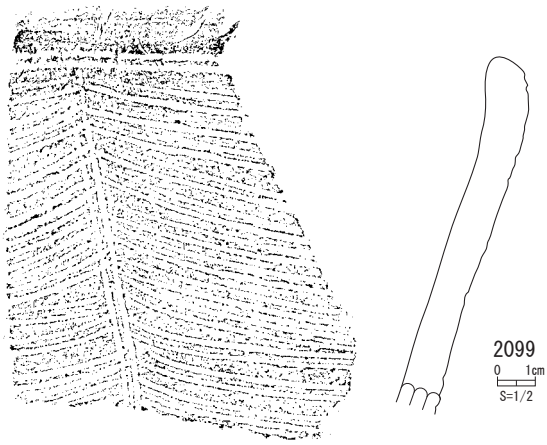




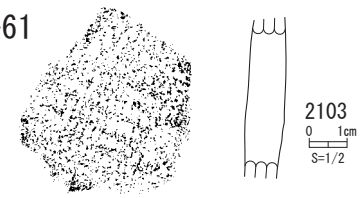


PT-642

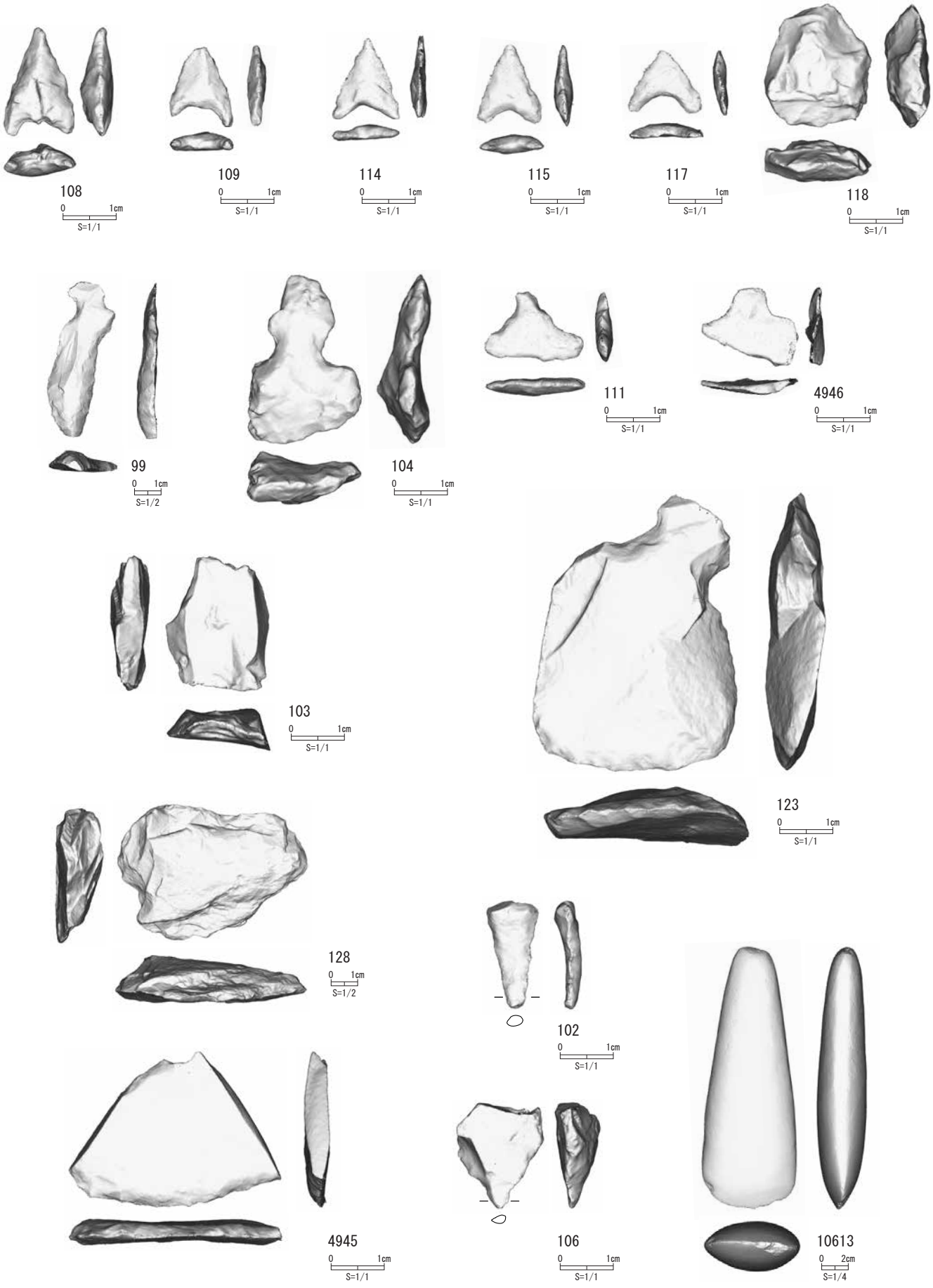




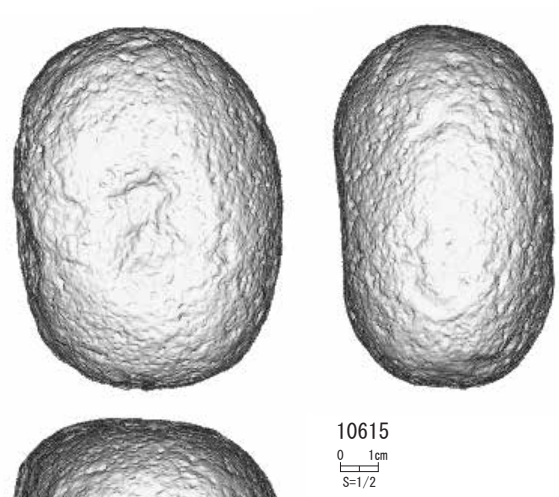
PJ-61



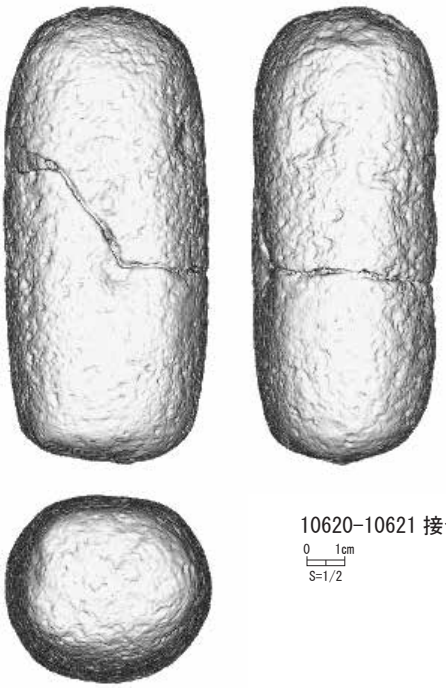
PJ041 号・PJ061 号住居出土遺物



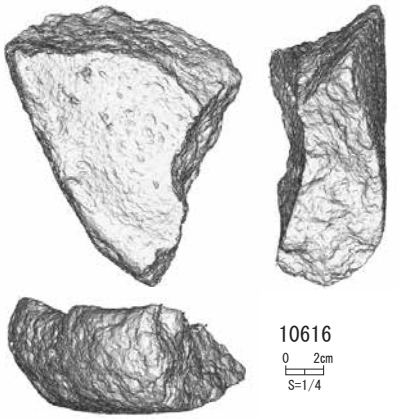
PJ041 号・PJ061 号住居出土遺物



10615
0 1cm
S=1/2



10620-10621 接合
0 1cm
S=1/2

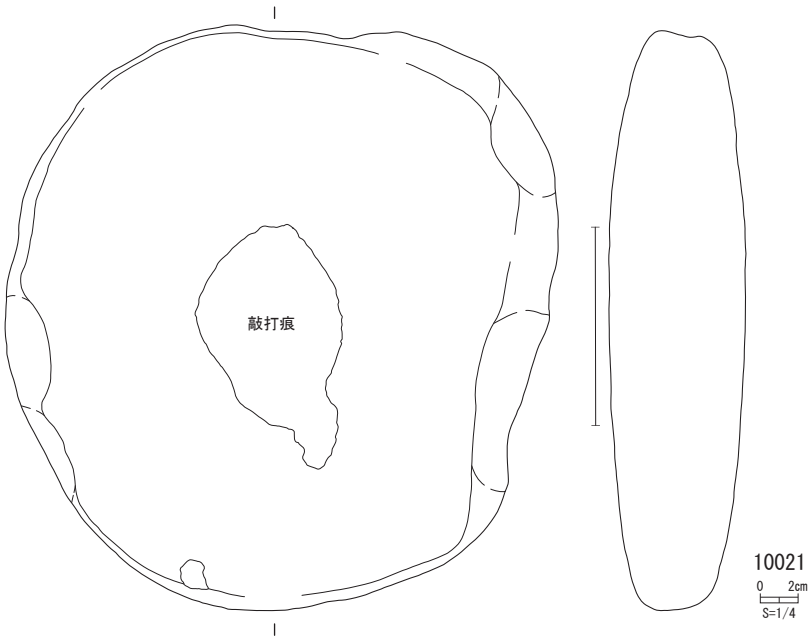


10616
0 2cm
S=1/4

127
0 1cm
S=1/2

132
0 1cm
S=1/2

134
0 1cm
S=1/2



10021
0 2cm
S=1/4

PJ041 号・PJ061 号住居出土遺物

PJ41 号・PJ61 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2079	PJ-41	口縁部	－	－	－	45.0	破片	2.5YR5/6 2.5YR5/6	有孔の波状口縁。口縁部上端に竹管押引き、波頂部下の孔から下に円文を縦位に施文。口縁部は竹管の平行沈線を施文。内面はていねいなミガキ調整。諸磯ａ式
2080	PJ-41	口縁部	－	－	－	52.0	破片	5YR5/6 5YR3/2	口縁部に円文。竹管による幾何学文。縄文地文。内面はていねいなミガキ調整。諸磯ａ式
2081	PJ-41	口縁部	－	－	－	175.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/3	波状口縁。口唇部に竹管の刻み、口縁部に竹管押引きの菱形文。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式
2082	PJ-41	口縁部	－	－	－	44.0	破片	7.5YR6/4 10YR6/4	波状口縁。口唇部に竹管先端を斜めに刺突した刻み。口縁部には竹管先端を斜めにした押引きと平行波状沈線。下位は水平方向の平行沈線。内面は指頭圧痕が残る横ナデ調整。胎土に繊維を含む。有尾式
2083	PJ-41	口縁部	－	－	－	46.0	破片	10YR3/1 10YR4/1	指で押圧した小波状の口唇部。口縁部上位は平行する爪形文列。下位は弧を描く爪形文。外面には条痕もしくは擦痕が目立つ。内面は平滑に横ナデ調整。器壁は5㎜で薄い。胎土に繊維を含まない。上の坊式
2084	PJ-41、DK-332、PT-644	口縁部	－	－	－	50.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/4	口唇部に刻み。口縁部は矢羽状の条痕。下位の接合部に爪形の刻み。内面は指頭圧痕が残る横ナデ調整。器壁は５～６㎜で薄い。胎土に繊維を含まない。木島Ⅸ式
2085	PJ-41	底部	－	－	丸底	10.0	破片	10YR7/4 7.5YR6/4	丸底破片。胎土に繊維を含まない。胎土に繊維を含まない。器面の色調から木島式と思われる。
2086	PJ-41	口縁部	－	－	－	50.0	破片	5YR4/8 5YR4/6	口唇部に刻み。口縁部上位に櫛歯状工具の刺突列。下位は同じ工具による平行条線。内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含まない。色調、器面調整は諸磯式に類似し、櫛歯状工具の使用は有尾式に近い。
2087	PJ-41	胴部～底部	－	－	4.6	42.0	破片	7.5YR2/1 5YR5/6	平底破片。胎土に繊維を含まない。器面の色調から諸磯式と思われる。
2088	PJ-41	口縁部	－	－	－	62.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/2	波打つような口唇部。かすかな縄文地文。内面は指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含まない。釈迦堂Z3式
2089	PJ-41	底部	－	－	(2.6)	22.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/6	高脚状の底部破片。神之木式か
2090	PJ-41	胴部～底部	－	－	(8.5)	25.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	爪形文がある平底破片。胎土に繊維を含まない。堂之上Ｚ式
2091	PJ-41	口縁部	－	－	－	43.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/4	内屈する波状口縁の頂部にイノシシ状突起。諸磯ｂ式中段階
2092	PJ-41	口縁部	－	－	－	10.0	破片	10YR7/4 7.5YR5/4	波状の条線文。内面は指頭圧痕が残る横ナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式併行
2093	PJ-41(B)	胴部	－	－	－	8.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR5/4	円形刺突文と平行沈線。内面はていねいなミガキ調整。胎土に繊維を含む。黒浜式か
2094	PJ-41(B)	胴部	－	－	－	428.0	破片	5YR6/6 5YR5/6	縦に並ぶ円文と肋骨文。諸磯ａ式古段階
2095	PJ-41	口縁部	(33.0)	－	－	246.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/6	外反する口縁部に幅の狭い竹管押引文。内面はミガキ調整。諸磯ａ式新段階か
2096	PJ-41(D)	口縁部	－	－	－	91.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR5/4	波状口縁。幅の狭い竹管文と磨消縄文による木の葉文。内面ミガキ調整。諸磯ａ式新段階
2097	PJ-41(D)	－	4.4	4.4	0.8	19.0	ほぼ完形	7.5YR4/6 7.5YR4/6	土器片の端部を研磨した土製円盤。縄文地文。諸磯式土器と思われる。
2098	PJ-41(D)	口縁部	(26.0)	－	－	89.0	破片	5YR4/3 5YR3/2	幅の狭い竹管押引文と磨消縄文による木の葉文。内面ミガキ調整。諸磯ａ式新段階
2099	PT-642 図1	口縁部	－	－	－	181.0	破片	5YR4/6 5YR3/4	PT642 号ピット出土。口縁部上端に竹管押引き。下位は竹管の縦沈線で区画された肋骨文。内面は横位のナデミガキ。諸磯ａ式
2101	PJ-41	－	4.2	3.9	0.8	17.0	ほぼ完形	2.5YR4/6 5YR3/4	諸磯式と思われる土器破片の端部を研磨した土製円盤
2103	PJ-61	胴部	－	－	－	24.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	PJ61 埋土出土。縄文地文。内面を平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式か
3055	PJ-41(D)	胴部				50.0	破片	7.5YR3/2 5YR4/4	鉢形土器。屈曲部に爪形押引き文が２列。下位は縄文。内面はていねいなミガキ調整。諸磯ａ式

PJ41 号・PJ61 号住居　石器観察表（剥片石器）

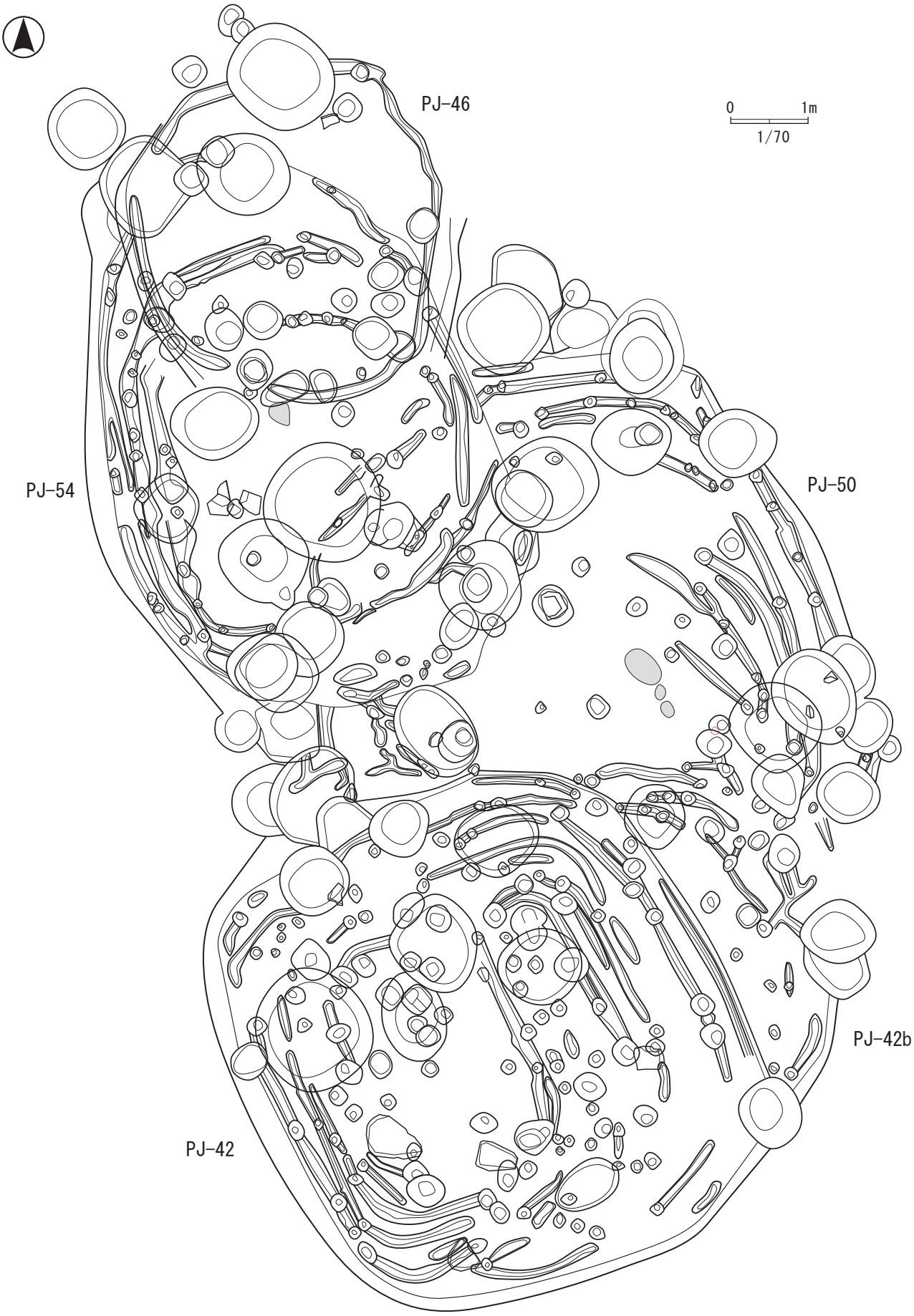
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0093	PJ-41　B	石鏃	珪質頁岩	1/1	22.4	16.9	3.1	1.50	未成品。剥片周縁を両面から調整しはじめたブランク。灰色で良質の珪質頁岩。搬入石材か
0094	PJ-41　D	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.30	礫面が残る剥片の一辺に微小剥離。黒斑入りの透明黒曜石
0095	PJ-41　D	両極石器	黒曜石	1/1	21.0	18.0	8.0	2.90	礫面が残る砕片の折り取った端部にパンチ痕。反対側端部に衝撃剥離。灰色斑入りの半透明黒曜石
0096	PJ-41　D	石鏃	石英岩	3/4	21.5	21.4	5.4	2.10	未成品。剥片の２辺に調整剥離
0097	PJ-41　C	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.70	礫面が残る縦長剥片の１辺に微小剥離。黒筋のある透明黒曜石
0098	PJ-41　B	剥離のある剥片	黒曜石	3/4				3.00	三角形の剥片の１辺に調整剥離。石鏃ブランクか。黒斑入りの半透明黒曜石
0099	PJ-41　C	石匙	珪質頁岩	1/1	20.0	57.0	7.0	7.40	縦長剥片の打点側に刃部先端を設け、反対側の薄い縁辺につまみを作出。副刃か。白筋のある青灰色珪質頁岩
0101	PJ-41　B	両極石器	黒曜石	1/1	23.0	13.0	5.0	1.40	礫面が残る短冊形の厚手砕片の両端に衝撃剥離。白筋のある漆黒黒曜石
0102	PJ-41	石錐	黒曜石	1/1	20.0	9.0	4.0	0.60	礫面が残る剥片を両面加工し、尖った先端を作出。先端欠損。使用痕剥離あり。葛湯状斑入りの半透明黒曜石
0103	PJ-41　A	両極石器	黒曜石	1/1	24.0	19.0	5.0	3.10	厚手砕片の両端に衝撃剥離。小さな球顆がある半透明黒曜石
0104	PJ-41　B	石匙	黒曜石	1/2	31.0	22.0	7.0	3.60	器体半分を欠損した石匙。縁辺にわずかな磨滅痕があり、有抉研磨石器かも。葛湯斑入りの半透明黒曜石
0105	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	1/1	15.2	12.9	3.4	0.54	平基、小形、片面調整。縁辺のみ両面加工。黒斑入りの透明黒曜石
0106	PJ-41　B	石錐	黒曜石	1/1	20.0	18.0	7.0	1.90	礫面がある砕片の片面を加工し尖った先端を作出。わずかに使用痕あり。葛湯斑入りの透明黒曜石
0107	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	3/4	17.9	19.8	6.5	2.22	未成品。両面加工で成形段階。器面がすりガラス状に曇り、被熱したか。半透明黒曜石
0108	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	1/1	20.5	23.7	5.7	1.06	凹基、両面加工。断面は三角形で厚手。黒斑入りの半透明黒曜石
0109	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	3/4	(15.7)	17.4	3.3	(0.39)	小形、凹基、縁辺加工。葛湯状の半透明黒曜石
0110	PJ-41　D	石鏃	黒曜石	1/2	26.9	12.4	3.2	0.76	未成品か。大形、凹基、両面加工。器体半分が欠損。葛湯斑入りの透明黒曜石
0111	PJ-41	石匙	黒曜石	1/1	13.0	19.0	3.0	0.60	ミニチュアの石匙。両面をていねいに調整。漆黒の黒曜石
0112	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	1/2	(22.0)	(11.8)	3.4	(0.46)	凹基、細身、両面加工の優品。片脚欠損。透明な黒曜石
0113	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	3/4	(14.8)	(10.9)	2.6	(0.28)	凹基、小形、片面加工。先端欠損。周縁のみ両面から調整。黒筋のあるブルーブラック黒曜石
0114	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	1/1	16.1	12.5	2.6	0.27	凹基、小形、片面加工。周縁のみ両面調整。透明な黒曜石
0115	PJ-41　土サンプル③	石鏃	黒曜石	1/1	15.8	12.6	3.3	0.40	凹基、小形、片面加工。周縁のみ両面調整。透明な黒曜石
0116	PJ-41	石鏃	黒曜石	3/4	24.8	19.7	5.3	1.82	凹基、大形、両面加工の優品。両脚欠損。透明な黒曜石
0117	PJ-41　D	石鏃	珪質頁岩	1/1	12.2	14.0	2.5	0.31	凹基、小形、周縁加工のみ。幅広。青灰色の珪質頁岩
0118	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	1/1	22.8	20.1	7.9	3.52	未成品。両面調整のブランク。葛湯状の半透明黒曜石
0119	PJ-41　A	石鏃	黒曜石	1/2	21.2		4.9	(0.95)	凹基、短脚、両面加工。片脚欠損。黒斑入りの透明黒曜石
0120	PJ-41	両極石器	黒曜石	1/1	19.0	18.0	8.0	2.80	厚手の砕片の両端に衝撃剥離。白筋のある漆黒黒曜石
0121	PJ-41　C	石鏃	黒曜石	－			2.1	(0.16)	先端部のみの破片。黒筋のある透明黒曜石
0122	PJ-41　C	石鏃	黒曜石	1/2			4.6	1.40	未成品。礫面がわずかに残る。両面加工。漆黒黒曜石
0123	PJ-41	石匙	頁岩	1/1	53.0	38.0	10.0	22.10	刃部は片面から主に調整し、裏面にわずかに調整あり。黄色に風化した頁岩
0124	PJ-41	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	23.0	15.0	6.0	1.90	礫面が両面に残る素材の縁辺を剥離。石鏃ブランクか。黒筋のある半透明黒曜石
0125	PJ-41　B	石鏃	黒曜石	3/4	14.4	19.9	4.3	0.90	未成品。脚状に尖った剥片を素材としたが、先端側が大きく欠損。周縁加工のみで製作しようと試みたか。黒筋のある透明黒曜石
0126	PJ-41　B	原石	黒曜石					5.10	被熱発泡した板状原石。球顆がある半透明黒曜石
0127	PJ-41　A	原石	黒曜石					48.50	ズリ。細長い角礫。白筋のある漆黒黒曜石

PJ41 号・PJ61 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0128	PJ-41	削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	52.0	70.0	17.0	63.40	剥片素材の薄い縁辺に刃部。
0129	PJ-41　C	原石	黒曜石					9.50	打ち割られた角礫ズリ。白筋のある漆黒黒曜石
0130	PJ-41	原石	黒曜石					5.60	細長い板状の原石。黒斑入りの半透明黒曜石
0131	PJ-41　C	原石	黒曜石					8.80	角礫ズリ。白筋のある漆黒黒曜石
0132	PJ-41	原石	黒曜石					37.40	板状の角礫ズリ。白筋のある漆黒黒曜石
0133	PJ-41	原石	黒曜石					26.90	角礫ズリ。漆黒黒曜石
0134	PJ-41	原石	黒曜石					34.00	角礫ズリ。漆黒黒曜石
0135	PJ-41　C	原石	黒曜石					17.80	亜角礫ズリ。半透明黒曜石
0249	PJ-61　1	石鏃	黒曜石	1/1	18.1	10.9	3.1	0.30	PJ61 号住居埋土出土。小形、凹基、細身、両面加工。葛湯状の半透明黒曜石
4345	DK-392	原石	黒曜石					17.10	柱穴 DK392 出土。角礫ズリ。白筋のある漆黒黒曜石
4367	PT-641	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.80	柱穴 PT641 出土。両面から調整。石鏃ブランクか。流紋岩節理のあるブルーブラック黒曜石
4369	PT-629	剥離のある剥片	黒曜石	3/4				1.40	柱穴 PT629 出土。細長い剥片の２辺に使用痕。透明黒曜石
4945	PJ-41	削器	頁岩	1/2				6.20	礫面がある剥片の１辺に刃部。123 と同一母岩か。黄色に風化した頁岩
4946	PJ-41	石匙	黒曜石	3/4				0.50	ミニチュア石匙。突出した部分につまみ作出を意図したような剥離。反対辺に刃部作出を意図したような微小剥離。葛湯状の半透明黒曜石
4947	PJ-41	剥離のある剥片	黒曜石	3/4				0.90	剥片の１辺に使用痕のような微小剥離。もう１辺は石鏃の周縁加工のような調整剥離が片面のみにみられる。透明黒曜石
4948	PJ-41	石鏃	石英岩	－	－	－	2.9	(0.35)	先端部の破片。両面加工。薄手、大形の優品と思われる。
4949	PJ-41B	石鏃	黒曜石	1/2				1.52	未成品。礫面が残る剥片の周縁に調整剥離。葛湯状斑入りの透明黒曜石

PJ41 号・PJ61 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	現存厚 (cm)	重量 (g)	観察所見
10021	PJ-41　2	台石	安山岩類	1/1	28.7	31.8	7.1	10,100	住居中央、埋土上層出土。扁平円礫。両面が弱く摩滅。片面が特に平坦で摩滅が進み、かつ中央に敲打による浅い凹みがある。
10613	PJ-41　13	磨製石斧	緑色岩	1/1	19.3	7.1	3.6	746	東壁際で斜めになって出土。断面は扁平楕円形で前期的な形状。敲打整形痕が残らない程度に研磨仕上げ。
10615	PJ-41　5	磨石類	安山岩類	1/1	9.7	7.2	5.8	535	両面に敲打による深い凹み。片側面は広い敲打痕。
10616	PJ-41　6	石皿	安山岩類	－	(15.8)	(10.3)	(8.9)	847	石皿破片。PT581 東脇の床面出土。皿部縁がないタイプ。
10617	PJ-41	磨石類	安山岩類	－				271	断面は角が丸い菱形。平坦面３面に磨滅。断面は稜磨石的。
10618	PJ-41　4	磨石類	安山岩類	1/3				223	PT644 脇の床面出土。俵形磨石の破片。平坦な２面に弱い摩滅と敲打による浅い凹み。側面も使用したか。
10619	PJ-41　3	磨石類	砂岩	1/3				226	細粒砂岩。平坦な１面が磨耗。
10620	PJ-41　A	磨石類	安山岩類	1/2				265	10621 と接合。
10621	PJ-41　B	磨石類	安山岩類	1/2				206	10620 と接合。俵のような形状。平坦面２面に弱い摩滅痕と敲打による浅い凹み。
10622	PJ-41　D	磨製石斧	緑色岩	－	4.7	3.7	(2.1)	47	基部側破片。基部は尖って前期的な形状。敲打整形痕が残るが全面を研磨仕上げ。



PJ042・PJ042b・PJ046・PJ050・PJ054 号住居全体図

PJ042 号住居

位　　置：D-5、D-6 グリッドに位置する。PJ050 号住居と重複する。埋土断面の観察から本住居が新しいと確認された。DK227、DK263 号土坑は諸磯 b 式期の集石土坑で、本住居より新しい。DK230、DK265、DK357、DK422、DK429、DK430 号土坑も本住居より新しい。DK387、DK388、DK418 号土坑は本住居より古い土坑である。DK408、DK428 号土坑は新旧関係を確認できなかった。

本住居の東側、PJ050 号住居とのあいだに不整円形の周溝が検出され、本住居に先行する住居と思われる。この不整円形の住居を PJ042b 号住居とする。

規　　模：42 号住居は長軸 7.3m、短軸 6.1m の隅丸方形で、竪穴の深さは 50cm が残る。42b 号住居は直径 5m ほどの円形住居と思われ、竪穴の深さは 30cm が残る。

埋　　土：42 号住居の埋土では、まず暗褐色土（2 層）が主に北側から供給され、次に暗褐色土（2b 層）が南側から供給されて床面を覆い、それらの上位に黒褐色土（1 層）がレンズ状に自然堆積した状況が観察された。壁際には黄褐色土（3 層）が観察された。

42b 号住居は、暗褐色土に花崗岩礫が混じる埋土であった。

床　　面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。硬くしまった箇所は確認されなかった。

炉　：住居中央からやや西にずれた地点で焼土を検出した。この焼土は黄褐色土の床面から 5cm ほど浮き、暗褐色土の 2 層中に水平に広がっていた。上位に諸磯式期の集石土坑 DK263 号土坑があり、それに伴う焼土の可能性がある。

黄褐色土の床面が被熱、焼土化した箇所は検出されなかった。DK357 号土坑など新しい遺構に切られて失われた可能性が考えられる。

周　　溝：同心円状に数条の小溝を検出した。住居の建替え、居住期の回数を示すものと考えられる。

柱　　穴：PJ042 号住居の床面で柱穴、周溝を検出した時点で、PT815、PT817 号ピットが最も明瞭に確認され、この 2 基のピットを起点に柱穴の組み合わせを検討した。ただし周溝の本数から想定される建替え、居住期の回数に見合った柱穴の組み合わせは確認できなかった。

もっとも新しい段階の柱穴は、PT815、PT817、PT818、PT837 号ピットの 4 基と考えた。これらは方形に配置され、PT837 が床面から 47cm とやや浅いが、ほかの 3 基は深さが 60cm を超える。

先行する段階の柱穴は、PT824、PT834、PT842、PT849 号ピットの 4 基と考えた。主軸方向がややずれ、柱穴の深さが 28cm から 45cm とばらつくものの、整然とした方形に配置される。

もっとも内側に位置する柱穴の組み合わせは、PT823、PT825、PT835、PT839 号ピットの 4 基を想定した。ピットの深さが 56cm から 60cm と深く揃っていて、もっとも新しい段階の柱穴の組み合わせと主軸方向がほぼ同じになる。

これらのほかにも柱穴とみなしうる大きさ、深さのピットが検出されたが、組み合わせを想定できなかった。さらに小溝にそって小ピットが多数検出されている。

出土遺物：時期幅がある土器破片が埋土中から出土し、遺構の廃絶時期につながる出土状況を示す土器はなかった。中越式、神之木式、有尾式、釈迦堂 Z3 式、諸磯式、木島式、清水ノ上Ⅱ式、堂之上 Z 式、上広覧式などが出土した。出土した土器の総量は 105,223g で、内訳は、木島式 636g、関山式 543g、中越式 13,382g、神之木式 16,168g、有尾式 6,702g、釈迦堂 Z3 式 2,849g、諸磯 a 式 3,361g、諸磯 b 式 707g、諸磯 c 式 49g、細分できない諸磯式 25,937g などである。清水ノ上Ⅱ式、上の坊式、上広覧式は、いずれも 100g 以下で、ごくわずかが出土したのみである。

出土した石器は、石鏃 122 点、黒曜石やチャート等の硬質石材素材の小型精製石匙 22 点、石錐 13 点、掻器 1 点、素刃削器 4 点、両極石器 3 点、抉入石器 1 点、黒曜石製の異形石器 1 点、打製石斧 1 点、石皿 5 点、台石 7 点、磨石類 25 点、磨製石斧 1 点、ハンマー 10 点、礫器 5 点、黒曜石原石 41 点、黒曜石石核 6 点、黒曜石砕片 1 点、剥離のある剥片 27 点、緑色岩などの剥片 4 点、玦状耳飾 1 点である。

そのほか黒曜石を主とする剥片、砕片が 3900 点、6,127g 出土した。

時　　期：まとまって出土した土器、大きめの土器破片はいずれも諸磯ａ式古段階から新段階であることから、本住居は諸磯ａ式古段階に廃絶されたと推測される。

PJ042b 号住居

位　　置：PJ042 号住居と PJ050 号住居にはさまれる位置で検出された。PJ042 号住居に切られる。PJ050 号住居との新旧関係は埋土観察では確認できなかった。DK281、DK423、DK429、DK440 号土坑に切られる。

規　　模：直径 5.2m ほどの不整円形と思われる。

埋　　土：暗褐色土に風化花崗岩片が混じる埋土で、遺構が部分的に残るのみだったので断面図の作図を省略した。

床　　面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。PJ042 号住居と比べると床面はやや硬くしまっていた。

**炉　　**：検出されなかった。

周　　溝：断片的な小溝が検出された。特にPJ050号住居と重複する北壁側で3本の小溝が同心円状に検出された。

柱穴:PT855 号ピットが本住居に帰属する遺構と思われ、PT826、PT841 号ピットと組み合いそうだが、4 基目のピットが不明瞭である。

PJ042 号住居床面で確認されたピットのうち PJ042 号住居の柱穴ではないと思われるピットを検討すると、PT816、PT836、PT840、PT846 号ピットの 4 基が 40cm 以上の深さがあり、ほぼ方形に組み合う。

さらに PT841、PT847、PT850、PT855b 号ピットの 4 基も大きさ、深さが類似し、ほぼ方形に組み合う。

これら 3 通りのピットの組み合わせが主柱穴になる可能性があり、周溝にみあった建替えが想定できる。

出土遺物：越式、神之木式、有尾式、諸磯式土器破片が出土した。出土量は少ないが、そのなかでも神之木式が目立つ。出土した土器の総量は 745g で、中越式 184g、神之木式 349g、有尾式 104g、諸磯式 25g などである。

出土した石器は、台石 1 点、磨石類 2 点、ハンマー 1 点である。そのほか在地石材の大きな剥片 1 点 615g、黒曜石の剥片、砕片 4 点 76g が出土した。

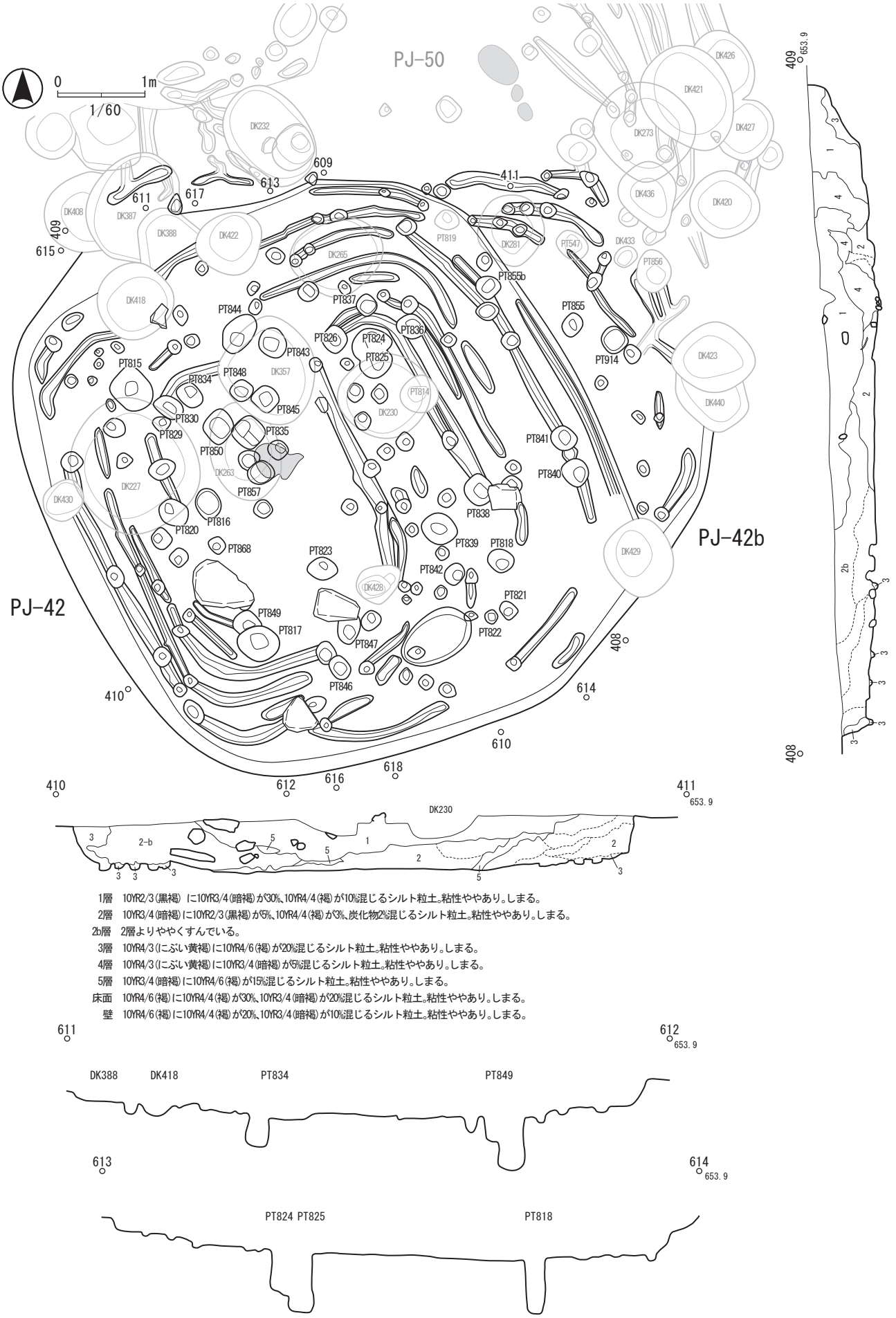
時　　期：わずかに出土した土器から判断すると神之木式から有尾式期に位置づけられる。

PJ042 号住居　土坑ピット一覧表

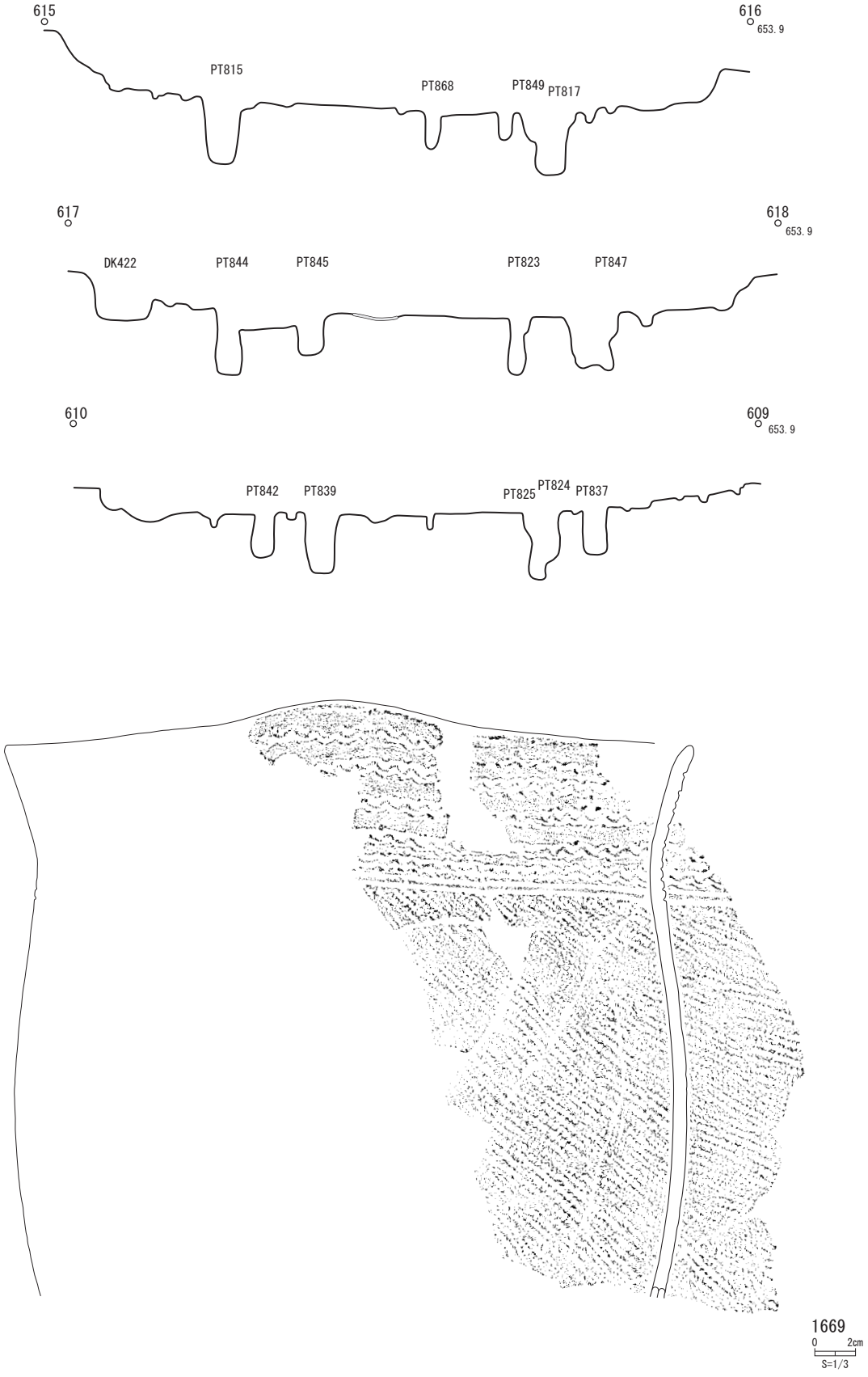
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-815	42 住内	40	66	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）と、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	最新段階の柱穴
PT-817	42 住内	30	61	10YR3/3（暗褐）に 10YR2/3（黒褐）が 1% 混じる。	最新段階の柱穴
PT-818	42 住内	26*22	64	10YR3/3（暗褐）に 10YR2/3（黒褐）が 1% 混じる。	最新段階の柱穴
PT-820	42 住内	27*24	24		
PT-821	42 住内	15	25		
PT-822	42 住内	13	22		
PT-823	42 住内	30	56	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	最古段階の柱穴
PT-824	42 住内	25*40	40	10YR3/2（黒褐）に 10YR4/6（褐）のロームブロック 1 ～ 2cm 角が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中間段階の柱穴。柱抜き取り痕。PT825 を切る
PT-825	42 住内	29*26	58	10YR3/2（黒褐）に 10YR4/6（褐）のロームブロック 1 ～ 2cm 角が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	最古段階の柱穴。DK230 号土坑、PT824 号ピットに切られる。
PT-829	42 住内	15	25		
PT-830	42 住内	16	21		
PT-834	42 住内	29	34	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中間段階の柱穴
PT-835	42 住内	32*20	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	最古段階の柱穴
PT-837	42 住内	25	47		最新段階の柱穴
PT-839	42 住内	30*24	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	最古段階の柱穴
PT-842	42 住内	21	45	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中間段階の柱穴
PT-843	42 住内	27	30	10YR4/4（褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-844	42 住内	40*22	42	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-845	42 住内	21	30	10YR4/3（にぶい黄褐）に 10YR4/6（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK357 号土坑に切られる。
PT-848	42 住内	23*20	13	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-849	42 住内	23*23	28	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中間段階の柱穴。PT817 に切られる。
PT-868	42 住内	16	40		
PT-914	42 住内	30	15		

PJ042b 号住居　土坑ピット一覧表

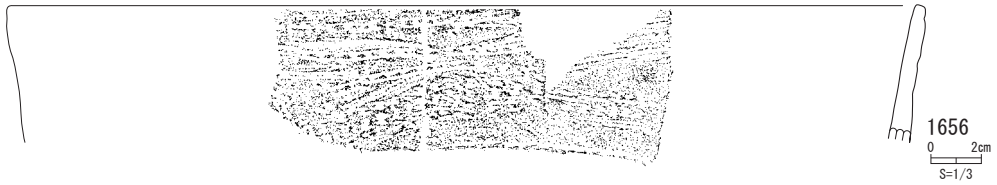
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-816	42 住内	26*28	45	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が混じる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-826	42 住内	27*-	22	10YR3/2（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-836	42 住内	30	48	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-838	42 住内	29	24	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-840	42 住内	32*25	41	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-841	42 住内	27	35	10YR3/3（暗褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-846	42 住内	23*21	45	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-847	42 住内	26	35	10YR3/3（暗褐）に 10YR4/6（褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-850	42 住内	40	35	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）と焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-855	42 住内	19*24	33	1 層　10YR3/4（暗褐）に 10YR3/6 が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。 2 層（柱根か）　10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-855b	42 住内	25	35	10YR3/4（暗褐）に 10YR3/6 が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PJ42b 号住居柱穴か
PT-857	42 住内	24	20	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/6 が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	

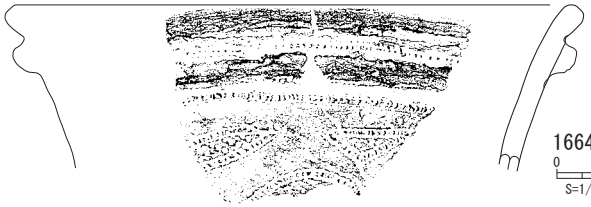


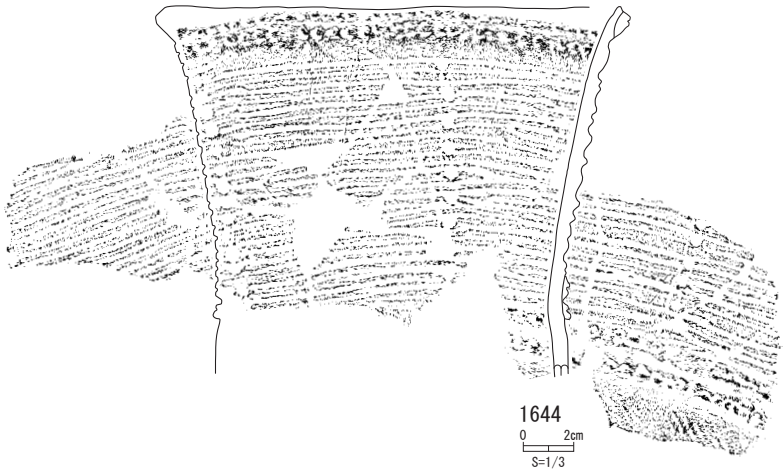
PJ042・PJ042b 号住居

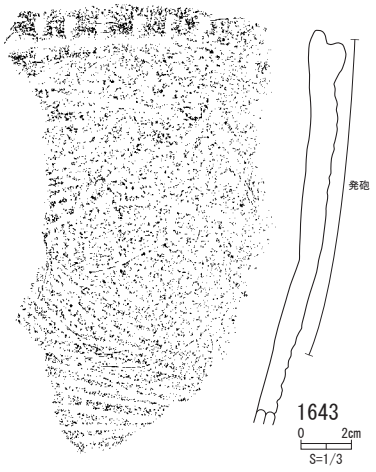


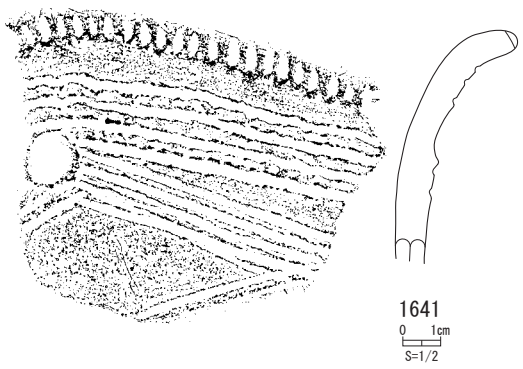
PJ042・PJ042b 号住居　PJ042 号住居出土遺物

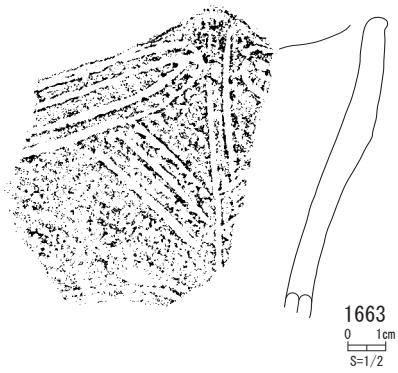


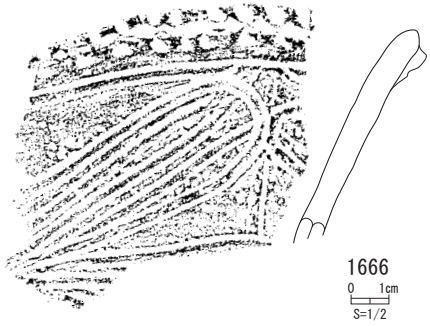


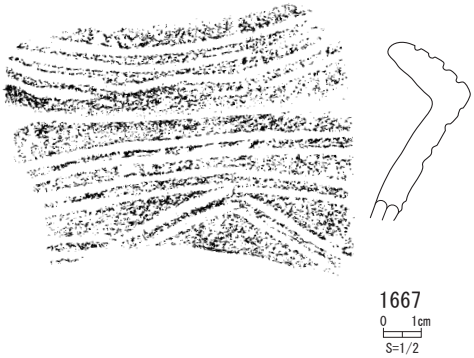




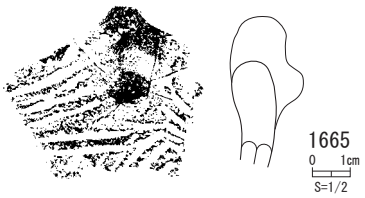


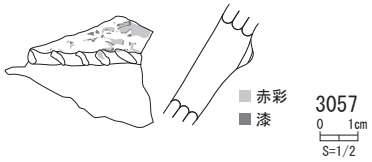


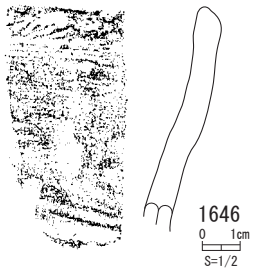


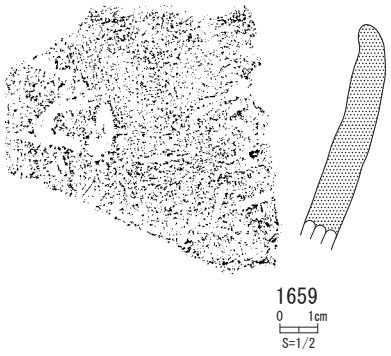


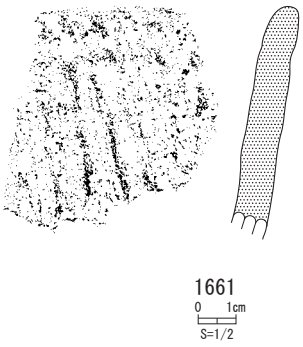
PJ042 号住居出土遺物

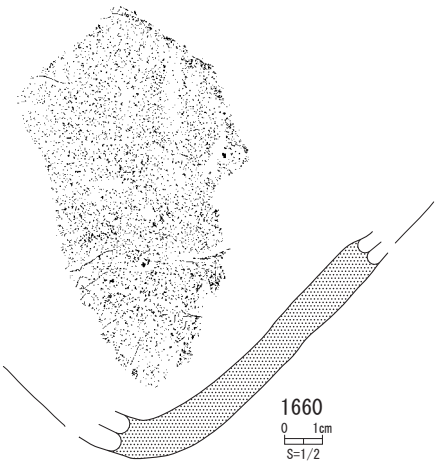


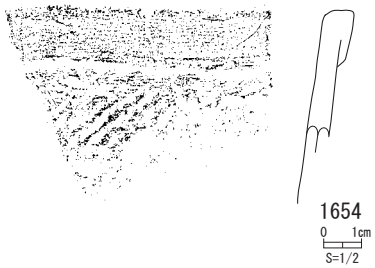


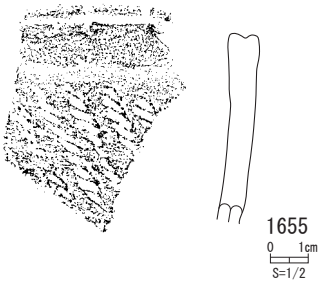




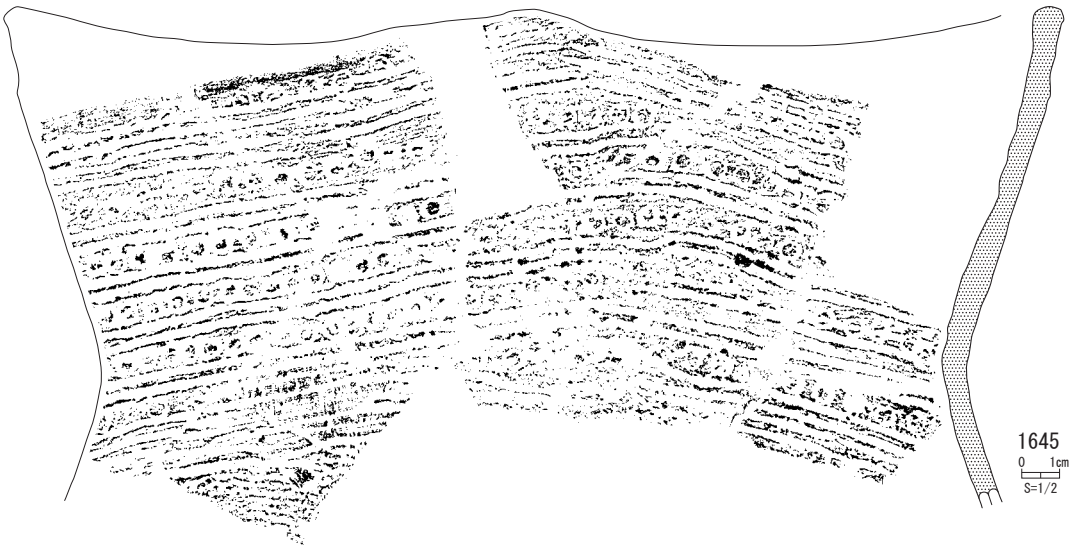


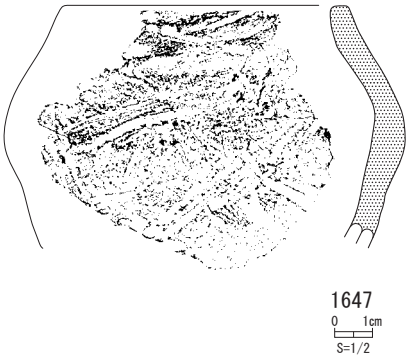


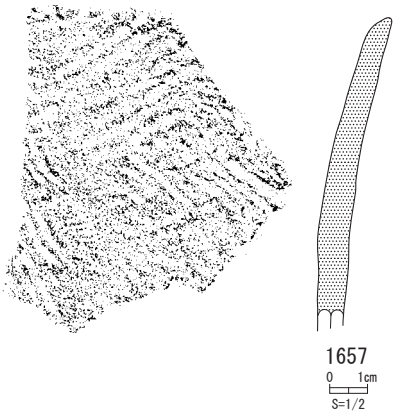


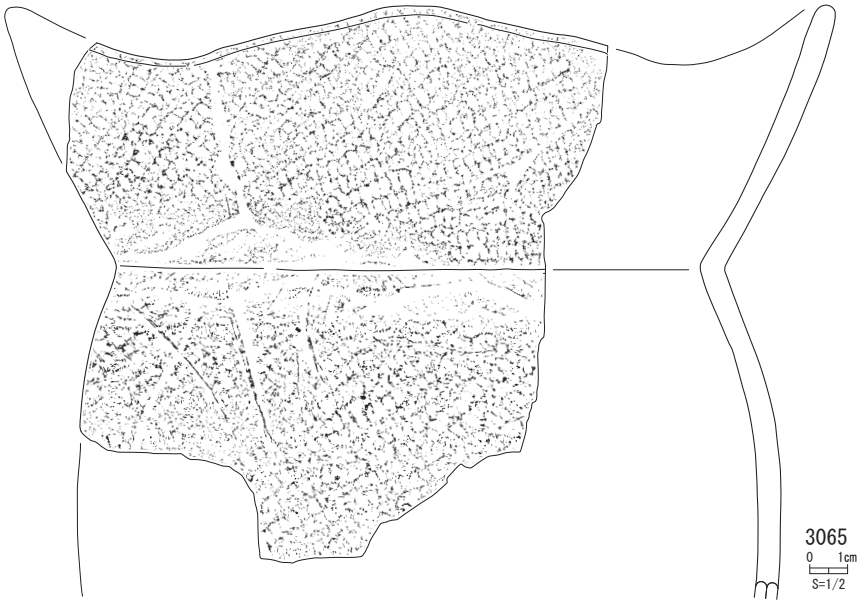


PJ042 号住居出土遺物



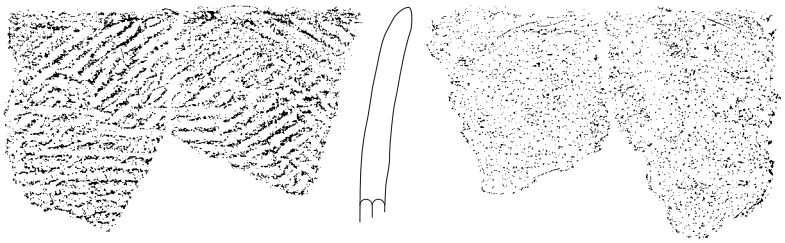




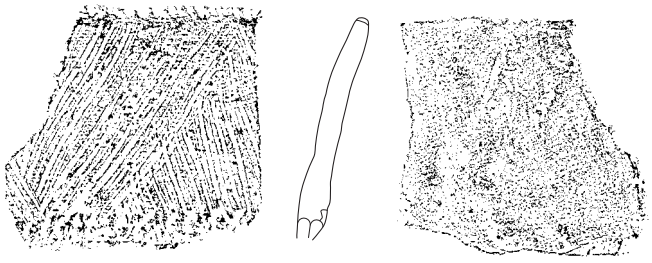


PJ042 号住居出土遺物

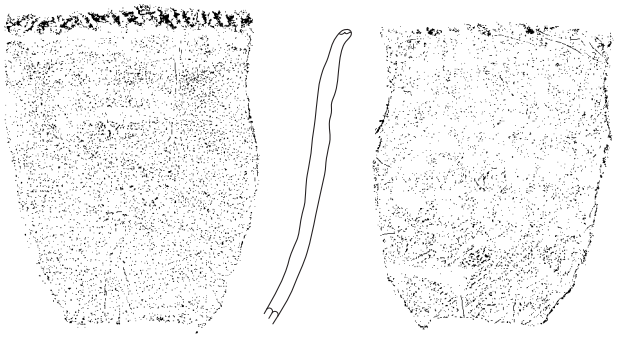
1668
0 1cm
S=1/2



1658
0 1cm
S=1/2

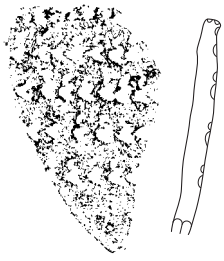


1640
0 1cm
S=1/2

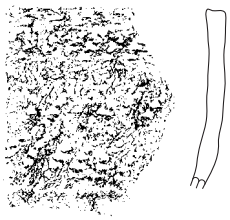


1642
0 1cm
S=1/2

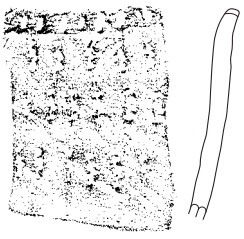
1648
0 1cm
S=1/2



1649
0 1cm
S=1/2

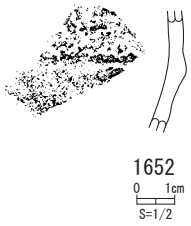


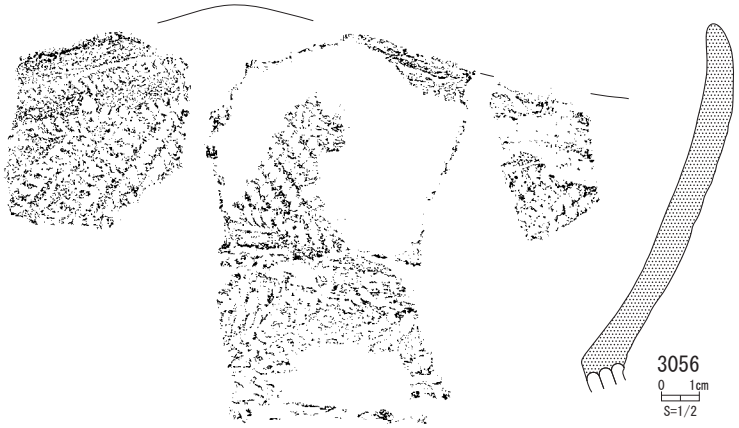
1650
0 1cm
S=1/2

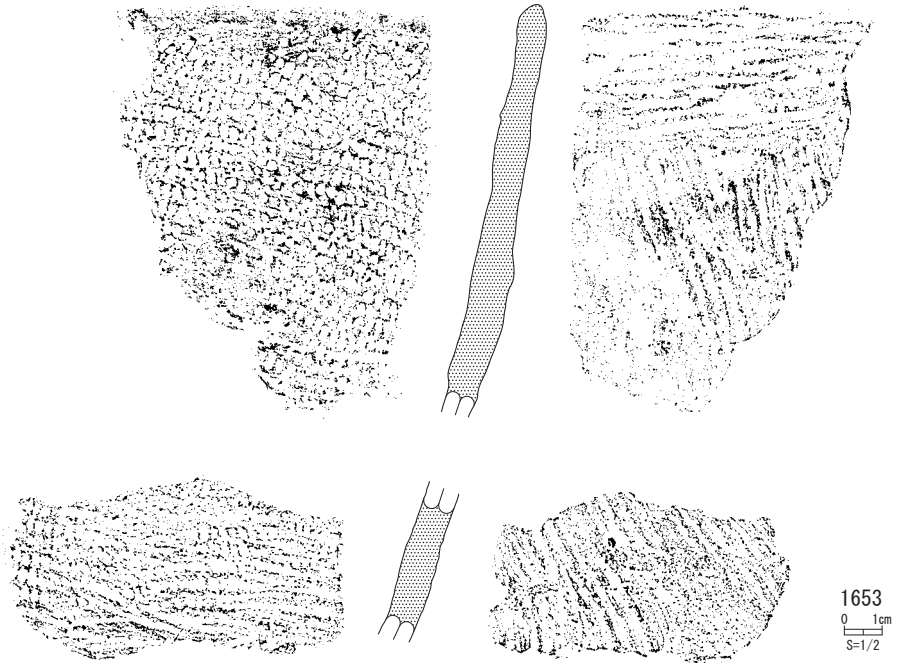


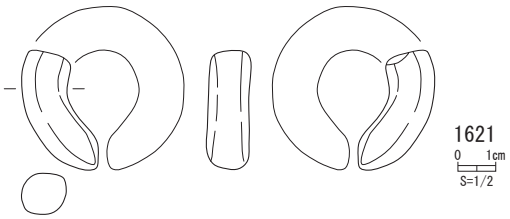
1651
0 1cm
S=1/2

PJ042 号住居出土遺物

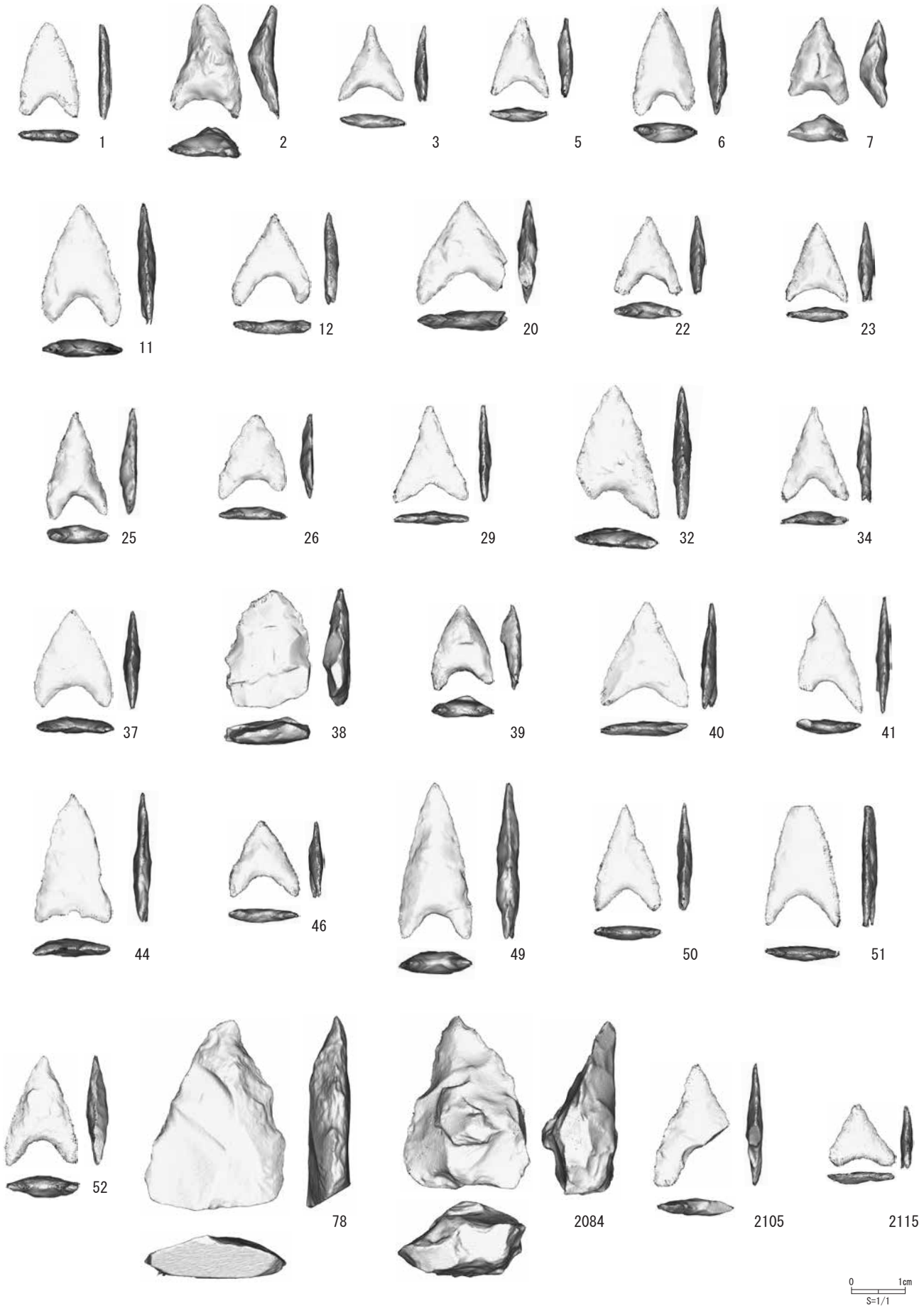




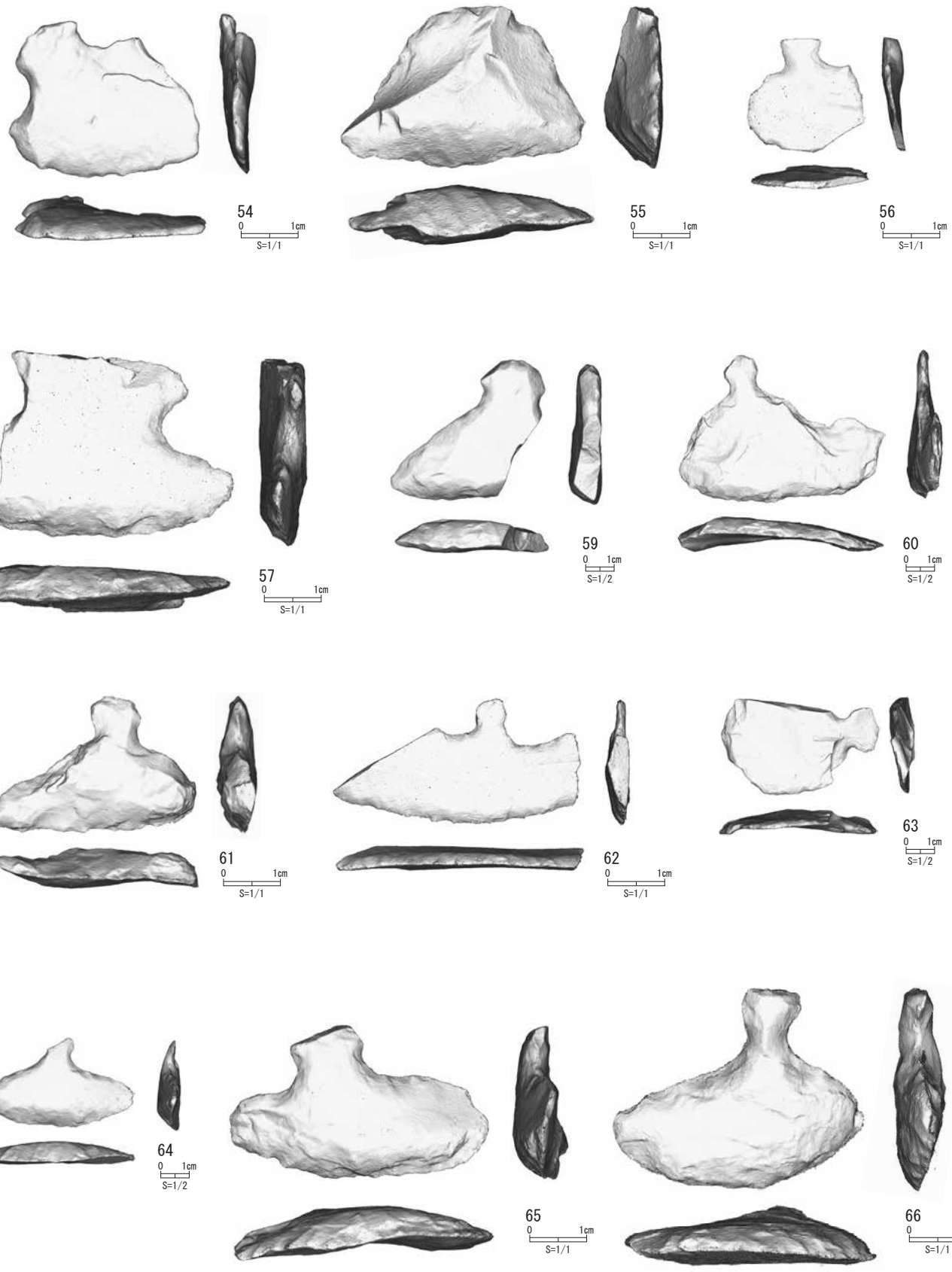




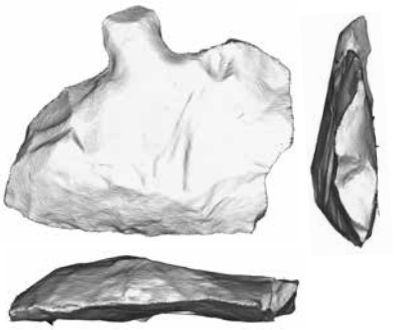
PJ042 号住居出土遺物



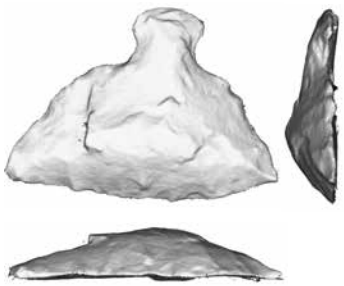
PJ042 号住居出土遺物



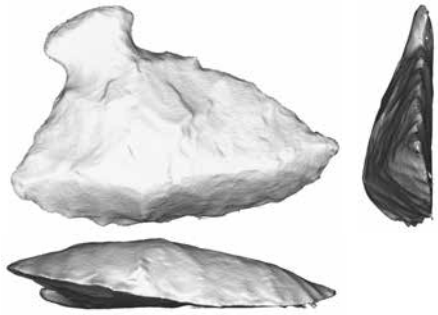
PJ042 号住居出土遺物



67
0 1cm
S=1/1

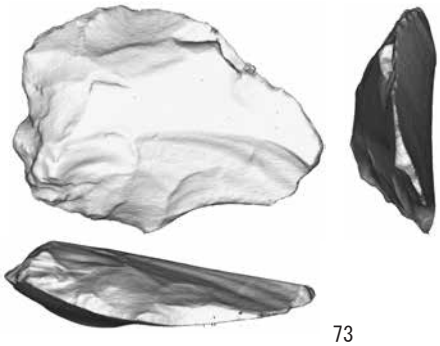


69
0 1cm
S=1/1



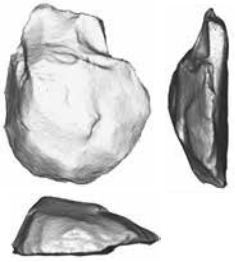
70
0 1cm
S=1/1

71
0 1cm
S=1/1

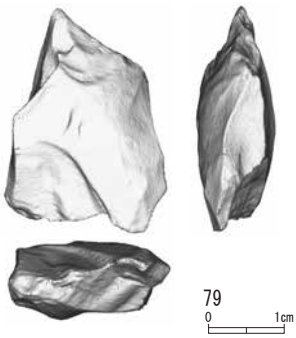


73
0 1cm
S=1/1

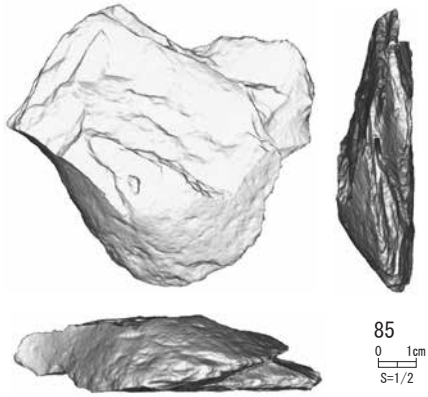
2116
0 1cm
S=1/1



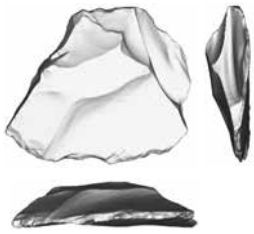
2038
0 1cm
S=1/1



79
0 1cm
S=1/1



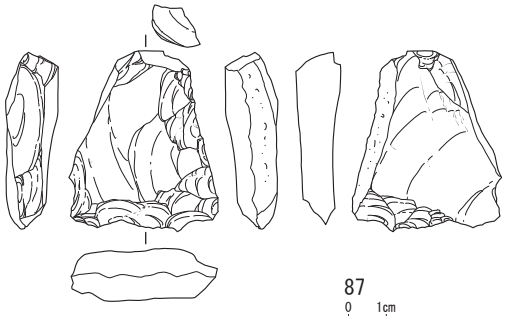
85
0 1cm
S=1/2



86
0 1cm
S=1/2

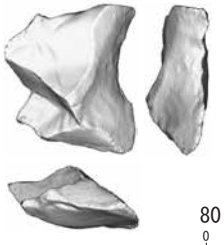
87
0 1cm
S=1/2

88
0 1cm
S=1/2

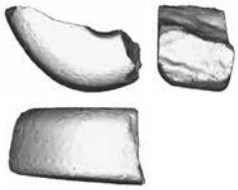


87
0 1cm
S=1/2

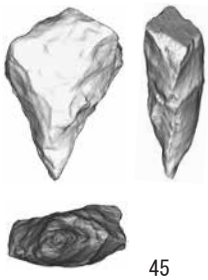
PJ042 号住居出土遺物


80
0 1cm
S=1/1

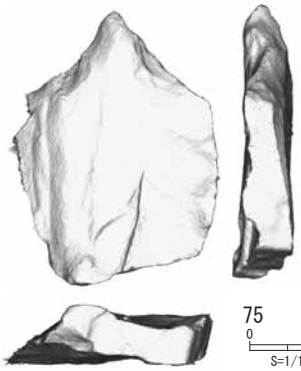
2114
0 1cm
S=1/1

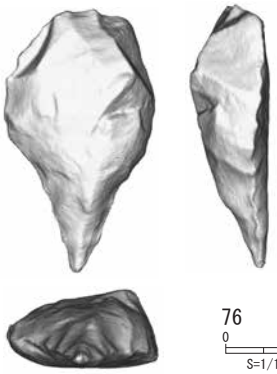

10345
0 1cm
S=1/1

43
0 1cm
S=1/1

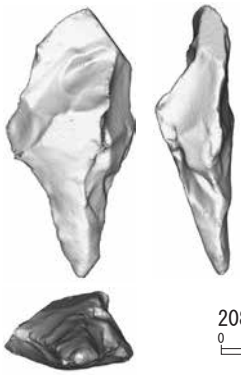

45
0 1cm
S=1/1

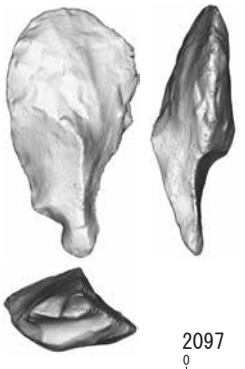
47
0 1cm
S=1/1

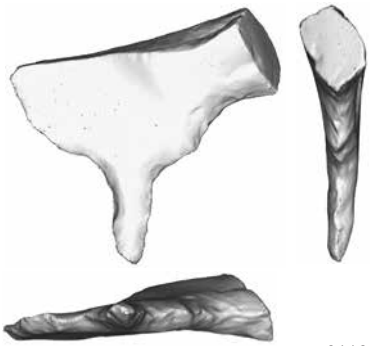

75
0 1cm
S=1/1

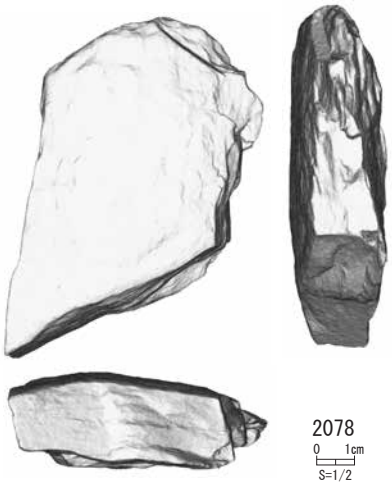

76
0 1cm
S=1/1

77
0 1cm
S=1/1

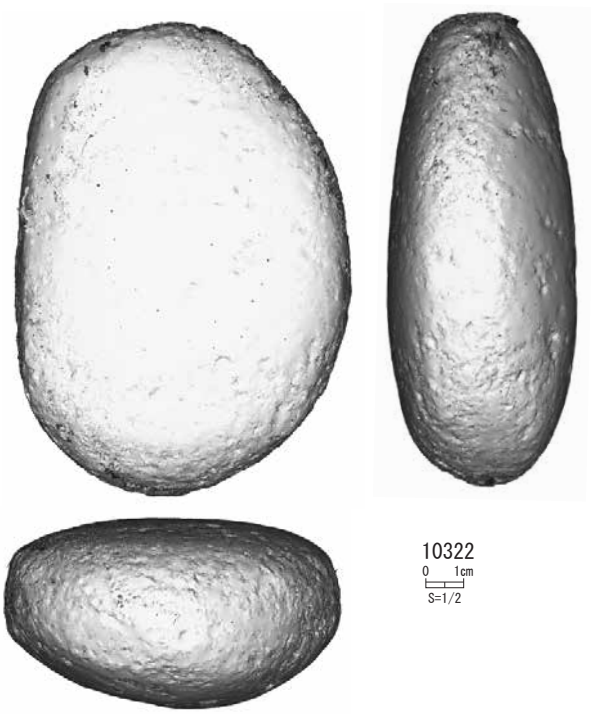

2085
0 1cm
S=1/1

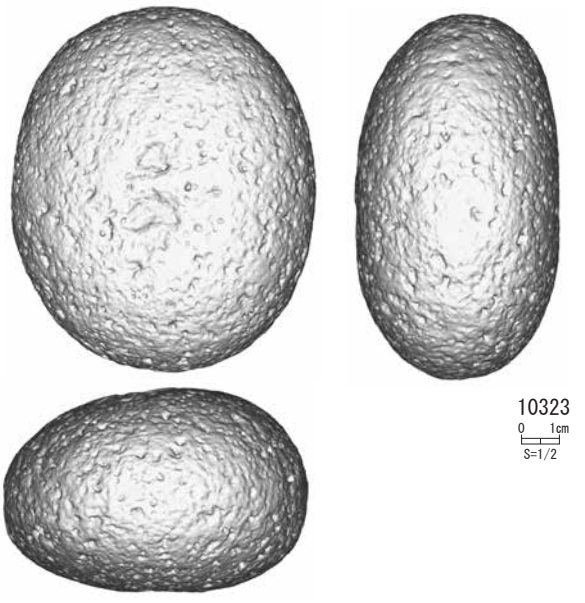

2097
0 1cm
S=1/1

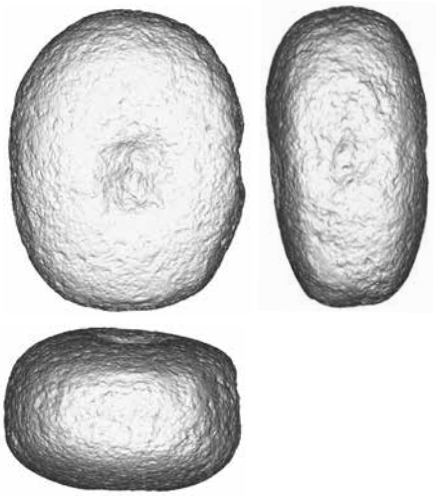

2113
0 1cm
S=1/1

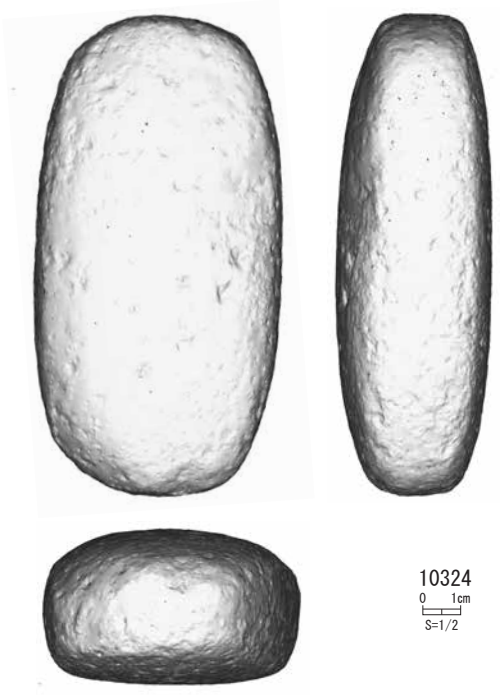

2078
0 1cm
S=1/2

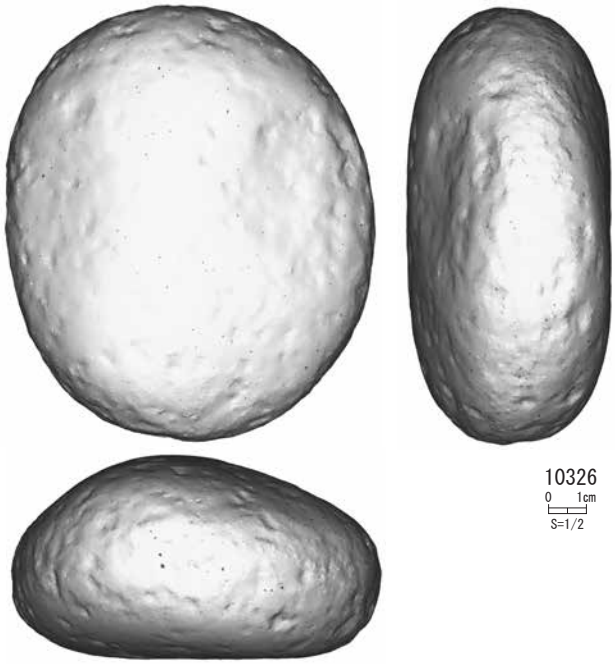
PJ042 号住居出土遺物



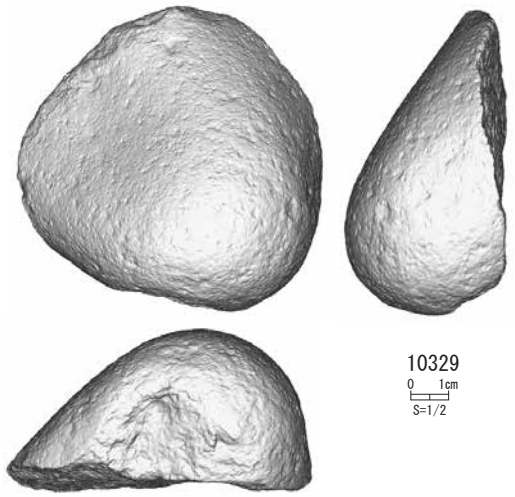


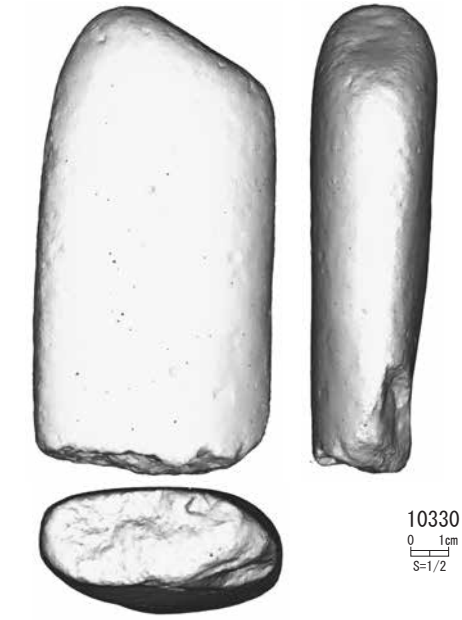


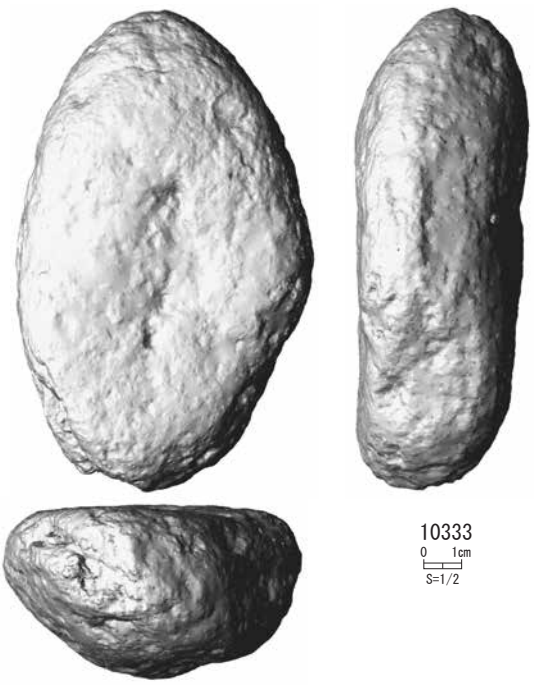


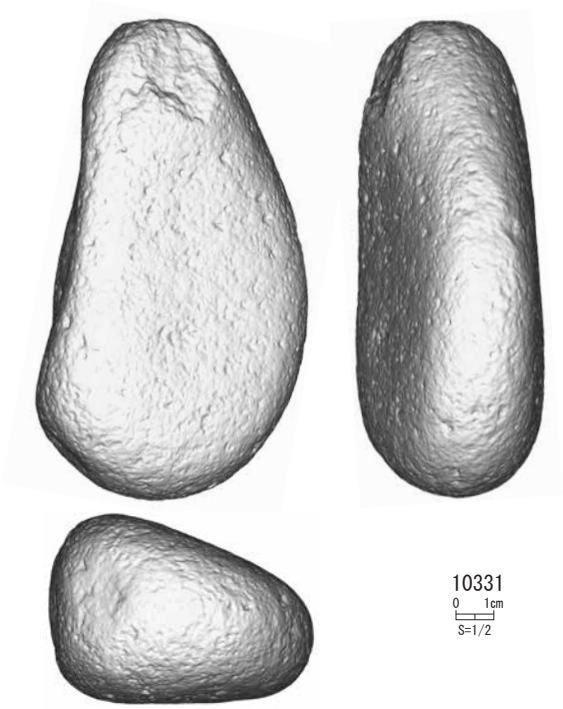


PJ042 号住居出土遺物

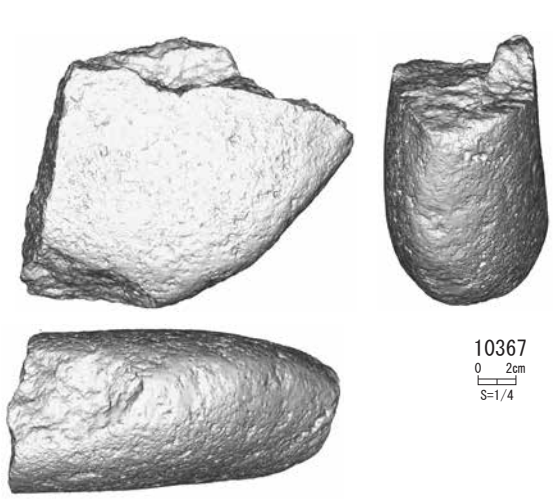


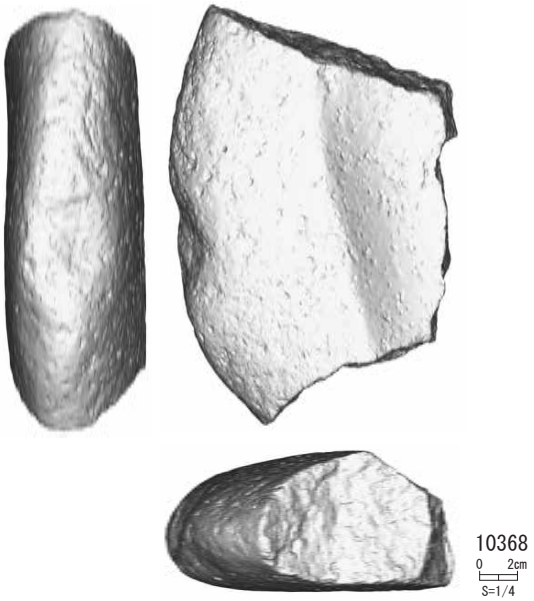


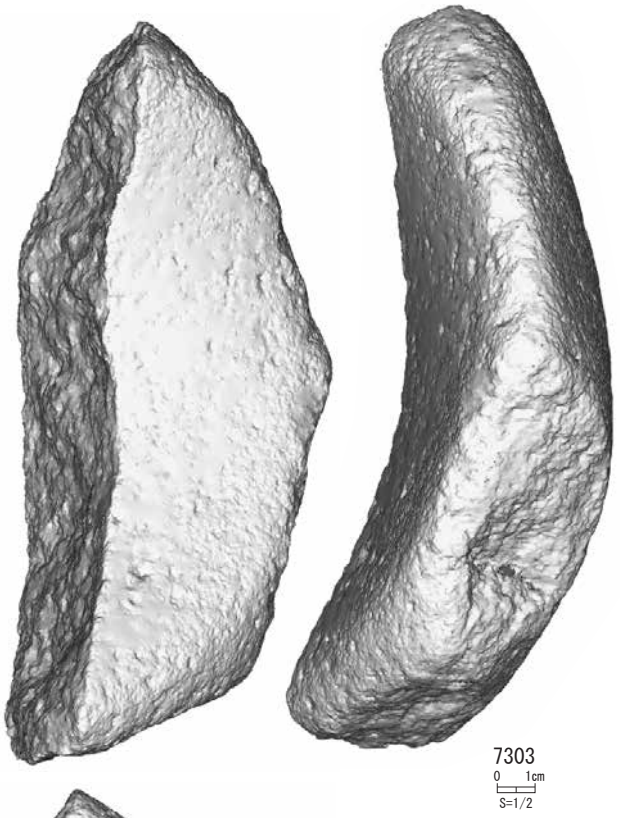


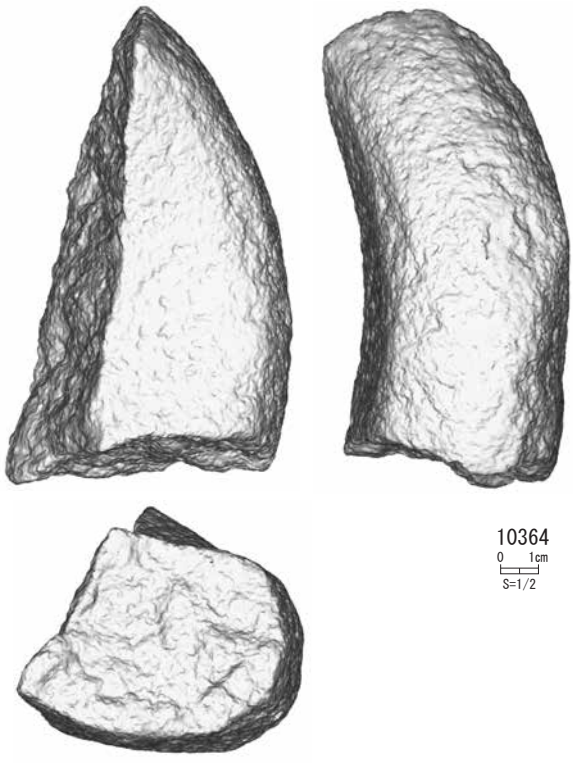


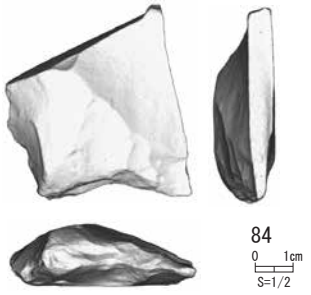
PJ042 号住居出土遺物



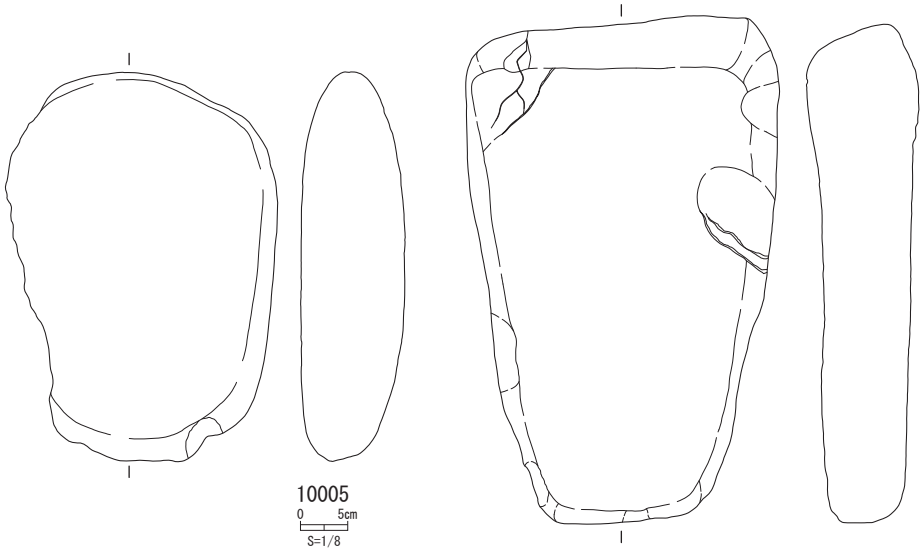


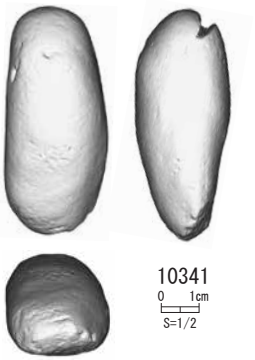


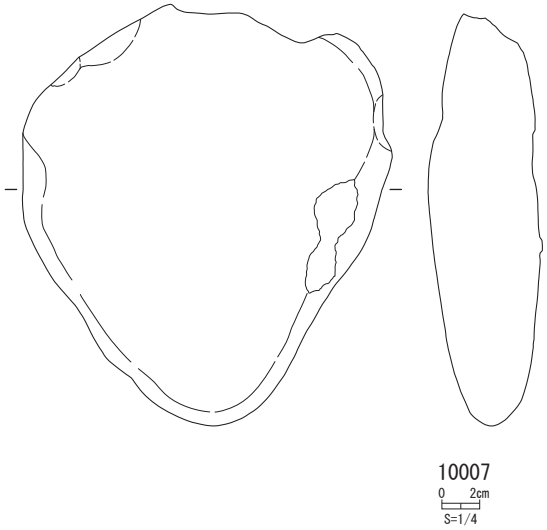


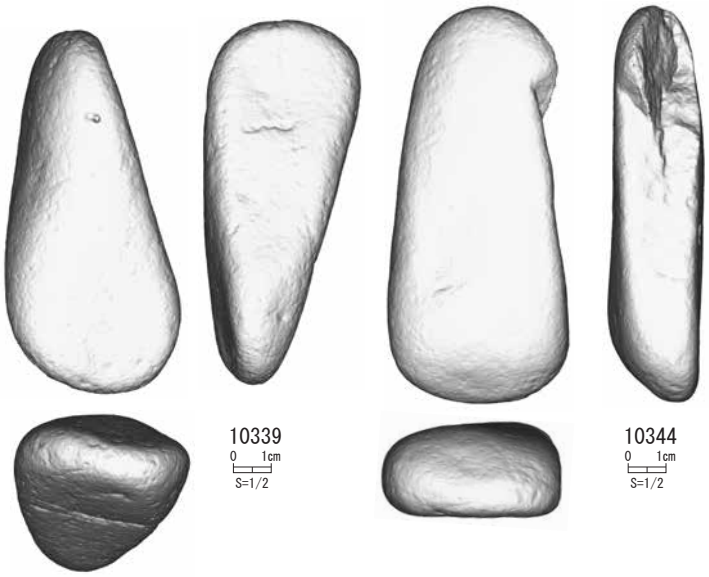


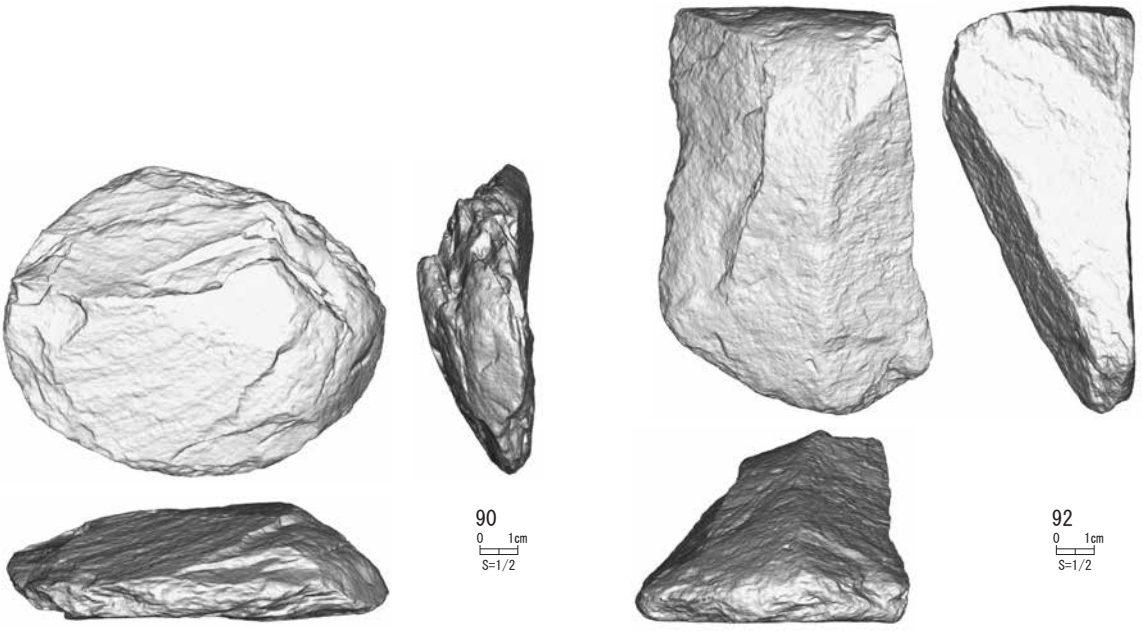
PJ042 号住居出土遺物



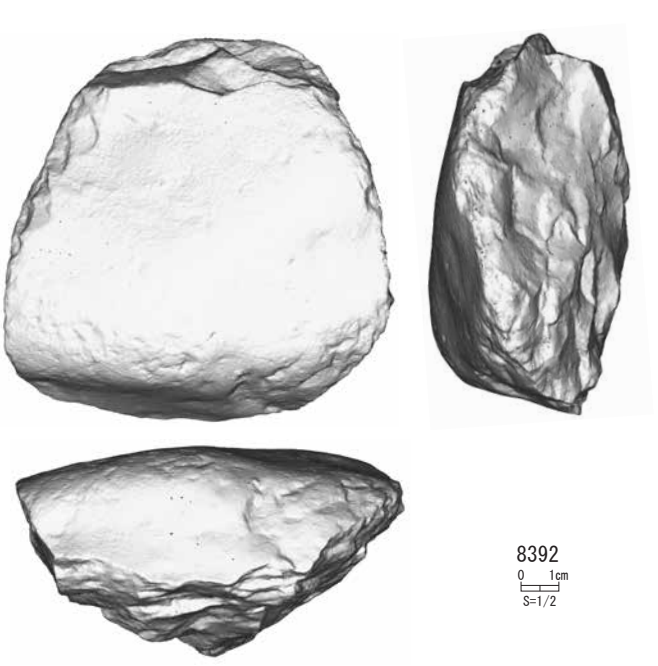


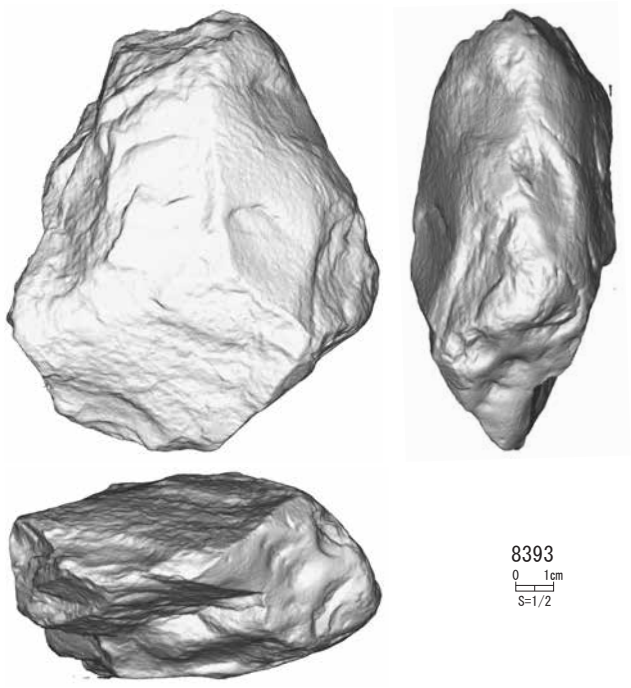


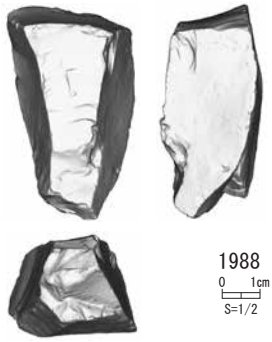


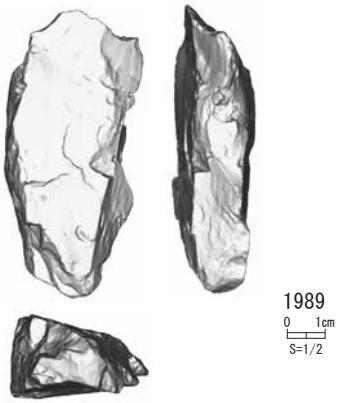


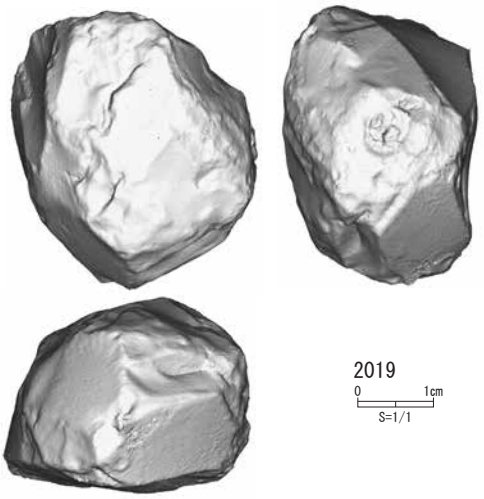
PJ042 号住居出土遺物

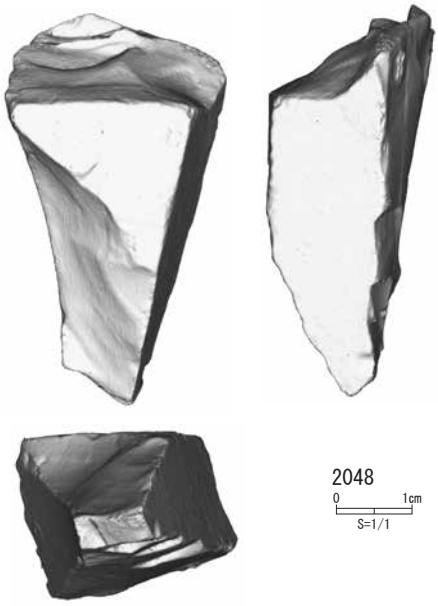












PJ042 号住居出土遺物

PJ042 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1621		PJ-42	土製玦状耳飾	(4.3)	(4.3)	1.2	6.0	破片	10YR7/4 10YR7/4	玦状耳飾を模倣したと思われる土製品破片
1640		PJ-42	口縁部	−	−	−	45.0	破片	10YR6/3 10YR6/4	口唇部刻み、口縁部は斜条線。頸部の段差に刻み。内面指頭圧痕。器壁は 6mm で中厚手。胎土に繊維を含まない。木島式か
1641		PJ-42	口縁部	−	−	−	78.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	外反する波状口縁。口唇部に刻み。口縁部上位は縄文施文後に 4 本の平行沈線を施文。さらに下位には円形凹文を起点に 4 本の平行沈線で菱形文。内面横ナデ。金色雲母が目立つ胎土。諸磯 a 式古段階
1642		PJ-42	口縁部 ～胴部	−	−	−	112.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/3	口唇部に貝殻腹縁を押捺した刻み。内外面に条痕文のような擦痕。内外面ともに指頭圧痕が顕著。器壁は 6mm 程度の中厚手。中越式と清水ノ上Ⅰ式の折衷のような土器。
1643		PJ-42	口縁部 ～胴部	−	−	−	155.0	破片	7.5YR6/6 10YR4/2	強く被熱して歪み、発泡した土器破片。どちらが内面か外面かもわからないほど歪んでいる。沈線文がある面を図示。口唇部に沈線と刻み。胴部には平行沈線の菱形文か。諸磯 a 式と思われる
1644		PJ-42	口縁部 ～胴部	(18.8)	−	−	388.0	破片	2.5YR5/6 5YR4/3	口唇部に竹管先端で刻み。口縁部には縦に並ぶ円形凹文と平行沈線文。下端に刻み隆帯。その下位は縄文地文。内面はナデミガキ調整。金色雲母が混じる胎土。諸磯 a 式古段階
1645		PJ-42	口縁部 ～胴部	(28.0)	−	−	327.0	破片	5YR4/4 7.5YR3/3	緩い波長の波状口縁に沿って平行沈線を施文した後、沈線間に竹管先端を押捺した円形文を施文。頸部くびれ部は平行沈線のみ。その下位は縄文地文。有尾式の連点状刺突文が竹管刺突文に置換か。内面ナデ調整。胎土に繊維を含む。有尾式の最終段階の様相を示すか
1646		PJ-42	口縁部	−	−	−	19.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR4/3	口縁部に斜めの刻み？、頸部に沈線とも凹線ともつかない文様。胎土に繊維を含まず、器面の外観は諸磯式土器に似る。内外面ヨコナデ調整
1647		PJ-42	口縁部 ～胴部	(7.4)			36.0	破片	10YR6/3 10YR3/1	小さな鉢形土器。うっすらと菱形文を施文。外面はミガキ調整、内面はヘラ先でナデ調整。胎土に繊維を含む。有尾式併行
1648		PJ-42	口縁部	−	−	−	17.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR5/6	直径 10cm ほどの小さな土器の口縁部破片。口唇部に刻み。口縁部上端に爪形文列。内面は輪積み痕が残る。PJ51 号住居埋土から同一個体破片 2159 が出土。堂之上 Z 式
1649		PJ-42	口縁部	−	−	−	15.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR3/3	口唇部と口縁部に二又状工具の刺突列。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。器壁は 5mm 厚と薄手。清水ノ上Ⅱ式
1650		PJ-42	口縁部	−	−	−	14.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	口唇部は平坦に面取り。口縁部に二又状工具の刺突。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。器壁は 5mm 厚と薄手。清水ノ上Ⅱ式
1651		PJ-42	口縁部	−	−	−	18.0	破片	10YR6/4 7.5YR6/3	口唇部にヘラ刻み、口縁部に二又状工具の刺突文。内面は指頭圧痕がわずかに残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。器壁は 5mm 以下と薄手。清水ノ上Ⅱ式
1652		PJ-42	胴部	−	−	−	5.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	やや肥厚した口縁部と思われる破片。貝殻腹縁文を斜めに施文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。器壁は 5mm 以下と薄手。上広覧式
1653		PJ-42	口縁部 ～胴部	−	−	−	99.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	胴部外面は斜縄文、下位に条痕文を施文。内面は条痕文。器面は輪積み痕の凹凸が目立つ。胎土に繊維を含む。西日本の早期後半の縄文条痕文土器か。
1654		PJ-42	口縁部	−	−	−	29.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	肥厚した口縁部。下位に縄文地文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神之木式
1655		PJ-42	口縁部	−	−	−	18.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/1	口唇部に沈線。わずかに肥厚した口縁部。下位に縄の側面圧痕文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神之木式
1656		PJ-42	口縁部	(36.0)	−	−	124.0	破片	5YR3/3 5YR3/2	口唇部に竹管先端の刺突。口縁部は竹管押引きと集合沈線文。下位に櫛歯状工具の刺突列。さらに下位を竹管押引文で区画。内面ミガキ調整。胎土に繊維を含まない。諸磯 a 式古段階
1657		PJ-42	口縁部	−	−	−	57.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR7/6	菱形に縄文施文。内面はやや指頭圧痕が残るヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。有尾式

PJ042 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1658		PJ-42	口縁部	−	−	−	43.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	薄くとがった口唇部。やや崩れた羽状縄文。内面は指頭圧痕が顕著に残る。金色雲母と砂粒が目立つ胎土。繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式
1659		PJ-42	口縁部	−	−	−	55.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR5/4	内外面とも指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
1660		PJ-42	胴部～底部	−	−	丸底	52.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR6/6	丸底土器破片。内外面とも指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
1661		PJ-42	口縁部	−	−	−	35.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	外面は指頭の縦ナデ、内面はヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
1662		PJ-42	口縁部～胴部	−	−	−	198.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	口唇部に大きな波長の刻み。斜縄文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。金色雲母が目立つ。諸磯式
1663		PJ-42	口縁部	−	−	−	62.0	破片	5YR3/3 7.5YR3/2	波状口縁。口縁部上端に楕円区画文。波頂部から縦区画沈線。その両脇に竹管押引きの斜線。地文は縄文。内面ヨコナデ。金色雲母が目立つ胎土で、繊維を含まない。諸磯 a 式新段階
1664		PJ-42	口縁部	(23.0)	−	−	100.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR3/6	玉縁状に肥厚する口唇部の直下に太い隆帯。隆帯脇には細密な竹管押引文。下位は磨消縄文の木の葉文。内面はていねいなミガキ調整。諸磯 a 式新段階
1665		PJ-42	口縁部	−	−	−	19.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/2	波状口縁の波頂部に獣面突起。土器破片は摩滅している。諸磯 b 式中段階
1666		PJ-42	口縁部	−	−	−	50.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR5/8	波状口縁の口唇部に沈線と棒状工具の刻み。波頂部から縦区画の沈線が垂下。縄文地文のうえに楕円形の木の葉文。下位は平行沈線。内面はヨコナデミガキ。諸磯 a 式新段階
1667		PJ-42	口縁部	−	−	−	50.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/4	屈曲する口縁部に平行沈線。1665 の獣面突起土器と同一個体か。諸磯 b 式中段階
1668		PJ-42	口縁部～胴部	(14.7)	−	−	148.0	破片	2.5YR4/6 5YR3/3	口縁部に小突起。胴部は結節のある羽状縄文。内面は指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式もしくは諸磯 a 式併行か
1669		PJ-42	口縁部～胴部	(34.0)	−	−	740.0	破片	2.5YR4/6 5YR3/4	ゆるい波長の波状口縁。口縁部に竹管の波縄文。下端を竹管平行沈線で区画し、胴部は斜縄文。内面ヨコナデミガキ。金色雲母が目立つ胎土で、繊維を含まない。諸磯 a 式古段階併行
3056		PJ-42	口縁部～胴部				129.0	破片	5YR4/3 7.5YR4/3	波状口縁。爪形文と縄文で菱形状文様。内面はていねいなミガキ。胎土に繊維を多量に含む。黒浜式
3057		PJ-42	胴部				15.0	破片	7.5YR3/1 5YR4/3	刻み隆帯。赤と黒の彩色が残る。内面ナデミガキ。諸磯式か
3065		PJ-42 1	口縁部～胴部	22.0	−	−	286.0	破片	7.5YR3/2 5YR3/4	波状口縁、キャリパー器形。斜縄文。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を少量含む。有尾式

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0001	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	16.8	10.4	1.9	0.28	凹基、縁辺加工。両面に主剥離面を残し、周縁部のみ加工。黒筋のある透明黒曜石
0002	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	21.4	13.2	4.6	0.83	凹基、片面加工。長軸方向に曲がった剥片素材。器体中央の厚みが減じきれていない。まっすぐ飛ぶとは思えない稚拙なつくり。透明黒曜石
0003	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	19.5	11.8	2.5	0.22	小形、凹基、片面加工。葛湯状の半透明黒曜石
0004	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	19.4	(14.9)	4.0	(0.73)	凹基、両面加工。片脚欠損。透明黒曜石
0005	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	14.9	10.8	2.5	0.24	小形、凹基、両面加工。黒筋のある葛湯状の半透明黒曜石
0006	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	20.3	11.8	3.6	0.55	凹基、両面加工。漆黒に近い黒曜石
0007	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	16.2	11.4	4.7	0.57	小形、凹基、片面加工。長軸方向に曲がった剥片素材。器体中央の厚みが減じ切れていない。まっすぐ飛ぶとは思えない稚拙な作り。漆黒に近いブルーブラック黒曜石
0008	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(20.1)	(11.6)	2.6	(0.42)	凹基、両面加工。細身の優品。両脚欠損。葛湯状の半透明黒曜石
0009	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(18.8)	(12.8)	3.5	(0.62)	凹基、両面加工。先端側から深い押圧剥離。縁辺調整途上の未成品。先端と両脚欠損。灰色筋のある半透明黒曜石。
0010	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	20.1	－	5.0	(0.65)	凹基、両面加工。長軸方向の器体半分を欠損。黒斑の半透明黒曜石
0011	PJ-42　土サンプル④	石鏃	黒曜石	1/1	22.9	14.6	3.3	0.77	凹基、両面加工。片面にわずかに礫面が残る。ていねいな調整の優品。漆黒の黒曜石
0012	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	16.5	14.0	2.4	0.36	凹基、長脚、片面加工。黒斑のある半透明黒曜石
0013	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(16.6)	(12.5)	2.8	(0.36)	凹基、両面加工。両脚欠損。葛湯状の半透明黒曜石
0014	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	3.2	(0.56)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。灰色斑の透明黒曜石
0015	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	17.2	15.1	3.8	0.70	凹基、両面加工、片脚欠損。基部調整が粗い未成品か。漆黒黒曜石
0016	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	18.9	(13.7)	3.3	(0.54)	凹基、両面加工、片脚欠損。未成品。葛湯状の半透明黒曜石
0017	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(14.8)	(14.3)	2.9	(0.40)	凹基、長脚、両面加工。片脚欠損。黒筋のある半透明黒曜石
0018	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	18.5	－	4.7	(0.94)	両面加工、基部欠損。片面に礫面、片面に主剥離面が残る。調整が粗く未成品。黒斑のある葛湯状半透明黒曜石
0019	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	2.9	(0.48)	凹基、両面加工、細身。先端と片脚欠損。黒筋のある透明黒曜石
0020	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	11.8	(15.7)	3.4	(0.58)	凹基、両面加工。片脚欠損。白斑のある漆黒黒曜石
0021	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	19.7	13.0	3.7	0.57	凹基、両面加工、細身。縁辺調整が粗い未成品。黒色半透明黒曜石
0022	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(15.4)	(12.5)	3.0	(0.29)	小形、凹基、両面加工。小さいがていねいなつくりの優品。透明黒曜石
0023	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	15.0	11.5	3.0	0.28	小形、凹基、両面加工。小さいがていねいなつくりの優品。白筋のある漆黒黒曜石
0024	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(14.0)	(10.9)	3.3	(0.27)	小形、凹基、片面加工。両脚欠損。葛湯状半透明黒曜石
0025	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	19.9	11.2	3.3	0.47	凹基、両面加工、細身。灰色斑の透明黒曜石
0026	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	15.6	13.0	2.4	0.31	凹基、片面加工。脚の長さが左右不揃い。葛湯状半透明黒曜石
0027	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(15.6)	－	2.9	(0.46)	凹基、両面加工。片脚欠損。調整はていねい。先端部が尖りきっていない未成品。葛湯状半透明黒曜石
0028	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(13.1)	(8.9)	1.6	(0.12)	小形、凹基、片面加工。片脚欠損。透明黒曜石
0029	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	17.5	13.9	2.4	0.30	凹基、両面加工。透明黒曜石
0030	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	15.6	(13.7)	2.2	(0.28)	凹基、両面加工。片脚欠損。黒筋のある透明黒曜石
0031	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(12.4)	(16.3)	2.7	(0.37)	凹基、両面加工。先端欠損。黒筋のある半透明黒曜石
0032	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	24.6	(15.3)	3.5	(0.85)	凹基、両面加工。片脚欠損。大形でつくりがていねいな優品。葛湯状半透明黒曜石
0033	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	20.5	13.1	4.5	0.79	凹基、両面加工。片脚欠損。黒筋のある黒色半透明黒曜石
0034	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	17.9	11.9	2.6	0.27	凹基、両面加工、細身。透明黒曜石
0035	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	17.6	14.3	4.8	1.02	凹基、両面加工。片面に礫面が残る。調整粗く、両脚の太さが不揃いの未成品。漆黒黒曜石
0036	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(16.5)	(10.8)	3.0	(0.34)	凹基、両面加工。両脚欠損。漆黒黒曜石

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
0037	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	18.3	14.2	3.1	0.53	凹基、両面加工。片面の縁辺調整は細かく、反対面は縁辺の仕上げ調整なし。黒色半透明黒曜石
0038	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	21.8	15.8	4.5	1.38	未成品。わずかに礫面が残る。先端側が分かる程度の形状まで成形。漆黒黒曜石
0039	PJ-42　土サンプル④	石鏃	黒曜石	1/1	15.5	11.2	3.7	0.40	凹基、片面加工。葛湯状半透明黒曜石
0040	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	20.0	16.9	2.9	0.58	凹基、両面加工。やや大きな優品。葛湯状斑の透明黒曜石
0041	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	22.1	(11.4)	2.7	(0.37)	凹基、両面加工。細身。片脚欠損。ていねいなつくりの優品。漆黒黒曜石
0042	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(21.0)	(18.4)	3.2	(0.48)	凹基、両面加工。細身。両脚欠損。黒筋のある透明黒曜石
0043	PJ-42	石錐	チャート	1/2	－	－	7.0	(2.10)	赤色チャート。石鏃折損品のような形状。先端部に使用痕。
0044	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	23.5	14.1	3.4	0.74	凹基、両面加工。細身。基部の調整が粗く、未成品か。黒斑の透明黒曜石
0045	PJ-42	石錐	チャート	1/1	22.3	15.0	7.5	2.27	黒筋のある青灰色チャート。石鏃折損品のような形状。
0046	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	14.7	17.3	2.6	0.29	凹基、両面加工。ていねいなつくりの優品。黒斑の半透明黒曜石
0047	PJ-42	石錐	珪質頁岩	3/4	(27.1)	16.3	6.0	(1.58)	小さな石槍のような形状。先端欠損か。青灰色の珪質頁岩
0048	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	13.4	14.8	3.3	0.50	未成品。小形､両面加工。かろうじて先端側､基部側が分かる程度に成形。
0049	PJ-42	石鏃	チャート	1/1	29.3	13.6	4.2	1.31	凹基、両面加工、細身。やや厚手だが優品。青灰色斑のチャート
0050	PJ-42	石鏃	チャート	1/1	19.9	12.4	2.7	0.43	凹基、両面加工。ていねいなつくりの優品。すりガラス調のチャート
0051	PJ-42	石鏃	珪質頁岩	3/4	(22.7)	13.8	2.8	(0.66)	凹基、両面加工。先端欠損。ていねいなつくりの優品。白色の珪質頁岩
0052	PJ-42	石鏃	チャート	1/1	20.6	13.9	4.0	0.75	凹基､両面加工。やや厚手だが優品。49 と同一母岩か。青灰色斑のチャート
0053	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	22.6	(16.2)	4.1	(0.77)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。大形の優品。黒筋のある透明黒曜石
0054	PJ-42	石匙	頁岩	1/1	28.0	33.0	4.0	4.70	きなこ状に風化した頁岩
0055	PJ-42	石匙	珪質頁岩	3/4	28.0	43.0	10.0	10.60	つまみ部欠損。抉りがちいさなつまみか。刃部に対してつまみがやや斜め。器体は三角形。主剝離面に掻器状の刃部調整。左側縁、右側縁とも使用痕のある素刃。3 辺複刃。白筋のある青灰色珪質頁岩
0056	PJ-42	石匙	珪質頁岩	3/4	21.0	21.0	4.0	1.39	ミニチュア石匙。刃部は素材剝片を折り取ったのみ。青灰色珪質頁岩
0057	PJ-42	石匙	珪質頁岩	3/4	33.0	42.0	80.0	12.20	刃部左側欠損。つまみ部は幅広。刃部はやや湾曲。主剝離面に掻器状の刃部調整。単刃。白筋のある青灰色珪質頁岩
0058	PJ-42	石匙	珪質頁岩	1/2	－	－	－	3.80	刃部のみの破片。掻器状の急傾斜の刃部。白筋のある灰色珪質頁岩。搬入石器か
0059	PJ-42	石匙	頁岩	3/4	50.0	40.0	12.0	28.80	粗製大形の石匙。器体右側を大きく欠損。刃部と体部左側縁に両面調整の刃部。複刃。きなこ状に風化した頁岩
0060	PJ-42	石匙	安山岩	3/4	54.0	75.0	7.0	28.50	黒色緻密安山岩製。器体の右側縁欠損。素材剝片が湾曲するため刃部も湾曲。
0061	PJ-42	石匙	チャート	1/1	25.0	39.0	7.0	4.90	黒筋のある灰色チャート
0062	PJ-42	石匙	珪質頁岩	3/4	23.0	42.0	3.5	3.30	器体が横に長く、ちいさなつまみ。灰色珪質頁岩。搬入石器か
0063	PJ-42	石匙	頁岩	1/1	36.0	54.0	6.0	10.80	つまみ部に対して刃部が平行につく。上辺は折り取り。きなこ状に風化した頁岩
0064	PJ-42	石匙	頁岩	3/4	33.0	57.0	7.5	11.80	つまみ部が欠損。左右側縁は鋸歯縁状に両面加工。きなこ状に風化した頁岩
0065	PJ-42　19	石匙	チャート	1/1	27.0	46.0	6.0	7.50	赤色チャート製
0066	PJ-42	石匙	チャート	1/1	35.0	43.0	9.0	10.00	細長いつまみ。刃部外湾。主剝離面に掻器状の刃部調整。単刃。黒筋のある灰色チャート
0067	PJ-42	石匙	チャート	3/4	33.0	35.0	7.5	10.20	赤色チャート製。体部右側欠損。
0068	PJ-42	石匙	珪質頁岩	3/4	36.0	42.0	10.0	14.70	未成品。幅広いつまみ。体部左右側縁を欠損。表裏から交互に刃部調整剝離。刃部調整の初期段階で廃棄か。白筋のある青灰色珪質頁岩
0069	PJ-42	石匙	頁岩	1/1	28.0	37.0	7.0	4.30	裏面は平坦な節理面。灰白色でやや粗粒な珪質頁岩
0070	PJ-42	石匙	珪質頁岩	1/1	30.0	43.0	8.5	8.20	掻器状の急傾斜な刃部。斑のある灰色珪質頁岩

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0071	PJ-42	石匙	珪質頁岩	1/1	22.0	12.0	4.0	1.28	ミニチュア石匙。刃部に対し斜めにつまみ。白筋のある暗灰色珪質頁岩
0072	PJ-42	石匙	頁岩	3/4	53.0	31.0	8.0	12.50	刃部側が節理面で大きく欠損。刃部に対し幅広のつまみが斜めになるか。きなこ状に風化した頁岩
0073	PJ-42	石匙	珪質頁岩	3/4	31.0	42.0	10.0	12.00	未成品。表面に自然面が残る剥片素材。刃部調整の初期段階で欠損、廃棄か。白筋のある灰色珪質頁岩
0074	PJ-42	石匙	珪質頁岩	－	23.0	28.0	10.0	6.10	未成品か。つまみ部のみの破片。明灰色の珪質頁岩。刃部側は節理面で欠損か。
0075	PJ-42	石錐	チャート	1/1	34.0	25.0	6.0	7.00	打面に自然面が残る剥片素材。茶色斑のある青灰色チャート
0076	PJ-42	石錐	頁岩	1/1	35.0	20.0	15.0	7.10	細長く尖った錐部をていねいに加工。きな粉状に黄色く風化した頁岩
0077	PJ-42	石錐	珪質頁岩	3/4	27.0	19.0	2.5	1.00	薄い剥片素材から細長い錐部をていねいに加工。先端部欠損。暗灰色の珪質頁岩
0078	PJ-42	石鏃	珪質泥岩	1/1	35.0	25.0	7.0	6.80	未成品。節理面で割れた剥片素材の周縁部を加工。基部側に節理面の割れ。基部は未加工。灰色の珪質頁岩
0079	PJ-42	両極石器	珪質頁岩	3/4	27.0	26.0	9.0	6.20	残核状の厚い素材の両端に衝撃剥離。白筋のある青灰色珪質頁岩
0080	PJ-42	抉入石器	チャート	－	20.0	19.0	8.0	2.40	赤色チャート。一辺を押圧剥離して抉り部を作出。
0081	PJ-42	剥片	頁岩	－	26.0	20.0	9.0	2.90	プラスチックかと見まがうような明るい黄色の不透明な頁岩。やや軟質な手触りで軽い。搬入石材
0082	PJ-42	剥片	泥岩	3/4	49.0	71.0	10.0	35.00	明るい緑灰色の泥岩。円礫面が残る剥片。搬入石材か
0083	PJ-42	剥離のある剥片	珪質頁岩		33.0	29.0	6.0	7.10	やや明るい灰色の珪質頁岩剥片。一辺に刃こぼれ。搬入石材
0084	PJ-42	剥離のある剥片	頁岩		46.0	51.0	16.0	43.30	厚い剥片素材の打点側に調整剥離。薄い側縁にも調整剥離。きなこ状に黄色く風化した頁岩
0085	PJ-42	素刃削器	頁岩	1/1	71.0	74.0	19.0	97.30	円礫面がある不整形剥片の薄い一辺に抉りと微小な剥離。青灰色の頁岩
0086	PJ-42	素刃削器	珪質頁岩	1/1	41.0	50.0	10.0	19.00	不整形剥片の薄い一辺に刃こぼれ。灰色と青灰色の斑の珪質頁岩
0087	PJ-42	素刃削器	頁岩	1/1	47.0	40.0	13.0	30.60	厚い剥片素材の一辺を表裏から剥離し、鋸歯縁を作出。素材形状は 84 によく似ている。きなこ状に黄色く風化した頁岩
0088	PJ-42	素刃削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	37.0	77.0	14.0	35.80	亜円礫面が残る剥片の薄い一辺に刃こぼれ。
0089	PJ-42	剥片	緑色岩	1/1	75.0	62.0	19.0	95.40	亜円礫面が残る剥片。磨製石斧と同じ緑色岩
0090	PJ-42	礫器	頁岩	1/1	81.0	101.0	27.0	273.60	亜円礫面が残る厚い剥片素材の縁辺部を全周にわたって剥離し、亀甲羅のような円形の形状に調整。縁辺部には若干の敲打つぶれあり。
0091	PJ-42　3	礫器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	54.0	113.0	35.0	225.90	亜円礫面と節理面がある厚い剥片素材の薄い一辺に若干の調整剥離。
0092	PJ-42	礫器	砂岩	1/1	108.0	71.0	49.0	425.60	亜円礫面と節理面がある厚い素材の薄い二辺に刃部。一辺には敲打によるつぶれあり
1968	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	53.0			47.50	緻密な石質と多孔質な石質が混じりあった角礫ズリ。漆黒の黒曜石
1969	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	37.0			22.60	一発コア。なめらかな円礫面がある。灰色斑の半透明黒曜石
1970	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	36.0			32.90	角礫ズリ。黒色で透明感がある黒曜石
1971	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	39.0			10.20	転石ズリ面が大きく残る剥片を片面から調整剥離。粒状の白色夾雑物がぽつぽつと混じる黒色半透明の黒曜石。石鏃ブランクか
1972	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	34.0			13.90	一発コア。水磨を受けた角礫原石。黒色半透明の黒曜石
1973	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	33.0			21.80	風化した剥離面に囲まれた原石。灰色斑のある黒色半透明の黒曜石
1974	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	46.0			28.30	角礫ズリ。被熱し縁辺の一部が発泡。黒色系半透明黒曜石
1975	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	31.0			10.80	角礫ズリ。表面がざらつく。被熱しているか。黒色系半透明黒曜石
1976	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	34.0			16.20	一発コア。角礫ズリ。被熱し縁辺の一部が発泡。黒色系半透明黒曜石
1977	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	53.0			18.30	角礫ズリ。灰色縞のある黒色系半透明黒曜石
1978	PJ-42	石核	黒曜石	1/1	48.0			16.20	角礫ズリ。数面の剥離あり。黒色系半透明黒曜石
1979	PJ-42	石核	黒曜石	1/1	42.0			11.00	角礫ズリ。数面の剥離あり。黒色系で透明度の高い黒曜石
1980	PJ-42	砕片	黒曜石	1/1	50.0			14.20	白色の夾雑物が多い。表面がざらつき、被熱したか。黒色系で透明度の高い黒曜石

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
1981	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	40.0			8.10	風化した剥離面で囲まれる。白色の夾雑物が非常に多い。黒色系半透明黒曜石
1982	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	35.0			8.70	一部に風化した剥離面状の原石面が残る。くもりガラス状の表面観。黒色系半透明黒曜石
1983	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	26.0			7.20	角礫ズリ。黒色系半透明黒曜石
1984	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	22.5	16.2	8.0	1.98	稜が残る剥片素材の片側を全面調整。稜のある面はわずかに剥離したのみ。石鏃未成品か。透明な黒曜石
1985	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	22.0			1.80	親指爪大の剥片に調整剥離。灰色夾雑物が混じる透明黒曜石
1986	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	15.7	14.2	1.7	0.38	非常に薄い剥片の縁辺に調整剥離。石鏃未成品か。黒縞のある透明黒曜石
1987	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/6				(0.22)	凹基、片脚のみの破片。黒縞のある半透明黒曜石
1988	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	58.0			53.10	角礫ズリ面1面と風化した剥離面5面に囲まれた原石。黒色でやや透明感のある黒曜石
1989	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	75.0			54.40	角礫ズリ。白筋がある漆黒黒曜石
1990	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	41.0			29.60	角礫ズリ。透明感のある黒色系黒曜石
1991	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	40.0			19.50	角礫ズリ。黒色系半透明黒曜石
1992	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	29.0			12.30	角礫ズリ。被熱、発泡。やや灰色がかった黒色系半透明黒曜石
1993	PJ-42	石核	黒曜石	1/1	42.0			17.50	角礫ズリ。縞のある黒色系半透明黒曜石
1994	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	36.0			14.50	角礫ズリ。黒色系半透明黒曜石
1995	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	34.0			11.60	打面に礫面が残る剥片。端部折り取り。薄い側縁に微小剥離あり。暗褐色斑入りの黒曜石
1996	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	40.0			12.20	角礫ズリ。縞がありやや透明感のある黒色系黒曜石
1997	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	40.0			10.10	すりガラス状の水磨のある礫面と風化した剥離面で囲まれた原石。黒色系半透明黒曜石
1998	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	32.0			10.60	一発コア。角礫ズリ。白縞のある漆黒黒曜石
1999	PJ-42	石核	黒曜石	1/1	39.0			10.30	風化した剥離面状の礫面。片縁に衝撃剥離。透明感のある黒色系黒曜石
2000	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	57.0			9.60	風化した剥離面状の礫面。全体に細かなひび割れが生じている。濁りのある黒色系半透明黒曜石
2001	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	35.0			10.20	一発コア。角礫ズリ。透明感のある黒色系黒曜石
2002	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	31.0			8.70	一発コア。角礫ズリ。やや透明感のある黒色系黒曜石
2003	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	20.0			5.20	角礫ズリ。一発コア。被熱、発泡。透明感のある黒色系黒曜石
2004	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	26.0			4.00	角礫ズリ。
2005	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	38.0			6.80	角礫ズリ。白色夾雑物がある漆黒黒曜石
2006	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	39.0			9.60	角礫ズリ。透明感がある黒色系黒曜石
2007	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	33.0			9.70	礫面が残る調整剥片。透明感のある黒色系黒曜石
2008	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	24.0			3.87	未成品。礫面が残る。縁辺部に調整剥離。一辺が大きく折れ。白斑の漆黒黒曜石
2009	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	25.0			3.10	礫面が残る剥片の縁辺を調整。透明感のある黒色系黒曜石
2010	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	26.5	22.2	10.5	4.59	未成品。周縁部全体から調整剥離。まだ素材の厚みが残り、先端側が判別できる段階。黒色系半透明黒曜石
2011	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	22.0			2.50	縁辺に調整剥離。片辺が折れ。黒斑のある透明黒曜石
2012	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	25.0			2.20	剥片の一辺のみに調整剥離。縞のある半透明黒曜石
2013	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	33.0			5.00	角礫ズリ。
2014	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	22.0			1.22	未成品。両面加工。基部が大きく欠損。ブルーブラック系半透明黒曜石
2015	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	18.0			2.00	角礫ズリ。縞のある黒曜石
2016	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	17.0			0.86	未成品。片面加工。基部が大きく欠損。葛湯状半透明黒曜石

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2017	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	20.2	15.2	3.8	0.90	未成品。両面加工。片側が大きく欠損。黒縞のある透明黒曜石
2018	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	18.0			0.75	未成品。片面に礫面が残る。周縁加工のみ。基部が大きく欠損。黒斑の透明黒曜石
2019	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	37.0			34.10	風化した剥離面状の礫面に囲まれる。漆黒黒曜石
2020	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	38.0			18.20	角礫ズリ。漆黒黒曜石
2021	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	35.0			18.30	水磨のある礫面。黒色系半透明黒曜石
2022	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	40.0			4.60	角礫ズリ。板状。黒色系半透明黒曜石
2023	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	33.5	27.7	14.5	9.03	未成品。角礫ズリ面が残る素材の縁辺に調整剥離。素材の厚みが 16mm も残る段階。形状から石鏃未成品と判断。漆黒黒曜石
2024	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	33.0			18.70	一発コア。角礫ズリ。黒色系半透明黒曜石
2025	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	35.0			13.40	角礫ズリ。縞状に節理面が入る黒曜石
2026	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	34.0			12.20	水磨のある礫面。一発コア。葛湯状の黒色系半透明黒曜石
2027	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	26.0			5.30	礫面が残る剥片素材。灰色夾雑物がある暗褐色斑の黒曜石
2028	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	23.5	19.2	5.4	1.67	未成品。凹基、片面加工。基部が欠損。灰色夾雑物が混じる透明黒曜石
2029	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	2.2	(0.32)	凹基、片面加工。先端と片脚欠損。透明黒曜石
2030	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/8				(0.15)	先端のみの破片。透明黒曜石
2031	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/3	−	−	3.6	(0.42)	両面加工。先端のみの破片。ていねいなつくりの優品。黒斑のある透明黒曜石
2032	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	−	−	4.0	(0.82)	両面加工。先端のみの破片。ていねいなつくりの優品。透明黒曜石
2033	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	21.5	16.7	4.5	1.36	未成品。素材剥片の打点側を基部とし、周縁加工。体部中心に及ぶ剥離は全くない。葛湯状の半透明黒曜石
2034	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	20.4	(10.7)	2.8	(0.44)	凹基、両面加工。片脚欠損。細身。透明黒曜石
2035	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	(21.7)	20.1	4.5	1.20	未成品。両面加工。基部が大きく欠損。白斑のある漆黒黒曜石
2036	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	15.7	−	3.5	(0.39)	小形、凹基、片脚欠損。表面がすりガラス状で被熱したか。透明黒曜石
2037	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(18.1)	(13.5)	3.1	(0.51)	凹基、両面加工。両脚欠損。縞のある透明黒曜石
2038	PJ-42	掻器	黒曜石	1/1	25.0	20.0	8.0	3.00	礫面と風化剥離面のある拇指状掻器。透明黒曜石
2039	PJ-42　土サンプル④	石錐	黒曜石	1/1	19.0	9.0	4.0	0.50	小さな石錐。つまみ部がない二等辺三角形。先端部に微小剥離。葛湯状半透明黒曜石
2040	PJ-42	石鏃	黒曜石	−				(0.16)	先端部のみの小破片。黒縞のある透明黒曜石
2041	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	19.0	15.7	6.7	1.33	未成品。片脚欠損。まだ素材の厚みが残る。透明黒曜石
2042	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	17.3	14.5	4.4	1.07	未成品。凹基。先端と片側縁欠損。透明黒曜石
2043	PJ-42	石錐	黒曜石	1/2				1.02	すりガラス状の剥片に細長い刃部を整形。先端部に磨滅あり。半透明黒曜石
2044	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	18.0	14.5	3.3	0.71	未成品。薄い剥片の縁辺のみ加工。透明黒曜石
2045	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	21.6	−	7.4	(1.71)	未成品。両面加工。基部が欠損。素材の厚みが残る。黒斑の葛湯状半透明黒曜石
2046	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	26.4	13.3	5.0	1.60	未成品。礫面が残る剥片素材の周縁部を調整。透明黒曜石
2047	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	18.9	−	3.2	(0.65)	未成品か。片脚欠損。基部調整が未了か。黒縞のある半透明黒曜石
2048	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	52.0			23.50	角礫ズリ。葛湯状半透明黒曜石
2049	PJ-42	石核	黒曜石	1/1	35.0			20.30	角礫ズリ。漆黒黒曜石
2050	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	34.0			17.30	水磨のある角礫。灰色夾雑物が混じる半透明黒曜石。球顆が抜けた穴あり
2051	PJ-42	石核	黒曜石	1/1	33.0			8.70	角礫ズリ。黒斑の半透明黒曜石
2052	PJ-42	原石	黒曜石	1/1	33.0			11.20	角礫ズリ。赤褐色斑入りのやや透明感のある黒色系黒曜石
2053	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	26.0			3.70	礫面が残る砕片の一辺に掻器状の刃部調整。白色夾雑物が目立つ黒色系半透明黒曜石

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2054	PJ-42	原石	黒曜石		34.0			9.70	角礫ズリ。透明黒曜石
2055	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	30.0			6.00	風化した礫面がある砕片の一辺に調整剥離。葛湯状の半透明黒曜石
2056	PJ-42　12	原石	黒曜石		35.0			12.70	角礫ズリ。白筋のある漆黒黒曜石
2057	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	35.0			6.60	角礫ズリ面が残る剥片の表裏、縁辺に調整剥離し三角形の形状をつくる。石鏃ブランクか。ブルーブラック黒曜石
2058	PJ-42	剥離のある剥片	チャート	1/1	22.0			3.80	三角形の平面形、断面に稜が残る剥片の縁辺を加工。石鏃ブランクか。黒筋のある灰色チャート
2059	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	20.3	15.2	5.6	(1.10)	凹基、両面加工。片脚欠損。先端部に夾雑物があり、そこで欠損。黒斑の半透明黒曜石
2060	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	17.7	13.6	3.9	0.76	未成品。周縁部のみ加工。黒斑の半透明黒曜石
2061	PJ-42	両極石器	黒曜石	1/1	26.0	15.0	7.0	2.70	稜がある厚い砕片の両端に衝撃剥離。やや濁りのある透明黒曜石
2062	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	15.0	－	2.4	(0.26)	未成品。小形。周縁加工。漆黒黒曜石
2063	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	－	18.3	3.3	(1.01)	凹基、両面加工。先端欠損。被熱。漆黒黒曜石
2064	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	20.1	12.4	3.6	0.72	凹基、両面加工。基部欠損。湾曲した剥片素材。漆黒黒曜石
2065	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	16.4	(11.3)	3.5	(0.48)	両面加工。先端部のみの破片。灰色筋と夾雑物のあるブルーブラック黒曜石
2066	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	15.3	－	2.0	(0.28)	小形、凹基、両面加工。片脚欠損。黒縞のある半透明黒曜石
2067	PJ-42	石鏃	黒曜石	－	－	－	2.4	(0.21)	両面加工。先端部のみの破片。透明黒曜石
2068	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	2.8	(0.43)	凹基、両面加工。先端と片脚欠損。透明黒曜石
2069	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	－	12.9	2.4	(0.20)	凹基。両面加工。先端側が大きく欠損。透明黒曜石
2070	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(20.7)	(11.7)	4.0	(0.62)	凹基、両面加工。細身。両脚欠損。葛湯状半透明黒曜石
2071	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	－	17.0	3.1	(0.42)	凹基、両面加工。先端側が大きく欠損。黒斑透明黒曜石
2072	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	25.6	－	3.7	(0.91)	凹基、両面加工。片脚欠損。透明黒曜石
2073	PJ-42	石錐	黒曜石	1/1	25.0	12.0	8.0	1.60	礫面が残る断面三角形の砕片の尖端に刃部。基部側に若干の調整剥離。葛湯状半透明黒曜石
2074	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	19.6	15.6	2.6	0.80	未成品。剥片素材の片面と裏面周縁のみを加工。透明黒曜石
2075	PJ-42	両極石器	黒曜石	1/1	22.0	14.0	8.0	2.20	厚手の不整形砕片の両端に衝撃剥離。黒斑の半透明黒曜石
2076	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2				2.32	未成品。先端、基部が分からない程度の成形段階。黒筋半透明黒曜石
2077	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	2.2	(0.31)	凹基、両面加工。両脚欠損。ていねいなつくりの優品。葛湯状半透明黒曜石
2078	PJ-42	打製石斧	頁岩	1/2	99.0	62.0	26.0	195.70	基部欠損。刃部に土ずれ痕。側縁は節理面で折損。きなこ状に風化した頁岩
2079	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2				1.03	未成品。凹基。基部、片脚欠損。輪郭形状が分かる段階。透明黒曜石
2080	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.20	縦長剥片の長辺一辺に刃部調整剥離。黒斑がある透明黒曜石
2081	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.60	縦長剥片の長辺一辺に刃こぼれ。縞のある葛湯状透明黒曜石
2082	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2				0.65	未成品。両面加工。先端側が大きく欠損。葛湯状半透明黒曜石
2083	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	21.4	17.1	6.2	1.76	未成品。稜が残る剥片素材。先端側で調整が進んでいて、基部、脚部側は未加工。縞のある葛湯状半透明黒曜石
2084	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	34.0	24.0	13.7	7.66	未成品。礫面が残る厚手の板状素材から石鏃ブランクになる段階で廃棄。先端側の調整が進んでいるが、器体中央に素材の厚みが残る。白筋のある漆黒黒曜石
2085	PJ-42	石錐	黒曜石	1/1	35.0	17.0	10.0	3.60	不整形剥片素材から尖った刃部を作出。つまみ側は若干の調整剥離。先端に磨耗と線条痕。透明黒曜石
2086	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	－	17.0	5.4	(1.62)	未成品。両面加工。先端側が大きく欠損。おおまかな形状ができた段階。透明黒曜石
2087	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	21.5	18.5	5.8	2.23	未成品。剥片素材の縁辺のみを加工。先端に素材の厚みが残る。黒縞の透明黒曜石
2088	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2				0.69	未成品。薄い剥片素材の縁辺を加工。黒斑の透明黒曜石

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2089	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	29.0	12.4	3.5	1.42	未成品。剥片素材の片面のみを調整。長軸方向で折損。縞のある灰色がかった半透明黒曜石
2090	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	22.9	17.2	4.6	1.39	未成品。剥片素材。基部が大きく欠損。透明黒曜石
2091	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石		19.0			0.80	剥片の片面一辺のみに掻器状の調整剥離
2092	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	23.5	17.1	6.8	2.07	未成品。両面加工。基部に素材の厚みが残り廃棄か。縞のある透明黒曜石
2093	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	27.0	25.0	9.0	5.70	石鏃ブランクか。やや厚みのある剥片素材の薄い縁辺に両面から調整剥離。葛湯状半透明黒曜石
2094	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				5.60	石鏃ブランクか。厚みのある素材の縁辺に両面から調整。縞のある半透明黒曜石
2095	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	33.6	22.0	10.4	6.71	未成品。両面加工。夾雑物と節理が多い低品質素材。黒斑の半透明黒曜石
2096	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				4.30	厚みのある砕片の一辺に両面から調整剥離。葛湯状半透明黒曜石
2097	PJ-42	石錐	黒曜石	1/1	33.0	18.0	11.0	4.10	つまみ部を表裏から調整剥離し、きれいな円形に仕上げ。錐先端部は尖っておらず、未成品か。透明黒曜石
2098	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/2	22.0			1.00	礫面が残る薄い剥片素材の 2 辺に調整剥離。削器のような刃部。白筋のある漆黒黒曜石
2099	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	17.6	16.8	4.4	1.21	未成品。両面加工。なんとなく先端、基部が分かる程度の成形段階。白筋のある漆黒黒曜石
2100	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	(20.6)	−	3.2	(0.62)	未成品。片面加工。基部が大きく欠損。漆黒黒曜石
2101	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	16.5			0.73	未成品。両面加工。器体半分が欠損。黒斑の半透明黒曜石
2102	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	25.0			1.90	礫面が残る湾曲した剥片の長軸側一辺に掻器刃部のような調整剥離。透明黒曜石
2103	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	19.5			1.03	未成品。両面加工。先端、基部が分からない段階。葛湯状曇りのある透明黒曜石
2104	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	14.8			1.06	未成品。両面加工。先端欠損。黒斑の半透明黒曜石
2105	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	22.7	−	3.2	(0.52)	凹基、長脚、両面加工。片脚欠損。器面がすりガラス状。被熱か。黒斑の半透明黒曜石
2106	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	21.5	19.0	3.0	1.41	未成品。素材面が大きく残る周縁調整段階。先端側？欠損。縞のある透明黒曜石
2107	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	19.0	16.8	3.9	1.08	未成品。素材面が大きく残る周縁調整段階。側縁欠損。黒斑の透明黒曜石
2108	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	22.1	13.8	4.3	0.96	未成品。片面加工。断面三角形の剥片素材。基部欠損。白色節理面がある葛湯状半透明黒曜石
2109	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.20	礫面が残る断面三角形の石刃状剥片。打点側折れ。長軸側の一辺に微小な剥離。透明黒曜石
2110	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	19.6	13.7	4.9	1.17	未成品。素材面が表裏に残る剥片素材。周縁加工のみ。透明黒曜石
2111	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	20.8	11.7	2.6	0.49	未成品。やや湾曲した剥片素材の周縁を表裏から加工。基部が大きく欠損。透明黒曜石
2112	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	22.2	17.5	4.4	1.45	未成品。剥片素材。片面加工。基部欠損。透明黒曜石
2113	PJ-42	石錐	珪質頁岩	1/1	34.0	35.0	4.0	4.50	礫面が残る剥片素材。広いつまみ部。細長く尖った先端部は丹念に加工。先端わずかに磨耗。明灰色の珪質頁岩。搬入石材か。
2114	PJ-42　土サンプル③	異形石器	黒曜石	3/4	15.0	17.0	3.0	0.40	三又に分かれた異形石器。一ヶ所先端欠損。透明黒曜石
2115	PJ-42　土サンプル③	石鏃	黒曜石	1/1	11.7	12.4	2.4	0.18	小形、凹基、両面加工。片脚先端がわずかに欠損か。透明黒曜石
2116	PJ-42	石匙	黒曜石	1/1	32.0	11.0	3.0	1.05	ミニチュア石匙。やや湾曲した細長い横長剥片素材の中央に抉り。刃部調整なし。器面がすりガラス状。被熱か。透明黒曜石
4937	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/2	25.1	21.0	9.8	2.92	未成品。片面加工。断面三角形の素材の片面に器体中央に及ぶ押圧剥離で石鏃形状を作出。基部折れ。礫面が残る。素材の厚みが残る。黒斑の透明黒曜石
4938	PJ-42	石鏃	黒曜石	3/4	(23.5)	−	4.8	(0.93)	凹基、片面加工。片脚欠損。黒縞の半透明黒曜石

PJ042 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
4939	PJ-42	石鏃	黒曜石	－	－	－	2.3	(0.18)	小形、凹基、片面加工。先端、片脚欠損。透明黒曜石
4940	PJ-42	石錐	黒曜石	1/1	21.0	11.0	5.0	0.80	礫面が残る断面三角形の砕片素材。細長い先端部を作出。先端に磨滅痕あり。つまみ部は素材形状のまま。漆黒黒曜石
4941	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/2	26.0			2.20	剥片素材の片面周縁に調整。器体半分が欠損。石鏃ブランクか。白筋のある漆黒黒曜石
4942	PJ-42	石鏃	黒曜石	1/1	20.3	15.6	5.5	1.25	未成品。周縁加工。先端？欠損。灰色斑の透明黒曜石
4943	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石		19.5			0.40	剥片素材の抉れた一辺に調整剥離。透明黒曜石
4944	PJ-42	剥離のある剥片	黒曜石	1/2	16.0			0.40	小さな剥片の片面のみ調整剥離。石鏃未成品か。黒斑の透明黒曜石

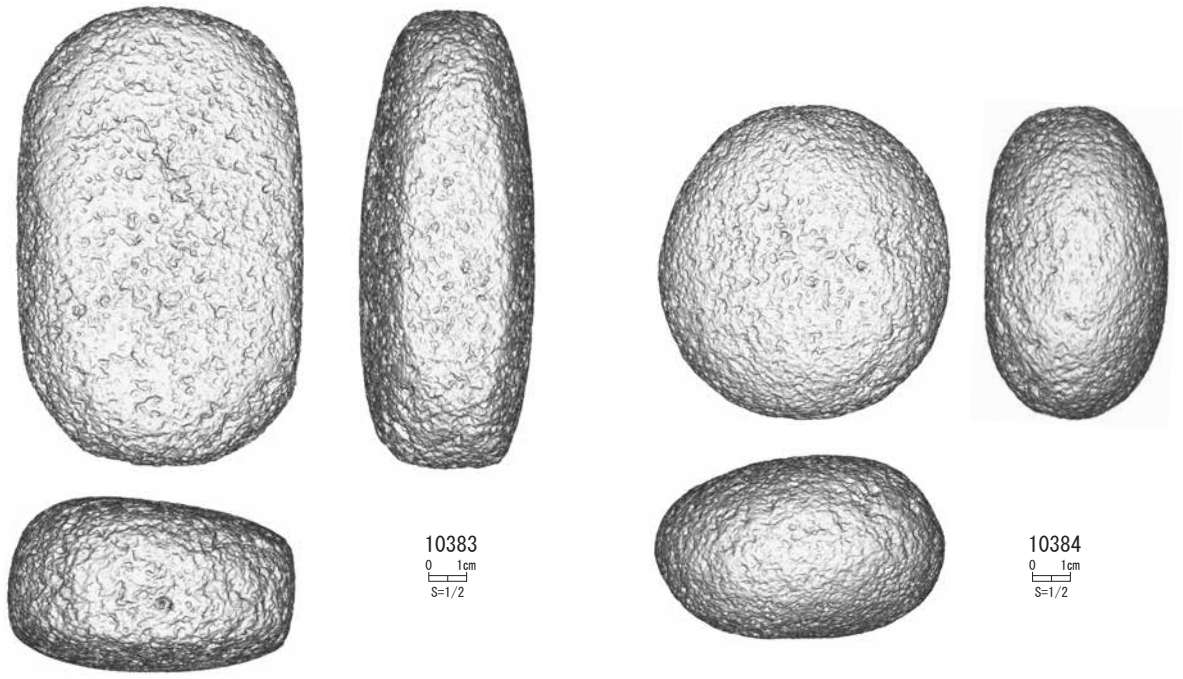
PJ042 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(cm)	現存幅(cm)	現存厚(cm)	重量(g)	観察所見
8392	PJ-42	礫器	砂泥交互	1/1	10.2	10.2	5.4	665.50	粗大な礫の丸ノミ状に湾曲した縁辺に剥離とつぶれ。
8393	PJ-42	礫器	砂泥交互	1/1	10.0	11.3	5.4	684.80	粗大な礫の薄い縁辺に鋸歯縁状の剥離
10005	PJ-42 15	台石	安山岩類	3/4	41.9	(28.5)	11.2	17,900	PT838 号ピット脇の床面出土。扁平円礫。作業面は平坦な一面で敲打痕。磨滅なし。多孔質な安山岩
10006	PJ-42 16	台石	礫岩類	1/1	33.8	53.2	13.0	32,500	PT847 号ピット脇の床面出土。花崗岩質礫岩の扁平亜円礫。石皿のような凹みがある面に顕著な磨滅。裏面は平坦でやや磨滅。
10007	PJ-42 17	台石	安山岩類	1/1	45.1	34.2	12.0	26,700	住居南西角の床面出土。扁平円礫。表裏面はやや凸面で、ともに磨滅あり。被熱し表面の一部が破砕。やや緻密な安山岩
10008	PJ-42 18	台石	安山岩類	1/1	78.3	54.6	17.0	60000 以上	PT817 脇の床面出土。巨大な扁平円礫。表裏がやや磨滅。重大で正確な重量が測定できなかったが、60kg 以上ありそう。多孔質な安山岩
10322	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/1	12.3	8.9	5.3	767	楕円形。やや扁平。両面に磨り面、敲打凹み。一側面は稜磨石状。長軸両端と側面に敲打痕。
10323	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/1	9.6	8.1	5.8	542	楕円形。両面に敲打凹み。磨り面は未発達で器面はざらつく。多孔質の石質
10324	PJ-42　6	磨石類	安山岩類	1/1	12.7	6.5	4.2	522	北西壁沿い、床面から 5cm 浮いて出土。細長い石鹸型。片面は平坦に磨り減り平滑。長軸側面は稜磨石状。やや緻密な石質
10325	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/1	8.0	6.4	4.3	309	楕円形。片面に磨り面発達。両面 1 ヶ所ずつに敲打凹み。長軸両側面に敲打痕。片面は凹みが発達。やや緻密な石質
10326	PJ-42	磨石類	砂岩類	1/1	11.5	9.8	5.7	909	楕円形。やや扁平。片面に磨り面発達。側面に浅い敲打凹み。やや緻密な花崗岩質細粒砂岩
10327	PJ-42	磨石類	花崗岩類	1/1	8.4	6.8	4.9	388	不整楕円形。二面に磨り面。緻密な石質
10328	PJ-42	磨石類	安山岩類	3/4	12.9	8.4	5.8	914	不整楕円形。やや扁平。両面に磨り面。片面に浅い敲打凹み。一側面は稜磨石状。やや多孔質な石質
10329	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/1	8.1	8.0	4.3	292	不整楕円形。片面に磨り面やや発達。破損部縁辺に剥離痕。磨石から転用。両刃の刃角は礫器状。やや緻密な石質
10330	PJ-42	磨石類	砂岩類	2/3	12.6	6.3	3.5	466	細長い楕円形。扁平。広く平坦な一面に磨り面。側面二面は稜磨石状。片端欠損。やや緻密な細粒砂岩
10331	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/1	12.3	7.1	4.6	572	不整楕円形。やや扁平。両面に弱い磨り面。長軸片端が敲打つぶれと割れ。一側面に浅い敲打凹み。やや多孔質な石質
10332	PJ-42	磨石類	砂岩類	1/1	5.9	14.8	8.8	930	稜磨石。断面三角形の長細い亜円礫。狭い二側面が磨り面。浅い敲打凹みに覆われる。平坦な面に磨り面発達。緻密な細粒砂岩
10333	PJ-42	磨石類	花崗岩類	1/1	13.3	8.2	4.8	653	不整楕円形。磨り面なし。両面に敲打凹み。粗粒の花崗岩
10334	PJ-42	磨石類	花崗岩類	1/1	12.1	9.5	9.2	1,511	やや長い球状。長軸両端部に敲打痕による狭い平坦面。ハンマーか。全面が敲打整形されている。やや風化した石質
10335	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/1	9.9	7.9	3.2	357	不整楕円形。扁平。両面に弱い磨り面。やや多孔質な石質
10336	PJ-42	台石	安山岩類	1/2	(15.8)	(14.5)	8.0	1,726	PT868 号ピット上、床面から 20cm 浮いて出土。扁平礫破片。片面に敲打痕と磨耗面。石皿の皿部のようにみえる湾曲あり。多孔質、粗粒なデイサイト質

PJ042 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（cm）	現存幅（cm）	現存厚（cm）	重量（g）	観察所見
10337	PJ-42	ハンマー	砂岩類	1/1	10.7	6.5	4.3	442	やや扁平な棒状円礫。長軸両端に敲打痕。片側が欠損するが割れ面にも敲打痕が及ぶ。緻密、細粒の石質
10338	PJ-42	ハンマー	砂岩類	1/1	8.8	6.1	3.3	234	稜磨石破損品を転用したハンマー。長軸端部の割れ面の稜が潰れ。緻密な細粒砂岩
10339	PJ-42	ハンマー	砂岩類	1/1	9.8	4.1	4.6	216	棒状円礫。長軸片端に敲打痕。緻密な細粒砂岩
10340	PJ-42	ハンマー	砂岩類	3/4	7.4	4.6	3.0	221	棒状円礫。明瞭な敲打痕は見られないが形状からハンマーと推測。細粒砂岩
10341	PJ-42	ハンマー	頁岩	3/4	6.1	2.7	2.6	64	小さな棒状円礫。片端に浅い敲打凹みが集中。反対側端に割れ。緻密な石質
10342	PJ-42	ハンマー	砂岩類	1/1	7.9	6.6	3.0	216	不整円形、扁平。片端に弱い敲打痕。花崗岩質、やや多孔質な石質
10343	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/2	12.0			775	不整楕円形、扁平。両面に弱い磨り面。側面は稜磨石状。片端欠損。長軸片端に敲打痕。やや緻密な石質
10344	PJ-42	ハンマー	砂岩類	3/4	10.3	4.7	2.4	188	細長い石鹸型。長軸両端部に敲打痕と割れ。やや緻密な細粒砂岩
10345	PJ-42　土サンプル④	玦状耳飾	滑石	破片	(1.7)	(1.7)	1.1	3	厚みのある玦状耳飾破片。かろうじて中心部の穴部が残る。平坦面に線条痕。白斑の暗灰褐色の滑石
10346	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/2	10.0			867	不整楕円形。断面が隅丸四角形の亜円礫。狭い一面が稜磨石状。別な一面に浅い敲打凹み。多孔質、やや緻密な石質
10347	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/2	9.3			442	石鹸型。両面に顕著な磨り面。片面に敲打凹み。一側面は稜磨石状。反対側面は欠損。やや緻密な石質
10348	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/4	5.1			242	石鹸型。両面に浅い敲打凹み。磨り面は未発達。側面稜磨石状。端部に敲打痕。器体半分以上を欠損。器面と割れ面の一部が黒く変色。多孔質な石質
10349	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/2	6.3			296	石鹸型。両面に磨り面。片面に浅い敲打凹み。側面稜磨石状。長軸端部に敲打痕。片側端部欠損。多孔質、やや緻密な石質
10350	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/2	6.7			169	不整楕円形。両面に敲打凹み。磨り面は未発達。多孔質な石質
10351	PJ-42	磨石類	安山岩類	―	5.9			245	楕円形、扁平。両面に弱い磨り面。長軸端部に敲打痕。器体半分以上を欠損。やや緻密な石質
10352	PJ-42	磨石類	砂岩類	1/6	7.3			224	楕円形。破片。花崗岩質、粗粒の石質
10353	PJ-42	磨石類	砂岩類	破片	4.5			33	棒状円礫素材の磨石類と思われる破片。平坦な一面に磨り面。緻密な細粒砂岩
10355	PJ-42	磨石類	安山岩類	破片	5.7			88	片面が平坦に磨り減り。多孔質、やや粗粒な石質
10356	PJ-42	磨石類	安山岩類	1/2	8.0			255	石鹸型。両面と一側面に深い敲打凹み。磨り面未発達。多孔質、粗粒な石質
10357	PJ-42	ハンマー	安山岩類	破片	7.4			134	断面三角形の棒状亜円礫。長軸片端部に弱い敲打痕。多孔質、やや緻密な石質。
10358	PJ-42	ハンマー	砂岩類	破片	6.8			91	亜円礫の破片。長軸片端部に敲打痕。緻密、細粒な石質
10359	PJ-42	ハンマー	砂岩類	破片	6.1			145	石鹸型、扁平な円礫。長軸片端部に敲打痕と割れ。片側端部は欠損。器面が平滑に磨耗。緻密だがやや粗粒な石質
10360	PJ-42	石皿	安山岩類	破片	6.0			124	磨り面が残っていないが、側縁部に敲打整形があることから石皿と推測。多孔質な石質
10361	PJ-42	磨製石斧	緑色岩	破片	5.6			42	平滑に研磨仕上げされた磨製石斧の破片。器面に長軸方向の線条痕。割れ面に磨滅があり、転用しているかも。淡緑色でやや粗粒の石質。
10362	PJ-42	台石	砂岩類	破片	14.0			952	平坦で平滑な一面をもつ。本来の大きさは不明だが、扁平亜円礫の台石破片と思われる。花崗岩質、緻密だがやや粗粒の砂岩
10363	PJ-42	剥片	砂岩類	1/1				45	細粒砂岩の亜円礫剥片
10364	PJ-42	石皿	安山岩類	破片	13.5			584	縁部がない石皿破片。皿部は縁部近くまで平滑に磨耗。I-7 グリッド出土の 7303 と同一個体。やや緻密な石質。
10365	PJ-42	石皿	安山岩類	破片	11.5			992	皿部がわずかに残る破片。多孔質な石質
10366	PJ-42　7	台石	安山岩類	破片	18.5			831	広く皿状にくぼんだ形状だが、石皿のような磨り面は未発達。器面がやや摩滅していることから台石とした。多孔質な石質
10367	PJ-42	石皿	安山岩類	破片	18.0			2,346	浅い皿部の石皿破片。皿部はわずかに磨滅。
10368	PJ-42	石皿	安山岩類	破片	23.0			3,200	皿部中央が顕著に磨耗。広い縁部。裏面は平坦でやや摩滅。多孔質な石質

PJ042b 号住居　出土遺物



PJ042b 号住居出土遺物

PJ042b 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1670		PJ-42 13、PJ-42、DK227	口縁部～底部	(26.3)	34.8	9.0	1,653.0	1/3	2.5YR4/6 5YR3/4	西壁沿い、床面から 23cm 浮いて出土。破片の一部は DK227 号土坑調査時に取り上げ。口縁部に小突起３ヶ所。結節縄文地文。内面は平滑にナデ調整。砂粒が目立つ胎土で、繊維は混じらない。諸磯式
1678		PJ-50 28	胴部～底部	－	－	9.5	259.0	破片	5YR5/4 7.5YR6/6	PT914 南、床面から 14cm 浮いて出土。底部下端に櫛歯刺突文。底面に縄側面圧痕と押引状の圧痕。やや上げ底。胎土に繊維を含まない。神之木式
1750		PJ-42	口縁部	－	－	－	87.0	破片	7.5YR3/1 5YR3/1	波状口縁の口唇部に刻み。胴部に貝殻腹縁文。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。器壁は 4mm で薄手。胎土に繊維を含まない。清水ノ上Ⅱ式もしくは上広覧式併行
1777		PJ-42	口縁部		－	－	534.0	破片	10YR5/2 5YR5/6	強く被熱し発泡した土器破片。縄文地文。波状口縁。胎土に繊維を含まない。

PJ042b 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	現存厚 (cm)	重量 (g)	観察所見
10164	PJ-50 40	台石	安山岩類	破片	(18.1)	(9.1)	(11.5)	1,967	PJ42b 号住居北側周溝付近の床面出土。石皿状にへこんだ部分と平坦面あり。小さく割られていて本来の形状は不明。わずかに磨耗あり。多孔質安山岩
10165	PJ-50 41	ハンマー	砂岩類	―	(6.7)	5.6	3.7	183	PJ42b 号住居埋土上層出土。平坦面がある礫状礫。長軸端部に敲打痕。平坦面に磨耗痕。磨石類かも。
10383	PJ-50 30	磨石類	安山岩類	1/1	12.2	7.6	4.7	621	PJ42b 号住居床面出土。石鹸型。平坦な２面が磨り面。片面に敲打による凹み２ヶ所。側面は稜磨石状。磨り面の一部に赤褐色の付着物。顔料か。多孔質安山岩
10384	PJ-50 29	磨石類	安山岩類	1/1	8.4	7.7	5.0	376	PJ42b 号住居床面出土。やや扁平な円礫。平坦な二面の中心部に敲打による凹みあり。磨耗なし。多孔質安山岩

PJ46 号住居

位　　置：E-5 グリッドに位置し、PJ54 号住居を切る。

規　　模：PJ54 号住居と重複する箇所では、壁を明瞭に検出できなかった。周溝から想定される住居規模は、長軸 4.4m、短軸 4.1m のやや楕円形で、竪穴は深さ 35 ㎝が残る。

埋　　土：黒褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積する埋土で、自然堆積により埋没した住居と考えられる。レンズ状に堆積した埋土中には土器、石器が多数混じっていた。

床　　面：住居の北東側 1/3 は、黄褐色砂質地山を床面としている。硬くしまった床面は部分的に検出されるのみであった。床面の地山は乱れていて、竪穴掘り方を埋め戻して床面としたと思われる。南西側 2/3 は、PJ54 号住居の暗褐色土埋土を床面としていた。

炉　：住居中央からやや北に寄った位置で石囲炉と焼土を検出した。風化して脆い花崗岩 3 点を炉石とした小さな炉で、浅い掘り込みを伴う。炉内は、炭化物と焼土粒子が混じる暗褐色土で埋まっていた。炉底面は弱く被熱焼土化していた。炉の南側に隣接して強く被熱硬化した焼土が検出された。

周　　溝：全周にわたり小溝が検出された。

柱　　穴：6 基の柱穴を検出した。576 号、577 号、579 号、578 号、794 号、592 号ピットである。これらは黒褐色埋土で、深さが 50 ㎝から 60 ㎝で共通する。579 号ピットと 793 号ピット、592 号ピットでは、径 15 ㎝から 20 ㎝の柱痕を確認できた。577 号ピットと 579 号ピットは近接し、かつ 577 号ピットには 643 号ピットが重複していたことから、部分的な建て替えが想定される。

柱穴の間には、貯蔵穴と推測される袋状断面の土坑が検出された。325 号、326 号、346 号土坑と 580 号ピットの 4 基である。貯蔵穴数が多いため、やはり建て替えが想定されるが、それに見合ったピットは検出されなかった。

出土遺物：住居中央部分の、竪穴にレンズ状に堆積した埋土から完形、完形に近い土器、大形破片、石器が出土した。

出土した土器の総量は、79,311g である。およそ半分は中期中葉土器であるが、ほかに中越式土器 4115g、神ノ木式土器 5597g、有尾式土器 1129g、諸磯式土器 16254g、前期土器 12946g が含まれる。前期土器が多いのは、本住居の南側で前期遺構と重複するためであろう。

混入した前期土器を除くと、中期土器は、三角押文がわずかに認められる（1081）のみで、パネル文土器が含まれる（1087）、口縁部無文帯がある（1075）、重三角文が崩れている（1075）、ワラジ状文がある（1083）、サンショウウオ文は隆帯で描出される（1091）、楕円区画文の縁取り加飾がない（1072、1091）といった特徴が認められる。

出土した石器の内訳は、石鏃 39 点、削器 1 点、石錐 2 点、珪質頁岩もしくはチャート製の小形精製石匙 6 点、両極石器 7 点、後期旧石器時代遺物の採集品と思われる石槍 1 点、打製石斧 16 点、大形粗製石匙 1 点、横刃型石器 3 点、研磨具 1 点、ハンマー 5 点、台石 2 点、磨石類 5 点、磨製石斧 3 点、礫器 1 点、滑石製装身具 2 点、黒曜石製のミニチュア石匙 1 点、石器破片の可能性がある安山岩円礫 1 点、黒曜石原石 9 点、滑石原石 1 点、剥片類 16 点である。このほか黒曜石等の剥片 323 点、2125g が出土した。

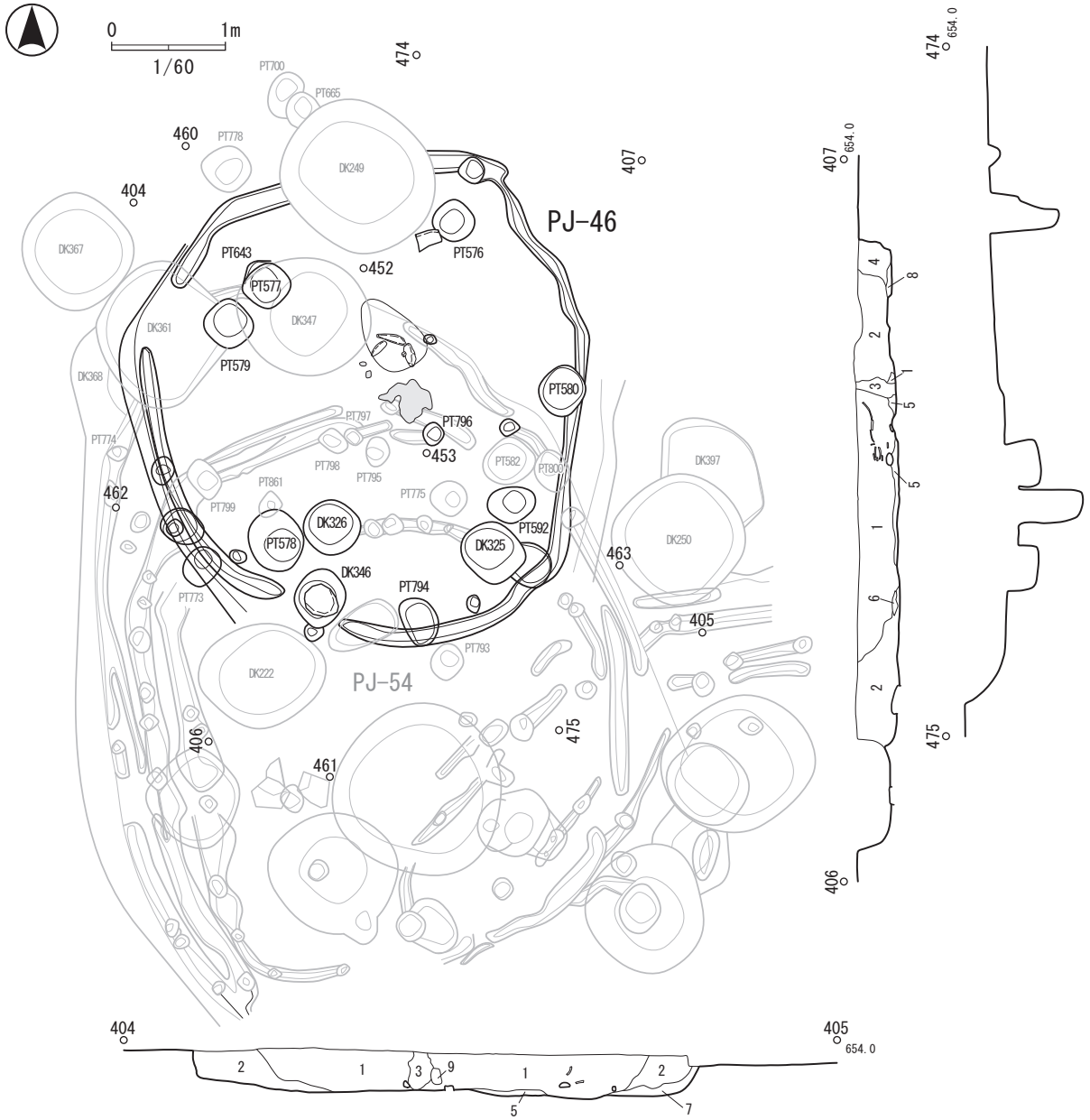
特記すべき出土状況を記す。本住居の貯蔵穴とみられる 325 号土坑で石器がまとまって出土した。本住居では滑石原石、装身具未成品が出土した。滑石製品は前期的な出土品であるが、周辺の中期遺跡でも出土例がある。磨製石斧破片が PJ92 号住居出土品と接合した。ハンマー破片は PJ75 号住居出土品のハンマー破片と同一母岩と認められる。台石破片 1 点が PJ17 号住居炉石と接合した。

時　　期：出土した土器の特徴から中期中葉、藤内式 1 段階には廃絶して、土器が投棄された遺構と位置付けられる。

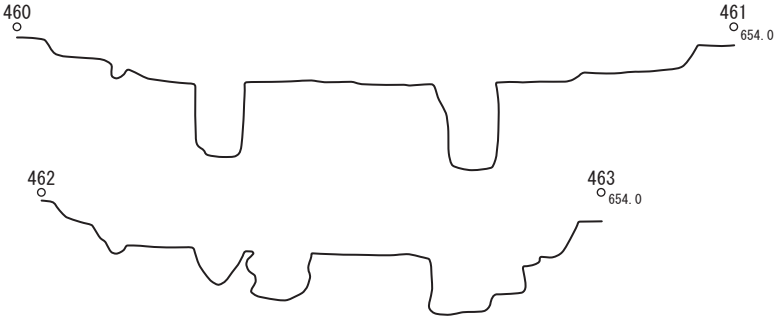
PJ046 号住居土坑 ピット一覧表

遺構番号	位置	径 (cm)	深さ (cm)	覆土色	備考（遺物など）
DK-325	46 住内	55*55	42(35)	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	貯蔵穴か。断面袋状。中越式、神ノ木式、釈迦堂Ｚ Ⅲ式、諸磯式
DK-326	46 住内	49*(49)	37(30)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3%、10YR4/4（褐）と焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	貯蔵穴か。断面袋状。中越式、神ノ木式、諸磯式
DK-346	46 住内	42*45	40(30)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 3%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	貯蔵穴か。断面袋状。中越式、神ノ木式、諸磯式
PT-576	46 住内	36*-	57	10YR3/4（暗褐）。炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱穴。中期土器小破片
PT-577	46 住内	41*39	72	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）と炭化物が 3%、10YR4/3（にぶい黄褐）のロームブロック 1 ～ 1.5cm 角が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	貯蔵穴。中越式、神ノ木式、諸磯式、釈迦堂Ｚ Ⅲ式。PT643 を切る。
PT-578	46 住内	43*(43)	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3%、10YR4/4（褐）と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱穴。径 20 cmの柱痕あり。中越式、神ノ木式、有尾式、諸磯式、中期土器小片
PT-579	46 住内	44*41	57	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱穴。径 20 cmの柱痕あり。諸磯式
PT-580	46 住東壁	41*(44)	38	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3%、10YR4/3（にぶい黄褐）のロームブロック 1 ～ 2cm 角が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	貯蔵穴か。断面袋状。関山式、諸磯式
PT-592	46 住内	30*(28)	60	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱穴。径 15 cmの柱痕あり。中越式、有尾式
PT-643	46 住内	31*-			PT577 と重複し、存在が確認できたのみ。
PT-794	46 住南壁	40*(30)	50	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱穴。径 20 cmの柱痕あり。中越式、神ノ木式

写真８　白州小学校の遺跡見学



1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR3/4(暗褐)が5%、炭化物が5%、焼土が1%、花崗岩小礫が5%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、10YR4/6(褐)が7%、炭化物が1%、焼土が1%以下、花崗岩小礫が3%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR4/6(褐)が5%、炭化物が1%、花崗岩小礫が2%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化物が1%、花崗岩小礫が2%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
5層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物が1%以下、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が15%、炭化物が1%以下、焼土が1%以下、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が7%、炭化物が1%以下、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
8層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、炭化物が1%以下、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
9層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、炭化物が1%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、混じる、シルト粒土。粘性ややあり。しまる。

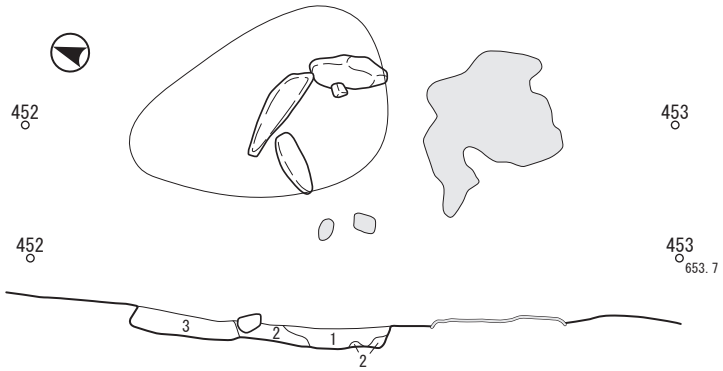


PJ046 号住居

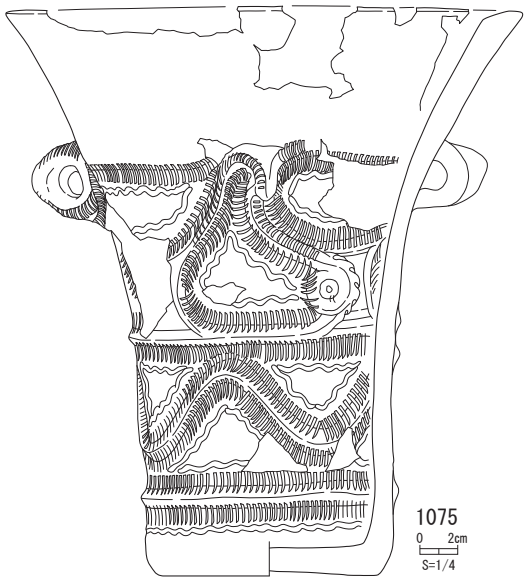
炉

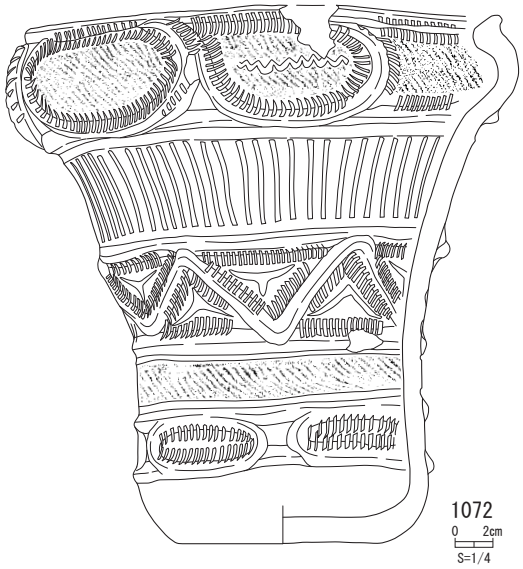
0　50cm

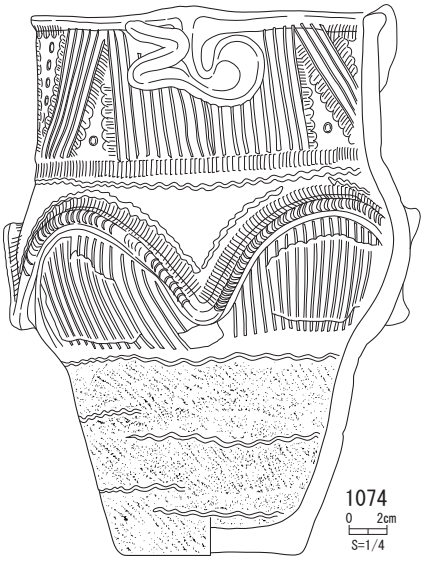
1/20

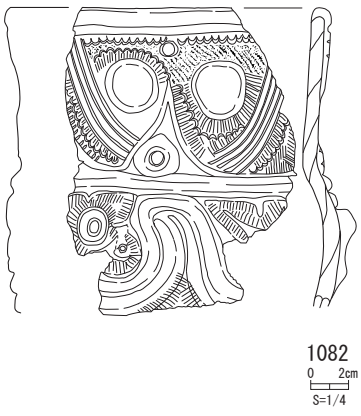


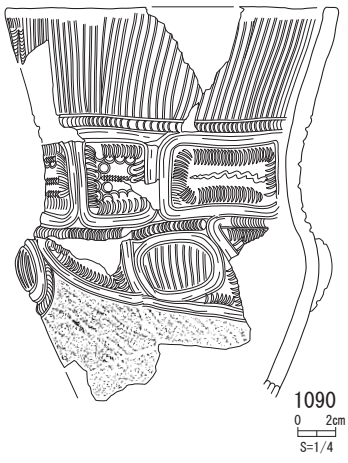
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が7%、炭化物が3%、焼土が2%、混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が5%、焼土が3%、炭化物が1%、混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が5%、焼土が2%、炭化物が3%、混じる、シルト粒土。粘性あり。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、花崗岩粒が2%、混じる、シルト粒土。粘性あり。しまる。



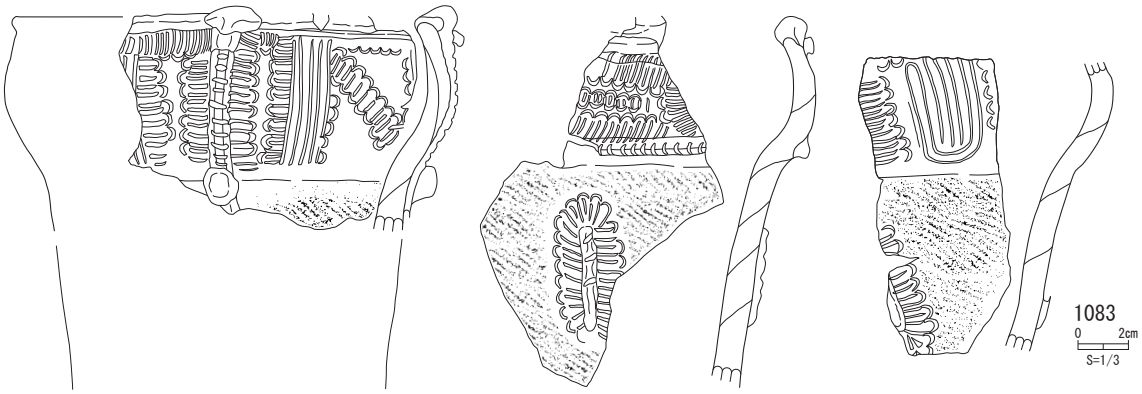


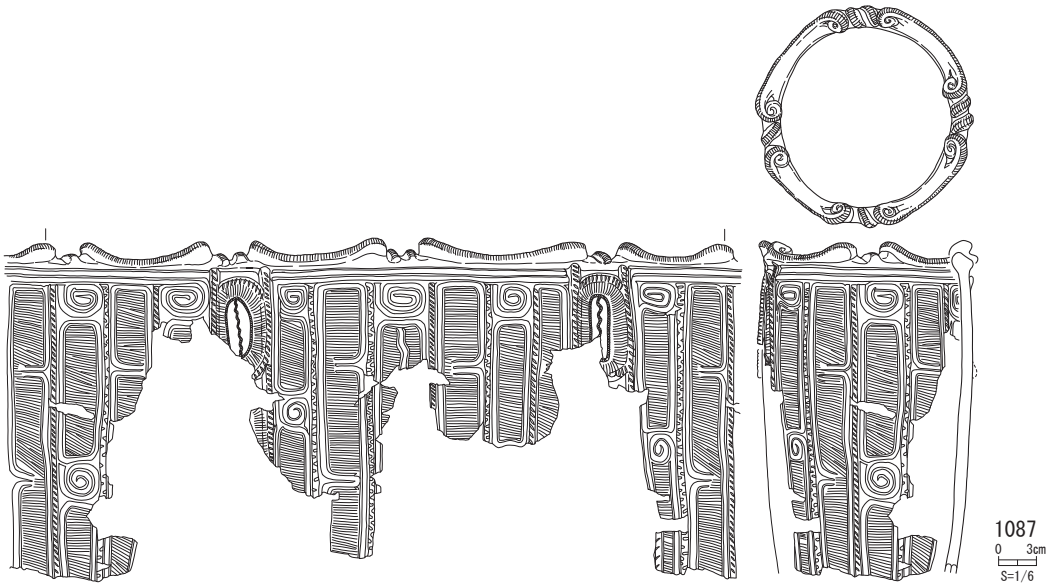


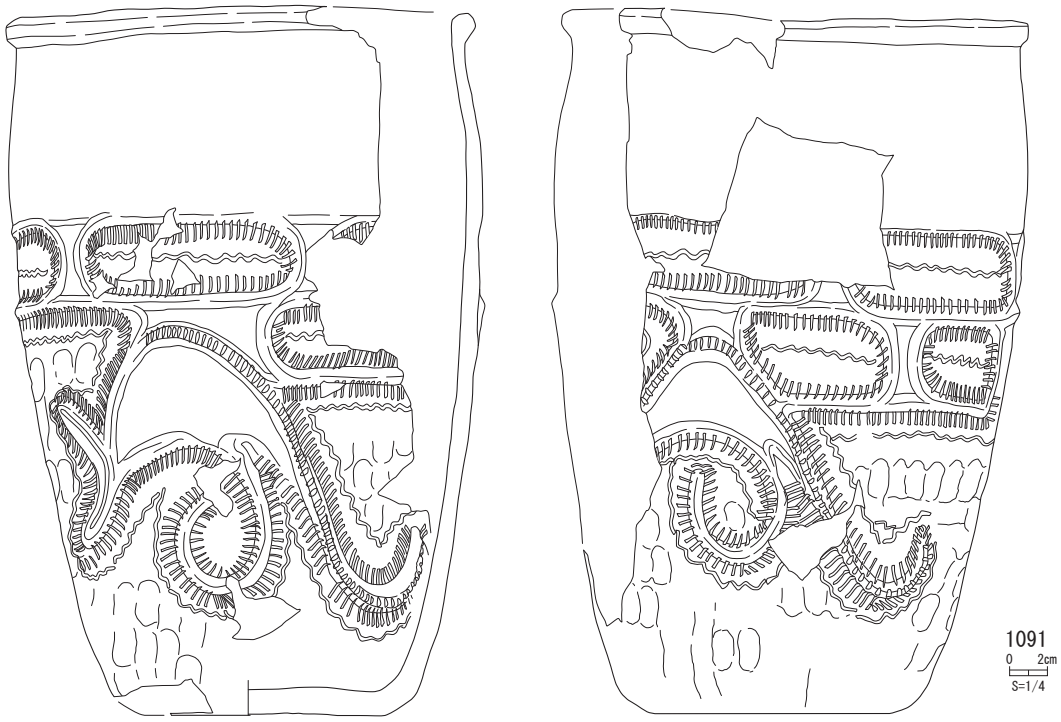




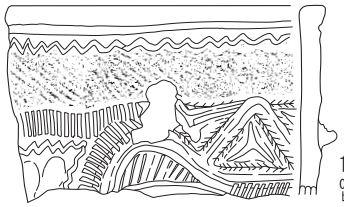
PJ046 号住居　PJ046 号住居出土遺物

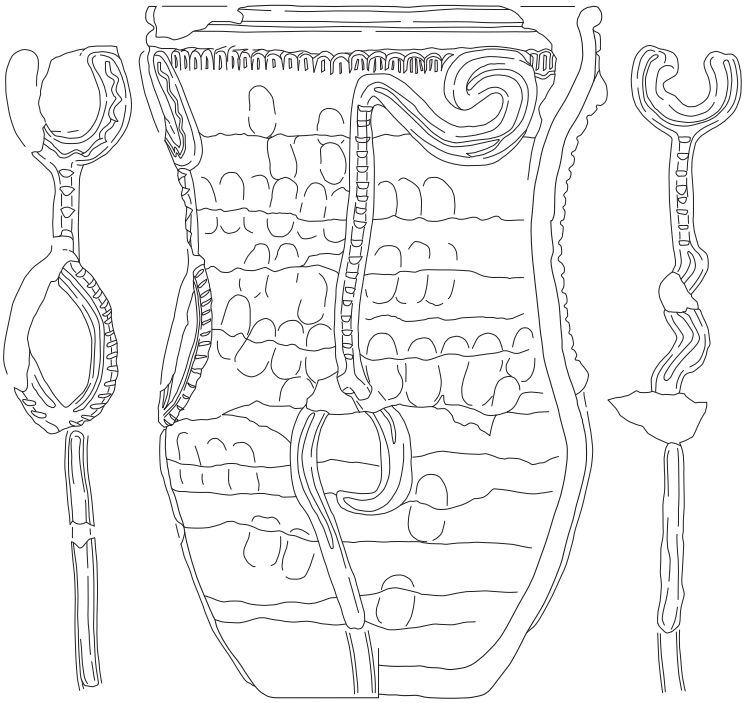


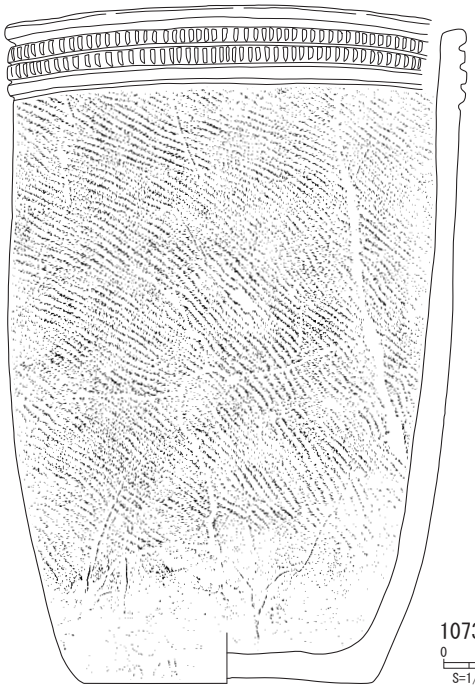


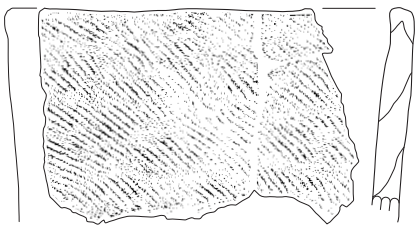


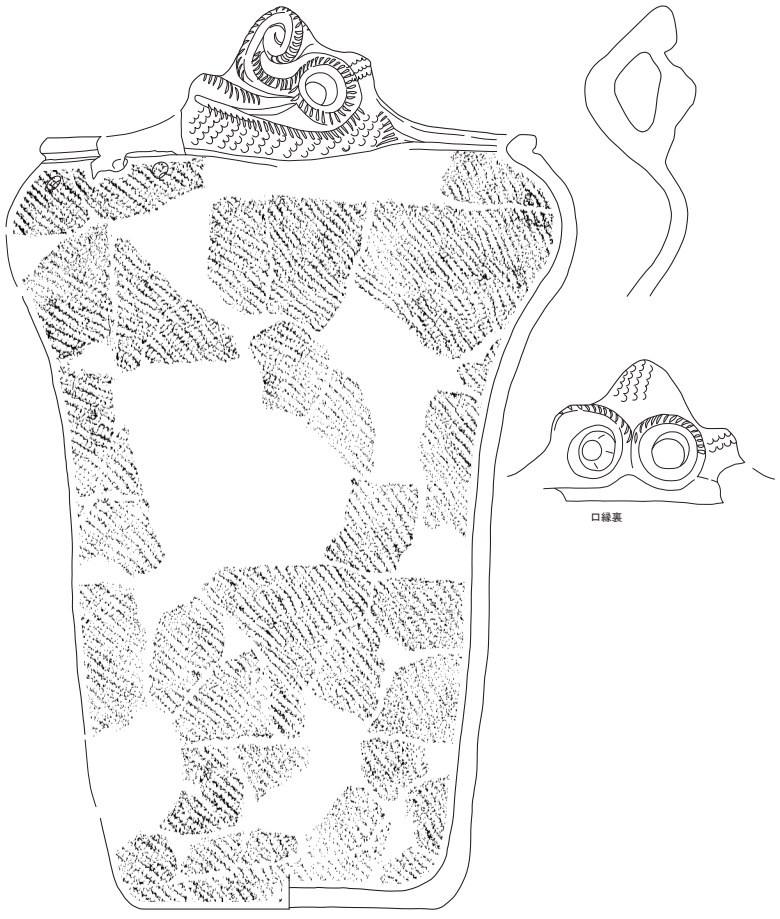
PJ046 号住居出土遺物

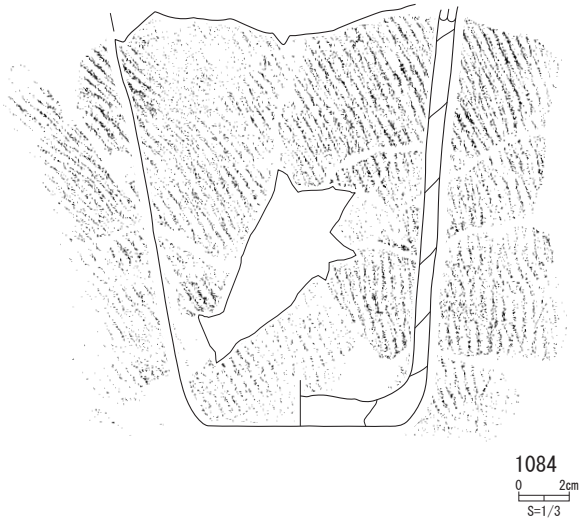




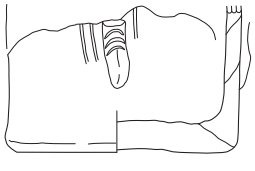


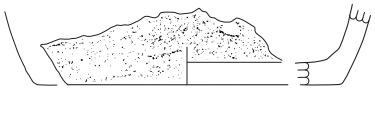


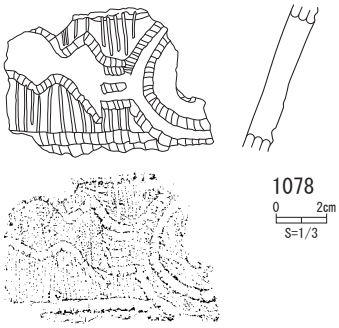


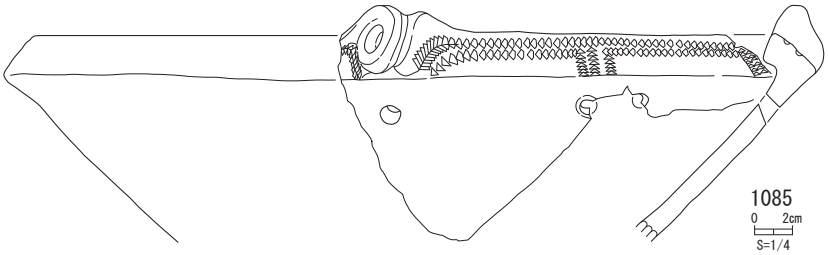


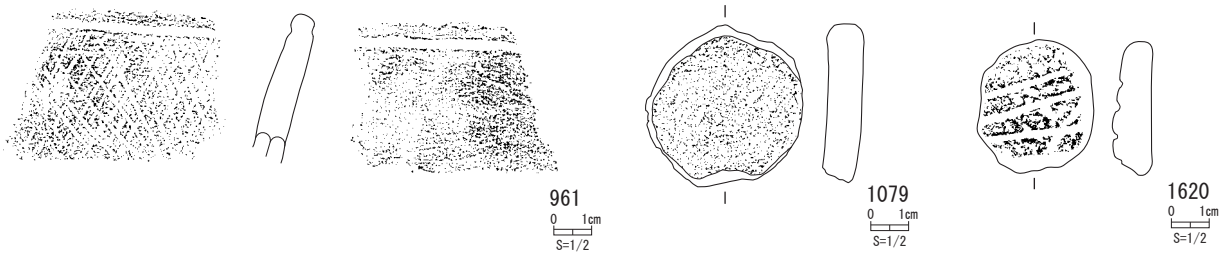
PJ046 号住居出土遺物



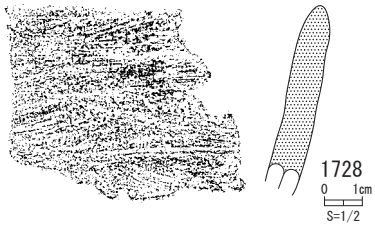


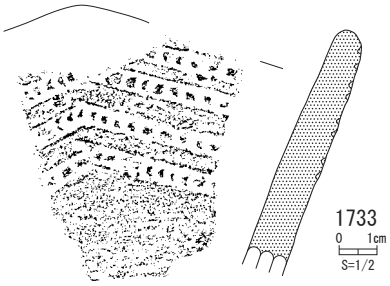


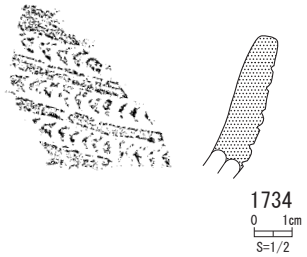


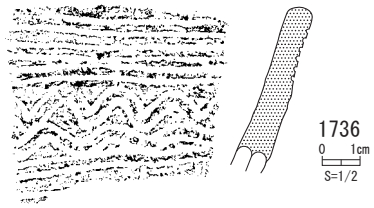


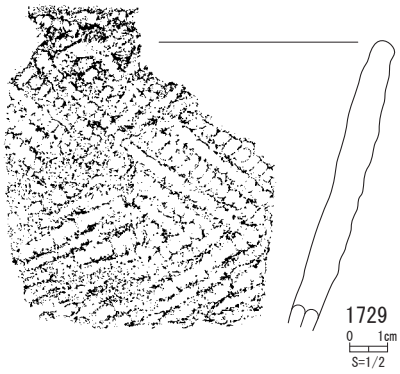
PJ046 号住居出土遺物

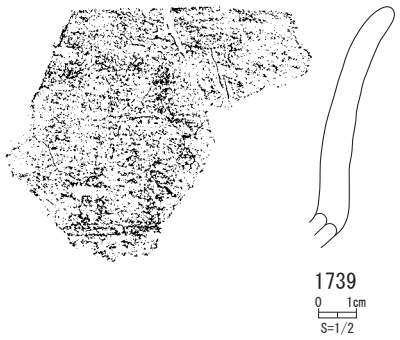


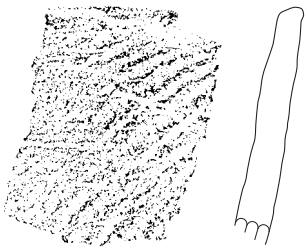


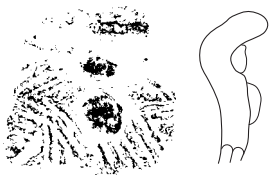




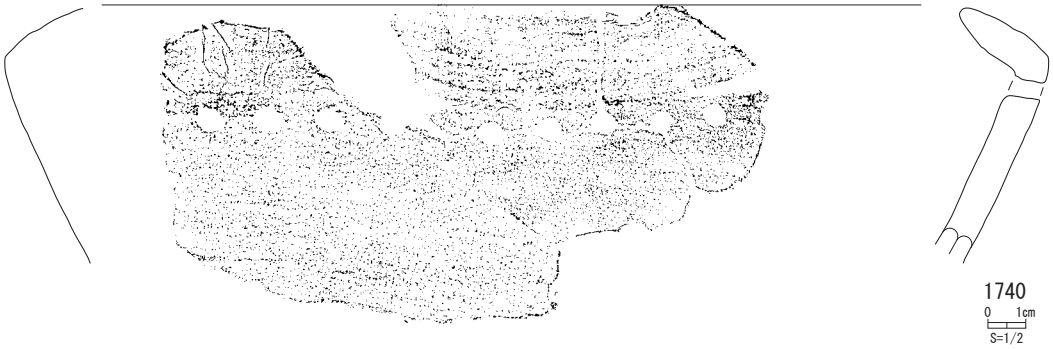


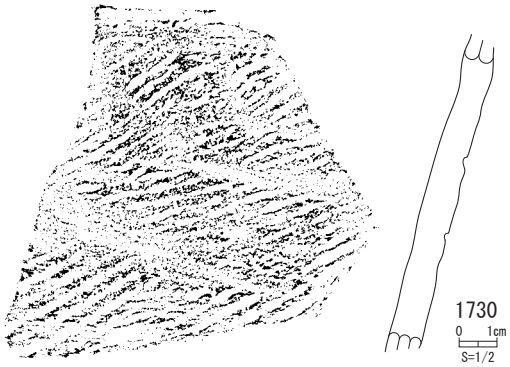


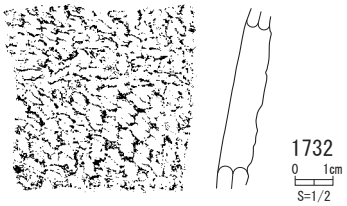


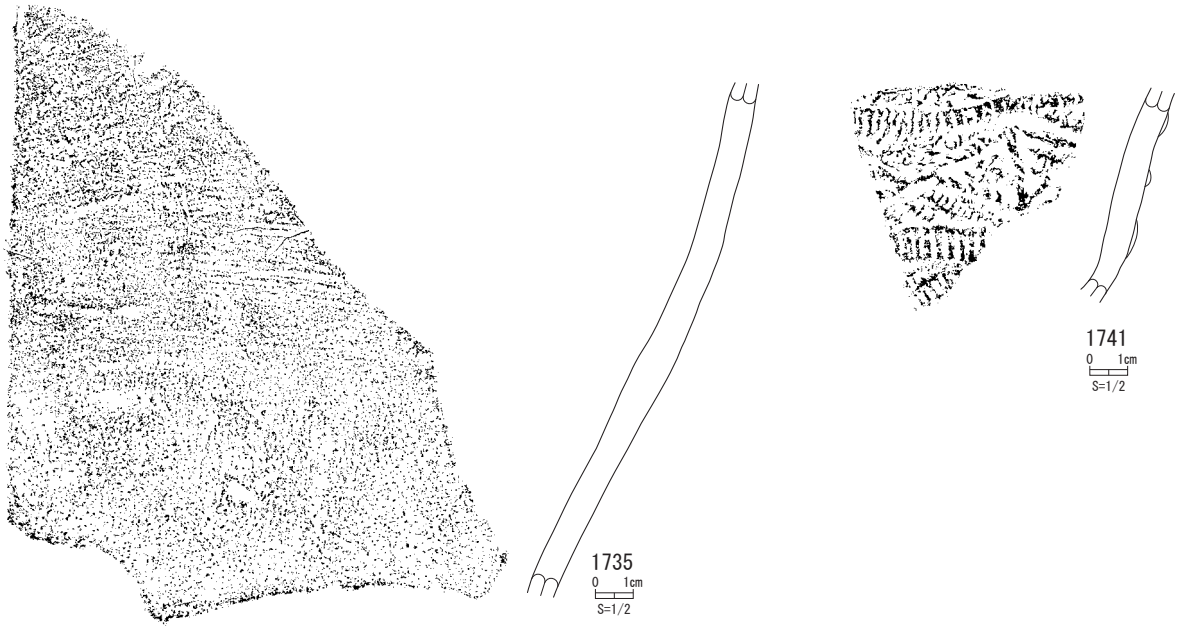


PJ046 号住居出土遺物

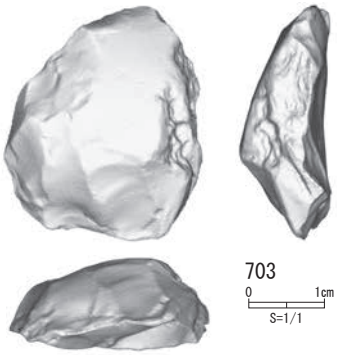






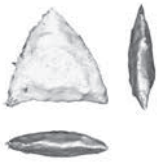


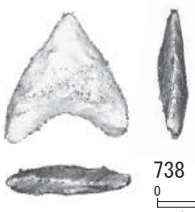
PJ046 号住居出土遺物


703
0 1cm
S=1/1

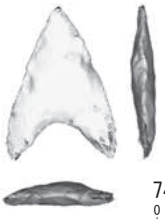
735
0 1cm
S=1/1

736
0 1cm
S=1/1

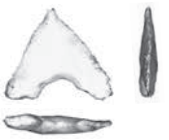

737
0 1cm
S=1/1


738
0 1cm
S=1/1

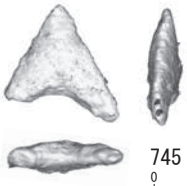
739
0 1cm
S=1/1

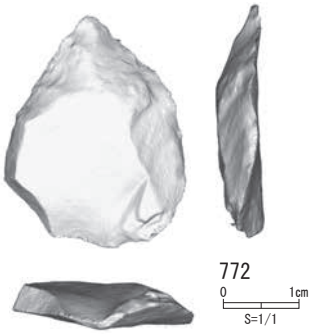

740
0 1cm
S=1/1

742
0 1cm
S=1/1


743
0 1cm
S=1/1

744
0 1cm
S=1/1

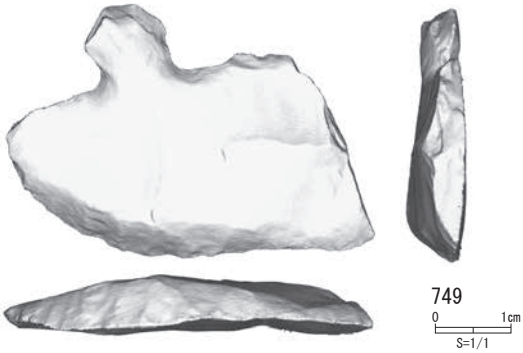

745
0 1cm
S=1/1


772
0 1cm
S=1/1

4179
0 1cm
S=1/1

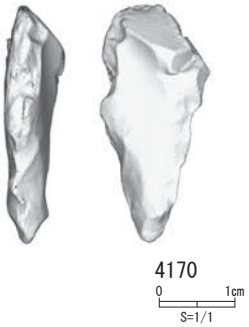
747
0 1cm
S=1/1

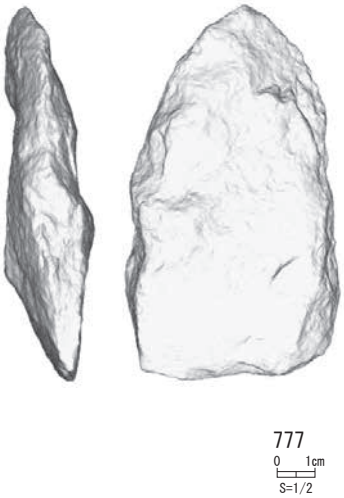
748
0 1cm
S=1/2

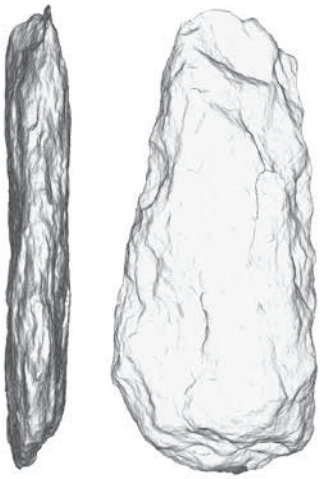

749
0 1cm
S=1/1

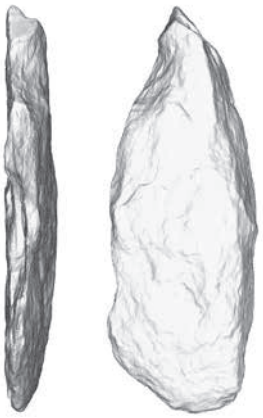
752
0 1cm
S=1/1

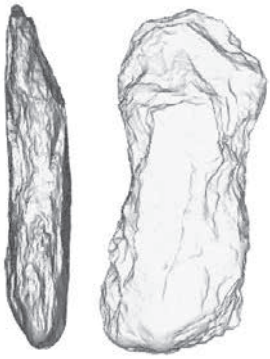
PJ046 号住居出土遺物

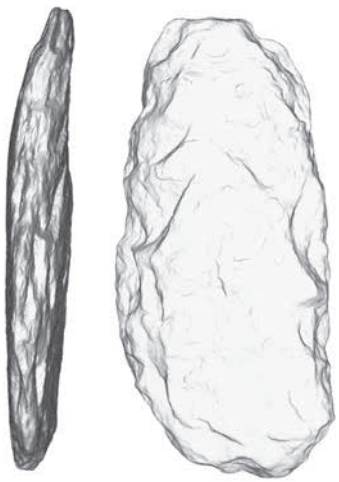




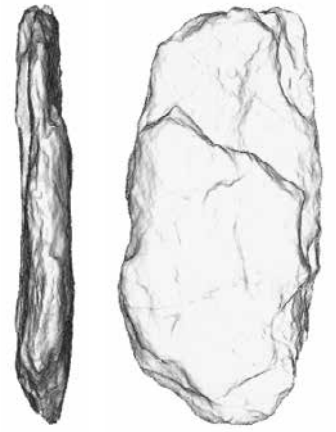


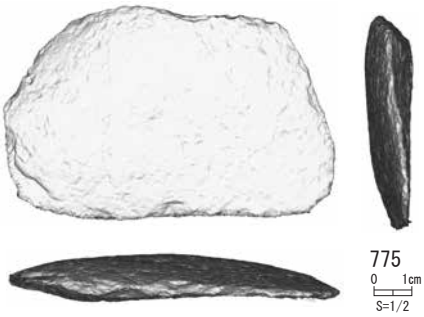


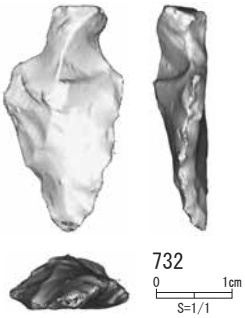


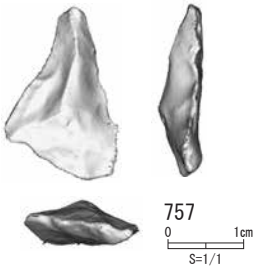


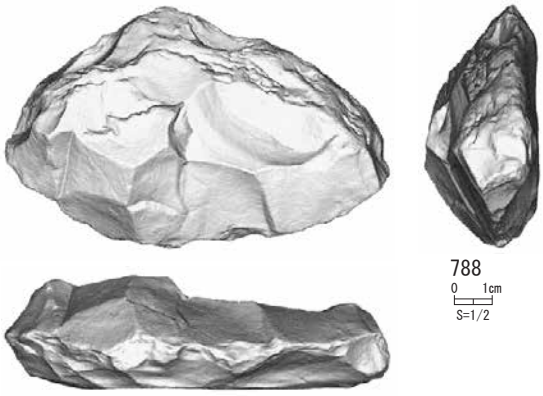
PJ046 号住居出土遺物

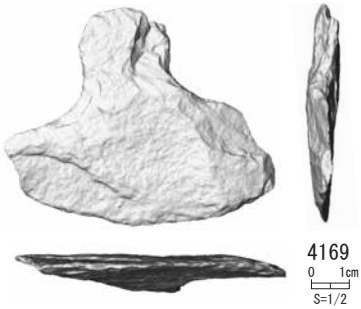

790
0 1cm
S=1/2


775
0 1cm
S=1/2

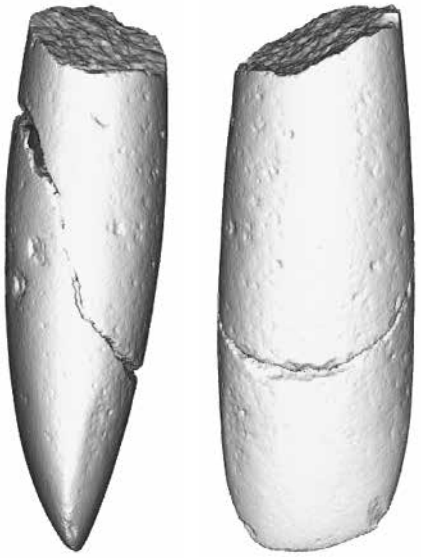

732
0 1cm
S=1/1

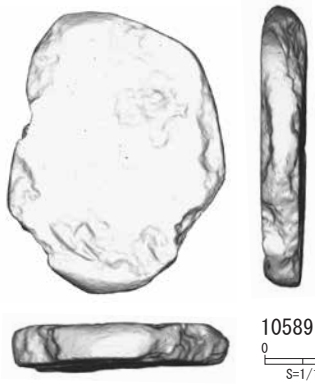

757
0 1cm
S=1/1


788
0 1cm
S=1/2

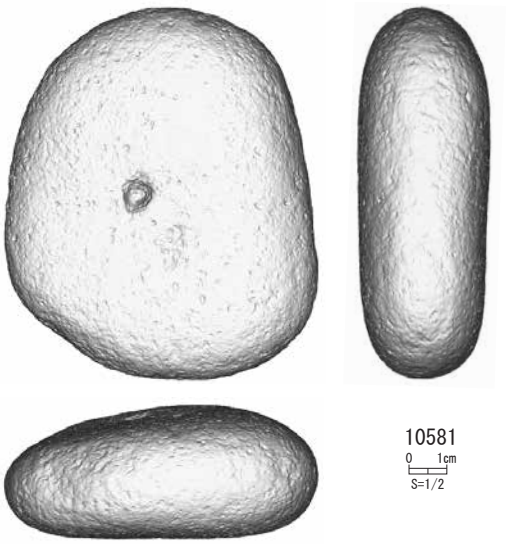

4169
0 1cm
S=1/2

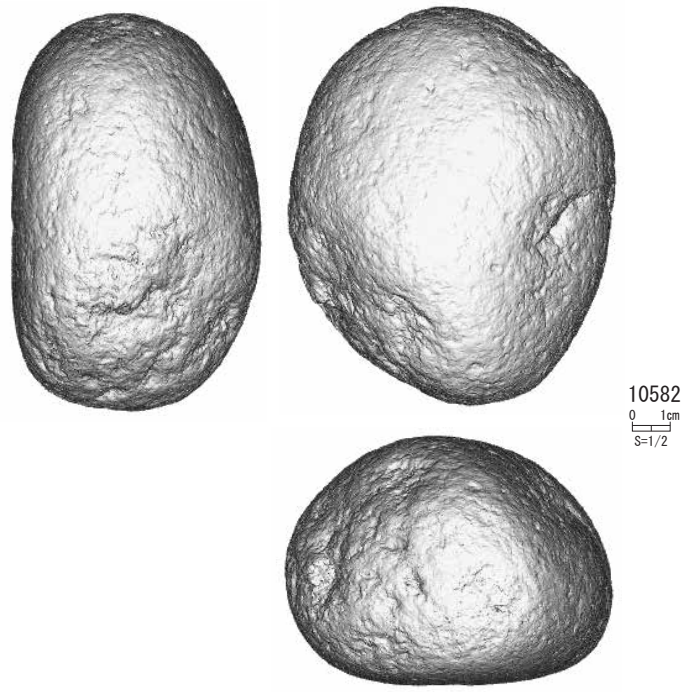
10588
0 1cm
S=1/1

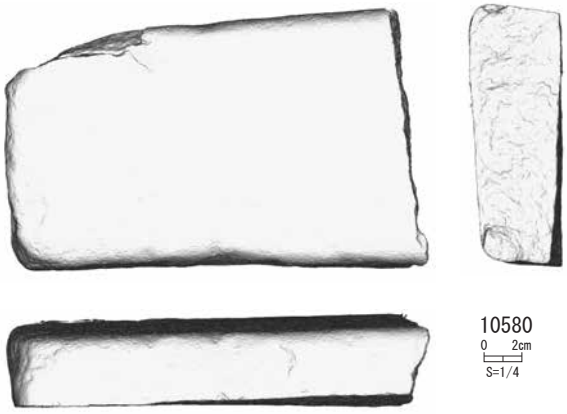

10591・11571接合
0 1cm
S=1/2

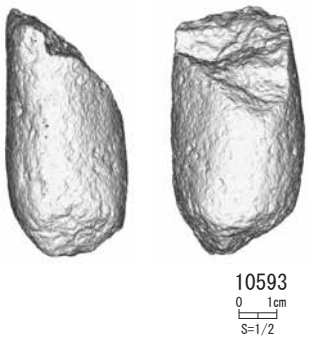

10589
0 1cm
S=1/1

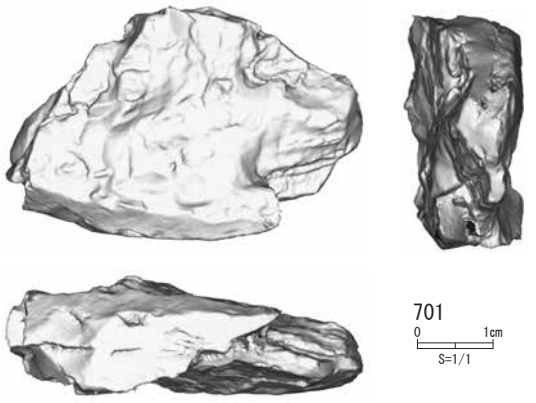
PJ046 号住居出土遺物

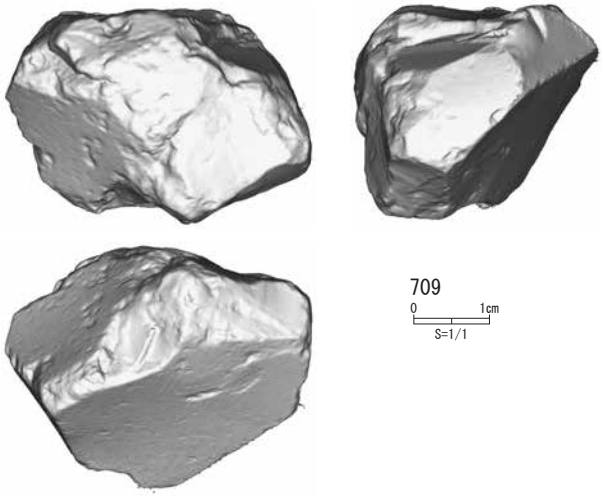




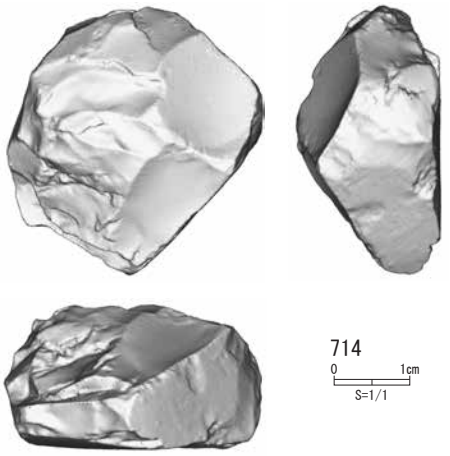


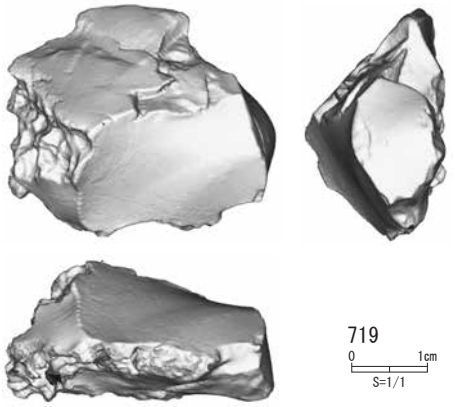


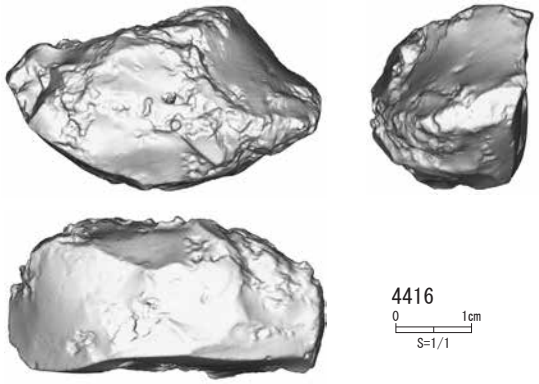


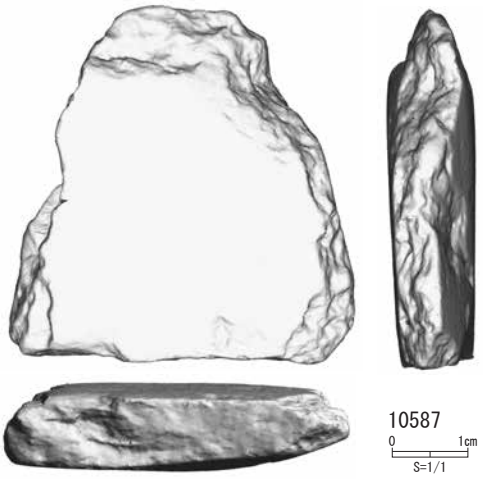


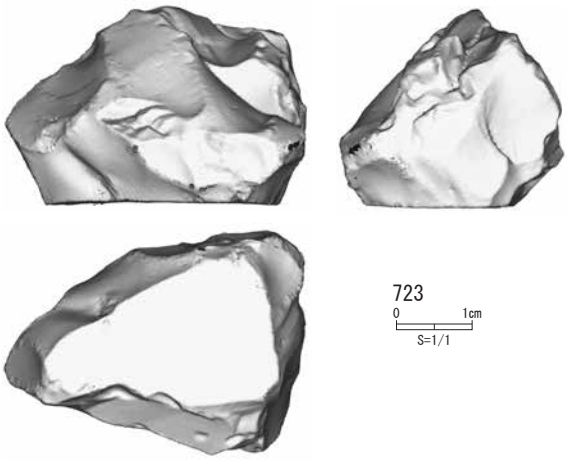
PJ046 号住居出土遺物











PJ046 号住居出土遺物

PJ046 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	観察所見
961		F-6-15	口縁部				36.0	破片	7.5YR4/6 7.5YR5/4	口縁端部内外面に沈線あり。胎土に繊維が混じらない。中期中葉か？
1071	6-010-2012	PJ-46 56、PJ-46 48、PJ-46 58、PJ-46 一括	口縁～底部	17.5	27.6	8.0	1,870.0	7/8	7.5YR5/4 7.5YR5/3	破片が炉東の床面から 10 ～ 19 cm浮いて出土。接合痕と指頭圧痕が残る器面に 4 単位の主文様が垂下する。実測図裏面には、正面と同じ主文様が描かれる。実測図の左右に示した主文様は、表現を描き分けている。口縁部から胴部下位の外面に煤付着。
1072	6-010-2012	PJ-46 13、PJ-46 15	口縁～底部	24.8	28.5	10.5	3,670.0	9/10	5YR6/6 5YR4/3	PT578 北東、床面から 3 cm浮いて出土。胴部下位は細かな破片となってわれていたが、上半分は破損少ない。
1073	6-010-2012	PJ-46 47	口縁～底部	18.3	27.0	11.4	2,210.0	9/10	7.5YR5/4 5YR5/4	PT592 北側、床面から 12 cm浮いて出土。
1074	6-010-2012	PJ-46 1	口縁～底部	18.8	29.0	9.0	2,840.0	ほぼ完形	5YR4/3 2.5YR5/6	PT577 南東脇、床面から 27 cm浮いて出土。口縁部の貼付文様は 1 単位。
1075	6-010-2012	PJ-46 35、PJ-46 58、PJ-46 39	口縁～底部	27.2	30.2	11.6	3,025.0	4/5	2.5YR4/4 2.5YR4/4	PT592 西脇、床面から 7 ～ 10 cm浮いて出土。無文の口縁部と胴部文様帯の間にメガネ状把手が 2 単位。胴部中位には隆帯文様と一体となった小突起が 4 単位。
1076	6-010-2012	PJ-46 3	底部			(12.2)	76.0	破片	5YR5/4 5YR5/6	外面に種実圧痕あり。PT577 南東、床面から 27 cm浮いて出土。
1077	6-010-2012	PJ-46 23	底部			9.0	205.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	PT794 東の南壁沿い、床面から 5 cm浮いて出土。割れ面は丸く整形、再生しているかもしれないが、器面の風化が著しく、はっきりしない。
1078	6-010-2012	PJ-46 一括	胴部				65.0	破片	5YR5/6 5YR4/6	埋土一括取り上げ。角押文で主文様を描き、沈線を充填。
1079	6-010-2012	PJ-46 56	-	縦 4.2	横 4.2	厚 1	21.0	完形	7.5YR5/4 5YR4/4	炉東、床面から 20 cm浮いて出土した土器片を利用した円盤。金雲母が混じる五領ヶ台式、貉沢式によくみる胎土質。
1080	6-010-2012	PJ-46 53、PJ-46 一括	口縁～胴部	(15.4)			179.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/3	PT577 北西、床面から 11 cm浮いて出土。器壁は厚く、重量感がある。
1081	6-010-2012	PJ-46 62、PJ-46 一括	口縁～胴部	(12.6)			215.0	破片	7.5YR4/2 5YR4/4	PT577 東、床面で出土。隆帯で主文様を描き、三角押文とキャタピラー文で縁取りする。
1082	6-010-2012	PJ-46 2、PJ-46 一括	口縁～胴部	(16.2)				破片	7.5YR5/2 5YR3/3	PT577 東、床面から 20 cm浮いて出土。三叉文は器壁を深く掘り込んでいる。内外面ともよく磨かれ、焼成も良好で、器面がざらつかない。混和材が少ない良質な胎土質。
1083	6-010-2012	PJ-46 一括	口縁～胴部				442.0	破片	5YR4/4 5YR3/4	埋土一括取り上げ。口唇部に隆帯を貼付して厚くし、口唇部から頸部のボタン状貼付文に向かって隆帯を垂下させる。口縁部と胴部縄文帯の間の頸部は無文で、横ナデされている。
1084	6-010-2012	PJ-46 10、PJ-46 56、PJ-46 8、PJ-46 一括	胴～底部			7.5	593.0	破片	7.5YR4/2 2.5YR5/6	炉周辺、床面から 6 ～ 20 cm浮いて出土。
1085	6-010-2012	PJ-46 51、PJ-46 52、PJ-46 56、PJ-46 39、PJ-46 一括	口縁～胴部	(39.2)			706.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	炉東、床面直上から 19 cm浮いて出土。3 ヶ所に補修孔が認められる。
1086	6-010-2012	PJ-46 9、PJ-46 8、PJ-46 一括	口縁～底部	(43.4)	18.5	15.0	3,100.0	5/6	7.5YR6/6 7.5YR6/4	炉上、床面から 16 ～ 20 cm浮いて出土。外面上位に煤付着。補修孔が２ヶ所あり、うち１ヶ所は穿孔途中で、貫通していない。
1087	6-010-2012	PJ-46 33、PJ-46 4、PJ-46 8、PJ-46 一括	口縁～胴部	17.0			1,286.0	1/2	5YR3/1 7.5YR3/2	PT576 と PT577 の間、床面から 10 ～ 38 cm浮いて出土。端正なつくりのパネル文土器
1088	6-010-2012	PJ-46 16、PJ-46 56、PJ-46 一括	口縁～胴部	(18.0)			2,614.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR4/6	PT576 南脇、14 ～ 41cm 浮いて出土。胴部に隆帯を貼付した大柄な主文様を施文する有孔鍔付土器。主文様の裏側の土器内面は主文様とおなじ形にへこんでいる。主文様の隆起を大きくするためか。胴部外面下位に煤付着、胴部内面下半に炭化物付着。
1089	6-010-2012	PJ-46 35、PJ-46 58、PJ-46 38、PJ-46 39、PJ-46 一括	口縁～底部	19.4	35.8	11.8	1,600.0	1/2	10YR6/3 7.5YR6/4	PT592 西脇、床面んから 1 ～ 15 cm浮いて出土。口縁部に 3 ヶ所の補修孔。口唇部にミミズク状の突起。ミミズクの目のようにみえる円文の片側は空洞、片側は中実で突出している。土器外面上半に煤付着。
1090	6-010-2012	PJ-46 57、PJ-46 56、PJ-46 一括	口縁～胴部	17.8			1,110.0	1/3	5YR5/4 2.5YR4/3	炉東側、床面から 13 ～ 19 cm浮いて出土。胴部最大径の位置に円形貼付文が 4 単位。土器内面下位に炭化物付着。

PJ046 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	観察所見
1091	6-010-2012	PJ-46 4、PJ-46 5、PJ-46 50、E-5-25	口縁～底部	(25.0)	37.5	13.0	3,450.0	4/5	5YR6/4 2.5YR5/6	PT576 南脇、20 ～ 41 cm浮いて出土。サンショウウオ文は、輪郭を隆線貼付で描出。外面上位に煤付着。
1620		PJ-46	—	3.5	3.1	1.0	11.0	ほぼ完形	5YR4/6 7.5YR4/4	埋土一括取り上げ。諸磯式土器破片を用いた土製円盤
1728		PJ-46	口縁部				35.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/6	中越式土器破片。胎土に繊維が混じる。
1729		PJ-46	口縁部				66.0	破片	5YR4/4 5YR3/3	神ノ木式？　羽状縄文。内面には指頭圧痕とナデ痕が残るが器壁は厚手。胎土に繊維混入なし。口唇上面にも縄文を施文。
1730		PJ-46 22	胴部				89.0	破片	7.5YR6/3 7.5YR6/4	神ノ木式。外面に輪積み痕がみえる。内面は指頭圧痕とナデ痕で凸凹。胎土に繊維が少量混入。
1731		PJ-46 34	口縁部				39.0	破片	7.5YR6/4 5YR5/6	神ノ木式。胎土に繊維が少量混入。内面はナデ痕で凸凹
1732		PJ-46	胴部				28.0	破片	5YR5/4 5YR6/6	神ノ木式。外面は複々節縄文と結節。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維が少量混入。
1733		PJ-46 28	口縁部				46.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/4	有尾式。内面ミガキ顕著。胎土に繊維混入。1734 に似るが、口唇断面と原体竹管の幅が異なる。
1734		PJ-46	口縁部				15.0	破片	2.5YR5/6 7.5YR5/4	有尾式。内面ミガキ顕著。胎土に繊維混入
1735		PJ-46	胴部				191.0	破片	7.5YR5/3 5YR5/6	中越式。内外面指頭圧痕とナデ痕が目立つ。胎土に繊維が少量混入
1736		PJ-46	口縁部				46.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR5/4	諸磯式。竹管による平行沈線で施文。胎土に繊維が少量混入
1737		PJ-46 57	口縁部				23.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR3/3	竹管の集合沈線に円形ボタン状貼付文。諸磯ｃ式
1738		PJ-46	口縁部				35.0	破片	7.5YR4/6 7.5YR4/6	内外面ミガキ顕著。口唇部は手づくね整形の薄いつくり。諸磯式。外面に赤彩が部分的に残る。
1739		PJ-46	口縁部～胴部				89.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR4/6	内外面ミガキ顕著。胎土に繊維が混じらない。諸磯式
1740		PJ-46	口縁部～胴部				139.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR4/3	内外面ミガキ顕著。有孔土器。胎土に繊維が混じらない。諸磯式
1741		PJ-46	胴部				39.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR3/2	北白川Ⅱｃ式に類似する在地的土器。浮線文による菱形文様は諸磯式的な要素か。

PJ046 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
0699	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/2	19.2	16.3	5.8	1.77	石鏃未成品か
0700	PJ-46	両極石器	黒曜石	3/4	21.0	17.0	9.0	3.50	
0701	PJ-46	原石	黒曜石					19.00	角礫ズリの礫面がのこる原石片。節理面で割れ
0702	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	49.0	26.0	8.0	8.20	摺りガラス状の礫面が残る。剥片。やや透明な黒曜石
0703	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	30.0	27.0	10.0	8.20	石鏃未成品。摺りガラス状の礫面が残る。
0704	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.3	(0.66)	
0705	PJ-46	両極石器	黒曜石	1/1	20.0	16.0	8.0	2.70	
0706	PJ-46	両極石器	黒曜石	1/1	23.0	16.0	14.0	4.50	
0707	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	11.5	16.1	2.0	0.36	脚部、基部のつくり込みが少なく、未成品か
0708	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/2	19.7	11.2	3.1	0.84	石鏃未成品か
0709	PJ-46	原石	黒曜石					31.90	やや角が丸まった礫面
0710	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	12.8	－	2.8	(0.29)	
0711	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	16.5	(14.4)	4.4	(0.64)	
0712	PJ-46	石鏃	石英岩	1/1	24.8	17.3	8.2	3.11	石鏃未成品
0713	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	22.1	21.1	7.0	3.60	礫面が残る
0714	PJ-46	原石	黒曜石					22.70	角礫ズリの礫面が残る
0715	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	15.0	18.0	4.0	1.10	
0716	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.80	
0717	PJ-46	原石	黒曜石					13.30	やや風化した礫面
0718	PJ-46	両極石器	黒曜石	1/1	23.0	14.0	6.0	1.90	
0719	PJ-46	原石	黒曜石					16.40	摺りガラス状の礫面が残る。大きな夾雑物がある箇所で割れ
0720	PJ-46	原石	黒曜石					1.50	摺りガラス状礫面の原石砕片
0721	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.00	
0722	PJ-46	削器	黒曜石	1/2	20.0	28.0	11.0	4.70	掻器か。摺りガラス状の礫面が残る
0723	PJ-46	原石	黒曜石					27.20	やや風化した礫面
0724	PJ-46	原石	黒曜石		19.0	24.0	14.0	7.40	角礫ズリの礫面が残る。3ヶ所の剥離あり
0725	PJ-46	両極石器	黒曜石	1/1	15.0	17.0	11.0	2.90	
0726	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.10	
0727	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石					0.50	
0728	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.70	
0729	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.60	
0730	PJ-46　土サンプル③	両極石器	黒曜石	1/1	13.0	11.0	5.0	0.80	
0731	PJ-46　土サンプル④	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.00	
0732	PJ-46	ﾐﾆﾁｭｱ石匙	黒曜石	1/1	30.0	10.0	6.0	2.20	前期の所産か
0733	PJ-46　土サンプル③	剥離のある剥片	黒曜石					2.30	
0734	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	15.7	－	3.0	(0.33)	

PJ046 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0735	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	19.7	14.4	3.0	0.59	
0736	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	12.5	13.7	3.1	0.35	赤茶色の斑入りの黒曜石
0737	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	13.8	13.6	3.5	0.43	
0738	PJ-46　土サンプル①	石鏃	黒曜石	1/1	17.0	16.1	3.6	0.67	
0739	PJ-46　土サンプル①	石鏃	黒曜石	1/1	18.4	15.2	4.8	1.10	
0740	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	20.2	14.3	3.0	0.53	透明度の高い黒曜石
0741	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	16.5	－	3.1	(0.28)	
0742	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	14.2	(11.0)	2.5	(0.32)	漆黒の黒曜石
0743	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	15.0	15.6	2.8	0.37	
0744	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	16.9	－	2.6	(0.36)	透明度の高い黒曜石
0745	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	14.7	－	2.8	(0.29)	透明度の高い黒曜石
0746	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	－	－	2.5	(0.35)	透明度の高い黒曜石
0747	PJ-46　21	石匙	珪質頁岩	3/4	29.0	44.0	6.0	5.90	青灰色で白筋のある珪質頁岩。PT578 南、床面から 18 cm浮いて出土。
0748	PJ-46	石匙	珪質頁岩	1/1	21.0	67.0	6.0	11.70	紫がかった灰色の珪質頁岩
0749	PJ-46	石匙	珪質頁岩	1/1	33.0	47.0	7.0	11.30	右側縁折れ面を刃部として使用。微小剥離と縁辺の磨耗。青灰色で白筋のある珪質頁岩
0750	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	(12.6)	10.3	2.2	(0.17)	
0751	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	19.7	18.3	4.2	1.24	白色の夾雑物が混じる漆黒の黒曜石。未成品
0752	PJ-46	石匙	チャート	1/2	29.0	－	7.0	5.30	透明度のないくすんだ赤色のチャート。
0753	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	(17.6)	－	2.3	(0.40)	透明度の高い黒曜石
0754	PJ-46	石匙	珪質頁岩	3/4	24.0	50.0	6.0	6.30	つまみ 2 ヶ所。片側は折損。灰色の筋がある白色の珪質頁岩。被熱変色か
0755	PJ-46	石鏃	黒曜石	－	－	－	3.2	(0.33)	
0756	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	25.9	16.3	4.7	1.66	未成品
0757	PJ-46	石槍	黒曜石	－				1.20	旧石器時代の尖頭器を採集、搬入したか。
0758	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	15.9	18.9	4.2	1.22	未成品
0759	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.3	(0.44)	石鏃未成品。片側側縁に自然面が残り、そこから押圧剥離。下半を欠損。透明度の高い黒曜石
0760	PJ-46	石錐	黒曜石	1/1	21.0	9.0	6.0	1.00	刃部先端に使用痕。
0761	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	(15.7)	－	3.6	(0.53)	
0762	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.70	赤褐色の斑入り黒曜石
0763	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	18.3	16.1	4.4	1.24	未成品
0764	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	2.1	(0.24)	
0765	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.2	(0.27)	透明度の高い黒曜石
0766	PJ-46	剥離のある剥片	黒曜石	1/2				0.60	ガジリ？
0767	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	22.4	20.3	10.3	3.68	赤褐色の斑入り黒曜石。未成品
0768	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	12.0	13.9	5.5	0.77	透明度の高い黒曜石。未成品
0769	PJ-46	石鏃	黒曜石	3/4	17.7	－	3.5	(0.47)	透明度のない緑灰色で白筋のある黒曜石

PJ046 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0770	PJ-46	石鏃	黒曜石	1/1	26.7	27.0	10.1	7.35	摺りガラス状の礫面が残る。石鏃未成品か
0771	PJ-46	両極石器	珪質頁岩	1/1	29.0	25.0	10.0	7.80	青灰色の珪質頁岩
0772	PJ-46	石鏃	珪質頁岩	1/1	31.2	24.3	5.4	4.54	未成品。青灰色で白筋がある珪質頁岩
0773	PJ-46	石匙	珪質頁岩	－	－	－	6.0	3.00	青灰色で白筋がある珪質頁岩。
0774	PJ-46	横刃型石器	粘板岩	3/4	49.0	83.0	9.0	42.10	
0775	PJ-46	横刃型石器	砂岩	1/1	58.0	87.0	12.0	69.40	円礫面が残る。
0776	PJ-46	打製石斧	安山岩類	1/1	74.0	52.0	12.0	62.20	磨耗して器種不明確。粗粒の安山岩剥片の石器は類例少ない。
0777	PJ-46	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	98.0	56.0	20.0	124.00	幅の割りに短い打製石斧。刃部を再生したか
0778	PJ-46	打製石斧	頁岩	－	－	47.0	9.0	35.20	刃部折損
0779	PJ-46	剥片	頁岩					43.40	
0780	PJ-46	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/2	95.0	43.0	15.0	54.50	刃部折損
0781	PJ-46　49	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	123.0	55.0	17.0	150.20	PT576 西脇、床面から 30 ㎝浮いて出土。
0782	PJ-46	打製石斧	粘板岩	3/4	105.0	45.0	13.0	93.80	側縁折損
0783	PJ-46	打製石斧	砂岩	3/4	93.0	36.0	12.0	43.40	刃部、基部折損
0784	PJ-46	横刃型石器	砂岩	1/2				37.10	円礫面が残る
0785	PJ-46	打製石斧	砂泥交互	1/2		50.0	19.0	95.40	刃部折損。円礫面が残る。
0786	PJ-46	打製石斧	砂泥交互	3/4	105.0	38.0	13.0	62.30	
0787	PJ-46　18	打製石斧	粘板岩	1/1	95.0	41.0	16.0	88.30	PT578 北、床面から 9 ㎝浮いて出土。刃部の使用痕、線条痕が顕著
0788	PJ-46	礫器	頁岩	1/1	64.0	102.0	30.0	199.30	側縁が鋸歯縁状
0789	PJ-46	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	123.0	57.0	16.0	161.00	円礫面が残る
0790	PJ-46　55	打製石斧	頁岩	1/1	111.0	52.0	15.0	110.90	PT592 西脇、床面から 5 ㎝浮いて出土
0791	PJ-46	打製石斧	頁岩	－	－	40.0	17.0	63.80	円礫面が残る。刃部折損
0792	PJ-46	打製石斧	頁岩	－	－	40.0	10.0	29.80	
4168	DK-325	打製石斧	黄色風化泥岩	1/1	81.0	61.0	20.0	99.60	DK325 出土。基部折損
4169	DK-325	大形粗製石匙	砂泥交互	3/4	59.0	69.0	9.0	29.80	DK325 出土。
4170	DK-325	石錐	黒曜石	1/1	32.0	15.0	8.0	2.90	DK325 出土。錐部先端に使用痕。
4171	DK-325	石鏃	黒曜石	1/1	12.9	13.7	2.2	0.24	DK325 出土。
4178	DK-326	石鏃	黒曜石	1/2	－	16.1	3.5	(0.59)	DK326 出土。
4179	DK-346	石鏃	珪質頁岩	1/1	22.1	14.2	2.2	0.55	DK346 出土。青灰色の珪質頁岩。
4415	PT-579	打製石斧	砂泥交互	－	66.0	38.0	7.0	18.80	PT576 出土。打製石斧からはがれたような剥片
4416	PT-576	原石	黒曜石		47.0	26.0	22.0	29.40	PT576 出土。白色の夾雑物が多量に含まれる粗悪な黒曜石原石
4417	PT-576	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	33.0	28.0	11.0	8.00	PT576 出土。やや透明で夾雑物がない良質の黒曜石

PJ046 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	現存厚 (cm)	重量 (g)	観察所見
10580	PJ-46　61	台石	安山岩類	1/2	(22.4)	(13.7)	(5.0)	2,904	PT576 西脇、床面から 9 cm浮いて出土。PJ-17 号住居炉石に使用されていた台石片（10203）と接合。　節理面の平坦な割れ面以外は全体に平滑に磨耗。広い平面が特に磨耗している。
10581	PJ-46　29	磨石類	安山岩類	1/1	10.1	8.3	3.7	468	PT592 北側、床面で出土。平坦面２面が平滑に磨耗し、敲打痕あり。側面にも敲打痕。
10582	PJ-46　6	磨石類	花崗岩類	1/1	10.6	8.9	6.7	817	炉東脇､床面から 7 cm浮いて出土。１面が平滑に磨耗し､敲打痕あり。
10583	PJ-46　60	磨石類	花崗岩類	1/1	9.3	9.3	6.8	734	PT592 北西脇、床面で出土。明瞭な使用痕はないが、自然面よりも平滑な箇所がある。
10584	PJ-46　7	ハンマー	砂岩類	3/4	9.9	7.4	3.3	314	炉東脇、床面から 8 cm浮いて出土。脆い粗粒の砂岩で使用痕は不明瞭だが、敲打により生じたと思われる凹みあり
10585	PJ-46　25	ハンマー	砂岩類	1/1	9.8	3.9	2.7	160	DK325 西脇、床面で出土。平坦面と端部に敲打痕。
10586	PJ-46	研磨具	頁岩類	1/1	5.5	4.4	1.4	47	扁平の小さな円礫。使用痕は認められない。
10587	PJ-46	原石	滑石	不明	(4.8)	4.6	(1.3)	39	平坦面に線条痕、側縁には若干の剥離がある。
10588	PJ-46	装身具	滑石	1/1	2.4	2.0	0.3	3	小形、扁平の滑石製品。未成品と思われる。研磨成形痕あり
10589	PJ-46	装身具	滑石	1/1	2.9	3.8	0.6	11	扁平の滑石製品。未成品と思われる。研磨成形痕あり
10590	PJ-46	磨製石斧	緑色岩	－				71	磨製石斧の破損片。再利用していない
10591	PJ-46　24	磨製石斧	緑色岩	－	(11.7)	5.2	(3.3)	246	PT794 北、床面から 26 cm浮いて出土。刃部側破片。J-6-1 グリッド出土の身部破片 11571 と接合。基部はみつからない。割れ面側の側縁に若干の不規則な剥離あり。楔のように使用したか。ずんぐりした楕円の断面形から中期の磨製石斧と思われる。
10592	PJ-46　17	磨製石斧	緑色岩	－				25	DK326 北、床面から 16 cm浮いて出土。乳棒状磨製石斧の破損片。研磨整形されているが敲打痕も残る。
10593	PJ-46	ハンマー	安山岩類	－				82	棒状の安山岩の端部に面取りしたような敲打痕が認められる
10594	PJ-46	ハンマー	砂岩類	－				83	棒状砂岩のハンマー。節理面で平坦に割れている。
10595	PJ-46　40	円礫	安山岩類	－				271	PT592 北、床面から 11 cm浮いて出土。台石か石皿の破片と思われる
10596	PJ-46　20	磨石類	安山岩類	1/2	(8.9)	6.8	6.2	474	PT578 北､床面から 7 cm浮いて出土。表裏面と側面に研磨痕と敲打痕。割れ面が磨耗。端部に敲打痕。敲石に転用か。
10597	PJ-46　19	磨石類	安山岩類	－				166	PT578 上、床面から 14 cm浮いて出土。
10915	DK-325	ハンマー	砂岩類	1/2				87	端部に敲打痕。PJ75 出土の 10827 と同一母岩。
10916	DK-346　1	台石	安山岩類	1/1	33.4	26.5	7.5	9,400	DK346 上、床面で出土した扁平円礫の台石。片面の中央部分に摩耗と敲打痕がみられる。一部が黒く変色。

PJ050 号住居

位　　置：D-5、D-6 グリッドに位置する。土層断面観察から PJ042 号住居と PJ054 号住居に切られる最も古い段階の遺構と判断した。DK232、DK281 などの土坑に切られる。DK420 号以降の番号を付した土坑は住居床面で検出され、住居に先行する遺構である可能性がある。

規　　模：周溝とみられる小溝で囲まれた隅丸長方形で、長軸 8m、短軸 7m 程度の大きさとみられる。竪穴は深さ 40cm が残る。

埋　　土：黒褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積する埋土で、PJ054 号住居と重複する側には黄褐色土（⑥層）の塊が観察された。この黄褐色土塊は 60cm ほどの広がりと 10cm から 20cm ほどの厚みがあったが、住居内の他の地点では検出されなかった。

床　　面：褐色土の地山を平坦に掘り込み、床面としている。地床炉周辺がややくぼみ、やや硬く踏みしまっていた。貼床は検出されなかった。

炉　：DK437 号土坑と名称を付したくぼみの周囲の床面とくぼみ底面が被熱、焼土化し、地床炉と思われる。このほか、PT851 東側の床面も被熱、焼土化していて、古い段階の地床炉と思われる。

周　　溝：住居平面形に沿って同心円状に数条の小溝を検出した。小溝の軌跡は内側が円形に弧を描き、外側は隅丸方形である。

柱　　穴：床面で柱穴を精査した際、DK419 号土坑が明瞭に検出され、もっとも新しい段階の柱穴と想定された。これを起点に大きさ、深さが揃う柱穴の組み合わせを検討した。

最も新しい段階の柱穴は、DK419 号土坑、PT852、PT856、PT814、PT543、PT859 号ピットの 6 基と思われる。これらは深さが 55cm から 80cm と深く、DK419 号土坑、PT802 と PT859 号ピットで柱の抜き取りが確認されるなど特徴が共通し、掘立柱建物のような整然とした柱穴配置を示す。

先行する古い段階の柱穴は PT819、PT853、PT854、PT858 号ピットの 4 基を想定した。

周溝に沿って小ピットが多数検出された。これらは深さが 15cm 程度である。

出土遺物：土器はいずれも床面から浮いた埋土中で出土した。わずかに床面で出土した土器もあるが小破片であり、住居で使用され遺棄された状況を示すものはなかった。出土位置を記録した土器は、関山式、中越式、神之木式土器が床面から埋土下層で出土し、一方、有尾式はまとまった大きな破片が多いものの埋土上層で出土する傾向が認められた。

出土土器の総量は 36,635g で、内訳は木島式 153g、関山式 755g、中越式 8,480g、神之木式 10,257g、有尾式 6,777g、釈迦堂 Z3 式 186g、諸磯式 2,113g、堂之上 Z 式 42g などである。

出土した石器は、石鏃 36 点、小型精製の石匙 7 点、削器 2 点、石錐 2 点、両極石器 4 点、打製石斧 1 点、横刃形石器 3 点、石皿 3 点、台石 1 点、磨石類 7 点、稜磨石 1 点、スタンプ形石器 1 点、黒曜石と石英岩の原石 8 点、残核 1 点、剥離のある剥片 14 点、剥片 1 点、ハンマー 4 点、土器製作に係ると思われる研磨具 1 点、礫器 2 点、鋸歯縁石器 1 点である。このほかに黒曜石を主とした剥片、砕片 754 点、2,131g が出土した。地床炉の北東で黒曜石原石 5 点がまとまって出土した。

時　　期：埋土下層から出土した神之木式の大きな土器破片が本住居の廃絶時期を示す可能性が高いと思われるから、本住居は神之木式を伴う中越Ⅳ式期に位置づけられると推測される。

PJ050 号住居　土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-543	50 住内	45*41	65		新段階の柱穴。DK232 号土坑に切られる。
PT-544	50 住内	30	10	10YR2/2（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-547	50 住内	38*31		10YR2/3（黒褐）に焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-792	50 住 北西壁	25*(15)	23	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-802	50 住内	40	35	10YR4/4（褐）に 10YR3/4（暗褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱穴 PT859 の抜き取り痕か
PT-814	42 住内	38*30	55	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	新段階の柱穴
PT-819	42 住 北東壁	20	35	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	古段階の柱穴
PT-851	50 住内	33*(23)	53	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-852	50 住内	30*30	54	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-853	50 住 西壁	27*(22)	22(40)	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	古段階の柱穴
PT-854	50 住内	33*28	45	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	古段階の柱穴
PT-856	50 住内	27*(22)	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	新段階の柱穴
PT-858	50 住内	20	42	10YR2/3（黒褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-859	50 住内	59*-	80	10YR4/4（褐）に 10YR3/4（暗褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT791 に切られる。新段階の柱穴。柱抜き取りか
PT-876	50 住 西壁	23*(23)	53	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
DK-419	50 住内	100*(82)	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 10%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	新段階の柱穴。大きな掘方は抜き取りによるものか。
DK-431	50 住内	66*65	6	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	埋土に炭化材が土壌化したような漆黒の土壌
DK-432	50 住内	60*20	7	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 30% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	埋土に炭化材が土壌化したような漆黒の土壌
DK-433	50 住内	30	25	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が -% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
DK-434	50 住内	54*(45)	15	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/6（褐）が -% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
DK-435	50 住内	36*45	40	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱痕あり
DK-437	50 住内	50	7	黒褐色土に焼土粒子が混じる	PJ50 炉跡。風化した扁平花崗岩あり

1層　10YR3/4(暗褐)に10YR3/3(暗褐)が3%、炭化物1%混じるシルト粒土。粘やややあり。ややしまる。

2層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR4/6(褐)が1%炭化物1%混じシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

3層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR3/4(暗褐)(焼土)3%、炭化物1%じるシルト粒土。粘性ややあり。ややしまる。

4層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。やしまる。

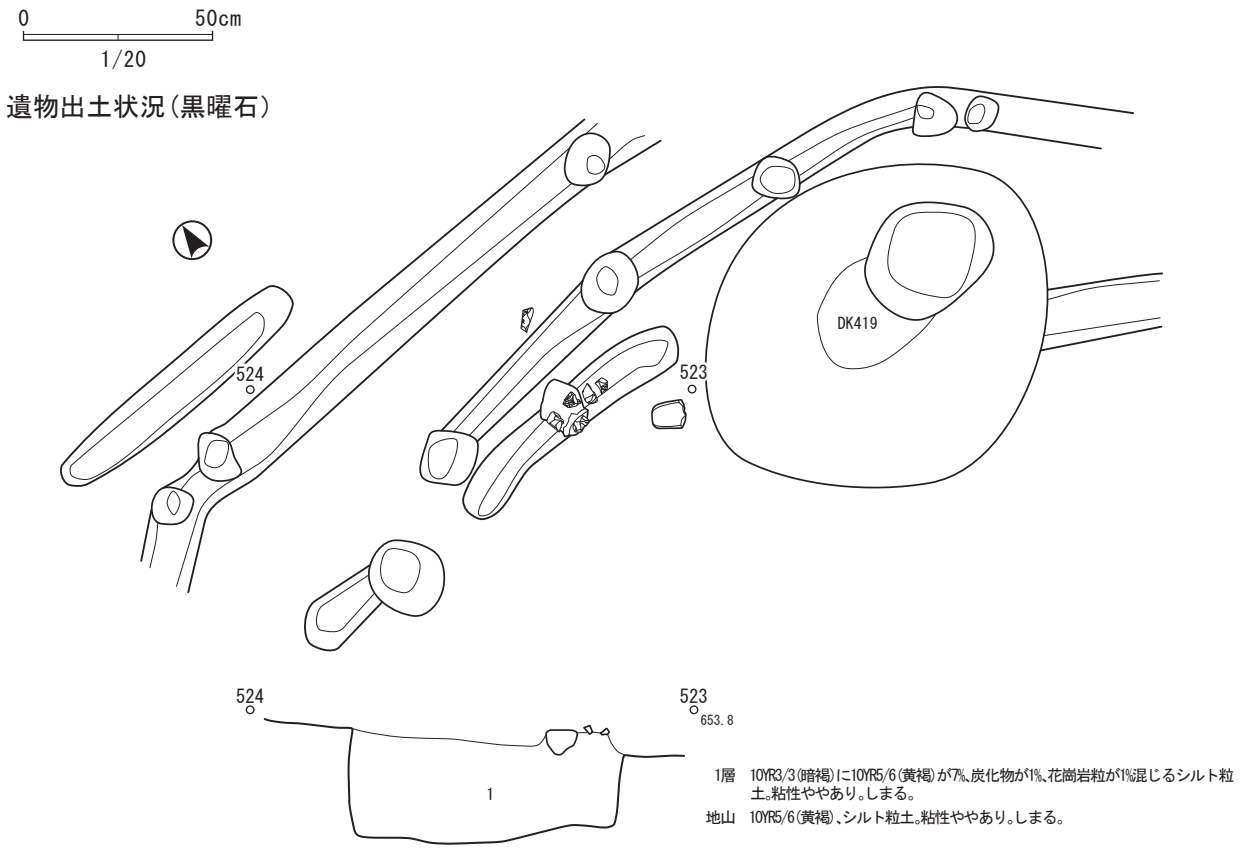
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR2/2(黒褐)が5%、10YR4/6(褐)が10%混じるシルト土。粘性ややあり。ややしまる。

6層　10YR5/6(黄褐)に10YR2/3(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあややしまる。

7層　7.5YR4/6(褐)に10YR2/3(黒褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあややしまる。(焼土)

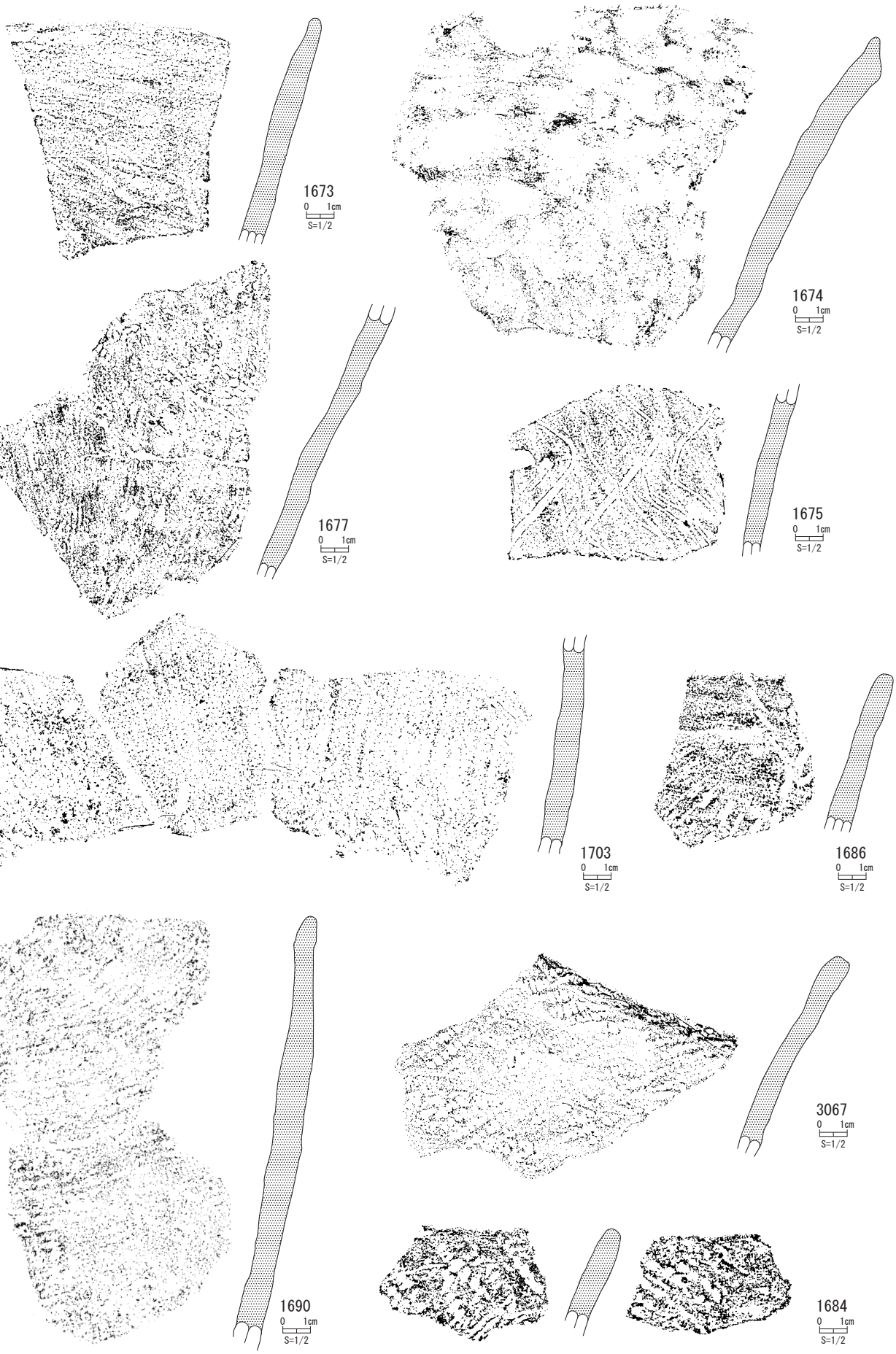
9層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が3%混じるシルト土。粘性ややあり。ややしまる。

PJ050 号住居

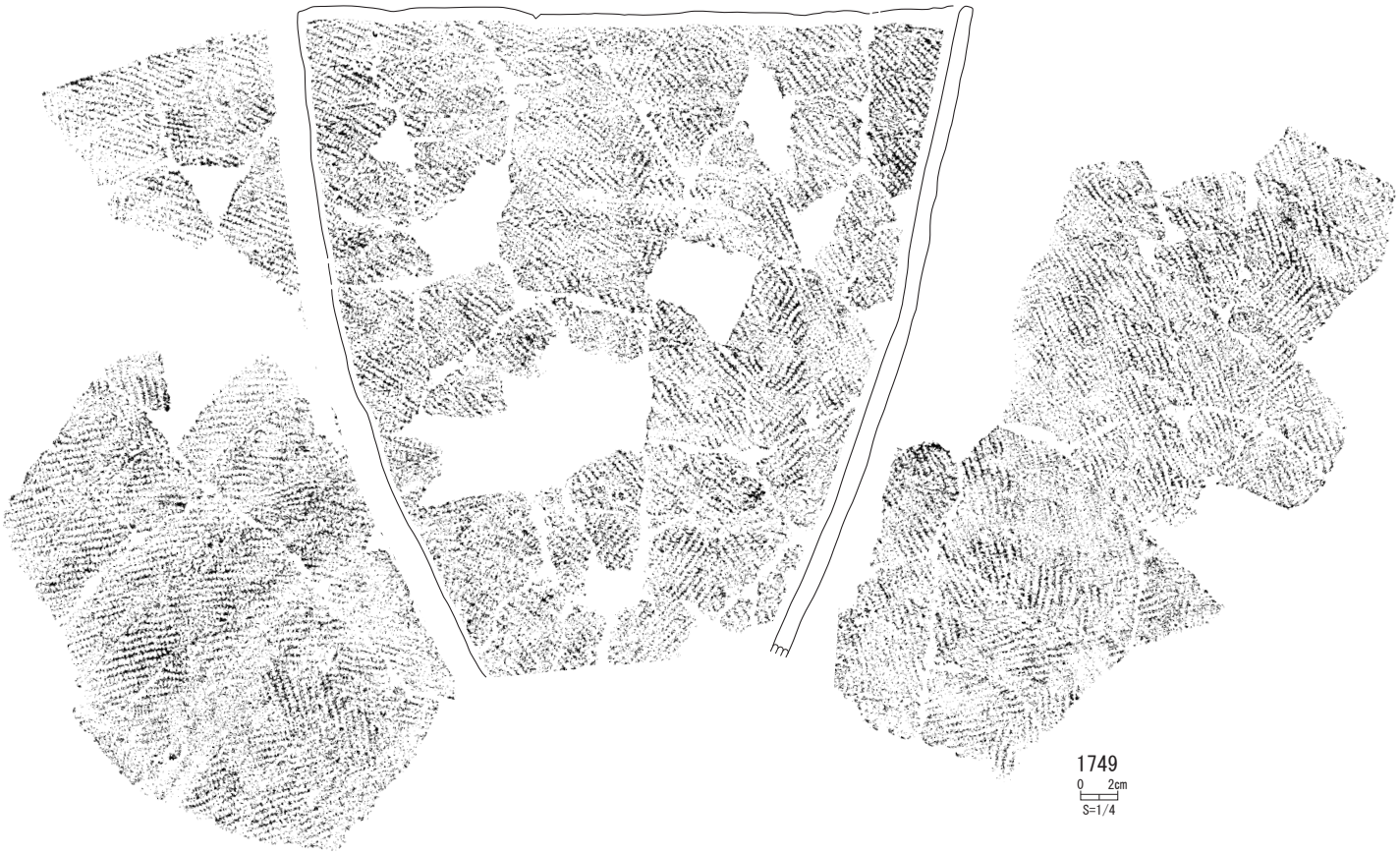


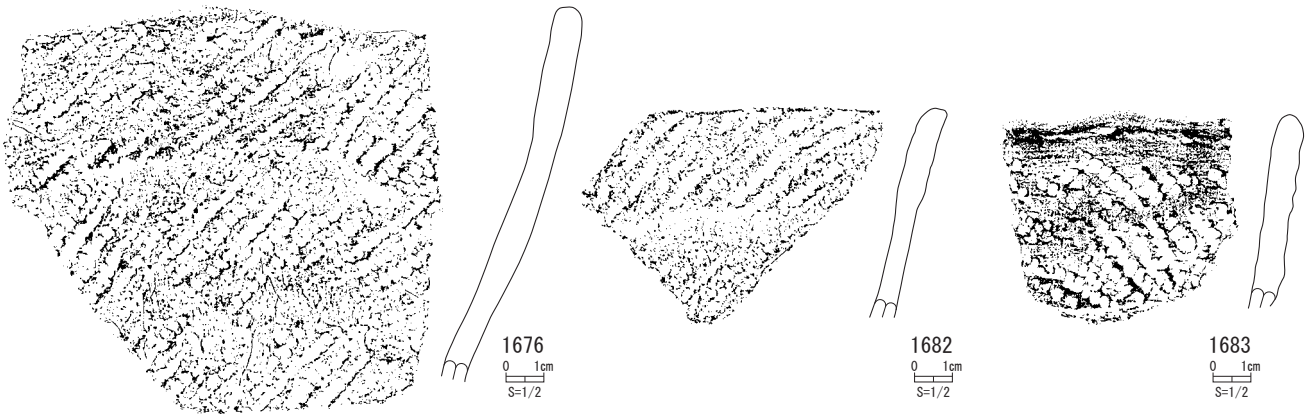
PJ050 号住居　遺物出土状況

写真９　遺跡近景（東から甲斐駒ヶ岳を望む）

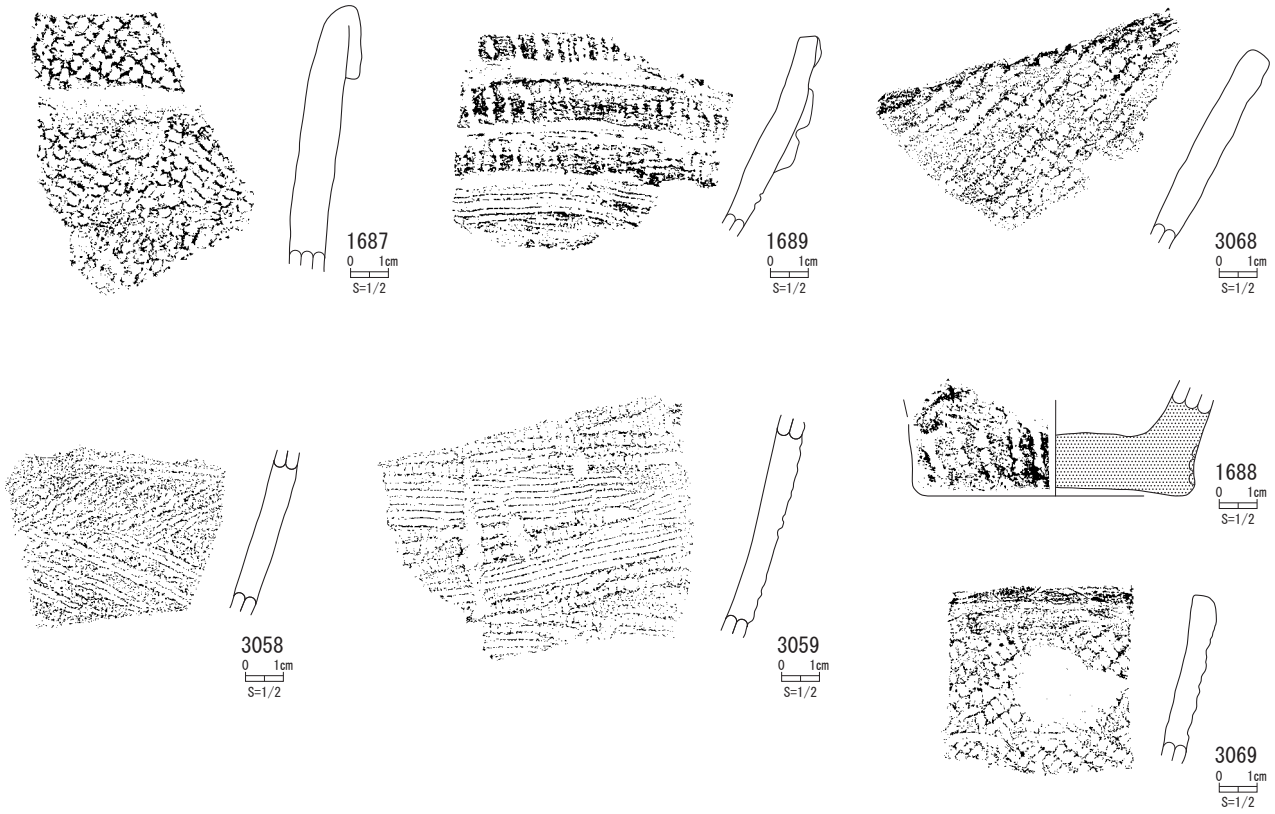


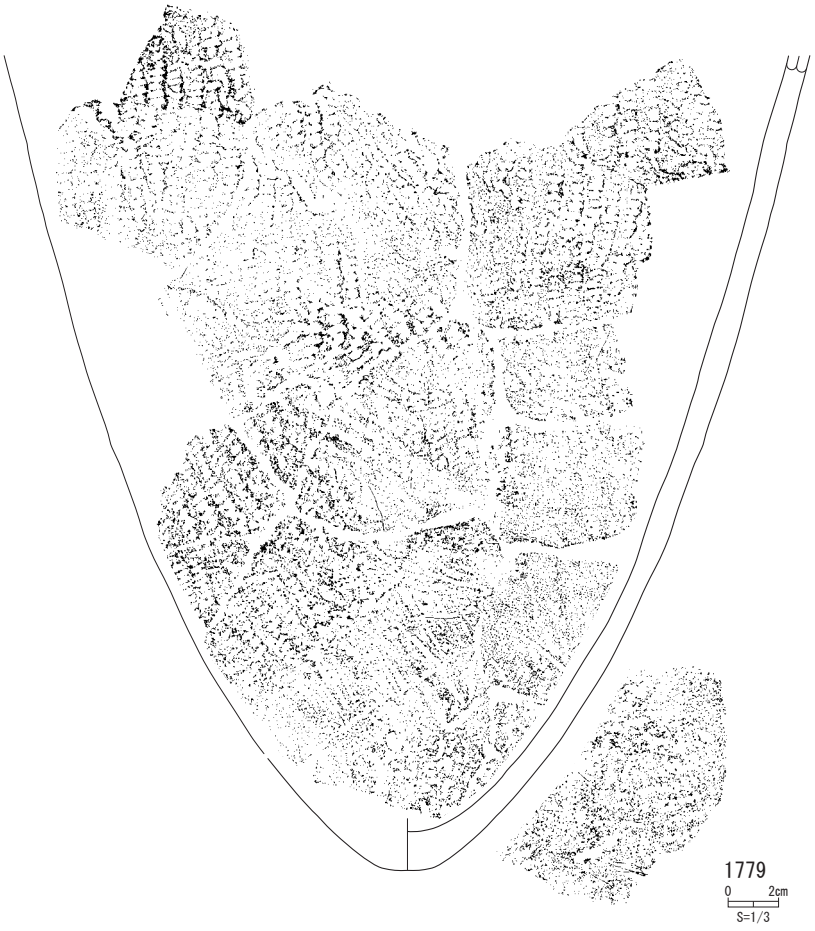
PJ050 号住居出土遺物





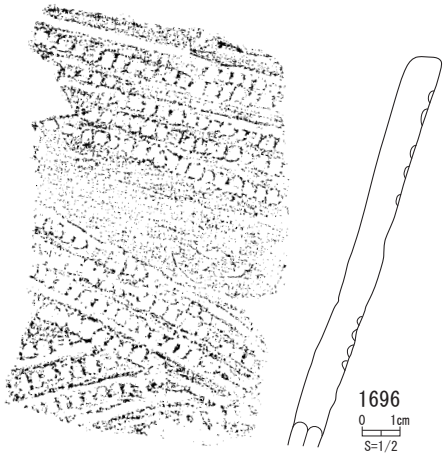
PJ050 号住居出土遺物

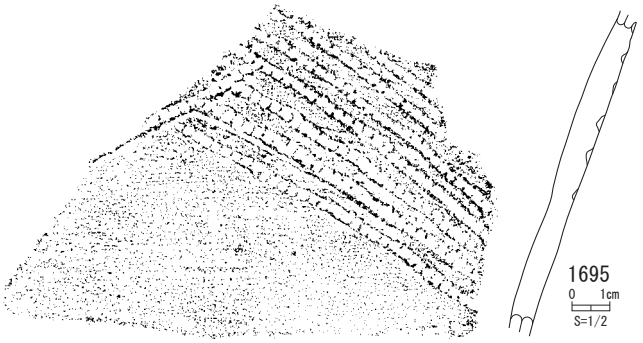


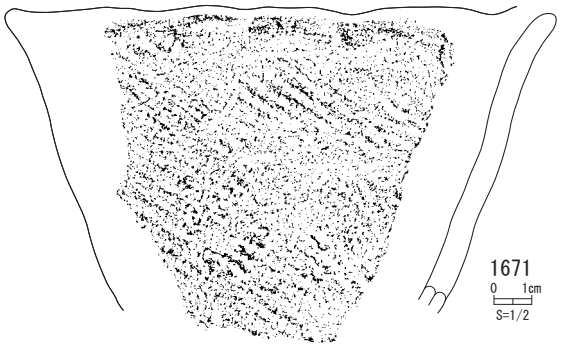


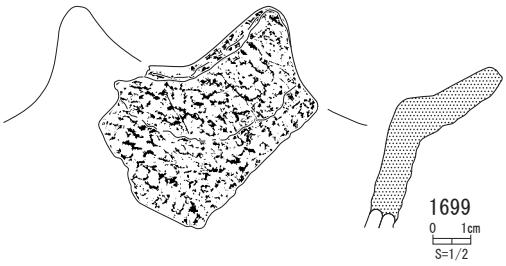
PJ050 号住居出土遺物

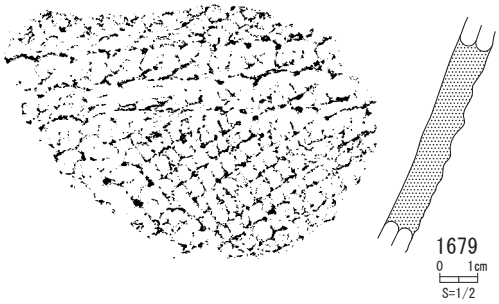
PJ050 号住居出土遺物

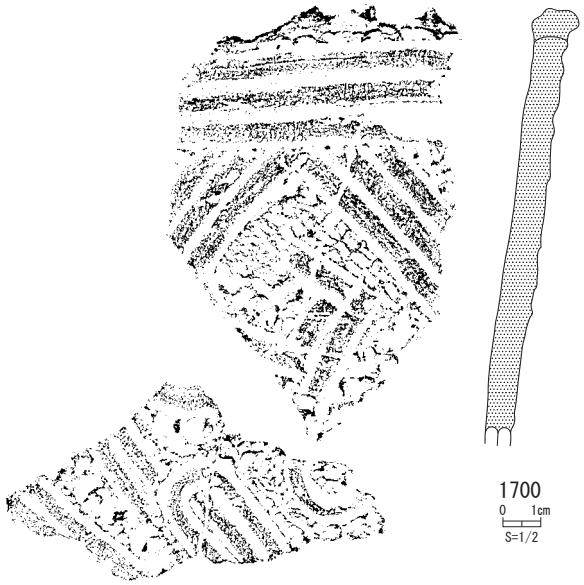


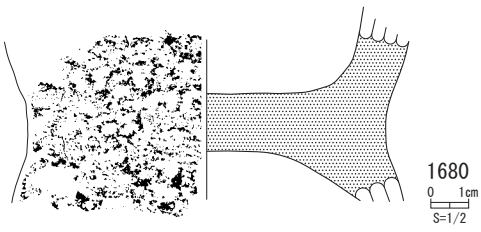


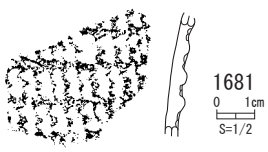




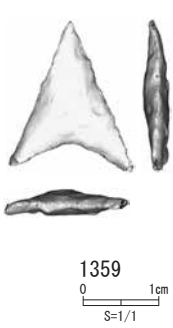


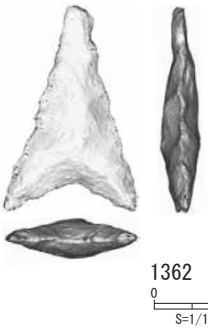






PJ050 号住居出土遺物


1359
0 1cm
S=1/1


1362
0 1cm
S=1/1

1365
0 1cm
S=1/1

1366
0 1cm
S=1/1

1367
0 1cm
S=1/1

1369
0 1cm
S=1/1

1370
0 1cm
S=1/1

1373
0 1cm
S=1/1

1375
0 1cm
S=1/1

1379
0 1cm
S=1/1

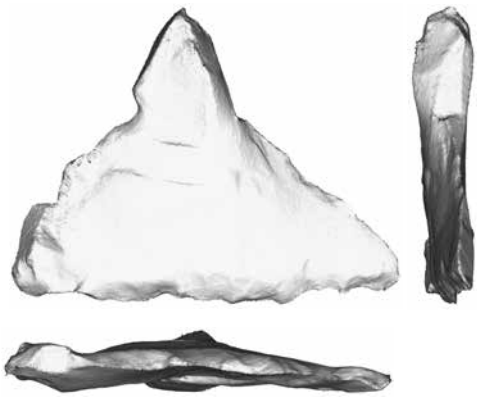
1380
0 1cm
S=1/1

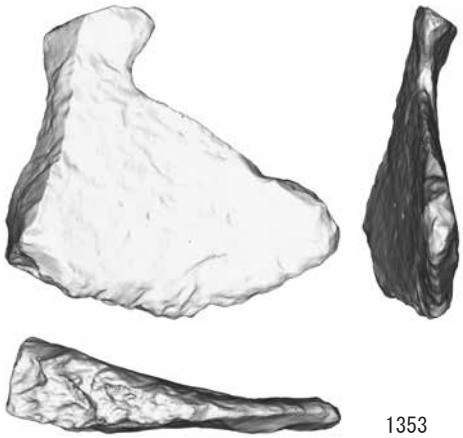
1383
0 1cm
S=1/1

4368
0 1cm
S=1/1

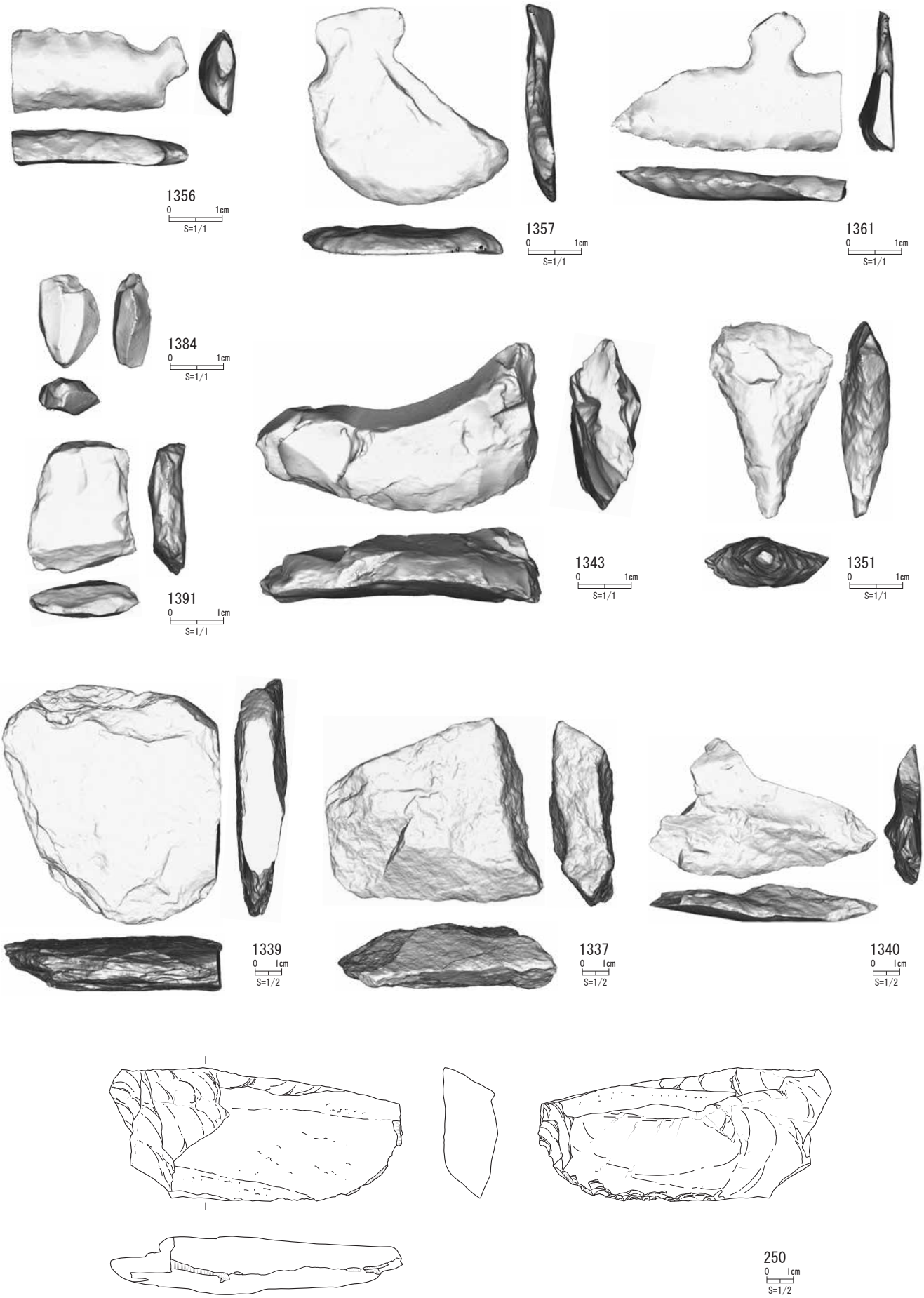
1341
0 1cm
S=1/2

1348
0 1cm
S=1/2

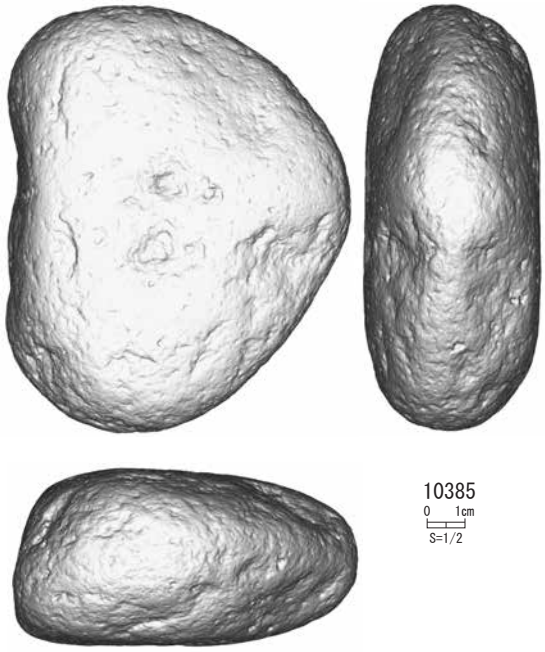

1352
0 1cm
S=1/1

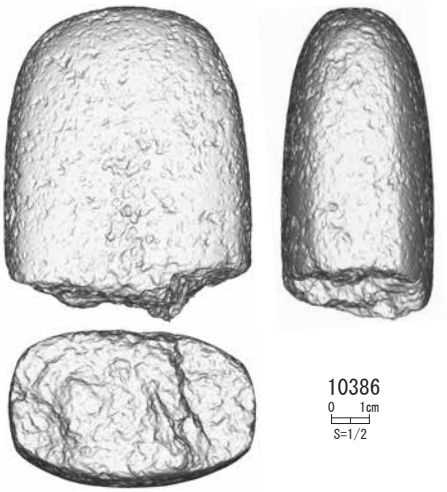

1353
0 1cm
S=1/1

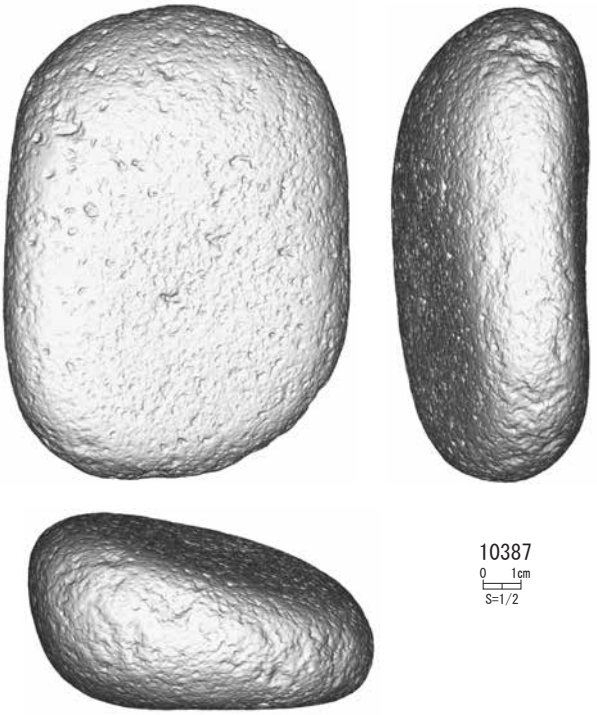
PJ050 号住居出土遺物

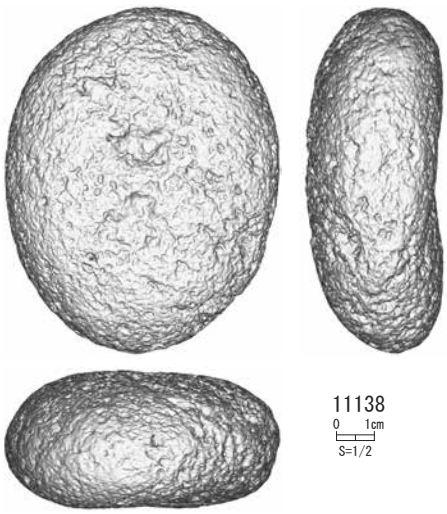


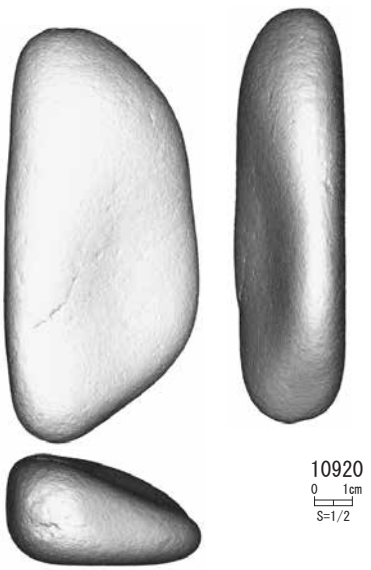
PJ050 号住居出土遺物



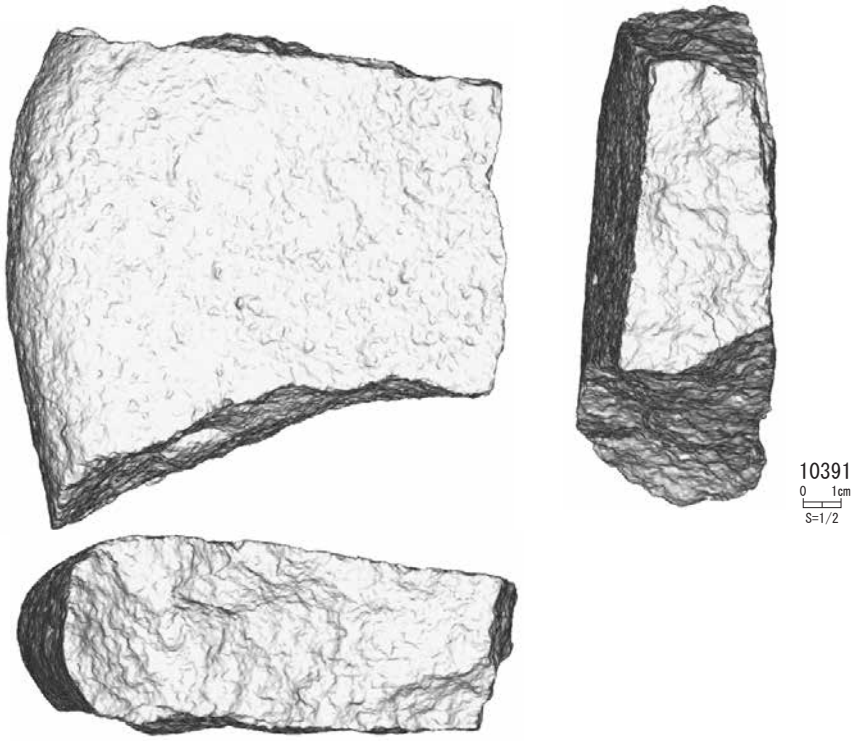


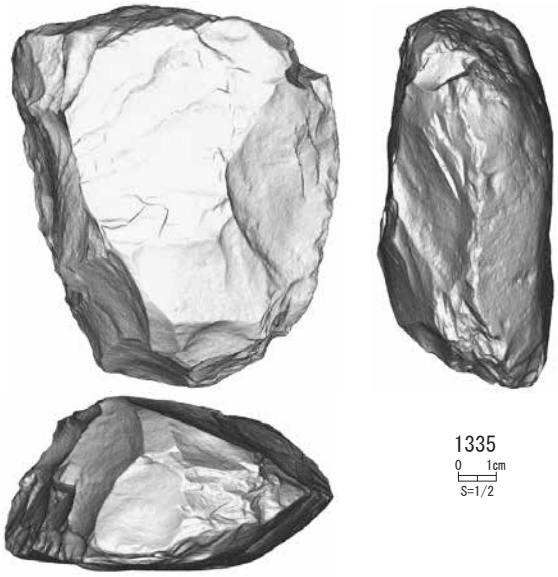


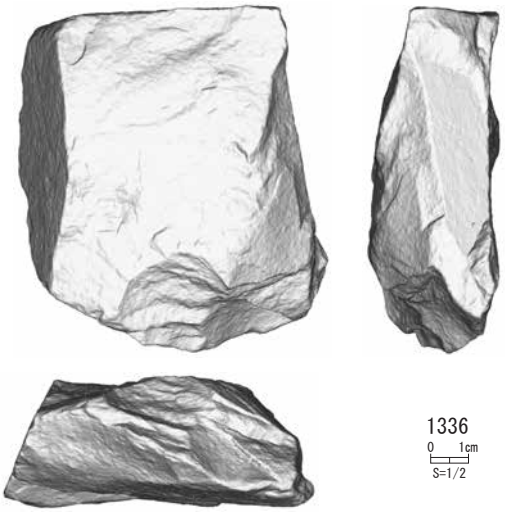


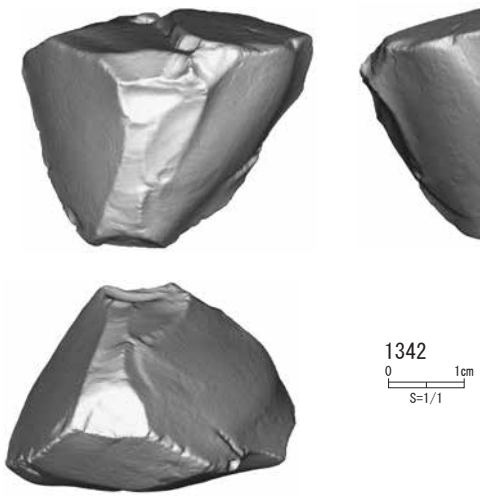


PJ050 号住居出土遺物

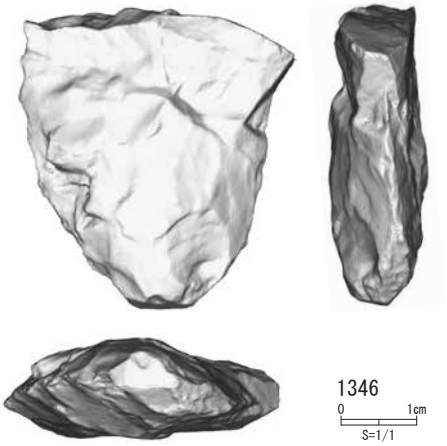


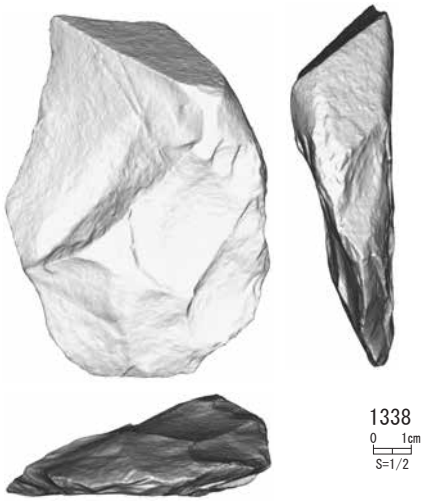


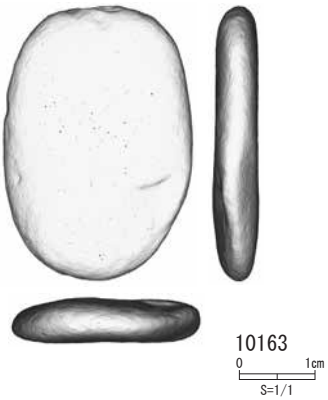


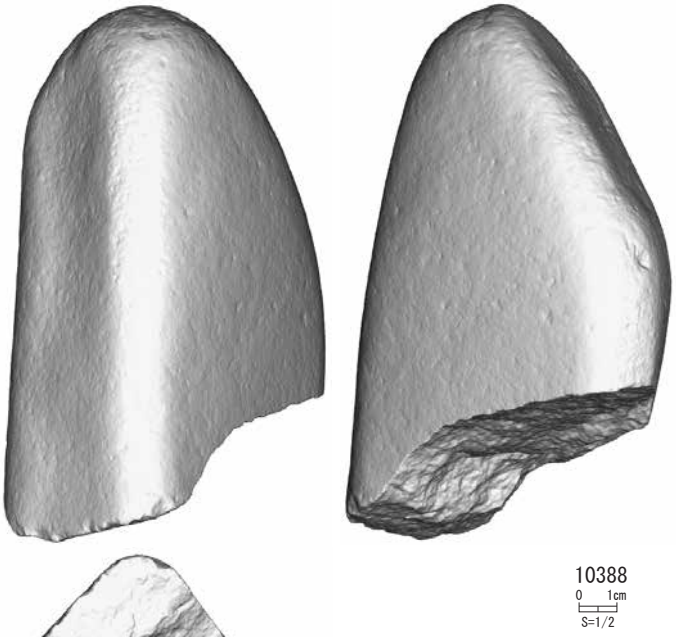


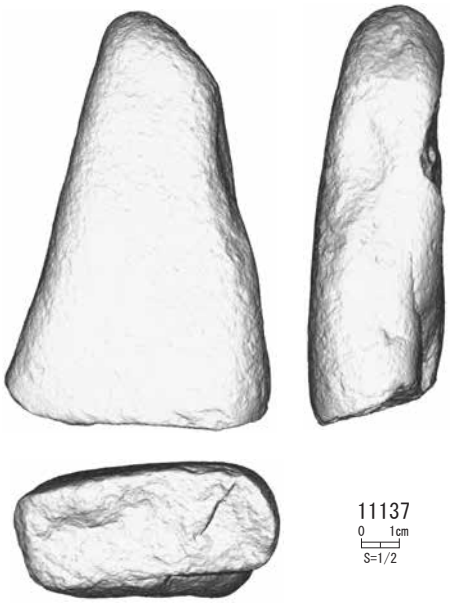
PJ050 号住居出土遺物











PJ050 号住居出土遺物

PJ050 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1671		PJ-50	口縁部～胴部	(14.6)	−	−	63.0	破片	5YR4/3 5YR4/3	うねった口唇部、斜縄文。内面は指頭圧痕がやや残るヨコナデ調整。金色雲母が目立つ胎土で、繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式もしくは諸磯式か
1672		PJ-50	口縁部	−	−	−	7.0	破片	10YR7/4 7.5YR6/4	波状口縁の口唇部を外側からうねりを付けるように押圧しながら沈線と刻みを施文。口縁部は集合沈線の格子文。内面は指頭圧痕が顕著。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。木島式
1673		PJ-50	口縁部	−	−	−	194.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/2	外面は凹凸が残るヨコナデ、内面は指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
1674		PJ-50 7	口縁部～胴部	−	−	−	234.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR3/2	地床炉上面、床面から 20cm 浮いて出土。内外面に指頭圧痕の凹凸が激しい。胎土に繊維が混じる。中越Ⅳ式か
1675		PJ-50	胴部	−	−	−	54.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	浅く、蛇行する沈線文。内外面に凹凸が残るヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式併行
1676		PJ-50 21	口縁部～胴部	−	−	−	214.0	破片	5YR5/6 5YR4/4	PT854 脇、床面から 10cm 浮いて出土。縄文地文。口縁部はわずかに肥厚し、輪積み痕が残る。内面は指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。神之木式
1677		PJ-50	胴部	−	−	−	115.0	破片	2.5YR4/3 2.5YR4/4	外面に部分的な縄文、縦ナデ調整。内面に輪積み痕が残るヨコナデ調整。中越Ⅳ式併行
1679		PJ-50 PJ-54、DK-370、DK-396、DK-419	胴部	−	−	−	199.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/2	末端環付縄文。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含む。関山式
1680		PJ-50 55	胴部～底部	−	−	−	98.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	PT854 脇、床面で出土。末端環付縄文。脚付底部破片。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含む。1679 と同一個体。関山式
1681		PJ-50	胴部	−	−	−	13.0	破片	10YR4/2 7.5YR3/1	二又工具の刺突文。内面は指頭圧痕がやや残るナデ調整。器壁は薄い。胎土に繊維を含まない。清水ノ上Ⅱ式
1682		PJ-50	口縁部	−	−	−	32.0	破片	5YR4/4 5YR4/3	口縁部がわずかに肥厚し、輪積み痕のような段差が残る。0 段多条。内面は指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神之木式
1683		PJ-50	口縁部	−	−	−	201.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/2	口縁部は肥厚しないが、輪積み痕が残る。内面指頭圧痕がやや残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
1684		PJ-50	口縁部	−	−	−	27.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	口縁部の内外面に縄文を施文。胎土に繊維を含む。神之木式併行
1686		PJ-50	口縁部	−	−	−	46.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR4/3	口縁部がわずかに肥厚し、輪積み痕が残る。櫛歯状工具？で縦方向、斜め方向に雑に刺突。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。神之木式
1687		PJ-50	口縁部	−	−	−	53.0	破片	5YR5/6 7.5Y4/3	肥厚する口縁。外面は雑な羽状縄文施文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
1688		PJ-50	胴部～底部	−	−	7.2	129.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR6/6	底部下端に櫛歯状工具の刺突文。やや上げ底気味。胎土に繊維を含む。神之木式
1689		PJ-50	口縁部	−	−	−	39.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR5/6	肥厚する口縁に２本の扁平隆帯。櫛歯状工具の刺突。隆帯の下位に櫛歯状工具の平行沈線文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
1690		PJ-50 13	口縁部～胴部	−	−	−	269.0	破片	7.5YR4/6 7.5YR3/2	住居中央、床面から 8cm 浮いて出土。縄文地文。内面は指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。神之木式
1691		PJ-50	口縁部	−	−	−	58.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/1	集合沈線文と櫛歯状工具の刺突。内面は指頭圧痕がやや残るがていねいなヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式
1692		PJ-50	口縁部	−	−	−	35.0	破片	7.5YR6/6 5YR4/3	波状口縁。竹管を斜めに深く刺突。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含む。有尾式
1693		PJ-50	口縁部	−	−	−	23.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	波状口縁。連点状刺突で菱形文を描く。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式
1694		PJ-50	口縁部	−	−	−	25.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/3	厚く肥厚する口縁部と口唇部にずらさない連点状刺突。内面はていねいなナデ調整。有尾式か
1695		PJ-50 3	胴部	−	−	−	90.0	破片	5YR6/6 5YR4/4	DK419 上面、床面から 27cm 浮いて出土。連点状刺突で菱形文を描く。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式
1696		PJ-50 3、PJ-50	口縁部～胴部	−	−	−	93.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/3	DK419 上面、床面から 27cm 浮いて出土。ゆるい波状口縁。口縁上端に連点状刺突列。下位に連点状刺突で菱形文。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式
1697		PJ-50	口縁部	−	−	−	82.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/1	口縁部に小さな波頂部。ヘラ状工具の先端を斜めに深く刺突した連点状刺突文。格子目状の条線。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。有尾式

PJ050 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1698		PJ-50 、PJ-41、PJ-42、PJ-54	口縁部	−	−	−	315.0	破片	5YR6/6 5YR5/6	破片が PJ41、PJ42、PJ50、PJ54 号住居の埋土から出土。波頂部の左右に小突起がつく波状で肥厚する口縁。肥厚口縁部に縦位の連点状刺突、下位は竹管で菱形、弧状の文様を描き、脇に連点状刺突。菱形、弧状の平行沈線の内部に竹管を強く押引きして貼付文のような小さな瘤状突起を作り出す。口縁部文様帯下端は、2 本の細隆線で区画し、胴部は羽状縄文。内面は平滑にナデミガキ。胎土に繊維を含まない。有尾式
1699		PJ-50	口縁部	−	−	−	45.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR3/2	片口土器破片。縄文地文。内面はナデ調整。胎土に繊維を含む。関山式
1700		PJ-50	口縁部～胴部	−	−	−	147.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	口唇部に 3 つのつまみだした小突起。口縁部は縄文を施文した後、磨り消すように竹管で菱形文を施文。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含む。関山式
1701		PJ-50	口縁部	−	−	−	36.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/3	肥厚する口縁に大きな爪形文。口唇部にまばらな刻み。胴部は縄文。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。堂之上 Z 式
1702		PJ-50	口縁部	−	−	−	10.0	破片	10YR6/4 10YR6/4	口縁部に格子目文。器壁は薄手。内面は指頭圧痕が目立つ。胎土に繊維を含まない。木島式
1703		PJ-50	胴部	−	−	−	579.0	破片	10YR3/1 5YR5/6	外面は粗雑な縦ナデ。内面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
1748		PJ-50 9、PJ-50 、PJ-42	口縁部～胴部	(31.0)	−	−	487.0	破片	7.5YR5/6 7.5YR5/4	わずかに肥厚する口縁部には輪積み痕が明瞭に残る。外面は雑な羽状縄文。内面は指頭圧痕が顕著で、工具でまばらにナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
1749		PJ-50 4、PJ-50 6、PJ-50 8、PJ-50 12、PJ-50 13、PJ-50 16、PJ-50 23、PJ-50 、E-6-2	口縁部～胴部	36.2	−	−	3,225.0	1/2	2.5YR4/6 2.5YR3/4	埋土下層から上層で破片が散在して出土。結節縄文。内面は輪積み痕の凹凸が残る雑なヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神之木式
1779		PJ-50 2、PJ-50 3、PJ-50 、E-6-8	胴部～底部	−	−	丸底	947.0	1/3	5YR4/4 7.5YR4/3	外面縄文で結節縄文もある。内面は指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式と神之木式の折衷
1780		PJ-50 17、PJ-50 19、PJ-50 、E-6-11	口縁部～胴部	(37.0)	−	−	1,378.0	1/5	5YR6/6 5YR4/3	PT856 西側の埋土上層で出土。波状口縁。口縁部に平行沈線と連点状刺突文。胴部は羽状縄文。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式
3058		PJ-50	胴部				25.0	破片	5YR6/6 7.5YR6/6	絡状体の回転施文。内面指頭圧痕が残るナデ調整。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
3059		PJ-50	胴部				52.0	破片	5YR5/6 7.5YR5/4	櫛歯状工具の刺突と条線。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
3066		PJ-50 17、PJ-50 64	口縁部～胴部				167.0	破片	5YR4/6 7.5YR3/2	PJ42b 号住居出土。羽状縄文。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。有尾式
3067		PJ-50 16	口縁部				68.0	破片	7.5YR7/6 5YR5/4	PJ42b 号住居出土。波状口縁。斜縄文。口唇部にも縄文施文。内外面に輪積み痕が残る。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を少量含む。神ノ木式
3068		PJ-50 64	口縁部				25.0	破片	7.5YR6/4 5YR5/4	PJ42b 号住居出土。波状口縁。斜縄文。口唇部にも縄文施文。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を少量含む。神ノ木式。3067 と同一個体か
3069		PJ-50 64	口縁部				20.0	破片	5YR6/6 5YR4/3	PJ42b 号住居出土。結節のある羽状縄文。内面ヨコナデ。胎土に繊維をわずかに含む。神ノ木式か有尾式

PJ050 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
0250	PJ-50　71 床直	横刃形石器	頁岩	1/1	51.0	11.1	22.0	109.00	礫面が残る剥片の薄い縁辺の両面に、刃部に直交する線条痕。軟質な対象物を断ち切るような動作で生じる使用痕か。石器形態から横刃形石器としておく。被熱して器体が変色
1335	PJ-50　71 床直	礫器	頁岩	1/1	100.0	83.0	42.0	469.00	PT851 西脇、床面出土。亜円礫を打ち欠き、縁辺部に刃部調整。表面が黄色く風化した頁岩
1336	PJ-50　38	礫器	砂岩	1/1	95.0	78.0	33.0	364.20	埋土上層出土。礫面、節理面の割れがある素材の薄い縁辺に刃部調整。
1337	PJ-50　48	横刃形石器	砂岩		71.0	80.0	24.0	148.90	南東壁際、埋土上層出土。折損した打製石斧のような形状だが、両極打法によらず刃部調整。
1338	PJ-50	鋸歯縁石器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	71.0	99.0	25.0	162.10	薄い縁辺に刃部調整。
1339	PJ-50　32	打製石斧	頁岩	1/1	91.0	81.0	19.0	191.60	礫面が残る剥片素材。典型的な短冊状でなく幅広。刃部片面に土ずれ痕。側面一面は節理面で割れ。反対側の縁辺と基部側？縁辺に若干のつぶれ。
1340	PJ-50	横刃形石器	泥岩	3/4	52.0	84.0	14.0	40.20	石匙のような形状だが抉り調整なし。裏面は礫面のままで、刃部に直交する線条痕あり。
1341	PJ-50	石匙	砂岩	1/1	45.0	76.0	9.0	30.60	大形粗製石匙。縁辺に片面から刃部調整。細粒砂岩
1342	PJ-50	原石	黒曜石					30.70	角礫ズリ。一発コア
1343	PJ-50	削器	黒曜石	1/1	32.0	55.0	12.0	16.60	削器と石錐の複合石器か。角礫ズリ面が残る素材の縁辺に掻器状刃部。刃部と反対側の尖った縁辺に尖った錐状突起を作出。若干のつぶれあり。縞のある半透明黒曜石
1344	PJ-50	削器	珪質頁岩	3/4	42.0	43.0	10.0	13.90	剥片素材の薄い縁辺に内湾する刃部。白筋のある青灰色珪質頁岩
1345	PJ-50	残核	石英岩	1/1	44.0	41.0	19.0	34.30	鉄分が沈着した節理面と剥離面で囲まれた残核。灰濁した石英岩
1346	PJ-50　45	剥離のある剥片	石英岩	1/1	35.0	39.0	13.0	18.60	埋土上層出土。縁辺に鋸歯状の刃部調整？　白濁のある石英岩
1347	PJ-50	剥離のある剥片	石英岩	1/1	31.0	17.6	10.8	5.30	稜がある断面三角形の剥片の縁辺に調整剥離。乳白色の夾雑物が不着。透き通った石英岩
1348	PJ-50	石匙	頁岩	1/1	26.0	70.0	7.0	17.70	縦長剥片素材の縦型石匙。表面が黄色く風化した頁岩
1349	PJ-50	剥離のある剥片	珪質頁岩	1/1				10.30	円礫面が残る不整形剥片の一辺に調整剥離。明灰色の良質な珪質頁岩。搬入石材
1350	PJ-50	剥離のある剥片	チャート	1/1				7.90	黒縞のある明灰色からオリーブ色の良質な石材の薄い縁辺に調整剥離。搬入石材
1351	PJ-50	石錐	頁岩	1/1	36.0	23.0	9.0	5.70	石鏃未成品のような形状。断面菱形で厚い。錐部先端折損。黒色鉱物粒子が混じる灰色頁岩
1352	PJ-50	石匙	玉髄	1/1	40.0	51.0	6.0	9.60	円礫面が残る素材。つまみ部抉り調整は片側のみ。未成品か。縞のある明灰色で透明感のある石材質
1353	PJ-50	石匙	安山岩	3/4	40.0	44.0	10.0	12.60	未成品。刃部、つまみ部抉りの調整は中途半端。発泡したような暗灰色、緻密な安山岩。搬入石材
1354	PJ-50　71 床直	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				14.00	PT851 西脇、床面出土。原石面が残る厚い素材に調整剥離。灰色夾雑物がある透明黒曜石
1355	PJ-50　52	原石	黒曜石	1/1				21.90	埋土上層出土。風化剥離面のような原石面。板状。灰色夾雑物が混じり、縞のある半透明黒曜石
1356	PJ-50	石匙	珪質頁岩	3/4	16.0	33.0	7.0	4.60	細長い器体。片側縁辺は片面から刃部調整。反対側縁辺は両面から鋸歯縁状に調整。つまみ部は刃部に対して斜めにつく。灰色の良質な石材質。搬入石材
1357	PJ-50	石匙	泥岩	1/1	38.0	40.0	5.0	6.80	軟質の石材質で器面が風化し、剥離面が不明瞭。
1358	PJ-50　周溝	剥離のある剥片	珪質頁岩	1/1				2.00	剥片の一辺に細かな剥離。明灰色の良質な石材質。搬入石材
1359	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	20.9	16.5	3.4	0.59	凹基、両面加工。ていねいなつくりの優品。透明な黒曜石
1360	PJ-50　62	石鏃	黒曜石	3/4	24.5	23.5	7.7	3.90	埋土上層出土。素材両面から調整。先端側欠損。漆黒黒曜石
1361	PJ-50	石匙	珪質頁岩	2/3	27.0	44.0	5.0	5.80	両面から調整した刃部。片側側縁折損。縞のある明灰色の良質な石材質。搬入石材
1362	PJ-50	石鏃	珪質頁岩	3/4	(28.3)	18.0	5.4	(1.48)	未成品。凹基、両面加工。断面菱形。先端が尖りきっておらず、縁辺調整もやや粗い。白筋のある青灰色珪質頁岩
1363	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	21.0	－	2.9	(0.61)	凹基、片面加工。ごく短脚。片脚欠損。透明な黒曜石
1364	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	22.8	－	4.4	(0.75)	凹基、両面加工。片脚欠損。灰色の大きな夾雑物が器体中心にある。つくりはていねいな優品。透明な黒曜石
1365	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	12.1	8.7	1.8	0.14	小型、凹基、両面加工。ていねいつくり。透明な黒曜石
1366	PJ-50　土サンプル②	石鏃	黒曜石	3/4	(14.4)	16.3	3.5	(0.46)	凹基、両面加工。鍬形鏃状。先端破損。斑入りの半透明黒曜石
1367	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	17.0	14.3	3.7	0.46	凹基、両面加工。黒縞のある透明黒曜石

PJ050 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
1368	PJ-50　63	石鏃	黒曜石	3/4	15.6	16.3	3.5	(0.56)	埋土上層出土。凹基、両面加工。先端欠損。灰色夾雑物が混じる透明黒曜石
1369	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	20.4	10.8	3.4	0.36	凹基、両面加工、細身。灰色夾雑物が混じる透明黒曜石
1370	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	19.4	18.0	2.4	0.45	凹基、両面加工。ていねいなつくりの優品。葛湯状の半透明黒曜石
1371	PJ-50　周溝一括	石鏃	黒曜石	1/1	21.8	16.1	7.6	2.32	原石面が残る厚い素材。先端部を作り出した段階。基部側が大きく欠損。縞のある透明黒曜石
1372	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	3.8	(0.45)	先端のみの破片。先端部に縦方向の剥離。黒斑の透明黒曜石
1373	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	(18.5)	15.6	2.9	(0.79)	凹基、両面加工、片脚欠損。ていねいなつくりの優品。黒縞のある透明黒曜石
1374	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	(18.5)	－	3.7	(0.62)	凹基、両面加工。両脚欠損。器面がすりガラス状。被熱か。黒斑の透明黒曜石
1375	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	15.6	13.2	3.2	0.40	凹基、両面加工。葛湯状の透明黒曜石
1376	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	2.7	(0.35)	凹基、両面加工、先端欠損。透明黒曜石
1377	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	23.1	16.1	5.4	1.61	未成品。両面加工。基部側折損。おおまかに三角形状を作り出した段階。黒縞の透明黒曜石
1378	PJ-50	剥離のある剥片	黒曜石		18.0			0.70	風化した原石面のある剥片の二辺に調整剥離。石鏃ブランクか。葛湯状透明黒曜石
1379	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	(16.4)	12.0	3.0	(0.37)	凹基、両面加工。透明黒曜石
1380	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	23.0	－	2.9	(0.51)	凹基、両面加工。片脚欠損。透明黒曜石
1381	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	20.3	16.1	3.8	1.10	未成品。表裏に主剥離面が残る。縁辺加工し三角形の形状を作り出した段階。葛湯状透明黒曜石
1382	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/2	11.2	－	2.7	(0.37)	凹基、両面加工。先端欠損。透明黒曜石
1383	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	20.8	－	3.2	(0.54)	凹基、両面加工、片脚欠損。透明黒曜石
1384	PJ-50	両極石器	黒曜石	1/1	18.0	11.0	6.0	1.40	小さな石核状の素材の両端に衝撃剥離。ブルーブラック系黒曜石
1385	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	20.0	16.3	2.1	0.61	未成品。表裏に主剥離面が残る薄手の剥片素材に縁辺のみ加工し、三角形状を作り出した段階。基部側欠損。透明黒曜石
1386	PJ-50	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	24.0			0.60	小さな縦長剥片の二辺に使用痕剥離。透明黒曜石
1387	PJ-50	両極石器	黒曜石	1/1	22.0	14.0	8.0	1.80	角礫ズリ面が残る砕片の両端に衝撃剥離。漆黒黒曜石
1388	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/3	14.0			0.27	未成品。稜がある剥片素材の縁辺のみ調整。基部側が欠損。透明黒曜石
1389	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	20.0		2.6	(0.46)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。器面がすりガラス状。被熱か。白筋のある漆黒黒曜石
1390	PJ-50	両極石器	黒曜石	1/1	16.0	20.0	4.0	1.60	原石面が残る剥片の両端に衝撃剥離。両極石器にしては素材がやや薄手。黒斑の半透明黒曜石
1391	PJ-50	両極石器	チャート	1/1	21.0	26.0	6.0	4.20	短冊状の剥片素材の両端に衝撃剥離。灰色、暗灰色斑のチャート。
1392	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/2	17.0		2.4	0.61	未成品。両面加工。先端のみの破片。黒斑の半透明黒曜石
1393	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/2	26.5		7.0	2.91	未成品。板状素材を両面加工。三角形の石鏃ブランク段階。側縁が大きく欠損。片面に主剥離面が残る。
1394	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	22.0	19.1	4.0	1.23	未成品。横長剥片素材の片面と裏面縁辺を調整。厚みのある側を先端に据えたが厚みが残っている段階。黒縞の透明黒曜石
1395	PJ-50	石錐	黒曜石	1/1	17.0	14.0	5.0	0.70	表裏がすりガラス状。加熱処理か。稜がある剥片素材に尖った錐部を作出。先端欠損。透明黒曜石
1396	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/1	25.6	21.2	8.1	4.05	ズリ面が残る板状素材を両面から加工。三角形の石鏃ブランク段階。漆黒黒曜石
1397	PJ-50	剥離のある剥片	石英岩	1/1	32.0	26.0	8.0	8.50	平坦な原石面が残る剥片素材の縁辺に調整。白濁のある石英岩
1398	PJ-50	剥片	黒曜石	3/4	47.5	26.0	17.0	10.10	全体が被熱、発泡し、大きく膨張。白縞のある半透明黒曜石
1399	PJ-50	石鏃	黒曜石	3/4	31.6	24.1	4.8	3.01	未成品。剥片素材の片面全体と裏面縁辺を加工。三角形状を作出した段階。片側側縁が欠損。葛湯状半透明黒曜石
4131	DK-419	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	25.0	17.0	8.0	2.90	柱抜き取り痕と思われる DK419 号土坑出土。厚みのある砕片の縁辺を調整剥離。透明黒曜石
4132	DK-419	石鏃	黒曜石	3/4	19.5	(11.8)	3.4	(0.60)	凹基、両面加工。片脚欠損。柱抜き取り痕と思われる DK419 号土坑出土。透明黒曜石
4348	DK-377 図 -3	原石	黒曜石	1/1	38.0	30.0	19.0	30.10	地床炉北東で出土。風化礫面状の礫面。半透明黒曜石
4349	DK-377 図 -6	原石	黒曜石	1/1	26.0	56.0	17.0	23.20	地床炉北東で出土。風化礫面状の礫面。半透明黒曜石
4350	DK-377 図 -2	原石	黒曜石	1/1	42.0	26.0	22.0	22.20	地床炉北東で出土。風化礫面状の礫面。半透明黒曜石
4351	DK-377 図 -5	原石	黒曜石	1/1	35.0	36.0	15.0	16.60	地床炉北東で出土。風化礫面状の礫面。剥離あり。半透明黒曜石

PJ050 号住居　石器観察表（剥片石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
4352	DK-377 図-4	原石	黒曜石	1/1	32.0	47.0	18.0	23.80	地床炉北東で出土。ズリ。
4366	PT-547	石鏃	黒曜石	1/2	13.2	14.8	2.7	(0.48)	凹基、片面加工。先端欠損。片面に主剥離面が広く残る。基部の抉りはごく浅い。黒斑入りの透明黒曜石
4368	PT-856	石鏃	黒曜石	3/4	31.2	14.0	3.5	(1.01)	柱穴 PT856 号ピット出土。凹基､両面加工､細身。側縁に欠け。先端折損。ていねいなつくりの優品。漆黒黒曜石
4950	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/2	12.0	15.2	4.2	0.76	未成品。爪大。両面加工。先端側？欠損。縞のある葛湯状半透明黒曜石
4951	PJ-50	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	24.0			1.40	礫面が残る剥片の二辺に微小な使用痕剥離。縞のある半透明黒曜石
4952	PJ-50	石鏃	黒曜石	1/2	30.3	21.8	6.6	4.22	未成品。打面と反対端部にズリ面が残る剥片素材を縁辺から調整し始めた段階で、器体が折損。白筋のある漆黒黒曜石
4954	PJ-50	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	26.0			2.80	礫面が残る剥片の縁辺に微小な使用痕剥離。斑入りの半透明黒曜石
4956	PJ-50	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	20.0			0.80	不整形剥片の内湾する一辺に微小な使用痕剥離。斑入りの半透明黒曜石
4957	PJ-50	剥離のある剥片	頁岩	1/1	57.0			13.80	いびつな尖頭器のような形状。断面菱形。雑な調整剥離。何かの未成品か。黄色く風化した頁岩

PJ050 号住居　石器観察表（礫石器）

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	現存厚 (cm)	重量 (g)	観察所見
10160	PJ-50　54	磨石類	砂岩類	1/1	10.9	8.6	4.6	640	住居中央、埋土下層出土。楕円型。磨石作業面 1 面。長軸両端部に敲打痕。花崗岩質の粗粒砂岩で器面風化あり。
10161	PJ-50　44	ハンマー	花崗岩類	1/1	5.9	5.5	2.8	124	埋土下層出土。側縁に敲打痕。被熱、変色あり。
10162	PJ-50　49	石皿	安山岩類	破片	(10.1)	(8.6)	(9.7)	644	DK421 号土坑上面、床面から 21cm 浮いて出土。石皿のかき出し部あたりの破片。皿部縁まで磨耗痕が認められるが、かき出し部では磨耗痕はない。底面に磨耗あり。多孔質安山岩
10163	PJ-50	研磨具	頁岩類	1/1	3.6	2.6	0.3	10	表裏縁辺から側縁に磨耗痕
10166	PJ-50　43	磨石類	安山岩類	破片	6.8			45	埋土下層出土。破片。多孔質の石材で敲打による浅い凹みあり。
10167	PJ-50	磨石類	安山岩類	破片	6.9			96	磨石破片。磨り面に磨耗。多孔質安山岩
10168	PJ-50	台石	安山岩類	破片	7.0			149	扁平円礫の台石。片面に磨耗あり。小破片で元の形状は不明。やや多孔質の安山岩
10385	PJ-50　51	磨石類	花崗岩類	1/1	10.9	8.9	4.7	624	南東壁沿い、埋土上層出土。不整形な花崗岩の扁平円礫素材。平坦な２面に敲打による凹み２ヶ所ずつあり。
10386	PJ-50　39	磨石類	安山岩類	1/2	(8.4)	6.6	4.2	346	埋土上層出土。石鹸型。平坦な二面に顕著な磨耗。片面には敲打による凹みが長軸方向にいくつも並ぶ。二側面は稜磨石状。長軸端部に敲打痕。割れ面を含めて被熱変色あり。多孔質安山岩
10387	PJ-50　36	磨石類	安山岩類	1/1	12.5	9.4	5.7	773	埋土下層出土。多孔質の扁平円礫素材。平坦な一面に磨耗。長軸両端に敲打痕。
10388	PJ-50　35	稜磨石	砂岩類	1/2	6.6	(14.5)	9.0	1,088	PT851 南側、床面出土。不整形で扁平な亜円礫の狭い縁辺が稜磨石状に磨耗。広い一面に傷状の敲打痕。緻密な細粒砂岩
10389	PJ-50　68	ハンマー	花崗岩類	1/1	8.7	5.0	4.0	285	埋土下層出土。亜角礫素材の一縁辺に敲打痕。
10390	PJ-50　53	原石	石英岩	1/1	8.7	5.5	5.1	308	地床炉東側、床面出土。白濁した石英岩
10391	PJ-50　34	石皿	安山岩類	1/1				1,251	埋土下層出土。扁平円礫で、平坦面の中心側に広く敲打による整形痕。石皿未成品もしくは使用初期段階か。裏面は割られている。側面の一部に赤褐色の付着物。顔料か。多孔質安山岩
10392	PJ-50　50	石皿	安山岩類	破片	10.7			241	東壁沿い、埋土上層出土。石皿側縁の破片と思われる。敲打整形痕あり。多孔質安山岩
10920	DK-433	ハンマー	砂岩類	1/1	5.2	9.9	2.9	252	PJ50 号住居内のピット DK433 出土。扁平、板状の亜円礫の長軸両端部に敲打痕。緻密な細粒砂岩
11137	PT-814	スタンプ形石器	砂岩類	1/1	11.3	7.2	3.5	390	スタンプ形の細長い礫石器。スタンプ部の縁辺に微小な剥離。使用痕か
11138	PT-814	磨石類	安山岩類	1/1	9.1	7.3	4.0	287	柱穴 PT814 号ピット出土。両面に敲打による凹み。磨痕は発達せず、ざらざらした器面
11139	PT-856	ハンマー	砂岩類	1/1	5.0	4.0	2.5	70	柱穴 PT856 号ピット出土。長軸端部に弱い敲打痕。卵大の円礫。細粒砂岩

PJ054 号住居

位　　置：E-5 グリッドに位置し、PJ050 号住居を切り、PJ46 号住居に切られる。DK221 号土坑など大きな土坑に切られる。

規　　模：周溝とみられる小溝にかこまれた形状は小判形で、長軸 7.3m、短軸 5.2m の大きさである。竪穴は深さ 50cm が残る。

埋　　土：黒褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積している。

床　　面：黄褐色土の地山を平坦に掘り込み、床面としている。住居中心部がややくぼみ、やや踏みかたまっていた。

**炉　　**：住居中央部に床面が被熱、焼土化した箇所２ヶ所を検出した。これらが地床炉とみられる。

周　　溝：壁に沿って同心円状に小溝を検出した。小溝内には深さ 10cm の浅い小ピットが多数検出された。

柱　　穴：床面を精査した際に最初に検出された PT773、PT775 号ピットを起点とし、PT808、PT860 号ピットを加えた 4 基が最も新しい段階の柱穴の組み合わせとみられる。深さは 44cm から 61cm とややばらつき、配置もやや歪むが大きさは揃っている。

先行する段階の柱穴として、PT739、PT791、PT795、PT799 号ピットの 4 基を想定した。

さらに古い段階の柱穴に番号を付していないピットの組み合わせ 4 基を想定した。

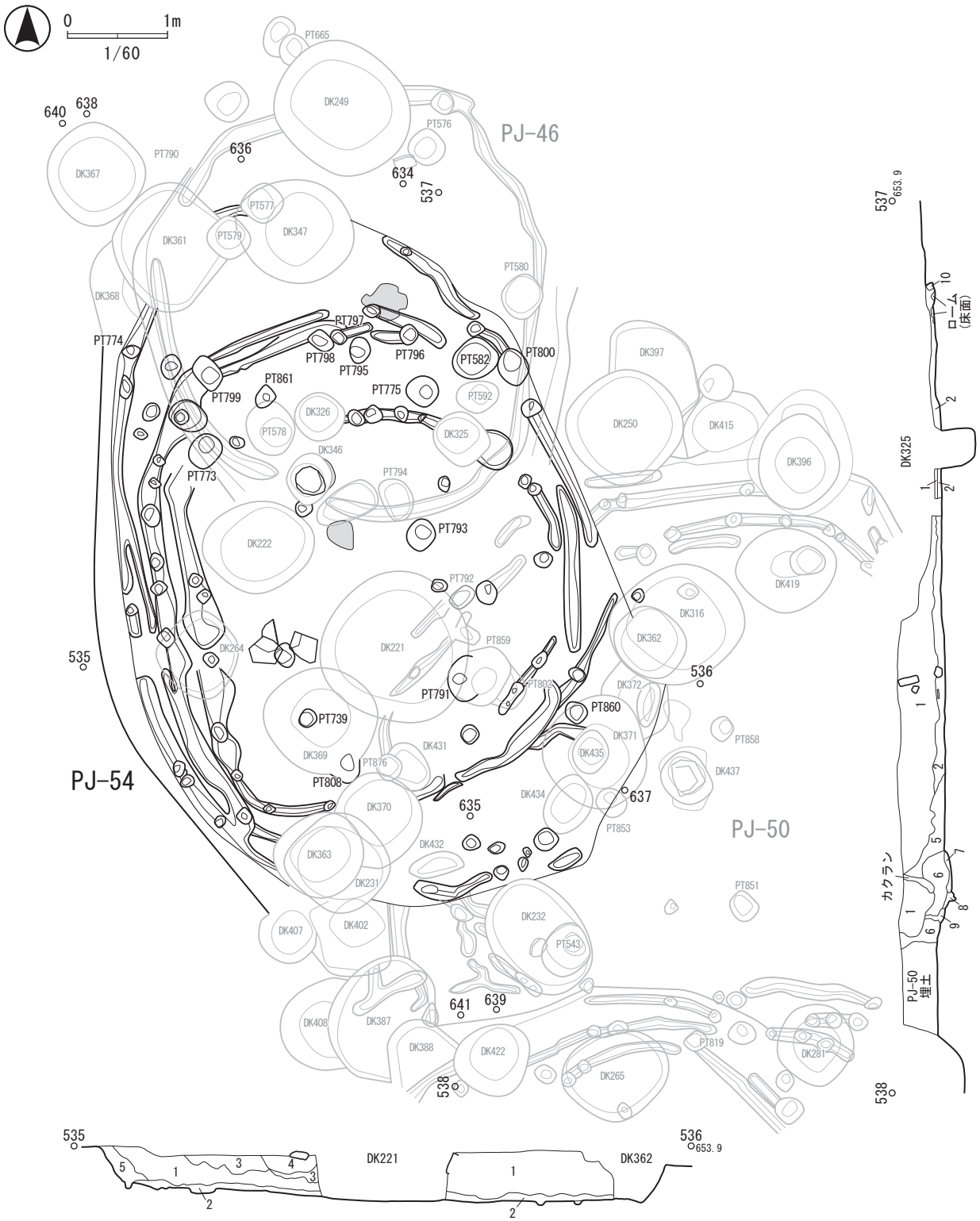
出土遺物：土器は埋土下層から上層にかけてまばらに出土し、遺構の時期につながる出土状況を示すものはなかった。大き目の破片で目立つのは神之木式と有尾式土器である。出土した土器の総量は 30,997g で、内訳は木島式 315g、中越式 7,700g、神之木式 9,395g、有尾式 3,010g、釈迦堂 Z3 式 1,227g、諸磯式 2,670g などである。このほか関山式、清水ノ上Ⅱ式、上の坊式などが少量出土した。

出土した石器は、石鏃 36 点、小型精製の石匙 4 点、削器 5 点、石錐 2 点、両極石器 2 点、有抉研磨石器 1 点、打製石斧 1 点、台石 1 点、磨石類 4 点、磨製石斧 1 点、礫器 2 点、黒曜石原石 6 点、剥離のある剥片 9 点、剥片 1 点である。このほか黒曜石を主とする剥片、砕片 712 点、1,573g が出土した。

時　　期：PJ050 号住居との重複関係、出土土器の状況からみると、本住居は神之木式から有尾式期にかけて廃絶されたと思われる。

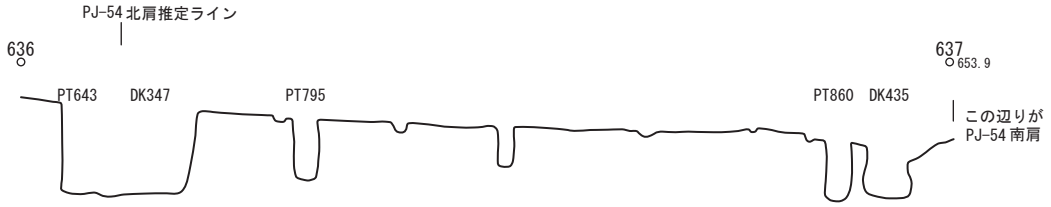
PJ054 号住居　土坑ピット一覧表

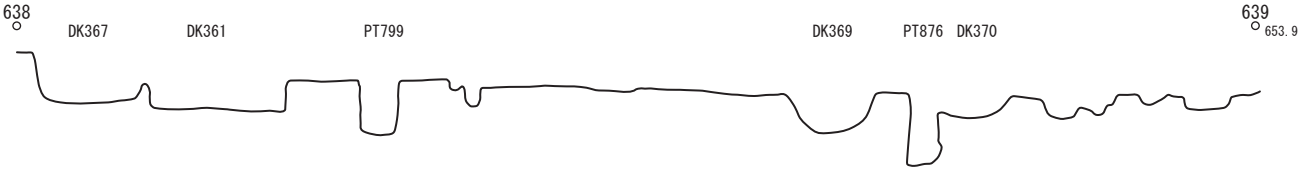
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-582	46 住内	40	30	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/3（暗褐）が 3%、焼土が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	神ノ木式、有尾式、諸磯式
PT-739	54 住内	20	9	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	古い段階の柱穴
PT-773	46 住南西壁	30*20	48	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	最新段階の柱穴。中越式、神ノ木式、諸磯式
PT-775	46 住内	30	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が混じる。シルト粒土。ややしまる。	最新段階の柱穴。諸磯式土器破片
PT-791	50 住内	50	70	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	古い段階の柱穴。PJ50 号住居柱穴 PT859 を切る。
PT-793	54 住内	30	53	10YR3/4（暗褐）に 10YR4/3（にぶい黄褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-795	46 住内	21	50	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	古い段階の柱穴。中越式、神ノ木式
PT-797	46 住内	16	17	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-798	46 住内	24	32	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	
PT-799	46 住西壁	36*24	45	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	古い段階の柱穴。
PT-800	46 住内	30*24	60	10YR2/3（黒褐）。	
PT-808	54 住内	26*20	61	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/2（黒褐）が 3%、10YR4/6（褐）と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	最新段階の柱穴
PT-860	50 住内	20	44	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	最新段階の柱穴
PT-861	46 住内	18	38	10YR3/4（暗褐）。シルト粒土。ややしまる。	諸磯式。

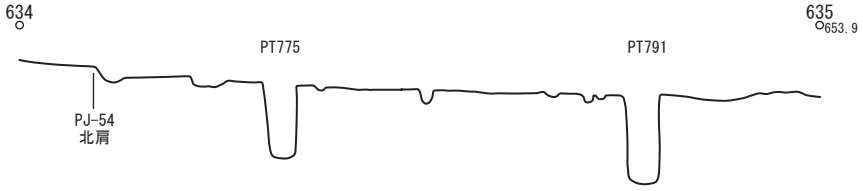


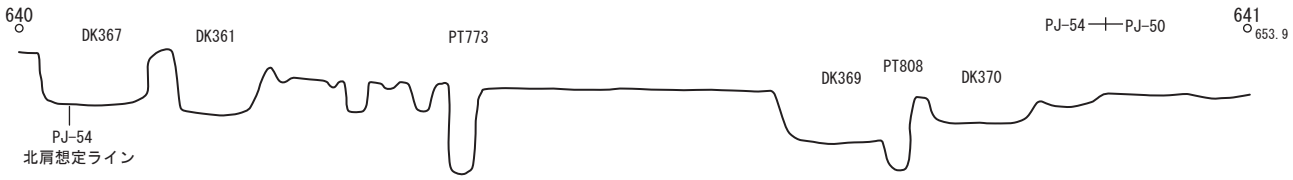
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR4/6(褐)が5%、炭化物が2%、花崗岩粒が7%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)10%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化物が2%、花崗岩粒が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、炭化物が5%、花崗岩粒が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、10YR4/4(褐)が7%、炭化物が1%、花崗岩粒が2%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が7%、炭化物が2%、花崗岩粒が5%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
7層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、10YR2/3(黒褐)が10%、炭化物が3%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が15%、炭化物が1%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
9層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が30%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
10層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、炭化物1%以下、混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。
PJ-54地山　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が25%、花崗岩粒が7%混じるシルト粒土。粘性ややあり。固くしまる。
周溝　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。

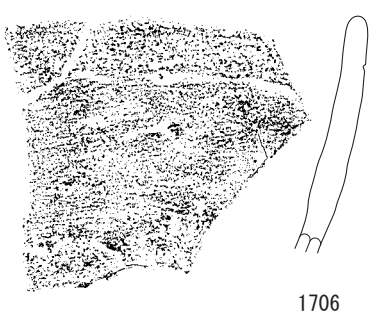
PJ054 号住居

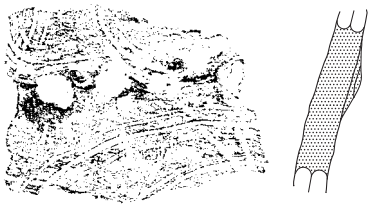


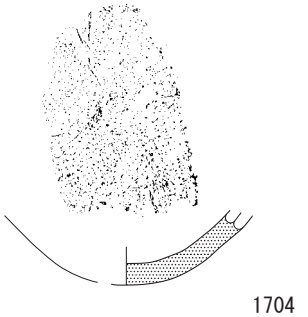




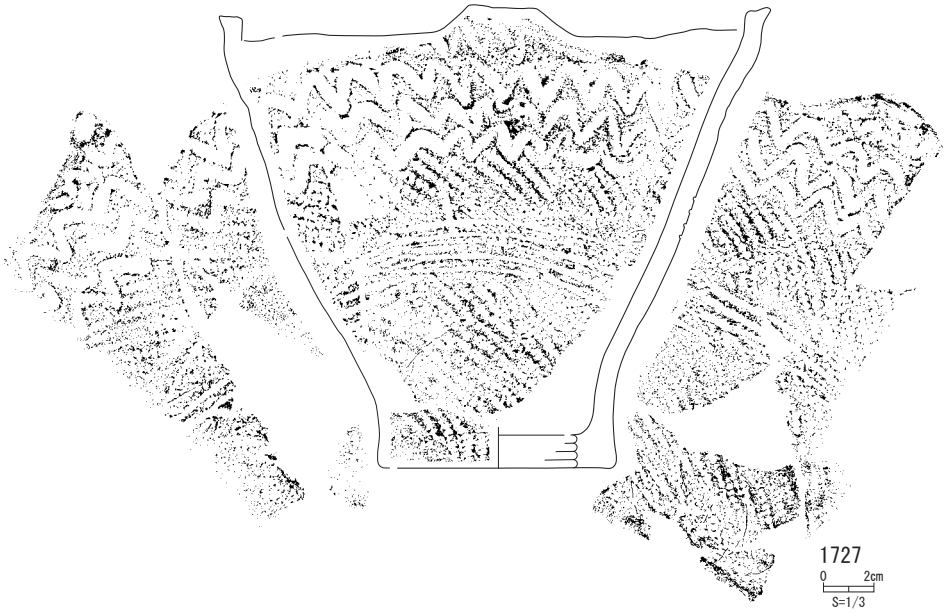


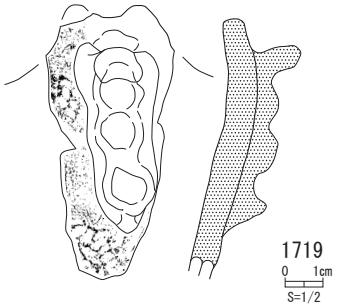


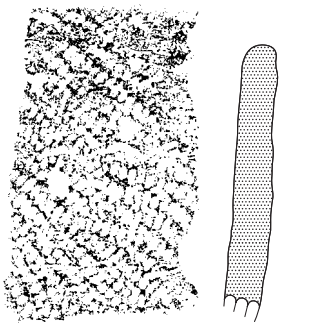


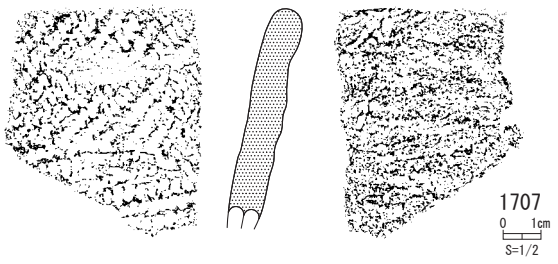


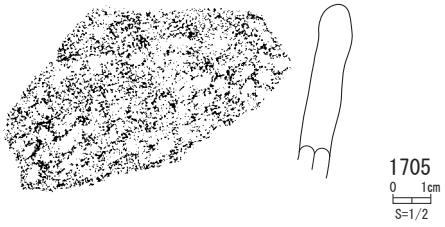
PJ054号住居　PJ054号住居出土遺物

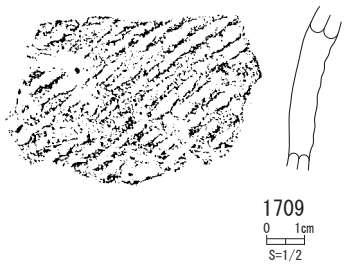


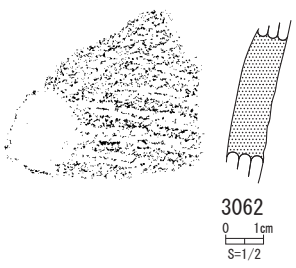




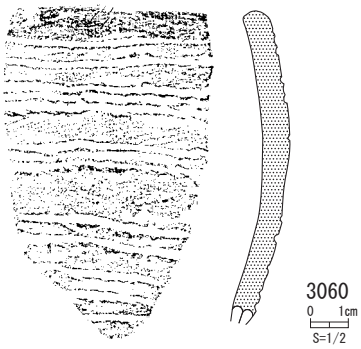


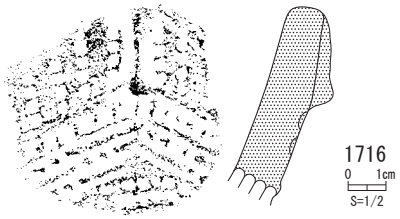


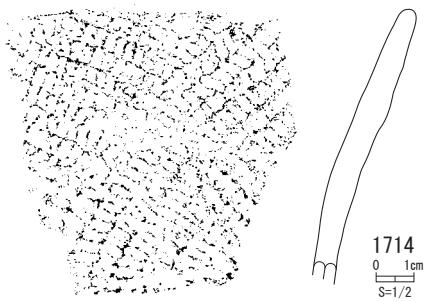


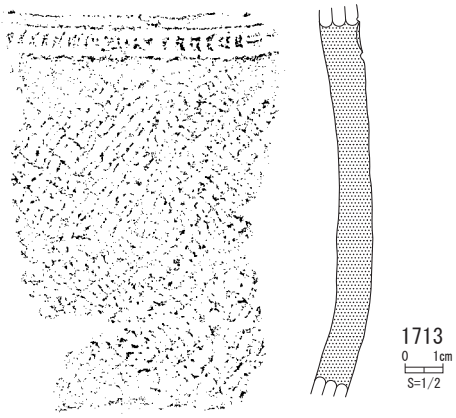


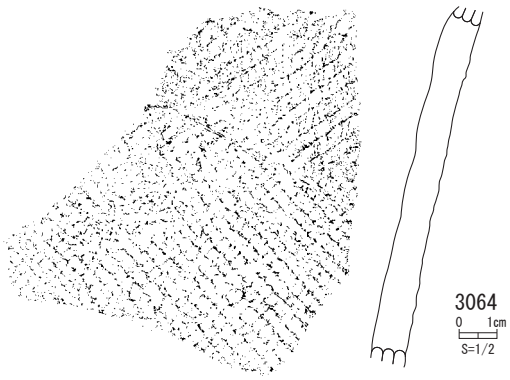
PJ054 号住居出土遺物

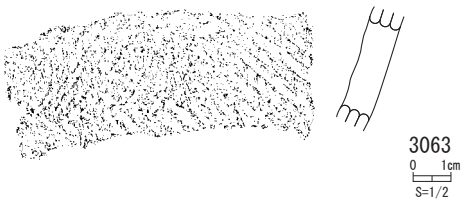




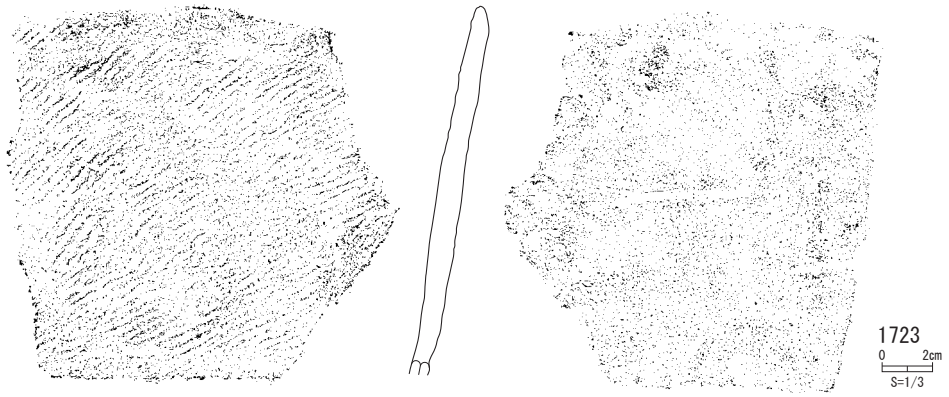


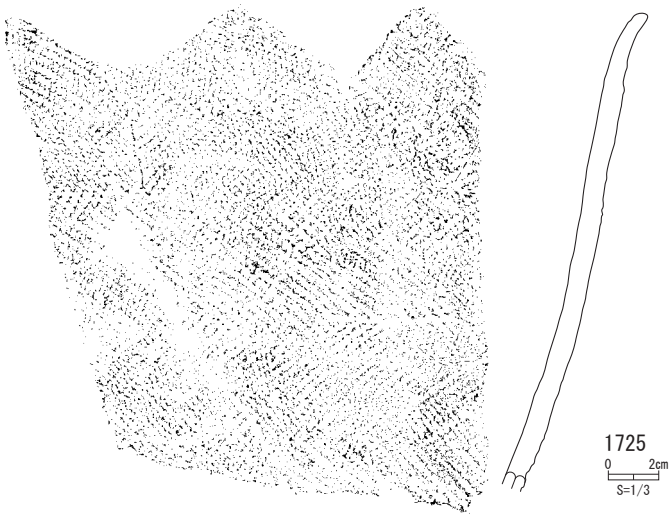


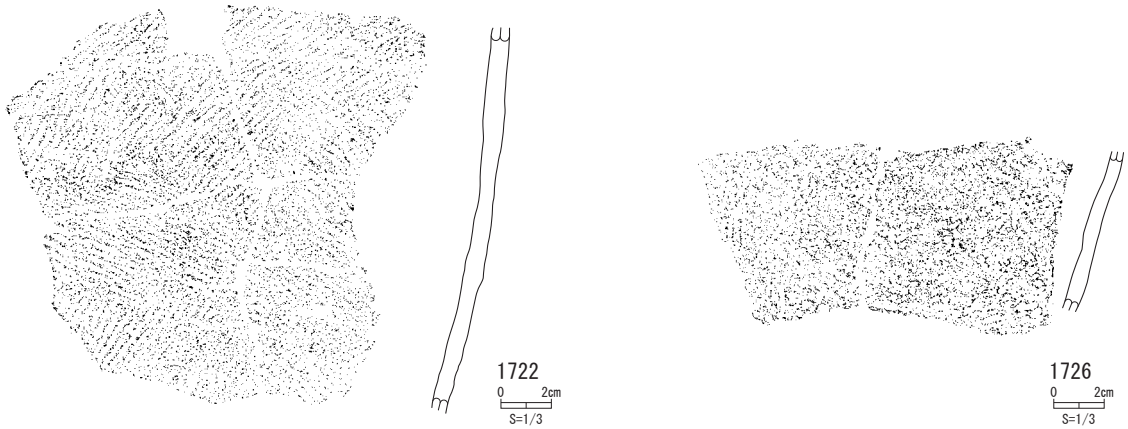




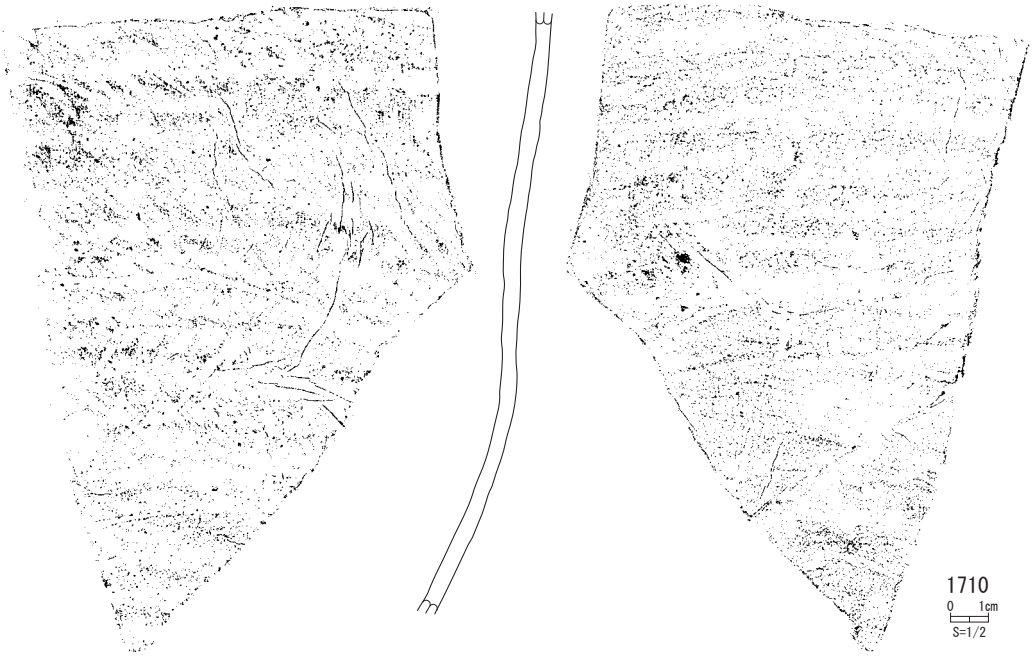
PJ054 号住居出土遺物

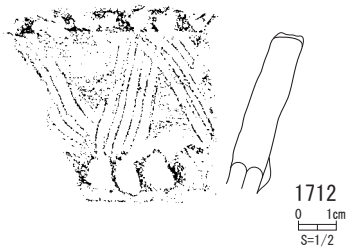


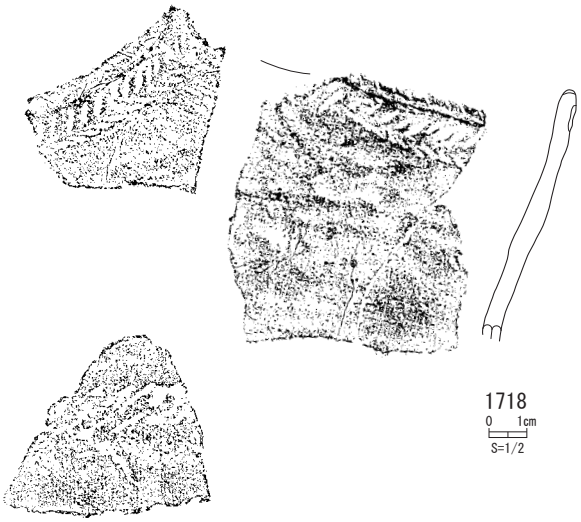




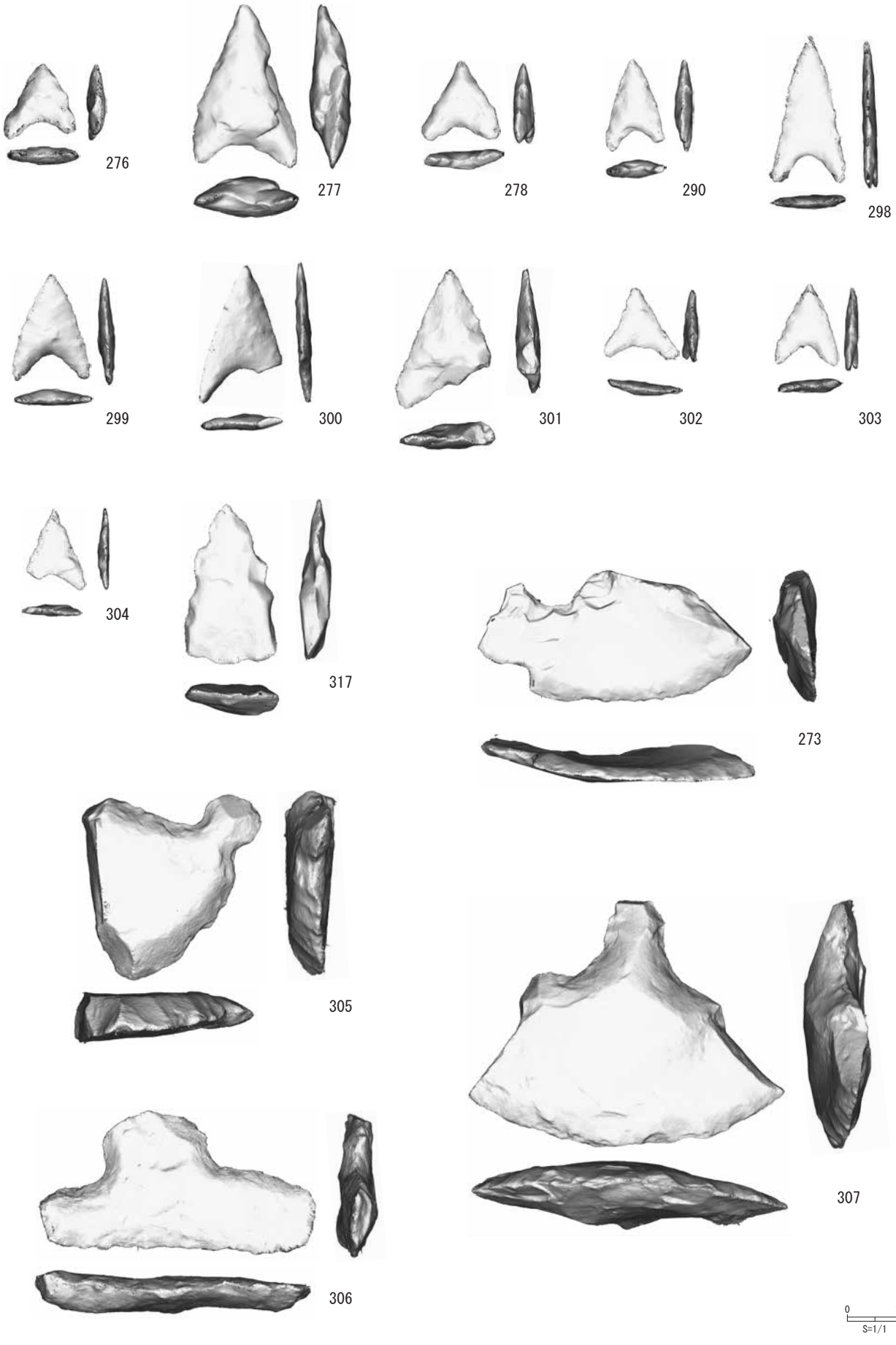
PJ054 号住居出土遺物



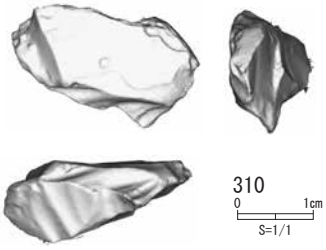


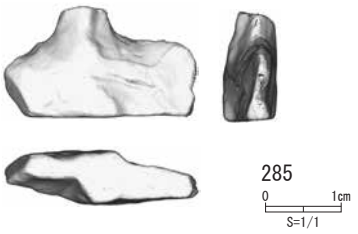


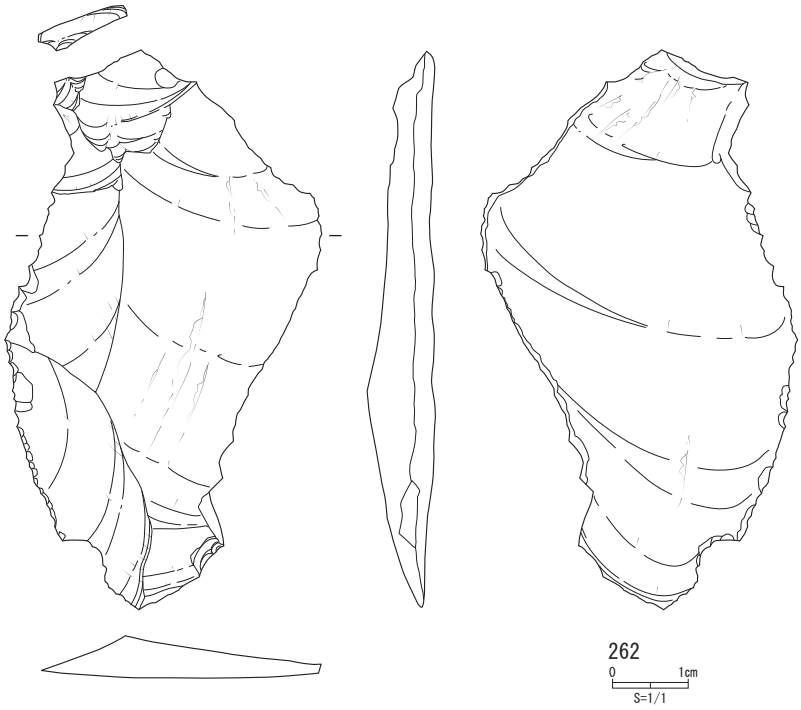
PJ054 号住居出土遺物

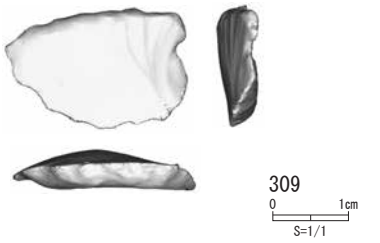


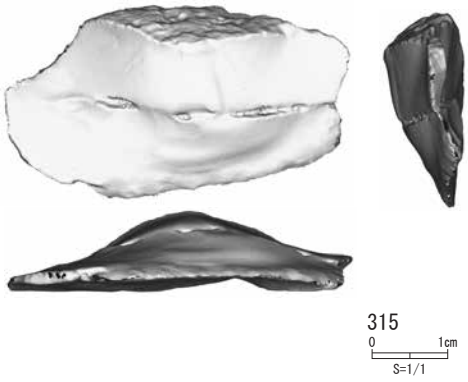
PJ054 号住居出土遺物

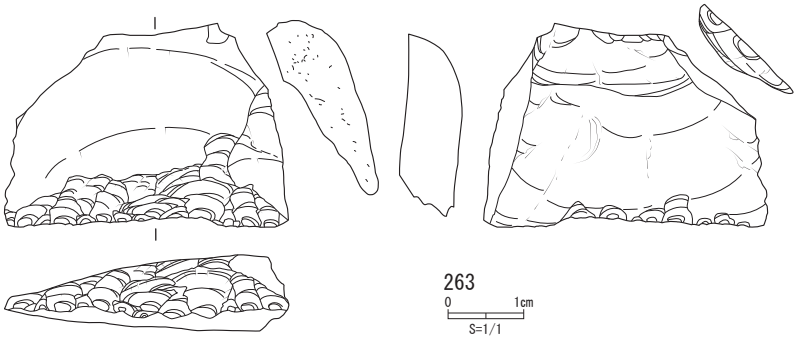


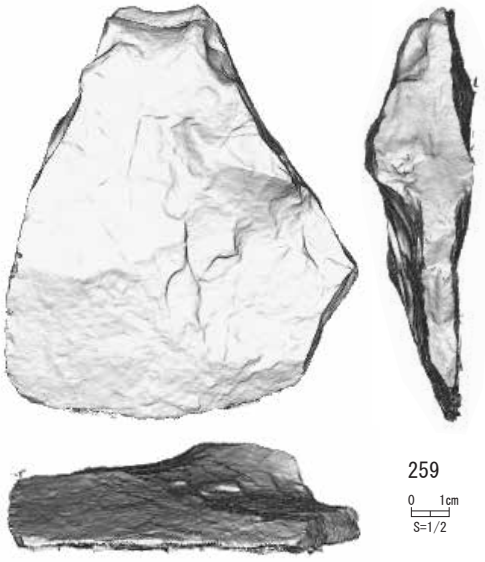




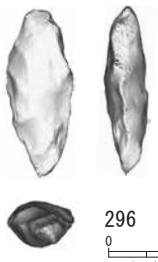


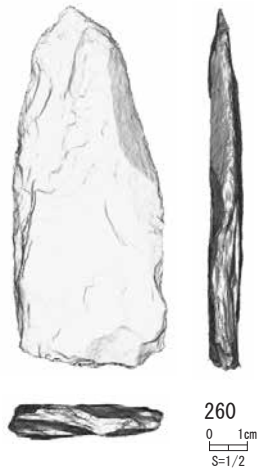


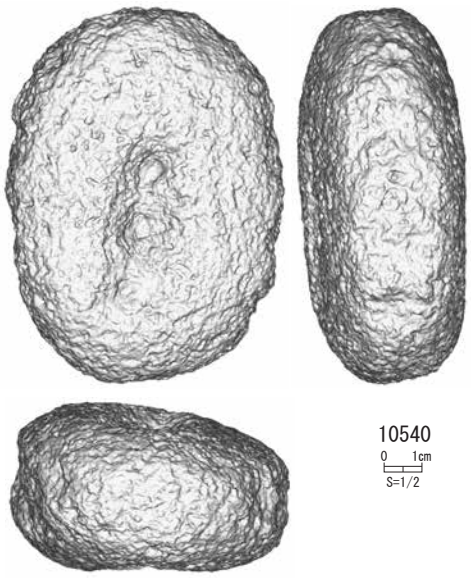


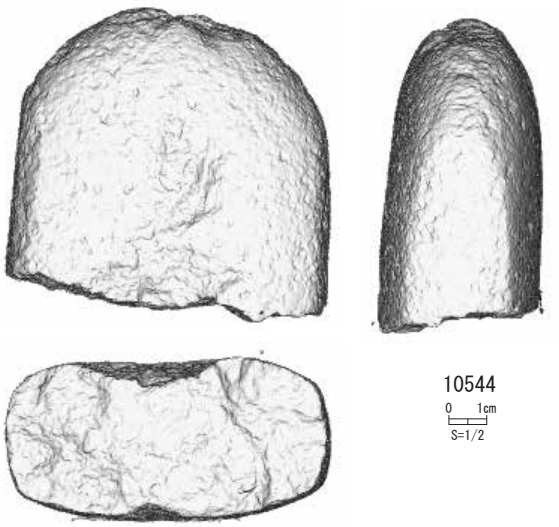


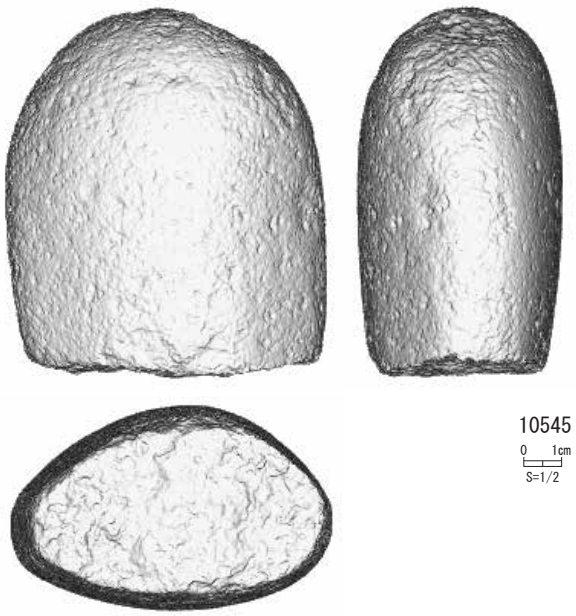
PJ054 号住居出土遺物

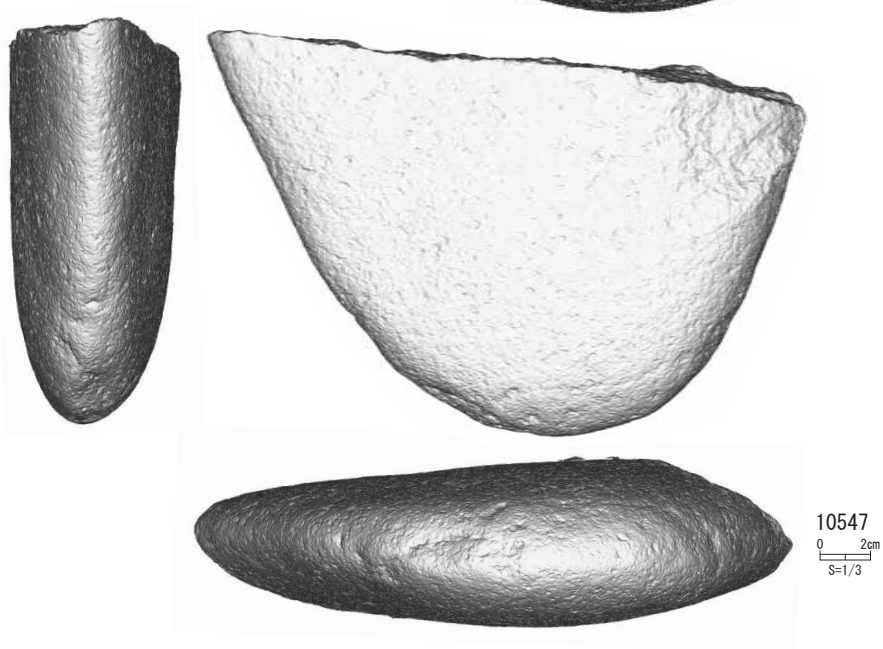




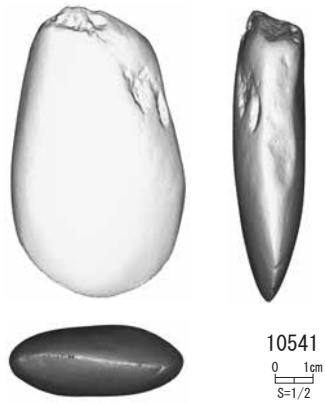


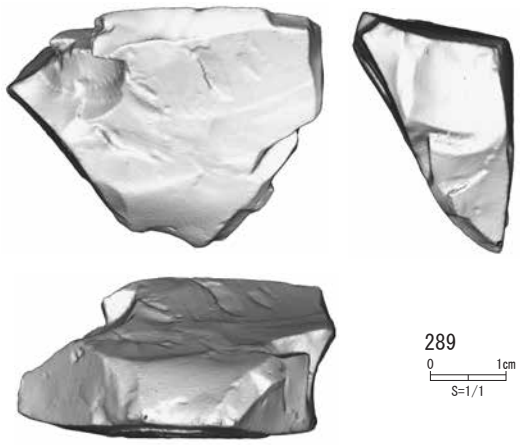


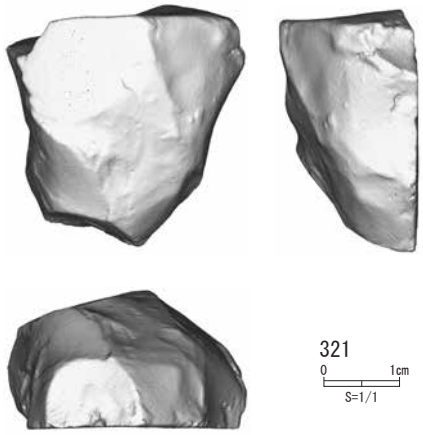


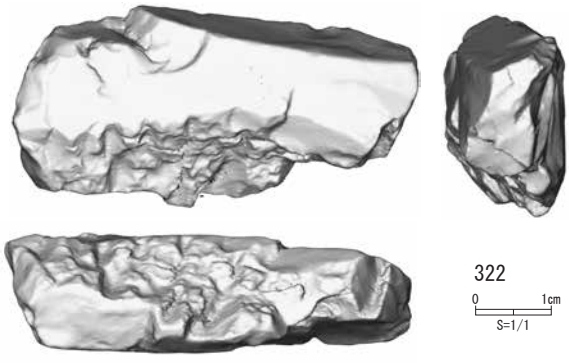


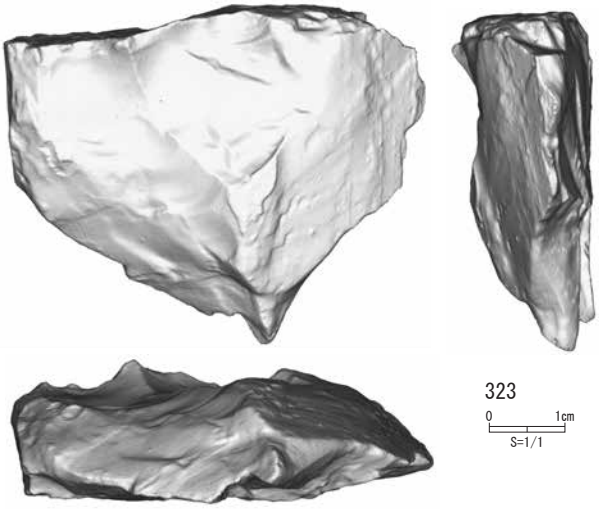
PJ054 号住居出土遺物











PJ054 号住居出土遺物

PJ054 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1704		PJ-54 13	底部	－	－	丸底	16.0	破片	10Y8/3 7.5YR6/6	DK222 号土坑脇の埋土上層で出土。丸底破片。胎土に繊維を含む。中越式
1705		PJ-54 13	口縁部	－	－	－	34.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/4	DK222 号土坑脇の埋土上層で出土。かすかな縄文。内面は指頭圧痕が目立つナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
1706		PJ-54 10	口縁部	－	－	－	47.0	破片	5YR6/6 7.5YR4/2	PT808 号ピット脇の床面で出土。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式
1707		PJ-54	口縁部	－	－	－	36.0	破片	5YR4/6 7.5YR2/2	内外面に縄文施文。口縁部に輪積み痕が残る。胎土に繊維を含む。神之木式
1708		PJ-54	口縁部	－	－	－	64.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	口唇部にも縄文施文。内面は輪積み痕が残るヨコナデ調整。器壁は厚い。胎土に繊維を含む。神之木式もしくは有尾式
1709		PJ-54	胴部	－	－	－	30.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	内外面とも整形時の凹凸が残る。内面ヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
1710		PJ-54 15、PJ-46、PJ-42	胴部	－	－	－	145.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR4/2	DK222 号土坑脇の埋土上層で出土。内外面に指頭圧痕が顕著。器壁は薄手。胎土に繊維を含まない。木島式
1711		PJ-54	胴部	－	－	－	40.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	波状の条線、つまみ刻み隆帯。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。器壁は厚手。胎土に繊維を含む。中越式か
1712		PJ-54	口縁部	－	－	－	29.0	破片	7.5YR4/2 10YR6/4	口唇部に刻み。口縁部に鋸歯状の条線。刻み隆帯。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式とも木島式ともつかない。
1713		PJ-54	胴部	－	－	－	88.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR6/6	爪形押引き文と菱形縄文施文。内面は平滑にナデミガキ調整。胎土に繊維を含む。有尾式
1714		PJ-54	口縁部	－	－	－	59.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR4/3	菱形縄文施文。内面は平滑にナデミガキ調整。器壁は 6mm ～ 7mm と薄い。胎土に繊維を含まない。有尾式か
1715		PJ-54	胴部	－	－	－	54.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR5/4	外面にまばらに縄文を施文。内面は指頭圧痕が目立つナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式か
1716		PJ-54	口縁部	－	－	－	44.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	波状口縁の波頂部から垂下する細い隆帯。口縁部に連点状刺突文を縦位に施文。下位に爪形押引き文と平行沈線、連点状刺突文を菱形に施文。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含む。有尾式
1717		PJ-54	口縁部	－	－	－	28.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/2	波状口縁の口唇部に刻み。先端が分岐した工具の刺突列。内面は指頭圧痕が目立つヨコナデ。器壁は薄手。胎土に繊維を含まない。清水ノ上Ⅱ式
1718		PJ-54 、PJ-50、DK-369、D-5-24、E-6-6	口縁部	－	－	－	76.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR4/2	波頂部が尖った波状口縁の口唇部に刻み。口縁部上位に先端がささくれたような工具の矢羽状刺突列。胴部にも斜位の刺突列。内面は指頭圧痕がやや残り、ヘラ状工具でヨコナデミガキ。器壁は薄手。胎土に繊維を含まない。上の坊式
1719		PJ-54	口縁部	－	－	－	30.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR5/3	二又状の小突起がつく波状口縁の波頂部から太い刻み隆帯が垂下。下位は縄文。内面は平滑にヨコナデ調整。胎土に繊維を含む。神之木式もしくは有尾式
1720		PJ-54	胴部	－	－	－	26.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	内外面に条痕？　内面に指頭圧痕が目立つ。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。清水ノ上式、上の坊式などと併行する時期か
1721		PJ-54 11	口縁部～胴部	(18.4)	－	－	133.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR3/2	PT792 号ピット上面、床面から 16cm 浮いて出土。口縁部にゆるい波長のコンパス文。胴部は RL 単節の斜縄文。内面は平滑にナデミガキ調整。器壁は 5mm ～ 6mm で薄手。胎土に繊維を含む。大木 2 式に似るか？神之木式～有尾式併行？
1722		PJ-54 14	胴部	－	－	－	214.0	破片	5YR4/6 5YR4/6	DK264 号土坑脇の埋土上層出土。外面は菱形状に縄文施文。内面は指頭圧痕が目立つ。器壁ややや薄く、胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式
1723		PJ-54 12	口縁部～胴部	－	－	－	273.0	破片	5YR4/6 7.5YR4/6	DK222 号土坑脇の埋土上層出土。内面は指頭圧痕が目立つヨコナデ調整。胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式
1725		PJ-54	口縁部～胴部	－	－	－	503.0	破片	2.5YR4/6 5YR4/6	外反する口縁部。羽状縄文。内面は指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式
1726		PJ-54	胴部	－	－	－	162.0	破片	5YR4/3 5YR4/4	斜縄文。内外面とも輪積み痕が目立つ。内面は指頭圧痕が顕著。胎土に繊維を含まない。釈迦堂 Z3 式
1727		PJ-54 13、PJ-54、PJ-46、DK-222	口縁部～底部	21.6	18.4	(9.6)	819.0	4/5	7.5YR7/6 7.5YR7/6	DK222 号土坑脇の埋土上層で出土。口縁部に 4 単位の突起。口縁部に 3 列の鋸歯状文。下位に平行沈線を巡らせる。縄文地文。内面は指頭圧痕がやや残るナデ調整。底部はやや上げ底気味。大木 2 式を彷彿とさせる。神之木式併行か

PJ054 号住居　土器観察表

実測番号	注記		部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1830		PJ-54	口縁部	－	－	－	10.0	破片	5YR3/2 5YR3/2	内外面条痕。胎土に繊維を含む。神之木式併行か
3060		PJ-54、PJ-42	口縁部～胴部				83.0	破片	5YR6/6 5YR5/6	棒状工具の押引き沈線と竹管平行沈線。内面はヨコナデミガキ。胎土に繊維をわずかに含む。有尾式
3061		PJ-54	口縁部				21.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR4/3	竹管平行沈線。焼成前穿孔あり。内面ヨコナデ。胎土に繊維をわずかに含む。有尾式
3062		PJ-54	胴部				24.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/6	絡状体の回転施文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。神ノ木式
3063		PJ-54	胴部				36.0	破片	5YR4/3 2.5YR4/4	無節縄文を菱形施文。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式か
3064		PJ-54	胴部				91.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	無節縄文と単節縄文の異なる原体を使用。羽状縄文。内面は指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式か

PJ054 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0259	PJ-54　5	削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	3/4	109.0	95.0	26.0	254.50	PT773 号ピット東脇、床面出土。撥形に広がった板状素材の薄い縁辺に微小な使用痕剥離。刃部調整剥離なし。器面が風化し磨滅痕は不明。
0260	PJ-54	打製石斧	頁岩	1/1	96.0	41.0	7.0	43.50	薄い剥片素材。長軸方向の広い側が刃部、狭い側が基部か。刃部付近でなく器体各所に長軸方向の線条痕と磨耗あり。薄い側面に敲打整形痕。
0261	PJ-54	剥離のある剥片	珪質頁岩	1/1	27.0	44.0	9.0	10.90	不整形剥片の薄く内湾した縁辺に微小剥離。灰色の珪質頁岩。搬入石材
0262	PJ-54	削器	珪質頁岩	1/1	68.0	49.0	9.0	19.70	縦長剥片素材。長軸両側縁に微細な剥離。白筋のある明灰色珪質頁岩。搬入石材
0263	PJ-54	削器	珪質頁岩	1/1	27.0	37.0	9.0	10.70	礫面が残る横長剥片素材の一辺に急傾斜の刃部調整。刃部調整剥離の稜に磨耗あり。暗青灰色の珪質頁岩。搬入石材
0264	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	18.0	17.6	5.3	(1.27)	未成品。両面加工。先端欠損。片面に主剥離面が大きく残る。三角形に成形した段階。葛湯状透明黒曜石
0265	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	15.7	15.5	3.6	1.08	未成品。片面加工。先端欠損。基部に抉り調整し始めた段階。縞のある葛湯状半透明黒曜石
0266	PJ-54	石錐	黒曜石	3/4	25.0	23.0	8.0	3.70	先端部が大きく欠損。石鏃未成品のようにみえるが調整剥離が進んだ部分と原石面が大きく残る部分があることから、石錐と判断。黒縞のある半透明黒曜石
0267	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	20.9	19.6	5.4	1.55	未成品。両面加工。先端欠損。三角形に成形した段階。黒縞のある透明黒曜石
0268	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	20.8	17.8	4.6	1.33	未成品。三角形の剥片素材の縁辺に調整剥離を始めた段階。一部欠損。灰色夾雑物がある透明黒曜石
0269	PJ-54	原石	黒曜石	1/1	37.2			8.60	風化して汚れた原石面。黒斑の半透明黒曜石
0270	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	17.6	－	3.0	(0.46)	凹基、両面加工。先端、片側側縁欠損。透明黒曜石
0271	PJ-54	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	17.0			0.70	礫面が残る小さな剥片の一辺に微小な剥離。黒斑入りの半透明黒曜石
0272	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	16.3	13.1	3.5	0.67	未成品。片面加工。基部側欠損。透明黒曜石
0273	PJ-54　土サンプル①	石匙	珪質頁岩	1/1	24.0	50.0	5.0	6.40	打面に礫面が残る横長剥片素材の打点反対縁辺に刃部。つまみ部は横につく。灰色の珪質頁岩。搬入石材
0274	PJ-54	石鏃	珪質頁岩	1/1	20.5	16.2	2.2	0.69	未成品。凹基、縁辺加工。素材の三縁辺にわずかに調整剥離。石鏃の形態になっていて完成品かも。灰色の珪質頁岩。搬入石材
0275	PJ-54	石鏃	チャート	1/2	21.1	－	2.7	(0.52)	凹基、両面加工。片面に主剥離面が大きく残る。先端、片脚欠損。黒筋がある半透明の灰色チャート
0276	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	14.4	13.7	3.5	0.39	小型、凹基、両面加工。漆黒黒曜石
0277	PJ-54	石鏃	チャート	1/1	30.0	19.2	7.3	3.18	凹基、両面加工。片側側縁に割れ。素材の厚みが残る。赤褐色チャート
0278	PJ-54　土サンプル③	石鏃	黒曜石	1/1	15.4	14.4	3.3	0.51	小型、凹基、両面加工。両面に主剥離面が小さく残る。黒斑入りの透明黒曜石

PJ054 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長(㎜)	現存幅(㎜)	現存厚(㎜)	重量(g)	観察所見
0279	PJ-54	石鏃	珪質頁岩	1/1	28.1	23.6	7.7	4.02	礫面が残る剥片素材。先端部？を作出し、基部側は未調整。白筋のある青灰色珪質頁岩
0280	PJ-54	両極石器	珪質頁岩	1/1	26.0	27.0	15.0	10.50	厚みのある砕片の両端に衝撃剥離。白筋のある青灰色珪質頁岩
0281	PJ-54	剥離のある剥片	チャート	1/1	36.5			4.80	不整形剥片の薄い縁辺に微小な剥離。黒筋のある灰色チャート
0282	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	17.8	14.5	3.8	1.04	未成品。爪大の小さな剥片の周縁部に調整。三角形状になり始めた段階。縞のある透明黒曜石
0283	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	21.8	15.2	6.9	1.73	未成品。断面三角形で厚みがある素材を両面加工。三角形状になり始めた段階。漆黒黒曜石
0284	PJ-54	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	13.1			3.00	礫面が残る薄い板状素材の縁辺に調整剥離。石鏃ブランクか。縞のある半透明黒曜石
0285	PJ-54	有抉研磨石器	黒曜石	3/4	15.0	25.0	7.0	2.30	刃部がない小形石匙のような形状。剥離稜は微小な点状凹みに覆われて磨耗。剥離面は細かな点状、線状のキズ。線条痕の方向性は不規則。漆黒黒曜石
0286	PJ-54	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	38.3			5.10	剥片の内湾する縁辺に微小な剥離。暗赤褐色斑入りの黒曜石
0287	PJ-54	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	23.5			1.50	平面、断面が三角形の剥片の一辺に調整剥離。透明黒曜石
0288	PJ-54	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	15.8			1.00	爪大の薄い剥片の二辺に調整剥離。斑入りの半透明黒曜石
0289	PJ-54	原石	黒曜石	1/1	42.2			24.60	やや汚れた礫面で囲まれた角礫原石。黒斑入りの半透明黒曜石
0290	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	16.9	(10.8)	3.3	(0.37)	凹基、両面加工。片脚先端欠損。透明黒曜石
0291	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	18.3	10.3	5.0	0.79	未成品。基部側に原石面が残る。先端欠損。透明黒曜石
0292	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/2	-	14.2	2.2	(0.31)	凹基、両面加工。先端側欠損。ていねいなつくりの優品。縞のある透明黒曜石
0293	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	18.5	-	3.0	(0.30)	凹基、両面加工。片脚欠損。透明黒曜石
0294	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	18.6	18.1	3.8	1.22	未成品。両面に主剥離面が残る剥片素材の両面に調整剥離。先端欠損。葛湯状半透明黒曜石
0295	PJ-54	剥離のある剥片	チャート	1/1	22.0	37.0	6.0	4.30	剥片の一辺に微小な剥離。黒筋のある暗灰色チャート
0296	PJ-54	石錐	黒曜石	3/4	23.0	8.0	6.0	1.00	小さな棒状の石錐。先端欠損？透明黒曜石
0297	PJ-54	剥片	黒曜石	1/1	30.0			2.80	転石面が残る剥片。両端に衝撃剥離。両極打法による剥片か。黒斑入りの透明黒曜石
0298	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	27.3	13.3	2.6	0.57	凹基、両面加工、細身。ていねいなつくりの優品。先端が絞られた形状。黒斑入りの半透明黒曜石
0299	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	20.2	14.6	3.1	0.52	凹基、両面加工。ていねいなつくりの優品。白点のある漆黒黒曜石
0300	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	25.1	-	2.7	(0.62)	凹基、両面加工。片脚欠損。ていねいなつくりの優品。葛湯状半透明黒曜石
0301	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	25.0	-	4.4	1.12	凹基、両面加工、片脚欠損。器面がすりガラス状。被熱か。黒斑入りの半透明黒曜石
0302	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	13.7	14.0	2.4	0.23	小形、凹基、両面加工。先端わずかに欠損。透明黒曜石
0303	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	16.1	12.2	2.3	0.27	小形、凹基、両面加工。ていねいなつくりの優品。先端が絞られた形状。黒縞のある透明黒曜石
0304	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	15.3	-	2.0	(0.16)	小形、凹基、両面加工。片脚欠損。ていねいなつくりの優品。先端が絞られた形状。黒縞のある透明黒曜石
0305	PJ-54	石匙	珪質頁岩	1/2	34.0	32.0	8.0	9.00	器体半分が折損。つまみが横につく形状か。片刃の刃部。つまみ部に礫面が残り、剥離の稜がやや摩滅。刃部は刃こぼれと摩滅あり。灰色と青灰色の斑の珪質頁岩。在地石材
0306	PJ-54	石匙	チャート	1/1	26.0	50.0	7.0	8.90	両面加工の刃部。黒斑の灰色チャート
0307	PJ-54	石匙	珪質頁岩	3/4	46.0	-	11.0	24.00	両面加工の刃部。両側縁が欠損。白筋のある青灰色珪質頁岩
0308	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	16.9	-	2.7	(0.44)	凹基、片面加工。片脚欠損。片面に主剥離面が残る薄い剥片素材。黒斑の透明黒曜石
0309	PJ-54	削器	黒曜石	1/1	15.0	24.0	3.0	1.60	湾曲した剥片の二辺に掻器状の急傾斜の刃部。葛湯状斑入りの透明黒曜石

PJ054 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0310	PJ-54	両極石器	黒曜石	1/1	23.0	14.0	10.0	2.70	ズリ面が残る砕片の両端に衝撃剥離。半透明黒曜石
0311	PJ-54	剥離のある剥片	黒曜石	1/1	29.0	32.0	8.0	9.10	河川転石状の亜礫面が残る剥片。調整加工の剥離面に曇り。被熱か。板状原石または剥片状原石素材。両面に調整剥離。石鏃ブランクか。夾雑物が混じる半透明黒曜石
0312	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/2	19.5			1.10	未成品。両面加工。先端、片側縁欠損。透明黒曜石
0313	PJ-54　土サンプル②	石鏃	黒曜石	破片	16.3	－	2.6	(0.36)	脚部？破片。両面加工。透明黒曜石
0314	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	32.5	24.9	9.7	6.24	ズリ面が残る厚みがある素材を両面加工。三角形状を作り出した段階。白筋のある漆黒黒曜石
0315	PJ-54	削器	黒曜石	1/1	25.0	46.0	10.0	7.70	小さな連続剥離をもつ片刃。河川転石状の亜角礫面が残る横長剥片素材。刃部に微小な刃こぼれ。黒縞のある半透明黒曜石
0316	PJ-54	原石	黒曜石	1/1	33.5			8.60	やや汚れた面で囲まれた板状原石。白色夾雑物が節理状に混じる。半透明黒曜石
0317	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	29.5	16.6	5.5	2.10	未成品。両面加工。片側縁欠損。三角形状を作り出した段階。細身。縞のある透明黒曜石
0318	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	14.4	15.6	4.0	(0.80)	未成品。両面加工。先端欠損。黒斑入りの半透明黒曜石
0319	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	23.8	17.4	4.2	1.36	未成品。両面加工。湾曲した剥片素材を三角形状に作り出した段階。基部側が欠損。葛湯状半透明黒曜石
0320	PJ-54	石鏃	黒曜石	1/1	20.6	14.1	4.4	1.19	未成品。片面加工。湾曲した剥片素材。先端側が分かる成形段階。透明黒曜石
0321	PJ-54	原石	黒曜石	1/1	31.0			19.60	角礫ズリ。縞のある黒曜石
0322	PJ-54	原石	黒曜石	1/1	52.0			24.00	角礫ズリ。白点のある漆黒黒曜石
0323	PJ-54	原石	黒曜石	1/1	55.0			39.50	角礫ズリ。一発コア。白筋のある漆黒黒曜石
3626	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	18.7	－	2.3	(0.37)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。ていねいなつくりの優品。縞のある透明黒曜石
3627	PJ-54	石鏃	黒曜石	3/4	20.6	15.3	5.1	1.42	未成品。剥片素材を先端側から両面加工。基部側は未加工。片側側縁折損。透明黒曜石
10540	PJ-54　2	磨石類	安山岩類	1/1	99.0	74.0	44.0	366	住居中央、埋土下層出土。楕円形。両面に敲打による深い凹みが長軸方向に並ぶ。側面も敲打痕。多孔質、粗粒の安山岩。磨滅痕不明瞭。
10541	PJ-54　1	磨製石斧	蛇紋岩	1/1	77.0	46.0	18.0	103	住居南端、床面出土。再生品か。全面に研磨線状痕。基部側が折損し再生か。
10542	PJ-54　4	礫器	砂岩類	1/1	95.0	65.0	29.0	271	埋土下層出土。円礫面が残る厚い素材の縁辺に刃部調整とつぶれ。長軸端刃部がとくに顕著につぶれ。緻密な細粒砂岩
10543	PJ-54　3	礫器	安山岩類	1/1	123.0	97.0	63.0	1,200	埋土下層出土。台石と思われる扁平礫の破片に粗い鋸歯縁の刃部。一部につぶれあり。
10544	PJ-54　8	磨石類	安山岩類	1/2	88.0	84.0	42.0	429	住居西壁沿い、埋土下層出土。石鹸型。磨り面２面。両面中央に敲打凹みが長軸方向に並ぶ。両側面は稜磨石状。長軸端部に溝状に凹んだ敲打痕。多孔質安山岩
10545	PJ-54　6	磨石類	安山岩類	1/2	97.0	80.0	52.0	648	住居西壁沿い、埋土上層出土。長楕円形。湾曲が緩やかな面が顕著に磨耗。反対面は稜があり、摩耗は弱い。側面は稜磨石状。長軸端部に敲打痕。多孔質安山岩
10546	PJ-54	磨石類	砂岩類	1/2	78.0	59.0	38.0	266	長楕円形。平坦な面に磨耗と敲打による深い凹み。ざらついたやや粗粒の砂岩
10547	PJ-54 16	台石	安山岩類	1/3	180.0	237.0	67.0	3,000	埋土上層出土。扁平円礫。平坦な面に弱い磨耗と敲打痕。石皿のような皿部は形成されない。多孔質安山岩

PJ043 号住居

位　　置：F-4 グリッドに位置する。PJ043 号住居は中期の住居跡で、前期の PJ053 号住居を切る。

規　　模：竪穴が明瞭に検出されず、規模は不明である。柱穴の配置と床面の広さからみて、直径 5m 強の円形住居と思われる。

埋　　土：黒褐色土が埋積していたが、竪穴が不明瞭かつ浅いため、断面図は省略した。

床　　面：浅い谷地形を埋積する黒色土の地山面に、くすんだ暗褐色の床面が明瞭に観察された。

炉　：4 つの炉石をもつ石囲炉を検出した。炉石は扁平な花崗岩の亜円礫で、被熱に加え、岩質の脆さから著しく風化していた。炉内と炉底に焼土は検出されなかったが、炉の周囲の床面は被熱し、焼土化していた。特に炉南東側で広く焼土化し、炉石下の地山まで焼土化が観察された。

周　　溝：検出されなかった。

柱　　穴：PT552 号、PT553 号、PT555 号、PT556 号ピットと DK300 号土坑の 5 基が主柱穴である。DK356 号土坑と PT656 号ピットは 23cm と浅いが貯蔵穴と思われる。

出土遺物：柱穴 DK300 号土坑の上面で藤内式のパネル文土器底部破片、貯蔵穴とみられる DK356 号土坑で楕円区画文を施文した土器破片が出土したほか、中期中葉の浅鉢破片がまとまって出土した。

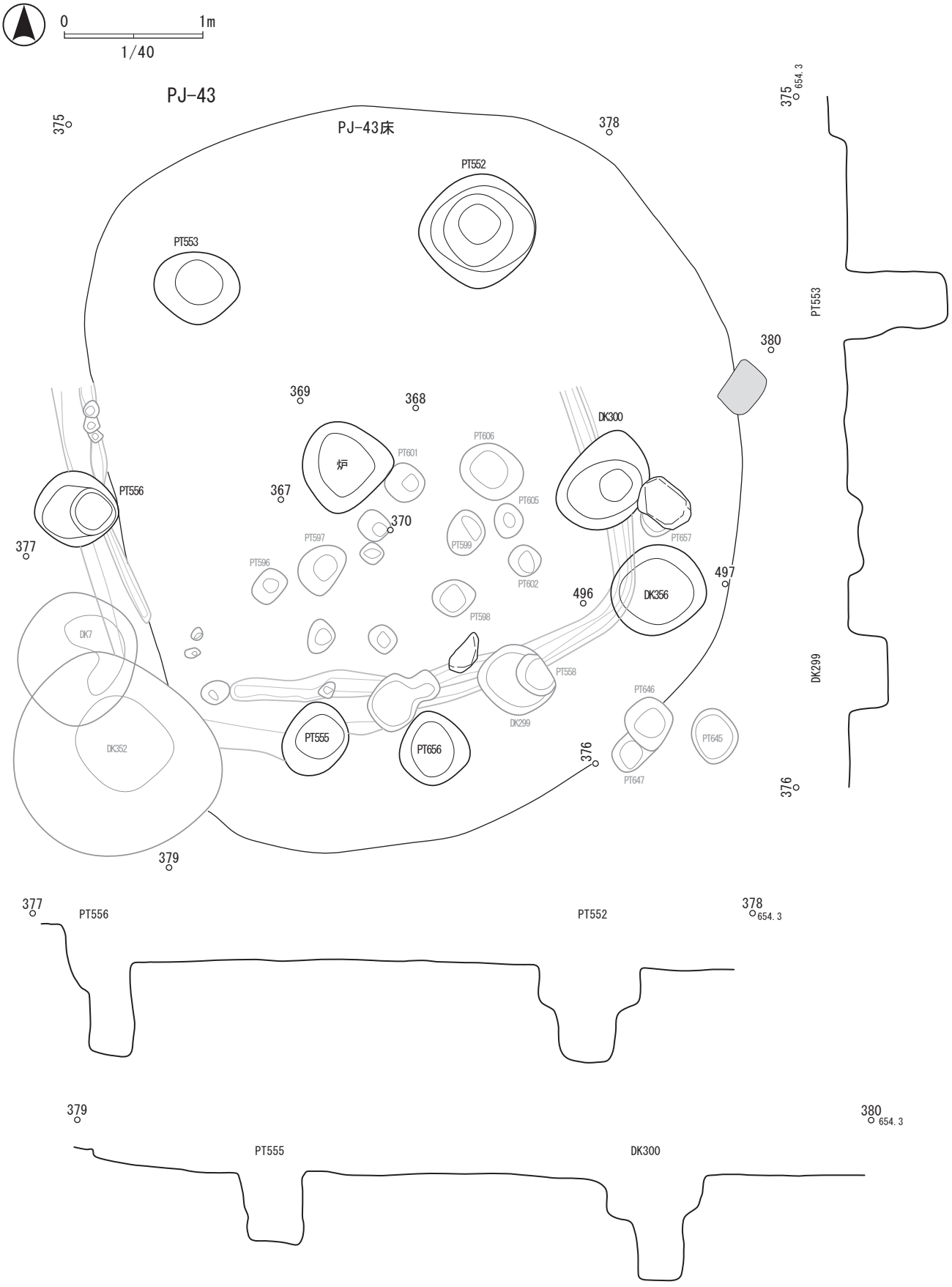
出土土器の総量は 9,331g で、中期のほか中越式 1,842g、神之木式 1,154g、諸磯式 1,379g が出土した。

出土した石器の多くは、薄い埋土中から出土した。内訳は、石鏃 15 点、削器 3 点、両極石器 2 点、石錐 1 点、打製石斧 4 点、磨石類 2 点、石皿 1 点、磨製石斧 1 点、剥離のある剥片 3 点、黒曜石原石 1 点である。石鏃が多いのは、住居の下層にある前期の PJ53 号住居から混入したものがあるためと思われる。

時　　期：出土土器から中期中葉の藤内式期と思われるが、細分形式期までは絞り込めない。

PJ-43 号住居　土坑ピット一覧表

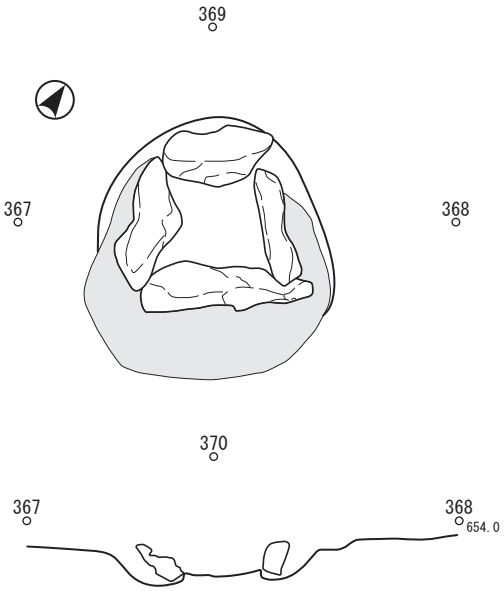
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-552	43 住内	50(46*47)	65(60)	10YR2/3(黒褐）に 10YR3/3(暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器、諸磯式土器、藤内式土器破片
PT-553	43 住内	48(54*54)	60(66)	10YR2/3(黒褐）に 10YR3/3(暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器、神之木式土器、諸磯式土器、藤内式土器破片
PT-555	53 住南壁	40*40	46	10YR2/3(黒褐）に 10YR3/2(黒褐）が 3%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器、諸磯 b 式土器破片
PT-556	53 住西壁	28*-	45	10YR2/3(黒褐）に 10YR3/4(暗褐）が 3%、焼土と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器、神之木式土器破片
PT-656	53 住南 0.5m	54*(44)	23	10YR2/3(黒褐）に 10YR3/2(黒褐）が 3% 混じる。粗粒。ややしまる。	貯蔵穴か
DK-300	53 住東壁	50*-	68	10YR2/3(黒褐）に 10YR3/2(黒褐）が 5% 混じる。シルト粒土。しまる。	中越式土器、諸磯式土器、中期土器破片
DK-356	53 住南東壁	53*-	23	10YR2/3(黒褐）に 10YR3/2(黒褐）と炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	貯蔵穴か。中越式土器、藤内式土器底部、礫

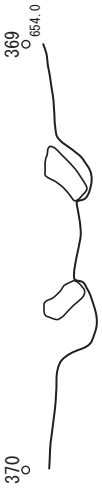

0
1m
1/40
PJ-43
PJ-43床
375
378
PT552
PT553
380
369
368
DK300
炉
PT601
PT606
PT556
367
PT605
370
377
PT597
PT657
PT599
PT596
PT602
497
496
DK356
PT598
DK7
PT558
PT646
DK299
PT555
PT656
PT645
376
DK352
PT647
379
375 654.3
PT553
DK299
376
377
PT556
PT552
378 654.3
379
PT555
DK300
380 654.3

PJ043 号住居

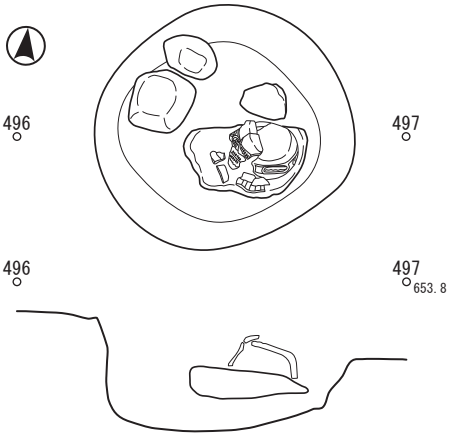
0　50cm
1/20

炉

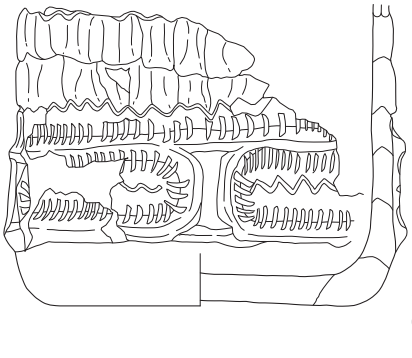


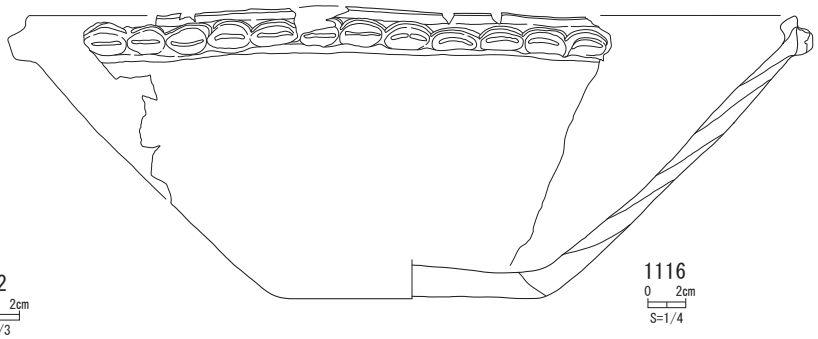


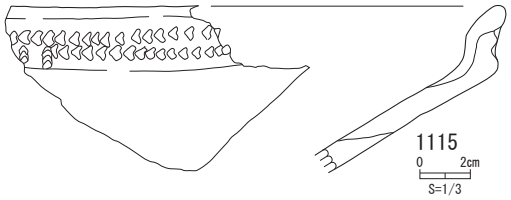
DK-356

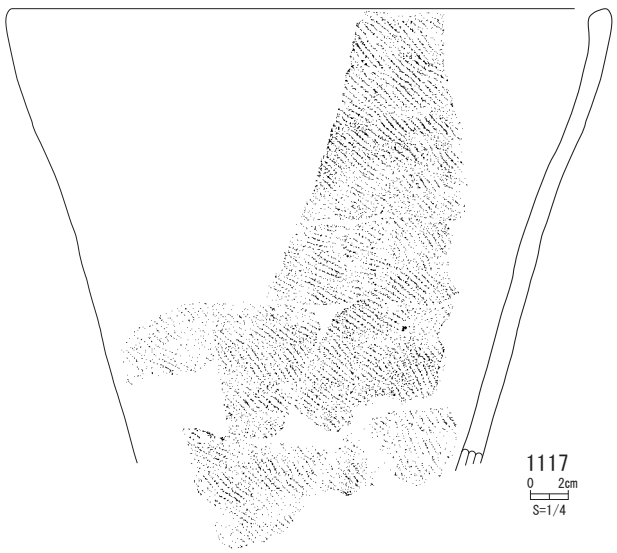


1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%、花崗岩粒が5%混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。
地山　10YR5/8(黄褐)に7.5YR4/6(褐)が15%、10YR3/4(暗褐)が5%、花崗岩粒が10%混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。
壁　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が5%、花崗岩粒が7%混じるシルト粒土。粘性あり。しまる。

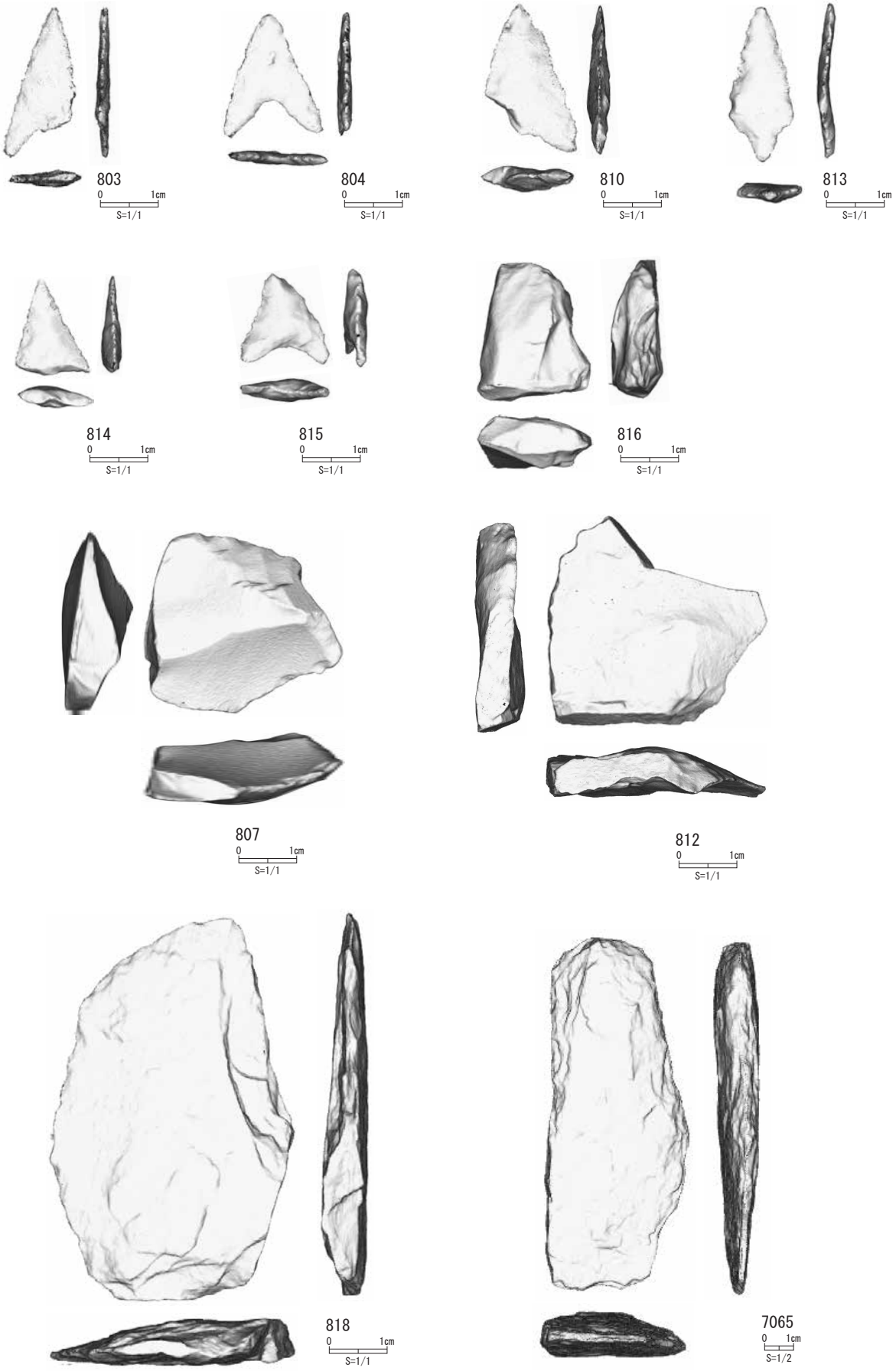




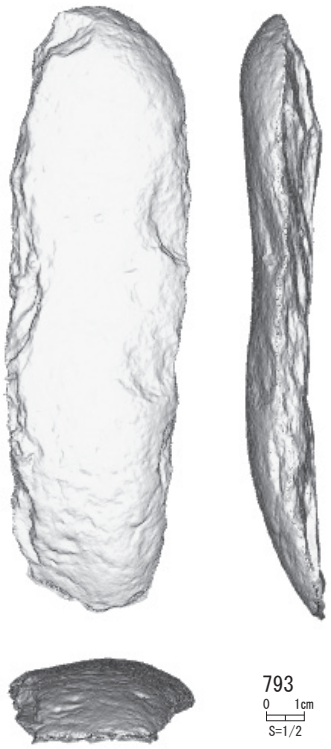


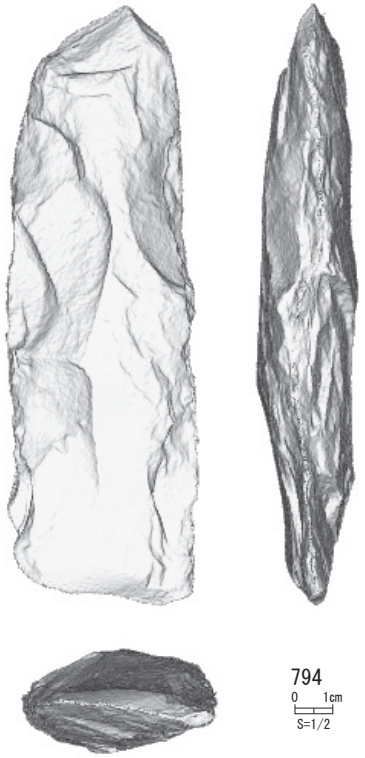


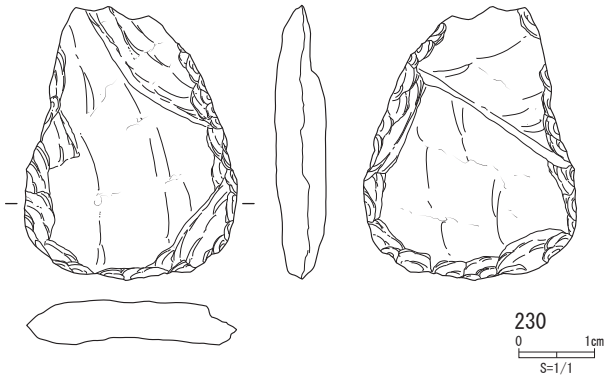
PJ043 号住居　PJ043 号住居出土遺物

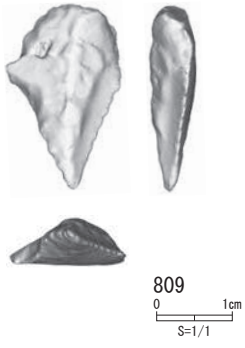


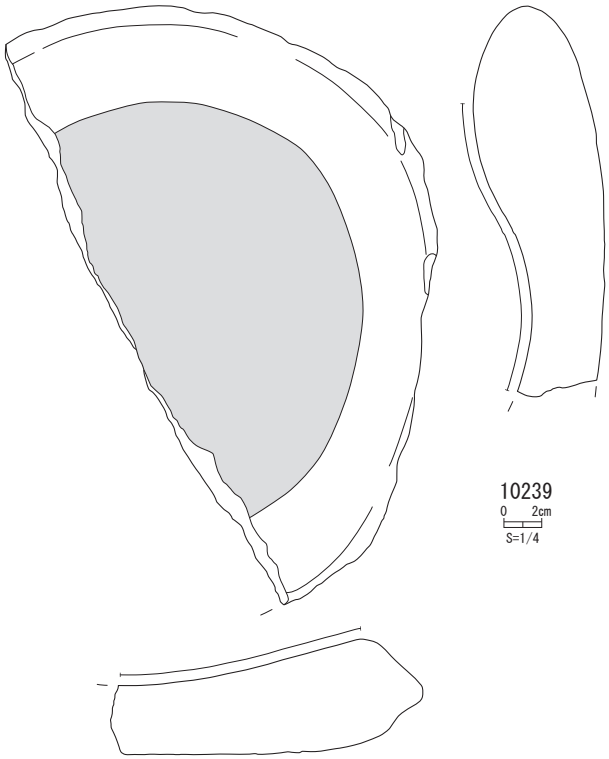
PJ043 号住居出土遺物











PJ043 号住居出土遺物

PJ043 号住居　土器観察表

実測番号	注記（6-010-2012）	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1102	DK-356 図 1	胴部～底部	－	－	12.0	934.0	破片	内：5YR5/4 外：5YR6/6	PJ43 号住居内の DK356 号土坑で出土。礫の上に伏せた状態で出土。外面は接合部に指頭圧痕が顕著に残り、楕円区画文。内面はていねいなミガキ調整。
1115	PJ-43 床	口縁部	－	－	－	146.0	破片	内：7.5YR5/6 外：7.5YR6/6	PJ43 号住居床面で出土。浅鉢破片。口縁部に三角押引文。外面ケズリ調整、内面は横ミガキ調整
1116	PJ-43 1 床面	口縁～底部	(40.6)	(15.2)	14.0	1,823.0	2/5	内：5YR4/2 外：5YR5/6	PJ43 号住居内の DK300 号土坑脇、床面出土。浅鉢。口縁部に鎖状隆帯。内外面ともにていねいなミガキ調整
1117	PJ-43 床、PJ-43 一括、F-4-19	口縁～胴部	(31.6)	－	－	483.0	破片	内：5YR4/2 外：5YR4/4	PJ43 号住居床面出土。縄文地文。内面ミガキ調整

PJ043 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
0230	PJ-53	打製石斧	粘板岩	3/4	72.0	56.0	13.0	63.90	折損した打製石斧の破損部を再生利用か。器面が風化し使用痕は不明瞭だが、刃部の一部に磨滅痕。器面は黄色に風化
0793	PJ-43	打製石斧	砂岩	1/1	161.0	49.0	20.0	192.20	砂岩円礫面が残る剥片素材。狭い端部にガジリ。使用痕はみられず、どちらが刃部がはっきりしない
0794	PJ-43　床直	打製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	157.0	53.0	255.0	227.10	床面直上出土。刃部が研磨されたように平滑に磨耗。
0797	PJ-43	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.20	先端がとがった縦長剥片の長辺に刃こぼれ。斑入りの半透明黒曜石
0798	PJ-43	石鏃	黒曜石	1/1	21.1	13.9	3.4	0.99	基部と片側縁辺のみを調整し始めた未製品。斑入りの半透明黒曜石
0800	PJ-43	両極石器	黒曜石	1/1	27.0	19.0	7.0	3.70	平滑な礫面が残る剥片素材。縞のある半透明黒曜石
0801	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	(17.8)	－	4.3	(0.63)	小さいが丹念に両面加工した石鏃。両脚端部欠損。透明な黒曜石
0802	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	(18.0)	－	3.4	(0.33)	細身小形、両面加工の石鏃。片脚欠損。半透明黒曜石
0803	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	26.7	－	2.6	(0.46)	細身、両面加工の石鏃。片脚欠損。ブルーブラック黒曜石
0804	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	(21.6)	17.1	2.3	(0.50)	凹基、やや長脚、両面加工の石鏃。先端欠損。ブルーブラック黒曜石
0805	PJ-43	石鏃	黒曜石	1/1	15.0	11.1	2.5	0.44	指爪大の小さな剥片の縁辺を調整し始めた段階の未製品。ブルーブラック黒曜石
0806	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	(14.4)	－	3.2	(0.30)	小形、凹基、両面加工の石鏃。両脚欠損。縞のある透明黒曜石
0807	PJ-43	削器	珪質頁岩	3/4	30.0	34.0	11.0	12.30	小形。複刃。一方がノッチドスクレーパー刃部。両面調整の刃部の１点が摩耗、折れ面の縁も摩耗。両面調整の刃部は交互剥離で鋸歯状。主剥離面が大きく残る剥片素材。青灰色で油脂状光沢のある珪質頁岩
0808	PJ-43	原石	黒曜石		26.0	36.0	20.0	27.10	ズリ。一発コア？細い白筋が多数ある半透明黒曜石
0809	PJ-43	石錐	黒曜石	1/1	24.5	15.5	6.0	1.60	剥片素材。縁辺に歯つぶし調整。先端部にわずかなつぶれ状の使用痕
0810	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	26.5	－	3.8	(0.95)	大形、凹基、両面加工の石鏃優品。片脚欠損。透明な黒曜石
0811	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	24.1	16.8	5.2	1.61	未成品。三辺に成形段階の調整。片脚が大きく欠損。斑入りの透明黒曜石
0812	PJ-43	削器	珪質頁岩	1/2				11.60	礫面が残る板状剥片素材。薄く鋭い縁辺に刃こぼれとわずかなつぶれ。白筋のある青灰色珪質頁岩
0813	PJ-43	石鏃	黒曜石	1/1	27.2	11.6	2.3	0.62	有茎。主剥離面が残るやや反った剥片素材。先端部がわずかに欠損。縞のある透明黒曜石
0814	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	17.8	－	3.5	(0.50)	平基、両面加工、片脚欠損。半透明黒曜石

PJ043 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0815	PJ-43	石鏃	黒曜石	3/4	(16.0)	15.5	3.8	(0.60)	凹基、両面加工、先端欠損。両面加工だが技術的にはやや稚拙。基部の着柄箇所の剥離面は光沢が失われ、くすんでいる。着柄痕か。斑入りの透明黒曜石
0816	PJ-43	両極石器	珪質頁岩	1/1	24.0	20.0	8.0	4.60	板状砕片素材。片側の敲打痕、剥離は不明瞭。青灰色珪質頁岩
0818	PJ-43	削器	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	1/1	41.0	69.0	7.0	23.50	横長剥片の薄い縁辺を刃部とした素刃削器。刃部に刃こぼれ。主剥離面に体部調整、素刃削器の典型例
0821	PJ-43　カクラン	石鏃	黒曜石	1/1	21.3	17.7	5.7	1.44	凹基、両面加工。縁辺の最終調整剥離がなく未成品か。斑入りの透明黒曜石
0822	PJ-43　カクラン	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.10	縦長剥片の長軸２側縁に刃こぼれ。斑入りの透明黒曜石
0823	PJ-43　床下	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				5.70	ズリ面が残る不整形剥片の薄い縁辺に刃こぼれ。斑入りの透明黒曜石
0824	PJ-43　カクラン	石鏃	黒曜石	3/4	23.1	－	3.3	(0.66)	凹基、やや長脚、両面加工の優品。片脚欠損。葛湯状の半透明黒曜石
0832	PJ-43　カクラン	石鏃	黒曜石	1/1	21.1	17.5	3.5	0.91	未成品。反った薄い剥片素材の縁辺に調整。成形段階。片脚が大きく欠損。透明黒曜石
7065	IG-6542	打製石斧	頁岩	3/4	122.0	53.0	15.0	119.80	南壁沿い、床面で出土。片側側縁が縦割れ。器面が風化し、使用痕は不明瞭
10236	PJ-43　カクラン	磨製石斧	緑色岩	1/1	(117)	53	42	340	住居西端の風倒木痕と思われる撹乱部で出土した磨製石斧の器体中央部の破片。PJ24 号住居 10244 基部破片と接合。本来の刃部が折損したため、破損部に刃部を再生。再生後に着柄して使用したが、刃部から基部の軸にずれが生じて、着柄箇所に無理な力が働き、折損したものと推測される。敲打による浅い凹みあり。折損後、敲き石に転用か。
10238	PJ-43　4	磨石類	花崗岩類	1/1	76	77	54	409	想定される PJ043 号住居の範囲から北に外れる。被熱し表面が風化、非常にもろい。磨石作業面 1 面。側面・長軸端部は観察不可能
10239	PJ-43　3	石皿	安山岩類	1/2	(241)	(340)	72	4,600	DK299 号土坑と PT598 号ピットの間の床面で、皿面を下に伏せた状態で出土。皿部の縁と側縁部に幅をもつ。側縁部から底面にかけて敲打成形あり。皿部中央部分の磨耗痕が発達。皿部は連続敲打により成形されている。皿部縁辺に稜がない。底面の磨耗も発達している。明瞭なかき出し部がない。
10240	PJ-43　床直	磨石類	安山岩類	－				82	長軸端部が尖る紡錘形の磨石類。磨石作業面 2 面。器体 2/3 を欠損

PJ053 号住居

位　　置：F-4 グリッドに位置する。PJ043 号住居に切られる。本住居の北半分は現状保存区域にあたり、未調査である。本住居は PJ043 号住居の床面下から検出された。

規　　模：一辺 4m 程度の方形ないし長方形住居と思われる。竪穴は PJ043 号住居床面下で深さ 20cm 程度が残っていた。

埋　　土：ややくすんだ暗褐色の PJ043 号住居床面をはぎ取ると、黒褐色と暗褐色土が斑に混じる埋土が残されていた。竪穴が浅いため断面図は省略した。

床　　面：黄褐色砂質の地山をそのまま床面としている。床面は汚れているが硬く踏みしまった箇所は検出されなかった。

炉　：調査範囲では検出されなかった。

周　　溝：調査範囲で壁に沿う小溝が検出された。

柱　　穴：PT597 号と PT599 号ピットの 2 基が 76cm、60cm と深く、主柱穴と思われる。この 2 基の近くに PT596 号、PT602 号ピットがあり、それぞれ 46cm、35cm とやや浅いものの、この 2 基も建替えに伴う新しい段階の柱穴とみられる。

出土遺物：PT597 号ピット付近の床面から数 cm 浮いた埋土下層で、中越式土器、神之木式土器の大きな破片が花崗岩礫、鉄平石とともにまとまって出土したほか、埋土からも多数の土器破片が出土した。

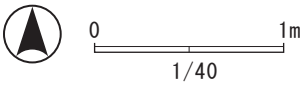
出土土器の総量は 12,728g で、中越式 7,044g、神之木式 3,678g、諸磯式 379g などである。わずかに関山式、堂之上 Z 式、上の坊式、神之木台式破片が混じる。

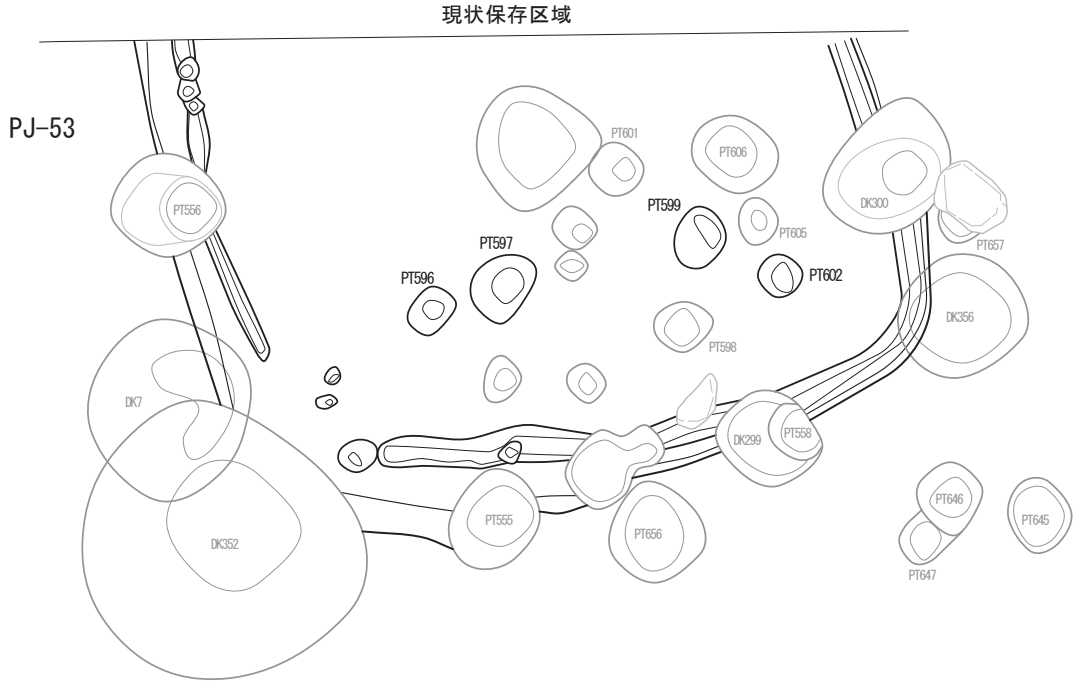
石器の多くは埋土から出土したが、大きめの黒曜石原石 2 点がまとまって南東壁際から出土している。内訳は、石鏃 23 点、掻器 1 点、削器 3 点、小形石匙 1 点、石錐 1 点、磨石類 4 点、ハンマー 1 点、黒曜石石核 1 点、黒曜石素材剥片 1 点、剥離のある剥片 3 点、黒曜石原石 4 点、剥離のある黒曜石原石 1 点である。

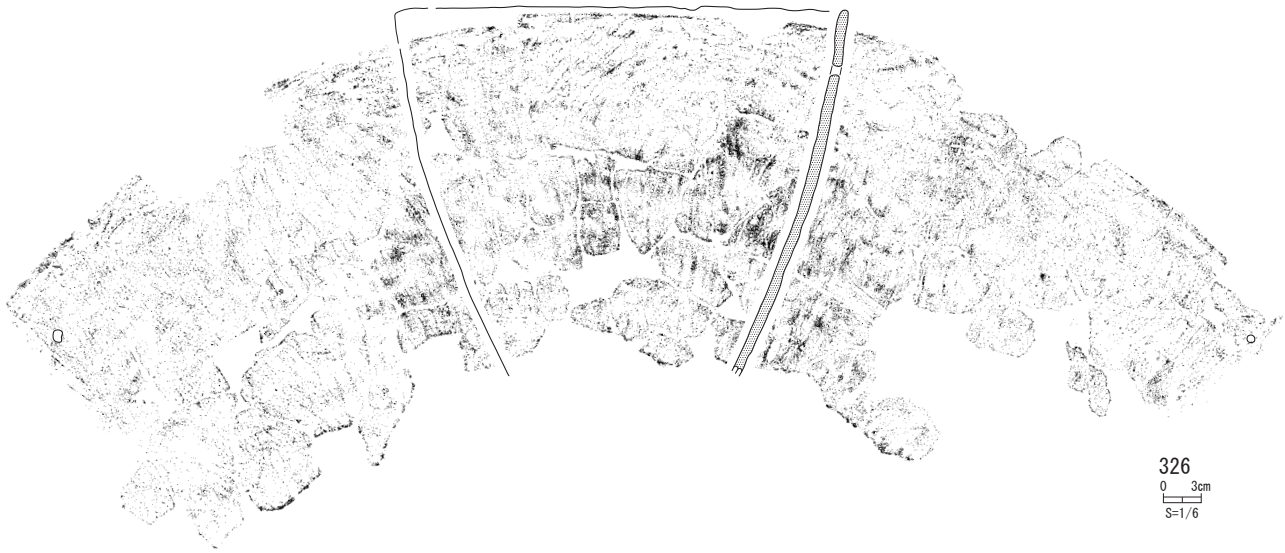
時　　期：出土した土器から、神之木式土器を共伴する中越Ⅳ式期の住居と判断される。

PJ-53 号住居　土坑ピット一覧表

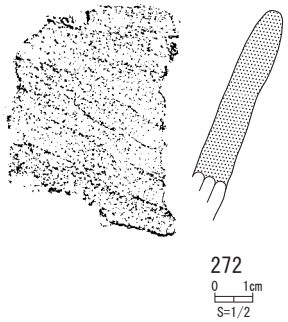
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-596	53 住内	17*22	46	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	中越式土器破片
PT-597	53 住内	26*(34)	76	10YR2/3（黒褐）に 10YR4/4（褐）が 10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-599	53 住内	30*(26)	60	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-602	53 住内	21*21	35	10YR2/3（黒褐）に 10YR3/4（暗褐）が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。	

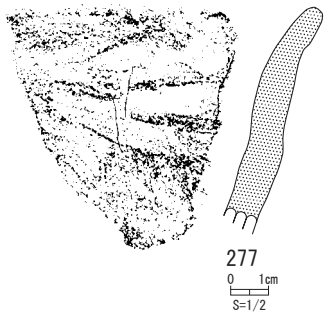


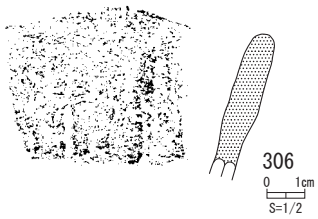


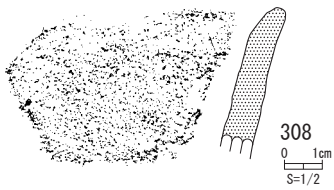


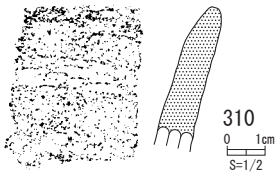
PJ053 号住居　PJ053 号住居出土遺物

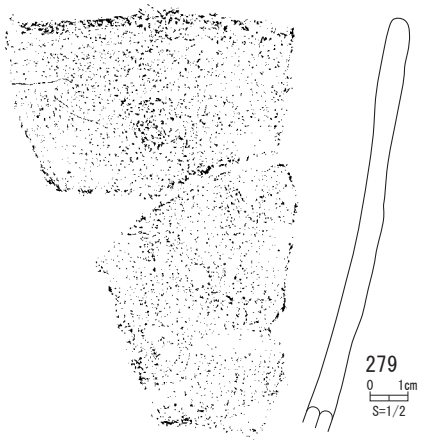


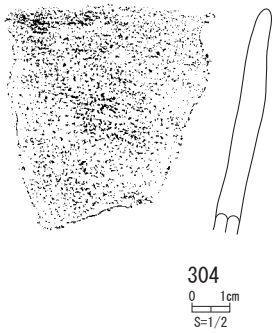


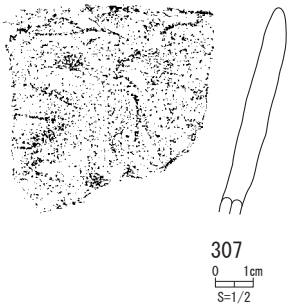


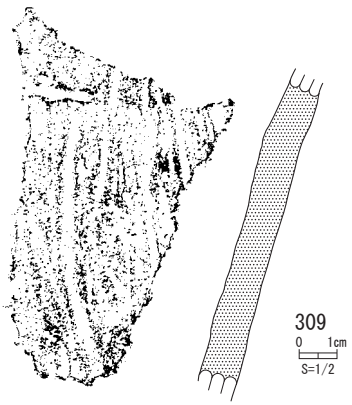


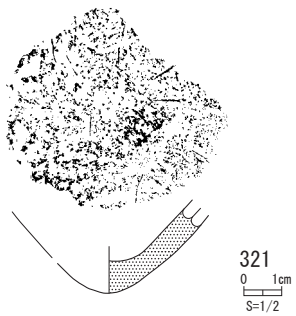




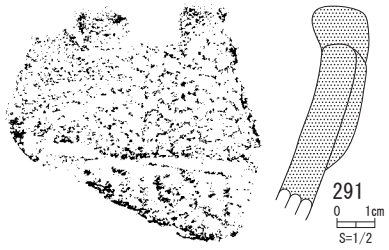


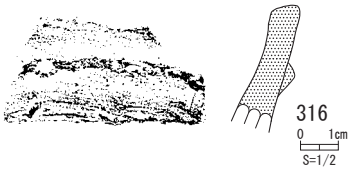


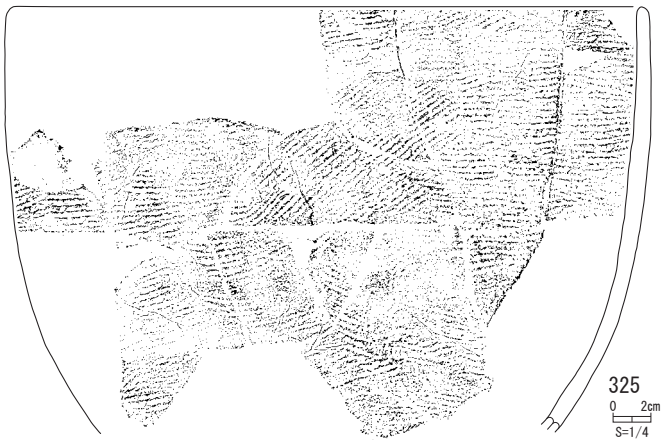


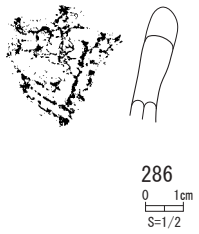


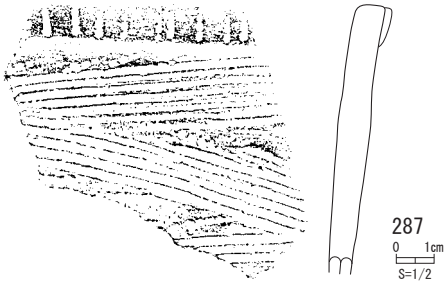
PJ053 号住居出土遺物

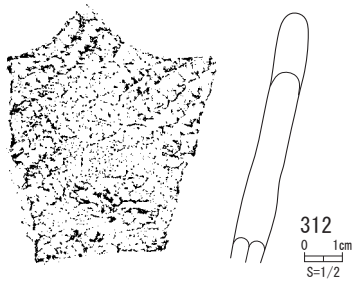


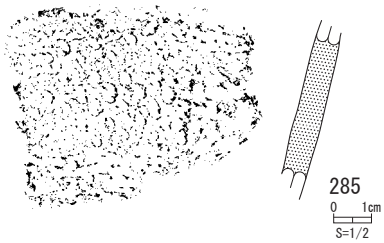


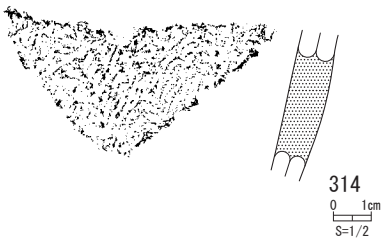


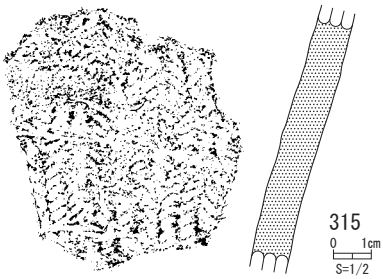




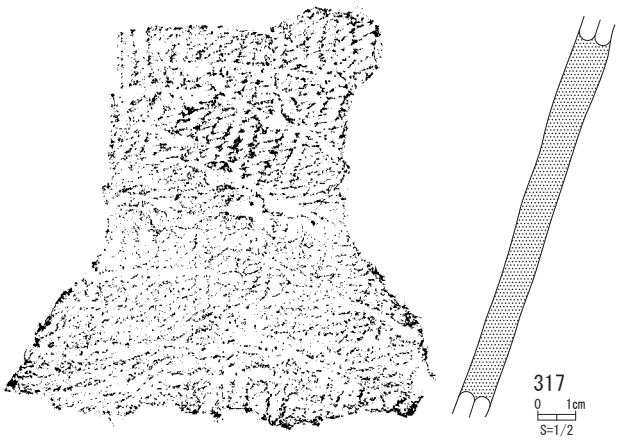


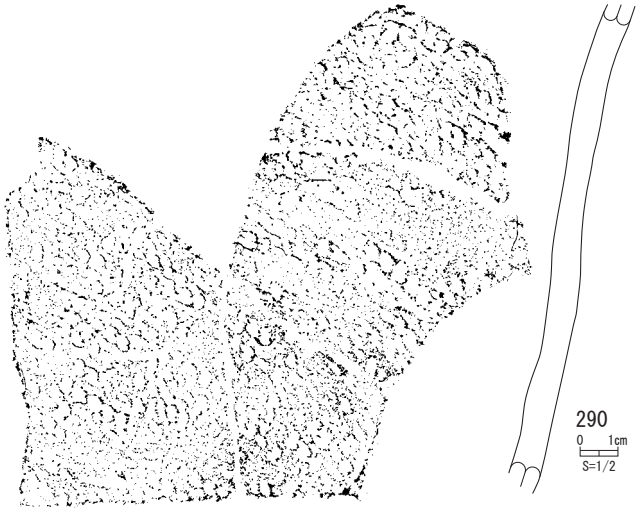


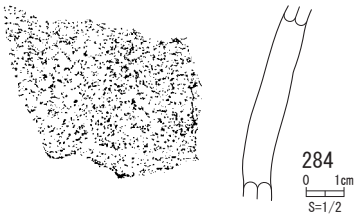


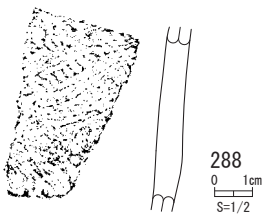


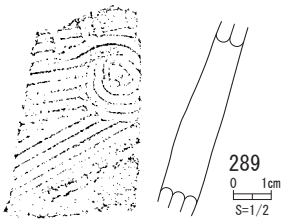
PJ053 号住居出土遺物

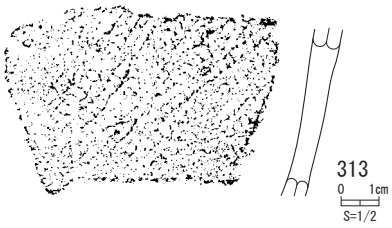


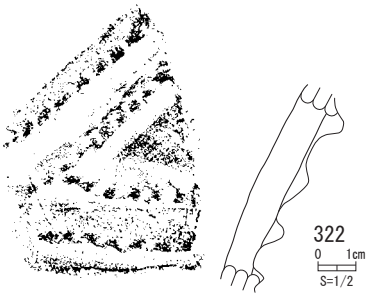


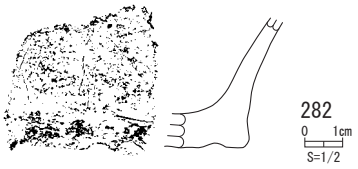


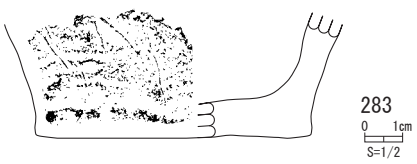




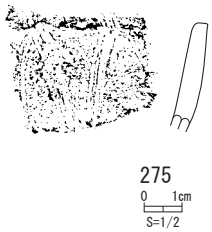


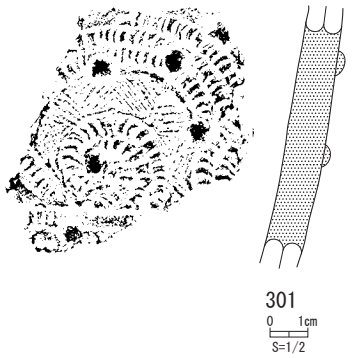


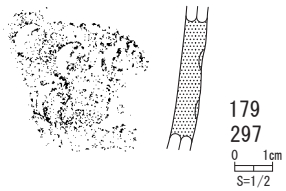


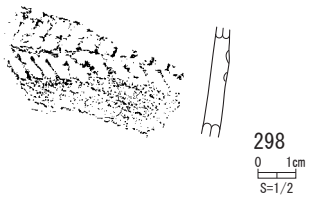


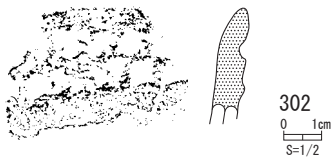
PJ053 号住居出土遺物

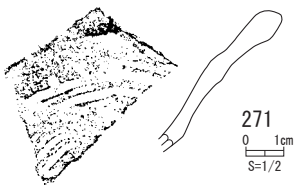




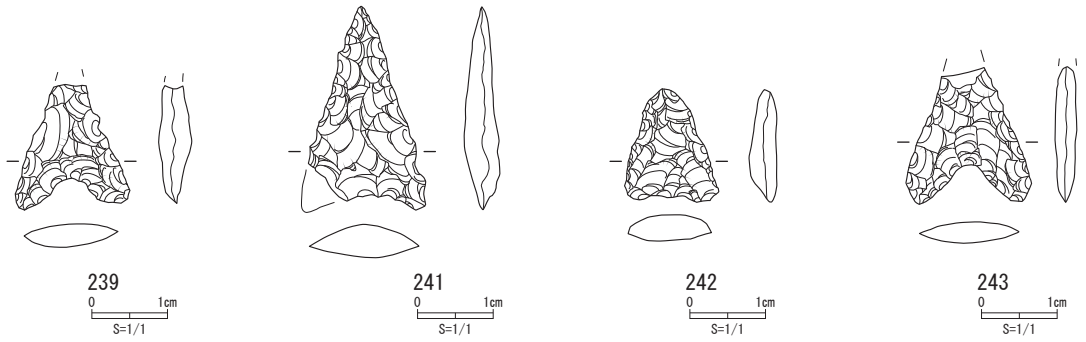


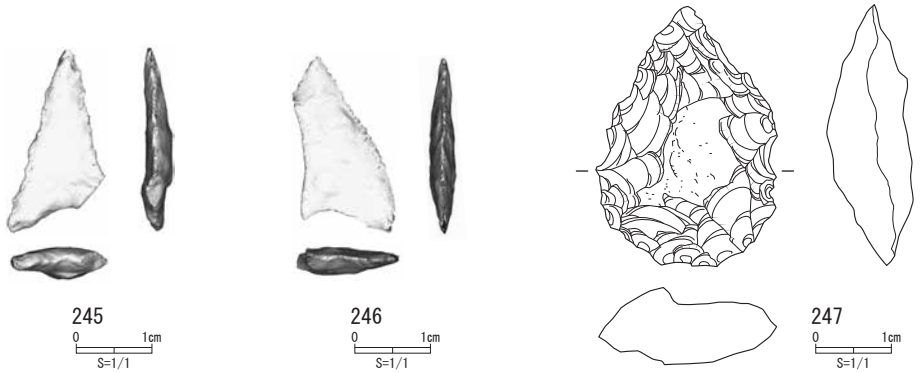


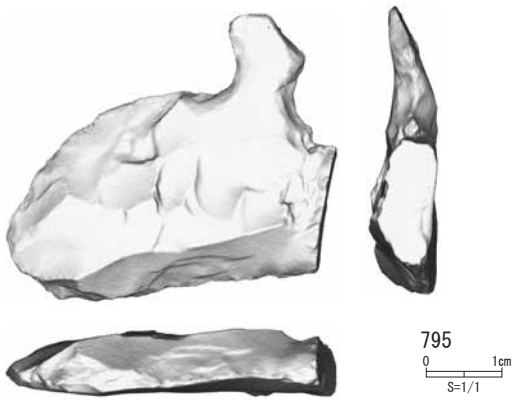


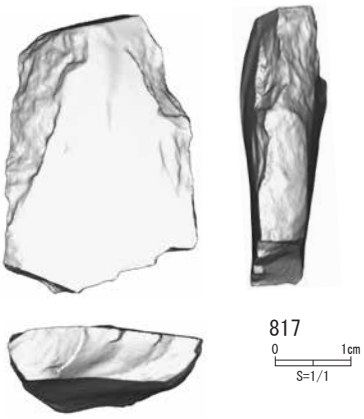


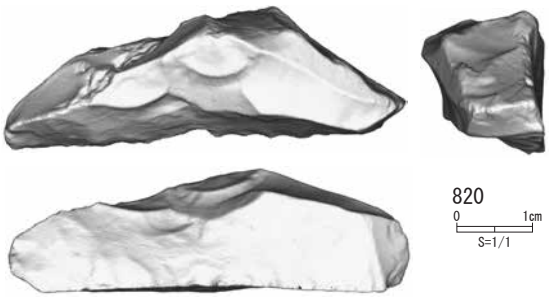
PJ053 号住居出土遺物

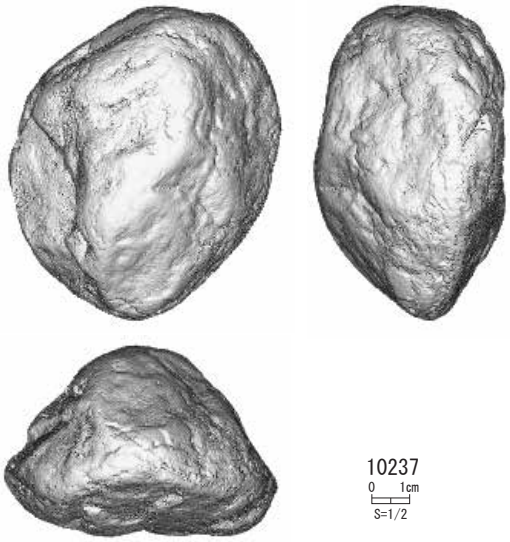




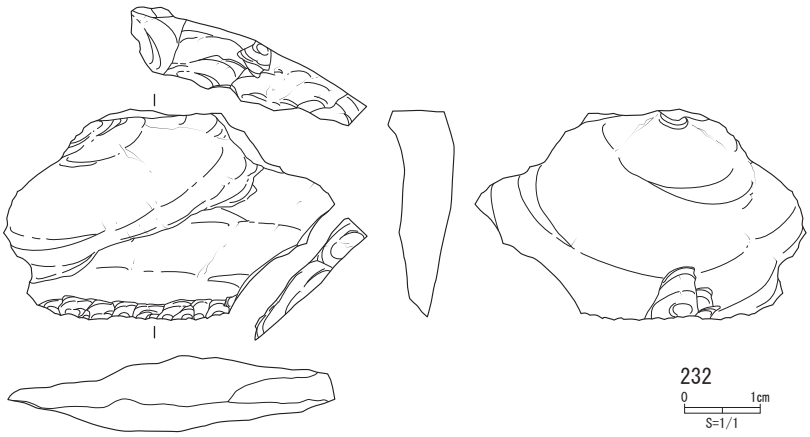


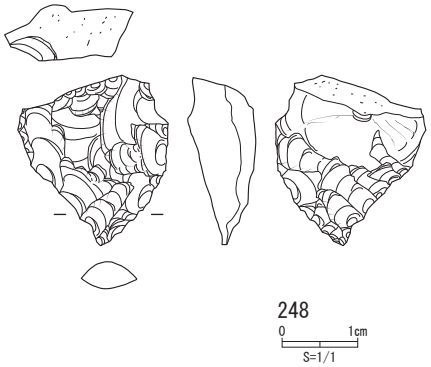


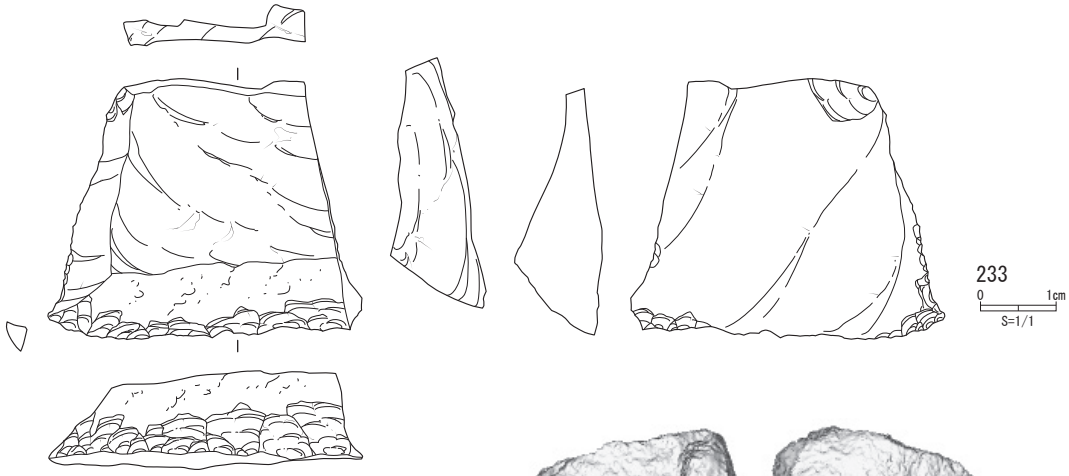


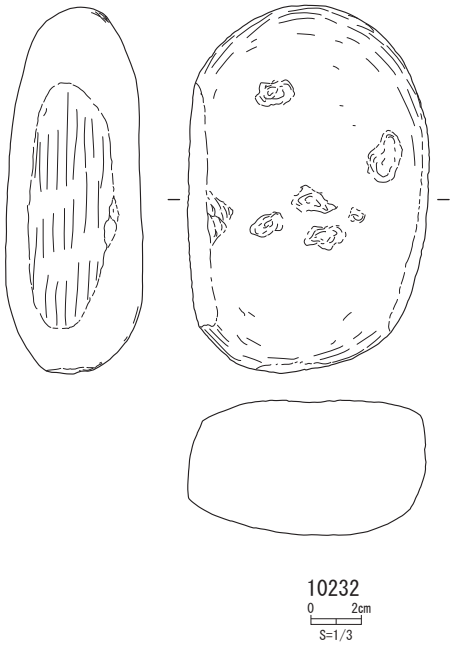


PJ053 号住居出土遺物









PJ053 号住居出土遺物

PJ053 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考（特記なき場合は、埋土一括取り上げ）
270	PJ-43	胴部	－	－	－	21.0	破片	7.5YR5/4 5YR3/3	外面に深い指頭圧痕が顕著。内面はていねいな横ナデミガキ。器壁は薄手で胎土に繊維を含まない。
271	PJ-43	口縁部	－	－	－	8.0	破片	7.5YR6/6 5YR5/6	口縁部が大きく外反して開く器形で、波状口縁。外面に条痕文、内面は指頭圧痕が顕著。口唇部に刻み？　器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。
272	PJ-43	口縁部	－	－	－	27.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/4	外面は斜めの指ナデ調整、内面は指頭圧痕が残る横ナデ調整。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
274	PJ-43 床下	口縁部	－	－	－	13.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	やや肥厚する口縁に格子目文。肥厚帯下端に刻み。内面は指頭圧痕が残るナデミガキ調整。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。木島式
275	PJ-43	口縁部	－	－	－	8.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR5/4	3 本一組の平行沈線文が口縁部から口唇上に施文。器壁は薄く胎土に繊維を含まない。内面に指頭圧痕がやや残る。木島式
276	PJ-43 床下	口縁部 ～胴部	－	－	－	20.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR4/3	格子目状の条線文。器壁は薄く胎土に繊維を含まない。内面は指頭圧痕が残る。木島式
277	PJ-43	口縁部	－	－	－	37.0	破片	7.5YR3/3 7.5YR4/3	外面に深い指頭圧痕と指ナデ。内面は指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
278	PJ-43 床下	口縁部	－	－	－	62.0	破片	7.5YR3/1 5YR3/2	内外面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中越Ⅳ式か
279	PJ-43 床下	口縁部 ～胴部	－	－	－	70.0	破片	2.5YR3/1 5YR3/4	外面縦ケズリ、内面は指頭圧痕が残る横ナデ。胎土に繊維を含まない。器壁は中厚手。中越式か
282	PJ-43	胴部～ 底部	－	－	－	17.0	破片	5YR5/4 7.5YR5/4	上げ底気味の底部。外面は指頭圧痕が残る。器壁はやや薄手。神之木式か
283	PJ-43 床下	胴部～ 底部	－	－	(7.4)	45.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR5/4	縄文地文。胎土に繊維を含まない。神之木式
284	PJ-43	胴部	－	－	－	22.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR5/6	縄の束。胎土に繊維を含まない。神之木式
285	PJ-43	胴部	－	－	－	32.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/6	前々段多条と結節縄文。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含む。神之木式
286	PJ-43 床下	口縁部	－	－	－	6.0	破片	7.5YR6/4 5YR5/4	口唇部に小突起。櫛歯状工具の刺突文。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
287	PJ-43	口縁部	－	－	－	60.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	口唇部肥厚。櫛歯状工具の刺突文と条線文。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
288	PJ-43 床下	胴部	－	－	－	15.0	破片	5YR4/3 5YR5/6	撚糸の束？と単節縄文。内面横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
289	PJ-43 床下	胴部	－	－	－	23.0	破片	5YR6/6 5YR5/6	287 と同一個体
290	PJ-43 床下	胴部	－	－	－	229.0	破片	5YR6/6 7.5YR5/4	多条縄？　内面に指頭圧痕が残る横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
291	PJ-43	口縁部	－	－	－	46.0	破片	5YR5/4 7.5YR3/2	口唇部に突起。肥厚口縁に多条縄？　肥厚段差の下に櫛歯状工具？の刺突列。内面は指頭圧痕がやや残る横ナデ調整。胎土に繊維を含む。神之木式
294	PJ-43 床下	胴部	－	－	－	10.0	破片	10YR7/4 10YR8/4	幅狭の爪形押引き文。器壁は薄く、内面は平滑に調整。胎土は乳白色。諸磯ａ式併行
297	PJ-43	胴部	－	－	－	10.0	破片	5YR/4 7.5YR5/6	大柄の爪形文。器壁は薄く内面は平滑に調整。胎土に繊維を含む。PJ99 号住居出土の 2219 と同一個体。堂ノ上Ｚ式か
298	PJ-43 カクラン	胴部	－	－	－	7.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR5/3	先端が二又の工具とヘラ状工具による羽状刺突文。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。内面は指頭圧痕がやや残るが、ていねいにミガキ調整。上の坊式か
299	PJ-43 床下	口縁部	－	－	－	57.0	破片	7.5YR3/2 7.5YR3/3	ヘラ状工具の連続刺突文。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。内外面に指頭圧痕がやや残る。内面はていねいなナデ調整。上の坊式か
300	PJ-43	口縁部	－	－	－	6.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/4	口縁部に先端が三又に分かれた工具による連続刺突文。押引きで施文。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。内面は指頭圧痕がやや残るが、ていねいなナデ調整。上の坊式か
301	PJ-43 床下	胴部	－	－	－	44.0	破片	5YR6/6 5YR5/6	押引曲線文と梯子状沈線文、貼付文。内面は平滑にミガキ調整。胎土に繊維を含む。二ツ木式新段階か関山Ⅰ式
302	PJ-43 床下	口縁部	－	－	－	15.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	先端が三又に分かれた工具を深く刺突して施文。器壁は中厚手で胎土に繊維を含む。内面は指頭圧痕がやや残り、粗いナデ調整。
304	PJ-53	口縁部	－	－	－	27.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/4	内外面とも指頭圧痕が残る横ナデ調整。器壁は中厚手。胎土に繊維を含まない。中越式
306	PJ-53	口縁部	－	－	－	15.0	破片	5YR3/2 5YR3/3	内外面とも指頭圧痕が残る。器壁は中厚手で胎土に繊維を含む。中越式
307	PJ-53	口縁部	－	－	－	19.0	破片	7.5YR2/1 5YR2/1	内外面とも指頭圧痕が残る。器壁は中厚手で胎土に繊維を含まない。やや小ぶりの深鉢口縁部破片。中越式

PJ053 号住居　土器観察表

実測番号	注記	部位	口径／縦（cm）	器高／横（cm）	底径／厚さ（cm）	重量（g）	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考（特記なき場合は、埋土一括取り上げ）
308	PJ-53 12	口縁部	－	－	－	20.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR4/3	内外面とも指頭圧痕がやや残る横ナデ調整。器壁は中厚手で胎土に繊維を含む。中越式
309	PJ-53 8	胴部	－	－	－	49.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/3	外面は縦ナデでナデ痕が条痕のようにみえる。内面は指頭圧痕が残る横ナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式
310	PJ-53 9	口縁部	－	－	－	18.0	破片	5YR5/4 7.5YR3/2	外面は平滑にナデ調整、内面は指頭圧痕がわずかに残る横ナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式
312	PJ-53 14	口縁部	－	－	－	36.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	口唇部に突起。縄文地文。内面は横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
313	PJ-53	胴部	－	－	－	34.0	破片	7.5YR4/3 7.5YR3/1	縄文地文。内面は指頭圧痕がやや残る横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
314	PJ-53 15	胴部	－	－	－	27.0	破片	5YR4/3 7.5YR5/4	縄の束。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含む。神之木式
315	PJ-53 20	胴部	－	－	－	48.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR6/6	縄の束。外面には凹凸が残る。内面は平滑にナデ調整。胎土に繊維を含む。神之木式
316	PJ-53 6	口縁部	－	－	－	18.0	破片	7.5YR5/6 5YR4/6	口縁部に断面三角形の細い隆帯を巡らせる。外面横ナデ調整。内面条痕文。胎土に繊維をわずかに含む。神之木台式か
317	PJ-53	胴部	－	－	－	109.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	5本の同撚条を揃えて施文。外面にはやや凹凸が残り、内面は指頭圧痕がわずかに残るが、ていねいにナデミガキ調整。胎土に繊維を含む。神之木式
321	PJ-53	底部	－	－	丸底	14.0	破片	7.5YR3/2 5YR5/6	まばらな縄文を施文した丸底破片。胎土に繊維を含む。中越式か
322	PJ-53	胴部	－	－	－	44.0	破片	5YR5/4 5YR5/6	316と同一個体か。断面三角形の隆帯に竹管刻み。内面は平滑に横ナデ調整。胎土に繊維をわずかに含む。
323	PJ-53	口縁部	－	－	－	90.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR7/4	やや肥厚する口縁に櫛歯刺突文。胴部は縄文。内面は平滑に横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
325	PJ-53 1、PJ-53 6、PJ-53 7、PJ-53 15、PJ-53 16、PJ-53 、PJ-43 床下	口縁部～胴部	(33.2)	－	－	1,519.0	1/3	7.5YR5/4 7.5YR5/4	床面で花崗岩、鉄平石とともに破片状態になって出土。内面は指頭圧痕がやや残る横ナデ調整。胎土に繊維を含まない。神之木式
326	PJ-53 16、PJ-53 11、PJ-53 14、PJ-53 5、PJ-53 7、PJ-53 、PJ-43 床下	口縁部～胴部	36.0	－	－	2,698.0	2/3	7.5YR4/2 7.5YR4/2	床面で破片状態になって出土。外面は縦方向の指ナデ、内面は横方向の指ナデ痕が顕著に残り、器面は凹凸が著しい。胎土に繊維を含む。中越式
327	PJ-53 10、PJ-53 6、PJ-43 床下	口縁部～底部	(26.9)	29.0	5.4	1,515.0	1/3	7.5YR6/6 7.5YR6/6	326とともに床面で破片状態となって出土。内外面とも指頭圧痕と指ナデ痕が顕著に残る。上げ底気味の小さな底部。底部がなければ中越式とみる土器。器壁は厚手で胎土に繊維を含む。平底を取り入れた中越式か

PJ053 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長（mm）	現存幅（mm）	現存厚（mm）	重量（g）	観察所見
0231	PJ-53	石核	黒曜石					21.90	ズリ面が残る石核。一発コア状。縞のある半透明黒曜石
0232	PJ-53	削器	珪質頁岩	3/4	28.0	43.0	9.0	9.40	礫面が残る剥片素材。打面の対辺に刃部。刃こぼれは発達が弱い。白筋のある青灰色珪質頁岩
0233	PJ-53	削器	灰色チャート	1/2	34.0	41.0	13.0	18.40	礫面が残る厚い板状素材を折とって台形とし、刃部を作出。刃部端の尖部は石錐として使用。磨滅痕顕著。黒筋のある濃灰色チャート
0234	PJ-53	原石	黒曜石					13.00	ズリ。一発コア。光沢のない灰色の半透明黒曜石
0235	PJ-53	石鏃	黒曜石	1/2				1.50	未成品。先端と基部が大きく欠損。２辺に片面から調整剥離。灰色、不透明、光沢のない黒曜石
0236	PJ-53	石鏃	黒曜石	1/1				0.80	未成品。指爪大の小さな剥片素材の３辺に両面から調整剥離。斑入りの半透明黒曜石
0237	PJ-53	石鏃	黒曜石	－				0.20	未成品の小さな破片。斑入りの半透明黒曜石
0238	PJ-53	剥離のある剥片	黒曜石	－				0.80	板状剥片素材の１辺に鋸歯縁剥離。透明な黒曜石
0239	PJ-53	石鏃	黒曜石	3/4	(18.0)	15.5	5.0	(0.83)	凹基、やや長脚、両面加工、先端部欠損。白筋、黒縞のある半透明黒曜石
0240	PJ-53	石鏃	黒曜石	1/2	－	－	4.5	(0.81)	凹基、両面加工、先端部と片脚が大きく欠損。黒縞のある透明黒曜石

PJ053 号住居　石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
0241	PJ-53　10	石鏃	黒曜石	3/4	27.5	－	5.0	(1.17)	凹基、両面加工。裏面に主剥離面が残る。黒斑入りの葛湯状半透明黒曜石
0242	PJ-53	石鏃	黒曜石	1/1	15.3	12.7	4.0	0.57	凹基、裏面に主剥離面が大きく残る。先端側から剥離。透明黒曜石
0243	PJ-53	石鏃	黒曜石	3/4	－	16.3	3.3	(0.64)	凹基、両面加工、先端部は衝撃による折損。黒縞のある透明度のある黒曜石
0244	PJ-53	石鏃	黒曜石	3/4	17.1	13.0	4.4	0.85	未成品。凹基。指爪大の小さな剥片素材の縁辺を調整。厚みが減じられずに放棄か。斑入りの透明黒曜石
0245	PJ-53	石鏃	黒曜石	3/4	25.6	－	4.1	(0.69)	細身で細長い形状。凹基。片脚欠損。片面に主剥離面が残る。葛湯状の半透明黒曜石
0246	PJ-53	石鏃	黒曜石	1/2	24.5	－	3.4	(0.72)	凹基、両面加工の優品。器体の 1/3 が欠損。葛湯状の半透明黒曜石
0247	PJ-53	石鏃	黒曜石	1/1	34.4	24.4	10.9	6.81	未成品。表裏に礫面が残る素材。黒縞のある半透明黒曜石
0248	PJ-53	石錐	黒曜石	1/1	20.8	19.2	9.5	2.86	先端部がわずかに欠損。使用痕は不明瞭。黒縞のある半透明黒曜石
0795	PJ-43	石匙	珪質頁岩	1/1	35.0	45.0	8.0	12.90	複刃。掻器状刃部とつまみ右側に素刃部に微小剝離。刃部につぶれ状の磨耗
0796	PJ-43　床下	石鏃	黒曜石	1/2				1.48	主剥離面が大きく残る素材。未成品。黒斑入りの透明黒曜石
0799	PJ-43	素材剥片	黒曜石	1/1	45.0	31.0	7.0	9.80	ズリ面が残る板状剥片。調整なし。灰色縞のある透明度の低い黒曜石
0817	PJ-43	削器	珪質頁岩	－				12.70	厚みのある縦長剥片素材。長軸報告の２縁辺に急傾斜の刃部。器体中央で折損。青灰色で油脂状光沢のある珪質頁岩
0819	PJ-43　床下	剥離のある剥片	黒曜石	1/2				3.80	剥片の薄い縁辺に刃こぼれ。一部はノッチ状。縞のある透明黒曜石
0820	PJ-43　カクラン	掻器	黒曜石	1/1	20.0	53.5	16.0	13.50	河川転石状の礫面が残る剥片の縁辺に急傾斜の刃部。刃こぼれと微細なつぶれあり。斑入りの透明黒曜石
0825	PJ-43　床下	石鏃	黒曜石	3/4	16.1	11.7	2.2	(0.26)	凹基、やや長脚、縁辺調整のみの小形石鏃。片脚欠損。反った剥片素材。透明黒曜石
0826	PJ-43　床下	石鏃	珪質頁岩	1/1	39.2	26.3	9.7	10.33	未成品。素材剥片の縁辺を両面から鋸歯状に交互調整し始めた段階。白筋のある青灰色珪質頁岩
0827	PJ-43　床下	石鏃	黒曜石	1/1	18.6	16.6	5.0	1.32	未成品。凹基、両面加工、先端部欠損。透明な黒曜石
0828	PJ-43　床下	剥離のある原石	黒曜石					11.00	ズリ面で囲まれた原石の薄い縁辺に刃こぼれ。
0829	PJ-43　床下	石鏃	黒曜石	3/4	－	15.6	4.0	(0.83)	凹基、無脚、両面加工、先端部が大きく欠損。斑入りの透明黒曜石
0830	PJ-43　床下	石鏃	珪質頁岩	1/2	35.0	21.0	8.0	5.49	未成品。器体半分が大きく折損。素材剥片の縁辺を両面から調整し始めた段階。白筋のある青灰色珪質頁岩。大きさと形状が 826 に類似
0831	PJ-43　床下	石鏃	黒曜石	－				0.63	未成品。凹基、両面加工。先端部と片脚が大きく欠損。葛湯状の半透明黒曜石
4982	PJ-43	石鏃	黒曜石	－				0.85	未成品。ズリ面が残る剥片素材の縁辺部に調整。器体半分が大きく折損。漆黒黒曜石
4983	PJ-43　床下	石鏃	黒曜石	－	－	－	2.8	(0.42)	器体の 2/3 が欠損。両面加工の優品。白筋がある漆黒黒曜石
8357	PJ-43 床下	石鏃	黒曜石	3/4	24.5	18.2	6.0	1.72	未成品。両面加工。片面中央に礫面が残る。調整は器体中央に及ぶ。器体 1/3 が大きく欠損。透明な黒曜石
8358	PJ-43 床下	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				2.50	両極打法による縦長剥片素材。薄い縁辺に刃こぼれ。折損した石錐を転用か。斑入りの透明黒曜石
8394	PJ-43　床下	石鏃	黒曜石	1/1	15.4	13.9	2.1	0.28	凹基、両面加工。黒縞のある葛湯状半透明黒曜石
10232	PJ-53　18	磨石類	安山岩類	1/1	146.0	96.0	57.0	1,036	住居南東角の床面出土。磨石作業面は広い平坦面２面と狭い側面２面。作業面には線状・点状・皿状敲打痕。
10233	PJ-53　2	磨石類	安山岩類	―				174	PT596 号ピット北西脇の床面で出土した破片。磨石作業面２面、１面は磨耗度が強く、線状敲打痕がわずかに残る。他面は磨耗度が弱く、面積が広いＵ字状敲打痕、皿状・点状敲打痕の重複ヶ所が凹部をなす。
10234	PJ-53　21	磨石類	安山岩類	―				280	住居北東部の埋土上層出土。石皿の破片か。両面に敲打による円形の凹みが発達。
10235	PJ-43　床下	磨石類	安山岩類	1/1	48.0	41.0	28.0	59	卵大の小さな磨石。作業面は２面、磨耗度は弱い
10237	PJ-43　床下	原石	石英岩	1/1	83.0	67.0	50.0	320	石英岩の亜円礫。表面が被熱して黒～茶褐色に変色、多数のひび割れ。剝離のために加熱か
10241	PJ-43　床下	ハンマー	結晶片岩	―				32	棒状礫のハンマー。長軸端部に斜行する敲打痕がわずかに認められる。敲打痕は端部から両側縁部と平坦面側に３ヶ所隣り合って認められる。棒状軽量型（先端研磨石器）。